

- 予(よ・玉置) → 万齡(ばんれい・玉置たまき、商家/文筆) I 3 6 7 1
 予(よ・太田) → 午庵(ごあん・太田おた、藩士/詩文) H 1 9 0 5
 予(よ・伊沢) → 予(たのし・伊沢いざわ、儒詩/歌/教育) V 2 6 4 2
 予(よ・立木) → 定保(さだやす・立木たちき/源、藩士/国学) Q 2 0 9 2
 豫(預よ・杉田) → 立卿(りゅうけい・杉田すぎた、玄白男/蘭医) B 4 9 6 8
 璵(よ・岡井) → 蓮亭(れんてい・岡井おかい、儒者) B 5 1 3 0
 璵(よ・新井) → 白石(はくせき・新井あらい、藩士/幕臣/儒者) 3 6 1 0

4700 与阿(よあ;法諱) ? - ? 室町期時宗僧/連歌作者;
 1452「宝徳千句」参加(;宗砌・専順らと)、1466(寛正7)心敬宗祇と「何人百韻」参加(5句)、
 [刈る跡にむらむら残る草の露](何人百韻;二表9/群がり残る草露は砕けた心の象徴、
 前句;専順;くだけし心末ぞみじかき)、素純(与阿弥)とは別人

与阿弥(よあみ・東胤氏) → 素純(そじゅん・東とう/平、常縁男/僧/宗祇門歌人) D 2 5 8 5

4750 余庵(よあん・大内おおうち/本姓;多々良、名;弘貞)?-? 江末期医者;三河吉田藩主大河内信古の侍医、
 江戸詰、1856蝦夷地御備;東蝦夷に赴任/58帰郷;蝦夷の風俗・地理など見聞を記す;
 1861「東蝦夷夜話」著、
 [余庵(;号)の字/別号]字;子季、別号;桐斎とうさい/鳳兮ほうけい

4751 与一(与市よいち;通称・八木やぎ、名;国华)?-1784 尾張名古屋藩士;1717御目見/勘定奉行・国奉行、
 町奉行を歴任、名古屋樺焼町住、「尾藩知行取分限帳」編

- 与一(与市よいち・伊勢) → 貞遠(さだとお・伊勢/平、幕臣/故実家) I 2 0 7 3
 与一(よいち・伊勢) → 貞助(さだすけ・伊勢/平、幕臣/故実家) I 2 0 2 9
 与一(よいち・岡部/賀茂) → 眞淵(まぶち・賀茂/岡部、国学者/歌) 4 0 3 1
 与一(よいち・角倉) → 素庵(そあん角倉すみくら/吉田、商家/嵯峨本版) 2 5 3 6
 与一(よいち・角倉) → 玄寧(げんねい・角倉、商家/幕府代官) M 1 8 1 0
 与一(よいち・波多) → 北固(ほっこ・波多/波田/秦、儒者) E 3 9 6 2
 与一(よいち・贅川) → 良以(よしもち・贅川にえかわ、儒/地誌家) O 4 7 3 2
 与一(よいち・岡部/賀茂) → 眞淵(まぶち・賀茂/岡部、国学者/歌) 4 0 3 1
 与一(よいち・中村) → 松洲(しょうしゅう・中村なかむら、商家/儒者) J 2 2 5 3
 与一(よいち・宍戸/八田) → 都の錦(みやこのにしき、浮世草子作者) 4 1 3 9
 与一(よいち・古川) → 松根(まつね・古川ふるかわ、藩士/歌人) J 4 0 8 3
 与一(よいち・大森) → 氏頼(うじより・大森おおもり、武将) C 1 2 8 6
 与一(よいち・長尾) → 景福(かげとみ・長尾、和算/歌) L 1 5 0 9
 与一(余よいち・祇園) → 南海(なんかい・祇園/祇/阮、儒/詩/画) 3 2 3 0
 与一(よいち・那須) → 資礼(すけひろ・那須/藤原/佐竹、旗本/幕臣) C 2 3 6 4
 与一(よいち・那須) → 資興(すけおき・那須/藤原/本庄、資礼の養子/旗本) H 2 3 9 0
 与一(与市よいち・本間) → 百里(ひゃくり・本間ほんま、藩士/故実家) E 3 7 8 4
 与一(よいち・宇加井) → 純素(すみもと・宇加井うかい、国学/歌人) I 2 3 1 0
 与一(よいち・尾関) → 宣胤(のりたね・尾関おぜき/尾張、神職) H 3 5 6 2
 与一(よいち・桂園) → 芳一(ほういち・戸沢とざわ、三戸、検校) G 3 9 2 9
 与市(よいち・八丈屋) → 華陽(かよう・高橋たかはし/修姓高、儒者) H 1 5 5 3
 与市(よいち・五味) → 貞之(さだゆき・五味ごみ、藩士/故実家) K 2 0 1 1
 与市(よいち・檜山) → 雅昭(まさあき・檜山ひやま、藩士/文筆家) 4 0 9 8
 与市(よいち・鹿野) → 敬一(よしかず・鹿野しかの、藩士/文筆家) C 4 7 5 3
 与市(よいち・高見屋) → 甚左衛門(じんざえもん・高見/大野、書肆/国学) O 2 2 6 0
 予一(よいち・里木;「野本」の字謎) → 道元(どうげん・野本、茶人/仮名草子) D 3 1 6 0
 余一(よいち・祇園) → 尚濂(しょうれん・祇園ごん、藩儒/詩) M 2 2 0 3

- 予一右衛門(よいちえもん・多賀)→ 直清(なおきよ・多賀たが、藩士/歌) B 3 2 1 1
 与一右衛門(よいちえもん・岡田)→ 光備(みつかど・岡田、大庄屋/歌人) H 4 1 0 8
 与一右衛門(よいちえもん・中西)→ 石樵(せきしょう・中西、藩士/刻印) K 2 4 1 7
 与一右衛門(よいちえもん・田中;変名)→ 市右衛門(いちえもん・三浦、藩士) G 1 1 0 3
 与一右衛門(よいちえもん・桃沢)→ 夢宅(むたく・桃沢ももさわ、名主/歌人) 4 2 8 6
 与一右衛門(よいちえもん・桃沢)→ 匡逸(まさはや・桃沢、夢宅男/名主/国学/歌) T 4 0 2 0
 与一右衛門(よいちえもん・桃沢)→ 匡好(まさよし・桃沢/大沢、匡逸養子/国学/歌) T 4 0 2 1
 与一右衛門(よいちえもん・天羽)→ 仏牛(ぶつぎゅう・天羽あもう、藩士/俳人) D 3 8 2 8
 与一右衛門(よいちえもん・岡田)→ 光尉(みつまさ・岡田おかだ、歌人) E 4 1 8 9
 与一右衛門(よいちえもん・木谷)→ 忠英(ただひで・木谷きたに、和算家/歌) Q 2 6 6 1
 与一右衛門(よいちえもん・小豆沢)→ 勝貞(かつさだ・小豆沢あずきざわ、歌人) T 1 5 4 2
 与一右衛門(よいちえもん・油屋)→ 永好(ながよし・吉田よしだ、商家/国学) P 3 2 3 0
 与一右衛門(よいちえもん・山中)→ 時風(ときかぜ・山中やまなか、庄屋/俳人) J 3 1 0 1
 与一右衛門(よいちえもん・八木)→ 籟洞(らいどう・八木やぎ、藩士/砲術家) 4 8 8 6
 与一右衛門(よいちえもん・岡村)→ 教邦(のりくに・岡村おかむら、藩士/国学) H 3 5 0 6
 与一右衛門(よいちえもん・北村)→ 命親(のぶちか・北村きたむら、国学/歌人) I 3 5 2 3
 与一右衛門(よいちえもん・熊谷)→ 直治(なおはる・熊谷くまがい/益田、藩士/国学) L 3 2 9 8
 与一衛門(よいちえもん・寺門)→ 孝寛(たかひろ・寺門てらかど、藩士/文筆家) N 2 6 0 8
 与市右衛門(よいちえもん・保坂)→ 因宗(いんそう・保坂、測量家) I 1 1 6 9
- 04793 与一左衛門(よいちざえもん・古田ふるた、名;重興しげおき) 1755-1832 78 信濃高島藩士;勘定奉行、
 歌人;桃沢夢宅・香川景樹門、策司さくじ(重暉しげてる)の父
 与市左衛門(よいちざえもん・真野)→ 安代(やすのり・真野まの、藩士/武家故実) C 4 5 6 5
 与一左衛門(よいちざえもん・飯田)→ 範正(のりまさ・飯田いだ、藩士/連歌論) F 3 5 7 6
 与一左衛門(よいちざえもん・曾我部)→ 正積(まさかず・曾我部そがべ、国学/歌人) Q 4 0 4 2
 与一助(よいちのすけ・新居)→ 水竹(すいちく・新居にい、藩士/儒者) 2 3 8 1
- 14728 与一兵衛(よいちべえ・山県やまがた) 1804-65 自害 62 長門萩藩士;禄180石/近侍、
 嘉永1848-54頃江戸当役/手元役/蔵元兩人役を歴任;1859致仕、再出仕、
 禁門変に参加;長州藩追討勅令いより捕縛;獄送致中自害、「庭の落葉」「日記」著
 与一兵衛(よいちべえ・油屋)→ 与人(よじん・根本ねもと、酒造業/俳人) I 4 7 0 8
 与一兵衛(よいちべえ・岡村)→ 教邦(のりくに・岡村おかむら、藩士/国学) H 3 5 0 6
- 4752 与一郎(よいちろう・野呂瀬のろせ、名;自陳) 1762-1821 60 尾張名古屋藩士;40年勤務/禄350石、
 「野呂瀬与一郎自分覚書留」、自堅(桃鳥)の父
 与一郎(よいちろう・三淵/長岡/細川)→ 幽斎(ゆうさい・細川/源、武将/歌/連歌) 4 6 0 2
 与一郎(よいちろう・長岡/細川)→ 忠興(ただおき・細川、幽斎男/藩主/茶/歌) E 2 6 8 6
 与一郎(よいちろう・伊勢)→ 貞助(さだすけ・伊勢/平、幕臣/故実家) I 2 0 2 9
 与一郎(よいちろう・伊勢)→ 貞満(さだみつ・伊勢/平、幕臣/故実家) J 2 0 7 9
 与一郎(よいちろう・祇園)→ 南海(なんかい・祇園/祇/阮、儒/詩/画) 3 2 3 0
 与一郎(よいちろう・堀田)→ 正信(まさのぶ・堀田/紀、藩主/文筆家) F 4 0 5 9
 与一郎(よいちろう・丹)→ 就道(なりみち・丹たん、国学者) I 3 2 2 3
 与一郎(よいちろう・戸田)→ 守勝(もりかつ・戸田とだ、藩士/記録) F 4 4 3 3
 与一郎(よいちろう・鉄屋くろがねや)→ 広得(こうとく・藤井、俳人) P 1 9 3 7
 与一郎(よいちろう・市川)→ 梅客(ばいかく・市川/福原、幕臣/儒者) 3 6 8 5
 与一郎(よいちろう・長野)→ 馬貞(ばてい・長野ながの、医者/俳人) F 3 6 3 4
 与一郎(よいちろう・大内)→ 玉江(ぎょくこう・大内おおうち、藩士/儒者) O 1 6 9 0
 与一郎(よいちろう・藤田)→ 行義(ゆきよし・藤田ふじた、儒者/歌) G 4 6 3 7
 与一郎(よいちろう・小豆沢)→ 勝貞(かつさだ・小豆沢あずきざわ、歌人) T 1 5 4 2
 与一郎(よいちろう・長谷川)→ 昆溪(こんけい・長谷川、藩士/詩人) P 1 9 1 7
 与一郎(よいちろう・加須屋)→ 利章(としあき・加須屋かすや、藩士/国学) U 3 1 6 3
 与一郎(よいちろう・村山)→ 守雄(もりお・村山/三井、藩士/歌人) F 4 4 2 0
 与一郎(よいちろう・梅村)→ 眞守(まもり・梅村うめむら/坂本/金子/小林/平、勤王家) O 4 0 0 1

- 与一郎(よいちろう・三ツ井)→ 則貞(のりさだ・三ツ井みつ、国学者) K 3 5 0 9
 与一郎(よいちろう・美甘) → 政和(まさとも・美甘みかも、神職/国学) S 4 0 9 0
 余逸(よいつ・大神) → 信敏(のぶとし・大神おおが、神職/歌人) H 3 5 6 3
 余韵(よいん・青木) → 雲岫(うんしゅう・青木、儒者/兵学) D 1 2 8 3
- 4753 養(よう・津田つだ/修姓;田、別名;合/養徳/善、道順[光明]男) 1742-1813⁷² 金沢の医者;父門、
 1768出奔;大阪で開業/83頃帰郷し医業継承;1800(60歳)隠居、俳人;關更門、詩/画を嗜む、
 1763「月あかり」編、「茶助ちやくん」編、「啓沃堂随筆」「石丈野史」「随分齋腹候経解」、
 [養(;名)の字/通称/号/変名]字;合同/合大、通称;太一/道乙、
 号;随分齋/豹阿弥/菜窠/青野、変名;洞貝武十郎
- 4754 養(よう・森もり) 1746 - 1822⁷⁷ 尾張愛知郡下之一色の医者/書も指導、
 「続医学修行説」著、
 [養(;名)の字/通称/号]字;子慊、通称;舟象、号;荘条
- N4782 庸(よう・武井たけい) 1805 - 1882⁷⁸ 陸奥会津の神職/岩代国幣中社の伊佐須美神社宮司、
 [庸(;名)の通称/号]通称;長太郎/万太郎/完平、号;萩廼舎主人
- 04756 蓉(よう・よう・浜武はまたけ、号;蓉香、旧姓;徳見) ?-? 江後期;肥前長崎の歌人、
 長崎の糸割符宿老の浜崎治兵衛元興もとおき(1807-72)の妻
- 養(よう・趙ちよう/深見/高良)→ 陶斎(とうさい・趙ちよう、書家/篆刻) E 3 1 2 0
 養(よう・佐藤) → 圭陰(桂陰けいいん・佐藤さとう、医/詩人) F 1 8 2 4
 羊(よう・若麻績部) → 羊(ひつじ・若麻績部わかみべ、防人歌人) C 3 7 6 8
 用(よう・橋) → 尚賢(しょうけん・橋たけはな、藩士/医者) I 2 2 5 0
 用(よう・高辻) → 以長(もちなが・高辻/菅原、廷臣/漢学) B 4 4 5 3
 洋(よう・曾田) → 菊潭(きくたん・曾田そだ、藩士/儒者) K 1 6 1 9
 洋(よう・宗像) → 蘆屋(ろおく・宗像むなかた、書家) 5 2 4 9
 雍(よう・野崎) → 藤橋(とうきよう・野崎、儒者) C 3 1 8 0
 雍(よう・岩崎) → 鷗雨(おうう・岩崎いわさき、儒者/詩人) C 1 4 3 2
 雍(よう・川井) → 桂山(けいざん・川井/川合/河合、医/詩歌) 1 8 5 9
 雍(要よう・葛井) → 文哉(ぶんさい・葛井かつらい、儒者/詩歌) F 3 8 2 9
 雍(よう・木下/鈴木) → 芙蓉(ふよう・鈴木/木下、絵師/詩文) E 3 8 4 9
 雍(よう・陰山) → 豊洲(ほうしゅう・陰山かげやま、儒者/詩人) B 3 9 4 5
 雍(よう・加倉井) → 砂山(さざん・加倉井かくらい、儒者/教育) B 2 0 6 1
 雍(よう・浅井) → 筋軒(せつけん・浅井、藩士/医者/詩文) E 2 4 2 0
 容(よう・沢辺) → 東谷(とうこく・沢辺さわべ、儒/医者) E 3 1 0 9
 容(よう・中根) → 刃斎(じんさい・中根なかね、医者/詩人) O 2 2 5 6
 容(よう・宇田) → 深林(しんりん・宇田うだ、藩士/書家) Q 2 2 1 6
 容(よう・竹林) → 小諸(こもろ・竹林たけやし、国学/歌人) Q 1 9 9 8
 榕(よう・江沢/宇田川) → 榕庵(ようあん・宇田川/江沢、医・蘭学者) 4 7 5 7
 瑤(よう・二宮) → 桃亭(とうてい・二宮にのみや、医者/蒔絵) G 3 1 5 9
 瑤(よう・埜) → 忠宝(ただとみ・埜はなわ、幕臣/国学者) F 2 6 3 9
 繻(よう・福田) → 太華(たいか・福田、藩士/武術/絵師) B 2 6 0 9
 要(よう・衣笠) → 守由(もりよし・衣笠きぬがさ/東、絵師/歌) J 4 4 9 0
 要(よう・湯川) → 東軒(とうけん・湯川/湯河、儒者/詩) D 3 1 3 3
 要(よう/かなめ・千葉) → 逸斎(いつさい・千葉ちば、藩士/儒者) E 1 1 1 9
 要(よう/かなめ・矢田/竹内) → 豊矩(とよのり・竹内/矢田、和算家) R 3 1 4 7
 要(よう・柏崎) → 永以(えい・柏崎かしわざき、国学者) B 1 3 8 9
 要(よう・栗田) → 寛濟(ひろなり・栗田くりた/源、神職/国学) J 3 7 4 9
 庸(よう・徳田) → 錦江(きんこう・徳田とくだ、藩士/儒者) J 1 6 1 2
 庸(よう・後藤) → 庸(つね・後藤ごとう、藩士/歌人) B 2 9 4 2
 庸(よう・内田) → 庸(もちう・内田うちだ、商家/歌人) B 4 4 3 0
 庸(よう・木村) → 鯨夫(いさお・木村きむら、商家/歌/神職) K 1 1 1 6
 慵(よう・小田切) → 藤軒(とうけん・小田切おだぎり、藩士/儒者) D 3 1 3 4

- 楊(よう/やなぎ;一字名) → 尊勢(尊政そんせい;法諱、一乗院門跡/歌・連歌) F 2 5 1 4
鷹(よう・中山) → 城山(じょうざん・中山/藤原、儒者/詩) S 2 2 6 0
曄(よう・杉山) → 梅園(ばいえん・杉山/楡山すぎやま、儒/詩) 3 6 6 5
燁(曄よう・杉原) → 半水(はんすい・杉原すぎはら、儒者) I 3 6 1 2
繇(よう・八田) → 華陽(かよう・八田はった、儒者) P 1 5 5 8
耀(よう・林/鳥居) → 耀蔵(ようぞう・鳥居とりい/林、幕臣) B 4 7 4 2
- 4755 **葉庵**(ようあん・前田まえだ/玉野、好成[里庵]5男) 1677-752 76 京の儒者/医者、玉野姓、元春・菊叢の弟、儒;山崎闇齋門、医;山脇道治門、1690剃髪;医門に入る、1700兄元春の嗣;前田に復姓、1715越前福井藩の支封松岡藩に招聘;儒医として出仕/のち福井に移住;福井藩儒、1710「先妣毛利氏事実」32「字義詳解」39「孟子睡言」/40「鶴鳴集」/「塵塚」/45「視聽雜記」著、[葉庵(;)号)の名/字/通称/別号]名;好春よしはる/時敏、字;子韞しゅん、通称;亀吉磨/道通、別号;石水/竹叢/省軒/惺々齋/南巢老人/綽余しやくよ老人、法号;理気院
- 4756 **容安**(ようあん・滝本たきもと、別号;易安) ?-? 江中期伊賀の地誌家;全国の名石・奇岩を調査、1777(安永6)「伊陽地核談」著
- 4757 **榕庵**(ようあん・宇田川うだがわ、藩医江沢養樹男) 1798-1846 49 江戸の美濃大垣藩邸に生、医学;父門、宇田川玄眞の養嗣子;美作津山藩医となる/蘭学;馬場貞由門、蘭人入貢の度に応答、1826幕府蛮書和解御用に抜擢/本草学・化学・数学・測量・兵学に通ず;翻訳多数、1813「医範纂正滲」編/32「舎密試葉篇」33「植学啓原」36「開物全書」39「遇仙記」、
「医方成範」「遠西名物攷攬要」「和蘭志略」「宇田川化学書」「コレラ考」「宇田川榕庵隨筆」、
「元素発明年代記」「植物図譜」「生植全書」「榕菴本草名彙」「蘭学重宝記」外著多数、
[榕庵(;)号)の名/通称/別号]名;榕、通称;賀寿麻呂がじゅまろ、
別号;養庵/観自在菩薩楼/玳瑁ていとう/緑舫、法号;榕樹院
☆門人;伊藤圭介・戸塚静海・宇田川興齋ら多数
- 4758 **養安**(ようあん・坂本さかもと) ?-? 江中期医者;三国医方を提唱(漢方・南蛮・和蘭)、その実践者、「外科万粹類編」著
- 4759 **養庵**(ようあん・牛尾うしお、名;介) ?-? 江後期文化文政1804-30頃京の医者/国学者、京の河原町二条南で医業、「西遊記行」/1819「てにをはしつのをたまき」著、
[養庵(;)号)の字/別号]字;子景、別号;筭園ちよえん
- 4760 **揚庵**(ようあん・山川やまかわ、名;修徳) ?-? 幕末期の医者、
安政1854-60頃熱病の原因は生活毒にあり伝染することを説く、1856「熱病覈原」著
- 養安(ようあん・曲直瀬) → 正琳(しょうりん・曲直瀬まなせ/一柳、医者/連歌) L 2 2 9 6
養安(ようあん・二階) → 道一(みちかず・二階にかい/白上、藩医/歌) K 4 1 0 2
養安(ようあん・広中) → 養安(ながやす・広中ひろなか、歌人) O 3 2 5 5
養庵(ようあん・後藤) → 良山(こんざん・後藤ごとう、医者) P 1 9 2 4
養庵(ようあん・栗山) → 孝庵(こうあん・栗山、医者/解剖) H 1 9 2 2
養安(ようあん・野口) → 午有(ごゆう・野口のごち、医者/俳人) N 1 9 8 1
庸庵(ようあん・荻生) → 徂徠(そらい・荻生おぎゅう、儒;古文辞学) 2 5 3 1
庸庵(ようあん・守屋) → 惟通(これみち・守屋もりや/石原、蘭医/種痘) R 1 9 4 2
要安(ようあん・平井) → 一抱(いっぽう・岡本おかもと、医者/浄作) H 1 1 8 5
容安(ようあん・渋江) → 道陸(どうりく・渋江、医者) I 3 1 1 9
容安(ようあん・橋本) → 左内(さない・橋本、藩士/蘭医/勤王家) K 2 0 6 1
容庵(ようあん・川村) → 橘翁(きつおう・平野ひらの、心学者) L 1 6 4 2
陽庵(ようあん・虫明) → 文勝(ふみかつ・虫明むしあき、医者/国学) I 3 8 7 6
楊庵(ようあん・山口) → 凹巷(おうこう・山口やまぐち、詩人) B 1 4 6 4
養安院(ようあんにん・曲直瀬) → 正琳(しょうりん・曲直瀬/一柳、医者/連歌) L 2 2 9 6
庸安院(ようあんにん;法号) → 前次(ちかつぐ・三浦みうら、藩主) B 2 8 2 1
- 4761 **容安齋**(ようあんさい・奥田おくだ、名;世文、遊川男) 1756-81 早世 26 尾張の代々医者/儒詩;岡田新川門、詩文に長ず、「容安齋詩集」「容安齋文集」著、鶯谷おうこくの兄、
[容安齋の字/通称]字;子松/仲猷、通称;周之進
容安齋(ようあんさい・中野) → 君規(きみり・中野、藩士/詩文) M 1 6 0 6

- 養怡軒(よういけん) → 樵翁(しょうおう・大口おおくち、茶人/香道) H 2 2 3 7
 鷹一(よういち) → 旭庵(きよくあん・吉田、俳人) O 1 6 7 8
 陽一郎(よういちろう・田近) → 長陽(ながはる・田近たちか、藩士/神職) N 3 2 6 0
 鷹一叟(よういつそう) → 乾什(けんじゅう、岩本、妓楼主人/俳人) C 1 8 0 7
 鷹一堤(よういつてい) → 一堤(いつてい・貞月斎ていげつさい2世、華道) H 1 1 6 8
 永胤(よういん) → 永胤(えいいん・よういん、歌人) 1 3 0 0
 庸胤(よういん・東条) → 通庵(つうあん・東条、医者) 2 9 1 9
 洋陰囂々斎(よういんごうごうさい) → 正繩(まさなわ・由井ゆい/金子、国学/歌) T 4 0 6 1
 葉隠堂(よういんどう) → 只木(しばく、葉隠堂、俳人; 雑俳) F 2 1 7 2
 陽鳥楼(よううろう) → 素柏(そはく・宮井みやい、俳人) K 2 5 3 4
 永運(よううん) → 永運(えいうん/よううん、僧/連歌師) 1 3 1 3
 4762 曜慧(ようえ; 法諱・圭州けいしゅう; 号) ?-? 江後期三河真宗大谷派円楽寺住職、
 1819「三心義真宗」「四修義」/21「常行大悲辨」31「破法罪聚鈔」37「浄土真宗本尊義記」外著多
 用英(ようえい・寺山) → 用英(もちひで・寺山てらやま、藩士/歌人) K 4 4 6 7
 4763 養益(ようえき・桜井さくらい、名; 広) 1738-9962 尾張名古屋蛸屋町の医者; 千村伯就と交流、
 上京; 松原一閑斎門、傷寒論の研究; 40余年、尾張藩用人支配を勤める、詩人、
 「傷寒論正文」「傷寒論古義」著、
 [養益(; 通称)の字/号]字; 子儉、号; 桃山
 用右衛門(ようえもん・吉田) → 清純(きよすみ・吉田よしだ、藩士/地誌) P 1 6 7 1
 要右衛門(ようえもん・原田) → 等睡(とうすい・原田はらだ、庄屋/国学) W 3 1 1 5
 4764 陽宴(ようえん; 法諱、通称; 大原僧都) ?-? 平安後期天台僧; 円陽坊住、1164法橋、
 「習字護摩抄」著、相実・良暁の師
 4765 楊園(ようえん・竹内たけうち、名; 妥素) ?-? 江後期儒者; 河内丹南藩主高木家に出仕、
 江戸麻布筭橋の藩中屋敷住、詩人、1851「東毛復讐始末」著/1859-67「嚶鳴集」編、
 1866「今世名家詩選」著/「西省集」著、
 [楊園(; 号)の字/通称/別号]字; 子行、通称; 行助、別号; 臥雲/扇和書屋
 K4725 鷹鶯(ようえん・飯田いだ、名; 利義、篤老とくろう[1778-1826]男) ?-? 安藝広島 of 俳人; 父門、
 永縁(ようえん; 法諱) → 永縁(えいえん・ようえん、法相僧/歌人) 1 3 1 4
 楊園(ようえん・渡/亙) → 忠秋(ただあき・渡/亙わり、歌人) E 2 6 7 8
 楊園(ようえん・小山) → 春山(しゅんざん・小山おやま/塚田、漢学者) J 2 1 7 8
 庸園(ようえん・豊田) → 利忠(としただ・豊田とよた、地誌家/画) M 3 1 7 4
 鷹園(ようえん・五味) → 蟹守(かにもり・五味/可都里弟、俳人) C 1 5 6 6
 陽焰庵(ようえんあん) → 音空(おんくう; 法諱・観粹、浄土宗西山派僧) D 1 4 4 1
 永縁母(ようえんのはは) → 永縁母(えいえんのはは、歌人) 1 3 1 5
 4766 陽翁(ようおう; 号、法諱; 日応/日翁) 1560-162263 日蓮僧; 京の本圀寺住、法華法印、
 諸国修業中肥前唐津で名和正三に会い[太平記評判秘伝理尽鈔]を伝授; 楠流兵法を興す、
 のち加賀金沢藩に出仕; 藩の楠流興隆の基礎を築く、野田寺町に法蓮寺を開く、権大僧都、
 太平記講釈、軍記「太平記評判秘伝理尽鈔りんじょう」編(1622奥書; 寺沢広高に伝授)、
 「翁問三答」問著、養元の師、法号; 大運院日翁大徳
 4767 蠅翁(ようおう・松井まつい/本姓; 平、名; 義方よしかた) 1742-181978 近江東浅井郡速水の医者;
 初め大阪の薬屋に入/京に遊学; 漢学; 斎静斎門/のち医学; 山脇東洋門、帰郷し医業、
 晩年は医を廃し国学・歌; 小川布淑・伴高蹊門、「老楽集」編、清柏の父
 [蠅翁(; 号)の字/別号]字; 哲夫、別号; 卮言げん/楽山道人
 慵翁(ようおう・和田) → 静観窩(せいかんか・和田わだ、儒者/国学) 2 4 9 2
 踊鶯軒(ようおうけん) → 流宣(とものおぶ・石川、浮世草子、絵師/俳) Q 3 1 1 9
 陽屋軒(ようおくけん) → 不昧(ふまい; 道号・紹省、臨濟僧) H 3 8 4 9
 栄遠院(ようおんいん) → 日就(にちじゅう; 法諱・本用院、日蓮僧) C 3 3 1 2
 蓉香(ようか・浜武) → 蓉(よう・浜武はまたけ/徳見、歌人) O 4 7 5 6
 洋峯(ようが・清水) → 柴山(さいざん・清水しみず、和算家) G 2 0 6 9
 八日庵(ようかあん) → 万和(まんわ、俳人) K 4 0 8 8

- 養快(ようかい・小山) → 儀(ただし・小山こやま、国学/詩) F 2 6 1 1
 養晦(ようかい・成田) → 明遠(あきとお・成田なりた、藩士/儒/詩歌) I 1 0 1 8
 栄海(ようかい) → 栄海(えいかい・真言僧/歌/説話作者) 1 3 0 2
 用晦(ようかい・三宅) → 観瀾(かんらん・三宅みやけ、儒者) 1 5 5 6
 用晦(ようかい・山田) → 明遠(あきとお・山田やまだ、家老/詩歌) I 1 0 6 8
 陽崖堂(ようがいどう) → 経教(つねのり・遠藤えんどう/藤原、神職/歌) F 2 9 3 5
 養花園(ようかえん) → 古江(ここう・寺田、広島俳人) M 1 9 4 0
 養花園(2世ようかえん) → 和切(わせつ・雅奏亭、広島俳人) 5 3 3 8
 養花園(3世ようかえん) → 江左(こうさ・寺田、広島俳人) I 1 9 8 2
 羊角(ようかく) → 芭蕉(ばしよう・松尾、俳人) 3 6 1 7
 揚雀(ようかく・加藤) → 泰衡(やすみち・加藤かとう、藩主) D 4 5 0 6
 要学(ようがく;字) → 日要(にちよう;法諱、日蓮僧) D 3 3 4 1
 容岳(ようがく・樋口) → 愛之助(あいのおすけ・樋口ひぐち、神職/国学) I 1 0 3 2
 陽岳舎(ようがくしや) → 国信(初世くにのぶ・歌川、絵師/草双紙) B 1 7 5 8
 養華斎(ようかさい) → 仙庵(せんあん・梅田うめだ、儒者) L 2 4 4 7
 要窩散人(ようかさんじん) → 松峽(しょうこう・松室まつむろ、神職/白話小説) S 2 2 1 1
 楊果亭栗毬(ようかていりつきゅう) → 栗毬(りつきゅう・楊果亭、浄土僧/狂歌) B 4 9 6 6
 永観(ようかん) → 永観(えいかん・ようかん、三論/浄土僧/歌) 1 3 1 8
 要関(ようかん;初道号) → 中津(ちゅうしん;法諱・絶海;道号、臨濟僧/詩) 2 8 1 7
 陽関(ようかん;道号・東英) → 東英(とうえい;法諱・陽関、臨濟僧) B 3 1 3 2
 養菊堂(ようきくどう) → 一音(いちおん・養菊堂、俳人) G 1 1 0 9
 養気軒(ようきけん) → 什安(じゅうあん・大田おた、医者) G 2 1 7 2
 揚輝斎(ようきさい) → 玉山(ぎよくざん・石田いしだ、絵師) D 1 6 0 1
 羊岐斎(ようぎさい) → 了意(りょうい・浅井、唱導/仮名草子) 4 9 1 6
 用吉(ようきち・近藤) → 用吉(もちよし・近藤こんどう/藤原/木下、旗本/歌) I 4 4 7 9
 要吉(ようきち・岩政) → 信比古(さねひこ・岩政いわまさ/越智、国学) L 2 0 2 7
 要吉(ようきち・後藤) → 若雄(わかお・後藤ごとう、歌人) 5 3 0 8
 庸吉(ようきち・早川) → 清名(きよな・早川はやかわ/井内、藩士/国学) V 1 6 0 3
 養気堂(ようきどう) → 遠明(とのおあき・下野しもの、藩士/攘夷論) I 3 1 5 7
 4768 陽救(ようきゅう・ようぐ;法諱)? - ? 平安後期天台僧:金剛乘院和尚門、
 1080(承暦4)「文殊六字次第」著
 用九(ようきゅう→もちなか・羽倉) → 簡堂(かんだう・羽倉はくら、幕臣/儒者) E 1 5 1 3
 用久(ようきゅう・森) → 用久(もちひさ・森もり、神職) B 4 4 5 8
 要久(ようきゅう→としひさ) → 樗園(ちよえん・横田、藩士/詩文/紀行) K 2 8 1 8
 陽喬(ようきょう・吉川/大島) → 蓼太(りょうた・大島/吉川、縫物師/俳人) 4 9 2 0
 揚鏡(ようきょう・三輪) → 翠羽(すいいう・三輪みわ/那波、俳人/教育) E 2 3 0 4
 要行(ようぎょう;字、要行院) → 日統(にっとう;法諱・要行院、日蓮僧) F 3 3 3 6
 4769 杳旭(ようぎよく;法諱・善慶;字、諦忍たいにん2男) 1764-1838 75 越中の真宗本願寺派僧、宗学;僧鎔門、
 西本願寺学林に修学/紀伊根来寺の智幢門;華嚴・天台・真言・俱舎を修学、河内/美濃行脚、
 1790越中照願寺の住職、三業惑乱鎮定後に宗義の肅正・学林復興に尽力、「選択集録」著、
 「阿弥陀経助講」「観無量寿経講辨」「安樂集備忘」「愚禿鈔頭彰」「還着百八失」外著多数、
 [杳旭(;法諱)の号] 天弁てんき/津溟しんめい/弘願坊、諡号;寂用院
 養魚舎(ようぎょしや) → 泰温(やすあつ・加藤かとう、藩主/国学) F 4 5 6 5
 涌金楼(ようきんろう) → 蕉斎(しょうさい・中原/藤井、儒者) S 2 2 3 4
 陽救(ようぐ;法諱) → 陽救(ようきゅう・ようぐ;法諱、天台僧) 4 7 6 8
 養愚(ようぐ) → 常春(つねはる・荒川、詩人) D 2 9 3 0
 4770 耀空(ようくう;法諱・通称;尊澄房)?-? 鎌倉期浄土宗西山派深草流の僧:道意堯空門、
 上人、歌:新千載882(;耀空上人名)、
 [弥陀頼む心のうちにへだてなき仏はさらに身をも離れず](新千載;釈教882)
 養愚亭(ようぐてい) → 公教(こうきょう;法諱、真宗僧/茶・歌人) I 1 9 3 2

- 4771 **養慶**(ようけい;通称・豊田とよだ、名;子禎)?? 江中期周防岩国藩医/本草;京の松岡恕庵門、その門人甲賀敬元にも教を受く/1761京の東山双林寺で薬品会を主催、1761「緒観余録」編
- 4772 **養溪**(ようけい・竹沢たけざわ、名;惟房これふさ)??-1808 絵師:狩野惟信門/江戸住;古画鑑定業、松平定信に出仕:定信の著書の挿絵、1802「心の双紙」/11「平家物語画図」、伊舟いしゅうの養父
- 永慶(ようけい) → 永慶(えいけい;法諱・松崎僧都、天台僧) C 1 3 6 4
 養慶(ようけい・杉山) → 和一(わいち・杉山すぎやま、鍼術医) 5 3 0 6
 瑤溪(ようけい) → 延彝(のぶつね・青山、儒/詩文) C 3 5 1 7
 要敬(ようけい;字) → 日幹(にちかん;法諱・道樹院、日蓮僧) B 3 3 1 1
 容敬(ようけい・松平) → 容敬(かたたか・松平まつだいら、藩主/文筆) M 1 5 9 9
 陽溪(養溪ようけい・勝田) → 竹翁(ちくおう・勝田かつた、幕府御用絵師) C 2 8 6 7
 揺月斎(ようげつさい) → 素真(そしん・山形まがた/坂野屋、絵師) D 2 5 9 0
- 4773 **庸軒**(ようけん・藤村ふじむら、茶人久田宗栄2男?) 1613-9987 京の呉服商藤村家の養子、一説に久田友久男で父の代に藤村に改姓、商業;伊勢藤堂家の御用達、茶道:藪内紹智門/小堀政一(遠州)・金森宗和の影響を受/のち千宗旦門;皆伝、千宗旦四天王の1、漢学;三宅奇斎門;詩文を嗜む、主家の茶頭らに茶湯を教授、1664「伊勢紀行」97「茶話指月集」、「茶湯つれつれ草」「茶話別集」「庸軒詩集」外著多数、[庸軒(;号)の名/通称/別号]名;政直/当直まさなお、通称;源兵衛、別号;徹翁/反古庵屋号;十二屋、恕軒・蘭室の父
- 4774 **養軒**(ようけん・関せき) 1761 - 183272 陸中一関の商家/儒学:1764-81頃京・江戸で修学、帰郷し家塾で子弟教育、1783一関藩校教成館を創立/学校守/のち士分/学頭を務める、文武を学の本旨とす;子弟1千人、「国学初問」「養軒随筆」「養軒文集」「関氏記問」著、「経典続考」「武門名目」/1801「関邑略志」34「陸奥郡郷考」著、[養軒(;号)の名/字/通称]名;元竜/元龔、字;從卿、通称;良作/運吉
- 4775 **庸軒**(ようけん・森もり、名;尚蔚/尚猷/尚濟、字;豹卿、海庵[庸軒]男) 1814-6855 水戸藩士/儒者、1832医者;父門、45弘道館訓導/48助教/彰考館修史、53側医師、「涵養亭集」「藕漢集」「聊娛集」「楽郡堂集」「静観廬集」「阿片烟考」「松花山房雜稿」著、[庸軒の別通称] 太郎右衛門/豹蔵、号;静観廬
- 庸軒(ようけん・森) → 海庵(かいあん・森、庸軒豹卿の父/水戸藩侍医) I 1 5 3 4
 庸軒(ようけん・佐久間) → 纘(つづき・佐久間さくま、藩士/和算家) 2 9 9 4
 養軒(ようけん・衣笠) → 固庵(こあん・大森、藩士/浪人/神道) E 1 9 8 1
 養軒(ようけん・芥川) → 丹丘(-邱たんきゅう・芥川、儒者) I 2 6 0 5
 養軒(ようけん・室田) → 霞亭(かてい・室田/脇坂/膝とう、医/詩文) O 1 5 0 7
 養軒(ようけん・保田) → 光則(みつり・保田、藩士/国学者) 4 1 2 8
 養軒(ようけん・芥川) → 丹丘(丹丘たんきゅう・芥川、儒者/華音) I 2 6 0 5
 用兼(ようけん;法諱) → 金岡(きんこう;道号・用兼、曹洞僧) Q 1 6 8 8
 容軒(ようけん・佐久間) → 洞巖(とうがん・佐久間、儒者/詩文) C 3 1 3 1
 容軒(ようけん・山田) → 正修(まさなが・山田、医/儒者) F 4 0 2 9
 要賢(ようけん;字) → 日我(にちが;法諱、日蓮僧) 3 3 9 8
 幼憲(ようけん・松本) → 愚山(ぐざん・松本まつもと、儒者/詩人) 1 7 4 7
- 4776 **永愿**(ようげん;法諱、権大納言高倉永慶男) 1620-8465 真言僧;勸修寺慈尊院の中興、法務大僧正、1672寛俊より灌頂を受、1682済深法親王の得度時の戒師、1671「灌頂三昧耶戒略記」著、1671「灌頂二箇度記」/72「伝法灌頂記庭儀」「灌頂外儀支度庭儀堂上」/74「長者記」外著多数
- 4777 **養元**(ようげん・和田わだ) ? - ? 江前期太平記読講釈;陽翁[1560-1622]門、太平記講釈を大名家に伝播
- 4778 **養元**(ようげん・田島たじま) ? - ? 江後期尾張名古屋の医者:大坂高麗橋一丁目住、医業、1803「礼道階梯」、「諸礼大学」著、[養元(;通称)の通称/別号]別通称;竜参、号;池竜/見明淵/昆明淵
- 栄源(ようげん) → 栄源(えいげん・歌人) 1 3 1 8
 永源(ようげん) → 永源(えいげん、三論僧、歌人) 1 3 2 3
 養元(ようげん・吉川よしかわ) → 崇広(たかひろ・吉川、医/俳人) N 2 6 0 6

養元(ようげん・上田) → 馬来(ばらい・上田うえだ、医者/俳人) F 3 6 8 0
 養元(ようげん・難波) → 玄生(はるなり・難波なんば、藩医/歌人) G 3 6 6 4
 養元(ようげん・勝田) → 雲鵬(うんぼう・勝田かつた、儒/詩人) B 1 2 8 8
 養元(養玄ようげん・吉川) → 崇広(たかひろ・吉川よしかわ、医者/俳人) N 2 6 0 6
 養元(ようげん・河原) → 桃水(とうすい・河原/五々庵、医者/俳人) F 3 1 7 8
 要玄(ようげん;法諱) → 老山(ろうざん;道号・要玄、曹洞僧) 5 2 3 2
 要言(ようげん・深見) → 要言(ようごん・深見ふかみ、日蓮研究者) 4 7 8 8
 養賢院(ようけんいん) → 日普(にちふ;法諱・憲承、日蓮僧) D 3 3 1 6
 養賢院(ようけんいん) → 忠林(ただとき・諏訪すわ、藩主/詩文) P 2 6 9 9
 養賢院(ようけんいん) → 政養(まさよし・池田いけだ、藩主) M 4 0 8 3
 要玄院(ようげんいん) → 日寛(にちかん;法諱、日蓮僧) B 3 3 0 8
 養源院(ようげんいん) → 一貫(いっかん/かづつら・青木、藩主) G 1 1 7 8
 用源院(ようげんいん) → 慶算(きょうさん/けいさん;法諱、江戸前期天台僧) S 1 6 2 9
 容子(ようこ・山本) → 容子(もりこ・山本やまもと、国学者/歌人) L 4 4 8 4

4779 楊江(ようこう;号・柳川やながわ/本姓;源、名;通/通称;兵吉郎)?-? 江後期尾張名古屋の文筆家、
1820刊「与物為春」編

陽綱(ようこう・佐々木) → 陽綱(あきつな・佐々木、医者/篆刻) D 1 0 5 4
 要行(ようこう;字、要行院) → 日統(にっとう;法諱・要行院、日蓮僧) F 3 3 3 6
 用光(ようこう・下里) → 千穎(ちかい・下里しもさと/藤原/中臣/鎌田、神道) M 2 8 6 9
 陽光(ようこう・渡部) → 益庵(えきあん・渡部/渡辺、医者/紀行) D 1 3 6 2
 楊江(ようこう・柳河) → 春三(しゅんさん・柳河/西村/栗本、洋学者) K 2 1 2 1
 楊阜(ようこう・児島) → 宗説(そうせつ・児島こじま、藩の医者) I 2 5 2 2
 繇行(ようこう・荒井) → 晴湖(せいこ・荒井、儒者) I 2 4 0 5
 邕興(ようこう・徳田) → 邕興(むらおき・徳田、藩士/兵法家) D 4 2 1 0
 養康(永泰ようこう;法諱) → 太安(泰安たいあん;道号・養康、曹洞宗) J 2 6 0 1
 養浩(ようこう・高志/高) → 泉溟(せんめい・高志たかし/修姓;高、儒者) G 2 4 6 5
 養浩(ようこう・東儀) → 心非(しんび;号・東儀、幕臣/俳人) 2 2 7 0
 養浩(ようこう・須佐) → 建眞(たてざね・須佐すさ、神職/国学者) X 2 6 6 3
 養浩(ようこう・横田) → 莠(はぐさ・横田よこた、藩士/儒者/教育) K 3 6 9 5
 庸光(ようこう/やすみつ・日野西) → 国豊(くにとよ・日野西ひのし、廷臣/記録) C 1 7 9 9
 庸行(ようこう・黒田) → 庸行(つねゆき・黒田くろだ、絵師/往来物) E 2 9 1 9
 庸孝(ようこう・福永) → 庸孝(つねたか・福永わふくなが/数藤、藩士) G 2 9 2 6
 庸綱(ようこう・佐々木) → 宗六(そうろく・佐々木/源、書家) J 2 5 2 4
 庸興(ようこう・松川) → 庸興(つねおき・松川まつかわ、神職/国学) G 2 9 3 7
 耀綱(ようこう・松平) → 輝綱(輝綱てるつな・松平、藩主/兵学/平曲) C 3 0 8 0
 陽向庵(ようこうあん) → 升雲(しょううん・吉永/菊池、蘭方医) H 2 2 0 0
 養浩庵叟(ようこうあんそう) → 武陵(ぶりよう・西尾にしお、酒造業/俳人) E 3 8 6 1
 陽光院(ようこういん) → 誠仁親王(さねひとしんのう、陽光院、歌人) D 2 0 5 1
 陽広院(ようこういん) → 光高(みつたか・前田まえだ、藩主/儒学/歌) D 4 1 7 2
 陽光太上天皇(ようこういんだいじょうてんんのう) → 誠仁親王(さねひとしんのう、陽光院、歌人) D 2 0 5 1
 瑤光翁(ようこうおう) → 斉貴(なりたけ/なりたか・松平、藩主/鷹狩) H 3 2 5 1
 陽広公(ようこうこう) → 光高(みつたか・前田まえだ、藩主/儒学/歌) D 4 1 7 2
 養浩斎(ようこうさい) → 樵翁(しょうおう・大口おおぐち、茶人/香道) H 2 2 3 7
 養浩斎(ようこうさい) → 浩斎(こうさい・長崎、医者/蘭学/詩) I 1 9 9 4
 養浩斎(ようこうさい) → 耕牛(こうぎゅう・吉雄、蘭学/医者) E 1 9 9 5
 養浩斎(ようこうさい) → 景張(かげはる・高橋たかはし、歌人) U 1 5 9 4
 養浩斎(ようこうさい) → 顕義(あきよし・山田やまだ、藩士/軍人/司法) I 1 0 6 9
 養浩堂(ようこうどう) → 節庵(せつあん・武居/吉田、藩士/詩人) K 2 4 6 9

4780 陽谷(ようこく;道号・乾瞳けんとう;法諱)?-1533 臨濟僧:鎌倉報国寺の芳琳広誉門;出家、
報国寺・禅興寺住持/建長寺169世、相模横須賀正禅寺・武蔵行田安楽寺を開創、

「建長興国禅寺碑文」著

- 4781 **暘谷**(ようこく・多田ただ、名;成允、広政男)1691-1764⁷⁴ 紀伊の儒者;上野海門門、文に長ず、終生出仕せず、劉竜門・佐野隠山と交流、「暘谷学論」「瑤池無尽蔵」「瑤池先生消息集」著、[暘谷(;号)の通称/別号]通称;常輔、別号;瑤池
- 4782 **暘谷**(ようこく・高階たかしな/一字姓;高、渡辺寛[春菴]の養子)1719-66⁴⁸ 肥前長崎の訳士;養父門、詩人:大潮元皓門、訳士をやめ講説業、上京;竜草廬と交流、帰郷後;芙蓉詩社を結成、「高暘谷詩草」「暘谷詩稿」「清七子詩選」「瓊浦社草」「病榻草」「咏物詩雋」「明七才詩続」著、[暘谷(;号)の名/字/通称/別号/一字姓]名;彝、字;君秉、通称;忠蔵、別号;高無二、一字姓;高
- 4783 **暘谷**(ようこく・長久保ながぼ/修姓;長)1748-96⁴⁹ 長久保赤水せきすいの甥、常陸の儒者:赤水門、1788水戸彰考館入、1760赤水「東奥紀行」注、「続編鶴伝」著、[暘谷(;号)の名/通称]名;中行、通称;隆軒/多左衛門
- 4784 **暘谷**(ようこく・今大路いまおおじ、元勲もとのり男)1751-93⁴³ 医者:兄寿国の養嗣子;1767家督継嗣、1768従五下/典薬頭、兵部大輔、1782-93「暘谷日録」著、「暘谷年譜」著、[暘谷(;号)の幼名/名/法号]幼名;安之助、名;正福/元亮、法号;尚友院
- 4785 **暘谷**(ようこく・坂川さかがわ、名;貴文)1778-1849⁷² 伊勢の人:江戸に出て芝浜松町に住、書家;栗田流門派の溝口流入門;晩谷・松野雲谷門、書道私塾を開;門弟3千人、「芝泉堂書話」著、[暘谷(;号)の字/別号]字;平学、別号;芝泉堂、法号;文光院
- 4786 **暘谷**(ようこく・中茎なかぐき/修姓;茎、名;謙)?-? 江後期下総結城の医者/漢学・国学者、1823「陰陽論」「扁鵲伝正解」/26「傷寒論正解」31「切脈一葦」42「証法格」46「三考釈義」、「仮名物語」「行状学極意」「聖聖一撥」「睨齋一家言」「睨齋漫筆」「睨齋存稿」外著多数、[暘谷(;号)の字/通称]字;恭卿、通称;元悦/睨齋
- 暘谷(ようこく;号) → 汝岱(じたい;法諱・若霖;字、本願寺派僧)M 2 2 6 8
暘谷(ようこく・藤岡) → 有貞(ありさだ・藤岡ふじおか、算学/測量) F 1 0 3 4
暘谷(ようこく・鈴木) → 良知(りょうち・鈴木、儒/医者/本草家) I 4 9 8 5
暘谷(ようこく・後藤) → 象二郎(しょうじろう・後藤、藩士/政治家) J 2 2 9 1
暘谷(ようこく・塚村) → 敏(さとし・塚村つかむら/加藤、絵師/歌) Q 2 0 9 7
暘谷(ようこく・土岐) → 秀文(ひでぶみ・土岐とき、医者) K 3 7 2 5
暘谷(ようこく・宮永) → 富(ふみ・宮永みやなが、医者/国学) I 3 8 7 5
陽谷(ようこく・初法諱) → 竺巖(じくがん;道号・梅仙;法諱、曹洞僧)Q 2 1 3 8
耀国院(ようこくいん;法号) → 斉稷(なりとし・池田いけだ、藩主/歌人) K 3 2 3 5
瑤谷間人(ようこくかんじん) → 一堂(いっどう・東条とうじょう、儒者) B 1 1 2 5
暘谷楼(ようこくろう) → 貞喜(さだはる・牧野/源、藩主/諸芸) J 2 0 3 7
腰鼓堂(ようこどう) → 紫陽(しやう・増田ますだ、藩儒/尊攘/詩) G 2 2 4 6
- 4787 **永厳**(ようごん;法諱、下野守平たいら師季男)1075-1151⁷⁷ 真言僧/幼児;仁和寺成就院寛助大僧正門、1108灌頂を受/伝法阿闍梨となる、1113東寺入寺/35権少僧都/高野山西院に平等院を創建、保寿院流の開祖、「図像集」「平等鈔」「要尊法」「沢方通用式」「伝法灌頂三卷式」著、[永厳(;法諱)の通称]平等房/下野法印/下野阿闍梨
- 4788 **要言**(ようごん・深見ふかみ、名;徳一)?-? 江後期化政1804-30頃の磐城菊田郡九面村の僧、初め真言宗信者か?、眼病を患い身延山参詣30回;功験あり治癒;日蓮宗に改宗;熱烈信仰、水戸の日諦より日蓮五百遠忌記念に真筆御書の対校を依頼され「本化高祖御書」校訂出版、1795「本化高祖紀年録」著/1808「高祖御書略」「御書五大部」編/13「臨終大事文」編、1828「悪瘡救療略縁起」「録内御書目録」著、「高祖累歳録」「日親大上人行状記」外著多数、[要言(;法諱)の字]至高
- 4789 **養佐**(ようさ;名・堀部ほりべ、休庵2男)1632-1710⁷⁹ 加賀金沢藩番外医師:父門、「食物私説」著
- 4790 **容斎**(ようさい・矢野やの、拙斎男)1698-1764⁶⁷ 江戸の儒者(家学);1713(16歳)より教授、測量術:細井広沢門、医術に通ず、「詩経集伝講義」「枝折草」/1743「名字考」著、[容斎(;号)の名/字]名;道坦、字;貞甫/固仲
- 4791 **杏齋**(ようさい・穴沢あなざわ)1701-1784⁸⁴ 羽前米沢藩士/儒者;米沢藩儒片山童観門、

- 享保1716-36頃江戸の服部南郭門;徂徠学修学、1719藩の右筆/30記録方;藩主の近侍、1742致仕、天文暦学:仙台の佐竹義根門、地動説を主唱、「円闕弧背録」著、
[杳齋(;)の名/字/通称/別号]名;篤信、字;子居、通称;総内/九右衛門、別号;春岳
- 4792 **養齋**(ようさい・蟹がに、名;維安)1705-7874 安藝(or阿波)の儒者;三宅尚齋門・崎門派、尾張藩儒臣、致仕後伊勢に住、「詩学指要」「異端弁」「養齋偶筆」「養齋文章」、
[養齋(;)の名/字/通称/別号]字;子定/子礎、通称;佐左衛門、別号;東溟
- 4793 **養齋**(ようさい・鈴木ずき、医者鈴木荘内男)1764-183774 上総姫島の儒者養察の孫;家学を受け儒者、安井利恒・桜木闇齋門/のち稲葉黙齋門;黙齋没後その堂で教授、画を嗜む;谷文晁と親交、「女世話字往来」「批大疑録」「三田目的録」「童蒙蔽塞辨」「太極図説講義」「四書講義」、
「拘幽操講義」「仁説問答講義」「道学標的講義」「排釈録講義」「講学鞭策録講義」外著多数、道闇の父、伊庭一貫堂の師、
[養齋(;)の名/通称/別号]名;直二、通称;荘内、別号;空水/大順堂、法号;法常院
- 4794 **榕齋**(ようさい・奥山おくやま/旧姓;糸井、名;高翼)1781-184161(一説1777-184266) 羽後角館菅沢儒者、秋田藩士奥山権左衛門の養子、郷校に修学/江戸の山本北山の奚疑塾に修学/詩文に長ず、1789-1801頃秋田藩に出仕/江戸藩邸日知館の教授/秋田詰;明德館教授、大窪詩仏と交流、1809「詩学自在」編/12「辨芸園鋤莠」、「榕齋日抄」「榕齋雜稿」「榕齋小稿」「潮海堂遺稿」著、
[榕齋(;)の名/字/通称/別号]字;君鳳、通称;九兵衛くへい/九平、別号;槎湖/虎塘/修竹齋
- 4795 **容齋**(ようさい・菊池、名;武保たけやす、河原専蔵武吉男)1788-1876長寿91 幕臣;与力/西丸御徒役、1825致仕、伯父菊池武長の家[父の生家]継承(武保と改名)、絵師;1861高田円乗門;狩野派・南蘋風、大和絵/有職故実を修得、歴史人物画に新境地、「菊池容齋歌集」「菊池容齋詩集」著、1836-68「前賢故実」、40「容齋画意」著、1843「呂后斬戚夫人図」62「蒙古襲来之図」、「名所真景」外画多数、
[容齋(;)の名/字/通称/別号]字;定卿、通称;量平、
号;/雲笠、雲水无尽/手毛八巢/詒痴符いぢふ
- 4796 **慵齋**(ようさい・小野寺おのでら、名;誠之/字;道甫、忠間男)1792-186170 北畠頭家の裔と称す、兵法家、兵法;平山兵原・清水赤城・渡辺是保門、武家故実;松平藍園門、岩代三春藩出仕、遠江浜松藩出仕/のち長崎で高島流砲術を修学、下総佐倉藩/1860土浦藩に出仕;兵制改革、「武備概意」「野慵齋答書」「長沼流金鼓法概意」著
- 4797 **養齋**(ようさい・奈良なら、青山金右衛門男)1803-7270 羽後鹿角郡尾去沢の儒者、青山直右衛門養子、儒/経史;内藤天爵・泉沢鶴齋・東条一堂門、医学も修学、孝齋の父、陸中盛岡藩士;鉾山奉行/侍医/勘定奉行/大監察を歴任;藩の負債軽減に尽力、俳諧;八千房屋鳥おくう門、1816「救民妙薬」編/1820-明治「奈良養齋日記」/55「奈良養齋上書」、「銅山記」「燈台録」著、「尾去沢銅山献議」「地震之説」「摘芳」「養齋艸稿」「八千房屋鳥翁閑話記録」著、
[養齋(;)の名/通称/別号]名;為大、通称;官司眞守、
別号;壺中庵/有知新齋/百笑堂/東岐、法号;知新院
- 4798 **要齋**(ようさい・細野ほその/本姓;藤原、忠明長男)1811-7868 名古屋藩士;1842家督継嗣、馬廻組、大番組に列す、儒;近藤浩齋門;闇齋学/のち深田香実(正韶)門;儒学・垂加神道を修学、1853藩校明倫堂典籍(教授)/57病により辞職/68明倫堂教授に復職、藩主徳川義宜の侍講、俳諧;字朝門、古書籍・画・器を好む/尾張の事蹟調査;地誌「尾張古文類」「尾張百家志」編、1855「明倫堂始源」編/58「飯鍬の記」、「夢の跡」「続夢の跡」「葎の滴」「要齋録稿」「敬事録」、「感興漫筆」「官庫雜記」「好古雜纂」「吾郷」「蕉窓余録」「涉獵雜抄」「有得漫記」著、外多数、
[要齋(;)の名/字/通称/別号]名;忠陳、字;子高、
通称;寿三郎/為蔵/仙右衛門/仙之右衛門、別号;牧羊、法号;天嶺院、栗齋の父
- 4799 **拗齋**(ようさい・柴田/新発田しばた、名;耕/耘、長五郎男)1820-5940 佐渡宿根木村の名主の家の生、1839(20歳)頃江戸で漢学;中根半山門/書画篆刻も修学、佐渡の絵師石井夏海・文海と親交、1843再出府し医学;伊藤玄朴門/傍ら地理学に傾倒/帰郷し医を開業、1850三度江戸に出府、天文方の山路諧孝門;1854幕府蕃書和解御用手伝として出仕/のち蕃書調所絵図調出役、「泰西略図」「蟹行字様」「諸蛮字韻考」、1852「新訂神輿全図」/53「万国地名捷覧」外著多数、
[拗齋(;)の名/字/通称/別号]字;士登/通称;昇蔵/収蔵、別号;半島漁人
- B4700 **容齋**(ようさい・藤田ふじた、名;維正これまさ、重孝男)1825-9268 加賀金沢の代々藩老臣長氏の家臣、

儒者:1845大阪の藤沢東暎門、奥野小山と交流、帰郷し金沢に松風社を興す;詩作、金子松洞・永山玄軒らと交流、1868藩校明倫堂教師/廃藩後も教育に当る、「三字経約解」「容齋詩稿」「詔令集」「新実語教」「新童子教」「嚶鳴文抄」「金城文抄」外著多数、[容齋(;)号]の字/通称/別号]字;公甫、通称;誠一郎/六左衛門、

別号;咲翁(しょうおう)/笑翁/蘿月窟主人/野航齋、法号;通達院

B4701 **容齋**(ようさい・木村むら、名;温、藩儒木村愚山の長男)1834-1885 越後中頸城郡上小野村の儒者、1843(10歳)江戸の井部香山門/昌平黌入学;数ヶ月で退学、古賀侗庵・安積良齋門、1860帰郷;格知塾を開く/のち父の跡を継嗣;高田藩校教授/儒:侗庵・良齋門、1851「病余百絶」58「豊臣太閤記序」65「観旭軒文藁」著、[容齋(;)号]の字/通称]字;士良、通称;一太郎/市太郎

栄西(ようさい) → 栄西(えいさい・明庵, 臨濟宗祖) 1 3 0 3
容齋(ようさい・佐久間) → 洞巖(とうがん・佐久間、儒者/詩文) C 3 1 3 1
容齋(ようさい・福王) → 信近(のぶちか・福王ふくおう、幕臣/記録) B 3 5 9 8
容齋(ようさい・糟谷) → 昇(しょう・糟谷かすや、医者/国学) U 2 2 7 5
容齋(ようさい・安藤) → 定為(さだため・安藤あんどう、歌人) I 2 0 4 9
容齋(ようさい・藤堂) → 高潔(たかきよ・藤堂とうどう、藩主/書画) L 2 6 7 9
容齋(ようさい・勝部) → 兼寿(かねひさ・勝部かつべ、商家/絵師/歌) U 1 5 3 0
容齋(ようさい・三品) → 崇(たかし・三品みしな/高橋、儒者/文教) W 2 6 9 1
容齋(ようさい・佐伯) → 惟忠(これただ・佐伯さえき、藩士/国学者) Q 1 9 8 7
陽齋(ようさい) → 丘山(きゅうざん・岳亭、絵/読本/狂歌) C 1 6 0 3
養齋(ようさい・吉田) → 盈枝(みつえ・吉田よしだ、商家/和学/連歌) K 4 1 9 2
養齋(ようさい・饒田) → 西疇(せいちゅう・饒田にぎた、儒者/崎門学) J 2 4 2 3
庸齋(ようさい) → 貞則(さだのり・平野、藩士)
庸齋(ようさい・吉村) → 省(はぶく・吉村、文筆家) F 3 6 5 9
庸齋(ようさい・村瀬) → 藤城(とうじょう・村瀬むらせ、大庄屋/儒者) F 3 1 3 3
庸齋(ようさい・平野) → 貞則(定則さだのり・平野ひらの、藩士) J 2 0 2 9
洋齋(ようさい・羽栗) → 南臯(なんこう・吉雄よしお、蘭学/医者) I 3 2 9 6
陽西成(ようさいせい) → 美穂(よしほ・八木、国学者)
要左衛門(ようざえもん・木立) → 守貞(守定もりさだ・木立きだち、藩士/馬術家) F 4 4 4 1
要左衛門(ようざえもん・白水) → 要禎(ようてい・白水しろうず、医/藩政改革) B 4 7 5 0
養左衛門(ようざえもん・今村/笠間) → 奥庵(おうあん・笠間かさま、儒者) C 1 4 2 9
養作(ようさく・鈴木) → 常雄(つねお・鈴木すずき、国学/歌人) F 2 9 4 0
養作(ようさく・波多野) → 修營(ながよし・波多野はたの、里正/国学) K 3 2 1 8
傭作(ようさく・司馬;変名) → 小舟(しょうしゅう・小永井こながい、幕臣/儒) S 2 2 9 5

B4702 **養察**(ようさつ・鈴木すずき)1695-1779 85 上総姫島の儒者/早く父没:上総成東の母の実家住、大佐志改修に関わり幕臣酒井脩敬に勧められ稲葉迂齋門、帰郷;子弟教育、南総道学の初、「道統伝來說」「論語講義」「小学講義」「大学講義」「中庸講義」「孟子講義」「近思録講義」著、[養察(;)名]の通称] 権次郎/源兵衛/荘内、養齋の祖父

養三郎(ようざぶろう・大国屋) → 畜(おさむ・矢部、歌人) D 1 4 0 8

B4703 **要三**(ようさん・宮地みやじ、名;高德)1693-1769 77 肥前長崎の蘭医;オランダ人医師門/外科に長ず、「三玄提要」「瘍科撮要」著、要立の養父、[要三(;)通称]の字/法号]字;子漸、法号;長松院

B4704 **鷹山**(ようざん・中西なかにし、名;惟孝、深齋男)1772-1827 56 母;伊勢桑名の佐伯家出身、京医者;父門、父の志を嗣ぎ傷寒論を中心とする古医方の普及に尽力、「傷寒論記聞」「傷寒論辨正箋注」著、[鷹山(;)号]の字/通称/法号]字;君友、通称;幹藏、法号;祢良きりょう

B4705 **庸山**(ようざん・浜地はまじ、名;任重)1775-1835 61 代々伊勢安濃郡殿村の久居藩庄屋兼目付の家、家職を継嗣、詩文修学;貫名海屋・津阪東陽・大窪詩仏と交流、書画を嗜む;野呂介石・浦上晴琴と画論を交わす、1835(天保6)刊「山水高趣」著、[庸山(;)号]の幼名/字/通称/別号]幼名;大助、字;伯仁、通称;十郎兵衛/十兵衛、

別号;画痴斎

B4706 陽山(ようざん;道号・楚軾そしよく;法諱、俗名;桂佐馬五郎)1778-1859⁸² 丹波桑田郡勝林嶋村臨濟僧、1792(15歳)三河東觀音寺万年門/1810妙心寺雜華院住/41山城田福寺の海山宗恪門/嗣法、勤王僧として活動;近衛氏の命で熊本藩主細川氏に公武合体を説く、歌道/画に長ず、土佐藩主山内容堂と画友、「雛僧要訓」補填、
[陽山楚軾の号] 蕉空、魯堂、真觀清淨禪師

鷹山(ようざん・上杉) → 治憲(はるのり・上杉/秋月、藩主/儒者) G 3 6 7 1
鷹山(ようざん・松平) → 定能(さだまさ・松平/小笠原、幕臣/地誌) J 2 0 7 0
葉山(陽山ようざん・臼田うすだ) → 竹老(ちくろう・臼田、儒者/歌) D 2 8 9 7
庸山(ようざん・曾) → 槃(はん・曾そう/宋そう、本草/医者) H 3 6 1 5
陽山(ようざん;字) → 日空(にっくう・觀樹院、日蓮僧) D 3 3 8 4
擘山(ようざん・足利) → 義植(よしたね・足利/源、室町幕府將軍) E 4 7 3 4
遙山(ようざん;号) → 神竜(しんりゅう;法諱、真宗大谷派学僧) Q 2 2 0 9
容山軒(ようざんけん) → 敬明(たかあき・吉川よしかわ、信就男/藩士) L 2 6 4 4
陽山軒(ようざんけん) → 宗栄(そうえい・蜂屋はちや、香道家) G 2 5 1 9
与三太夫(よさんだゆう・佐々木) → 松後(しょうご・佐々木、町役人/俳人) C 2 2 8 4
三王外記」に関連して出てくる訊洋子

Q4741 洋子(ようし・訊じん) ? - ? 江戸期漢学者;[三王外記]著(東武野史訊洋子の署名)、
太宰春台(1680-1747)説あり

陽子(ようし・夏目) → 吟江(ぎんかう・夏目、俳人) H 1 6 8 6
揚志(ようし・松平) → 頼亮(よりあきら・松平、藩主/藩政改革) I 4 7 3 5
葉二(ようじ) → 許人(きよじん・椎名、俳人) D 1 6 2 4
要治(ようじ・鈴木) → 親清(ちかきよ・鈴木すずき、国学者/歌人) M 2 8 7 2
要識(ようしき;字) → 日成(にちじよう;法諱・眞行院、日蓮僧) C 3 3 4 5
用七(ようしち・大谷) → 紫陌(しはく・大谷、俳人) V 2 1 4 5
要七(ようしち・桑原) → 黒人(くろひと・桑原くわばら、俳人) B 1 7 1 4
要七(ようしち・三国屋) → 年秀(としひで・折田おりた、藩士/海防策) N 3 1 5 4
羊質窟(ようしちくつ) → 虎友(こゆう・稲本、俳人)

B4707 容膝(ようしつ) ? - ? 浄土僧;天海(1536-1643)門、慶安「兩部神道口訣鈔」に記事

容膝(ようしつ;号) → 雲臥(うんが;法諱、1640-1710、浄土僧) D 1 2 5 9
榕室(ようしつ・山本) → 錫夫(せきぶ・山本、医者/本草家) K 2 4 4 4
容膝窠主人(ようしつかしゅじん) → 惟一(これかず・賀集かほ、製陶/国学) Q 1 9 6 1
羊質窟(ようしつくつ) → 虎友(こゆう・稲本いなもと、俳人) N 1 9 7 9
容膝斎(ようしつさい) → 忠貫(ただつら・本多/戸沢、藩主/詩) P 2 6 9 1
容膝亭(ようしつてい) → 重嶷(しげたか・関せき、藩家老/地歴) R 2 1 2 0
容膝堂(ようしつどう) → 燕石(えんせき・日柳くさなぎ、詩人/勤王派) B 1 3 8 1
永積(ようしやく) → 弥天(みてん・永積、臨濟宗僧)

B4708 養樹(ようじゆ・江沢えざわ、名;道義、漢方医者中島理斎男)1774-1838⁶⁵ 越後蒲原郡見付の医者、
医;宇田川玄随門/のち蘭方医学;宇田川玄眞門、美濃大垣藩医江沢養寿の養嗣;
大垣藩医、「内科要略」「蘭家油薬採造」著/「医方蔓難録拔萃」編、
[養樹(;通称)の字/号]字;成大、号;天倪てんげい/天倪道人、法号;成嶽見竜信士

瑤樹(ようじゆ;号) → 僧梁(そうりよう;法諱、真宗本願寺派) C 2 5 2 9
養寿(ようじゆ・菊池) → 宗雨(そうう・菊池きくち、俳人) G 2 5 0 4
養儒庵(ようじゆあん) → 好運(こううん・樋口ひぐち、医者) H 1 9 4 5
養壽院(ようじゆいん) → 宗達(そうたつ・速水はやみ、医者/茶人) I 2 5 3 9
壽壽院(2世ようじゆいん) → 宗擘(そうよう・速水はやみ、宗達男/茶人) J 2 5 0 9
養壽院(ようじゆいん) → 玄心(げんしん・山脇、医者) E 1 8 1 6
養壽院(ようじゆいん) → 東洋(とうよう・山脇、玄心の義理孫/医者) H 3 1 7 7

B4709 葉拾(ようしゅう) ? - ? 俳人;1698「続猿蓑」1句入;

[籠かごの目や潮うしおこぼるゝ初鯉](続猿蓑/相模の海の潮がしたたる新鮮さ)

- K4719 **葉舟**(ようしゅう) ? - ? 京俳人;淡々門、1728柳岡「万国燕」(淡々点)入
- B4710 **陽洲**(ようしゅう・安藤あんどう、旧姓;高畑)1717-8367 讃岐の儒者/上京;古義堂入学;
伊藤東涯・蘭嶋門、1747(延享4)伊予宇和島藩出仕;48藩校内徳館創設に伴い教授、
1777江戸詰/81(天明元)致仕、1772「日本大典」編、「詩十全集」著、
[陽洲(;号)の名/字/通称]名;謙之/知冬/依仲、字;貞卿、通称;満蔵
- B4711 **雍洲**(ようしゅう・上田うえだ、名;希貞)1792-185867 河内道明寺村の医者、医者上田古梅堂の孫、
儒(経義);早野友堂・中井履軒門/医学:拓殖竜洲門、「天然痘試験」「播磨紀行」著、
[雍洲(;号)の字/通称]字;守眞、通称;友賢
- B4712 **揺舟**(ようしゅう・福原ふくはら、名;旦)?-? 江後期江戸の絵師/書家、四谷坂町に住、
1834(天保5)刊「赤絵指南」「酔醒雅玩初編」編、
[揺舟(;号)の字/通称/別号]字;子差、通称;東一郎、別号;清音詩屋
- B4713 **陽洲**(ようしゅう;号・稲本いなもと)1864-194784 明治期備中後月郡山野上村の書家・詩人、
1872三村政太郎門/77書;荻田雲崖門、教師の資格取得/精徳小助教、高梁中学教諭、
詩人:大沼枕山門、歌;佐々木信綱門、
「五言百絶七言百絶」「頂雲閣詩鈔」著、「陽州詩鈔」(;門弟編纂)
[陽洲(;号)の名/字/通称]名;治太郎、字;治卿、通称;治太一
- 陽秋(ようしゅう・豊原) → 陽秋(かげあき・豊原、楽人) K 1 5 6 7
陽洲(ようしゅう・芳村) → 正乗(まさもち・芳村よしむら/大中臣、神道) T 4 0 7 4
庸修(庸脩ようしゅう・平野) → 庸修(庸脩つねなが・平野、医者/史家) C 2 9 8 5
容衆(ようしゅう・松平) → 容衆(かたひろ・松平まつだいら、藩主/紀行) N 1 5 0 7
揚州(ようしゅう・石井) → 蠡(れい・石井いし、藩士/儒者) 5 1 0 0
楊洲(ようしゅう・河地) → 時寛(ときひろ・河地かわち、国学者) U 3 1 8 6
楊洲(ようしゅう・馬淵) → 惟同(これとも・馬淵まぶち、藩医) R 1 9 3 0
雍州(雍洲ようしゅう・上田) → 公長(こうちよう・上田、紀伊国屋/絵師) K 1 9 6 5
鷹洲(ようしゅう・秋本) → 里美(さとみ・秋本あきもと、医者/歌人) N 2 0 7 0
葉十(ようじゅう) → 葉十(はじゅう、川柳作者) J 3 6 3 0
- B4715 **要秋蝶**(ようしゅうちよう) ? - ? 絵師;
1801小金厚丸の洒落本「廓胆競くるわのきもくらべ」挿画
- 陽秋亭(ようしゅうてい) → 文二(ぶんじ・地主ぢぬし、俳人) F 3 8 5 5
楊樹園髪児丸(ようじゅえんはつじまる) → 雅教(まさあつ・正宗まさむね、国学者/狂歌) B 4 0 1 6
- B4716 **容肅**(ようしゅうく・友国ともくに)? - 1852 摂津東須磨の俳人:可大と交流、
天保1830-44頃「すますたれ」編、[容肅(;号)の通称]甚左衛門
- 養寿軒(ようじゅけん) → 立庵(りつあん・渡辺わたなべ、与力/茶人) B 4 9 5 6
養寿斎(ようじゅさい) → 仙庵(せんあん・中曾根なかそね、医者) L 2 4 5 3
養酒堂(ようしゅうどう) → 貞方(さだかた・安田やすだ、国学者/歌人) O 2 0 0 9
- B4717 **陽春**(ようしゅん;道号・主諾しゅたく;法諱、俗姓;寺尾)?-1735 駿河庵原郡江尻の駅馬業、
25歳の時武士を斬殺;庵原郡の大乗寺に逃げ込みで出家:大鵬良門/諸師に参禅、
臨濟僧;駿河清見寺の芝岸門/法嗣、1715清見寺住持、駿河松蔭寺の白隠慧鶴と親交、
「陽春和尚語録」「陽春和尚三玄三要考」「易辨辨語」「江湖風月集考」著、
1732「江湖風月集略註捨」33「人天眼目臆説」著
- B4718 **陽舜**(ようしゅん;道号・祖秀しゅじゅう;法諱、尾藤彦四郎男)1694-174350 遠州気賀村の臨濟僧:
三河大野の淵竜寺の説黙隠門/出家;師没により急遽1715(22歳)三河淵竜寺住持、
のち兄の妙心寺祖山法忍に嗣法/1733遠州奥山の方広寺住持、俳人太田白雪と交流、
「奥山便岐集」著/1728「無文禅師語録」編、「陽舜禅師拾遺録」
- 陽春(ようしゅん・答本とうほん) → 陽春(やす・麻田連あさだのむらじ、廷臣/万葉歌人) 4 5 0 4
陽春(ようしゅん・青木) → 樹堂(じゅうどう・青木あおき、禅僧/漢学/詩) 2 1 7 5
陽春(ようしゅん;字) → 信盛(しんじょう;法諱、真言僧;唯識/天台) O 2 2 8 8
養春(ようしゅん;字) → 良順(りょうしゅん;法諱、浄土名越派学僧) H 4 9 9 8
- B4719 **養純**(ようしゅん・村上むらかみ、冬嶺男)?-1737 丹波桑田郡保津村の医者/江戸で1710幕府医官、
1714法眼、小児科医、「痘瘡要薬方」編、「痘瘡要方」「痘疹要薬方」「李仁山種痘和解」著、

[養純(；号)の名/別号]名;正信、別号;純、良元の父

B4720 養準(ようじゆん・草野くさの) ? - ? 江後期文政1818-30頃日向延岡の医者;長崎遊学、
吉雄定之助(南臯の父)門/のち尾張名古屋で吉雄南臯門;天文学も修学、大阪住、
1823(文政6)「遠西觀象図説」編

B4721 養純(ようじゆん・玉井たま) 1808-1877 70 豊後日田郡豆田村の医者、
儒学;日田の広瀬淡窓門;塾の都講、書;広瀬長春門、のち筑後で医学;中垣谷神門、
筑後生葉郡隅上村で家業医;村井雲台・深水立門と合わせ九州の三大家と称される、
久留米藩に招聘;侍医/1863医学館教授、1869病により致仕;帰郷、熊溪の父、
「傷寒論柯則」「観症随話」「痘瘡論」著、

[養純(；字)の名/号]名;英穆いぼく/穆、号;忠田、

養順(ようじゆん・谷川) → 士清(ことすが・谷川、医者/神道/語学) 1 9 3 6

養順(ようじゆん・桑名) → 黙斎(もくさい・桑名くわな、藩儒) 4 4 7 9

養順(ようじゆん・遊佐) → 木斎(ぼくさい・遊佐ゆさ、藩儒/教育) D 3 9 0 8

養順(ようじゆん・佐渡) → 三良(さんりょう・佐渡さど、医者/詩人) M 2 0 8 5

養順(ようじゆん・伊沢) → 世美(つぐよし・伊沢いざわ、藩医/歌人) F 2 9 2 0

養潤(ようじゆん・村上) → 正徳(まさのり・村上むらかみ、医者) G 4 0 2 0

謡春庵(ようしゆんあん) → 周可(しゅうか・吉野山人、俳人/地誌) G 2 1 8 9

養春院(ようしゆんいん) → 元琰(げんえん・多紀たき、幕臣/医者) H 1 8 9 8

陽春院入道右大臣(ようしゆんいんにゅうどうのうだいじん) → 通言(みちのぶ・久我こが/源、右大臣) C 4 1 1 8

陽春館(ようしゆんかん) → 高明(たかあきら・京極、幕臣/詩人) L 2 6 5 0

養春堂(ようしゆんどう) → 閑斎(かんさい・大井おおい、医者) Q 1 5 5 5

陽春廬(ようしゆんろ → やすむろ) → 清矩(きよのり・小中村こなかむら、国学者) H 1 6 5 1

B4722 容所(ようじよ・曾我部そがべ/本姓;源、名;元寛) 1735-87 53 阿波美馬郡美馬町郡里の儒者、
20余歳で上京;朱子学を修学、唐註疏:岡白駒門、数学;中根彦侑門/有職;花山院常雅門、
律令に精通/暦法・天文・韻学にも通じ教授、「集唐令」「論語集解考」「明令国字解」、
「新儀式捕逸」「御読書事」「孝経国字考」/1781「開口詞並私註」83「孝経事談」著、外著校訂多、
息子の簡斎(名;元懋)も儒者、

[容所(；号)の字/通称/別号]字;苞卿、通称;式部、別号;東里

B4723 榕所(ようじよ・山県やまがた、名;整、東原3男) 1795-1827 33 儒者;長門萩藩校明倫館都講、
1826(文政9)江戸遊学中に没、「晦園偷閑文叢」著、

[榕所(；号)の字/通称]字;脩公、通称;少作

榕所(ようじよ・桑原) → 成徳(しげのり・桑原くわばら、藩士/詩) S 2 1 1 6

K4786 要女(ようじよ) ? - ? 江後期;歌人、

1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、

[恋ひわたる瀬田の長橋ながらへてあふみとならばうれしからまし]、

(大江戸倭歌;恋1552/寄橋恋)、

[むらさきの雲にかくれし其かみをしのぶあふちの花のこの本](同;雑1886/夏懐旧)

B4724 耀清(ようしゅう;法諱、俗姓;紀、幸清ぎょうしゅう男) 1202-55 54 鎌倉期社僧;1221修理別当/35権別当、
権少僧都/法印大和尚位/1242石清水八幡宮37代別当/43権大僧都/53檢校社務、
小侍従は大伯母、「石清水八幡宮寺并極楽寺恒例仏神事総次第」著、
歌人:1232石清水若宮歌合参加、万代集・現存六帖に入、続後撰集(2首364/1296)、
[夜もすがら庵いほもるしづは秋の田のいねがてにのみ月や見るらん](続後撰;秋364)、
[耀清の号] 田中/柳法印

K4706 用章(ようしゅう;道号・如憲じげん;法諱)?-1463 山城梅津の臨濟宗長福寺の徒;雲竜清嶽門;嗣法、
のち長福寺20世/1431天竜寺150世/1439南禅寺142世、観叟元壯・友山禅益の師、
1446鹿苑僧録瑞溪周鳳の推挙で東山の常在光寺に住、1417「月林皎禅寺行状」著

B4725 庸昌(ようしゅう・入り、名;貞當、光貞の長男) 1693-1752 60 信濃松代藩士、
宮城流和算家;宮本正之門、1712藩主真田幸道に出仕;勘定役/1732勘定役筆頭、
1745藩主の不興を買い隠居、
1743「角総算法」、「算法従心録」「自省集」著、

[庸昌(；号)の幼名/通称/別号]幼名;万四郎、通称;弥左衛門、別号;見思堂/章可

庸昌(ようしょう・香川)	→ 庸昌(つねまさ・香川、地誌)	B 2 9 3 1
庸昌(ようしょう・小笠原)	→ 庸昌(つねまさ・小笠原おがさわら、儒医)	D 2 9 7 5
要勝(ようしょう・神門)	→ 全瓦(せんが・神門ごと、藩士/俳人)	L 2 4 8 4
容頌(ようしょう・松平)	→ 容頌(かたのぶ・松平、藩主/改革)	N 1 5 0 5
永成(ようじょう、西若)	→ 永成(えいじょう、平安期歌人)	1 3 3 3
用拯(ようじょう・若山)	→ 勿堂(ぶつどう・若山わかやま、儒者/易学)	D 3 8 4 0
鷹城(ようじょう;号)	→ 僧叡(そうえい、真宗本願寺派僧)	G 2 5 2 0
陽照院(ようしょういん;法号)	→ 宗綱(むねつな・松木まつきの/中御門、廷臣/記録)	B 4 2 6 4
養生館(ようじょうかん)	→ 定珍(さだかね・さだよし・阿部あべ、庄屋/詩歌)	N 2 0 6 8
養正軒(ようしょうけん)	→ 信政(のぶまさ・津軽、藩主/兵学/諸芸)	D 3 5 2 9
養松軒(ようしょうけん)	→ 春彦(はるひこ・中村、神職/歌人)	I 3 6 8 0
葉上僧正(ようじょうそうじょう)	→ 栄西(えいさい/ようさい・明庵、臨濟祖)	1 3 0 3
養生堂(ようじょうどう)	→ 華陽(かよう・岡田おかだ、医者/詩)	P 1 5 6 0
擁書城(ようじょう・蔵書号)	→ 正斎(せいさい・近藤、幕臣/儒/千島探検/歌)	B 2 4 5 8
擁書倉(ようじょう)	→ 与清(ともしよ・小山田/高田、国学者)	3 1 6 0
要四郎(ようじろう・武田)	→ 濟美(せいび・武田、和算家;青谿)	J 2 4 4 7
要治郎(ようじろう・加藤)	→ 磯足(いそたり・加藤、国学者/歌)	B 1 1 0 9
要次郎(ようじろう・後藤)	→ 基弘(もとひろ・後藤ごと、国学者)	E 4 4 1 6

B4726 庸慎(庸信ようしん・平井ひらい) 1775- 1849 75 丹波船井郡舟坂村の医者;京の浅井南阜門、尾張名古屋の浅井貞庵門、帰郷し医業;勸孝を实践、1807・13「名家灸選」著、1808「名家方選三編」著/17「訓蒙勸孝録」編/36「名家灸選大成」、「諸家経験方選」著、[庸慎(；通称)の名/字/号]名;守善/主善、字;子謹/士謹、号;舟山/丹山

要親(ようしん・桜井)	→ 要親(としちか・桜井さくらい、代官/歌人)	T 3 1 3 6
養心(ようしん・倉田/横田)	→ 何求(可及かきゅう・横田、儒者)	H 1 5 2 3
養信(ようしん・狩野)	→ 養信(おさのぶ/たけのぶ・狩野かのう、絵師/歌)	D 1 4 7 2
養眞(ようしん・森)	→ 枳園(きえん・森、医者/国学)	F 1 6 0 3
養眞(ようしん・森)	→ 約之(のりゆき・森、枳園男/医/本草学)	G 3 5 1 5
養眞(ようしん・上田)	→ 重威(しげたけ・上田うねだ、歌人)	N 2 1 4 7
庸信(ようしん・松浦)	→ 東鷄(とうけい・松浦まつうら、易占家)	D 3 1 1 7
庸信(ようしん・西原)	→ 庸信(つねのぶ・西原にしはら、藩士/歌人)	G 2 9 1 4
鷹信(ようしん・近藤)	→ 鷹信(たかのぶ・近藤・藤原、歌人)	M 2 6 7 0
要人(ようじん・柳田/草場)	→ 允文(いんぶん・草場/柳田、藩士/書家)	G 1 1 0 7
要人(ようじん・長沢)	→ 資親(すけちか・長沢/外山、幕臣/高家)	G 2 3 4 7
要人(ようじん・長沢)	→ 資祐(すけやす・長沢、資親男幕臣/高家)	H 2 3 1 7
要人(ようじん・池田)	→ 要人(かなめ・池田、藩士/俳人)	O 1 5 3 2
要人(ようじん・池田)	→ 信兄(のぶえ・池田いけだ、藩士/歌人)	H 3 5 3 1
要人(ようじん・加藤)	→ 千蔭(ちかげ・加藤/橘、国学/歌人)	2 8 0 3
要人(ようじん・井田)	→ 亀学(きがく・井田いだ、藩士/易学家)	J 1 6 8 3
要人(ようじん・戸田)	→ 祐之(すけゆき・戸田とだ、幕臣/本草家)	H 2 3 2 2
要人(ようじん・松村/呉)	→ 景文(けいぶん・松村まつむら/呉、絵師)	1 8 8 9
要人(ようじん・木造)	→ 洪宗(ひろむね・木造こうくり、絵師)	H 3 7 4 7
要人(ようじん・松浦)	→ 舜挙(春挙しゆんきよ・松浦、絵師)	Z 2 1 3 6
要人(ようじん・和久田)	→ 叔虎(よしとら・和久田わくだ、藩士/儒/医)	F 4 7 1 0
要人(ようじん・松本)	→ 正羽(まさのぶ・松本まつもと/藤原、藩士/歌)	S 4 0 7 6
要人(ようじん・岡田)	→ 光尉(みつまさ・岡田おかだ、歌人)	E 4 1 8 9
要人(ようじん・飯田)	→ 忠彦(ただひこ・飯田/里見、史家)	F 2 6 6 7
要人(ようじん・水野)	→ 忠通(ただゆき・水野、幕臣/歌人)	F 2 6 9 9
要人(ようじん・水野)	→ 忠一(ただかず・道一・水野みずの/源、幕臣)	U 2 6 9 4
要人(ようじん・伊東)	→ 実休(さねやす・伊東/伊藤、歌人)	L 2 0 4 6

要人(ようじん・深沢) → 常逢(つねあい・深沢ふかざわ、神職) B 2 9 4 4
 要人(ようじん・岡野) → 光信(みつのが・岡野おかの、医者/歌人) I 4 1 0 3
 要人(ようじん・久保倉) → 正意(まさのり・久保倉くぼくら、国学者) P 4 0 3 8
 要人(ようじん・大鐘) → 冬海(ふゆみ・大鐘おおがね/山本、藩士/歌) I 3 8 0 5
 要人(ようじん・山本) → 弘素(ひろもと・山本やまと/久保田/近藤、国学/尊攘) J 3 7 6 1
 要人(ようじん・西山) → 尚義(ひさよし・西山にしま、国学/勤王) K 3 7 5 7
 養心院(ようしんいん) → 長興母(ながおきのほは・相良さがら、藩主室/歌) P 3 2 2 9
 養心齋(ようしんさい) → 道伴(どうはん・神田、古筆鑑定) G 3 1 9 9
 養心齋(ようしんさい;華道家) → 安兵衛(やすべゑ・武蔵/藤原、商家/華道) C 4 5 9 2
 養真堂(ようしんどう) → 美英(よしひで・新村にいむら、医者/歌人) O 4 7 3 1

B4727 揚水(ようすい、揚水之) ? - ? 江戸の俳人;芭蕉門、
 1680「桃青門弟独吟廿歌仙」入/81桃青(芭蕉)「誹諧次韻」/83其角「虚栗」/90其角「花摘」入、
 1691去来凡兆「猿蓑」1句入、

[待つうちの正月もはやくだり月](猿蓑四/待焦れた正月も多忙に紛れはや半ば過ぎ)

容綏(ようすい・松平) → 容頌(かたのぶ・松平、藩主/改革) N 1 5 0 5
 養水(ようすい・歌川) → 芳瀧(よしたき・歌川うたがわ/中井、絵師) E 4 7 1 5
 養翠(ようすい・久貝) → 正典(まさのり・久貝くがい、幕臣/歌人) G 4 0 2 3
 揚水之(ようすい) → 揚水(ようすい、俳人) B 4 7 2 7
 陽助(ようすけ・津打) → 園二(そのじ・津打つうつ/つうち、歌舞伎作者) E 2 5 1 4
 陽助(初世ようすけ・松島) → 治助(2世じすけ・桜田/松島半二、歌舞伎作者) 2 1 2 3
 陽助(2世ようすけ・松島) → 半二(2世はんじ・松島、歌舞伎作者) 3 6 4 4
 用助(要助ようすけ・加嶋屋) → 魯隠(ろいん・山形やまがた、俳人) 5 2 1 8
 要介(ようすけ・須賀) → 直入(なおり・須賀すが/武部、医/国学) D 3 2 0 5
 要介(要助ようすけ・大橋) → 眞嗣(眞継まつぐ・大橋おおはし、歌人) J 4 0 7 0
 要助(ようすけ・三宅) → 蒼陽(しよう・三宅みやげ、漢学;道教普及) G 2 2 4 5
 要助(ようすけ・小田切) → 藤軒(とうけん・小田切おだぎり、藩士/儒者) D 3 1 3 4
 要助(ようすけ・藍沢) → 南城(なんじょう・藍沢あいざわ、儒者) J 3 2 2 0
 要助(ようすけ・藤原/勝川) → 春章(初世しゅんしょう・勝川/藤原、絵師) J 2 1 9 4
 要助(ようすけ・山中) → 霜解(しもとけ・初世千種庵ちぐさあん、書師/狂歌) F 2 1 9 5
 養甫(ようすけ・中田) → 正朔(まさもと・中田なかつ/沢潟、神職) R 4 0 1 3
 庸助(ようすけ・山内) → 致亭(ちてい・山内やまうち、藩士/儒者) E 2 8 8 0
 庸輔(ようすけ・田中) → 為善(ためよし・田中たなか/桑原、藩士/国学) X 2 6 8 8
 容助(ようすけ・神保) → 蘭室(らんしつ・神保じんぼ、藩士・漢学者) C 4 8 4 5

B4728 養生(ようせい・鏡島かがみしま) ? - ? 江後期文政1818-30頃尾張藩士/武家故実家、
 1830「浅茅の露」、「墓目下緒管見」著、

[養生(;名)の通称] 七郎左衛門

養生(ようせい・山口) → 養生(よしなり・山口、国学者) P 4 7 8 2
 養正(ようせい・大島) → 半隠(はんいん・大島、藩士/儒者) H 3 6 2 1
 養正(ようせい・小泉) → 養正(よしまさ・小泉こいずみ/源、幕臣/茶) H 4 7 0 2
 養成(ようせい・有馬) → 養成(よしなり・有馬ありま、藩士/和漢学) F 4 7 4 1
 庸成(ようせい・波多野) → 庸成(つねなり・波多野はたの/伊藤、神職) G 2 9 1 6
 庸正(ようせい・橋本) → 庸正(つねまさ・橋本はしもと、国学者) G 2 9 1 7
 陽甫(ようすけ・今西) → 正立齋(しょうりつさい・今西いまし、神職/医者) B 2 2 9 4
 用成(ようせい・諏訪) → 方祐(まさすけ・諏訪すわ、神職/歌人) C 4 0 8 9
 容清(ようせい・松平) → 容頌(かたのぶ・松平、藩主/改革) N 1 5 0 5
 容盛(ようせい・猿渡) → 容盛(ひろもり/かたもり・猿渡さわたり、神職/歌) H 3 7 5 4
 遥青(ようせい・小野) → 損庵(そんあん・小野おの、藩士/儒/詩文) B 2 5 4 4
 庸政(ようせい・前島) → 庸政(つねまさ・前島まえじま、医者/詩人) D 2 9 7 3
 耀清(ようせい) → 耀清(ようしょう;法諱、社僧/歌人) B 4 7 2 4
 陽生(ようせい・浅見/千葉) → 歳胤(としたね・千葉/平/浅見、曆算家) M 3 1 7 6

- B4729 **陽成天皇** (ようぜいてんのう、名; 貞明、清和天皇第一皇子) 868-949⁸² 母; 藤原長良女の二条后高子、860(貞観11)立太子/875踐祚/877即位; 在位875-884、退位後; 冷然院・二条院を御所、949出家; 没、粗暴の振舞(; 愚管抄)/病弱(; 三代実録)、今昔・宇治拾遺などに説話多し、歌人; 913「陽成院歌合」948「陽成院第一親王姫歌合」主催、; 後撰集776、
[筑波嶺の峰より落つるみな川の恋ぞつもりて淵となりける[ぬる]](後撰776[百人一首])
陽成院一条の君(ようぜいんのいちじょうのみ) → 一条(いちじょう、貞平親王女) G 1 1 2 5
用成靈神(ようせいれいしん; 神号) → 方祐(まさすけ・諏訪すわ、神職/歌人) C 4 0 8 9
養磧(ようせき・細川) → 広世(ひろよ・細川ほそかわ、医者/書記官) H 3 7 6 9
- B4730 **養拙** (ようせつ・寺井てらい、名; 辰/慎) 1640-1711⁷² 京の書家; 佐々木頭磨門/内閣字府を尊信、のち大阪住; 門弟教育、「寺井養拙手本」「秋声賦」「四帖墨妙」書/「養拙斎筆陣図」著、「寺井養拙書」「内閣字府首書」著、道爾・道著の父、
[養拙(; 号)の字/通称/別号]字; 子共、通称; 臧夫ぞうぶ/利兵衛、別号; 養拙斎/維堂/革巷
- B4731 **養拙** (ようせつ・高岡、名; 秀成) 1753-1824⁷² 江戸の商家; 幕府水引御用達、儒者; 私塾開設、1790「千字文考証」1808「読易余論」12「酔月楼余稿」、「易文断釈」「酔月稿」「藍水集」著、「旭日菅神像記」「学庸菅窺」「菅窺訳文」「周易約解」「仁説」「創業録」「養拙漫筆」外著多数、
[養拙(; 号)の字/通称/別号]字; 実甫、通称; 閑八、別号; 酔月老人
- B4732 **用拙** (ようせつ・武居たけい、名; 彪、敬斎の長男) 1816-92⁷⁷ 信濃木曾の儒者; 家学を受ける、1831代官所御坊主として出仕/1836江戸で長戸得斎の塾に寓す; 素読手伝を勤める、1839(天保10)昌平黌入学; 古賀侗庵門、さらに松崎慊堂こうどう門、1842帰郷; 1843郷校菁莪館助教、詩社攻玉社を主宰/のち菁莪館学頭、洋学に関心深い、維新後が教育に従事; 自由民権運動にも参加、少年期の島崎藤村の師、「音訓易知録」「単語問答録」「読左日詠」「杜詩叢評」「二十字詠詩」「用拙詩文稿」著、「菁莪館記示蒙」「備忘録伝聞雑誌類」著、「岐蘇古今沿革史」編、
[用拙(; 号)の字/通称]字; 文甫、通称; 清記/拙蔵
- 楊雪(ようせつ・山本) → 豊安(とよやす・山本、神道家) R 3 1 6 9
養拙(ようせつ・徳川) → 宗春(むねはる・徳川/松平/源、藩主) C 4 2 2 7
養拙(ようせつ・倉田/横田) → 何求(可及かきゅう・横田、儒者) H 1 5 2 3
養拙(ようせつ・大田) → 晋庵(しんあん・大田おた、医者) N 2 2 2 8
養拙(ようせつ・田中) → 春回(しゅんかい・田中、儒者/医/詩人) Z 2 1 5 2
養節(ようせつ・前田) → 玄通(げんつう・前田まえだ、医者) L 1 8 4 6
用拙居(ようせつきよ・小石) → 元瑞(げんずい・小石こいし、医者/詩文) E 1 8 2 2
養拙軒(ようせつけん) → 重明(しげあき・牛丸うしまる、藩士/詩人) Q 2 1 4 9
- B4733 **用拙斎** (ようせつさい・瀬尾せお、名; 維賢) 1691-1728³⁸ 京の書肆奎文館主人、儒者; 伊藤仁斎門/詩人、入江若水と交流、1712「七家唱和集」編/13「忠義雑説」著/21「八居題詠」編、「鷄林唱和集」「熙朝文苑」「韓客筆語」「韓客筆語集補遺」「用拙斎文集」著、外編著多数、
[用拙斎(; 号)の字/通称/別号]字; 俊夫、通称; 丸屋源兵衛、別号; 奎文館けいぶんかん
- 養拙斎(ようせつさい・朝比奈) → 南山(なんざん・朝比奈あさいな、儒者) J 3 2 0 2
養拙斎(ようせつさい・寺井) → 養拙(ようせつ・寺井てらい、書家) B 4 7 3 0
養拙斎(ようせつさい・岡宗) → 泰純(たいじゅん・岡宗おかむね、医者) K 2 6 3 0
養拙斎(ようせつさい・錦織) → 義高(よしたか・錦織にしごり、藩医/和学) O 4 7 3 7
養拙斎(ようせつさい・今泉) → 恒丸(つねまる・今泉いまいづみ、俳人) D 2 9 8 0
養拙斎(ようせつさい・片山) → 述堂(じゅつどう・片山かたやま/朝川、儒者) I 2 1 9 6
- B4734 **養僊** (養仙ようせん・中井なかい、名; 昌倫) 1626-1711⁸⁶ 播州竜野の医者; 竜野藩主脇坂家に出仕、のち致仕; 息子玄端と共に大阪で医を開業、「保寿摘要」著、
[養僊(; 字)の諡号] 好生先生、玄端の父/贅庵しゅうあんの祖父
- B4735 **養潜** (ようせん・羽黒はぐろ/本姓; 牧野まきの、藩士牧野新九郎成政男) 1629-1702 近江彦根藩士、1676致仕、儒者; 京の山崎闇斎門、1681-88頃加賀金沢に来往; 講説17年間/羽黒養潜と称す、室鳩巢ら門人多数を育成、一時陸前仙台にも赴く、1801彦根に帰る、「講学筆記」「四書翼」/1694「天道流行図説」著、
[養潜(; 字)の名/通称/号]名; 成仁/成実、通称; 左平次(治)、号; 牧野ぼくや老人/謙斎/迂巷

- B4736 **陽川**(ようせん・一二軒;号)? - ? 京の小川通上長者町上ル町の俳人、
「十月歌仙」「漢和鮫」編、1702「花見車」作者目録入
- B4737 **葉船**(ようせん) ? - ? 美濃牧田の俳人、1691江水「元禄百人一句」目録入
- B4738 **養仙**(ようせん) ? - ? 常陸の俳人、1691江水「元禄百人一句」目録入
- B4739 **養仙**(ようせん・桜井さくらい) ? - ? 江中期筑後柳川の暦算家、1748「漏刻説并附録」著
- 天仙(ようせん・芳村) → 恂益(じゅんえき・芳村よしむら、医者) M 2 1 4 7
- 葉川(ようせん) → 基良(もとよし・栗田口/藤原、廷臣/歌人) E 4 4 6 5
- 養川(ようせん・狩野) → 惟信(これぶ・狩野かのう、幕府絵師) E 1 9 4 1
- 養泉(ようせん・伊沢) → 世美(つぐよし・伊沢いざわ、藩医/歌人) F 2 9 2 0
- 瑤泉(ようせん・吉田) → 宗敏(むねとし・吉田よしだ、里正/紀行) B 4 2 8 5
- 栄禅(ようせん) → 栄禅(えいぜん・八幡法眼、社僧/歌人) 1 3 3 7
- 栄然(ようぜん;法諱) → 榮然(えいねん;法諱、真言僧) D 1 3 2 8
- 瑤川逸人(ようせんいつじん) → 義方(よしかた・杉浦さざうら、史家) C 4 7 7 6
- 瑤川院(ようせんいん) → 貫斎(かんさい・伊東いとう、蘭医/幕府医) Q 1 5 6 9
- 養川斎(ようせんさい) → 惟信(これぶ・狩野かのう、幕府絵師) E 1 9 4 1
- 天仙子(ようせんし) → 恂益(じゅんえき・芳村よしむら、医者) M 2 1 4 7
- B4740 **陽仙主人**(ようせんしゅじん、尾卦びけ)?-? 江戸講談師?/実録作者;1850「天保水滸伝」口述
- B4741 **羊素**(ようそ・鈴木すずき、初世羊素男) 1693-1751 59 江戸の俳人;立志・無倫門;貞門/のち沾洲門、
1730午寂「太郎河」歌仙入、1735「玄々げんげん前集」48「誹諧答問抄」編/51「誹諧田家集」、
[追はるゝか追つてゆくのか飛ぶ螢](2世湖十「続花摘」入)、
参照;父初世羊素の句[雪の夜は猶むつまじき夫婦哉](玄々前集入)、
[羊素(;号)の通称/別号]通称;越後屋庄兵衛、
別号;松珞(;初号)/柢完堂ていかんどう/雪明窓せつめいそう
- 養叟(ようそう;道号) → 宗願(そうい;法諱・養叟;道号、臨濟僧) 2 5 5 3
- 鷹叟(ようそう) → 乾什(けんじゅう・岩本、俳人) C 1 8 0 7
- 鷹巢(ようそう・三国) → 幽眠(ゆうみん・三国みくに、尊攘/詩歌) D 4 6 8 2
- 鷹巢(ようそう・園田) → 不時宜(ふじぎ・園田、藩士/儒/教育) C 3 8 4 3
- 04748 **要蔵**(ようぞう;通称・野村のむら、名;子鱗) 1771-1819 49 近江彦根の儒者;野村東皐(公台)の養子、
歌:[彦根歌人伝・亀]入
- B4742 **耀蔵**(ようぞう・鳥居とりい、名;忠耀/耀、林はやし述斎男/鳥居成純の婿養子) 1796-1873 78 幕臣/甲斐守、
1823中奥番/御徒頭/西丸目付/目付/1841町奉行/43勘定奉行兼帯、蕃社獄で洋学者を弾圧、
高島秋帆を投獄/天保改革に参画;風俗取締を強化/1844秋帆処罰の責で罷免;45丸亀配流、
1817-8「鬨詩合集」39「五国海岸図」、「九々斎詩鈔」「超庭語録」「鳥居耀蔵建白」、「趨庭所聞」編、
[耀蔵(;通称)の号] 号;胖庵、法号;青龍院
- 羊蔵(ようぞう・近藤) → 光輔(みつすけ・近藤こんどう、国学者/歌) D 4 1 6 7
- 容蔵(容蔵ようぞう・鈴木) → 常明(つねあき・鈴木、蘭医/国学) B 2 9 5 4
- 要蔵(ようぞう・渡辺) → 富秋(とみあき・渡辺、国学者) O 3 1 7 9
- 要蔵(ようぞう・森) → 景鎮(かげちか・森もり、藩士/剣術家) L 1 5 0 1
- 要蔵(ようぞう・常見) → 浩斎(こうさい・常見つねみ、藩士/儒者) I 1 9 8 9
- 要蔵(ようぞう・藤井) → 昌幸(まさゆき・藤井ふじい/原、神職) I 4 0 2 8
- 要蔵(ようぞう・鈴木) → 李東(りとう・鈴木すずき、里長/俳人) C 4 9 2 9
- 要蔵(ようぞう・河野) → 好也(こうや・梅廼舎うめや、晝業/狂歌) L 1 9 3 5
- 要蔵(ようぞう・橋野) → 輝珍(てるよし・橋野はしの、商家/国学) F 3 0 1 9
- 要蔵(ようぞう・折田) → 年秀(としひで・折田おりた、藩士/海防策) N 3 1 5 4
- 要蔵(ようぞう・熊谷) → 直輔(なおすけ・熊谷くまがい、国学/藩校学監) L 3 2 9 7
- 要蔵(雍蔵ようぞう・佐野) → 義致(よしみね・佐野さの、和算家) H 4 7 6 0
- 要造(ようぞう・神保) → 雪居(せつきよ・神保じんぼう、国学者) K 2 4 8 3
- 養蔵(ようぞう・伊勢) → 茂興(しげおき・伊勢/沢、農業/和漢学) B 2 1 9 8
- 養蔵(用蔵ようぞう・芝原) → 千郷(ちりさと・芝原しばら、国学者) M 2 8 6 6
- 養蔵(養三ようぞう・中井) → 藍江(らんこう・中井なかい、絵師) C 4 8 0 4

- 楊三(ようぞう・丹羽) → 義則(よしなり・丹羽にわ、藩士/歌人) O 4 7 2 8
陽藏(ようぞう・木村) → 豊平(とよひら・木村、医/国学者) R 3 1 5 1
庸造(ようぞう・牧) → 香松(こうしょう・牧まき、藩士/詩歌/書) J 1 9 8 0
葉菓子(ようそし;号) → 妙安(みょうあん;法諱・惟高;道号、臨濟僧/詩) G 4 1 0 6
養素軒(ようそけん) → 知章(ともあき・永田、藩士/郷土史/詩) P 3 1 0 9
養素堂(ようそどう) → 貞方(さだかた・安田やすだ、国学者/歌人) O 2 0 0 9
- B4743 養存(ようそん;法諱・徳巖とくがん;道号、俗姓;矢野) 1632-1703 72 讃岐三木郡三谷村犬馬場曹洞僧:
高松の見性寺鉄山門/のち見性寺14世、讃岐宮脇村に自性庵を創建/周防泰雲寺住持、
光圀に招聘;常陸大雄院21世/辞し京東山住、1674「浄慈要語首書」90「永平語録繫節」、
1692「叢書辨疑」94「東遊紀稿」96「観音経折衷」99「続叢書辨疑」1704「零星集」外著多数、
[徳巖養存の号] 亀山山人
栄尊(ようそん) → 栄尊(えいそん・ようそん、真言僧) D 1 3 1 4
庸村(ようそん・伊達) → 茂村(しげむら・伊達だて、歌) S 2 1 8 8
楊大昕(ようだいしん) → 春三(しゅんさん・柳河/西村/栗本、洋学者) K 2 1 2 1
- B4744 永琢(ようたく/えいたく;法諱・盤珪ばんけい;道号、菅原道節男) 1622-93 72 播磨赤穂の臨濟僧;雲甫門、
牧翁祖牛門/1651長崎崇福寺明僧超元門、1661播磨竜門寺開山/69伊予大洲如宝寺復興、
1672京妙心寺住持/78江戸光林寺・天祥寺開山/平戸雄香寺中興開山、平易な語で説法、
「うすひき歌」「玄旨軒眼目」「得道問答」、「盤珪禅師語録」「正眼国師語録」「盤珪禅師法語」
[盤珪永琢の初法諱/号]初法諱;一慧、号;大珠/1690仏智弘濟禅師、諡号;大法正眼国師
- B4745 養達(ようたつ・斎藤さいとう、矢口久七郎3男/本姓;斎藤) 1793-1858 66 父は秋田藩重臣渋江家家臣、
医学;1810藩医学館の畑源助門/江戸の嶺少翁門;古医方を修学、出羽秋田城下で医開業、
1821秋田藩医学館会頭に就任/30医学頭/31側医;永代御医師となる、旁ら家塾開;教育、
白鳥雄蔵の師、長男元益も藩医、「秘方漫集録」著、
[斎藤養達(;通称)の名/別通称/号]名;安克、別通称;与曾五郎/会三郎、号;蘭室
養達(ようたつ・後藤) → 良山(りょうざん・後藤ごとう、医者) P 1 9 2 4
養達(ようたつ・許斐このみ) → 檜雄(ひらお・駒形こまがた、国学者) P 3 2 0 3
要太郎(ようたろう・今村) → 真種(まね・今村いまむら、藩士/歌人) I 4 1 1 3
養太郎(ようたろう・水野) → 正芳(まさよし・水野みずの、藩士/国学/歌) S 4 0 9 3
庸太郎(ようたろう・早川) → 清名(きよな・早川はやかわ/井内、藩士/国学) V 1 6 0 3
要男(ようだん・吉岡) → 倭文麿(しげまる・吉岡よしおあか/高橋、和漢学/神職/政治) a 2 1 9 6
用致(ようち・近藤) → 源左衛門(げんざえもん・近藤こんどう、幕臣) J 1 8 0 9
瑤池(ようち・多田) → 暘谷(ようこく・多田ただ、儒者) 4 7 8 1
瑤池院(ようちいん) → 信明室(のぶあきらのしつ・津軽つがる、藩主室/歌) J 3 5 1 1
楊知客(ようちきゃく;号) → 等楊(とうよう;法諱・雪舟、臨濟僧/水墨画) H 3 1 7 1
養竹(ようちく・森) → 友益(ともます・森、医者) Q 3 1 6 0
養竹(ようちく・森) → 共之(ともゆき・森、友益男/医者/漢学) Q 3 1 7 9
養竹(ようちく・森) → 枳園(きえん・森、医者/国学) F 1 6 0 3
養竹山房(ようちくさんぼう) → 相宰(すけただ・木下きのした、医/絵師/歌) I 2 3 3 4
瑤池齋(ようちさい) → 獬(かい・広川ひろかわ、医者;蘭漢医) E 1 5 3 1
- B4746 要中(ようちゅう;道号・通玄つうげん;法諱) 1778-1839 62 黄檗僧;伊予和氣郡松山の千秋寺妙庵普最門、
出家/1793(16歳)嗣法、伊予野間郡波止浜村円蔵寺住持、
1813松山藩主松平定通の招聘で千秋寺住持、1829和氣郡祝谷村智泉寺に退隱、
「山水続絃集」「巴江漁唱集」「臭布棍」著、
[要中通玄の別法諱/号]別法諱;豊玄、号;無求/蓮華心叟/活理道者
要中(ようちゅう) → 太白(たいはく;道号・眞玄、臨濟僧/詩文) K 2 6 9 6
用中(ようちゅう・柳川) → 震沢(しんたく・柳川やながわ、儒者) 2 2 5 7
陽中(ようちゅう;道号) → 満之(みつゆき・細川/源、武将/歌) F 4 1 0 4
養長(ようちよう・狩野) → 養長(やすなが・狩野かのう/木原、絵師/国学) F 4 5 7 2
用直(ようちよく・久志本) → 常彰(つねあきら・久志本/河崎、神職/歌) B 2 9 5 7

- 庸勅(ようちやく・長谷川) → 延年(えんねん・長谷川、剣術/篆刻家) B 1 3 3 1
陽直斎(ようちやくさい) → 有筋(ゆうせつ・滝沢たきざわ/沢、俳人) D 4 6 1 3
- B4747 洋椿(ようちん;通称・百々ど、名;鵬)?-? 江後期肥前長崎の医者;吉雄耕牛門、
1815(文化12)「因液発備」編
- B4748 用通(ようつう;法諱/法師)?-? 南北期京の祇園社社僧、連歌作者、
1343「祇園社法楽百韻」参加、菟玖波集3句入、
[闕伽汲むに濡るゝはよしや苔の袖](菟;686/前句;惜しまぬゆへに身をそ捨てつる)
雍通(ようつう・稲葉) → 雍通(てるみち・稲葉、藩主/歌) C 3 0 9 5
- B4749 養亨(ようてい;号・中沢なかざわ)?-? 江中期江戸の医者/本草家;田村藍水門、
1777刊「傷寒方」著
- B4750 要禎(ようてい・白水しろず)1782-184968 筑前早良郡内野村の眼科医、
藩財政逼迫時に改革意見書提出;1834家老久野外記により福岡藩御救奉行に抜擢;
藩札発行など改革実施するも功を奏せず、一時姫島に流罪/のち内野村に帰郷、
[要禎(;名)の通称] 要左衛門
庸定(ようてい・村上) → 沖面(おきつら・一榎庵いっかあん、狂歌) C 1 4 8 9
養貞(ようてい・柴野) → 貞毅(さだよし・柴野しばの、医者) K 2 0 2 7
養的(ようてき・塩田) → 光成(みつなり・塩田しおだ、鍼医/国学/歌) E 4 1 2 6
養轍(ようてつ・山崎) → 普山(ふざん・山崎やまさき、医者/俳人) C 3 8 3 1
養恬(ようてん・戸田) → 琴山(きんざん・戸田とだ、儒者) R 1 6 0 6
要伝院(ようてんいん) → 日鏡(にちきよう;法諱・義海、日蓮僧) B 3 3 2 9
用韜(ようたう・林) → 櫛宇(ていう・林はやし、幕府儒官) 3 0 3 1
- 4707 養堂(ようどう・頼らい、名;公遷、惟宣男)1774-185178 儒者;幼時より従兄弟春風・杏坪につき修学、
南海を遍歴し各地に詩文を残す;伊予久万山の岡本家・船山家と親交;多くの墨跡、
[養堂(;号)の字/通称/別号]字;子善、通称;千蔵、別号;竹里/竹堂/十八洋
頼家系図 → 春水(しゅんすい・頼らい) 2 1 6 0
- B4751 榕堂(ようどう・尾台おだい、小杉元亨男)1799-187072 越後中条の医者;江戸の尾台浅嶽門、
帰郷し医を開業、1834浅嶽の訃報に接し江戸に出て尾台家を継嗣;尾台家復興に尽力、
羽倉簡堂・藤森弘庵・安井息軒・塩谷宕陰と交流、詩文に長ず、1856「類聚方広義」著、
1863「医録」「医余」/64「霍乱治略」67「閑窓筆録」、「疑問百条」「橘黄医談」「井観医言」外著多、
[榕堂(;号)の名/字/通称/別号]名;元逸/逸、字;士超、通称;四郎治/良作、別号;敲雲
要道(ようどう・桜井) → 要道(としみち・桜井さくらい、代官/歌人) T 3 1 3 7
容堂(ようどう・山内) → 豊信(とよしげ・山内やまのうち、藩主/詩歌) R 3 1 1 8
羊堂(ようどう・松平) → 春嶽(しゅんがく・松平まつだいら、藩主/詩歌) J 2 1 3 3
洋堂(ようどう・宮本屋) → 峨洋堂(がようどう、読本作者) P 1 5 6 2
- J4795 養徳(ようとく;名・若宮わかみや、号;文流斎、紺屋幸右衛門2男)1754-183481 伊予大洲若宮村の絵師、
長州狩野派の林美彦門/藩主加藤泰済に認められ3人扶持9石;茶道方兼帯絵師に登用、
藩命で江戸の狩野惟信門、藩内社寺の障壁画を残す;伊予各藩の画流に影響を与える、
「所々名所図」画、小林西台・大橋英信の師、晴徳の養父
養徳(ようとく・津田/田) → 養(よう・津田つだ/修姓;田、医者/俳人) 4 7 5 3
養徳(用徳ようとく・原) → 元実(もとざね・原はら、商家/歌人) L 4 4 0 6
養徳(ようとく・松岡) → 隣(ちかし・松岡まつおか、陪臣/蘭学者) N 2 8 5 2
庸徳(ようとく・業合) → 大枝(おおえ・業合なりあい、神職/国学) B 1 4 7 0
庸徳(ようとく・青地) → 浚新(しゅんしん・青地あおち、藩士/儒者) K 2 1 0 0
庸徳(ようとく・穎川えがわ/奥田) → 庸徳(つねのり・奥田/穎川、質商/陶工) D 2 9 1 5
陽徳庵老人(ようとくあんろうじん) → 升庵(しょうあん・吉永/菊池、外科医) G 2 2 5 8
陽徳院(ようとくいん) → 愛姫(めぐひめ・伊達だて/田村、政宗室/歌) 4 3 6 1
養徳院(ようとくいん) → 満詮(みつあきら・足利あしかが/源、武将/歌) D 4 1 0 3
養徳院(ようとくいん) → 日乗(にちじよう・乾竜けんりゅう、日蓮僧) C 3 3 3 8
養徳院(ようとくいん) → 豊熙(とよてる・山内やまのうち、藩主/教育) R 3 1 3 3
養徳院(ようとくいん) → 利正(としまさ・南部なんぶ、藩主/俳諧) N 3 1 7 1

養徳院贈左大臣(ようとくいんぞうさだいにん;新統古今)→満詮(みつあきら・足利/源、武将) D 4 1 0 3
 陽徳門院少将(ようとくもんいんの・嬬子内親王女房)→少将(しょうしょう) T 2 2 2 8
 陽徳門院中将(ようとくもんいんの・嬬子内親王女房)→中将(ちゅうじょう) G 2 8 4 2
 用内(ようない・桜井) → 光章(みつあき・桜井さくらい/桃沢、国学・歌) H 4 1 6 8
 雍南(ようなん・島田) → 充房(みつふさ・島田しまだ、本草家) E 4 1 7 7
 要南甫(ようなんぽ→えなお・加藤)→枝直(えなお・加藤/橋、国学/歌) 1 3 8 0
 栄然(ようねん) → 榮然(えいねん・ようねん;法諱、真言僧) D 1 3 2 8
 養之進(ようのしん・萱場)→傍斎(ぼうさい・萱場かやば/菱沼、藩士) 3 9 9 0
 陽之進(ようのしん・江見)→忠梁(ただむね・江見えみ、藩士/勤王派) V 2 6 9 1
 幼之助(ようのすけ・伊東)→麓岳(ごうがく・伊東いとう、藩儒/詩) G 1 9 2 2
 要之助(ようのすけ・石田)→未琢(みたく・石田いしだ、俳人・狂歌) 4 1 9 9
 要之助(ようのすけ・彦坂)→正徳(まさのり・彦坂ひこさか/源、幕臣/歌) M 4 0 1 3
 養之助(ようのすけ・勅使河原)→直誠(なおのぶ・勅使河原てしがわら/滝、藩士歌) N 3 2 9 3
 庸之助(ようのすけ・渡辺)→為矩(ためり・渡辺わたなべ/野村、商家/国学) 2 7 4 6
 陽之助(ようのすけ・岡野)→石城(せきじょう・岡野/河合、藩士/儒者) D 2 4 5 5
 陽之助(ようのすけ・小平)→元禎(もとさだ・小平こだいら、藩士/詩人) C 4 4 5 4
 陽之助(ようのすけ・中坊)→広胖(ひろなお・中坊なかのぼう/藤原、和学者) I 3 7 4 6

B4752 養巴(ようは・鷹取たかとり、名;秀長)?-? 江前期の医者;筑前福岡藩医、
 久留米の長沼流兵学者宮川忍斎の眼疾治療をする、
 1688「的伝分類」1723「薬品炮灸論」、「外科経験方」著、
 [養巴(;号)の別号] 聴安

鷹瀬(ようは;法諱) → 驢雪(ろせつ;道号・鷹瀬、曹洞僧) C 5 2 0 0
 楊伯(ようはく・森/清原) → 雄風(おかせ・清原、医者/歌) 1 4 3 2
 養伯(ようはく・箕浦) → 靖山(せいざん・箕浦/佐々木、藩士/儒者) B 2 4 7 5
 養伯(ようはく・土岐) → 新甫(しんぽ・土岐とき、本草家/諸国採薬) P 2 2 8 5
 揚葩亭(ようはてい) → 利濟(としただ・南部なんぶ、藩主) M 3 1 7 2
 擁鼻(ようび・小篠/二宮) → 献(けん・二宮にのみや、医者) H 1 8 4 6
 溶姫(ようひめ・前田) → 諧子(偕子ともこ・前田まえだ/徳川、溶姫) W 3 1 4 4

B4753 羊夫(ようふ・竹村たけむら) ? - ? 大坂住の俳人;1777江涯「仮日記」入、
 [隙ひまもるや古物店ふるものたなの背戸せどの梅](仮日記;169/暗い店内と明るい清楚な梅)

B4754 羊歩(ようぶ;法諱・義詳ぎじょう;字) 1608-? 江前期真宗本願寺派僧;1624出家、
 念仏の旁ら参禅、1654「正信偈科鈔」55「大原談義再三鈔」69「真宗九表記」著、
 「往生要集直談」「二河白道取意抄」「改悔文羊歩記」著

永福門院(ようふくもんいん) → 永福門院(えいふくもんいん) 2 2 0 8

B4755 葉文(ようぶん) ? - ? 江前中期大和今井の俳人;
 1694安世・支考らと歌仙;長水「桃舐ももねぶり集」;本間丹野たみや家での「ひらひらと」の歌仙入、
 1714月尋「伊丹発句合」;四季発句入、
 [名月の餅に当てたる関東早稲かんとわせ](ひらひらと歌仙;25、
 前句;芭蕉;なじみの町のちかづきもへる/近付きは知り合い)
 [どんぐりの丸いかたちを花と見る](伊丹発句合;夏)

陽文(ようぶん・大竹/岳) → 東海(とうかい・大竹/浅井/岳、儒者) B 3 1 8 9
 耀文(ようぶん・巽) → 遜斎(そんさい・巽たつみ、儒者) F 2 5 4 3
 要平(ようへい・武田) → 泰信(やすのぶ・武田ただ、藩士/泳法) C 4 5 5 9
 庸平(ようへい・帆足) → 杏雨(きょうう・帆足ほあし、絵師) N 1 6 2 2
 庸平(ようへい・高妻) → 芳洲(ほうしゅう・高妻たかつま、藩士/儒者) B 3 9 5 4
 庸平(ようへい・川中) → 庸平(つねひら・川中かわなか、国学者) F 2 9 5 6
 庸平(ようへい・藤村) → 光鎮(みつね・藤村ふじむら/篠崎、国学者) K 4 1 3 7
 永弁(ようべん) → 永弁(えいべん・華厳僧) D 1 3 3 7

B4756 葉圃(ようほ) ? - ? 江中期新潟の俳人、
 1729友人の七里を追善「其鑑そのかがみ」鷺洲と共編

- 容保(ようほ・松平) → 容保(かたもり・松平まつだいら、藩主/朝政) V 1 5 7 7
 瑤甫(ようほ;道号・恵瓊) → 恵瓊(えけい;法諱・瑤甫、臨濟僧/外交) D 1 3 7 5
 揚甫(ようほ・加藤) → 大弐(だいに・加藤かとう、藩家老/儒者) B 2 6 9 7
 陽甫(ようほ/ようすけ・松前) → 崇広(たかひろ・松前、藩主/兵庫開港) N 2 6 1 1
 陽甫(ようほ/ようすけ・今西) → 正立斎(しょうりつさい・今西、神職/医者) B 2 2 9 4
 羊歩(ようほ;法諱) → 羊歩(ようぶ;法諱・義詳;字、本願寺派僧) B 4 7 5 4
 養甫(ようほ・平野) → 庸修(つねなが・平野、医/暦算/史家) C 2 9 8 5
 養甫(ようほ・杉原) → 惇(じゅん・杉原、藩医者/詩文) 2 1 8 5
 養圃(ようほ・二邨) → 公忠(きみただ・二邨ふたむら、医者/篆刻家) C 1 6 8 5
- B4757 鷹峰(ようほう・平賀ひらが、名;共昌/字;君重) 1690-1751⁶² 長門萩藩士;幼児より詩書・暦算を修学、毛利元就家臣の安藝高屋城主平賀広相の裔、兵法・射騎・劍槍に長じ弓銃隊長を務める、「辨疑」著
- 洋方(ようほう・石尾) → 洋方(ひろかた・石尾いしお/荒木、藩士/歌) L 3 7 1 8
 陽方(ようほう・柴田) → 鳩翁(きゅうおう・柴田しばた、心学者) 1 6 2 6
 蓉峰(ようほう・山崎) → 宗円(そうえん・山崎/源、幕府鍼医) G 2 5 3 2
 曜峰(ようほう・塚村) → 敏(さとし・塚村つむら、陽谷/加藤、絵師) Q 2 0 9 7
 要法院(ようほう) → 日諦(にったい;法諱、日蓮僧) E 3 3 9 7
 養方軒(ようほうけん) → パウロ(ぱうろ・養方軒、キリシタン文献翻訳) C 3 6 4 0
 鷹峰舎斎(ようほうしゃさい) → 光悦(こうえつ・本阿弥、鑑定/書/茶人) 1 9 0 5
 瑤甫恵瓊(ようほえけい) → 恵瓊(えけい・瑤甫、安国寺恵瓊/臨濟僧/外交) D 1 3 7 5
 養朴(ようぼく・狩野) → 常信(つねのぶ・狩野かのう、絵師/鑑定/歌) D 2 9 0 2
 陽木市隠(ようぼくしん) → 其楽(きらく・楠里亭なんりてい/小林、読本) H 1 6 6 3
 要本(ようほん・藤井/藤) → 直好(なおよし・藤井、和算家) C 3 2 9 1
 擁万堂(ようまんどう) → 正三郎(しょうざぶろう・擁万堂/額田、書肆) S 2 2 4 4
 要妙院(みょうみょういん) → 富子(とみこ・井伊いゝ/君田、藩主側室/歌人) U 3 1 0 5
 容民(ようみん・松平) → 頼恕(よりひろ・松平、藩主/史書編纂) J 4 7 6 8
 養民(ようみん・前田綱紀) → 松雲(しょううん・前田、藩主/藩政改革) F 2 2 3 2
 鷹夢館(ようむかん) → 春雄(はるお・唐木からき、商家/国学/歌) J 3 6 9 7
 養無道人(ようむどうじん・森下) → 景端(かげまさ・森下もりした/紀、藩士/宗教活動) V 1 5 9 8
- B4758 陽明門院(ようめいもんいん・禎子内親王、三条天皇皇女、後朱雀皇后) 1013-94⁸² 母;道長女妍子けんし、1027入内/後朱雀天皇皇后、後三条天皇・良子内親王・娟子けんし内親王の母、1075陽明門院殿上歌合主催、乳母として;弁の乳母/中将の乳母、勅撰3首:後拾遺861/新古今1240/続後撰275、
 [今はただ雲井の月を眺めつつめぐり逢ふべきほども知られず](後拾861/今鏡二)
- 陽明舎(ようめいしゃ) → 文雄(ふみお・青山あおやま、神職/俳人) D 3 8 8 2
 葉面(ようめん・林) → 葉面(のぶつら・林はやし/橘、社僧/歌人) J 3 5 6 8
 要門(ようもん;法諱・万智) → 万智(ばんち;道号・要門、曹洞僧) I 3 6 4 0
 永祐(ようゆう) → 永祐(えいゆう/ようゆう、史家) 1 3 4 7
 永雄(ようゆう) → 永雄(えいゆう/よう-・英甫、禅僧/狂歌祖) 1 3 0 5
 鷹友(ようゆう・狩谷) → 鷹友(たかとも・狩谷かりや、国学者/歌人) M 2 6 4 8
 養勇軒(ようゆうけん・神谷) → 正業(まさなり・神谷かみや、俳人) F 4 0 4 1
- B4759 溶々(ようよう・岩間きよ/起代/清女、乙二おたの女) 1794-1848⁵⁴ 白石俳人、医者松井梅屋ばいおくの妻、仙台住、竹山の姉、「松窓集」、父乙二3回忌追善「わすれず山」/23回忌「茶一はい」編、
 父;乙二は俳人 → 乙二(おた・岩間、僧/俳人) 1 4 1 9
 兄;十竹も俳人 → 十竹(じゅちく・岩間、僧/俳人) U 2 1 9 2
 弟;竹山は詩人 → 竹山(ちくざん・松井、医者/詩人) D 2 8 0 8
 夫;梅屋は儒者 → 梅屋(ばいおく・松井、医者/儒者) 3 6 7 2
 ☆1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入の[清女]と同一?
 [小夜深くしづはた衣打ちすさぶ寝覚めの里の月のさやけさ](大江戸倭歌;秋938)

- 鷹備(ようよう・山田) → 衛居(もりい・山田やまだ/石田、神職/国学) L 4 4 8 2
 天々軒(ようようけん) → 芭蕉(ばしょう・松尾、俳人) 3 6 1 7
 容々軒(ようようけん) → 襲明(よりあき・山口権三郎、国学/経済) P 4 7 8 3
 洋々斎(ようようさい) → 十次郎(じゅうじろう・新渡戸にとべ、藩士) X 2 1 6 0
 溶々斎(ようようさい) → 洞元(どうげん・柴田、医/国学) D 3 1 6 2
- B4760 楊々子(ようようし;号) ? - ? 江前期丹後与謝宮津の沙門/俳人:信徳門、
 1692(元禄5)「浦島集」編
 洋々子(ようようし) → 光海(こうかい;法諱、真宗東本願寺16世) H 1 9 8 4
 慵々子(ようようし・和田) → 静観窩(せいかんか・和田わだ、儒者/国学) 2 4 9 2
 鷹揚処(ようようしょ) → 星渚(せいしよ・永井/大江、漢学者) C 2 4 1 1
- B4761 容楊黛(ようようたい;号、姓;松田) ?-? 江中期江戸下谷町の町医/浄瑠璃作者:
 1780(安永9)江戸外記座のため紀上太郎・烏亭焉馬と合作「碁太平記白石嘶」著、
 1782(天明2)「加々見山旧錦絵こきょうのにしきえ」著;その歌舞伎化に立作者として関与か、
 1781読本「敵討連理橋」/82洒落本「歌舞妓の華」著
 容与園(ようよえん) → 確軒(かくけん・林、儒家/詩) E 1 5 6 6
 容与園(ようよえん) → 孝緯(たかやす・大塚おおつか、儒者) C 2 6 8 4
 瓔洛庵(ようらくあん) → 敬首(きょうじゅ;法諱・祖海;字、浄土僧) G 1 6 7 8
 養蘭斎(ようらんさい・山名) → 政胤(まさたね・山名やまな、国学者) T 4 0 5 1
- B4762 遙里(ようり) ? - ? 俳人;1690北枝「卯辰集」3句入、
 [六月ろくぐわは涼むばかりぞ荻の声](卯辰;259/荻の葉音は秋の風情・今はただ水辺の涼)
 養立(ようりつ・河野) → 禎造(ていぞう・河野こうの、藩士/医者) B 3 0 3 8
 楊立(ようりつ・菊池) → 宗雨(そうう・菊池きくち、俳人) G 2 5 0 4
 陽隆(陽柳ようりゅう・溝口) → 陽隆(あきたか・溝口みぞぐち、国学者) L 1 0 5 8
 楊柳園(ようりゅうえん) → 昌周(しょうしゅう・阪/坂、幕府連歌師) S 2 2 9 1
 楊柳軒一葉(ようりゅうけんいちよう) → 成亮(せいりょう・野田、修験僧/俳人) D 2 4 1 6
- B4763 葉流軒河丸(ようりゅうけんかわまる;号・通称;住江屋治兵衛/作兵衛) ?-? 江後期大坂難波新地の狂歌:
 蛙目連野判者を勤む、1812(文化9)刊「狂歌浦の見わたし」編
 楊柳斎(ようりゅうさい) → 米都(べいと・鈴木すずき、俳人・狂歌) 2 7 7 4
 楊柳亭(ようりゅうてい) → 柳原向(やなぎはらのむこう、狂歌/戯作) D 4 5 9 0
 幼竜堂(ようりゅうどう) → 知周(ともちか・岡見おかみ、藩士/紀行) I 3 1 9 1
 養良軒(ようりょうけん) → 鶴翁(かくおう・花月庵、田中、茶人;煎茶) J 1 5 5 9
- K4726 用林(ようりん;道号・梵村ぼんざい;法諱) 1447-8337 臨濟僧;1476-78入明、蔵主のまま生涯黒衣平僧、
 絶海中津4世の法孫、「三国甕天記」著
 養林院(ようりんいん;法号) → 康政(やすまさ・榊原さかきばら、武将/城主) C 4 5 9 3
 養麟軒(ようりんけん) → 英綱(ひでつな・渡辺わたなべ、和算家) D 3 7 2 5
 庸礼(ようれい・奥村) → 蒙窩(もうか・奥村おくむら、藩士/儒家) 4 4 4 6
 庸礼(ようれい・町野) → 可名生(かなお・町野、藩士/国益思想) O 1 5 2 8
 鷹嶺(ようれい・二邨) → 公忠(きみただ・二邨ふたむら、医者/篆刻家) C 1 6 8 5
- B4764 涌蓮(ようれん;号・慧亮えりょう;法諱、俗姓;佐々木) 1719-7456 伊勢河芸郡黒田の真宗高田派僧、
 浄光寺誓海の弟、江戸桜田の澄泉寺住職、のち京に出奔;嗟峨に獅子巖を結庵;
 嗟峨居士と称す、歌:冷泉為村門、小沢蘆庵や伴蒿蹊と交流、
 生涯一物も蓄えず;明暮念仏の間に詠歌、
 家集「獅子巖和歌集」、1761「涌蓮法師冠歌」「法の江」、62「吉野紀行」著
 松平慶永(春嶽)「古今百人一首」入、
 [明日もまた朝疾く起きてつとめばや窓にうれしき有明の月](古今百人一首;66)
 [涌蓮(号)の字/別号]字;達空、別号;嗟峨居士、
 曜蓮社明誉(ようれんしゃみやうよ;法名) → 如禅道人(によせんどうじん、浄土僧/書画) G 3 3 0 5
 曜蓮社嶺誉(ようれんしゃれいよ;法名) → 智堂(ちどう;法諱、浄土僧) E 2 8 9 1
 養老庵(ようろうあん) → 西羊(さいよう/せいよう、俳人) B 2 0 1 2

- B4765 **養老館路産** (ようろうかんろさん、林はやし、字;波臣、通称;明田屋惣兵衛、路芳男)1764-1831⁶⁸ 京の味噌商、
儒:松永淵斎門/国学:宣長門、狂歌:真顔門、書肆、林秋告あきりの兄
1823「狂歌辨」「狂歌童蒙式」「二松庵家譜」著、
[養老館路産の別号] 鮒主ふなぬし/裁松窩、宰相花波臣/蔭の屋、屋号;明田屋/菱屋
- B4766 **養老館路芳** (ようろうかんろほう、林はやし)1737-90⁵⁴ 京の味噌商、儒:松永淵斎門/国学:秋成門、
狂歌:万英門、遺作:「狂歌言葉海」「狂歌我身裏わがみのつと」「狂歌俗名所坐知抄」路産編刊、
[養老館路芳の別号] 路芳斎/路芳斎林老、 養老館路産/林秋台あきりの父
養老山人(ようろうさんじん) → 元甫(げんぽ・浅野あきの、医者) M 1 8 2 6
養老舎滝女(ようろうしゃたきじよ) → 登幾(とせき・黒沢くろさわ、歌人) I 3 1 8 6
要六(ようろく・中島) → 長秋(ながあき・中島なかじま、醸造業/国学) N 3 2 9 0
- B4767 **陽和** (ようわ・山岸やまぎし、名;宥軒、妻:芭蕉姉)?-1719 伊賀上野藤堂家家臣/俳人:芭蕉門、
1694其角「枯尾花」/浪化「有磯海」/96支考「笈日記」/98「続猿蓑」2句入、半残はんざんの父、
息子の半残・孫の車来も芭蕉門俳人、
[七つより花見におこる女中哉](続猿蓑;巻下/女達は明六つ前の七つには活動)、
[陽和(;号)の通称] 重左衛門
陽和院(ようわいん) → 光久室(みつひさのしつ・島津しまづ/平松、歌) J 4 1 2 8
容和(ようわ/かたかず・松平) → 容敬(かたたか・松平まつだいら、藩主/文筆) M 1 5 9 9
養和堂(ようわどう) → 恬斎(てんさい・片山かたやま、藩儒/詩歌) D 3 0 4 7
余斎(よえい・三善) → 倫良(ともし・三善、国学/神道/詩歌) Q 3 1 9 1
- B4768 **与右衛門** (よえもん・塚田つかだ)1715-1810^{長寿96} 信州小県郡塩尻村の農業;奥州産蚕原種を複製、
蚕種改良に尽力、儒;太宰春台門/俳人;伊勢の中川麦浪門;伊勢歳旦に入集、
1757「養蚕秘書」/87「養蚕後篇」著、
[与右衛門(;通称)の号] 麦々舎/杜雪/麦五斎/照昌塩里軒
与右衛門(よえもん・藤原) → 継平(2世つぎひら・藤原ふじわら、刀匠) 2 9 5 6
与右衛門(よえもん・中井) → 安国(やすくに・中井なかい、歌人) G 4 5 3 2
与右衛門(よえもん・中江) → 藤樹(とうじゅ・中江なかえ、儒者;陽明学) 3 1 1 6
与右衛門(よえもん・村松) → 蘆溪(ろけい・村松むらまつ/松、農家/藩儒) B 5 2 3 0
与右衛門(よえもん・池田) → 好運(こううん・池田いけだ、天文/航海術) E 1 9 8 7
与右衛門(よえもん・栗原) → 如心(にょしん・栗原珍鮎、藩士/心学者) G 3 3 0 0
与右衛門(よえもん・松平) → 忠冬(ただふゆ・松平、幕臣/記録編纂) F 2 6 8 0
与右衛門(よえもん・入江) → 北海(ほっかい・入江いりえ、儒者) E 3 9 4 9
与右衛門(よえもん・二階堂) → 孝行(たかゆき・二階堂にかいどう、藩士/歌) Y 2 6 7 9
与右衛門(よえもん・5代目湊屋) → 梅仏(ばいぶつ・玉華亭、俳人) C 3 6 0 5
与右衛門(よえもん・田中) → 信精(のぶきよ・田中、藩士/儒者/詩歌) B 3 5 3 3
与右衛門(よえもん・佐久間) → 英頭(ふさあき・佐久間さくま、幕臣/国学) I 3 8 2 7
与右衛門(よえもん・本居) → 有郷(ありさと・本居、春庭男/国学/歌) F 1 0 3 5
与右衛門(よえもん・富田) → 畦臣(うねおみ・富田とみた、軍学者/歌) D 1 2 2 3
与右衛門(よえもん・金谷) → 興詩(おきうた・金谷かなや、儒/国学/歌人) C 1 4 8 6
与右衛門(よえもん・田村/坂本) → 額祐(がくすけ・2世絵馬屋、狂歌) E 1 5 7 5
与右衛門(よえもん・三宅) → 賢隆(かたたか・三宅、藩士/和算家) M 1 5 9 7
与右衛門(よえもん・服部) → 豊山(ほうざん・服部はっとり、藩士/儒者) B 3 9 0 7
与右衛門(よえもん・石島) → 筑波(つくば・石島/石/尾見、儒者/詩) 2 9 7 9
与右衛門(よえもん・鱸) → 有飛(ありとび・鱸すずき、国学者) F 1 0 5 1
与右衛門(よえもん・小西) → 松江(しょうこう・小西こにし、商家/詩人) I 2 2 7 6
与右衛門(よえもん・高瀬屋) → 陸史(りくし・南坡菴、醸造業/俳人) 4 9 7 4
与右衛門(よえもん・桑名屋) → 錦江(きんこう・春日部、婆阿、菓商/狂歌) H 1 6 8 4
与右衛門(よえもん・高橋) → 玉斎(ぎよくさい・高橋たかはし、藩士/儒者) O 1 6 9 5
与右衛門(よえもん・高橋) → 楽水(らくすい・高橋たかはし/宮原、藩士/詩歌) D 4 8 5 5
与右衛門(よえもん・宮井) → 素柏(そはく・宮井みやい、俳人) K 2 5 3 4

与右衛門(よえもん・小津)→ 桂窓(けいそう・小津おつ、商家/詩歌人) 1 8 8 2
 与右衛門(よえもん・日比野/水谷)→ 民彦(たみひこ・水谷、商家/国学) S 2 6 2 8
 与右衛門(よえもん・今泉)→ 恒丸(つねまる・今泉いまいずみ、俳人) D 2 9 8 0
 与右衛門(よえもん・坪川)→ 常通(つねみち・坪川つばかね、和算家) D 2 9 8 8
 与右衛門(よえもん・武広)→ 安英(やすひで・武広たけひろ、藩士/刀工) C 4 5 7 6
 与右衛門(よえもん・秋保)→ 親愛(ちかよし・秋保あきは、藩士/国学/歌) L 2 8 7 6
 与右衛門(よえもん・法花津屋)→ 長徳(ながのり・高月たかつき、商家/歌人) N 3 2 7 4
 与右衛門(よえもん・飯島)→ 為秀(ためひで・飯島いじま、歌人) V 2 6 5 6
 与右衛門(よえもん・三溝)→ 政員(まさかず・三溝さみぞ、国学/教育者) P 4 0 7 8
 与右衛門(よえもん・桜井)→ 秀道(ひでみち・桜井さくらい、国学/歌人) J 3 7 7 3
 与右衛門(よえもん・小川)→ 金義(かねよし・小川おがわ、藩士/歌人) T 1 5 8 3
 与右衛門(よえもん・館森)→ 古道(たけみち・館森たてもり、儒者/歌人) Y 2 6 1 2
 与右衛門(よえもん・中川)→ 顕充(あきみつ・中川ながわ、国学者) I 1 0 0 9
 与右衛門(よえもん・藤田)→ 知恒(ともつね・藤田ふじた/尾崎、国学) W 3 1 2 5
 与右衛門(よえもん・藤田)→ 克友(かつとも・藤田ふじた/田村、国学) V 1 5 5 5
 与右衛門(よえもん・松村)→ 貞経(さだつぐ・松村まつむら、藩士/国学) P 2 0 4 4
 与右衛門(よえもん・井沢屋)→ 民彦(たみひこ・水谷/日比野、商家/国学) S 2 6 2 8
 代右衛門(よえもん・河村)→ 秀世(ひでよ/ひでつぐ・河村、藩士/歌人) E 3 7 0 8
 代右衛門(よえもん・満野)→ 荷洲(かしゅう・満野みつ、藩士/儒者) L 1 5 8 2
 与右衛門尉(よえもんじょう・飯島)→ 為房(ためふさ・飯島/源、遺言状) S 2 6 7 6

Q4735 誉延(よえん;法諱) ? - ? 平安鎌倉期;南都の僧/法師、
 歌人;1237刊[檜葉集]4首入、
 [影とめしかけひの水は音たえてひとりもりくる冬の夜の月](檜葉;冬318/山居冬月)
 [僧都延覚睦月の朔日ごろにみまかりけるいみにこもりて侍りけるに、
 まへなる花の木に鶯のなきけるをききてよめる、

さきだちし花のすがたをあはれとやおくれてきなく鶯のこゑ](檜葉;哀傷582)

与鷗(よおう・津田) → 閑斎(かんさい・津田つだ、儒者) Q 1 5 5 1

B4769 節折(折節よお・前斎宮さきのさいぐうの)?-? 鎌倉後期女房歌人、愷子内親王に出仕か?、
 続現葉集入、1320成立「続千載集」入(1608)、
 [忘れ行く人ばかりこそつらからめ身をさへさのみ何うらむらん](続千載;恋1608)

K4728 興可(よか;道号・心交しんこう;法諱)?-1437 臨濟僧;洞天源深門;嗣法、東福寺桂昌庵住、
 1428東福寺122世、「如水観」著、号;如水道人

余花園(よかえん) → 梅室(ばいしつ・桜井、俳人) 3 6 0 4
 余学楼(よがくろう) → 振洋(しんよう・上甲じょうこう、藩儒/教育) Q 2 2 0 1
 予何人(よかじん) → 松窓(しょうそう・名倉、藩士/漢学/渡仏) K 2 2 5 9
 余霞楼主人(よかろうしゅじん)→ 内新好(ないしんこう/うち-、戯作/俳人) 3 2 5 3
 横川(よかわ;号) → 顕基(あきもと・源、廷臣/歌人) 1 0 8 6
 横川僧都(よかわのぞうず) → 源信(げんしん;法諱、天台僧/歌人) 1 8 2 2
 横川大供奉(よかわのだいぐふ)→ 慶範(けいはん、天台叡山僧/歌人) G 1 8 5 3
 与義(よぎ・小寺) → 遵路(ゆきみち・小寺こでら、藩士/儒者) F 4 6 6 7
 与喜左大臣(よきさだいじん)→ 実世(さねよ・洞院/藤原、南朝左大臣) L 2 0 4 7
 与吉(よきち・藤堂) → 高虎(たかとら・藤堂、武将/藩主/記録) D 2 6 3 1
 与吉(よきち・小津) → 桂窓(けいそう・小津おつ、商家/詩歌人) 1 8 8 2
 世吉(よきち・畑) → 柳泰(りゅうたい・畑/上林、儒/医者/詩) F 4 9 1 1
 与吉郎(よきちろう・三国) → 幽眠(ゆうみん・三国みくに、尊攘/詩歌) D 4 6 8 2
 与吉郎(よきちろう・渡辺) → 重石丸(いかりまる・渡辺、国学・神道家) B 1 1 4 0
 余輝道人(よきどうじん) → 俊嶺(しゅんれい;法諱、本願寺派僧/歌) P 2 1 4 7
 余慶(よぎょう;法諱) → 余慶(よけい・よぎょう;法諱/智弁、天台僧) B 4 7 7 6

B4770 翼(よく・赤松あかまつ/本姓;越智、春庵男)?-? 大阪の儒家の家/儒;二洲(父の友人)門、

江中後期安永寛政1772-1801頃活動、1791「訓論書」著、

[翼(；名)の字/号]字；士礼/文平、号；高洲

翼(よく・羽栗)	→	翼(つばさ・羽栗、吉麻呂男/医者)	E 2 9 3 0
翼(よく/つばさ・今田/大原)	→	呑響(どんきょう・大原/今田、儒/経世家)	S 3 1 1 3
翼(よく/つばさ・松永)	→	良弼(よしすけ・松永まつなが、和算家/藩士)	D 4 7 7 8
翼(よく→つばさ・杉田)	→	玄白(げんぱく・杉田すぎた子鳳、医/蘭学)	1 8 2 9
翼(よく・亀田)	→	鵬斎(ほうさい・亀田かめだ、儒者/教育)	3 9 5 4
翼(よく・田宮)	→	半兵衛(はんべえ・田宮たみや、藩士)	I 3 6 5 2
翼(よく・春日/加藤)	→	竹亭(ちくてい、加藤/春日、儒者/書)	D 2 8 5 0
翼(よく・林)	→	屋山(おくざん・林はやし、儒者)	D 1 4 0 4
翼(よく→つばさ・太田/白根)	→	多助(たすけ、白根/太田、藩士/歌)	E 2 6 7 1
翼(よく・児島/加賀山)	→	潜竜(せんりゅう・加賀山かがやま、藩蘭医)	N 2 4 3 1
翼(よく→つばさ・宇津木)	→	泰翼(やすけ・宇津木うつき/平、藩士/歌)	F 4 5 3 7
浴(よく・湯川)	→	麿洞(まいどう・湯川ゆかわ、儒者)	E 1 8 9 3
沃(よく・源)	→	沃(いる・源、廷臣/歌人)	E 1 1 6 7
沃(よく・葉山)	→	莘亭(しんてい・葉山はやま、藩家老/詩)	P 2 2 4 1
翊(よく・井上/新妻)	→	文沖(ぶんちゅう・新妻にいづま/井上、藩医)	G 3 8 1 8
翼卿(よくけい・土田)	→	献(けん・土田つちだ、医者)	H 1 8 4 8
翼卿(よくけい・野呂)	→	松廬(しょうろ・野呂のろ、儒者/詩人)	C 2 2 1 2

B4771 **翼斎**(よくさい・勝島かつしま、名；惟恭)1760or1730?-180849or79 勝島惟徳の曾孫、
備後尾道の儒；伊藤東所門、古義学を修学/詩文に長ず、
1791「勝島遺文」/1803「芸備古跡志」04「四教大意」/06「芸備古跡志遺漏拾遺補遺」著、
1818「行余紀聞文」著、

[翼斎(；号)の字/通称]字；敬中/敬仲、通称；敬輔/敬助、

B4772 **愨斎**(よくさい・飯沼いぬま、西村新左衛門2男)1782-186584 伊勢亀山の農家/1793医学；飯沼長頭門、
長頭は美濃大垣住の叔父飯沼長竟の同族、本草学；小野蘭山門・水谷豊文門、
医学；1799京の福井丹波守門、飯沼長頭女の志保子と結婚；婿養子/飯沼の家督継嗣、
医業の傍ら蘭医学；大垣藩医江馬蘭斎門、蘭学；江戸の宇田川榛斎・藤井方亭門、
1831(50歳)隠居；長松村に別邸平林荘を建設；近代科学的植物図説を作成、
西洋植物学普及に尽力、「草木図説前編」/1832「草木図説後編」、57「大黃私考」著、
「飯沼愨斎尺牘」「物印満写真並考証」「皇朝草木図譜」「植物採集目録」「根尾山所産草木」著、
[愨斎(；号)の幼名/名/字/通称/別号]幼名；本平、名；長順、字；竜夫、通称；専吉、
別号；桐亭、法号；徳量院

翼斎(よくさい)	→	斉裕(なりひろ・蜂須賀、藩主/歌人)	I 3 2 0 8
翼斎(よくさい・林)	→	榴岡(りゅうこう・林はやし、幕府儒官)	D 4 9 7 8
翼斎(よくさい・八羽)	→	光当(みつまさ・八羽はつば/太田、神道家)	K 4 1 1 1
浴斎(よくさい・遠山/小倉)	→	雲如(うんじょ・遠山とおやま・建部、詩人)	B 1 2 1 7
翼之(よくし・辛島)	→	青溪(せいけい・辛島からしま、藩儒)	B 2 4 1 0
欲生庵(よくせいあん；号)	→	観秀(かんしゅう；法諱、真宗僧)	Q 1 5 9 3
翼章(よくしょう→すけあきら・井上)	→	素良(もとよし・井上/藤原/梯、藩士/国/史学)	J 4 4 1 4
翼成(よくせい・高麗/林)	→	葛廬(かつろ・林はやし、幕府儒官)	O 1 5 0 4
浴仙(よくせん・森)	→	枳園(きえん・森もり立之、医者/国学)	F 1 6 0 3
浴泉庵(よくせんあん、浴泉廬)	→	烏掌(うしょう・藤谷、俳人)	B 1 2 3 6

B4774 **沃地**(よくち・三宅みやけ/本姓；清原、鞏革斎男)1649-9244 母；三木了清女、衡雪の弟、儒(家学)を受、
1670伊勢津藩に儒員として出仕；禄4百石、家を京に置き時々帰省、1677「武城絃歌集」著、
[沃地(；号)の幼名/名/字]幼名；新三郎、名；昌方/黎、字；旬節/徇節/順節/叔民

欲訥(よくとつ・松岡)	→	毅軒(きけん・松岡まつおか、藩士/儒者)	I 1 6 6 1
翼夫(よくふ・西依/西、翼甫)	→	墨山(ぼくざん・西依にしより/西、儒者)	D 3 9 2 6
翼武(よくぶ・大田)	→	晴斎(せいさい・大田おた、儒者)	I 2 4 3 6

N4751 **浴風**(よくふう・妹尾せのお、旧姓；佐上)1798-187073 備前岡山藩士；中小姓、学問；西崎三羽門、

[浴風(；号)の通称] 雄三/保介/次郎八

翼鳳(よくほう・桐原) → 鳳兮(ほうけい・桐原きりはら、漢学者/詩人) F 3 9 7 0
観(よくみ・内田) → 五観(ごかん・いつみ・内田うちだ、和算/天文) F 1 9 5 2
翼養(よくよう・田宮) → 半兵衛(はんべえ・田宮たみや、藩士) I 3 6 5 2
翼々斎(よくよくさい) → 竹老(ちくろう・白田、儒者/歌) D 2 8 9 7

B4775 翌々散人(よくよくさんじん) ? - ? 俳人;

1771「こだま草」著(；綾足の方歌説「とはじぐさ」論難書)

浴蘭堂(よくらんどう) → 春山(しゅんざん・富田/永野、医者/詩人) K 2 1 8 2
浴蘭堂(よくらんどう) → 源蔵(源三げんぞう・神崎屋かんざきや、薬舗) K 1 8 8 7
翼竜(よくりゅう・植原) → 正方(まさかた・植原/広川、藩士/水練) B 4 0 9 9
抑楼(よくろう・中井) → 碩果(せきか・中井なかい、儒者) J 2 4 9 7
与九郎(よくろう・望月) → 恒隆(つねたか・望月もちつき、藩士/民政) C 2 9 3 5

B4776 余慶(よけい・よぎょう; 法諱・諡号; 智弁、俗姓; 宇佐) 919-991 73 筑前早良の天台僧; 園城寺明仙門、
967行誉より灌頂を受/979園城寺長吏/祈祷の験者; 村上・円融天皇より信任、
981法性寺座主; この頃から山門派円仁門徒の反発、989(永祚元)天台座主/権僧正、
3ヶ月で座主辞任、岩倉観音院(大雲寺)に入寺、歌人; 万代集入、続千載集929、
[観念の心し澄めば山風も常楽我浄じやうらくがじやうとこそ聞ゆれ](続千; 釈教929/智弁名)

B4777 余慶(よけい・高野たかの、栄軒の長男) 1729-1815 87 越後長岡の儒者; 伊藤仁斎に私淑; 古義学修得、
越後長岡8代藩主牧野忠寛に出仕; 藩儒/侍読/世子教育に当る、9代藩主忠精に重用、
藩政に参画; 46年間、兵法・旧典に通ず、1759「由旧録」96「昇平夜話」/1807「軍用家訓」著、
「可以興辨」「御邑古風談」「郷俗育幼談」「如件談」「古談拾要」「草露伝」「粒々辛苦録」外著多、
[余慶(；号)の名/通称]名; 常道、通称; 泰助

与稽(よけい・三浦) → 清陰(せいいん・三浦みづら、儒者) H 2 4 3 9
与権(よけん・那須/松岡) → 次郎(じろう・松岡まつおか/那須、藩家老/儒) N 2 2 0 6
与古為徒斎(よこいとさい) → 溟北(めいほく・円山/小池、藩士/儒者) 4 3 3 7
与厚(よこう・加藤) → 九阜(きゅうこう・加藤かとう、医者) M 1 6 4 8
余香庵(よこうあん) → 親任(ちかとう・安倍/長坂、農政/歌) B 2 8 2 5
余香堂(よこうどう) → 熊嶽(ゆうがく・岡おか、絵師) B 4 6 0 4
与五右衛門(よごえもん・河内山) → 昌実(まさざね・河内山こうちやま、藩士) C 4 0 6 1
与五右衛門(よごえもん・篠原) → 静安(せいあん・篠原/北田、医/儒者) H 2 4 2 0
与五右衛門(よごえもん・青山) → 敏文(としぶみ・青山あおやま、藩士/歌人) T 3 1 9 0
与五左衛門(よごさえもん・森) → 盛州(もりくに・森もり/源、幕臣/歌) I 4 4 7 4
余五將軍(よごしょうぐん) → 維茂(これもち・平たいら、武将) O 1 9 9 2

B4780 与五太夫(よごだゆう・近藤こんどう) ? - ? 肥前唐津の人(歌謡の語り手?)、

1659歌謡「万葉歌集」筆写(；編者未詳: 上方の通人?/1745河村政孚まさちか蔵)

横取散人(よこどりさんじん) → 茶臼伍面(ちやうすごめん、洒落本作者) F 2 8 5 0

J4762 横笛(よこぶえ) ? - ? (19歳没) 平安末期平徳子(建礼門院)の雑仕ぞうし、
滝口の齋藤時頼に恋慕される、時頼が自分のために嗟峨で出家した由を聞き訪問;
逢えず恋慕が募り奈良法華寺で出家、高野僧になった時頼(滝口入道)から贈歌あり、
その返歌、
[剃るとても何か恨みん梓弓 引き止むべき 心ならねば](平家物語; 卷十横笛)、
病床の横笛に滝口入道より歌あり、その返歌、
[やよや君 死すれば登る 高野山 恋も菩提の 種とこそなれ]、
法華寺に恋文の反古で造ったという自作の紙子像がある、

参照 → 時頼(ときより・齋藤、滝口入道) J 3 1 4 6

横船(よこふね; 名・吉田) → 蘭秀(らんしゅう・吉田、俳人) C 4 8 5 2

与五兵衛(よごへえ・大竹) → 雲夢(うんむ・大竹おたけ、儒者) E 1 2 0 7

与五兵衛(よごへえ・小幡) → 実忠(さねただ・小幡おぼた/平、藩士、歌人) O 2 0 0 5

与五兵衛(よごへえ・小島) → 敏言(としこと・小島こじま/村松、藩士/国学;) V 3 1 1 5

- 横道黒塗師(よこみちのくろぬし)→ 一見(いっけん・永崎、俳人/狂歌) D 1 1 7 2
 横行(よこゆき・沢辺) → 沢辺横行(さわべのよきゆき、狂歌) M 2 0 9 0
- B4778 与五郎(よごろう・石坂いしざか)?- ? 室町戦国武将:武田晴信の家臣、
 北条氏政が佐野氏を攻めた時に晴信に従い出陣;武功、「石坂与五郎覚書」著
- B4779 与五郎(よごろう・水本みづもと)?- ? 宗祇の従者/1502宗祇終焉に侍す、
 宗長「宗祇終焉記」を携え上洛/諸方に連絡(三条西実隆「再昌草さいしょうそう」入)
- 与五郎(よごろう・似我じが/檜垣本)→ 国広(くにひろ・観世、能楽太鼓技法) D 1 7 1 5
 与五郎(よごろう・新井) → 白石(はくせき・新井、儒者/幕政参画) 3 6 1 0
 与五郎(よごろう・神崎) → 竹平(ちくへい・神崎、赤穂浪士、歌俳) 2 8 1 1
 与五郎(よごろう・三島) → 久通(ひさみち・越智おち、神官) B 3 7 9 3
 与五郎(よごろう・上田) → 槐堂(かいどう・上田うえだ、儒者) I 1 5 9 9
 与五郎(よごろう・上田) → 素鏡(そきょう・上田、書家/藩主右筆) J 2 5 4 2
 与五郎(よごろう・中西) → 国器(くにがた・中西なかにし、儒者/詩歌) E 1 7 3 8
 与五郎(よごろう・国友) → 善庵(ぜんあん・国友くにとも、藩士/儒者) E 2 4 8 1
 与五郎(よごろう・板倉/中嶋)→ 隆功(たかこと・中嶋、幕臣;領主/日記) L 2 6 8 7
 与五郎(よごろう・小倉) → 翫山(がんざん・小倉、蚕種業/俳人) Q 1 5 8 4
 与五郎(よごろう・秋保) → 親愛(ちかよし・秋保あきは、藩士/国学/歌) L 2 8 7 6
- B4781 与齋(よさい・新関にいせき、名;直和/別号;四代庵)1644-1734長寿91 陸前仙台藩の茶坊主:
 石州流道門派、頓知の才あり狂歌を嗜む;[仙台曾呂利]と称される、
 「道中往来」「奥道中歌」著
- B4782 予齋(よさい・中島/中嶋なかじま、積水の長男)1800-4849 陸中盛岡藩儒/儒学;父門・のち朝川善庵門、
 1844頃藩校明義堂教授、私塾開設;門弟指導、「東晡録」著、
 [予齋(;号)の名/字/通称]名;高廉、字;伯直、通称;三右衛門
- B4783 予齋(よさい・渡辺わたなべ、藩士渡辺道遠4男)1806-5954 越前新発田藩儒;藩校道学堂に修学、
 句読師/都講、藩命で江戸に游学;漢学;奥平棲遲庵・藤田畏齋門、帰郷後道学堂教授、
 闇齋学派道統に固執;丹羽思亭の藩校教授任用に反対し阻止、「吾学源流」「大学講義」、
 「淵源録会読劄記」「先達遺事劄記」「排釈録会読劄記」「予齋問目」「予齋先生学話」外著多数、
 [予齋(;号)の名/通称]名;予章/思誠、通称;万平、水哉・如水の弟
 兄
 → 水哉(すいさい・渡辺、藩士/藩儒) 2 3 5 8
 → 如水(じすい・渡辺、藩儒) M 2 2 6 1
- 予齋(よさい・加藤) → 文麗(ぶんれい・加藤かとう、幕臣/絵師) G 3 8 8 0
 余齋(よさい・無腸、俳人)→ 秋成(あきなり・上田、国学/読本) 1 0 0 9
 余齋(よさい・郷) → 実善(さねよし・郷ごう、国学/歌) N 2 0 3 5
 余哉(よさい・渡辺) → 重豊(しげとよ・渡辺わたなべ、神職/歌人) R 2 1 7 6
- J4796 与左衛門(よざえもん・中村なかむら)?- ? 江前期備後福山の和算家、1658「四角問答」著
 与左衛門(よざえもん・似我じが/檜垣本)→ 国広(くにひろ・観世、能楽太鼓技法) D 1 7 1 5
 与左衛門(よざえもん・藤堂)→ 高虎(たかとら・藤堂、武将/藩主/記録) D 2 6 3 1
 与左衛門(よざえもん・荒木田)→ 守平(もりひら・荒木田/井面、神職/連歌) G 4 4 3 6
 与左衛門(よざえもん・福井)→ 末起(すえおき・福井ふくい/度会、神職) F 2 3 3 6
 与左衛門(よざえもん・衣笠)→ 明親(あきちか・衣笠きぬがさ、藩医/詩歌) D 1 0 5 1
 与左衛門(よざえもん・駿河屋)→ 宗洸(そうぶつ・隠岐おき、茶人) I 2 5 8 3
 与左衛門(よざえもん・屋代)→ 師道(しどう・屋代/源/永邨、幕臣/書家) V 2 1 2 6
 与左衛門(よざえもん・上田)→ 素鏡(そきょう・上田、書家/藩主右筆) J 2 5 4 2
 与左衛門(よざえもん・靱木)→ 武真(たけまさ・靱木もみき、藩儒/教育) Z 2 6 9 7
 与左衛門(よざえもん・下村)→ 幹方(もとかた・下村しもむら、和算家) C 4 4 3 4
 与左衛門(よざえもん・反町そりまち)→ 谷峨(初世こくが・梅暮里、洒落本) 1 9 2 6
 与左衛門(よざえもん・長井)→ 雅楽(うた・長井ながい、藩士/開国論) D 1 2 0 0
 与左衛門(よざえもん・高力こうりき)→ 猿猴庵(えんこうあん、藩士/随筆作家) B 1 3 7 3
 与左衛門(よざえもん・今井)→ 克復(かつまた・今井いまい、与力/紀行) N 1 5 8 9
 与左衛門(よざえもん・安井)→ 政章(まさあき・安井、藩士/槍術) B 4 0 0 4

与左衛門(よざえもん・町野)→ 可名生(かなお・町野、藩士/国益思想) O 1 5 2 8
 与左衛門(よざえもん・薩埵)→ 徳軒(とくけん・薩埵さった、心学者) K 3 1 6 4
 与左衛門(よざえもん・寺村)→ 芳之(ほうし・寺村、俳人) B 3 9 2 2
 与左衛門(よざえもん・村松)→ 露融(ろゆう・村松むらまつ、製紙業/俳人) C 5 2 4 6
 与左衛門(よざえもん・煙草屋)→ 篠目保雅楽(しのめほがら、狂歌) F 2 1 4 0
 与左衛門(よざえもん・北富舎)→ 北富舎(ほくふしゃ、名;通達/商家/書) D 3 9 8 7
 与左衛門(よざえもん・桑名屋)→ 錦江(きんこう・春日部、婆阿、菓商/狂歌) H 1 6 8 4
 与左衛門(よざえもん・反町)→ 谷峨(初世こが・梅暮里うめぼり、洒落/人情本) 1 9 2 6
 与左衛門(よざえもん・西尾)→ 武陵(ぶりよう・西尾にしお、庄屋/俳人) E 3 8 6 1
 与左衛門(よざえもん・梅津)→ 忠経(ただつね・梅津うめづ、藩家老/歌人) V 2 6 8 7
 与左衛門(よざえもん・三浦)→ 元福(もととみ・三浦みうら、藩家老/歌人) L 4 4 4 5
 与左衛門(よざえもん・黒瀬)→ 普仙(ふせん・黒瀬くろせ、商家、国学) I 3 8 2 0
 → 淳(じゅん・黒瀬くろせ、商家、国学/謡曲) O 2 1 3 5
 → 元礼(もとみや・黒瀬くろせ、商家、国学) J 4 4 9 3
 → 義路(よしみち・黒瀬くろせ、商家/国学) M 4 7 6 4
 与左衛門(よざえもん・後藤)→ 基弘(もとひろ・後藤ごとう、国学者) E 4 4 1 6
 与左衛門(よざえもん・正木)→ 本住(もとずみ・正木まさき/平、歌人) I 4 4 8 9
 与左衛門(よざえもん・平野)→ 定恒(さだつね・平野ひらの/平、歌人) N 2 0 5 7
 与左衛門(よざえもん・井面)→ 守典(もりみち・井面いのも/荒木田、神職) J 4 4 1 7
 与左衛門(よざえもん・川合)→ 孝廉(たかやす・川合/河合/河井かわい、幕臣/歌人) U 2 6 9 7
 与左衛門(よざえもん・目加田)→ 慎憲(ちかのり・目加田[多]めかた、藩士/国学) N 2 8 6 6
 与左衛門(よざえもん・児島)→ 政毅(まさたけ・児島こじま/土田、商家/国学) P 4 0 6 6
 与左衛門(よざえもん・山川)→ 正典(まさのり・山川やまかわ、商家/国学) T 4 0 4 0
 与左衛門(よざえもん・原) → 昌言(まさこと・原はら、庄屋/歌人) R 4 0 9 7
 与三右衛門(よざえもん・野村)→ 健平(たてひら・野村のむら、国学/詩歌) Y 2 6 9 2
 與左衛門(よざえもん・大久保)→ 忠督(ただまさ・大久保おおくぼ、藩士/国学) W 2 6 0 9
 与三右衛門尉(よざえもんのじょう・脇坂)→ 重俊(しげとし・脇坂、奉納句勸進) C 2 1 5 3
 与三男三郎(よさおさぶろう・前田)→ 和明(かずあき・前田、系図作成) M 1 5 0 4
 与作(よさく・丹羽) → 氏祐(うじすけ・丹羽にわ、商家/心学者) 1 2 3 3
 与作(よさく・飯島) → 勝休(しょうきゅう・飯島いじま、藩士/故実) Q 2 2 9 3
 与三左衛門(よさざえもん・佐世)→ 宗孚(そうふ・佐世させ、武将/連歌) I 2 5 7 8
 与三左衛門(よさざえもん・出口)→ 与三左衛門(よそうざえもん・出口、書家) I 4 7 1 1
 与三左衛門(よさざえもん・西村)→ 壺岳(こがく・西村にしむら、文筆家) L 1 9 9 0
 与三左衛門(よさざえもん・福原)→ 俊方(としかた・福原ふくはら、藩士/歌人) W 3 1 2 3
 与三太夫(よさだゆう・淀屋)→ 松雨(しょうう・佐々木ささき、町役/俳人) F 2 2 2 8
 与三右衛門(よさえもん)すべて→ 与三右衛門(よそえもん)

4740 譽謝女王(よざのおおきみ) ? - 706(慶雲3) 飛鳥期万葉二期歌人;従四下、
万葉集59(:702年持統天皇三河行幸の時京にて詠歌)、

[流らふるつま吹く風の寒き夜よに我が背の君はひとりか寝ぬらむ](万葉;一59)

与三郎(よさぶろう・観世)→ 身愛(ただちか・観世かんぜ、能楽大夫) F 2 6 2 6
 与三郎(よさぶろう・村垣)→ 範正(のりまさ・村垣むらがき、幕臣/日記) F 3 5 7 8
 与三郎(よさぶろう・天井)→ 韋吹(いすい・天井、商人/俳人) 1 1 9 3
 与三郎(よさぶろう・奥田)→ 鶯谷(おうこく・奥田、儒者) C 1 4 1 0
 与三郎(よさぶろう・岡部)→ 政信(まさのぶ・岡部おかべ、神職/真淵父) O 4 0 5 8
 与三郎(よさぶろう・五味)→ 貞之(さだゆき・五味ごみ、藩士/故実家) K 2 0 1 1
 与三郎(よさぶろう・田中)→ 大観(たいかん・田中/修姓;田、暦算/儒) B 2 6 1 8
 与三郎(よさぶろう・金子)→ 得処(とくしょ・金子かねこ、儒者) K 3 1 9 5
 与三郎(よさぶろう・中尾)→ 竹厓(ちくかい・中尾なかお、役吏/儒者) C 2 8 8 0
 与三郎(よさぶろう・内村)→ 鱸香(ろこう・内村うちむら/本郷屋、藩儒) B 5 2 4 7

- 与三郎(よさぶろう・丹羽) → 房忠(ふさただ・丹羽にわ/平尾、藩士/神職) I 3 8 5 7
 与三郎(よさぶろう・里見) → 義亮(よしゆけ・里見さとみ/石城、国学者) N 4 7 2 2
 与三平(よさへい・岡田) → 陶然(とうねん・岡田、酒造業/俳人) G 3 1 8 6
- J4797 **与三兵衛**(よさべえ・野村のむら)?- ? 江中期加賀金沢藩士;御用番、
 1787「定番御馬廻御番頭へ被仰出候御端書写等」著
- 与三兵衛(よさべえ・多紀) → 義恭(よしやす・多紀たき、藩士/国学/歌) H 4 7 8 0
 与三兵衛(よさべえ・鈍通) → 与三兵衛(よさべえ・鈍通、3世津打治兵衛、歌伎作者) I 4 7 1 3
- 4701 **依羅娘子**(よさみのおとめ) ? - ? 飛鳥期、柿本人麻呂妻の一人;石見の女、
 人麻呂の離別歌131の妻と同一、万葉二期歌人3首;140:離別歌/224-5;挽歌、
 [な思ひそと君は言ふとも逢はむ時いつと知りてか我が恋ひざらむ](万葉;140)、
 ☆一説;河内依網郷の女か
- K4720 **吉従**(よさゆ・興田おきた、通称;新助/十左衛門)?-? 江後期文化1804-18頃若狭小浜藩儒、
 垂加神道;西依成斎門、国学;本居宣長門、のち京住、
 「三種神籬最極秘訣」「三種神宝極秘中秘口伝」「神体勸請伝」著、
 [吉従よさゆの号] 箕山きざん/遅斎
- 予山(よざん・一柳) → 千古(ちふる・一柳ひとつやなぎ/越智、歌人) F 2 8 3 2
 与三治(よさんじ・岡田) → 重威(しげたけ・岡田おかだ/小島、藩士/歌) N 2 1 8 5
- B4784 **善**(よし・源みなもと、舒男) ? - ? 平安前期廷臣;嵯峨天皇の曾孫、從四下/左近中将、
 895宇多院五位蔵人、898宇多法皇御幸に随行;片野の狩競で行事を務める、
 898宇多太上皇の吉野川宮滝遊覧には歌題を呈す(難題;扶桑略記・著聞集・袋草紙に逸話、
 歌題;[八咫鳥かしらに置きてしののかみ句の末に置き旅の歌詠め];源昇・友子は白紙)、
 901(昌泰4)菅原道真左遷に連座し出雲権守に左遷される、
 歌人;古今六帖入集、勅撰;後撰集4首;858/860/1063/1253、
 [あふみてふ方舵のしるべも得てしかな見るめなきこと行きて恨みん](後撰;恋858)、
 (女の父母に遮られる時の詠/近江に逢ふ身・海松布に見るめ・浦見の恨みを掛る、
 近江の海は淡水で海松布はない、春澄善繩女よしただがむすめの返歌859;
 [あふさかの関と守もらるゝ我なれば近江てふらん方も知られず])
- K4724 **善**(よし・法道寺ほうどうじ、市左衛門男) 1820-68/49 安藝広島鍛冶屋町の鍛冶業の家の生、和算家;
 算学;藩儒梅園直雨(立介)門/1841江戸の内田五観門;1846まで師の塾で研鑽、全国遊歴、
 算変法を創案し子弟教育、1859「算家経譜」編/「古今算鑑豁術解」60「観新考算変」、
 1862「算法瑚璉直菱与鉤円錐解」67「豁術新考」、「法道寺称平術」「法道寺草稿」外著多数、
 [善(;名)の字/通称/号]字;通達、通称;和十郎、号;観山/観よくみ、墓;広島寺町の円竜寺
- 与志(与四よし・西沢) → 一風(いふう・西沢、書肆/浮世草子) 1 1 2 5
 好(よし・松岡) → 好女(よじよ・松岡・定用妻、俳人)
 好(よし・荒川) → 薦子(つたこ・荒川/日高、紀行文) 2 9 0 7
 よし(・谷口) → 田女(でんじよ・谷口、俳人) D 3 0 8 1
 よし(・山本) → よし女(よじよ・山本、歌人) K 4 7 9 1
 よし(・岡) → よし女(よじよ・岡おか、歌人) M 4 7 0 3
 与次(よじ・吉田) → 宗桂(そうけい・吉田よしだ、医者/侍医) G 2 5 8 9
- B4785 **義昭**(よしあき・足利あしかが/本姓;源、義晴男) 1537-97/61 興福寺一乗院門跡;法名;覚慶、
 還俗;名は義秋、織田信長に擁立され室町幕府15代将軍(;1565-73在位)/信長と不和、
 1573京を追放;諸国流浪生活、毛利家・豊臣秀吉の庇護下;大阪に没、法号;昌山道休
- B4786 **義光**(よしあき/よしてる・最上もがみ/本姓;源、義守男) 1546-1614/69 母;小野少将女、出羽の武将;
 もと出羽探題の家;祖父義定が伊達植宗に敗北し伊達家の家臣となる、
 弟義時との相続争いに勝ち領内の内政に尽力;最上川の改修/酒田港の交易促進など、
 最上頼澄・丸岡義興らを打倒;本荘・伊達氏と抗争/1590小田原攻めに豊臣秀吉の陣で参戦、
 本領安堵、文禄役では肥前名護屋に出陣/娘が豊臣秀次の妾;1595秀次自害により謹慎、
 関ヶ原で上杉景勝と戦い戦功により羽前山形藩主75万石に封ぜらる、
 連歌作者:「最上義光家百韻」編、1593(文禄2)守棟と「何人百韻」/95弥阿と「何路百韻」、
 1597他阿と「何船陣百韻」/98景敏と「夢想百韻」/1600満茂と「夢想百韻」など、

[義光(；名)の幼名/通称/号]幼名；源五郎、通称；二郎太/出羽侍従/光禪寺、号；白寿、
法号；光禪寺玉山白公

- B4787 **嘉明**(よしあき・田原たから) 1574- ? 1652(79歳) 存 安桃江前期和泉堺の和算家/歌・狂歌を嗜む、
1652刊「新刊算法起」著、
[嘉明(；名)の初名/通称]初名；坂宇右衛門重春、通称；仁右衛門/仁左衛門
- B4788 **由章**(よしあき・下村しむら) ? - 1691 丹後宮津藩士；藩主京極高国に出仕、
1666藩主が盛岡に配流；随従/1675高国没；76南部重直の家臣；禄450石、儒学に通ず、
詩歌人、1666(寛文6)「盛岡紀行」/「南部記録註解鈔」、「高国配流顛末」/「南部興補録」著、
1690重信催[南部家江戸桜田邸詩歌会]参加；詩3首入、
[高林雲邃ふかくして一堂生じ 路細く人稀れに膝六とうろく盈みつ、
万木千岩白雪平らかなり 埋み残す古寺暮鐘の声](桜田邸；古寺雪/膝六；雪；雪神)、
[由章(；名)の別名/通称/号]別名；敬義、通称；佐助/宜平、号；**奚疑**/治水/暗室、
法号；敬徳院
- M4701 **可全**(よしあき・大村おむら) 1636-1689 54 近江長浜の商家/京住；堺町二條の白木屋の祖、
国学・歌人；北村季吟門、
[可全(；名)の通称/号]通称；彦太郎、号；道慈、屋号；白木屋
- B4789 **義明**(よしあき・大高坂おたかきか、芝山男) ?-? 江前期伊予松山藩儒、
1697(元禄10)刊「芝山会稿」編、「高氏家譜」編
- B4790 **義見**(よしあき・戸村むら、義輔男) 1697-1744 48 羽後秋田藩士；1713家老、1719横手所預を継嗣、
「試三ヶ条問書」著、
[義見(；名)の幼名/通称]幼名；伊勢千代/八郎、通称；十太夫/大学
- M4795 **義明**(よしあき・佐久間さくま/本姓；平清水) 1703-68 66 出羽(羽前)村山郡平清水村の大庄屋、国学者、
[義明(；名)の通称/号]通称；平次郎/久左衛門(代々の称)、号；東川/恥川/信夫
- B4794 **義章**(よしあき・田沢たざむ) ? - ? 江中期武蔵菅生の郷土/儒・歌；成島錦江(1689-1760)門、
冷泉家門、將軍吉宗遊獵の際鷹狩場人足掛を勤め勢子・人足の指揮、武蔵玉川住、
のち日光御門主の家人となる、筑波浄乗寺法輪と交流、
1735「ひともの日記」編/36「武蔵野地名考」37「北条分限帳郡村略考」、「歌仙考」著、
石野広通「霞関集」入(妻と共に入集→義章妻)、
[かげ深き麓は雲に先暮れて夕を残す峰の白雪](霞関；冬644/暮山雪)、
[義章(；名)の通称]源太郎
- B4791 **義明**(よしあき・茂木もてき、通称；弘見) 1729-1808 80 陸前仙台藩士；伊達周宗に出仕/小姓、
小納戸判形役、「於深川別業楼下応教歌一首并歌等」著
- 04749 **慶明**(よしあき・芳賀はが、初名；明德) 1752-1804 53 陸奥磐井郡大原の肝入、国学・歌；日野資枝門、
1785菅江真澄が芳賀邸に滞在[はしわのわかば]執筆、
[慶明(；名)の字/通称/号]字；子哲、通称；長左衛門、号；壺天館成章
- B4792 **吉明**(よしあき・竹村たけむら) 1761-1819 59 羽後千北郡六郷の郷土史家、詩歌を嗜む、
「六野燭談」著(郷土の風俗・伝承など蒐集)、了齋(；詩歌人)の孫、
[吉明(；名)の字/号]字；俊夫、号；東白/了圃
- B4793 **良顕**(よしあき・勸修寺かじゅうじ、経逸つねよし男/本姓；藤原) 1765-95 31 母；飛鳥井雅重女、廷臣；
1792(寛政4)参議/正四上/右大弁/93従三位、1791「新嘗祭儀次第」注、「使庁装束抄」編
- B4795 **義明**(よしあき・加茂かも) ? - ? 江後期寛政1789-1801頃仙台的和算家、
柴田蔵人に出仕、和算；渋谷助十郎門；中西流を修学/戸板保佑門；関流数学修学、
木口宗路門；町間分間の術を修学、「三斜等円無不尽問」「立法式ヲ帰除ニ開クノ伝」著、
[義明(；名)の通称]紋三郎
- B4797 **芳章**(よしあき・吉田よしだ) 1757- 1831 75 京の九条家の落胤と称される、盲目、
出雲安来の富豪並河三郎兵衛の養子分、出雲能義郡切川村の神職となる、
歌；澄月・慈延・千家俊信門/1806加藤景範門、歌人；出雲国内に門弟多数、
「長平館集」著、
[芳章(；名)の通称] 且/亘/亘人

- 04744 **祺明**(よしあき・野中のなか、)1772-1832⁶¹ 江戸の幕臣;御徒組、国学者/歌人、
1832(天保3)没、
[咲く花の色香も知らで過ぐる間に春の別れとなるぞかなし](病中の詠)、
[祺明(;)字)の名/通称/号]名;儀ぎ、通称;佐太夫、号;湘山
- B4796 **義章**(よしあき・森田もりた、清斎男)1773-1843⁷¹ 京の医者;川越衡山門/門生に教授、
有栖川家の医者;重用される、「人参考」「蕪窓選方」著、素堂の養父、
[義章(;)名)の字/通称/号]字;俊民、通称;文恒/主一郎、号;蕪窓/楽義齋
- L4769 **良顕**(よしあき・岩永いかなが、)1774-1846⁷³ 肥後の国学者、
[良顕(;)名)の通称/号]通称;勝左衛門、号;梅石
- B4798 **孔章**(よしあき・山田やまだ/修姓;山、号;一豊舎)?-1834(天保5) 尾張名古屋の古銭学者、
1827-29「符号泉志」著
- P4799 **良明**(よしあき・吉井い、初名;良貫、萩原従言男)1781-1847⁶⁷ 摂津西宮の吉井良足よしたりの養子、
1801(享和元)良足を継嗣;吉井家49代;広田神社神祠官、上総介/従五下、
1810(文化7)良明に改名、良顕(1814-54/吉井家50代/但馬守/従五下)の父、
[良明(;)名)の通称]上総介
- L4732 **義章**(よしあき・荒川あらかわ、通称;七太夫)?-1837or38 近江膳所藩士/歌人;香川景樹門
- B4799 **克明**(よしあき・大立目おおだつめ)1793-1847⁵⁵ 陸前仙台の儒者;桜田欽斎・田辺希哲門、
金忠輔と交流、「聖学開示」著、
[克明(;)名)の字/通称/号]字;徳甫とくすけ、通称;鉄右衛門/市郎太夫、
号;蠶々子ごうし/守拙園主人
- C4700 **由章**(よしあき・高宮たかみや)?-? 江後期儒者;崎門系か、
1804「朱子訓子状評註」、「十二所加持伝」著、
高宮逸斎(1797「十二所加持并拙解」著)と同一か
- C4701 **敬明**(よしあき・安場やすば)?-? 江後期因幡鳥取藩士、洋学者/兵学、
1858(安政5)刊「散兵定則」訳、「西洋流歩操定則」訳/「操卒定則」著
- P4703 **慶明**(よしあき・間野まゐ、旧姓小野)?-1851 江後期;備中浅口郡柳屋の生、
浅口郡旧家(庄屋)の間野貞明の婿養子;貞明女の直と結婚(直は1女を産んで没)、
1797(寛政9)貞明没;家督継嗣、後妻;児島郡の野田家の伊保(4男2女出産)、
歌人;木下幸文たかぶみ(1779-1821)門、1851(嘉永4)没/息子与平克明(母;伊保)が家督嗣、
[慶明(;)名)の通称]竜三郎/慶次郎/亮三郎/伊太郎
- P4766 **義晃**(よしあき・森もり、通称;糸八/号;春人)1827-84⁵⁸ 讃岐那珂郡櫛梨村の里正、
国学者・歌人;同郷神職の秋山惟恭こいや(1807-63)門
- C4702 **良顕**(よしあき・中村なかむら、赤穂藩士中村清左衛門良友2男)1829-1900⁷² 叔父中村良臣の養嗣子、
伊丹住/国学者;伊勢の足代弘訓門/歌人;紀伊の加納諸平門/伊丹に帰り興風社を創立、
1882大阪瓦町に家塾を開設;門人多数、関西歌壇の重鎮となる、
「蓼生園拾玉集」「蓼生園詠草」「蓼生園歌文稿」「歌文答問録」著、
[良顕(;)名)の別号/字/通称/号]初名;良弼、字;子毅、通称;直之助/孫四郎、
号;蓼舎たでのや/蓼生園たでのその
- K4780 **喜章**(よしあき・犬塚いぬが)?-? 江後期;歌人、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[見し夢の覚むる枕に残りけり木の葉窓打つあかつきの声](大江戸倭歌;冬1086暁落葉)
- P4752 **義曜**(よしあき・村上むらかみ、)1824-1889⁶⁶ 上野群馬郡小野上村の名主、
国学者・歌人;橘守部門、
[義曜(;)名)の通称]柳三/伊右衛門/耕作
- 04736 **義暁**(よしあき・錦織にしじり、)1825-1894⁷⁰ 近江滋賀郡堅田村の貸船屋/庄屋、
のち大津住、歌人;[鴉のうみ]入、「歳番日記」(1861-72)著、
「東武日記」(1865堅田の助郷役免除上訴の為の江戸在留日記)著、
[義暁(;)名)の通称/号]通称;勇吉/善治郎/五兵衛、号;郷英台禾英/玉章宿
- M4737 **義顕**(よしあき・木曾きそ、旧姓;入江)1839-1918⁸⁰ 肥後熊本藩士、国学者;林有通・平田鉄胤門、
歌人;鈴木重胤門、維新後;伊勢度会府判司、

[義頭(；名)の別名/通称/変名]別名；広矛、通称；源太郎/八千兵衛、
変名；藤崎左馬蔵・旭健

M4754 **良亮**(よしあき・櫛原くしはら、)1841-1909⁶⁹ 信濃伊那郡の国学・歌；北原稲雄・平田鉄胤門、
[良亮(；名)の通称]通称；周太郎

N4778 **良顕**(よしあき・滝沢たきざわ、自僊よりひと男)1842-1916⁷⁵ 武蔵飯能の国学者；井上頼因門、
多岐坐波(滝沢)神社祠官；父を継嗣、維新後；権大講義

04796 **喜秋**(よしあき・豊ぶんの/本姓；豊原、胖秋とよあき男)1848-1920⁷³ 京の楽人；1870宮廷少伶人、
1875(明治8)権中伶人；東京住/84雅楽師；笙/88伶人兼楽手/98雅楽師兼楽師1907楽師、
笙/クラリネットを奏す、養子；豊宗秋もとあき(豊新秋3男/以後楽家断絶)

P4780 **芳秋**(よしあき・山内やまうち)1847-1891⁴⁵ 山城葛野郡の国学者/歌人；松波資之門、
京の禁裏仕丁山内家の養子、大蔵権少書記官、
[芳秋(；名)の初名/通称]初名；正樹、通称；信太郎

義頭(よしあき・細川) → 道賢(どうけん；法名、細川、武家/歌人) D 3 1 5 1

義明(よしあき・塩路) → 鶴堂(かくどう・塩路しおじ、絵師) K 1 5 3 0

義明(よしあき・飯田) → 斧木(浮木ふぼく、諏訪/飯田、歌僧) D 3 8 7 6

義明(よしあき・坂井/垣本) → 眞胤(まさたね・垣本かいもと/菅原/坂井、国学) O 4 0 7 7

義亮(よしあき・源) → 空阿(くうあ；号、浄土僧/歌/紀行) C 1 7 1 8

慶明(よしあき → よしあきら・鷺見) → 休明(保明やすあきら・鷺見すみ、藩士/歌人) 4 5 8 8

良明(よしあき・松永) → 道斎(どうさい・松永、文筆家/聞書) E 3 1 3 6

良昭(よしあき・佐藤) → 眠郎(みんろう・佐藤さとう、俳人) G 4 1 9 6

良昭(よしあき・高橋) → 新吉(しんきち・高橋たかはし、蘭学/実業家) 2 2 7 4

吉明(嘉章よしあき・鈴木) → 澶洲(せんしゅう・鈴木/木、儒者) F 2 4 8 9

吉明(よしあき・小山田) → 春水(しゅんすい・小山田おやまだ、藩士/儒) L 2 1 1 5

吉明(よしあき・三田村) → 蘭谷(らんこく・三田村みたむら/藤原、儒/詩人) C 4 8 0 9

芳明(よしあき・三嶋) → 政養(まさきよ・三嶋みしま/藤原/夏目、旗本/歌) L 4 0 9 2

淑明(よしあき・富川) → 白鶴(はっかく・大橋/富川とみかわ、儒者) F 3 6 0 8

よしあき → (よしあきら)を参照

K4744 **義章妻**(よしあきのつま・田沢たざわ)?- ? 江中期武蔵の歌人；冷泉家門、
田沢義章(菅生の郷士/儒者/歌人；日光御門主人)の妻、
1798刊石野広通「霞関集」入、

[花ならばいとはん風の吹くかたになびくもあかぬ庭の青柳](霞関；春71/庭柳)

C4703 **義詮**(よしあきら・足利あしかが/本姓；源、尊氏3男)1330-67³⁸ 母；北条久時女の登子、武将、
1333新田義貞の鎌倉攻の父の名代として参加、1350参議/従四下、左近中将、
1358室町幕府2代将軍(；1358-67在位)；征夷大將軍、1363権大納言/67正二位、
没後；贈従一位左大臣、基氏の兄、義満・満詮の父、
歌人；「新拾遺和歌集」撰集を執奏、1357「宝篋院殿御百首」/67「新玉津島社歌合」主催、
「春日同詠百首和歌」「難波浦遊覧記」1364「住吉詣」67「中殿御会和歌」著、菟玖波21句入、
勅撰54首；風雅(470/1654)新千(11首89/287/441以下)新拾(15首27/99/261/311以下)、
新後拾(19首57/76/136/187以下)新続古(7首30/249/250/491以下)、1357延文百韻参加、
[年をへて変らぬものはたなばたの秋をかさぬる契りなりけり](風雅；秋470)
[夏草のことしげくとも玉銚の道たがはずは人もまよはじ]、
(新千載；夏287/延文百首；2730/夏草)、

[義詮(；名)の幼名/通称/法号]幼名；千寿王、通称；鎌倉大納言/坊門殿、法号；宝篋院

C4704 **良顕**(よしあきら・跡部あとべ、別名；良賢/良武、良隆男/本姓；源)1658-1729⁷² 母；柳生三厳女、幕臣、
1678書院番/85家督、1700頃失明/1719致仕、神道；渋川春海/儒；佐藤直方・浅見綱斎門、
19垂加神道；正親町公通門、神儒合一思想主唱、歌学、1714-24「垂加文集」、「神道辨」、
「猿楽伝」「儒神問答」「南山摘英集」「光海てらみ筆録」「光海翁和文集」「古今集序抄」外多数、
[良顕の通称/号]通称；宮内、号；光海てらみ/海翁/重舒斎、法号；仁山院

K4743 **善章**(よしあきら・岡田おかだ/本姓；源、岡田善武男)1706-76⁷¹ 岡田将監善譜の養嗣/幕臣；
御持筒頭/百人組頭/西丸御小姓組番頭/従五下豊前守、歌；広通「霞関集」入、

[花に恋ひ月に慕ひていたづらに逢はで過ぎゆく中の春秋](霞関;恋887)、
[善章(;名)の通称]九郎/将監/豊前守

- C4705 **義旭**(よしあきら・宮部みやべ、義方男)1755-? 1814存 母;宮部義正の妹、上州高崎藩大坂藩邸の生、
幼児に左眼失明、文武の道を極める、高崎藩老職/一時失脚し閉門、
大槻玄沢・杉田玄白を交流;常に西洋の新知識を吸収/後進の育成に尽力、「閑居随筆」著、
[義旭(;名)の字/通称/号]字;子旦、通称;亥朔/主馬蔵、
号;鶴夢/小桃源主人/烏川叟/残月翁
- C4706 **義章**(よしあきら・松沢まつざわ、助右衛門義徳男)1791-186171 信濃諏訪の金銀鼈甲商;丸屋の主人、
儒;佐藤一斎門/行商で飯田と江戸を往復;傍ら自学自習、国学;1833平田篤胤門、
師没後は平田鍊胤と親交;尊王論を主唱、朝鮮語の研究/晩年は地方史研究に専念、
1837「八夷我末」38「春秋大意」34「創儒原志」49「尊唐医談」、「漢字古訓考」「顕幽本紀」、
「古鈴之図」「春秋文例徴」「出羽国考」「魯西亜雑記」著、外編著多数、
妻;もと子(1802-79/国学者)、義任よしとう(1836-1918/国学者)の父
[義章(;名)の通称/号]通称;四郎右衛門/丸屋助右衛門/佐伝丸助、
号;春秋廼屋/鷺湖山人/春秋草庵、屋号;丸屋、法号;松沢義章しょうたくざしろう
- M4756 **好察**(よしあきら・国沢くにさわ、通称;才助)1798-187376 土佐土佐郡の土佐藩士、好材よきの弟
御納戸役、国学者、1736(天保7)「江戸御供日記」著
英明(よしあきら・源、母;道真女)→ 英明(ふさあきら・源、廷臣/詩人) B 3 8 9 7
慶明(よしあきら・鷺見) → 休明(保明やすあきら・鷺見すみ、藩士/歌人) 4 5 8 8
よしあきら → (よしあき)を参照
- C4707 **義篤**(義厚/義敦よしあつ・佐竹さたけ/本姓源;清和源氏、貞義[行義]男)1311-136252 母;海上胤泰女、
鎌倉南北期の武将;父と共に足利家に出仕/1352父没;家督嗣;常陸守護/常陸田中庄領す
左兵衛尉/常陸介/刑部大輔/駿河守/遠江守/右馬頭、足利幕臣では侍所、義宣(義信)の父、
参禅;1335臨濟宗夢窓疎石門;清音庵(のち清音寺)建立、連歌;菟玖波5句入、
[花の散る山の木陰をすみかへて](菟;春168/前句;うき身はよしや宿もさだめし)、
[義篤(;名)の通称/号]通称;小太郎/次郎、入道号;春山浄喜、法号;清音寺、
師義の兄/兼義の祖父
- C4708 **吉仍**(よしあつ・梅野とがの) ? - ? 戦国期武家;越前朝倉家の被官、歌人/連歌作者、
1560(永禄3)「性安寺殿十三回忌御追善」の連歌を興行、1561朝倉義景催の犬追物記録役、
1560宗養と「両吟何路百韻」催/62「永禄五年一乗谷曲水宴詩歌」/63「秋十五番歌合」参加、
[吉仍(;名)の通称]三郎右衛門尉/梅三右
- C4710 **嘉敦**(よしあつ・荒井あらい、号;井扇子)?-? 江中期享保1716-36頃の神社関係研究の好事家、
幕臣?、江戸の神社を歴訪/酒井家で神代巻を聴講、
1717「江府神社略記」、「高天大神社鎮座略記」著
- C4711 **義淳**(よしあつ・宮部みやべ) ? - ? 江中期享保1716-36頃;上州高崎藩士、
歌人、「快岸集」著、
[義淳(;名)の別号/通称]別名;淳義(;初名)/義休、通称;主馬蔵/喜右衛門
- C4712 **善淳**(よしあつ・芝田しばた) ? - ? 江中期享保1716-36頃の歌人、
地方(安藝・越後など)の歌人の歌460首を収録;1731「玉匣たまぐしげ集(新歌玉匣)」編
- C4713 **義敦**(よしあつ・佐竹さたけ、義明長男)1748-178538 母;佐竹義峯女;光源院、
1758羽後久保田(秋田)7藩主襲封、従四下/侍従/右京大夫、
困難な藩政打開策に尽力;鉱物探査のため平賀源内を招聘、
儒学振興;村瀬栲亭・中山菁莪を招聘、留守居役に佐藤晩得・朋誠堂喜三二を招聘、
詩歌書画を能くす/蘭画:源内門、「湖山風景」「佐竹曙山写生帖」「紅毛軍人図」外書画多数、
[義敦(;名)の幼名/別名/字/号]幼名;秀丸/次郎、初名;義尚、字;孔雲、
号;曙山しよざん/泰岳たいがく/泰嶺/大麓、法号;源通院、義和の父
側室は歌人 → 初瀬(はつせ・佐竹さたけ/三木、藩主妻/歌) J 3 6 4 6
- C4714 **義篤**(よしあつ・酒井さかい/有馬、酒井慶林男)1759-183981 筑後久留米の医者;父門、京の中西深斎門、
久留米の有馬家の養子;のち再度京で修学;帰郷して開業、
1822藩に願い出て藩内最初の人体解剖:1823「解体図志」著(;内蔵の実態を筆写)

- C4715 **義篤**(よしあつ・杉本すぎもと/本姓;藤原、了義翁男)1780-1826 47 母;杉本氏、石見安濃郡川合村の医者、
 医方;吉益家に修学、大阪で開業医、「養生訓」著、
 [義篤(;名)の字/通称/号]字;行夫、通称;有慶、号;硯州/松誉宗寿
- N4737 **義篤**(よしあつ・白幡しろはた/本姓;源、通称;源五/玉廼舎主人)1815-? 江戸の国学者;平田鍊胤門、
 「和漢帝王歌」「諸神拝詞記正訓」著
- 義厚(よしあつ・佐竹) → 義厚(よしひろ・佐竹さたけ/源、藩主/歌) K 4 7 5 1
 義篤(よしあつ・柳井) → 龜山(きざん・柳井、藩士/儒者/詩) K 1 6 5 9
 義篤(よしあつ・金子) → 義篤(ぎとく・金子南楼、絵師) G 1 6 0 4
 義篤(よしあつ・尾崎) → 政信(まさのぶ・尾崎おさき、歌人) O 4 0 2 3
 義稠(よしあつ・柳沢) → 信鴻(のぶとき・柳沢、藩主/俳人) C 3 5 2 8
 良温(よしあつ・河合) → 良温(よしはる・河合かわい、医者/儒者) G 4 7 1 1
 義敦室(よしあつ・しつ・佐竹) → 初瀬(はつせ・佐竹さたけ/三木、藩主妻/歌) J 3 6 4 6
- 4702 **能有**(よしあり・源みなもと、通称;近院大臣、文徳天皇第1皇子)845-897 53 平安前期廷臣;
 853(仁寿3)源姓;臣籍降下/872(貞観14)参議/890正三位/896右大臣/897没;贈正三位、
 「日本三代実録」編纂の筆頭者として着手;完成(901)前に没、
 母伴氏の周忌法会・息女温明殿女御巖子の願文や近院の山水障子六首を菅原道真に作成、
 源融とおる・藤原国経と交流、典侍藤原因香よるかと恋愛、歌人;古今六帖・万代集入集、
 勅撰4首;古今(737/848/869)続後拾遺(885)、
 [今はとて返す事の葉ひろひ置きてをのがものから形見とや見む](古今;恋737)
 (近院右大臣[能有]の返歌;自分の送った文だがあなたの形見としましょう)、
 (贈歌は典侍藤原因香;通って来なくなった男に昔の文を取り集め返す歌、
 頼めこし事の葉今は返してむわが身ふるれば置き所なし)
- M4751 **吉有**(よしあり・久米くめ、旧姓;水野)1810-1873 64 尾張名古屋の生、白川流神道を修学、
 大高の氷上姉子ひかみあねごじんじや神社の神職久米家の養子、熱田神宮権禰宜、三河知多郡住
 [吉有(;名)の別名/通称]別名;政治、通称;若狭/若作わかさ
 良有(よしあり・伊藤) → 蘆岸(ろがん・伊藤いとう、藩儒者) 5 2 6 2
- C4716 **好井**(よしい・谷たに/大神、谷垣守3男)1742-1805 64 土佐藩士;兄真潮の養嗣子/儒・国学;父門、
 医学も修学、上杉流兵学;山口剛三郎門、京・江戸を往来し諸家と交流、
 高山彦九郎・江上関竜・長久保赤水らと交流、1799「採薇日記」「夢路道行ふり」著、
 [好井(;名)の通称/号]通称;万六、号;採薇、
- C4717 **義家**(よしいえ・源みなもと、頼義男)1039-1106 68 母;平直方女、武将;正四下/左衛門尉/兵部大輔、
 下野・相模・武蔵の国守、1051前九年役に父に従い陸奥に従軍、安倍貞任を討ち争乱を平定、
 1083陸奥守兼鎮守府将軍に就任、後三年の役を平定、東国に源氏の勢力の根幹を築く、
 1098白河院の昇殿を許可される、猛将として有名;弓馬の名人、説話多く伝説化、
 歌:千載集103、連歌:菟玖波集1句入、義親・義国の父、
 [吹く風をなこそその関と思へども道もせに散る山桜かな](千載;春103、
 陸奥下向の時勿来の関にて/な来そと勿来を掛る/せは狭いの意)、
 [義家(;名)の幼名/通称]幼名;源太、通称;不動丸/八幡太郎
- G4726 **吉家**(よしいえ・赤座あかざ) ? - 1606 越前今庄邑主、永原孝治たかはる(加賀藩家老/連歌)の父
- P4776 **吉家**(よしいえ・安井やすい、通称;泰太郎)1834-90 57 近江蒲生郡鑄物師いもじ村の竹田神社神職、神道家、
 国学・歌;大国隆正門/神道・和漢学;権田直助門、尊攘運動に参加、1867家職嗣;竹田社祠官、
 維新後;権少講義/蒲生郡布教取締/神宮分教会副長歴任、歌人、1890(明治23)没
 善家(よしいえ・永田) → 桐隠(桐蔭とういん・永田、藩士/儒者) B 3 1 0 6
- C4718 **芳幾**(よしいく・落合おちあい/歌川うたがわ)1833-1904 72 江戸浅草田町の引手茶屋の生、
 絵師:1849頃に歌川国芳門、役者絵・美人画、三題晰・興画合の一員、維新後;挿絵画家、
 晩年;美術人形制作、1836-68「いろは文庫」47-62「女郎花五色石台」49-67「仮名読八犬伝」、
 1849-68「白縫譚」56-59「夢結蝶鳥追」59-66「伊呂波文庫」60-66「不思議塚小説桜」画、
 「俳優茶話」「春宵風見種」「太平記英雄伝」「葉唄糸之枝折」「両面織花田物語」外画多数、
 [芳幾(;号)の通称/別号]通称;幾次郎、
 別号;一恵斎/一蕙斎/恵斎/蕙斎/朝霞楼/晒落さいらく斎、法号;從善院

- 佳一(よいち・泉) → 久寛(ひさひろ・泉いづみ、商家/国学/歌) L 3 7 2 3
 義稻(よひね・中尾) → 義稻(よひね・中尾、国学/歌人) F 4 7 5 0
- C4719 義氏(よしじ・足利あしかが/本姓;源、義兼男)1189-125466 母:北条時政女、武将;鎌倉幕臣、
 妻;北条泰時女、有力御家人/蔵人・檢非違使/正五下左馬頭、和田の乱・承久の変に戦功、
 伯母北条政子13回忌に高野山金剛三昧院内に大仏殿を建立;大日如来像を安置、
 中に実朝・政子の遺骨を収納、1241(仁治2)出家/54(建長6)没、
 歌:続拾遺649、徒然草216段;時頼を自邸に迎えての逸話入、
 [あられ降る雲の通ひ路風さえて乙女のかざし玉ぞ乱るる](続拾;雑秋649/霰)
 [義氏(;名)の通称/号]通称;三郎/足利左馬頭、入道号;正義、法号;法樂寺正義
- C4720 淑氏(よしじ・紀き、淑文男)1271- ? 母;平盛次女、紀伊国造;
 日前国懸宮ひのくまにかかすのみや神主(宮司)、1281従五下/82紀伊守/従四下、歌人;藤葉集入、
 勅撰6首:新後撰(1249)玉葉(1901)続千載(448/1323)続後拾遺(992)新千載(1817)、
 [咲けばかつ散るもたえまの見えぬかな花より外の色しななければ](新後撰;雑1249)
- C4721 能氏(よしじ・大蔵おおくら、信喜[道加]男)?-1544 能楽;大和猿楽金春座太夫家庶流大蔵大夫家の生、
 父はその当主/父を初世とする大鼓方大蔵流宗家の2世:父の養弟、観世小次郎信光門、
 観世系の大鼓の名手となる:信光より伝受の小鼓にも適応し得る基本的秘法を大成、
 「鼓の書物の事」著、
 [能氏(;名)の通称/法号]通称;九郎、法号;道仙
- C4722 義氏(よしじ・中大路なかおじ/本姓;賀茂、伊氏これじ男)1731-8757 江中期神職、正四下/丹波介、
 若狭守、1768「七社奉幣発遣次第」著、
 [義氏(;名)の通称] 久馬丸/甚助
- K4776 義氏(よしじ・本阿弥ほんあみ)?- ? 江後期;歌人、
 1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
 [八千草にまじりて咲けど藤袴香はかくれなきものにぞ有りけるくる]、
 (大江戸倭歌;秋750/蘭)
- 義人(よしど・車屋) → 車屋義人(くるまのよしど、狂歌) B 1 7 7 9
- C4723 芳梅(よしゆめ・歌川うたがわ、姓;中島)1819-7961 大阪堀江の絵師:江戸の歌川国芳門、江戸住、
 天保-安政1830-60頃;役者絵・風景風俗画を描く、1854-57「大川仁政録」共画、
 歌川芳滝・歌川芳峰・歌川芳英・歌川梅雪・歌川梅春らの師、
 [歌川芳梅(;号)の通称/別号]通称;藤助、別号;一鶯斎/夜梅楼
- C4724 義兄(よしえ/ぎけい・小林こばやし/本姓;藤原)1743-182179 近江彦根藩士印具家家臣/京六角堂池坊住、
 歌人/博物学に通ず、国学;大菅中養父門、藩主井伊直中の命で琵琶湖の魚介を調査、
 1798「人麿祭の文哥」1806「湖魚考」15「万葉集中禽獸虫魚草木考」16「神楽歌」著、
 真宗僧海量・橋本(橋)経亮・藤井高尚と交流、歌;海量編「淡海風」・大平「八十浦の玉」入、
 [秋萩の咲きのさかりの此の庭にあらしのいたく吹かばをしけむ](八十浦;上巻末269、
 彦根藩士村田安足[泰足やたり]家のさかりの萩を人々集い詠む)
 [義兄(;名)の通称] 左内/元右衛門/村治、忠明ただあきの父
- C4725 吉恵(よしえ;通称・菅沼すがぬま、名;迪)?-? 江後期三河設楽郡御殿村の旧家の生/文筆家、
 1838-9(天保9-10)「坂柿一統記」編
- N4761 佳枝(よしえ・曾我部そがべ、旧姓;石井)1850-9647 備後尾道の生、伊予松山の曾我部政因の妻、
 国学/歌人
- よしへ(よしえ・岩佐) → 由子(よしこ・岩佐いわさ、歌人/茶人) L 4 7 6 5
 吉恵(よしえ・武蔵) → 石寿(せきじゅ・武蔵むさし、幕臣/博物) K 2 4 1 5
 佳江(よしえ・山田/前田) → 自仙院(じせんいん、藩主夫人/歌人) Z 2 1 8 6
 義方(よしえ・植田) → 義方(よしかた・植田/高須、商家/歌・俳) C 4 7 6 9
 義克(よしえ・松崎) → 義克(よしかつ・松崎まつさき、国学者) C 4 7 8 7
 善衛(よしえ・石川) → 汎兮(はんげい・石川いしかわ、商家/俳人) H 3 6 4 8
- C4726 良枝(よしえだ・清原きよはら、良季の長男)1253-133179 母;中原師守女、廷臣;7代の天皇の侍読、
 漢学者、穀倉院別当/局務/大外記/明経博士/大膳大夫/正四下、1323(元亨3)出家、
 1316「良枝記」/1308「清原良枝遺誠」、「朔旦冬至部類記」著、

- [良枝(；名)の号] 出家号；了空、法号；宝寿院真性
- 芳右衛門(よしえもん・島岡)→ 山鳥(三鳥さんちやう・岡おか、戯作者) E 2 0 5 7
- 芳右衛門(よしえもん・鈴木)→ 古式(ひさのり・鈴木すずき、藩士、国学者) J 3 7 9 6
- 芳右衛門(よしえもん・橋野)→ 方久(まさひさ・橋野はしの、商家/儒者/歌) G 4 0 7 9
- 芳右衛門(よしえもん・竹村)→ 喬宣(たかのぶ・竹村たけむら/野村、歌人) Y 2 6 1 0
- 由右衛門(よしえもん・竹内)→ 義方(よしかた・竹内/源、絵師/故実家) C 4 7 7 0
- 由右衛門(よしえもん・中沢)→ 重樹(しげき・中沢なかざわ、教育/歌人) C 2 1 1 5
- C4727 **与次右衛門**(よじえもん・佐瀬させ、克盛男) 1630-1711⁸² 会津の勸農家；常に農業研究、
作物・水・土の調査/農民に技術的指導、1684(貞享元)「会津農書」1704「会津歌農書」著、
「会津幕之内誌」「会津農耕録」著、養嗣子；林右衛門りんえもん
[与次右衛門(；通称)の名/別通称]名；末盛、別通称；吉十郎/仙右衛門
- C4728 **与次右衛門**(よじえもん・佐羽内さむらち)?-? 江末期南部盛岡の馬術家；一和流馬術師範、
臺目専守政陽の跡を継嗣、「審鑑集」「悉停集」著、
[与次右衛門(；通称)の名] 明正
- 与治右衛門(よじえもん・長井)→ 郁翁(いくおう・長井、葉種業/俳人) C 1 1 1 5
- 与治右衛門(よじえもん・内池)→ 信定(のぶさだ・内池うちいけ、歌人) H 3 5 5 0
- 与次右衛門(よじえもん・新井)→ 白石(はくせき・新井、儒者/幕政参画) 3 6 1 0
- 与次右衛門(よじえもん・斎部)→ 路通(露通/呂通ろうつう・斎部いむべ/八十村、俳人) 5 2 0 9
- 与次右衛門(よじえもん・渡辺)→ 武(たけし・渡辺わたなべ、藩士/記録) O 2 6 3 7
- C4729 **嘉矜**(よしえり・片桐かたざり、嘉保よしやす男)?-1820 会津藩士；天文・暦術；父門、1782父の跡を継嗣、
勘定役/与力/南北館算所/天文師/学校算師/1813致仕後も1816まで天文師/学校算師、
「算律国字解」「新製天球機巧」「算円考」「避震記」「輿地譜」「乘法変」「匡磁儀一枚」外著多数、
[嘉矜(；名)の通称] 林之助
- C4730 **吉男**(よしお・県犬養宿禰あがたいぬかいのすくね)?-? 奈良期廷臣；738内舎人/752大仏開眼引道、
759肥後守/764伊予介、万葉四期歌人1585(：738年橘奈良麻呂の集宴での歌)
[奈良山の峰のもみち葉取れば散るしぐれの雨し間まなく降るらし]、
(万葉1585/奈良麻呂宴での詠)
- C4731 **刷雄**(よしお・藤原ふじわら、仲麻呂[恵美押勝：706-764]男)?-? 母；伴犬養女、廷臣；越前守/図書頭、
詩；779「唐大和上東征伝」巻末に鑑真追悼詩入、751「懷風藻」編者説あり
- C4732 **善雄**(よしお・仲科/中科なかしなの宿禰)?-? 平安前期廷臣；788少外記、
791津連つむらじから仲科宿禰に改姓、793大外記、797(延暦16)「続日本紀」撰進；
その功で799従五下、798巨都雄を善雄に改名、800伊予介/814東宮学士/撰津介/817従五上、
詩人；凌雲1首・文華秀麗1首・経国2首入、
[善雄(；名)の初名]津連つむらじ巨都雄
- C4733 **是雄**(よしお/これお・藤原ふじわら、参議真夏男)?-831 平安前期廷臣；818従五下左衛門佐/従五上蔵人、
春宮亮、右大臣藤原内麻呂の孫、詩人；文華秀麗集1篇入(楽府「王昭君に和し奉る」)
- C4734 **善男**(よしお・伴とも/大伴、伴大納言ばんだいなごん、大伴国道男) 811-868⁵⁸ 廷臣；848参議/864大納言、
823淳和天皇の諱大伴を避け伴どもの宿禰に改姓、855「続日本後記」良房らと撰集、
866応天門変；放火罪で伊豆配流/配所で没、事件は「伴大納言絵巻」に描かれ有名
- C4735 **令緒**(よしお・藤原ふじわら、山城守永貞男)?-? 平安前期廷臣；文章生/対策に及第/弾正少忠、
詩；経国集2篇入
- L4716 **良雄**(よしお・浅野あさの/浅岡?、通称；彦三郎)?-1693 江前期；備前岡山の歌人、
歌；[類題吉備国歌集]入(5首)
- C4736 **良雄**(よしお/よしたか・大石おおいし、良昭男) 1659-1703^{切腹} 45 代々播磨赤穂藩浅野家の家老、赤穂藩士、
父早世のため1677祖父良欽より家督嗣/79家老職継嗣、軍学；山鹿素行門、儒；伊藤仁斎門、
剣術；奥村権左衛門門、1691(元禄14)主君浅野長矩の江戸城内刃傷事件；主君切腹、
京の山科に移住/1692同志を率いて吉良邸討入；吉良上野介を殺害、幕命により切腹、
1692「大石良雄復讐日記」著、忠臣蔵として脚本化/伝説化してゆく、
辞世[あら楽し思ひは晴るる身は捨つる浮世の月にかかる雲なし]、
[良雄(；名)の通称/号]通称；喜内/内蔵助、号；可笑、法号；忠誠院刃空浄剣

- P4714 **義雄**(よしお・松田まつだ、)1687- 1739⁵³ 近江彦根藩士、儒学/詩歌;沢村琴所(維頭)門、
歌:[彦根歌人伝・寿]入、
[義雄(;名)の初名/通称/号]初名;瑛、通称;義右衛門、号;一扁齋
- 04761 **好雄**(よしお・林はやし、) ? - 1796 伊勢一志郡の国学者;本居宣長門、
[好雄(;名)の初名/通称]初名;稽古、通称;久左衛門
- C4737 **吉雄**(よしお・五島ごとう) ? - ? 江後期寛政1789-1818頃尾張小牧の国学者:
1814本居春庭門、1790「仙洞新殿御幸行列」、「靈能真柱問答録」著、
[吉雄(;名)の通称] 八左衛門
- 04724 **吉雄**(よしお・中山なかやま/本姓;藤原、創健2男)?-? 遠江城飼郡の生/国学者:栗田士満門、
中山吉埴(よしたね/1754-1835/国学/歌/神主)の弟、
[吉雄(;名)の通称] 外記
- L4706 **好雄**(よしお・久山ひさやま、通称;衛門/一貫)1798-? 美作英多郡広井郷田殿村の医者、
歌人;1851(嘉永4)平賀元義門、日向の泰竜法師来訪、
1857大沢深臣「巨勢総社千首」入、
[大慶の山のさ男鹿いつよりか神の御贄に仕へそめけむ](巨勢総社千首;
弓削神戸大慶山での獵の鹿を宮人が料理し神に奉る例を聞きて詠む)
- M4765 **吉雄**(よしお・黒山くろやま、通称;織部/長門守)?-? 江後期:筑前遠賀郡芦屋町の神官、
妻;土師須摩子、国学者/歌;伊藤常足(1774-1858)門(;妻と同門)
妻 → 須摩子(須磨子すまこ・黒山くろやま/土師、歌/日記) I 2 3 4 6
- M4799 **吉雄**(よしお・佐々木ささき、吉晴男)1823-77⁵⁵ 信濃伊那郡の国学者/歌人;父門、
国学;福住清風・岩崎長世・平田鉄胤門、
[吉雄(;名)の通称/号]通称;清造/宇右衛門、号;吉甫
- P4706 **謙夫**(よしお・前野まねの、通称;善次郎)1823-68⁴⁶ 播磨宍粟郡の酒造業;山崎藩御用、国学者
- M4785 **義雄**(よしお・児島こじま、)1825- 1894⁷⁰ 信濃更級郡高野村の明高あきたか神社祠官、小出親昉門
漢学;松代藩士佐久間修理門、歌学;豊後の阿部鉄臧門、村の子弟教育に尽力
- P4736 **嘉雄**(よしお・宮内みやうち、旧姓;吉川)1826-1900⁷⁵ 常陸鹿島の生/宮内嘉長の養嗣子、
漢学;宮本水雲門、国学者/詩文・国書に通ず、下総海上郡銚子で守学塾を再興、
高崎藩銚子分領の藩士などに教育、「古事記伝抄」「神代三字史」著、松井簡治の父、
[嘉雄(;名)の初名/字/通称/号]初名;確、字;大節、通称;主人、号;君浦/嘉確
- M4707 **厳雄**(よしお・荻原おぎわら、旧姓;日下部)1836-1924⁸⁹ 大和の生/美濃高須藩士、
国学;1863(文久3)平田鉄胤門、歌人京住/のち新政府に出仕;東京住、
1869神祇官正七位権少祐/式部寮掌典、1898(明治31)儀礼官の御歌所参侯、
晩年;大和丹波市住;天理教の祭司指導に当る、
[鶯のどかなる野邊の霞は鶯のこゑにひかれて匂ひそむらむ](御歌所の研究所載)
[厳雄(;名)の通称] 雄之進
- C4738 **芳男**(よしお・田中たなか、幼名;芳介、医者田中隆三[如水]3男)1838-1916⁷⁹ 信州飯田の博物学者、
本草学;1850名古屋の伊藤圭介門/1861師と江戸に出る;1862蕃書調所物産局に出仕、
医学所薬園の管理兼任、1866仏国大博覧会御用掛/72埃国博覧会御用掛、多くの博覧会参、
国内の勸業博覧会開催/駒場農学校・大日本農会・同山林会・同水産会を創設、貴族院議員、
「燕窩集説」「怡顔齋食品考」編/1856「列朝謾選」63「医学館薬品会品物目録略記及物品録」著、
「東武植物誌」「有用植物図説」「大日本農史」著、外編著多数、
- 04771 **美雄**(よしお・東尾ひがしお、初名;載)?-? 河内志紀郡の国学者・歌;伴林光平(1813-64)門、
[美雄(;名)の字/通称/号]字;子厚、通称;勝次郎、号;杏陰
- P4710 **義男**(よしお・松岡まつおか、旧姓;磯部)1841-1920⁸⁰ 尾張熱田神宮祠官、国学者、
[義男(;名)の通称/別名]通称;陸奥守、別名;並木弘蔭
由男(よしお;俳名) → 文七(初世ぶんしち・中山/和歌山、歌舞伎役者) F 3 8 6 2
由尾(由緒よしお・春日) → 易重(やすしげ・春日かすが/藤原、神職/国学) F 4 5 7 6
吉尾(よしお・常盤) → 謙齋(けんさい・常盤ときわ、儒者) I 1 8 9 6
吉夫(よしお・青木) → 青城(せいじょう・青木あおき、儒者) C 2 4 2 7

- 吉雄(よしお・木田余) → 秀富(ひでとみ・木田余きだまり/源、藩士/歌) J 3 7 1 8
 佳雄(よしお・土屋) → 牧亭駒人(ぼくていにまんど、狂歌/歌人) D 3 9 7 4
 叔雄(よしお・伴) → 香竹(こうちく・伴ばん、国学者;歌/書) B 1 9 6 9
 善水(よしお・瀬見) → 善水(よしみ・瀬見せみ、大庄屋/歌人) H 4 7 2 8
 巖男(よしお・広瀬) → 巖男(いざお・広瀬、国学/歌) F 1 1 7 1
 義雄(よしお・紀平) → 五位鷲丸(ごいさぎまる、狂歌) H 1 9 0 7
 義雄(よしお・小野) → 顕栄(あきひで・小野おの、神職/国学) H 1 0 1 8
- C4739 義興(よしおき・大内おうち、政弘男/本姓;多々良) 1477-1528⁵² 武将;周防・長門・豊前の守護;
 1494家督継嗣、従三位/周防権介/左京大夫、1508足利義植を擁し上京;將軍に復職させる、
 管領代として幕政を掌握/1518致仕;周防へ帰国/21尼子経久と合戦中没、
 歌学;宗碩より古今伝受/飛鳥井雅俊より「古今秘訣」相伝、
 1511「大内義興都の富士の詠贈卷和歌」、「大内問答」著、
 [義興(;)名]の幼名/法号]幼名;亀童丸/六郎、法号;凌雲寺傑叟義秀
- N4749 義興(よしおき・鈴木すずき、) 1680-1754⁷⁵ 陸奥胆沢郡の大肝入、和学者、常雄の祖父、
 [義興(;)名]の初名/通称]初名;重良、通称;久兵衛
- C4740 能興(よしおき・原田はらだ/修姓;原) ?-? 江後期肥前唐津藩士、和算家:原田君熙・藤田嘉言門、
 藩主水野家移封に伴い1817遠江浜松に・1845羽前山形に移住、地方に關流和算を広める、
 1822扇面算題を浜松秋葉神社に奉納、渡辺謙堂の師、「諸算題」著(;算法問題集)、
 [能興(;)名]の通称/号]通称;団兵衛、号;勃郷
- 可興(よしおき・高橋) → 東臯(とうこう・高橋たかはし、農業/俳人) D 3 1 8 3
 良興(よしおき・小鹿) → 存(そん・小鹿こしか、医者/詩人/狂歌) O 2 4 1 7
- F4732 良長(よしおさ・ト部うらべ、良連ながつら男) 1792-1840⁴⁹ 母;本多康伴女、江後期神職/廷臣;神祇権大副、
 1821従三位/25正三位/35従二位、吉田神道の神祇管領長上、
 1813-40(文化10-天保11)「ト部良長日記」著
- C4741 良臣(よしおみ・中村なかむら、良友の弟) 1795-1850⁵⁶ 播磨赤穂藩士/歌人;長治祐義門、
 致仕後摂津伊丹住、良友男の良頭を養嗣子とす、国学;村上潔夫門/本居大平・富樫広蔭門、
 伊丹に家塾;子弟教育、1847-51歌集「心の種」、「語学階梯」「語学雑稿」「平家物語の歌」著、
 「和文集」著、「蓼舎たでのや集」(養嗣子で甥の良頭よしあき編)、大平撰「八十浦の玉」下巻;長歌入、
 [良臣(;)名]の通称/号]通称;孫四郎、号;蓼舎たでのや/蓼生園たでのその/蓼倉/蓼廼舎
- C4742 善臣(よしおみ・谷森たにもり/本姓;平) 1817-1911^{長寿95} 京の国学者・歌人;伴信友門、
 18862山陵奉行戸田忠至の下で山陵修築整備に従事;陵墓に関する諸書著述、
 1868神祇事務掛/制度事務局権判事/国史考閲御用掛、蒐集・校訂した史料;谷森本と称す、
 1855「諸陵考」56「御陵考」57「藺笠のしづく」63「谷森種松諸注進案」、「谷森雑著」外著多数、
 [善臣(;)名]の別名/通称/号]初名;種松/松彦、通称;二郎/外記/大和介、号;董壺/靖齋
- M4733 良臣(よしおみ・河合かわい、道臣ひろおみ男) 1822-62⁴¹ 播磨姫路藩士;河合良翰さとたか(道臣養子)の養子、
 姫路藩家老に就任;1862(文久2)京都警護下命の藩主酒井忠積に随従;流行の麻疹で客死、
 [良臣(;)名]の通称/号]通称;貞蔵/釘吉/甚四郎、号;素堂
- P4787 義臣(よしおみ・山田やまだ、旧姓;村井、通称;小平太) 1840-1920⁸¹ 筑後久留米藩士、国学者、
 維新後;篠山神社社司、1911(明治44)「篠山神社案内記」著
- 良臣(よしおみ・館) → 簡斎(かんさい・山本、医者/本草) Q 1 5 7 0
 義臣(よしおみ・里見) → 義亮(よしすけ・里見さとみ/石城、国学者) N 4 7 2 2
- 4703 良香(よしか・都みやこ、姓かばね;宿禰すくね/のち朝臣、貞継男) 834-879⁴⁶ 平安前期廷臣;869対策に及第、
 少内記、873(貞観15)従五下/大台内記;873言道を良香と改名、875文章博士/876侍従、
 「日本文徳天皇実録」編纂に参加、詩歌;文粹・和漢朗詠集・新撰朗詠集・扶桑集・日観集入集、
 「都氏文集」「道場法師伝」著、晩年;密教;東寺真然門、仙術;大峰入山;神仙的逸話、
 古今集466、在中ありなかの父、
 [流れいつる方だに見えぬ涙河沖ひむ時や底はしられむ](古今;物名466/をき火、
 涙が乾くとき悲しみの真の深さがわかるだろう)、
 [良香(;)名]の別名/字]初名;言道、字;都賢
- M4720 芳香(よしか・片岡かたおか、通称;勝之進) ?-? 江中期;江戸住の薩摩藩士、

国学者/歌人;村田春郷(1739-68)・春海(1746-1811)の兄弟に入門、歌に長ず、
春海家集[琴後集](村田たせ子編刊)の跋文4人の1(1809[文化6]長月)

- K4746 **是香**(よしか・田中たなか) ? - ? 江後期摂津難波岡町の国学者;本居大平門、
歌;大平撰「八十浦の玉」下巻入、
[いはまもる清水を見れば秋なして涼しくぞ思ふ夏の日なれど](八十浦;795/水辺如秋)
- 4704 **是香**(よしか・六人部むとべ、六人部忠篤男)1798or1806-6358or66歳 京の国学者/歌人/神道家:
叔父の山城乙訓郡向日神社祠官六人部節香ときかの養子;継嗣、1823江戸の平田篤胤門、
平田派関西の重鎮;篤胤の神道思想継承者;孝明天皇に進講、晩年は職を長男是房に譲渡、
京に神習舎を開設;真木和泉・物集高見の師、向日町にも家塾開設、歌学;歌格研究に長ず、
1815「秀麗集」編/49「竜田考」51「古今集撰緝考せんしゅうこう」55「篤能玉籤」61「長歌玉琴たまごと」、
長歌「篤廼木綿垂すずのゆうしで」、「古道本論」「葵舎漫筆」「顕幽順考論」「六人部是香家集」外著多、
[是香(;号)の名/通称/別号]名;惟篤、通称;縫殿い/宿禰すくね/美濃守、
別号;葵舎/葵溪/篤舎すずのや/一翁
- 04762 **美香**(よしか・林はやし、旧姓;栗田)1825-187045 尾張熱田神宮祠官、国学・歌;植松茂岳しげおか門
[美香(;名)の通称/諡]通称:相模守、諡;猛豊奇功魂彦
- P4754 **美香**(よしか・村瀬むらせ、)1829-189668 尾張名古屋藩士、儒者、歌道;氷室長翁ながとし門、
藩校明倫堂主事/太田代官/白鳥材木奉行/錦織奉行兼木曾材木奉行/納戸役、
維新後;公用方に出仕、詩歌・絵画・製陶・篆刻・茶道に通ず;特に篆刻精通;篆刻会開催、
妻;市江鳳造(1768-1852)の女、陶芸;義父の鳳造門、窯を造り陶芸家として茶器を製作、
[美香(;名)の通称/号]通称;駒三郎/八郎右衛門、
号;信天/長洲/不二山人(自窯から富士が見える)
- M4709 **美香**(よしか・押上おしあげ、美喬長男)1835-187743 飛騨高山の地役人、直泰の兄、国学者;
1868(明治元)飛騨郡代が逃亡;郡中会所書役の父(1816-69)と共に混乱を收拾、
[美香(;名)の別名/通称]別名;由良/憲章、通称;市次郎
良香(よしか・吉田) → 蔵澤(ぞうたく・吉田よしだ、藩士/絵師) L 2 5 1 4
よし香(義香よしか・本間) → 道偉(どうい・本間、医者/俳人) B 3 1 0 0
俣香(よしか・立花) → 鑑通(あきみち・立花たちばな、藩主/詩歌俳) D 1 0 9 4
- C4743 **義景**(よしかげ・安達あだち/本姓;藤原、景盛男)1210-5344 母;武藤頼佐女、武将;出羽介/秋田城介、
祖父は源頼朝の側近安達盛長、鎌倉幕府評定衆、引付頭/1241従五上/52引付頭、
法号;願智、歌人;玉葉集546、
[桜あさの麻生をふの下露おきもあへずなびく草葉に秋風ぞ吹く](玉葉;秋546)
(万葉2687;桜麻さくらをの麻生をふの下草露しあればかしてい行け母はしるとも;作者不詳)、
(麻生は麻の生えている原、桜麻は麻の一種/万葉歌は男を家に誘う恋の歌)
- C4744 **義景**(よしかげ・朝倉あさくら、初名;延景、孝景男/本姓日下部)1533-73自害41 武将;越前一乗谷城主、
1542足利義輝より改名;義景/1570から信長と戦闘;敗戦、山田庄六坊賢松寺で自害、
二条派歌人、1562「一乗谷曲水宴詩歌」、「秋十五番歌合」催、通称;孫二郎/法号;松雲院
- 04789 **芳蔭**(よしかげ・藤木ふじき、) ? - 1837 紀伊田辺商家、国学者;山内繁樹(1774-1846)門
[芳蔭(;名)の通称/屋号]通称;五郎兵衛、屋号;福島屋
- M4778 **美影**(よしかげ・小林こばやし、)1800-6263 江戸の国学者;平田篤胤(1776-1843)門、
[美影(;名)の初名/通称/号]初名;美矩、通称;元次郎/三右衛門、号;瓦斎/濟雨亭
- C4745 **美蔭**(よしかげ・荒木あらき) ? - 1868 河内の河内郡津守神社社祠/歌人・岩崎美隆門、
1846美隆「杜園こうえん詠草」編、
[美蔭(;名)の通称]久五郎/辰五郎
- 4705 **淑蔭**(よしかげ・井上いづえ、名;豊麿・政利・英淑・濟蔭、英利男/本姓藤原)1804-8683 武州入間勝呂生、
1824江戸で国学/歌;清水浜臣・光房・井上文雄門、一時戯作を著す、のち入間郡に帰郷;
農業の傍ら国学・考古学・有職故実の研究/1869大学中助教、喜文の父、1826「万語梯」著、
1827洒落本「かくれさと」「雀の宿」52「しのぶかをか」59「はないくさ」著、
1860「本草久々太知考」「めくみの花」、66「歌格新論」67「櫻亭随筆」著、「近葉六帖」撰、
「櫻亭詠草」「雅語集説」「石劔考」「神兵稜威考しんべいみづこう」外著多数、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、

[かくばかり人のなさけのうすらひを思ひ渡るはあやふかりけり]、

(大江戸倭歌;恋1535/寄氷恋)

[淑蔭(;字)の通称/号]通称;多蔵、

号;千穎ちかい/櫻亭てい、遙岳邇水亭/拙囃豚知己陳人せつそうとんちきちんじん/南山寿詞林仙

- N4770 **美蔭**(よしかげ・高谷たかたに、旧姓;奥野)1805-7167 河内狭山藩領の近江栗太郡の代官、
儒学/詩;巖垣東園(松苗)門、歌人;[鳩のうみ]入、
[美蔭(;名)の初名/通称]初名;知義、通称;健十郎
- L4739 **良蔭**(よしかげ・井桁いげた、通称;良典/屋号;土佐屋)1809?-5850? 備中浅口郡の庄屋;土佐屋、国学
- N4701 **喜蔭**(よしかげ・佐々木ささき、)1812- ? 江後期;伯耆米子の勝田神社宮司、歌人、
国学;因幡の飯田秀雄門、のち教導職
- N4735 **吉蔭**(よしかげ・下田しもだ、通称;相模)1817-8973 肥後益城郡の国学者/歌人;中島広足門
「類題鏡池集」著
- N4763 **美蔭**(よしかげ・園その、号;松樹園)1817-9478 京の国学者/歌人、近江大津に住、
歌道の興隆に尽力;渡わたり忠秋・拝郷蓮茵れいんと並称される、
- 04725 **吉景**(吉影よしかげ・中山なかやま、吉行よしゆき男)1821-190383 遠江城飼郡の国学者、
国学;八木美穂よしほ門、
[吉景(;名)の通称] 政司
- M4774 **芳蔭**(よしかげ・小谷こたに、名;勝見/通称;右近)1828-191184 因幡鳥取の栗溪神社祠官、国学者、
小谷古蔭(ふるかげ・ひさかげ)の弟、1891兄古蔭の家集「六杉園集」編
良景(よしかげ→たかかげ・山村)→ 良景(たかかげ・山村やまむら、藩士/代官) L 2 6 6 7
- C4746 **良楸**(よしかじ・中臣なかとみ/大中臣、姓かばね;朝臣、智治磨男)?-? 平安前期廷臣;式部少丞/正六上、
良舟の弟・壺演の兄、詩人、経国集入
- C4747 **義量**(よしかず・足利あしかが、4代将軍義持男)1407-25夭逝19歳 1422(16歳)室町幕府5代将軍、
1422兼良に故実「公事根源」筆を依頼?
- M4708 **良和**(よしかず・奥山おくらま、)1644-171774 江戸の幕臣旗本;千石、御書院番、国学者/歌人、
茂睡[鳥の跡]入・了然尼撰(茂睡編)[若むらさき]3首入、
[さかりとは此まま見ばや咲残る花こそ花のよはひなりけり](茂睡[鳥の迹]春101)、
[さもあらばあれし軒端に時鳥月ゆゑもらす初音なりせば]、
(若むらさき;43古宅郭公/あれに荒れを掛る/荒れた軒から月光と同様初音もほしい)、
[遙かなるもろこしとても隔てなし波の小船をぶねの風の力に](同;201船)、
[良和(;名)の通称] 甚兵衛/虎助/喜三郎
- 4706 **幸和**(よしかず・ゆきがず・吉見よしみ/本姓;菅原・源、恒幸3男)1673-176189 母;佐藤良信女の蓮子れんこ、
1690(元禄3)三輪勝弥と称し尾張名古屋藩主徳川綱誠に近侍、
1694兄幸寛の病で吉見に復し後継となる/上京し神道・国学;松下見林門、
1696(元禄9)家督を継嗣;名古屋東照宮祠官、1699刑部大輔/正四下左京大夫、
1704(宝永元)再度上京/神道;正親町公通・玉木正英門/儒;浅見綱斎門/歌;中院通躬門、
有職;伏原宣通・壺井義知・平田職俊門/正親町公通の猶子となる;垂加神道の奥義を極む、
1728祠官を辞職;研究に専念、垂加神道・伊勢神道に疑念;日本書紀神代卷を神道根拠とす、
河村秀根・天野信景の師/幸混ゆきむらの父、「国字辯」「五部書説辯」「神代正義」「神代尚綱」、
「風水集」「幸和詩集」「幸和歌集」「幸和詠草」/1736「五部書説辨」60「神道大綱」外著多数、
[幸和(;名)の幼名/字/通称/号]幼名;定之助、字;子礼、通称;定右衛門、
号;春学/緑山/恭軒/風水翁/囊玄子/竜洞亭/風水散人、 変名;三輪勝弥
- C4748 **義一**(よしかず・山鹿やまが、義行3男)?-? 父は山鹿素行の弟で肥前平戸藩家老、
義甫よしすけ(平戸藩士)の弟、江中期伊勢藩藤堂佐渡守の家臣/久居藩に山鹿流兵学を導入、
「采幣製作書」著、通称;源五右衛門、養嗣子は義肥
- P4761 **吉員**(よしかず・百瀬ももせ、)1729-178456 信濃松本の商家/国学者/歌人;冷泉家入門、
[吉員(;名)の字/通称/号]字;李竜、通称;湊屋仁左衛門、号;魯堂/文山/幽雅居士
- C4749 **能一**(よしかず・松岡まつおか)1737-180468 大坂御城付京橋組同心、宅間流和算家;内田秀富門、
大坂に宅間流の確固たる地盤を築く、1761「宅間流円理」81「列子図法」81・86「列子術」、
1806「算学稽古大全」「算法絹篩」、「弧積密術起源」「弧背密術起源」「立円術起源」外著多数、

- 門人;足立信頭・岡之只・松村俊英・林慎之・高橋至時ら、
[能一(;)名)の別名/字/通称/号]別名;長延、字;子料、通称;良助/貞八、号;梅林
- P4796 **可量**(よしかず・横関よこぎ、通称;弥五左衛門)1738-1806⁶⁹ 彦根藩家老庵原家の家臣、
歌人;[彦根歌人伝・亀]入
- C4750 **公和**(好和よしかず・西原にしはら、種正男)1761-1844⁸⁴ 母;白井久慶女、筑後柳川藩士、
国学;西原梶樹ちようじゅ門、父に随い江戸藩邸に移る、
1773藩主立花鑑通の世子鑑門の諸稽古指南/77側勤、1810江戸詰用人、
1818藩主鑑賢のとき留守居役/小姓頭格用人/1821隠居、25帰郷、
馬琴らと耽奇会創設/「兔園小説」(社友)入、朋誠堂喜三二と親交、
武術・歴史/書画・茶・花道に通ず、「耽奇漫談」「柳川明証図会」著、「一甫いっぽ漫集」編、
[公和(;)名)の別名/通称/号]別名;公助、
通称;半三郎/六弥太/新右衛門/一輔/一甫かざとし/いちすけ/いっぽ、
号;南野/梭江さう/松蘿館(;)家号)/松蘿山人
- C4751 **好和**(よしかず・川口かわぐち) ? - ? 江後期文筆家、
1799(寛政11)随筆「奇遊談」著(銭屋庄兵衛版)
- P4727 **吉一**(よしかず・丸山まるやま、)1765-1842⁷⁸ 近江彦根藩士/歌人;[彦根歌人伝・亀]入、
[吉一(;)名)の通称/号]通称;土右衛門/蔵太、号;青柳舎/如仙
- M4716 **嘉一**(よしかず・柏淵かしづち、時憲ときりの男)1785-1835⁵¹ 美濃多芸郡高田の庄屋/儒者/詩人、
国学;小原君雄・富樫広蔭門、静夫じずおの父
[嘉一(;)名)の通称/号]通称;藤太夫、号;蛙亭あてい/修斎
- C4753 **敬一**(よしかず・鹿野しかの、通称;与市)?-1868 江後期;1842水戸藩士、「天言録」著
- K4745 **美一**(よしかず・季羽) ? - ? 伊予大洲藩士/国学;本居大平門、
大平撰「八十浦の玉」下巻長歌入、
[桜花咲きのさかりはあら山の奥にも庵せまくしほしも](八十浦:735)
- K4784 **義一**(よしかず・脇屋わきや) ? - ? 江後期;歌人、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[春もはやま近く来ぬと梅の花香るぞ告ぐる心なるらし](大江戸倭歌;冬1332/年内梅)
- C4752 **善一**(よしかず・田沼たぬま/本姓;藤原/別姓;篠原、屋号;えびのや、田沼善富男)?-? 江戸の有職家、
国学;小山田与清ともきよ[1783-1847]門/随筆・画に長ず、1826(文政9)「治政談」著、
1827「筆の御霊みたま」編(武具・衣服・調度等を文献・絵巻・古画から抜粋し絵による考証)、
1833「細長の考」著、「善一筆記」「稲負鳥考」「紐刀鞘巻考」著
- C4754 **宜和**(よしかず・高田たかだ、幼名;亀太郎)1821-86⁶⁶ 江後期駿河沼津の生、国学者、
1842(天保13)駿河庵原郡高部村の高田七郎左衛門利弧の養子、1842高田家の家督嗣、
駿河地頭長崎氏の采地の取締役、農業改良・勸業に尽力、維新後;敬神教導;報徳社創設、
報徳教義の普及を図る、「寧舎集」「神霊成生始原考講説」「農業月令」「民間婚礼式」著
- P4774 **義和**(よしかず・矢野やの、旧姓;藤井)1821-94⁷⁴ 豊後速見郡日出藩士の家の生、国学者、
豊後直入郡玉来町の郷士矢野家(松屋)の養子、豪商松屋の資産で岡藩内外の志士を支援、
松屋は[天下の浪人問屋]と称される、1862(文久2)寺田屋事件後に幽閉、1868士族;岡藩士、
長崎で貿易関係に従事、帰藩後;1870長州藩大楽源太郎脱藩事件に連座;禁固刑;除族、
1889大赦令により復権;復族、
[義和(;)名)の字/通称/号]字;子節、通称;勘三郎、号;豹隠、屋号;松屋
- C4755 **義和**(よしかず・高田たかだ、通称;七左衛門)?-? 江後期駿河庵原郡柏尾の国学者:
富樫広蔭[1793-1873]門、
「古今和歌集略標」「伊勢古今略標」著/「辞動静概略傍註并証歌」編
- K4792 **義和**(よしかず/よしより?/よしまさ?・大鐘おおがね)?-? 江後期;歌人、二本松藩士義鳴(清風)の一族?、
歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[とどむべき碇もがもな大船の浮きて漂ふ人の心を](大江戸倭歌;恋1636/寄碇恋)
- C4756 **芳員**(よしかず・歌川うたがわ) ? - ? 嘉永-明治3(1848-70)頃江戸芝の絵師;歌川国芳門、
横浜絵の先駆者の1、1851-56「関太郎鈴鹿故語」56「衣伊達奥州合戦」59「華軍応仁譚」画、
1860「横浜細見」61「正写横浜異人図」、「五国異人横浜上陸図」「横浜開港図会」外画多数、

- [歌川芳員(；号)の通称/別号]通称;次郎吉/次郎兵衛、別号;一寿斎/一川/一川斎いっせんざい
 N4752 **善和**(よしかず・瀬口せぐち)1837- 1865**早世**29 筑前福岡藩の茶坊主、歌人;野村東望尼門、
 [善和(；名)の通称] 三兵衛/吉一
- Q4704 **良運**(よしかず・吉井よい、号;松舎、良信[吉井家45代]男)1782-1841**60** 撰津西宮広田神社社家の生、
 吉井家46代良行・47代良知の弟、吉井家傍系3代を継嗣、国学者・歌人;大江広海ひろみ門
- P4732 **義一**(よしがず・三谷みたに、通称;秀太郎)?-1899 江後期;京の神職;松尾神社宮司/国学者
 致和(よしかず・武藤) → 致和(むねかず・よしかず・武藤、商家/国学) B 4 2 1 8
 義和(よしかず・松平) → 明矩(あきのり・松平、藩主/学芸/詩) D 1 0 7 6
 義和(よしかず・佐久間) → 洞巖(とうがん・佐久間、儒者/詩文) C 3 1 3 1
 義和(よしかず・吉良) → 子礼(しらい・吉良きら、儒者) Q 2 2 4 7
 義比(よしかず・熊谷/熊屋)→ 五右衛門(4代ごえもん・熊谷/熊屋くまや、商家/藩政) L 1 9 7 4
- C4757 **好風**(良風よしかぜ・藤原、滋実男or正野男?)?-? 母;従五下南勢貴、平安前期廷臣;898左兵衛少尉、
 911出羽介/従五下、歌人;古今85(；春宮帯刀陣での桜花の歌)、
 [春風は花のあたりをよきて吹け心づからやうつろふと見む](古今集;二春85)
- C4758 **好風**(よしかぜ・平、茂世王男、貞文さだぶん父)?-? 平安前期廷臣;近衛中将/宇多上皇側近、
 913亭子院歌合左方人に参加
- F4707 **好風**(よしかぜ・姓不詳) ? - ? 平安前期廷臣;898亭子院女郎花合参加、
 [秋霧をみなへしなびく吹く風をこの一本ひととに花は散るらし](女郎花合34)
 ☆藤原好風(C4757)説と平好風(C4758)説(萩谷朴の説)がある
- C4759 **義風**(よしかぜ・水野みずの)1702- 1783**82** 代々備前岡山藩士;番頭を勤む;禄千石、
 歌人;下冷泉家入門、土肥経平・佐々木盛常と交流「水野義風歌稿」著、
 [義風(；名)の通称/法号]通称;万之介/顕吉/三郎兵衛、法号;靈性院
- C4760 **吉風**(よしかぜ・山田やまだ/大江)1804-62**59** 陸奥盛岡の神職/多賀神社神官/国学・歌に通ず、
 吉田松陰と交流、通称;丹後/斎宮、「贈答歌集」「吉風自撰百首」「山田おくて」著、
 1826-27「山田吉風自筆歌稿」50「御神楽手本」著
- P4755 **良風**(よしかぜ・村田むらた、) ? - 1862 江後期;近江彦根藩士/国学者・歌人、
 国学・歌;村田泰足やすたり(1749-1823)門、延年のぶとの父、歌;[彦根歌人伝・続寿]入、
 [良風(；名)の通称/号]通称;翁介、号;凝烟舎(ぎょうえんしゃ→すすのや/師の号)/遊翁
- N4714 **義風**(よしかぜ・佐藤さとう、通称;侑作ゆうさく)1843-91**49** 陸奥(陸前)名取郡の国学者/歌
 良風(よしかぜ・片山) → 良風(りょうふう・片山かたやま、俳人) L 4 9 7 5
 徳風(よしかぜ・富田) → 徳風(とくふう・富田とみた、商家/儒/国学) L 3 1 3 3
- C4761 **義方**(よしかた・良岑よしみね、参議良岑衆樹男)?-947? 平安前期廷臣;内蔵権頭/美濃守、920蔵人、
 936右近少将/939五位蔵人/945右近中将/正四下左近中将、監命婦と交渉(大和物語)、
 歌人;後撰160(；かつみの命婦が他の男の所に引き取られたので贈る歌)、
 [言ひそめし昔の宿の杜若かきつばた色ばかりこそかたみなりけれ](後撰;夏160)
 息女 → 義方女(よしかたのむすめ・良岑よしみね、拾遺歌人) C 4 7 8 0
- C4762 **良賢**(よしかた・清原きよはら、宗季むねすえ男)1348-1432**85** 母;丹波行定女、南北室町期廷臣;漢学者、
 大膳大夫/大外記/少納言/明経博士/正四下;内昇殿を許可、1363釈奠座主を勤る、
 後光厳・後円融・後小松3代の侍読;経書を講ず、足利義満の師、清原の家学の中興、
 1397出家/浄居庵住;訪ね教を乞う者多数、没後1444従三位追贈、1406「白峯寺縁起」著、
 「永徳御即位記」「永徳御譲位部類」「放生会記」「良賢真人記」著、
 [良賢(；名)の号/通称]号;文翁/常宗(；出家号)、道号;徳峯、
 通称;清少納言入道/大少納言入道/五条少納言入道、法号;玄教院
- C4763 **良賢**(よしかた・宇佐美うさみ/神徳、宇佐美勝行男)1590-1647**58** 代々宇佐美流兵学の家、
 1624頃尾張藩主徳川義直に出仕;神徳左馬助を名乗りその兵法を神徳流と称す、
 江戸に出て兵法を講ず/水戸藩主徳川頼房に出仕;1631(寛永8)致仕/高野山に入山、
 のち紀伊和歌山藩主徳川頼宣に出仕;同地に没(58歳)、良永よしながの父、
 「宇佐美三代覚書」「武経要略」「松隣夜話」著、「宇佐美氏記録」著(没後1711刊)、
 [良賢(；名)の別名/通称]別名;勝興、通称;造酒介/造酒正/神徳左馬助
- C4764 **義方**(よしかた・山野辺やまのべ/本姓;源、義政男)?-1704 常陸水戸藩士/1683従後下/右衛門尉、

- 1692伊賀守、「山野辺氏系図」著、
[義方(；名)の別名/法号]後名；義清、法号；蓮光院
- C4765 **義方**(よしかた・佐久間さくま、洞巖の長男)1677-1704**早世**28 仙台の儒者；遊佐木齋門/書；上野景資門、
「聳翠文集」「仁説問答」「西銘旁通図」著、
[義方(；名)の幼名/字/通称]幼名；辰之助、字；共之/子直、通称；喜内
- 04721 **能賢**(よしかた・長井ながい、通称；仁左衛門)?-1706 佐渡の州吏、神道・歌；橘三喜みつよし門
- M4740 **好賢**(よしかた・木村きむら、)1693-1739**47** 安藝賀茂郡の神道・国学・歌；鴨祐之・玉木正英門、
[好賢(；名)の通称/号]通称；梅松/助七、号；言志堂/惟則子
- C4766 **良方**(よしかた・徳田とくだ、通称；幸助、良忠男)1695-1761**67** 京の生/長門萩藩士/故実家、
官武の故実；壺井義知門/弓法；伊勢貞方門、藩主毛利吉広に召還され廊下番として近侍、
1716「装束要領抄」注
- C4767 **義方**(よしかた・林はやし) ? - ? 江中期尾張名古屋の医者；藩家老成瀬家に出仕、
詩文；宮崎古崖門、1730「古崖先生文稿」編、「怪痴続抄」「温故漫録」著、
[義方(；初名)の別名/号]後名；文清、号；東阜、通称；小林玄説
- M4700 **吉賢**(よしかた・大林おぼやし、通称；越後守)?-? 江中期三河宝飯郡の神職；天王社神主、
国学；鈴木梁満(宣長門/三河吉田国学者)門、1774「荷田春満訓点古事記」を書写
- C4768 **義方**(よしかた・高橋たかはし) ? - 1780 1720日向延岡藩主牧野家の家臣高橋義陳の養子、
延岡藩士；1722出仕/27家督継嗣/1747藩主の常陸笠間への転封に随従；笠間藩士、
藩の役職を歴任/中老；1749笠間領山外郷の一揆収拾に尽力、笠間藩史料「聞訟礎石集」著、
[義方(；初名)の別名/通称/法号]別名；無端、通称；丹治/左助、法号；秋江院
望月左伴の実弟
- C4769 **義方**(よしかた・よしえ・植田うえだ、高須乗成男)1734-1806**73** 三河吉田の商家；吉田藩御用達、
詩歌・俳諧に通ず、能楽の太鼓を嗜む、国学；賀茂真淵門/賀茂真淵の縁戚、
菅江眞澄の歌の師、
1803(享和3)「寓木集」編、1806(文化3)「蕉翁発句故事考」著、
[義方(；名)の字/通称/号]字；子直/子植、通称；茂六/七三郎/栄作/貞作、
号；石梁/一蓬舎/古帆/麦雪
- P4728 **義方**(よしかた・三浦みうら、旧姓；田丸)1735-1802**68** 伊勢の生/河内交野郡坂村の医者三浦家を嗣、
[義方(；名)の字/通称/号]字；陳盈、通称；玄純(代々の称)、号；尚綱楼
- H4737 **美方**(よしかた・田中たなか) ? - 1831 美濃大垣の絵師、国学；本居宣長門、
歌；本居大平「八十浦の玉」中巻；長歌2首410-411入、
[美方(；名)の別名/通称/号]別名；美芳、通称；洞慶、号；洞松/洞昌
- C4770 **義方**(よしかた・竹内たけうち/本姓；源、元吉男)1758-1838**81** 父は後桃園天皇代乳人慎子の家士、
廷臣；禁裏使番；京の百万遍竹門屋敷住/1808奏者、絵師；吉田元陳門/有職故実に通ず、
文人画家、「古実式目諸道鈔」「古実諸礼抄」「公家門跡方諸礼」「書式要伝」外著多数、
[義方(；名)の別名/字/通称/号]別名；重方/直、字；観象、通称；由右衛門、号；有節
- K4747 **義方**(よしかた・浜名はまな/本姓；源)?-? 紀伊和歌山藩士、国学者；本居大平門、
大平撰「八十浦の玉」下巻入、
[此夜らの起きみる軒に霜ふりて衣手さむく月かたぶきぬ](八十浦；844冬月)
- P4728 **義方**(よしかた・三浦みうら、通称；寛作、旧姓；円城寺)1781-1856**76** 相模小田原藩士三浦家を嗣、
武術；剣術・槍術の師範、歌・俳諧に通ず、地誌「相中襍志そうちゅうざし」著
- 04774 **義方**(よしかた・雛田ひばた/号；葵亭/宮本院、)1787-1846**60** 越後蒲原郡の加茂神社祠官、
中清なかせよ(一学/松溪/1819-86/尊攘運動)の父
- 04785 **好方**(よしかた・藤井ふじい、)1791-1870**80** 信濃松本藩士、国学・歌；中村守臣門、
藩学准助教、
[好方(；名)の初名/通称/号]初名；初方、通称；小弥太、号；楓室/必安舎将園
- C4771 **好謙**(よしかた・吉成よしなり、高好男)1799-1862**64** 讃岐香川郡の鶴尾八幡社司；1818社職を継嗣、
神道；父門/歌；藤井高尚門/詩；三木半邨門、和漢学を修学、好信(弦山)の父、
友安三冬・山田梅村と交流、1829「万葉集為己」55「無敵論」、「言葉の花園」「窓春風」著、
「神拝考」「地震弁」著、

- [好謙(；名)の字/通称/号]字；士讓、通称；左志摩/薩摩/讓、号；五十樞舎
- C4772 **義方**(よしかた・黒野くろの) ? - 1848 幕臣；鳥見役、山鹿流兵学に通ず、「孫子講解」著、
[義方(；名)の字/通称/号]字；子敬、通称；源太夫、号；正斎、法号；南海院
源太左衛門保土(書物奉行)の父、外孫に窪田清音きよね(国学/兵法家)
- 04784 **美質**(よしかた・福羽ふくば、) ? - 1875 江中後期；石見津和野藩士、国学者、
美静びせい/よしず(1831-1907/国学者・政治家)の父
- 04790 **吉賢**(よしかた・藤森ふじもり、通称；理兵衛)?-? 江中後期信濃伊那郡の商家/屋号；鳴海屋、
歌人；桃沢夢宅(1738-1810)門
- K4781 **由賢**(よしかた・よしかた?・島田しまだ)?-? 江後期；歌人、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[枯れたてる汀の蘆をふすまにて雪降る池にねぶる鴛鴦をしどり](大江戸倭歌；冬1226)
- C4773 **義賢**(よしかた・綾野あやの/初姓；香西)1820-9172 讃岐高松藩士；1836(天保7)綾野に改姓、
勘定奉行職；藩の事蹟に通ず；「高松藩記」(藩の事蹟数百巻)著、
「英公外記」「英公外記別録」「紫縁斎自備」著、
[義賢(；通称)の名/別通称]名；正笏、別通称；弥八郎
- C4774 **義方**(よしかた・中村なかむら)1824-189370 但馬出石藩士/和算家；白石長忠・福田理軒門、
師白石長忠の遺書は多く義方が所有/維新後東京芝西久保に私塾赫々塾を開設、
のち福島県大槻村住；開塾、1883雑誌[珠算学びの友]を発刊、
1857「算家系譜附録」59「点竄術交商起源」66「年賦捷解」著、
[義方(；名)の通称/号]通称；幸蔵/幸助、号；赫々堂
- C4775 **義方**(よしかた・朝倉あさくら、通称；仙吉)?-? 江後期遠江金谷の和算家；和田恭寛きょうかん門、
宮城流算学を修学、「百花天工区別」著
- C4776 **義方**(よしかた・杉浦すぎうら、義権よしのり男)?-? 江末期史家；父を助け江戸幕府の事蹟編纂に尽力、
父編纂の「国学歴史管鑑後編」「徳川一統志外編」校、
[義方(；名)の号] 瑤川逸人
父 → 義権(よしのり・杉浦すぎうら、史家) F 4 7 9 8
- C4778 **義方**(よしかた・福田ふくだ、通称；三右衛門)?-? 江戸期常陸茨城郡吉沼村の郷士、「古今花譜」著
- C4779 **義質**(よしかた・那須なす、義利男)?-? 江末期因幡鳥取藩士/代々馬術家として出仕、
馬術；小此木直春門；大坪本流の奥義を究める、「馬術問答」著
- N4750 **義方**(よしかた・鈴木すずき、通称；辰之助)1832-6938 讃岐香川郡高松城下の豪商；伏石ふせい屋の主人、
儒学・歌；友安三冬みふゆ門、伝五郎(実業家/政治家；1857-1910)の父
- C4777 **義方**(よしかた・三輪みわ、通称；彦輔)1838-190265 江戸の国学者；井上文雄・横山由清門、
歌学；伊庭秀賢門、1881(明治14)頃元老院書記生/晩年；女子高等師範学校教授、
「韻鏡仮字用格」著、「鈴屋翁靈祭歌集」共作(7人；猿渡容盛・根本真苗らと)
- N4771 **義方**(よしかた・高橋たかはし、通称；佐太郎)1845-192579 下総香取郡の歌人；佐々木信綱門
- 義質(よしかた・貝原) → 楽軒(らくけん・貝原、儒者) B 4 8 1 0
- 義質(よしかた・斎藤) → 愿中(げんちゅう・斎藤さいとう、儒者) L 1 8 2 6
- 義質(よしかた・三浦) → 竹溪(ちくけい・三浦、藩士/儒；徂徠学) C 2 8 8 4
- 義質(よしかた・佐久間/新井) → 滄洲(そうしゅう・新井/佐久間、藩儒/詩) B 2 5 8 1
- 義質(義方よしかた・井尻) → 好古(よひこ・井尻いじり/源/松島、国学) L 4 7 4 0
- 良賢(よしかた・跡部) → 良顕(よしあきら・跡部、幕臣/神道/歌) C 4 7 0 4
- 義方(よしかた・佐竹) → 宗三(そうさん・佐竹、武家故実/弓術家) H 2 5 4 3
- 義方(よしかた・中島) → 浮山(ぶざん・中島なかじま、儒者/講説業) C 3 8 2 8
- 義方(よしかた・山名) → 雲巖(うんがん・山名やまな、儒者) D 1 2 6 6
- 義方(よしかた・三谷) → 宗鎖(そうちん・三谷みたに、儒者/茶人) I 2 5 4 9
- 義方(よしかた・吉見) → 定丸(さだまる・紀、狂歌/黄表紙) C 2 0 4 4
- 義方(よしかた・三浦) → 一舟(いっしゅう・三浦みづら、藩士/詩) H 1 1 3 1
- 義方(よしかた・毛利) → 壺邱(こきゅう・毛利/膝、儒/詩文) F 1 9 5 3
- 義方(よしかた・村上) → 冲面(おきつら・一榎庵いっかあん、狂歌) C 1 4 8 9
- 義方(よしかた・松井) → 蠅翁(ようおう・松井/平、医者/国学者) 4 7 6 7

義方(よしかた・牧) → 義比(よしとも・牧まき/藤原、官人/記録) F 4 7 0 2
 義方(よしかた・雛田) → 葵亭(きてい・雛田ひなだ、神職/国学) L 1 6 5 2
 義方(よしかた・中村) → 寛(ひろし・中村なかむら、酒造業/国学) K 3 7 3 8
 義方(よしかた・山口) → 九腕(きゅうえん・山口やまぐち、藩士/儒者) M 1 6 3 2
 義方(よしかた・大関) → 劍峰(けんぼう・大関おおせき、国学/儒者) M 1 8 3 1
 義方(よしかた・新井) → 玉世(たまよ・新井あらい、絹商/狂歌師) V 2 6 3 0
 義方(よしかた・座光寺) → 為忠(ためただ・座光寺ざこうじ/佐久間、領主/歌人) X 2 6 2 7
 義方(義質よしかた・木下) → 幸文(たかふみ・木下、農業/歌人) 2 6 1 5
 義方(よしかた・松平) → 容保(かたもり・松平まつだいら、藩主/朝政) V 1 5 7 7
 義賢(よしかた・中野) → 敬斎(けいさい・中野なかの、儒者/医者) F 1 8 6 1
 吉賢(よしかた・渡部) → 主税(ちから・渡部、好事家) C 2 8 2 5

C4780 **義方女**(よしかたのむすめ・良岑よしみね)?-? 平安中期歌人、父は正四下左近中将で歌人、
 拾遺1181(；藤原忠君との春霞に寄せた恋の連歌贈答)、
 [藤原忠君；春 良岑の義方が女むすめのもとに遣はすとて
 思ひ立ちぬる今日けふにもあるかな (今日おなたを訪ねようと思ひ立ったよ)、
 女；かゝらでもありにしものを春霞]
 (別にそうでなくてよいのに春霞ではないのだから/立つ・かかるは春霞の縁語)
 父 → 義方(よしかた・良岑よしみね[?-947?])、廷臣/後撰歌人) C 4 7 6 1

C4781 **義勝**(よしかつ・足利あしかが、義教男)1434-43夭逝10歳 1442室町幕府7代将軍/翌年病死、
 母；裏松[日野]重光女(観智院)

C4782 **良勝**(よしかつ・宇佐美うさみ/本姓；藤原、孝忠男)1489-1564自殺76 父は越後柏崎琵琶島城主、
 武将；越後府中城主上杉顕定の家臣/宇佐美流軍学の祖；史伝孫子の兵法を好む、
 権略の才に秀でる、のち上杉謙信の軍師、1564(永禄7)逆心の長尾政景を野尻湖で刺殺、
 自らも屠腹して没、1536「武経要略卷」、「武経要略卷内集」著、
 越後魚沼郡妻有城主宇佐美定満を良勝とする説あり、
 [良勝(；名)の初名/通称/諡号]初名；定行/定満、通称；駿河守、諡号；養勇庵主良勝備公

04700 **良勝**(よしかつ・藤堂とうどう、多賀良政男)1565-1615戦死51 母；藤堂忠高7女、戦国期武将；藤堂家家臣、
 藤堂高虎の従弟、1577三木城攻で初陣/各地転戦；武将として有名/大坂陣の右先鋒、
 若江の戦で木村重成隊と激突；1615(慶長20)5月6日落城前日奮戦戦死、
 良精が家督嗣、禅吟の祖父

C4783 **義勝**(よしかつ・武藤むとう、越後本庄城主本庄繁長2男)1573-162351 安土桃山江戸前期武将；越後生、
 出羽庄内尾浦城主武藤義興の養嗣子；1588(天正16/16歳)尾浦城主、89上洛；豊臣秀吉の臣、
 従五下/豊臣出羽守の称を得る/1598太閤検地反対の一揆扇動の嫌疑により領地没収、
 朝鮮出兵に功あり信濃に領地を給される/のち本庄に帰り本庄姓に復す、
 1613(慶長18)本庄家の家督相続；岩代福島城主となる、「大宝寺義勝上洛日記」著、
 [義勝(；名)の幼名/別名]幼名；四郎次郎/千勝丸、別名；充長

C4784 **義勝**(よしかつ・樺木いちき/くぬぎ)?-? 砲術家；南蛮樺木流の大砲火術の祖、
 1633(寛永10)仙台藩士の井上可安に流派伝授を行う、「南蛮樺木流砲術伝授書」著、
 [義勝(；名)の通称] 民部少輔みんぶのしょう

C4785 **吉勝**(よしかつ・藤田ふじた、通称；伊右衛門)?-? 江前期大橋流和算家；大橋清行門、
 1673(延宝元)刊「算学級聚抄」著

I4731 **吉勝**(よしかつ・山川やまかわ)?-? 江前期上方の俳人、1678西鶴「物種集」入、
 [喰はれては成仏したる魚荷籠](物種集/前句；はるばる都へ死にゝのぼった)

C4786 **義勝**(よしかつ・三田さんだ、宗春3男)1701-7777 母；井上通女うじよ、1711同族三田勝富の養子、
 1719家督嗣/丸亀藩士；1722江戸詰、国典；跡部光海・伴部武門/儒・経史；林鳳岡・室鳩巢門、
 帰郷後義弟敬勝に家督を譲渡；養家を出て一時小島素助と称す、伊予・阿波を遍歴、
 1734(享保19)丸亀藩儒学兼侍講；藩主京極高或・高矩・高中三代に出仕；藩政改革に参画、
 詩文に長ず；朝鮮使節の応接唱酬；文名を博す、1718通女家集「和歌往事集」編、
 1719「秋のともし火」編/22「養子訓」、「才子論」、「守成筆録」、「正学説」、「明断説」、「養生論」著、
 [義勝(；名)の幼名/通称/号/変名]幼名；六之進/清七郎、通称；伝左衛門、

号;蘭室らんしつ/桐江とうこう、変名;小島素助もとすけ

- C4787 **義克**(よしかつ/よしえ・松崎まつぎ、通称;勘右衛門)?-? 江中期;神道・故実家:多田義俊(1698-1750)門、1731(享保16)「中臣祓古義」/37(元文2)「十二所権現社縁」、「日本書紀辨書」著
- C4788 **儀克**(よしかつ・熊谷くまかい、通称;元章)?-? 若狭の処士/絵師、1773(安永2)「解体約図」画
- P4757 **美勝**(よしかつ・室むろ、) 1735 - 1803⁶⁹ 紀伊和歌山藩の茶博士、国学者、茶道;表千家7世如心斎天然てんねん宗左(1705-51/紀州徳川家出仕)門、[美勝(;)名)の初名/通称/号]初名;時章、通称;玉転、号;友甫/混花亭
- 04759 **吉勝**(よしかつ・林はやし、通称;新吉/内匠たくみ)?-1830 江戸の国学者;平田篤胤門
- C4789 **芳勝**(よしかつ・歌川うたがわ、姓;石渡)?-? 江後期江戸の醤油業;幕府の御用達/廃業し絵師、画:歌川国芳門、作画期;弘化-安政1844-60頃、浄瑠璃を嗜む、「忠臣蔵」画、[歌川芳勝(;)号)の名/別号]名;庄助/勇助、別号;一秀斎/一勢斎/清元千年太夫
- N4767 **好勝**(よしかつ・田村たむら、旧姓;大野)?-? 江後期;伊予大洲藩士;江戸留守居役、国学・歌人;本居大平(1756-1833)門、[好勝(;)名)の通称]加右衛門
- C4790 **喜勝**(よしかつ・中島なかじま、中村正令3男)1817-63^{暗殺}47 肥前南高来郡守山村庄屋の生、町年寄久松家の執事、中島名左衛門麒一郎の養子、長崎に出て軍学・砲術;高島秋帆門、西洋砲術に精通;長崎地役人に砲術を教授/1861豊後岡藩(or府内藩)に出仕、1863長州藩に招聘;砲術を教授/藩命で下関砲台を建設中に暗殺、歌人;「喜勝詠草」著、[喜勝(;)名)の初名/通称/号]初名;幸平/孝平、通称;名左衛門、号;松堂、法号;正覚院
- C4791 **慶勝**(よしかつ・徳川とくがわ/本姓源、美濃高須藩主松平義建2男)1824-83^{60歳}、母;水戸藩主徳川治紀女規子、江戸高須藩邸に生/1849尾張徳川家を相続;尾張14代藩主、従一位権大納言、藩政改革断行、外交・将軍継嗣問題で井伊直弼一派と対立;一時隠居を命じられる/のち赦免、1862政治活動を再開;長期に藩政の実権を把握、朝幕融和を志し王政復古の役割に影響大、正室;丹波長富女矩姫かねひめ/側室;4名、1870名古屋知事/75(明治8)三男16代藩主義宜没に伴い再び家督を継嗣、「奇言録」「春夢録」「存慮之趣」/1862「西上記」著、「諫争録」編、[慶勝(;)名)の幼名/別名/字/通称/号]幼名;秀之助、初名;義恕/慶恕、字;君恪、通称;中務大輔/掃部頭かもんのかみ、号;盛斎/月堂/梅柳園、諡号;文公、法号;賢徳院
正室 → 準子(のりこ・徳川とくがわ、矩姫かねひめ/歌人) J 3 5 3 0
- 幸勝(よしかつ・吉見) → 幸勝(ゆきかつ・吉見/園崎/菅原/源、藩士/神道家) E 4 6 4 0
- 吉勝(よしかつ・村越) → 道伴(道半どうはん・村越、幕臣/記録) G 3 1 9 7
- 善勝(よしかつ・水野/京極) → 高明((たかあきら・京極、幕臣/詩人) L 2 6 5 0
- 義勝(よしかつ・今村) → 竹堂(ちくどう・今村、儒者/家塾教育) D 2 8 5 9
- 義勝(よしかつ・田阪) → 其桃(きとう・田阪/大原屋、俳人) S 1 6 4 9
- 義勝(よしかつ・芝) → 順(したごう・芝しば、神職/国学/歌) U 2 1 7 9
- 義雄(よしかつ・奥田) → 常雄(つねかつ・奥田/橘、藩士/国学者) B 2 9 9 7
- C4792 **良門**(よしかど・平たいら、将門の長男)?-? 平安中期武将;伝説的人物、940父戦死後に一族を率いて挙兵を企て奥州・西国を廻る、のち近松浄瑠璃「関八州繫馬つなごうま」・山東京伝読本「善知鳥安方うとうやすかた忠義伝」等に脚色
- C4793 **義門**(よしかど・守屋/森屋もりや/本姓;物部、義知男)1682-1762⁸¹ 讃岐の儒者/暦学・易学に通ず、高松藩に出仕、「易学啓蒙要義」「易学啓蒙探索鈔」「星魂術」「周易秘伝鈔」「周易占法儀」「周易本義旨註鈔」「筮法要儀」「本卦要儀」「占法儀要儀」「庭拝法記」著/外編著多数、[義門(;)名)の別名/通称]別名;尚義、通称;氏右衛門
- L4793 **義門**(よしかど・大内おおうち、通称;縫殿ぬい)1721-1801⁸¹ 陸奥仙台藩国老/登米郡西郡邑主、藩主伊達重村の時に国老/伊達周宗にも出仕、国学者
- C4794 **芳庸**(よしかど・歌川うたがわ) ? - ? 明治存 幕末期武蔵八王子の提灯屋業/絵師:歌川国芳門、一時歌川国直門、嘉永1848-54頃より作画、1851「人真似目覚旅路」54「勇猛百人一首」画、「新ぱん柳樽」「葉うた一つぶより」画、[歌川芳庸(;)号)の別号]一隣斎
- C4796 **宜門**(よしかど・中島なかじま、幸田林平2男)1807-94⁸⁸ 父は因幡鳥取藩士/1818鳥取藩士中島清賀養子、

初め城詰坊主/1841還俗;徒士/御破損奉行、維新後藩校尚徳館編纂掛/国学教授、
隠居;高草郡布施村の日吉神社祠官/米子の勝田神社祠官、歌人:衣川長秋・斎藤彦磨門、
さらに伴信友・加納諸平門、能書家、1852「類題稲葉集」著、家集「回水園集」(息子宜行編)、
[浦のはな落つる夕べの秋風に入江の雁の声ぞそひ行く]、

(沖探容画の因幡八景;湖山落雁)、

[宜門(;名)の字/通称/号]字;祝甫/祝保/長録、通称;宜右衛門、号;回水園

- M4742 **義門**(よしかど・木村きむら、通称;織部)?-?安政1854-60頃没 紀伊和歌山藩士;大御番、歌人
04764 **吉門**(よしかど・原はら/本姓;藤原、)?-1864 阿波那賀郡の原八幡神社神主、国学者、
[吉門(;名)の号]松下亭/清逸
P4708 **嘉珪**(よしかど・正田まさだ、)1817-1887 71 近江栗太郡の国学者/歌人;[鴉のうみ]入、
[嘉珪(;名)の通称]糸之助/庄之助/万蔵
C4797 **義門**(よしかど・筑紫つし、筑紫四郎右衛門道門男)1836-65溺死 30 代々筑前福岡藩士;博多櫓門に生、
藩士;禄千石、一時原家の養子;原守次郎と称す、1864藩命で長州に赴き幕府恭順を説く、
長州藩士前田孫右衛門・檜崎弥太郎らの助命に尽力、
1865三条実美ら五卿の長州より太宰府移動により冤を晴らすため京で奔走、
乙丑獄に連座;禁固刑/薩摩へ脱走途上に那珂川で溺死、「西洋兵法取捨弁」「禦寇私議」著、
[義門(;名)の字/通称/号]字;伯義、通称;虎吉/守治郎/衛まる、号;子性
K4733 **義門**(よしかど・横山よこやま) ? - ? 江後期加賀金沢藩士;禄8百石、
1860-67頃能登鹿島郡所口町奉行、「所口并奥郡関係書類」著
C4795 **義門**(よしかど・佐伯ささき、号;杞国迂叟)?-? 江末明治初期の備中の本草家:
1850萩藩内の領民のために「救饑提要」著(救荒食品の製法・用法の解説書)、
1873「山蚕養法」著
吉門(よしかど・越入道) → 吉門(きつもん・津下、俳人) J 1 6 3 1
4708 **義兼**(よしかね・足利あしかが、義康男)1154-1199 46 母;藤原範忠(熱田神宮大宮司)の女、
鎌倉初期の武将;源義家の曾孫、足利家2代当主、源頼朝に属し義仲男義高の残党を討伐、
平家追討には範頼の軍下で戦功;上総介、奥州討伐に従軍;1190藤原氏残党の追討使、
戦功在り従四下、鎌倉幕府御家人、妻は北条時政女の時子(女婿)、
1195東大寺に出家;義称と称す/下野足利荘の樺崎寺に隠棲
C4798 **良兼**(よしかね・清原きよはら、宗尚男)1307-61 55 母;二階堂行継女、鎌倉南北期廷臣;少外記、
正後下/主水正/1336出家、歌人;新後拾遺672、
[山深く尋ねてきけばほととぎす過ぎつるかたの雲に鳴くなり](新後拾;雑春672)、
[良兼(;名)の入道号] 真性しんしょう
N4793 **良懐**(よしかね・堤つみ、轍斎男)1699-1753 55 近江坂田郡の医者;父門、歌人;[彦根歌人伝・龜]入、
1753(宝暦3)1月没/4月に父没、大防だいぼうの父
L4760 **嘉包**(よしかね・稲束いなづか/本姓;岡本)1710-1805長寿 96 撰津池田の間屋/屋号;麴屋(甲字屋)、
醸造初め多種業の豪商/河川開鑿・土地集積・横丘の材木植栽を推進、多田家の御家人、
「稲束家日記」著(嘉包より起筆)、嘉光が家督嗣、
[嘉包(;名)の字/通称/号]字;大忠、通称;小兵衛(代々の称)、号;幽岡/不蔵亭(山荘名)
C4799 **好矩**(よしかね・志摩/志麻しま)?-1838 能登七尾の藩御用達丹後屋の生、
和算家;富山の高木允胤門、算額の奉納/六乗開方まで可能な特殊な算盤を使用、
のち家勢衰え舟乗りとなる、1827「算法矩合」、「算法術解」、「算法点竄」著、
[好矩(;名)の通用/屋号]通用;吉兵衛、屋号;丹後屋、則正の父
L4754 **吉金**(よしかね・板津いたづ、)1820-1896 77 岡山藩陪臣;備前金川の日置家の家老、
神道・歌;小神おがみ富春(言霊学派の祖)門、
[吉金(;名)の通称/号]通称;喜八郎/喜左衛門、号;注連手
D4700 **義兼**(よしかね・牧野まきの、通称;吉助)?-? 江後期越中今石動の和算家;福田金塘門、
1943(天保14)刊「算題雑解前集」校訂
良金(よしかね・大石) → 主税(ちから・大石おおい、討入) C 2 8 2 4
慶兼(よしかね・岡本) → 経賢(つねかた・岡本おかもと/賀茂、神職) F 2 9 4 8
義懐(よしかね・藤原) → 義懐(よしちか/よしかね・藤原、中納言/歌) E 4 7 4 5

義懐女(よしかねのむすめ・藤原)→ 義懐女(よしちかのむすめ・藤原、歌人) E 4 7 6 1

- 4710 **美材**(良樹よしき・小野おの、通称;野美材、俊生[後生]男、篁の孫)?-902 平安前期廷臣/漢学者;文章生/紀伝道に修学、892対策及第/伊勢少掾/少内記/897従五下・大内記/899伊予権介、900信濃介、詩人/歌人/能書家、大宰府の菅原道真是美材の訃報にその能書と詩才を惜しむ詩を賦す、詩;文粹入、歌:勅撰3首;古今(229/560)後撰(321)、
[をみなへし多かる野辺にやどりせばあやにくあだの名をや立ちなむ](古今;秋229)
- D4701 **珍材**(珍材よしき・平たいら、時望[877-938]男)?-? 平安前期廷臣;美作介/従四上、中納言惟仲の父、歌人;960(天徳4)内裏歌合念人ねんにんとして参加(;主殿頭)、
- D4702 **義樹**(よしき・武衛ぶゐ/本姓;斯波しば)?-1696 但馬竹野の砲術家;鳥居正教門;三木流を修学、七流の砲術の奥義を究める、太田撰津守資次に出仕、さらに中川流短筒術;松永重最門、大阪住;砲術武衛流の祖、「武野定矩之巻」著/「武衛流長銃陰陽巻」「武衛流砲術薬法巻」伝、[義樹(;名)の通称/法号]通称;市郎左衛門、法号;梅光院
- D4703 **嘉樹**(よしき・大塚おつか)1731- 1803 73 故実家;公家有職/壺井義知の影響を受ける、京の慈野井公麗・高倉永藩門;装束・調度に関し修学、衣紋の技術を習得、江戸で有職故実を講ず/伊勢貞丈・黒沢雉岡・服部栗斎と交流、漢学・詩文・律令にも通ず、「装束調度故実」「服飾類聚」「冠服沿革記」「虎画風情」、「蒼梧叢書」「蒼梧随筆」「大塚謾筆」、「嘉樹随筆」「古今武家装束」「歳時故実大概」「駿岳琥珀」「駿台叢書」「職原鈔名義考」、「すてられもせぬ物語」「船の名に丸の称ある事」「駿岳琥珀」「服飾正誤」「服飾類聚」、「ままたらぬ」「りうもん考」「尺度考」「歴代將軍略譜」/1798「校正装束拾要抄」外著多数、[嘉樹(;名)の字/通称/号]字;子敏/敏卿、通称;市郎右衛門/一郎右衛門、
号;蒼梧そうご/老邁/茅園/駿岳、法号;駿岳院
- D4704 **嘉樹**(よしき・長野ながの)1733 - 1806 74 医者;古医方、「傷寒論講録」著、[嘉樹(;名)の字/号]字;伯華、号;梅山/振古齋
- D4705 **芳材**(よしき・森もり) ? - 1807 土佐藩士/兄の森広建の養子;1778家督継嗣、切支丹改役/御舟奉行/軍備改役/側用役を歴任、1796琉球船の幡多郡下田浦漂着の応接、「土佐史料」「森家日録」「森家日記」「森芳材公日記」、1789「芳材公随筆」著
[芳材(;名)の通称]才八/勘左衛門
- D4706 **義材**(よしき・難波なんば、玄生の長男)?-1816 鳥取藩医、医・儒;1776亀井南冥門、稲村三伯(海上随鷗)と同門、長崎で医学修学、1784家督継嗣/1797藩主池田治道の匙役並、1807侍医、詩歌に長ず、「野洲詩稿」「医学小言」「折肱余録」、1808「熊志」著、
[義材(;名)の字/号]字;大幹/野洲、号;忠庵/春庵/芦翁/羅雀庵
- D4707 **良材**(よしき・梶野かじの、久隅矩信2男)1773-1853 81 幕臣梶野矩満の養子、幕臣;膳奉行/広敷用人、1831(天保2)奈良奉行/1833-34頃用人穂井田忠に命じ正倉院古文書を整理させる、1836京町奉行/38作事奉行;三河矢矧橋の架け替えを指図、1840勘定奉行・水野忠邦の信頼厚く天保の改革に参画;43忠邦の失脚により御役御免、「山城大和見聞随筆」「笠置紀行」1839「三州矢立筆記」著、歌;蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[吹き渡る風も涼しきおばしまにあつさをはらふ水の音かな]、
(大江戸倭歌;夏638/避暑、欄おばしま;てすり)、
[良材(;名)の別名/通称/法号]初名;秀名、通称;斧次郎/平助/平大夫/土佐守、
法号;現功院
- M4773 **嘉木**(よしき・小島こじま、旧姓;水原)1785-1857 73 伊予松山藩家老菅家の家臣、歌人、「時宜帖」共編(村田箕山・奥平鶯居と)、
[嘉木(;名)の通称/号]通称;又兵衛、号;三玉斎/一鷗/宗遊
- K4748 **良樹**(よしき・田中たなか) ? - ? 江後期周防吉敷郡岩淵村の国学者;本居大平門、大平撰「八十浦の玉」下巻;長歌[うぶすな市杵島御社に参詣]入
- M4757 **好材**(よしき・国沢くにさわ、本姓;奏)1787-1815 早世 29 土佐土佐郡の土佐藩士、好察よしあきらの兄、国学者
[好材(;名)の通称]鉄太郎/唯七
- 04769 **嘉樹**(よしき・樋口ひぐち、通称;久平)?-1851 伊勢津の生/松坂の豪商長谷川治郎兵衛江戸店に出仕、

- 1806江戸店は全焼;経営悪化;再建に尽力、国学・歌;長野美波留(1775-1822)門
- 4709 **芳樹**(よしき・近藤こんどう、田中源吉の長男)1801-8080 周防吉敷郡岩淵村の国学者、来訪の原古処門、のち1823上方で国学・歌:村田春海・本居大平門、律令・有職;山田以文門、1840帰郷、長州藩士近藤家を継嗣/長州萩に家塾[抄宗寮]を開設/藩校明倫館で和学を教授、維新後は宮内省出仕/皇学歌道御用掛となる、家集「寄居ごうな歌集」、「寄居文集」「葦手考」著、1832-64歌学「寄居歌談ごうなのうたがたり」著/1832「たのむのかり」著、53「類題風月集」編、1854「霊祭私議」61「梅桜日記」65「葬祭私議」、「みをつくし」「源語奥旨」「寄居随筆」外著多、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[おのれまつむなしき床になき初めて今宵も鳥のねをやかこたん]、
(大江戸倭歌;恋11627)、
[芳樹(;字)の名/別字/通称/号]名;源次/裕/秀年/眞蔭/稔彦/宜寸、初字;子潜、通称;晋一郎/眞一郎/新一郎、号;寄居ごうな/家居子庵/風月史生/古木/緑陰/丹霞/方本養嗣子;門弟佐甲久棟(近藤芳介よしけ)
- 04765 **良樹**(よしき・原はら、) 1803 - 187371 信濃伊那郡の商家/国学者・歌人;
歌;服部菅雄・市岡猛彦門/国学;平田鍬胤門、
[良樹(;名)の別名/通称/号]別名;逸臣/邦彦、通称;六右衛門、号;篤垣屋すずがきや
- D4708 **美城**(よしき・大原おはら) ? - ? 江戸期尾張熱田社の社家、
「熱田新宮考」「熱田大宮」「熱田大神宮神体伝聞記」「尾羽張伝」著
- D4709 **良材**(よしき・林はやし、通称;少左衛門、親茂男)?-? 江後期岩代会津藩士、「会津執政年表」著
- D4710 **美樹**(よしき・八木やぎ、美穂よほ[1800-54]男)?-1900 江後期;遠江小笠郡三浜村浜野の国学者、父の遺言に従い多くの国書を写す、1845(弘化2)「万葉端詞例」著、
[美樹(;名)の通称/号]通称;八木造、号;中森/中岳、法号;中岳良興居士
- L4799 **芳樹**(よしき・大橋おはし、秋元正直男)1832-190574 母;周子、武蔵小石川郷の年寄役の家の生、1844(弘化元)俳諧;麗水庵雪山門;麗海と号す/48(嘉永元)歌;下振空之助門、1848今様・長唄;杵屋録松門;芸名芳村幸太郎、49八百吉を三平に改称/名;正麗/字;重明、書;竹山紋蔵門/1850(嘉永5)火災で家財焼失/豊島郡志村に転住;子弟教育で生活、1864(元治元)国学;中条信礼門/歌;金谷直恒門、1868戊辰戦を逃れ駿河遠江に遊歴;遠江浜松の普大寺に出家;法諱を芳樹ほうじゅ、諸国行脚後;1872還俗;平三郎と改称、武蔵日吉村で教育/豊島郡多芸村高畑道場に移住;大橋博三郎の養嗣子となる、1873日新・敬業・文開・致遠4義校の教師/1874(明治7)豊島郡大塚村多岐神社祠官、1876高田町田代神社祠官/五郷28箇村神職を勤務;
近郷よりハウジョウさん(芳樹の訛)と称される、
[江上鶴;すみの江の松にむれみるあしたづはしづえをあらふ浪かとぞ見る]、
[芳樹(;名)の別名/通称/号]別名;正麗/字;重明、通称;八百吉/三平/平三郎、
号;芳村幸太郎/麗海、法諱:芳樹ほうじゅ
- 義材(よしき・足利) → 義植(よしたね・足利/源、室町幕府将軍) E 4 7 3 4
 義樹(よしき・桂山) → 彩巖(さいがん・桂山、儒者) 2 0 0 2
 芳幾(よしき・落合/歌川) → 芳幾(よいく・落合/歌川、絵師)
 芳樹(よしき・長田) → 美年(よしとし・長田ながた、藩士/歌人) N 4 7 8 4
 良材(よしき・上条) → 柳居(りゅうきよ・上条かみじょう、与力/国学) D 4 9 3 4
 喜吉(よしきち・窪島/田中) → 冠帯(かんたい;号・田中たなか、農政家) H 1 5 7 2
- D4716 **善激**(よしみき;名・大井おおい)?- ? 文政1818-30頃の史家;座頭瞽女や切支丹研究、「漁隠叢書」著
- D4711 **義清**(よしまよ・橘、義通男)?- ? 平安中後期廷臣;1033藏人/東宮大進、歌人;35「賀陽院水閣歌合」員刺かざしとして参加、1037-40(長暦/長久)頃「橘義清家歌合」主催(源頼家・頼実が参加/詳細不明)
- D4712 **良清**(よしまよ/よしけ・藤原ふじわら、範綱男)?-? 平安後期廷臣;従五上/皇后宮少進、九条兼実の家司、歌人;兼実歌壇/1178「右大臣兼実家百首」79「右大臣兼実家歌合」参加、月詣集・万代集入集/勅撰;千載3首:461/1040/1152、

[ふゞきする長等がらの山を見渡せばをのへを越ゆる志賀の浦波](千載;冬/461)

- D4713 **能清**(よきよ・藤原ふじわら/家名;一条、頼氏男)1226-9570 母;平時房女、廷臣;1269従三位侍従、土佐権守/1291正二位/93参議、歌人;1261宗尊百五十番・弘安百首入、閑月集・夫木抄入集、勅撰27首;続古(1467/1606/1823)続拾(6首300/887以下)新後撰(5首64以下)玉(3首)以下、
[これやもし夢なるらんと思ふこそせめてはかなき頼みなりけれ]、
(続古今;哀傷1467/あづま滞在中に都にいる女の死を聞き詠む)
- D4714 **能清**(よきよ・宅間たくま、通称;源左衛門)?-? 江中期大坂和算家:宝永1704-11頃宅間流を興す、門弟;阿座見俊次・鎌田俊清など、1534「立円或問」著、のち宅間流和算は大坂の地に根付く
- D4715 **吉清**(よきよ・太田おた)1558- 161659 伊勢桑名の日記作者;1599-1615頃「慶長日記」著
- N4799 **良精**(よきよ・藤堂とうどう、良勝男)1604?-167470余歳 藤堂新七郎家;伊賀上野城代付(5000石)、父良勝は1615(慶長20)5月6日落城前日戦死、父の跡を継嗣;上野藤堂家士大将、和学者、3男良忠(1642-66/25没/俳号禅吟)が嗣子;早世、
[良精(;名)の通称/号]通称;新七郎(父の称)、号;宗徳
息子良忠 → 蝉吟(ぜんざん・藤堂、良精男/俳人) 2 4 2 7
- L4777 **可清**(よきよ・遠藤えんどう、通称;源右衛門)1609-8476 佐渡の歌・連歌作者;里村昌徳・昌陸門、散楽の太鼓/立花に通ず
- N4715 **佳清**(よきよ・佐橋さし)、1647-171468 江戸の幕臣;小姓組、国学者、
[佳清(;名)の通称]七左衛門/三郎左衛門
- Q4727 **良清**(よきよ・岸田きだ)? - ? 江前期;上方の歌人、
1670下河辺長流[林葉累塵集]3首入、
[むまれたりける子を竹となづけて、
竹の子によせてわがこを名づくるは親にましたるよをへよとなり](林葉累塵;1275)
- D4717 **善清**(よきよ・大森おもり)? - ? 江前中期元禄正徳1688-1716頃京の絵師;
蒔絵師源三郎門?/鳥居清信の影響を受ける、西川祐信と共に上方浮世絵に新風を吹込む、
1702「あやね竹」「しだれ柳」/06「宇都山小蝶物語」/16「新薄雪物語」、「新武者物語」画
- 04777 **義清**(よきよ・平賀ひらが、本姓;源、通称;源兵衛、常成男)1680-174970 陸奥磐井郡大原領主;
仙台伊達藩の代々着座班;重臣、国学・歌人、義雅の父、
[願くは心にそめし紫の雲の迎をこゝにこそまで](遺詠)、
- L4753 **吉清**(よきよ・石原いしはら/本姓;越智、)1713-178068 近江彦根藩士;右筆、歌人、
野津基明「彦根歌人伝」入、
[吉清(;名)の別号/通称/号]別号;喜充、通称;弥藤太、号;木梅鶯
- D4718 **義潔**(よきよ・宮原みやはら/本姓;源、義汨男)1747-180963 幕臣;1761將軍家治に謁;表高家となる、
1764家督継嗣/1773奥高家に列す;従五下/侍従/和泉守、1789長門守、1781・90京への使者、
従四下/1804高家肝煎/06致仕、「江戸城年中定式」著、妻;戸川達索女・立花長女、
[義潔(;名)の通称/法号]通称;勘五郎、法号;玉宝院、養嗣子;弟の義利
- D4719 **由清**(よきよ・村井むらい、通称;伊兵衛)1752-181362 大坂の心学者;1799中沢道二を慕い江戸下向、
道二が越後滞在中で留守番の関口保宣門;帰坂後は中山甫門の跡を承け恭寛舎の講師、
備前岡山に出講・1811播州三草藩の領内を巡講、各地の心学隆盛に寄与、「百物言」著
- L4717 **可清**(よきよ・浅山あさやま、)?- 1856 江後期;紀伊田辺藩士、
国学・歌人;本居大平・加納諸平もろひら・田所頭周あきかね・能代繁里しげさと門、
[可清(;名)の通称/号]通称;治兵衛/甚内、号;髯翁ぜんおう
- M4798 **美清**(よきよ・佐草さぐさ、)1794- ? 母;菊子、江後期;出雲出雲郡の神職/国学者、
出雲杵築大社さぐさたいしゃ(出雲大社)上官/国学;本居内遠・平田篤胤門、文清ふみきよの父、
母佐草菊子の70賀「八千代集」(寄祝歌并詩画集)編、「出雲神社巡拝記」序文、
佐草家は千家67代の子の自清よきよが養子で継嗣した出雲大社上官の家
[美清(;名)の通称]尚連
- D4720 **由清**(よきよ・横山よこやま/本姓;小野、塚越敬明男)1826-7954 江戸の生/横山桂子の養子、
歌学;養母横山桂子門・井上文雄門、国学者;本間游清門/伊能穎則門、和学講談所教授、
1869昌平学校史料編修/大学中助教/維新後;制度局御用掛語箋編輯;法律制度整備参画、
1870少史;従七位/71左院権少吏;正七位/72左院五等議官/75従六位;元老院少書記官、

「旧典類纂」編纂の参画、77元老院御用掛/文部省兼勤、東京大学で古代法制史を講ず、1847「古言解」著/52「安也邇志幾あやにしき」編/54「古物語名寄類韻」著/57「活語自他捷覧」著、1860「こうはいの仮字」67「読竹取物語解」著、「月舎随筆」「万葉集私考」「古訓類纂」著、「蛛のいかき」「言語の説」「国語の説」「類題麗玉集」「日本田制篇」著;編外著多数、歌集;「月舎集」著(息諶吉編)、歌学書「歌林雑考」著、1858蜂屋光世「大江戸倭歌和集」入、1860鋤柄助之「現存百人一首」入、

[池水の影はくだけで結ぶ手に涼しき月ぞ宿りかへたる](大江戸倭歌和;夏550)

[由清(;名)の通称/号]通称;保三、号;月舎つきのみ

佳清(よきよ・松岡) → 茶山(ちやざん・松岡、俳人) F 2 8 5 4

良清(よきよ・行沢) → 良清(りょうせい・行沢、俳人) L 4 9 7 8

美清(よきよ・田中) → 葵園(きえん・田中たなか、役人/儒者) J 1 6 7 2

義清(よきよ・山野辺) → 義方(よしかた・山野辺やまのべ/源、藩士) C 4 7 6 4

吉葛(よきくず・熊倉) → 吉葛(よしつら・熊倉くまくら/源、国学/歌) M 4 7 6 1

吉葛園(よきくずえん) → 尚澄(なおずみ・藤井、楽人/歌) B 3 2 4 3

吉葛園(よきくずえん) → 竹斎(ちくさい・竹川、商家/殖産家) D 2 8 0 6

吉葛廬(よきくずろ) → 嘉言(よきこと・村田/平、春門男/国学者/絵師) D 4 7 3 0

D4721 義国(よくに・佐々木ささき) ? - ? 戦国期天文1532-55頃;近江の砲術家、

武田信玄家臣の井上新右衛門門;師が種子島で習得した砲術を受、「鉄炮極意小筒抄」「鉄炮極意構之図」「鉄炮極意十五相之図」「鉄炮極意三十二相之図」、「極意薬込之図」「秘極集」、1554「稲富流砲術伝授書」著、

[義国(;名)の通称] 夫次郎/輔次郎すけじろう/少輔

D4722 義国(よくに・戸村とむら) 1591- 1670 80 羽後秋田藩士/1614大坂の陣で活躍、

1628佐竹義隆の後見役;のち家老;知行6千五百石、

「江戸氏譜」「佐竹系図」著、1665「佐竹家家譜」編、

[義国(;名)の幼名/通称]幼名;八郎、通称;十太夫

D4723 義都(よくに・山鹿やまが、義著男) ?-? 江中期肥前平戸藩士;山鹿流兵学の学統を継嗣、

1786-7「武教全書聞書」著、「武教全書戦法聞書」伝、父は山鹿素行の弟義行の孫、

[義都(;名)の通称] 平馬

D4724 美国(よくに・北尾きたお) ? - ? 江後期絵師:北尾政美[1764-1824]門、

1827(文政10)「森羅万象心意気」画

D4725 慶邦(よくに・伊達だて、11代藩主斉義男) 1825-74 50 母;山本恒子、仙台13代藩主;1841襲封;

12代伊達斉邦(慶寿/義兄)を継嗣、伊達氏29代当主、正四上左近衛権中將/筑前守/陸奥守、全蝦夷地の3分1の警備担当;財政難、維新動乱時藩内統一できず会津戦にも消極的、戊申戦に敗戦/謹慎閉門/東京住、4男亀三郎(宗基)が家督嗣、

正室;近衛備子とも(鷹司政熙女の綱姫)・側室;徳川孝子(徳川斉昭女の八代姫)・

側室;河上仙之助女千佐・松岡時良女道子(於勝の方;宗基・邦宗母)・天童綱子・岩間包子、

歌人、「含翠かんすい集」「楽山様和歌」、1949「雑百首」

1849「松島宮城野十五首和歌」65「恒子君六十賀和歌」66「斉昭卿七回忌追善歌」、

「楽山公御随筆」「追遠録」「伊達慶邦建白書」「伊達慶邦告諭書」外多数、

[慶邦(;名)の幼名/別名/号]幼名;穰三郎/藤次郎、別名;寿村(;初名)/慶寿、号;楽山

妻;鷹司政熙女の綱姫(備子)、後妻;徳川斉昭女の孝子

04719 美国(よくに・中津なかつ、号;咲桜園しゅうおうえん) 1826-1903 75 備後福山の神職/国学・歌;大国隆正門、大社教大教正

04775 好国(よくに・平岡ひらおか、好貞男) 1839-1917 79 江戸の国学者;山田常典門/歌人;井上文雄門、

儒詩;小中村清矩門、大和神社主典、大教正、好文の父、「藤の舎集」著

[好国(;名)の通称/号]通称;鍼之丞、号;藤の舎

P4779 麗国(よくに・谷たに、旧姓;小林) 1840-1900 61 伊勢度会郡の国学者;足代弘訓ひろのり門、

[麗国(;名)の別名/通称/号]別名;光寧/護生、通称;主水、号;蟹奴

芳国(芳洲/よし国よくに) → 芦麿(あしまろ・豊川、絵師) E 1 0 4 1

吉国(よくに・曾我部) → 則温(のりあつ・曾我部そがべ/安田、庄屋/歌) I 3 5 8 5

義都(よくに/よしさと・中野) → 借我(せきが・中野/平、兵法・神道家) J 2 4 9 8

義邦(よくに・勝) → 海舟(かいしゅう・勝かつ、幕臣/海軍) I 1 5 7 1

慶邦(よくに・伊達) → 邦成(くにじげ・伊達、領主/北海道開拓) C 1 7 7 9

D4726 義国妻(よくにのつま・源みなもと、大江有元女)?-? 平安後期武将加賀介源義国(義家男;1155没)の妻、歌人;後葉集入、詞花380(;娘に送った草紙の奥に書付けた歌)、

[このもとかき集めつる言の葉をははその森のかたみとはせよ](詞花;380)、

(木の下と子の許・搔きと書き・山城のははその森と母・形見に筐を掛る)

なお義国の妻妾には大江有元女の外に上野介敦基女・信濃守有房女がいる

M4758 義倉(よしくら・櫻田くぬぎだ、旧姓;柏木)1749-1821⁷³ 淡路三原郡の国学者

[義倉(;名)の通称]善九郎、陶業家櫻田善九郎(1844-1922)は一族だが別人

D4727 仁善子(よし・藤原ふじわら、藤原時平[871-909]の女)?-? 平安前期、醍醐天皇皇子東宮保明親王妃、尊卑分脈では「定方女、醍醐女御」とあるが、能子と混同か?

→ 能子(のりし・定方女、醍醐女御) 3 5 3 4

D4728 美子(よし・久我こが、通称;就姫なりひめ、熊本藩主細川治年女)1787-1847⁶¹ 歌人;幼少より好む、内大臣久我通明の妻、建通を産む、1807「東路日記」10?「桂能里紀行」/「桜木集」(1852刊)著

K4763 義子(よし・前田まねだ、旧姓;原/号;義清院)?-? 江後期;江戸の生、前田夏蔭(健助1793-1864)の妻、夏繁なつげ(幕臣/1841-1916)の母、

1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入(夫・息子と共に入集)、

[さざ波や志賀の大和田つきふけて八十のみなどにかへる釣り舟]、

(大江戸倭歌;秋885/湊月)

L4700 良子(よし・横山よこやま) ? - ? 江後期;歌人、

1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、

[ふけゆけば夏も霜置く心地して秋にもまさる月のすずしき](大江戸倭歌;夏528)

L4765 由子(よし・よしへ・岩佐いわさ、忠五郎女)1814-94⁸¹ 近江坂田郡の歌人;長野義言門、

茶道;横関主馬、茶道の門人は数百人余

04733 与志子(よし・西川ししかわ、初名;くま)1828-1908⁸¹ 近江蒲生郡の国学者/歌人、

同郡八幡の西川吉輔の後妻/1864(元治2)平田鍊胤門(夫に紹介され入門)

N4729 慶子(よし・中山なかやま、忠能ただやす2女)1835-1907⁷³ 母;愛子/京の歌人;清水蓮成門、

1851(嘉永4)宮中出仕;孝明天皇の典侍/1852(嘉永5)祐宮さちのみや(明治天皇)を出産、

1879(明治12)明宮はるのみや(大正天皇)御養育御用、

[慶子(;名)の初名/通称]初名;安栄あえ、通称;一位の局

P4760 福子(よし・望月もちづき、号;2代松声堂)1839-1909⁷¹ 上野桐生の教育者、歌人;橘東世子とせこ門、

書;田村梶子の松声堂で修学、1855(17歳)丹波園部藩主小出英尚ふさなおの母に出仕;右筆、

帰郷後;開塾;2代松声堂を称す

L4734 宜子(よし・井伊い、糙宮もりのみや宜子女王、有栖川宮熾仁たかひと親王3女)1851-95⁴⁵ 歌人、

母;家女房の森則子、1868(明治元)近江彦根藩主井伊直憲なおのり[1848-1902]の正室、

1869彦根で婚儀、弘太郎(夭折)・直忠の母、1895(明治28)没/法名;春照院、

「代々木別邸内名所和歌」著

温子(よし・藤原基経女) → 温子(おんし・宇多女御/七条后、歌) B 1 4 2 5

能子(よし・右大臣藤原定方女) → 能子(のりし・醍醐女御) 3 5 3 4

能子(よし・橋本) → 能子(のぶこ/よし・橋本はしもと/東儀、歌人) J 3 5 6 0

芳子(よし・藤原) → 宣耀殿女御(せんようどのによろご、師尹女/歌人) G 2 4 7 4

芳子(よし・藤原) → 少将内侍(しょうしょうのないし・後一条院、女房歌人) T 2 2 4 5

佳子(よし・山田/前田) → 自仙院(じせんいん、藩主夫人/歌人) Z 2 1 8 6

由子(芳子よし・木城) → 花野(はなの・木城さしろ/飯田、歌人/教育) K 3 6 0 3

低子(よし・藤原) → 弘徽殿女御(こうきでんのによろご、花山天皇女御/為光女) M 1 9 0 4

美子(よし・徳川) → 斉脩室(なりのおのしつ・徳川、文筆) H 3 2 9 7

吉子(よし・徳川) → 斉昭正室(なりあきのせいしつ・徳川とくがわ、歌人) N 3 2 9 7

好子(よし・荒川) → 薦子(つたこ・荒川/日高、紀行文) 2907
 好子(よし・花安) → 松江子(まつえこ・花安はなやす、歌人/書) R4083
 善子(よし・淑子・北島) → 淑子(すみこ・北島きたじま/甘露寺、歌人) I2340
 瑞子(よし・戸沢) → 瑞子(みずこ・戸沢とざわ/井伊、歌人) 4193
 褒子(よし・藤原) → 京極御息所(きょうごくのみやすどころ) C1647
 祿子(よし・九条) → 祿子(はいろ・九条、歌人) B3634
 儀子(よし、出自不詳) → 儀子(ぎい・嘉楽門院、歌人) B1616
 麗子(よし・源) → 麗子(れいし・源みなもと/藤原、師実室/歌) 5132
 よし子(よし・武田) → さよ子(さよこ・武田、歌人) L2080
 よし子(よし・小野) → 正子(まさこ・小野おの/平田、歌人) O4014
 よし子(よし・松平) → 健子(たけこ・松平まつだいら/鍋島、貢姫/藩主室) Z2658
 ヨシ子(よし・脇坂) → 千枝子(ちえこ・脇坂わきさか、住職妻/歌人) N2882
 吉子女王(よしこじょう) → 斉昭正室(なりあきのせいしつ・徳川とくがわ/有栖川、藩主室/歌) N3297

D4729 **嘉言**(よしこと/よしのぶ・豊田とよだ、道祐男)1781-1841 61 美濃岐阜中竹屋町の国学者:富樫広蔭門、歌人;冷泉為理門、本誓寺光阿らと青蓮社を結成、詩・書を嗜む、1826父7回忌を円竜寺で催;「豊田道祐追善集」編、

[嘉言(;名)の字/通称/号]字;伯享、通称;範右衛門、号;華岳亭/澹齋

D4730 **嘉言**(よしこと・村田むらた/本姓;平/一時期一柳を称す、春門はるかど長男)?-1849 大阪の国学者;家学、生玉に開塾/画にも長ず、1826「疊字節用大成」編、27「按原図解」29「鄭氏女孝経図会」画1829南谿「北窓瑣談」今本画/30「新紅塵和歌集類題」撰/35「女四書芸文図会」画、「小野小町一代来由并七小町ものがたり」「狂歌和合集」画/「明石のうらつと」、外著画多数、[嘉言(;名)の通称/号]通称;七郎/並樹つらき、号;太岳/吉葛廬、春野はるの兄

4711 **義言**(よしこと/よしとき/よしゆき/・長野ながの、仙石左京男)1815-62 処刑 48歳 伊勢滝野村の長野次郎祐の弟、伊勢の生?;出自には謎多し/伊勢飯高郡宮前村本陣滝野知雄宅に寓す;国学を修学、知雄の妹多紀子と結婚、各地遊歴後;1842近江志賀谷村に高尚館を開設;同年彦根藩主井伊直弼が入門、のち彦根藩に招聘され弘道館国学方・希有府編輯用懸、1857(安政4)藩主側近として重用;直弼の謀臣となる、直弼暗殺後も実力者として加増、1862(文久2)藩内の政変により斬罪(48歳)、本居宣長の学風を慕う;語学/歌学に精通、1843「玉の緒末分櫛」45「歌の大武根」50「活語初の栞」、「桃の舎家集」「古今集姿鏡」著、「桃園歌集」「沢能根世利」「阿夜女乃日記」「井伊家紹運図」「古学答問録」「渚廼玉」外著多数、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、

[ながれての世にも昔の月影をしがらみかくる関の藤川]、

(大江戸倭歌;秋882/川月/関の藤川;壬申乱の不破の関を流れる歌枕/現在の藤古川)、

[義言(;名)の幼名/通称/号]幼名;主馬、通称;主膳、号;桃廼舎ものや、

法号;桃廼舎義幹宏言居士

D4731 **義言**(よしこと・福島ふくしま、通称;恵三郎、浅田惟季/乙葉林八)1842-1918 77 江後期幕府官吏、1860(19歳)小栗豊後守忠順の従者として遣米使節団員;渡米、浅田宗伯女の幾子の婿;浅田憐之助(麟之輔)惟季これえと称す、幕府歩兵指図頭取、幕府伝習隊として戊辰戦に参戦;下野・会津・箱館と転戦、戦後は東京牛込で薬商;浅田家の高祖乙葉姓を名乗り乙葉林八と改名、晩年(大正頃)大連に渡り没、渡米日記「花旗航海日誌」、戊辰戦争記録「北戦日誌」著

以言(よしこと・大江) → 以言(もちとき・大江、廷臣/詩人) 4406

嘉言(よしこと・大江) → 嘉言(よしとき・大江・弓削、廷臣/歌人) 4717

嘉言(よしこと・藤田) → 嘉言(よしとき・藤田、和算) E4787

嘉言(よしこと) → 雄仁親王(ゆうにんしんのう、天台修験僧) D4653

義言(よしこと・河/上河) → 淇水(きすい・上河うえかわ/河、心学者) B1630

吉言(よしこと・大友) → 吉言(よしとき・大友おおも、神職/国学/医) E4788

嘉言親王(よしことしんのう) → 雄仁親王(ゆうにんしんのう、天台修験僧) D4653

D4732 **好子内親王**(よしこないしんのう、後白河天皇第2皇女)1148?-1192 45? 母;高倉三位藤原成子、同母兄弟に以仁王・守覚法親王・亮子内親王(殷富門院)・式子内親王・休子内親王ら、

1156(保元3)異母兄二条天皇即位;伊勢齋宮に卜定/65二条天皇讓位;退下、
帰京後物資不足で困窮(顯広王記入)、女房に六条院宣旨など、1192(建久3)没

柔子内親王(よこないしんのう)→ 柔子内親王(じゅうしなしいしんのう、宇多皇女) H 2 1 6 0

良子内親王(よこないしんのう)→ 良子内親王(りょうしなしいしんのう、後朱雀皇女) H 4 9 7 7

姝子内親王(よこないしんのう)→ 姝子内親王(しゅしなしいしんのう、鳥羽皇女) Y 2 1 8 7

儀子内親王(よこないしんのう)→ 儀子内親王(ぎしなしいしんのう、花園皇女) B 1 6 2 0

祥子内親王(よこないしんのう)→ 祥子内親王(しょうしなしいしんのう、後醍醐皇女) N 2 1 2 7

由古野(よこの・隠号) → 国芳(くによし・歌川、絵師) B 1 7 0 1

芳五郎(よじろう・三嶋) → 政養(まさきよ・三嶋みしま/藤原/夏目、旗本/歌) L 4 0 9 2

義左衛門(よしざえもん・梶)→ 景朝(かげとも・梶かじ、国学者) U 1 5 2 2

由左衛門(よしざえもん・宮沢)→ 行(すむ・宮沢みやざわ、国学者) J 2 3 2 8

与志左衛門(与四左衛門よしざえもん・三宅)→ 賢隆(かたたか・三宅、藩士/和算家) M 1 5 9 7

D4733 義定(よしだ/のりさだ・藤原ふじわら、通称;大宮先生、織部正定通男) ?-? 母;平惟時女、平安中期廷臣、
春宮帯刀長/1085(応徳2)壱岐守、橘俊綱・良暹と播磨高砂に下向(袋草紙;後拾遺の歌)、
歌人;後拾遺集985(良暹りょうせん)の言[女牛に腹突かれたる(素人歌人に負けた)];袋草紙)、
[われのみと思ひこしかど高砂の尾上の松もまた立てりけり](後拾;雑985)、
(老いたのは自分だけとと思っていた/老松は友)

D4734 良貞(よしだ・藤原ふじわら、隆家男良員か?) ?-? 平安中期廷臣;右近少将/備後守?、
1035賀陽院水閣歌合参加

K4710 義定(よしだ・平たいら) ? - ? 鎌倉幕府御家人/早歌;1306「拾葉集;遊仙歌」作詩

D4735 義貞(よしだ・橘たちばな) ? - ? 廷臣;五位、医者(薬師くすし)、
歌;1359刊「新千載集」2076、

[数ならぬみくさがくれの忘水ひとりすめども知る人もなし](新千;雑2076)

D4736 義定(よしだ・吉良きら/本姓;源、義安男) 1564-1627 64 母;松平清康女、武将;足利一族の名門、
父義安が徳川家康より統合をゆるされた父祖伝来の地の三州吉良莊を統治、
「吉良流騷之書」著、妻;今川氏眞女、義弥よしみの父、
[義定(;名)の幼名/通称/法号]幼名;三郎、通称;上野介、法号;興山

L4702 吉貞(よしだ・安部あべ、男) 1569-1637 69 長門阿武郡の領主、多芸;歌に精通、
1592(文禄元)秀吉朝鮮国出兵時に吉見廣頼に附属;度々朝鮮に渡海、
[吉貞(;名)の通称/法号]通称;惣兵衛尉/休嘉入道、法号;休嘉/真如院玉誉休嘉信円居士

D4737 吉貞(よしだ・小倉おぐら、通称;与惣次) ?-? 美濃安八郡大島村の和算家;日比野良為門/関流、
1812(文化9)京清水観音堂に奉額、1816「稲津弥五郎之免状」著

L4794 喜貞(よしだ・大岡おおおか、通称;鉄蔵) 1799-1821 早世 23 近江彦根藩士/歌人;彦根歌人伝鶴巻]入

D4738 芳貞(よしだ・歌川うたがわ) ? - ? 1873 存 江後期江戸馬喰町の旅籠屋駿河の主人、
絵師;歌川国芳門、作画期;1848-73(嘉永-明治6)、1854「神事行灯」画、
[歌川芳貞(;号)の別号] 一葉斎

D4739 慶定(よしだ・関山せきやま、通称;五郎平) ?-? 江後期武蔵橘樹郡稻田村宿河原の里正/養蚕家、
寒暖計使用など実体験に基づく養蚕説を主唱:
1863(文久3)「養蚕実験録前編」、「養蚕実験録後編」著

04776 好貞(よしだ・平岡ひらおか) 1811-1893 83 大坂の国学者;斎藤彦磨門、
江戸の佃島住吉神社社司、維新後;皇典講究所講師、好国の父、
[好貞(;名)の通称/号]通称;清磨/日向守、号;菱の舎

N4783 吉貞(よしだ・武田たけだ) 1830-1909 80 讃岐香川郡の国学者;村尾景経門、
[吉貞(;名)の通称/号]通称;汲斎、号;鼓溪

K4737 義貞(よしだ・小森こもり) ? - 1909 大坂天満寺町の和算家;福田理軒門/司天生、
撰津正を称す、のち島町に移住、「算法稽古録」「算法諸角通術」著/「算法浅問抄解」編、
1902「本邦数理重心術詳解」著、
[義貞(;名)の通称/号]通称;数蔵/撰津正、号;貫円斎

P4735 佳貞(よしだ・南みなみ、通称;耕佶こうきつ) 1836-1910 75 河内交野郡の国学者;
国学/歌;中西久受ひさつぐ(石陰)門

- M4738 良貞(よしさだ・木戸きど、通称;鉄右衛門)1844-1909⁶⁶ 近江滋賀郡の郷士、歌人;[鴉のうみ]入
- 04770 吉貞(よしさだ・東ひがし、神官の林棕林男)1846-1912⁶⁷ 伊勢度会郡の神職、学問;松田雪柯門、1856(安政3)東夢亭の養嗣子、国学;御巫みかんなぎ清直門、権主典/禰宜、大神神社宮司、結城神社宮司/伊勢神宮禰宜、1895「神都名勝誌」著、つや(沢田泰因の妻)の父、[吉貞(;名)の字/通称/号]字;子固、号;桂林/環陵/天香
- 養父 → 夢亭(むてい・東ひがし、儒医/詩人) 4 2 9 3
- 養母 → 佩芳(はいほう・東ひがし、絵師/詩歌人) C 3 6 0 6
- 義貞(よしさだ・中島) → 貞晨(ていしん・さだとき・中島、俳人) 3 0 0 7
- 義定(よしさだ・築田) → 義重(よししげ・築田/梁田、家老/測量) D 4 7 6 0
- 宜貞(よしさだ・栗田) → 宜貞(のぶさだ・栗田、和算)
- 栄貞(よしさだ・本居) → 宣長(のりなが・本居、国学) 3 5 2 4
- 由貞(よしさだ・伊藤) → 万年(まんねん・伊藤/藤原、儒者/講説) K 4 0 7 8
- 由貞(よしさだ・小野) → 由貞(ゆうてい・小野、俳人/狂歌) G 4 6 2 5
- 由貞(よしさだ・和気) → 由貞(ゆうてい・和気わけ、俳人) G 4 6 6 7
- 良定(よしさだ・中院) → 定平(さだひら・中院/源、南朝大納言/歌) J 2 0 5 2
- 善貞(よしさだ・川島) → 茂樹(しげき・川島/革島/林、幕臣/歌人) C 2 1 1 2
- D4740 義郷(よしさと・上泉かみいづみ/本姓;藤原)1592-1672⁸¹ 上泉信綱の孫、軍学者;1614大坂陣で軍法役;軍功、1615(慶長20)木村長門守と戦闘;一躍名を馳せる、井伊家に出仕/のち加藤肥後守に出仕、加藤家断絶後は池田光政に出仕;禄3百石、晩年致仕後に兵書を講ず、「軍敗法記訓閲集」著、「百戦奇法」「軍法於戦闘諫言」「張陣之図」「兵術軍敗之血脈」「勝負口伝虎之巻」外著多数、[義郷(;名)の通称] 治部左衛門
- 04752 義里(よしさと・畠山はたけやま/本姓;源、義真2男)1621-91⁷¹ 江戸旗本幕臣/高家の生;能登畠山家、1674(延宝2)父没;家督嗣;江戸幕府奥高家となる、下総守/飛騨守/従四下侍従、大和宇智郡・河内交野郡・摂津豊嶋郡の3120石を領す、1683高家肝煎に選出、江戸猿樂町住、妻;松平真次女、義寧・辰丸・娘7人の父、和学者、1686(貞享3)隠居;長男義寧が家督嗣、1691(元禄4)没、1691了然尼撰[若むらさき]入、[帰るさはいつともしらぬ山桜うつす心の花にまかせて](若むらさき;15/花留人)、[義里(;名)の通称/号]通称;式部/下総守/飛騨守、号;窓暫、法号;義閑
- D4741 吉里(よしさと・柳沢やなぎさわ/本姓;源/賜姓;松平、吉保男、実は綱吉男?)1687-1745⁵⁹ 母;飯塚染子、1701松平姓;吉里に改名/1709家督継嗣;甲斐府中藩主/24大和郡山藩に転封、従四下、越前守・伊勢守・甲斐守・侍従、禁裏守護/南部・京都火消役、文事を嗜む;画・歌・連歌・俳諧、歌;素龍門/冷泉家門、1703「御吉野百番歌合」08「後度十百首」「後度千首」、1715「潤玉和歌集」17「やよひの記」22「続潤玉和歌集」、[積玉集][積玉集員外][積玉集追加]外著多数、歌;石野広通「霞関集」入、[百年の過ぎつる事を郭公しのべとや今空に啼くらし](霞関;夏249、伊達政宗卿百年忌 郭公催懐旧といふ事を)、[吉里(;名)の幼名/別名/通称]幼名;綱千代、別名;安暉/安貞、通称;兵部、法号;乾徳院母;染子 → 吉保室(よしやすのしつ・柳沢染子、飯塚正次女)
- 04772 由郷(よしさと・菱沢ひざわ、)1787-1867⁸⁰余 近江愛知郡小田菟村庄屋/商家の生、方勝まさかつの一族、歌人;[鴉のうみ]入
- [由郷(;名)の通称]通称;孫右衛門(代々の称)
- D4742 良郷(よしさと・森田もりた、山川長右衛門男)1791(1790?)-1857^{67-68?} 加賀金沢藩士森田修陳の養子、藩臣茨木家の御手廻役/給人組格用人並/近習頭/1827用人本役並下行方本役/足輕支配、1830家督継嗣;1840(天保11)家老役、文武諸道に通ず、「北寇談」「泰雲公御年譜」編、「続漸得雜記」「護国公年譜追加」著/1850「続咄随筆」編、[良郷(;名)の別名/通称/号]初名;常通、通称;小次郎/大作/武右衛門、号;翠園
- D4746 美郷(よしさと・森寺もりでら/柳田やなぎだ、)1800-61 播磨赤穂郡尾崎村加里屋生;赤穂藩士;柳田恭輔名、のち備前岡山住;軽部家に寄食;その仲介で岡山藩士森寺家の養子;美郷と改名、歌;藤井高尚門・秋山光彪門/1833(天保4)香川景樹門/秋山光彪門、音楽・書・篆刻に通ず、

初め岡山富田町に林泉静処を構え/のち妹尾に移住/さらに網浜に青苔日厚村舎を構える、
子弟教育;笙・書を教授、小山敬容^{たかやす}・石山桂窓・森芳滋の師、河野鉄兜・長治祐義と交流、
歌文集「香細園家集」、「岡山客中草稿」著、

[美郷(;)名)の通称/号]通称;忠太郎/一郎/京助/恭輔/喬輔、号;香細園

- D4743 **義理**(よしと・岡村^{おかむら}、藩士飯島義道2男) 1802-7372 遠江浜松藩士岡村家(絶家)を継嗣、
藩領近江蒲生郡郡方代官/播磨新封地の代官など地方役を歴任、藩主井上正直に近侍、
側用人兼旗奉行/家老となる;1861(文久元)藩の軍事改革として西洋流火器採用を主唱、
閉門塾居、1847「海防私考」/52「岡村義理意見書」著、
[義理(;)名)の通称/号]通称;忠太郎/一郎/京助/恭輔/喬輔、号;香細園
- D4744 **好里**(よしと・小板橋^{こいたばし}、通称;丹波) 1810-7566 上州中之条の国学者・歌;本居大平門、
伊参文庫を開設;子弟教育に専念、1851(嘉永4)「言葉の道行ぶり」著
- D4745 **義郷**(よしと・石井^{いし}) 1812- 185948 伊予松山藩士、歌;海野遊翁・三浦幸郷・伊東祐根門、
長歌の長ず、門人多数;門弟の西村清臣と共に松山歌壇の双璧と称される、
「石井家集」「石井義郷歌集」「萩の露」「芳宜の屋集」著、歌;「ひなのてぶり」に35首入、
[義郷(;)名)の通称/号]通称;喜太郎、号;萩の屋/茅子舎^{ぼうししゃ}/芳宜廼舎^{はぎのや}
- D4747 **義論**(よしと・飯尾^{いのお}) ? - ? 江後期歌人;董史^{ただふみ}[1800-47]門、「水石壽言」編
吉里(よしと・山崎) → 成員(なりかず・橋、元禄期国学者)
義都(よしと・よしくに・中野) → 借我(せきが・中野/平、兵法・神道家) J 2 4 9 8
良翰(よしと・河合) → 良翰(さとたか/よしと・河合^{かわい}/松下、藩老/勤王) O 2 0 3 5
芳郷(よしと・海保) → 帆平(はんぺい・海保^{かいほ}、藩士/剣術) I 3 6 4 7
- D4748 **能実**(よしと・藤原^{ふじわら}、摂政藤原師実4男) 1070-113263 母;藤原基貞女(中納言君)、
平安後期廷臣、1082従五上侍従/左近少将/85従四下/蔵人頭/91備中守/従三位、
1093中宮権大夫;正三位、1096参議/97侍従・中宮権大夫・左兵衛督兼任/99権中納言、
1100従二位/02正二位、1103使別当兼任/08中宮権大夫兼右衛門督/11左衛門督に転任、
1115中納言;左衛門督兼任、1122権大納言;皇太后宮大夫兼任/23大納言/32出家;没、
号;小野宮大納言、経実の弟、基能・忠頼・源師頼室・藤原宗能室などの父、
歌;1096(永長元)「中宮権大夫家ちゅうぐんのだいぶのいへの歌合」催(;)道職家主云々は能実本人か)、
[恋わびておつる涙の色にこそ深き心のほどは見えけれ](大夫家歌合;七番右14;道職)
母 → 中納言(ちゅうなごん、藤原基貞女、歌人) G 2 8 7 0
- D4749 **良実**(よしと・二条^{じじょう}/本姓;藤原、九条道家男) 1216-7055 母;西園寺公経女綸子、
撰家二条家の祖、1229従三位/36従一位/38左大臣/42関白・氏長者/46関白辞す・61再任・
1265辞す/67出家、父道家と義絶、歌・蹴鞠に通ず、
1235「良実公記」41「天子冠儀式」、「普光園院抄かな遣」著、
歌人;1232歌合催、1265「亀山殿五首歌合」参加、菟句波6句入、雲葉集3首入、
勅撰39首;新勅(170)続後撰(64/302/1089/1196)続古(13首11/113/141以下)続拾(5首)、
新後撰(5首)玉(4首)続千(1200)続後拾(2首)風(173)新千(961)新拾(399)新続古(1首)、
[たちばなの下吹く風や句ふらん昔ながらのさみだれの空](新勅撰;夏170/春宮権大夫)
[良実(;)名)の号] 普光園院^{ふこうおんいん}[福光園院]、法号;行空、
前関白左大臣(続後撰/続古今)、
九条教実・実経の兄弟、道良・教良・師忠・兼基・道玄・道瑜・道潤・良宝らの父
- D4750 **義実**(よしと・六角^{ろっかく}/佐々木^{ささき}、六角氏綱男)?-1556 母;足利義澄の妹、室町期武将、
室町將軍足利義植の猶子/従三位参議/大膳大夫/近江守護、六角家13代当主、
足利將軍家の庇護者、沙沙貴神社の[佐々木家系図]に入、1551「武備百人一首」著
- D4751 **義真**(よしと・宗^{そう}/本姓;平、藩主宗義成男) 1639-170264 母;日野資勝女、1655従四下/播磨守、
1657(明暦3)家督嗣;対馬藩主襲封、侍従/対馬守、先代から継続し大浦権大夫成友登用;
藩制改革断行/1664大浦は失脚するが基本路線は踏襲、1692(元路5)致仕;刑部大輔と称す、
跡継嗣の2男義倫早世;幼少の4男義方が藩主;1701(元禄14)まで義真が朝鮮外交を管掌、
「宗氏家譜」編/「宗氏国記」著、
[義真(;)名)の通称/法号]通称;彦満/刑部大輔、法号;天竜院
- D4752 **由真**(よしと・田中^{たなか}/本姓;源) 1651-171969 京の榎木町の和算家;橋本吉隆門、大観^{たいかん}の父、

佐治一平・中根元圭・安藤吉治・安井秀近・伊藤祐将の師、「陰陽率術」「洛書龜鑑」著、
「遠立俗解」「久留島方陣之法田中洛書龜鑑」「合演定式」「雙式定格術」「筆算除乘術」外著多、
[由真(；名)の別名/通称]別名；吉真/吉実/正利、通称；十郎兵衛

- D4753 **喜実**(よしざね・宇野うの) 1658 - 1734⁷⁷ 国学者；神典を講説/歌人、「風乎舞雩雨詠集」著
- L4747 **淳子**(よしざね・飯島いじま、通称；庄作) 1782-1864⁸³ 信濃埴科郡五加村の里正、歌；大村光枝門
- D4754 **義真**(よしざね・小森こもり/本姓；和氣、桃塙とう男) 1803-1824^{早世 22歳} 京の医者；父門、医業、
1821(文政4)従六下/出羽介、「病因精義」著
良実(よしざね・藤原) → 行玄(ぎょうげん；法諱、天台僧/門跡) N 1 6 6 6
芳三郎(よしさぶろう・柳屋/井草) → 国芳(くによし・歌川うたがわ、絵師) B 1 7 0 1
芳三郎(よしさぶろう・米山/田中) → 芳輝(よしてる・一椿斎いちんさい・歌川、絵師) E 4 7 8 1
芳三郎(よしさぶろう・高林) → 豊鷹(とよたか・高林たかばやし、国学/歌人) V 3 1 6 6
嘉三郎(よしさぶろう・狩野) → 利房(としふさ・狩野かのう、神職/国学者) U 3 1 6 9
- D4755 **吉澤檢校**(2世よしざわけんぎょう、都名いちな；審一しんのいち) 1808or1800-72^{65or73} 尾張海東郡の音曲家、
9歳で失明、地歌・箏曲・胡弓；父初世吉澤檢校門・藤田檢校門、
平曲家；荻野檢校門/中村檢校(波多野檢校門)門、1837檢校となる；名古屋伊勢町住、
国学・歌；氷室長翁ながとし・富樫広蔭門/歌；冷泉家入門、箏曲；光崎檢校門/箏の名手；
箏組歌形式の新曲を作る/「千鳥の曲」作曲、1852(嘉永5)藩命で尾張国中の盲人支配頭、
五人扶持；尾張徳川家の諸行事での演奏(先祖供養の平曲・雛節句での胡弓など)、
門弟多数/名古屋と京都を往復し活動/1872(明治5)京都に没
- K4723 **能茂**(よしげ・藤原ふじわら、行願寺別当道提[道誓]男) 1205-68⁵⁴ 藤原秀能の猶子、
廷臣；武士/主馬首、後鳥羽院北面滝口武者所；左衛門尉/後鳥羽院の隠岐御所の随従、
出家；法名西蓮、友茂の父
- D4756 **義重**(よしげ・斯波しば、義将男) 1371-1418⁴⁸ 母；吉良満貞女、南北室町期武将；正三位/左衛門佐、
右兵衛督/治部大輔を歴任/1405-09(応永12-16)管領/1414將軍足利義持の怒に触れる；
高野山蟄居、歌人；新統古今(5首176/630/1002/1557/1866)、
[夜を重ねなれこし雲のしたぶしに今はかたしく花の白雲](新統古；春176/花下送日)、
[義重(；名)の別名/法名/号]初名；義教よしゆり、法名；道孝、号；興徳寺
- K4727 **吉重**(よしげ・永原ながはら/本姓；藤原)?-1492 室町戦国期近江野洲郡永原の豪族(国人)、
武将；永原城主、もとは篠原姓か?(近江輿地志略)、
1481永原天満宮(菅原神社)に千句連歌奉納(補庵京華続集入)、重泰の父、
吉重の子孫；吉重一重泰(重秀)一重隆一重興一重虎
- D4757 **吉重**(よしげ・沢村さわむら) 1560-1650^{長寿 91} 若狭小浜の武将/1582丹後で細川忠興の家臣、
数度の戦功で細川家の重臣；転封で熊本藩士「越中記」「細川忠興記」「細川忠興事記」、
「加藤清正感状記」「沢村大学殿覚書」「沢村大学殿上書」「細川忠興忠節書」著、
[吉重(；名)の初名/通称]初名；才八、通称；大学
- D4758 **至鎮**(よしげ・蜂須賀はちすか/本姓；源、家政の長男) 1586-1620³⁵ 母；生駒家長女、
1593(8歳)秀吉家臣/94長門守/父隠居後に家康に随い関ヶ原に戦功；阿波徳島藩主襲封、
従四下阿波守、淡路を加増/25万7千石、藍の移植・塩田開発など殖産に尽力、藩法を制定、
連歌を嗜む、1618「徳島藩御壁書」、「蜂須賀至鎮消息」「蜂須賀阿波守書状」著、
連歌；1615「至鎮祐心両吟何人百韻」19「至鎮独吟何人百韻」、
[至鎮(；名)の幼名/別名/法号]幼名；千代丸、別名；豊勝/豊住/豊雄/忠告、法号；峻徳院
- D4759 **吉重**(よしげ・向井むかい、角兵衛男) 1624or26-94^{71or69} 江前期；会津藩士/軍学；松本吉政門；
山神流軍学の奥義を究める/藩士達に教授1659(万治2)父の跡を嗣；旗与力、
1672直参；150石、家老柳瀬正眞の命で古書・古記録を蒐集編纂/藩の兵器を監督、
自ら桐油船を製造、1691致仕、1694(元禄7)没、
1662「会津四家合考」72「会津旧事雑考」、「会津要害録」「軍用宝鑑抄」「会津旧総記」著、
「古陣図弁」「四郡分図」「見彌山葬誌」「刀劍雌雄の巻」著、
[吉重(；名)の通称/号]通称；新兵衛、号；斗半軒、法号；嘯山常笑居士
- N4775 **吉重**(よしげ・高松たかまつ、本姓；橘)?-? 江前期；紀伊和歌浦の玉津島神社祠官、
神道・和学；伊勢神宮神職の出口延佳のよし(1615-90)門、

- Q4745 **良重**(よしげ・平塚ひつか、通称;猪左衛門)?-? 江前期;古筆鑑定家、歌人、
1691了然尼撰(茂睡編)[若むらさき]入、
[夜な夜なの涙の床の浮き枕うき名は立てじ身はなかるとも]、
(若むらさき;167/寄枕恋/浮きと憂き・泣かると流るを掛る)
- L4762 **良重**(よしげ・犬塚いづか) 1655-1727 73 江戸幕臣;御小姓組、国学者、
[良重(;名)の通称/法名]通称;太郎兵衛/平兵衛/平右衛門、法名;良入
- D4760 **義重**(よしげ・築田/梁田やなだ、築田平内影政2男) 1696-1750 55 母;石亀政秀女、
陸中盛岡藩士;1707藩主南部信恩の小姓/南部利幹・利視に出仕/常に参勤交代の御供、
1746家老、明法道を修学/測量術に精通、「雑々秘録」編、「明律註解」「規矩要法条目図解」、
「規矩元法町見秘術之書」「規矩要法秘訳後伝私録」「法曹至要抄詳解」「鉄砲之書」著、
[義重(;名)の幼名/初名/通称/法号]幼名;九之助、初名;義定/良度、門弥(;賜名)、
通称;平学、法号;了叟院、賜姓名;玉川物集女もずめ
- 04783 **芳重**(よしげ・福武ふくたけ、久重男)?-1766 母;熊(堀宗貞女)、備中浅口郡玉島の東福武家継嗣、
歌人;武者小路家入門、弟富重は阿賀崎新田村に分家(西福武家)、妻;由婦(坪井久好女)、
光重・允まこと(西福武家;弟重臣の嗣)・重臣(西福武家継嗣)の父、
[芳重(;名)の通称] 権右衛門
息子 → 光重(みつげ・福武、1741-1815/和漢学) D 4 1 5 5
→ 允(眞琴まこと・福武、1752-1823/漢学/歌) 4 0 7 6
- 04713 **義綱**(よしげ・内藤いとう、磐城平藩主義孝2男) 1699or97-1750 55or57 母;土屋政直女、
兄早世;嫡子;1712(正徳2)父病没;磐城平藩5代藩主;藩政は家老松賀族之助父子の専横、
1718早世(家老による毒殺説あり)、従弟政樹(伯父義英[露]男)が家督嗣
- D4761 **栄重**(よしげ・小野おの/初姓;須藤) 1763-1831 69 上州碓氷郡の須藤某の男、
上州板鼻宿の小野文助の養子、和算家;藤田貞資門/のち伊能忠敬門;師に随い測量に従事、
寛政暦改正に参与/幕府天文方測量属、帰郷;門人指導;斎藤宜長・剣持章行・原賀度外多数、
「算術解」「算法雑解集」「綴術辨解」「円理弧背眞術解」「数学系譜」、1811「算道系図」外著多、
[栄重(;名)の通称/号]通称;捨五郎/良佐、号;子巖
- P4741 **義茂**(よしげ・宮沢みやざわ、初名;敷充/通称;孫作)?-1846 信濃飯田藩士;下郷代官、歌人、
歌;桃沢夢宅(1738-1810)・香川景樹(1768-1843)門、養子;島地因信よりのぶ
- 4712 **美成**(よしげ・山崎やまさき) 1796-1856 61 江戸下谷長者町薬種商長崎屋の生;1816頃家督嗣、
幼少より読書を好む/漢学・仏教;下田芳沢・荻野梅塙門、国学社;1816小山田与清門、
1819屋代弘賢門/平田篤胤・塙保己一門、1824(文政7)中村仏庵・弘賢らと耽奇会を主催、
並行し曲亭馬琴主催の兔園会に参加;会員/のち馬琴と論争、古器物・凶書など蒐集記録、
1828家督譲渡、一時筑後柳川藩に出仕/天保1830-44頃下谷金杉に移転、
1853鍋島直孝(幕府寄合衆/旗本)の儒臣、古典を涉猟し著述;書誌学的業績/随筆作者、
1821「看々記事」24-28「耽奇漫録」33「賀春禧単」39「三養雑記」41「世事百談」50「提醒紀談」、
1851「赤穂義士伝」著、「海録」「猜彙」「閑室漫録」「金杉日記」「好問堂雑記」「涉史臆談」著、
「夜談録」「筆の海」「六史輯釈」「早引和玉篇」著、「書家便覧」「早引節用集」編、外編著多数、
[美成(;名)の字/通称/号]字;久卿、通称;長崎屋新兵衛/後の通称;久作、
号;北峰/好問堂/耐煩居/三養居、法号;美仙徹成居士
- D4762 **礼重**(よしげ・小島/児島こじま、太郎兵衛たるべえ男)?-? 豊前小倉藩士;兵法家、
無眼流剣術・甲州流兵学を修得;免許皆伝、家督継嗣;書院番/持格記録役/1824江戸出府、
1826小倉の帰る/33天守番、小倉藩の旧事・故実・風俗を調査研究、
1850頃「鶴の真似」、「倉府見聞集」著、
[礼重(;名)の初名/通称]初名;敬重よしげ、
通称;市次郎/代之丞よの掛け/清大夫/源太左衛門/太郎兵衛
- D4763 **義茂**(よしげ・佐竹さたけ、義幹男) 1812-68 57 母;多賀谷久代子、佐竹西家16代当主、
羽後久保田(秋田)藩士;大館城代、藩主佐竹義睦に出仕/1859松前警衛に家臣派遣、
詩文;大窪詩仏門、書に長ず、正室;佐竹義術女の武子(歌人)、義遵の父、「梅花賦」著、
[義茂(;名)の字/通称/号]字;松卿、通称;参河/近江、号;鸞斎/此君斎、法号謙光院
- D4764 **嘉重**(よしげ・石井いい、鈴木甚兵衛2男) 1815-83 69 石井治兵衛5代嘉孝の養嗣子、

江戸の料理人;代々幕府公式行事の料理頭取を務めた石井家6代目を継嗣、
1865「日光御法会中料理人御賄献立」「日光御法会壺式之間御献立」「同参之間御献立」著、
1865「梶井宮様御膳所台所図」、「庖丁水切手続」「蒲鉾百珍」「会席附」外著多数、
[嘉重(;名)の幼名/通称/法号]幼名;鎌五郎、通称;治兵衛6代/治郎右衛門/重平、
法号;浄楽院

- D4765 **吉茂**(よしげ・田村むら、通称;仁左衛門)1790-187788 江後期下野河内郡下蒲生村の名主、
農業改良;水稻の薄蒔・薄植の実験など、1841(天保12)「農業自得」著(平田篤胤の序)
- D4766 **芳重**(よしげ・歌川たがわ) ? - ? 江後期天保-安政1830-60頃絵師:歌川国芳門、
合巻の挿画・美人画を描く、1836「鳥勘左衛門忠義伝」/38「棲模様比翼紫」「前太平記」画、
1848「鉢山図絵」/53-56「一休禅師一代記図絵」画、
[歌川芳重(;号)の別号] 一要斎/南遊斎
- D4767 **栄重**(よしげ・解良げら、栄綿よし男)1810-5950 越後蒲原郡国上村牧ヶ花の庄屋の家の生;国学者、
国学/歌;大村光枝・橘守部・鈴木重胤門、父は良寛と親交;栄重も幼児に良寛と面識、
「良寛禅師奇話」著(良寛の逸話集)、
[栄重(;名)の字/通称/号]字;士道/子直、通称;正八郎/三郎兵衛、号;牧羊子
- D4768 **誼茂**(よしげ/やすしげ・玉虫たまむし/一時荒井、玉虫伸茂5男)1823-69切腹47 仙台藩士;幼児に父と死別、
兄勇蔵に養育され藩校養賢堂に修学、1835(13歳)藩士荒井東吾の養嗣;35相続を辞す、
復姓し江戸に遊学/儒;林復斎門;のち塾長に就任、憂国の志強く林家を辞す;
仙台藩江戸屋敷に入り江戸遊学の藩士を督す/1856箱館奉行堀利忠に随い蝦夷地視察、
1860(万延元)遣米大使新見正興に随行しアメリカの文物・制度を視察、
帰国後に仙台藩校養賢堂副学頭に就任;命により諸藩の形勢探索;奥羽越列藩同盟に尽力、
のち藩論一転し佐幕派として1869(明治2)切腹を命じられる、「蝦夷紀行」著
1857「玉虫誼茂入北日記」60「航米日録」/「航海日記」「渡米日録」、1862「薩州紀事」著、
「波山記事」「官武通紀」編、
[誼茂(;名)の字/通称/号]字;子発、通称;勇八/左太夫、号;拙斎/東海
- D4769 **良茂**(よしげ・鈴木すずき) ? - ? 江後期和算家/最上流算学:会田安明門、
1857「算法側円周背術起源」65「鄙著算書目述略」、「諸約術起源」「司農府算題答術」著、
「算法精要解義」「算法互約術」「算法天生法要覧」著、1866「算法百問詳解」編、外編著多数
- N4723 **吉重**(よしげ・猿谷さるたに、通称;真城)1836-190166 信濃佐久郡の国学者、猿谷重嘉の一族?
- P4767 **義滋**(芳滋よしげ・森もり、) ? - 1897 備前御津郡の国学者/歌;森寺美郷よしと門、
維新後;戸長
よししげ(「四条宮下野集」の歌人)→ 資成(すけしげ・橘、平安歌人) C 2 3 1 9
良重(よしげ・瀬下) → 是誰(これたれ・せすい・瀬下せしも、俳人) B 1 9 1 7
良重(よしげ・千村) → 夢沢(ぼたく・千村/井出/井、藩士/詩) E 3 9 5 7
良重(よしげ・本木) → 正栄(しょうえい・本木、通事/対訳辞書) H 2 2 1 6
良茂(よしげ・鈴木) → 重良(しげよし・鈴木すずき、神職/算学) Z 2 1 2 0
吉重(よしげ・明石) → 貞弘(さだひろ・明石、藩士/兵法家) J 2 0 5 5
吉重(よしげ・高岡/高宮)→ 怒風(どふう・高宮、藩士/俳人) O 3 1 7 1
美茂(よしげ・森) → 美之(よしゆき・森もり/藤原、官人/歌人) P 4 7 6 5
淑茂(よしげ・増子) → 毅斎(きさい・増子まじこ、藩士/文筆家) K 1 6 4 5
義成(よしげ・足利) → 義政(よしまさ・足利/源、8代将軍/東山文化) G 4 7 9 7
義茂(よしげ・村上) → 英俊(えいしゅん・村上、医者/語学者) C 1 3 9 4
義重(よしげ・水野) → 平右衛門(へいえもん・水野みずの、藩士) 2 7 0 1
義鎮(よしげ・大友) → 宗麟(そうりん・大友、戦国武将) D 2 5 1 9
嘉重(よしげ・加部) → 琴堂(きんどう・加部かべ、名主/俳人) R 1 6 4 8
- 04725 **好静**(よしげ・長田ながた、)1834-191380 甲斐八代郡右左口うばぐち村の代々名主、
皇学;山岡鉄舟門、維新後:近郷7カ村の区長、日露戦争戦勝祈願の全国巡拜/のち神職、
[好静(;名)の通称] 兵平(へいべい/長守
美静(よしげ・福羽) → 美静(びせい/よしげ・福羽ふくば、藩士/国学) C 3 7 4 2
義芝(よしげ・内田) → 長麿(ながまる・内田うちだ、国学/歌人) L 3 2 3 1

- K4791 **よし女**(よしよ・山本やまと)?- ? 江後期;歌人、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[あぢきなき三室の山の根無草ねもみぬものを立つうき名かな](大江戸倭歌;恋1630)
- L4701 **美女**(よしよ) ?- ? 江後期;歌人、幕臣蜂屋光世家の関係者か?、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[かきくもり風もはげしくなる神の音羽の山の夕立の雨](大江戸倭歌;夏615/山夕立)、
☆同時代の同名の歌人
→ 美子(よし・久我こが、通称;就姫、細川治年女/1787-1847**61歳**) D 4 7 2 8
→ 斉脩室(なりのぶのしつ・徳川とくがわ、名;美子、徳川家斉女/1797-1829**33歳**) H 3 2 9 7
- M4703 **よし女**(よしよ・岡おか) 1824 - 1876**53** 近江蒲生郡の酒造業岡喜右衛門の妻、
歌人;[鴉のうみ]入
好女(よしよ・松岡) → 好女(こうじよ・松岡、俳人)
芳次郎(よしじろう・山本) → 弘素(ひろもと・山本やまと/久保田/近藤、国学/尊攘) J 3 7 6 1
- D4770 **良季**(よしすえ・清原きよはら、初名;良尚、頼尚男) 1221-91**71** 鎌倉期廷臣;亀山・後宇多天皇の侍読、
漢学者;豊前守、大外記/主計頭/主水正/従四下、「良季記」著
- D4771 **賞季**(よしすえ・西園寺さいおんじ/本姓;藤原、内大臣公晃男) 1743-99**57** 母;内大臣今出川伊季女、
廷臣;1756従三位/75内大臣/90従一位/96(寛政8)右大臣、法号;後大忠院信覚、
歌人、1760「七夕会和歌七十首」参加、菊舎尼の七弦琴に[流水]銘を授与、徳大寺実祖の兄
- D4772 **倩季**(よしすえ・秋田あきた/本姓;安倍、延季2男) 1751-1813**63** 母;側室の大江家の女(妙智院)、
1757兄定季の早世により養嗣;遺領5万石継嗣;磐城三春藩主、従五下信濃守/1795山城守、
藩校明德堂を設立/藩政改革に尽力、1797(寛政9)致仕、「印譜」編、
[倩季(;名)の幼名/初名/号/法号]幼名;乙之助/東太郎、初名;于季、致仕後号;英翁、
法号;建徳院
- D4773 **良季**(よしすえ・大宮おおみや/本姓;藤原、初名;良資よしすけ、日野資矩男) 1782-1830**49** 大宮盛季の養子、
廷臣;左中将/1822従三位/26正三位、「文政度大嘗会記」「文政度大祀国司参仕記」著、
- M4793 **義季**(よしすえ・近藤こんどう、号;豊臣亭) 1809-54**46** 備前岡山藩士、国学/歌人;香川景樹門
- D4774 **義透**(よしすく/よしゆき・今宮いまみや、義教男) 1691-1753**63** 羽後秋田藩士;
1718藩政改革論「贈執政之書」上申、1721(享保6)家老;藩政改革実践、
1748(寛延元)の免職時まで国事を詳細に記録、1719「時務考」、「源姓佐竹族今宮家譜」著、
[義透(;名)の幼名/別名/通称/号]幼名;圭之助/又三郎、別名;光泰/光冬、通称;大学、
号;清々斎、法号;威則院
- D4775 **能輔**(よしすけ・藤原ふじわら;道隆流、少納言藤原公衡男) 1088-1150**63** 母;藤原師基女、
平安後期廷臣;正五下/治部大輔/少納言兼侍従、師信の孫/尊雲阿闍梨の父、
歌;1149(久安5)右衛門督家成家歌合;参加、
[人はいさわがよは更けぬ秋の月かたぶく物のかけをながめむ](家成歌合;三番右6)
- D4776 **良輔**(よしすけ・九条くじょう/本姓;藤原、関白藤原兼実4男) 1185-1218(病没) **34** 母;八条院女房三位局、
鎌倉期廷臣;1194元服/正五下、1200(正治2)従三位非参議/右中将/01正三位/02従二位、
1203権中納言/05権大納言;正二位/08内大臣/09右大臣/11(承元5;27歳)左大臣;九条姓、
1217従一位/18痲瘡によりで没(11月11日34歳)、詩人;1205元久詩歌合:詩に参加
- D4777 **義祐**(よしすけ・伊東いとう、尹祐2男) 1512-85**74** 戦国期武将;兄祐充の嗣/日向都於郡の領主、
修理大夫/大膳大夫/1546従三位/1536(天文5)兄没後家督継嗣/1568飢肥を領有、
1577(天正5)島津氏の侵攻に敗戦;没落、各地放浪;和泉堺に没、「飢肥紀行」著、
息子祐兵は秀吉家臣となり各地転戦、
[義祐(;名)の幼名/初名/通称/法号]幼名;虎熊丸、初名;祐国すけくに/祐清、
通称;六郎五郎/(出家後;)三位入道、法号;金柏寺直翁照眼
- D4778 **良弼**(よしすけ・松永まつなが、又左衛門重政男) 1694-1744**51** 筑後久留米藩の浪人、
関流和算;荒木村英門、1732磐城平藩主内藤政樹に出仕;1742四十俵五人扶持、
藩士久留島義太と親交、関流和算に建部賢弘・中根元圭の和算を取入れる、
1716「精覈いかに算法」著/26「立円率」編、1735「灰吹銀術」著、1740「綴術草」編、
「隠率九因」「盈朧趕趁」「無名氏算話」著/外編著多数、

[良弼(；名)の字/通称/号]字；翼、通称；平八郎/権平/安右衛門、
号；東岡/竜池/探玄子/葆真斎/東溟

- 04760 **吉輔**(よしすけ・林はやし、旧姓；桜井)1697-1759⁶³ 信濃飯田の商家；伊勢屋、国学・歌；依田正純門、
[吉輔(；名)の通称]通称；弥吉、屋号；伊勢屋
- D4779 **義甫**(よしすけ・山鹿やまが、平戸藩家老義行2男)?-1769 肥前平戸藩士/兄貞行の跡継嗣；
山鹿流兵学の学統を継承、兄；貞行/弟；義一よしかず、義香の父、1768「城築秘伝書留」伝、
[義甫(；名)の通称] 三郎右衛門
- L4713 **良亮**(よしすけ・赤堀あかぼり、通称；弁次/弁右衛門、重元男)?-1798 阿波徳島藩士；中小姓/鷹匠、
1743(寛保3)命で御鷹稽古；11石6人扶持、歌人/郷土史家、
「阿府志」50巻著(20余年かけ編纂)、
- P4715 **義亮**(よしすけ・松平まつだいら/本姓；源、通称；三郎次郎)?-? 江中期；江戸の幕臣、歌人、
歌；武者小路実岳さねおか(1721-60)門・冷泉為村(1712-74)門、
- 04792 **良弼**(よしすけ・船越/舟越ふなこし、北条伯喜男)1785-1820³⁶ 下野宇都宮の剣術家；小山空印門、
男谷流修得、下野都賀郡の船越光晃家を継嗣、歌人；賀茂季鷹・清原雄風門、能書家、
1920(文政3)病没、
[良弼(；名)の別号]初名；弥五右衛門/和等、号；洪水きわい/懐徳堂/伝巖/隋竹堂
- L4756 **義輔**(よしすけ・市田いちだ/本姓；源、通称；伴右衛門)1798-? 近江神崎郡北町屋村の国学者、
国学・歌；小原君雄(彦根藩士/1752-1835)門・師没後；楓園時子門、
市田時子・栄子の兄、市田義親と親交
- K4795 **良弼**(よしすけ・跡部あとべ、唐津藩主水野忠光6男)1799-1869⁷¹ 跡部良貞の養嗣子；旗本/幕臣、
老中水野忠邦の実弟、従五位下山城守、信濃守、能登守、甲斐守(1851)、伊賀守、遠江守、
西丸小姓組二番組組衆/火事場見廻役/駿府町奉行/堺町奉行歴任、忠邦の威光背景に傲慢、
周囲と争いが絶えない、1836大坂東町奉行；在任中の大坂で米価が暴騰し多数の餓死者、
町奉行所元与力大塩平八郎提案の救民計画を無視；1837(天保8)大塩平八郎の乱の発生、
大塩方の大砲の音に驚き落馬という醜態、乱は鎮圧されたが大坂の町の5分の1が破壊、
しかし良弼は責任を問われず1839大目付に就任、42勘定奉行・道中奉行/44江戸南町奉行、
1855講武所総裁/留守居格江戸北町奉行/留守居上席/側衆格留守居、
1868若年寄；7日で免職/菊間縁側詰、
歌；1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[思ひきや花の桜を見し友の霜降る里へ帰るべしとは](大江戸倭歌；雑1825/友との別)
[良弼(；名)の通称]季十郎/大膳/能登守/甲斐守/遠江守
- P4739 **吉輔**(よしすけ・宮崎みやざき、吉偕よしとも長男)1799-1859⁶¹ 伊勢津の八幡神社・結城神社神主、
国学；本居春庭門、
[吉輔(；名)の通称]伊予/丹後
- L4785 **良典**(よしすけ・小林こばやし/本姓；藤原、元次の長男)1806-59⁵⁴ 母；小森頼望女の叙子、
京の官人；鷹司家諸大夫；正四下民部権大輔兼筑前守、歌人；香川景樹門尊皇の志、
国事奔走、將軍継嗣問題・水戸藩への密勅降下で主家鷹司政通を説得；攘夷派重鎮に転換、
一橋派に属し政通・輔熙父子を補佐、858(安政5)安政の大獄に連座；江戸で捕縛；遠島刑、
のち肥後人吉藩預りに減刑；江戸獄中に没す、
[良典(；名)の通称]右京亮/山城介/筑前守/大和守/大蔵権少輔/民部権大輔
- N4743 **良弼**(よしすけ・菅すが/本姓；菅原、良史[1786-1857]男)?-1873 伊予松山藩士/家老、歌人、
[良弼(；名)の別号/通称/号]別名；葆光/中勝、
通称；淳二郎/五郎左衛門(代々の称)/但馬、号；晚翠/尚友斎
- D4780 **吉輔**(吉介よしすけ・西川ししかわ、善六の長男)1816-80⁶⁵ 母；西川伝右衛門3女のでつ、
近江蒲生郡八幡の肥料商人の家の生、国学者；大国隆正門/1847平田篤胤没後門人、
1848自宅に帰正館を開塾；商人子弟の教育、1858安政大獄に連座；町預/脱出し京に潜伏、
1863足利將軍三代の木像梟首事件に関与；蟄居、維新後；新政府に出仕；皇学所講官、
神道家、1874近江日吉社大社宮司/大阪生国魂社宮司/教導職中教正；教育に尽力、
後妻；与志子(くま/1828-1908/歌人)、鶴子(婿；謙三)・幸子(婿；吉武)・貞照尼の父、

孫吉之助(幸子と吉武[1876没]の子/2歳で父没)の教育者;没後吉之助が家督嗣、「攘夷論」「俄羅斯問答」「建白書類」「琵琶の記」「探夜雷」「亜国使節一件諸雜記」著、「北亜米利加使節再来記」「神典抄記」「貶賢妄談」外著多数、孫吉之助(幸子の子)の教育、[吉輔(;名)の通称/号]通称;繁吉/善六、

号;龜洲/百竹/竹庵/武廼舎/楨亭^{こうてい}/君子楼/合歎園/竹の屋/通脱/蔵六、

L4772 芳介(よしすけ・近藤^{こんどう}、佐甲) 1822-9877 周防山口の生/歌;近藤芳樹門/国学;足代広訓門、近藤芳樹の養嗣子、長門萩藩校明倫館助教/宣教小博士/のち松尾大社大宮司/伏見稻荷宮司、

[芳介(;名)の初名/通称/号]初名;久要/久棟、通称;織之助/甲一郎、号;静居/静居翁

M4760 義右(よしすけ・熊谷^{くまがい}/小林、西村右衛門の長男) 1818-8265 長門阿武郡奈古村の農家の生、萩西田町小林作兵衛の養子、藩命で萩藩御用達商人故熊谷五右衛門(義比)の中継養子;遺子が幼少のため、奇兵隊軍用金の献納/小郡村の製銃所建設/銃砲軍艦購入の資金提供、国学者/歌人、維新後;1874京都平野神社禰宜;翌年辞職;萩に帰る、[小松原是も誰が手に曳るらん子の日する野の春の若駒](萩城三十六歌仙の1)、[義右(;名)の通称/号]通称;三四郎/五一、

号;碧厓/春涯/芸僂/禹王棚叟/魚棚生^{ぎょほうせい}/草間倫生

D4781 良亮(よしすけ・安岡^{やすおか}、郷土安岡故五郎の長男) 1825-76^{斬殺}52 土佐幡多郡中村の生、文武を好む、武術:弓・馬・刀槍・砲術に長ず/文学;遠江鶴鳴門/儒学;筑前の亀井暢州塾入、文久元治1861-65頃樋口真吉に従い国事に奔走/1867薩土密約に参画/68戊辰戦争に出征、捕縛された近藤勇を斬罪に処す、新政府に出仕;地方参事歴任後に熊本県令、敬神党(神風連)の暴発帽子に尽力;1876(明治9)暴徒に斬殺、「十洲詩文稿」「墨水日記」著、[良亮(;名)の初名/字/通称/号]初名;良激、字;士激、通称;亮太郎、号;十洲/簡齋

N4722 義亮(よしすけ・里見^{さとみ}、旧姓;石城) 1834-7734 信濃高島の国学者;平田鉄胤門、[義亮(;名)の別名/通称/号]別名;義寅/義臣、通称;一作/与三郎、号;東山

04757 良亮(よしすけ・浜中^{はまなか}/本姓;源、) 1836-190166 武蔵多摩郡西分村の名主、国学者;平田鉄胤・西川練三門、戊辰戦で幕府軍が青梅拠点を計画;兵糧米不足を理由に撤退させ青梅を兵火から守る、維新後;神奈川県区長、[良亮(;名)の通称/号]通称;五郎右衛門、号;恭齋

P4750 良弼(よしすけ・村岡^{むらおか}/邨岡^{むらおか}/本姓;平、渋谷義孝男) 1845-191773 下総香取郡北中村の名家の生、幼時;儒;宗家匡道門、1858江戸で昌平坂学問所水本成美門、書;一橋家侍臣鈴木清熙門、維新後;東京住/1869大学校明法科で律令を修学/法制官僚を歩む;刑部少録、フランス法修学;1872明法寮の修志局長;[刑法沿革志]編纂、74長崎裁判所法官、歌・和文;池原香釋^{かわか}(日南)門、1873司法省で刑法編修/79司法省法制局、1880太政官法制部/81参事院法制部/83宮内省国史編修局入;[大政紀要]編纂参画、1884[図書寮記録]編、1887内閣記録局長;[法規分類大全]編纂主導、[如蘭社話]創刊、1892官職致仕;著述専念、和楽;辻高節門/音律・笙・琴・琵琶を修得;1893[大曲伝授]を受、「続日本後紀纂詁」「文徳実録纂詁」「日本書紀定本」「法制志」「櫟齋偶筆」[良弼詩藻]著外多、[良弼(;名)の字/通称/号]字;賚卿、通称;五郎(幼称)、号;櫟齋/麻園

由輔(よしすけ・金井/松井) → 由輔(ゆうすけ・金井/松井、歌伎作者) 4 6 1 6

義弼(義祐よしすけ・六角) → 義治(よしはる・六角/源/佐々木、武将) G 4 7 0 6

義祐(よしすけ・間庭) → 蘭薫亭薫(らんくんていかおる、間庭、藩士/狂歌) B 4 8 7 8

義甫(よしすけ・高田) → 義甫(よしとし・高田、国学/教育) E 4 7 9 7

義助(よしすけ・原) → 斗南(となん・原はら、儒者) O 3 1 6 2

義助(よしすけ・辛島) → 青溪(せいけい・辛島からしま、藩儒) B 2 4 1 0

義良(よしすけ・斯波) → 義寛(よしひろ・斯波しば/源、武将/系譜) G 4 7 5 4

良清(よしすけ・藤原) → 良清(よしきよ・藤原、歌人) D 4 7 1 2

良祐(よしすけ・南小柿) → 寧一(やすかず・南小柿みなぎ/南、藩医) B 4 5 1 2

良弼(よしすけ・乗竹^{のりたけ}) → 東谷(とうこく・乗竹、儒者) E 3 1 1 0

良弼(よしすけ・伊東) → 麓岳(ごうがく・伊東いとう、藩儒/詩) G 1 9 2 2
 良弼(よしすけ・奥田) → 勾堆(こうたい・奥田おくだ、藩士、詩文) K 1 9 4 7
 良弼(よしすけ・徳力) → 竜澗(竜間りゅうかん・徳力とくりき、幕臣/儒者) D 4 9 2 7
 良弼(よしすけ/りょうすけ・並河) → 天民(てんみん・並河なみかわ、儒者/雅楽) E 3 0 3 4
 良弼(よしすけ・神林) → 復所(ふくしょ・神林かんばやし、藩士/儒者) B 3 8 5 8
 良佐(よしすけ・伊予屋/尾藤) → 二洲(じしゅう・尾藤びとう、儒者/詩) 2 1 2 1
 良佐(甫助よしすけ・桜田) → 簡斎(かんさい・桜田、儒者/勤王派) Q 1 5 6 1
 良資(よしすけ・大宮) → 良季(よしすえ・大宮おおみや/藤原/日野、廷臣/記録) D 4 7 7 3
 良助(よしすけ・松岡) → 能一(よしかず・松岡まつおか、和算家) C 4 7 4 9
 良亮(よしすけ・櫛原) → 良亮(よしあき・櫛原くしはら、国学/歌人) M 4 7 5 4
 良輔(よしすけ・田辺) → 損斎(そんさい・田辺たねべ、藩士/儒者) F 2 5 3 8
 吉助(よしすけ・牧野) → 義兼(よしかね・牧野まきの、和算家) D 4 7 0 0
 吉助(よしすけ・栃内) → 与兵衛(よへえ・栃内とちない、藩士/兵法) I 4 7 2 7
 吉甫(よしすけ・佐々木) → 吉雄(よしお・佐々木ささき、国学/歌人) M 4 7 9 9
 吉甫(よしすけ・原) → 祐之(すけゆき・原はら、国学/歌人) I 2 3 9 8
 慶賛(よしすけ・黒田) → 長知(ながとも・黒田/藤堂、藩主/歌) E 3 2 9 8
 慶輔(よしすけ・三谷) → 句仏(くぶつ・三谷みたに、研師/俳人) D 1 7 3 9
 芳助(よしすけ・小野) → 顕世(あきよ・小野おの、庄屋/国学) H 1 0 1 9
 芳輔(よしすけ・栗山) → 輓(げい・栗山くりやま、国学者) F 1 8 2 1

- D4782 **義澄**(よしずみ・足利あしかが、本姓;源、堀越公方政知男) **1480-1511**³² 室町11代将軍;
 1494-1508在位/参議右近中将、1508足利義植よしね(10代将軍)に追われ近江に没、
 歌:冷泉為広門、1495御伽草紙「硯破すずりわり」奥書、1503内裏三六番歌合参加(判冷泉為広)、
 [影やどす岡辺おかべの松よいつとかは分きて木のまも夏の夜の月](三六番;五番右10)、
 [義澄(;名)の別名]別名;義遐よしとお/義高
- D4783 **芳純**(よしずみ・新田にた) ? - ? 室町戦国期上州の武将、新田尚純ひさずみの同族、
 連歌;1521新田尚純(母;蜷川親当ちかまさ智蘊)の連歌撰集「新編集」を上下2巻に完成(散佚)
- N4748 **嘉住**(よしずみ・杉本すぎもと) **1672-1742**⁷¹ 近江彦根藩家老三浦家の家臣、
 儒・詩歌;沢村琴所きんじよ(維頭/1686-1739)門、歌;[彦根歌人伝・鶴]入
- 04745 **良澄**(よしずみ・野々村のむら) **1681-1735**⁵⁵ 陸奥盛岡藩士;南部利幹に出仕、
 儒学;奥尚友(北川尚亭[宗俊]門)門、
 [良澄(;名)の別名/通称/号]別名;恒充/恒曾/曾一/記曾、通称;此面/宇九衛門、
 号;伴鷗
- D4784 **好純**(よしずみ・小野おの/旧姓;安福) **1690-1763**⁷⁴ 小野好古こうこの末裔/播磨宍粟郡三木の国学者;
 三宅尚斎門、歌学;冷泉為村門/京・大坂で歌学を教授、大坂住、
 1760(宝暦10)「歌のよみかた手引の系」編/「和歌根元抄」著、
 [好純(;名)の通称/号]通称;文治、号;立仙/逸斎
- D4785 **良澄**(よしずみ・玉沢たまざわ、通称;文蔵) ?-? 江戸期伊予松山藩士、歌を嗜む、「秋の寝覚」著
- P4789 **吉住**(よしずみ・山根やまね、本姓;藤原) **1706-90**⁸⁵ 近江彦根藩士/歌人;[彦根歌人伝・鶴]入
 [吉住(;名)の通称]権内
- M4723 **美住**(よしずみ・葛野かどの、) **1770-1819**⁵⁰ 摂津池田の酒造業;山城屋、葛野善専よしむろの孫、
 国学者/俳人;松村呉春(月溪)門、呉服くれは神社神官馬場仲文(?-1830)と同門で交流、
 [美住(;名)の通称/号/法名]通称;辰三郎/次郎兵衛、号;宜春斎/屋号;山城屋、
 法名;道宣
- N4713 **可住**(よしずみ・佐藤さとう、通称;十左衛門) ?-?天保**1830-44**頃没 紀伊和歌山藩士;目付、国学者
- K4752 **義純**(よしずみ・佐竹さたけ、義恭よしゆき長男) **1802-56**⁵⁵歳 出羽秋田久保田新田藩主佐竹義知の養嗣子、
 義知女の貞と結婚/養父隠居;1821第6代新田藩主、従五下/壱岐守、1849養子義核に譲渡;
 隠居;以遠斎と号す、歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
 [子日ねのひすと野山むれて遊ぶなり小松に誰も心引かれて](大江戸倭歌;44子日)、
 [義純(;名)の幼名/号]幼名;政之助、隠居号;以遠斎、法号;義純仁沢
- D4786 **美清**(よしずみ・井関いづき、三郎右衛門男) **1830-1924**長寿**95** 長門萩藩士/藩校明倫館に修学、

国学;近藤芳樹門/歌人、維新後に山口藩掌史/宮内省調度司/毛利家家令、
歌文集「以曾廼藻屑」、「梅園雜記」著、

[美清(;名)の通称/号]通称;源吾、号;梅園

P4762 **可澄**(よしづみ・森もり、旧姓;荒木)1842-1879³⁸ 伊勢鈴鹿郡の国学者;佐々木弘綱・井上文雄門、
歌人;河喜多眞彦まに門、秋一あきかず(1849-?)の兄、

[可澄(;名)の初名/通称/号]初名;三樹、通称;子之助ねのすけ、号;石榴堂香雪

可澄(かしょう・森) → 可澄(よしづみ・森もり/荒木、国学/歌) P 4 7 6 2

P4729 **義住**(よしづみ・三浦みづら、号;楨廼舎)1848-1926⁷⁹ 尾張藩士;尾張愛知郡東村山に住、歌人、
国学・歌;石橋知空ちく(蘿窓)・植松茂岳門、万葉集に精通、「檜乃婦手」著、
1913歌集「松のしづく続編」編/1918国枝松宇の「松宇遺稿」の序(歌の選定作業)、
[雪とけてみとりいろそふ山松のまつにかひあるはつひかけかな]

(元日/松のしづく続編;冒頭歌)

可澄(よしづみ・丸山) → 活堂(かつどう・丸山/山/田代、藩士/儒/神道) H 1 5 8 2

吉住(よしづみ・奥村) → 邦秀(くにひで・奥村おくむら/橘、国学/茶人) E 1 7 0 8

義純(よしづみ・谷/岳) → 梶司(すぎし・岳おか/源、神職/国学/歌) I 2 3 2 3

慶澄(よしづみ・遠藤) → 常友(つねとも・遠藤、藩主/歌人) C 2 9 7 0

D4787 **佳三**(よしぞう・近松ちかまつ) ? - ? 歌舞伎作者:1816奈河晴助「濃紅葉小倉色紙」番付

D4788 **由蔵**(よしぞう・須藤すどう)1793- ? 1870後没 江後期上州藤岡の商人、
江戸の本丸広敷請負人足埼玉屋の寄子、足袋商中川屋の軒下で古本売買商、
1845(弘化2)店を持つ;古本商の傍ら種々筆記、諸藩記録方留守居を訪ね情報収集・回覧、
見立番付に記載されるほどに知名、1870ころ帰郷;没、「藤岡屋日記」編、
[由蔵(;通称)の別通称] 御記録本屋/御成道の達磨おなりみちのだるま

D4789 **吉造**(よしぞう・鶴棟つるむね) ? - ? 幕末期歌舞伎作者:3世如臯・黙阿弥の助作、
1867黙阿弥「善悪両面兎手柏」番付

由蔵(よしぞう・和泉屋) → 橘庵(きつあん・田宮たみや、戯作者/随筆) I 1 6 6 4

由蔵(よしぞう・伊藤) → 輪斎(りんさい・伊藤いとう、儒者/古義学) B 4 6 8 0

吉蔵(よしぞう・広江) → 秋水(しゅうすい・広江ひろえ、商家/詩人) X 2 1 7 1

吉蔵(よしぞう・金子) → 松洞(しょうどう・金子かねこ、儒者/詩人) R 2 2 5 8

吉蔵(よしぞう・亀井/檜村) → 惟明(これあき・檜村/亀井、藩士/地誌) O 1 9 0 8

芳蔵(よしぞう・羽室) → 花石(かせき・羽室はむら、俳人) M 1 5 6 6

義三(義蔵よしぞう・早野) → 橘隧(きつすい・早野はやの、儒者/講説/詩) I 1 6 6 5

義蔵(よしぞう・近藤) → 義制(よしのり・近藤、藩士/儒者/詩文) F 4 7 9 4

義蔵(よしぞう・玉井) → 信海(しんかい;法諱、僧/国学/尊攘) V 2 2 0 3

喜蔵(よしぞう・河野/平松) → 楽斎(らくさい・平松ひらまつ、民政家/詩) D 4 8 4 0

喜蔵(よしぞう・稲葉) → 通邦(みちくに・稲葉、藩士/礼法/故実家) B 4 1 4 2

喜蔵(よしぞう・木下) → 蘭臯(らんこう・木下/豊臣/木、藩士/漢学) B 4 8 9 8

喜蔵(よしぞう・北川) → 守貞(もりさだ・喜田川/北川/石原、商家/考証家) F 4 4 4 2

喜蔵(よしぞう・石野) → 広温(ひろはる・石野いしの、幕臣/記録) G 3 7 9 4

喜蔵(よしぞう・中原) → 広江(ひろえ・中原/石野、広温の弟/幕臣/歌) I 3 7 2 2

喜蔵(よしぞう・浅岡/浅井) → 芳所(ほうしよ・浅岡/浅井、藩儒) B 3 9 6 6

喜造(吉蔵よしぞう・富田屋/中沢) → 夫丸(それまる・一了軒、狂歌作者) 2 5 7 5

嘉三(よしぞう・藤田/早川) → 高寧(たかやす・早川/本田/藤田、和算家) N 2 6 5 8

嘉三(よしぞう・鉄) → 復堂(ふくどう・鉄てつ、儒者/教育者) B 3 8 6 0

嘉蔵(よしぞう・山川屋/山本) → 波文(はぶん・山本、旅宿業/俳人) F 3 6 6 2

嘉蔵(よしぞう・大岩) → 勝長(かつなが・大岩、藩士/国学者) N 1 5 6 3

嘉蔵(よしぞう・山崎) → 景雄(けいゆう・秋月庵、絵師/俳人) D 1 8 6 6

嘉蔵(よしぞう・鈴木) → 澶洲(せんしゅう・鈴木/木、儒者) F 2 4 8 9

嘉蔵(よしぞう・桑原) → 北林(ほくりん・桑原/峰岸、儒者) E 3 9 0 9

04703 **芳園**(よしぞの・徳永とくなが、通称;安兵衛)1828-1914⁸⁷ 長門下関の商家;大年寄格、国学者
1912大正天皇即位を記念し所有山林を豊浦小学校に寄付

- J4798 **吉田** (よだ) ? - ? 江戸吉原の遊女/新町彦左衛門抱えの太夫;
1666-7(寛文6-7)頃太夫/1673(延宝元)格子に下る、俳人;1684西鶴「俳諧女哥仙によかせん」入
[禿(かぶろ)まつ是ぞ子の日のあそびもの](女哥仙;33/禿松;小松;太夫付き禿を掛る)
吉田(よだ;号) → 経房(つねふさ・藤原、廷臣/歌人/日記) D 2 9 5 7
- J4799 **よしたか** ? - ? 平安前期廷臣;歌人、
921(延喜21)醍醐御時菊合に参加、
[置く霜のかひもあるべき菊の花色をましても枯れずもあるかな](菊合;23)
- 4713 **義孝** (よしたか/のりたか・藤原ふじわら、摂政伊尹これまさ3男) 954-974早世 21 母;代明親王女の恵子女王、
挙賢たかかた・懐子(花山天皇の母)の兄弟、行成の父、平安前期廷臣;971右近少将/972正五下、
兄挙賢と共に天然痘で急逝(21歳)、今昔物語・江談抄・大鏡に逸話入、「義孝日記」著、
歌人;「義孝集」、和漢朗詠集・後葉集・続詞花集・秋風集・雲葉集・万代集・和漢兼作集に入、
同名の藤原義孝のりたか(敦舒男)とは別人;混同されやすい、
勅撰13首or20首?;拾遺(1092/1190/1191)後拾(7首567/598/599/600/669/947/1212)、
詞花(396)新古(1011/1113)、
新勅(646)続後撰(1117)続古(64/1566)続後拾(1234)風(374)新千(139)は敦舒男義孝作か、
[君がため惜しからざりし命さへ長くもがなと思ひぬ[け]るかな](後拾669;[百人一首])
☆没後妹の女御(懐子)の夢に出てきた歌;後拾遺・哀傷598/600;
[しかばかりちぎりしものを渡りがはかへるほどにはわするべしやは](後拾遺598)
☆没後に賀縁法師の夢にでてきた歌;
[しぐれとはちぐさの花ぞちりまがふ何ふるさとの袖ぬらすらん](後拾599:極楽の歌)、
[義孝(;名)の通称] 後少将/夕少将、
- D4790 **義高** (よしたか・斯波しば/本姓;源、氏経男) ?-? 南北期武将;高経の孫、義将・義種の甥、
左京大夫/祖父高経の後見を得て1363(貞治2)引付頭人、66政変;祖父・甥らと越前へ落つ、
のち復帰;1371桃井直常の鎮定に参加、歌人;新拾遺2首(614/1861)、
[にはほ鳥の通ひ路もさぞたどるらしよひよひごとの池の氷に](新拾;冬614)、
[義高(;初名)の別名]後名;詮将あきゆき、
- D4791 **義隆** (よしたか・大内おうち、義興男/本姓;多々良) 1507-51自刃 45 母;内藤弘矩女、周防-豊前7州守護、
1528家督継嗣、侍従/従二位/周防介/左京大夫/大宰大貳/治部卿/兵部卿、
1551重臣陶晴賢の謀反により大寧寺で自刃、儒・仏・神道・有職故実・管絃に関心精通;
清原宣賢・策彦周良・吉田兼右・三条西実隆門、歌・連歌:飛鳥井雅俊・宗碩・宗牧門、
ザビエルのキリスト教布教を許可/明の紙を輸入;大内版を印行、「官位不審問答;問」、
「逍遙公答問;問」「多々良問答;問」、「筈崎宮法楽和歌」、「天文三年1534二月山何百韻」、
1551「宮島千句」(5月9-11日)発企興行(;発句入)、
[浦とほくかすみて興津おきつ浪もなし](宮島千句;第一何人発句)、
[義隆(;名)の幼名/法号]幼名;亀童丸、法号;竜福寺瑞雲珠天
- D4792 **嘉隆** (よしたか・九鬼くき) 1542 - 1600討死 59 武将/鳥羽城主;兄・智・子と争う、「志摩軍記」に伝記
- D4793 **孝高** (よしたか・黒田くろだ、小寺職隆男/本姓;源) 1546-1604 59 母;明石宗和女、武将;播磨姫路城に生、
織田信長・豊臣秀吉の家臣/姫路・中津城主、黒田姓に復す、秀吉の四国九州征討に軍功、
領地は息子長政に譲渡/秀吉に近侍;小田原攻・朝鮮出兵に参戦、関ヶ原後徳川家康の家臣、
九州平定に功、茶の湯/歌・連歌に通ず;連歌復興に尽力、「教諭」(息長政への訓)、
連歌:昌叱・昌琢・紹巴らと百韻多数(1597山何百韻/99何人百韻/1602山何百韻など)、
[文武は車の両輪の如く一もかけてはかなひがたきよし 古人いへり](1604「教諭」)、
[孝高の幼名/別名/通称/号]幼名;万吉、初名;孝隆/致仕後名;政成、通称;官兵衛、
号;円清、入道号;如水/如水軒円清居士、キリシタン名;シメオン、法号;竜光院
- K4715 **嘉隆** (よしたか・小浜おぼま) 1600- 1664 65 江前期旗本/幕臣;大坂御船手/民部少輔、
俳諧/狂歌;古今夷曲集12首入、没後;1676西鶴「古今俳諧手鑑」入、
[思ふ人の心強きは重藤げどうの弓や八幡ひくにひかれず](古今夷曲集;七恋)
(弓矢八幡は誓の詞で神掛けて絶対にの意/相手はつれないが絶対引き下がれない決意)
[哥のたね枕や割らず花の本](手鑑/枕を割る;工夫沈思すること)
- D4794 **義隆** (よしたか・佐竹さたけ、岩城貞隆の長男) 1609-71 63 母;相馬義胤女(慶雲院)、

1620父の遺領継嗣;岩城2万石を領す/1626伯父左竹義宣の養子;
岩代の名跡を叔父宣隆に譲渡、養父義宣の遺領を相続;秋田(久保田)藩主20万石、
秋田藩財政の基盤を築く;名君と称される、室;湯沢城代佐竹義章女(光聚院/歌人)、
「磐城氏累代之伝記」著
[義隆(;名)の初名/通称/法号]初名;昌隆/吉隆、通称;能化丸のうけまる/平次郎/四郎次郎、
法号;鑑照院

- D4795 **良隆**(よしたか・跡部あとべ、良保男) 1631-1685⁵⁵ 幕臣/旗本;1642(寛永19)父の遺跡継嗣;48御小姓組、
御使番歌:1682知行2千5百石/83小普請、歌;岡本宗好門、「林泉和歌集」「塔沢温泉紀行」著、
良頭よあきらの父、了然尼撰(茂睡編)[若むらさき]入、
[茂睡入道子におくれて歎き侍る 又の年の春読みて遣しける、
先立ちしこぞの哀れのあまくものよそにきゝても袖ぞしをるゝ](若むらさき:123)、
[良隆(;名)の通称/号]通称;民部/建之助/宮内、号;南丘
- N4733 **好高**(よしたか・芝崎しばさき/本姓;平、) 1667-1733⁶⁷ 江戸前中期の神職;神田明神祠官を継嗣、
国学者;1700(元禄13)荷田春満門;春満の江戸最初の門人/春満の後援者;自邸で歌会催、
1737荷田信名(春満弟)の紹介で賀茂真淵が自邸に一時住、好寛よひろの父、
[好高(;名)の初名/通称]初名;好安、通称;主税/宮内少輔(ないしょう)(1702[元禄15]叙任)
- D4796 **由隆**(よしたか・浅野あさの、通称;元左衛門)?-? 江前期元禄1688-1704頃備前岡山藩士、
歌人:1698「吉備和歌集」編
- L4767 **恵隆**(よしたか・岩田いた、成田七郎左衛門男)?-1735 陸奥津軽郡岩木町の岩田右衛門兵衛の養子、
津軽藩士;津軽信政に出仕/児小姓;2百石、聡明で神学を修学;小姓頭5百石、
信政没後;高照神社宮司、1716(正徳6)無調法につき2百石没収;留守居組に降格、隠居、
上府して勉学;1727(享保12)再び津軽藩士;物頭格/高照神社宮司;宮惣司、教授も務める、
[恵隆(;名)の通称]半二郎
- D4797 **吉貴**(よしたか・島津しまづ、別名;忠竹、綱貴(なつか)男) 1675-1747⁷³ 鹿児島藩主/甘藷の試植、
「家来知行覚書」著、
[吉貴(;名)の通称]上総入道
- D4798 **吉隆**(よしたか・谷岡たにおか) ? - ? 江中期会津藩の計吏役/晩年出家、
歌人;高田宗賢・香川宣阿[1735没]門、歌学研究、「桂花集」著、安田亨意の師、
[吉隆(;名)の通称/号]通称;常右衛門、号;梅山/真阿(;剃髮号)
- 04737 **義高**(よしたか・錦織にしごり、) 1687-1763⁷⁷ 陸奥の医者;代々仙台藩医、和学者、
[義高(;名)の通称/号]通称;即休(代々の称)/正円、号;養拙斎
- P4716 **義隆**(よしたか・松平まつだいら/本姓;源、通称;庄九郎) 1693-1733⁴¹ 江戸の幕臣;新番、和学者
- D4799 **義堯**(よしたか・松平まつだいら/本姓;源、隆任男) 1717-79⁶³ 幕臣;1741家督嗣;西丸御小姓組、
1761本丸御小姓組勤仕、1767弟義良の不始末で小普請に降格/逼塞、のち赦免、
歌人;冷泉家門、1768(明和5)「松平義堯百首」著、石野広通「霞関集」入、
[年経ても忍ぶはおなじ草の名を人や忘るるたねとなすらん](「霞関;恋859/寄草恋)、
[山深く幾年月に杉の門がどさしもうき世を厭ひてぞすむ](同初撰/山家送年、
門を鎖すとあれほどに;を掛る)、
[義堯(;名)の通称/法号]通称;三郎次郎/甚三郎、法号;義山
- E4700 **喜隆**(よしたか・村上むらかみ、通称;莊兵衛)?-? 撰津住吉の和算家、1750「算法演段拾遺」校訂
- E4701 **吉孝**(よしたか・篠田しのだ) ? - 1785 美濃岐阜美園町の酒造業、上加納随一の富豪、
風流人、書画骨董を多蔵、歌道;外山光広門/松尾流茶道を嗜む、
代々真宗大谷派別院祠堂金係を務める/のち禅門に帰依?、「都の旅日記」著、
[吉孝(;名)の通称/号]通称;佐兵衛、号;蝸室、屋号;つたや
- K4717 **佳孝**(よしたか・桑村くむら、通称;三右衛門)?-? 江戸の商家;公儀御用達、歌;冷泉家入門、
1756(宝暦6)岡田忠篤催「千首和歌」に参加/剃髮号;櫛斎、1798刊広通「霞関集」入、
[軒めぐる雫もかすむ草の庵に雨の音聞く春のつれづれ](霞関;春94/庵春雨)、
[晴れ渡る富士の根おろし吹捨てて雪の麓にかゝる白雲](同初撰本;富士)
- L4746 **良恭**(よしたか・伊庭いば/旧姓;大月、) 1738-1810⁷³ 備中浅口郡の国学者、
[良恭(;名)の字/通称/号]字;伯謙、通称;太郎兵衛、号;秋湖

- E4702 **嘉孝**(よしたか・岩橋いわはし) 1756-1811 56 和泉貝塚の天文家、1789頃から望遠鏡製作、1802(享和2)「平天儀図解」、「サイクツモリ書」「星図」著、
[嘉孝(；名)の通称/号]通称；善兵衛、号；耕瑠堂こうりゅうどう、法号；釈義天
- E4703 **可官**(よしたか・赤尾あかお/本姓：平、亮長男) 1764-1852 89 廷臣；蔵人所官人/左兵衛権大尉/従六上、父を継嗣；林丘寺宮家の家司、左兵衛権大尉、
歌：父と同様に閑院宮美仁親王門/のち香川景樹門、桂門十哲の1、
1806木下幸文の景樹入門を斡旋、林丘寺宮3世入道女王の命で生涯家臣に歌道を伝授、
「物名十二支詠草合」、1851「古今集田舎問答」/「愚詠草」著、
1806「景樹判五十番歌結うたむすび」(桂園派歌合)参加、可功よしのりの父、
[可官(；名)の通称/号]通称；左京、号；柏園
- E4704 **愛敬**(よしたか・藤原ふじわら、定倫男) 1766-1841 76 代々一条家諸大夫/廷臣；越前介/宮内権大輔、1793備前守兼任/1835従三位、「賀茂保孝碑銘」著
- E4705 **義高**(よしたか・服部はつとり、笹本平兵衛男) ?-? 父は三宅島の長老、江後期の文筆家；記録、1785八丈島官船頂の服部家父子が溺死したため請われて服部家を継嗣；八丈島官船頂、1810「廻船安乗録」11「八条島裁衣織」著
- P4748 **義敬**(よしたか・宮脇みやわき、通称；新平) ?-1831 信濃飯田藩士、和漢学者・歌人、儒・歌；加藤尚質ひさただ門/歌道；香川景樹門、
- 04707 **好孝**(よしたか・名島なしま、通称；庄大夫) 1779-1855 77 播磨山崎藩士；用人、和学者
- E4706 **義恭**(よしたか・海老名えびな) 1785-1856 72 佐渡相川の地役人/連歌；里村昌逸・昌同門、書・歌にも長ず、「都の行かひ」著、
[義恭(；名)の字/通称/号]字；泰夫、通称；寛二郎/寛次郎、号；玄義/桜戸おこ
- E4707 **嘉孝**(よしたか・石井いひ、治兵衛5代、旧姓；杉山) 1789-1837 49 江戸料理人/石井治兵衛4代目の養子、代々幕府公式行事の料理頭取を務める石井家5代目を継嗣、法号；覚往浄脱信士、1823「和物料理調法集」「困方料理調法集」「菓子調法集」「蒲鉾料理調法集」「鳥料理調法集」、1823「国産料理調法集」「汁類料理調法集」「造酒料理調法集」「家方料理調法集」、1823「焼物料理調法集」「寄物料理調法集」、27「包丁捨手集」「御膳御献立」外著多数、
- E4708 **吉孝**(よしたか・小町谷こまちや、直景の長男) 1793-1885 長寿 93 信濃伊那郡上穂村の豪農、歌人；小町谷吉憲よしのり門/実行教会の柴田花守門、賀茂季鷹流の歌を作る、農業の傍ら近隣の子弟教育、吉福よとみの父、「杉窓の落葉」「杉窓真猿集」著、
[吉孝(；名)の通称/号]通称；文吉/治郎吉/治郎兵衛、号；杉霞楼さんかろう
- L4775 **美堯**(よしたか・内田うちだ、号；清斎) 1794-1884 長寿 91 江戸の歌人、法号；清浄院
- N4759 **義卓**(よしたか・関谷せきや/本姓；源、通称；弥兵衛) 1801-34 34 越後蒲原郡の国学者；平田鏡胤門
- M4734 **可隆**(よしたか・木下きのした、通称；周輔) 1801-62 62 飛騨高山の医者、国学；田中大秀門
- E4709 **美隆**(よしたか・岩崎いわさき、由政2男) 1804-47 44 河内里正の家；兄夭折のため家督継嗣、国学・歌；16歳頃村田春門門、のち加納諸平門；歌の添削・著書の校閲を依頼、読書家、博覧強記；伴林光平と共に河内歌人の双璧と称される、諸平撰「類題鮪玉集」入、自撰歌集「渚のこつみ」/「渚の藻屑」「藤門類纂」「吉野花見の記」「万葉集私記」、
「枕草子私記」「枕草子枉園抄」「岩崎美隆詠草」「近世歌文集」「近世作文集」、「長歌文集」編、1833「言葉の山口」、「歌のあけつらひ」「てにをはのあけつらひ」「和漢今古文集」外著多数、1846家集「枉園こうえん詠草」(門人荒木美蔭編)、
[美隆(；名)の幼名/通称/号]幼名；清五郎、通称；清兵衛、
号；藤門/枉園ゆずるはその/紅園/玉井軒/清泉亭
- K4771 **宜隆**(よしたか・三倉みくら) ? - ? 江後期；歌人、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[行く春をしたふ心のふかみ草花もはつかになりぬと思へば](大江戸倭歌；春363)
[あすか川常ならぬこそ頼まるれうきもうれしき瀬にや変ると](同；雑1869)
- K4772 **義高**(よしたか・桃井もい) ? - ? 江後期；歌人、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[市に売る物ならませばほととぎす此一声を何にかへまし](大江戸倭歌；夏473/市郭公)
- L4782 **美孝**(よしたか・小倉おぐら/望月) 1808-92 85 紀伊和歌山藩士、国学；加納諸平・本居内遠門、

- [美孝(；名)の初名/通称/号]初名；千入、通称；儀七郎、号；静山
- E4710 **義敬**(よしたか・静間しずま、号；松華園)1809-6759 佐渡の郷土史家、歌、「怪談藻汐草」著
- K4753 **義標**(よしたか・高木たかぎ)1809- 186658歳 江戸の手習の師匠、歌人、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、鋤柄助之「現存百人一首」入の[高木茂標いげたか]と同族？、
[雪の日はま近く見えし山の端も霞の奥に成りにけるかな](大江戸倭歌；春59/山霞)、
[水の上によるべ定めぬ浮草の浮きけても花は咲く世なりけり](同；雑1752)、
[義標(；名)の通称] 梅花一/鉄之助
- N4702 **義高**(よしたか・佐々木ささき、通称；徳太郎)1811-9585 尾張の歌人、初め祖父に狂歌を修得
- E4711 **良隆**(よしたか・内山うちやま、良倫男)1812-6453 越前大野藩士/家老良休の弟、医；松田元桂門、
藩命により江戸で儒；朝川善庵門、帰藩；藩校明倫館の教授・監察/1852江戸に再下向、
砲術・蘭学；佐久間象山門、1863執政・軍事総督に就任、「一貫斎詩文稿」「海防策」著、
[良隆(；名)の字/通称/号]字；子正、通称；隆佐、号；貫斎/一貫斎、法号；寛忠院
- L4783 **慶孝**(よしたか・小野おの、旧姓；宇治)1813-9786 信濃伊那郡の小野頼母の嗣子；矢彦神社祠官、
儒；亀田綾瀬門/歌；千葉葛野門/俳諧；碓嶺卓郎(為山)門/書；松本董斎門、
神道大成教権大教正となる、歌を能くす、
[慶孝(；名)の通称/号]通称；学三/又右衛門、号；月之本/里之舎素水/咸斎
- M4794 **美敬**(よしたか・佐伯ささき、)1821-191090 周防都濃郡の山崎八幡宮祠官、
国学・儒；黒神直民門/歌；近藤芳樹門/国学；大国隆正門、
「十かへりの花」編/1892「寄杖つえによる七十祝」(70年祝賀歌集/松田繁蔵編)
- E4712 **義堯**(よしたか・佐竹さたけ、相馬益胤3男)1825-8460 母；池田千恵子、父は磐城中村藩主、
羽後秋田新田藩主佐竹義純の養子；1849養父の跡を継嗣；新田藩主、
秋田藩主佐竹義睦早世のため宗家を継嗣；秋田藩主、従二位/侍従/中将/参議、
秋田藩の財政整理・軍制整備を実施、維新後の混乱に新政府支持で藩論を統一、
列藩同盟軍と戦う/久保田(秋田)藩知事/侯爵、「江府勤事」著、
[義堯(；名)の別名/字/通称/法号]初名；宗胤/義核/義就、字；君岳、
通称；亀三郎/清三郎/左近/右京大夫、法号；顕徳院
- E4713 **佳孝**(よしたか・戸張とばり/無事庵)?-? 江後期江戸雑司ヶ谷の名主、
茶人；石州流怡溪派渡辺宗太夫門、1829「和漢名家別号類聚」、「名話言」、
[佳孝(；名)の通称/号]通称；平次左衛門、号；、無事庵
- N4788 **賢孝**(よしたか・玉置たまおき、旧姓；原)1835-190066 紀伊田辺の醸造業、国学・歌；熊代繁里門、
[賢孝(；名)の初名/通称/号]初名；光照、通称；又吉郎/三七郎/休助、号；文香
- M4719 **好孝**(よしたか・膳かしわで、)1838-189659 上野伊勢崎の薬種業、国学・歌；尾高高雅門、
[好孝(；名)の通称] 万次郎/浅次郎
- N4776 **慶孝**(よしたか・高山たかやま、里井孝幹2男/大江)1838-190770 和泉泉南郡南中通村の生、
1852(15歳)堺の商家(豪商)高山家の養子；家督嗣；保次郎と改称、
国学者；岩崎長世・平田鏡胤門、維新後；堺第一大区区長；行政参加；堺の近代化推進、
大阪枚岡神社禰宜、歌人；歌会始の撰者/渡辺春樹と共に堺文壇の中心、
「苞居歌集」「明石の浦月見の記」「月の瀬紀行」著、
[慶孝(；名)の別名/通称/号]別名；慶好、通称；寛三郎/保次郎、号；苞居
- E4714 **良孝**(よしたか・小林こばやし/本姓；鴨、良典男)1840-? 1862存 江後期廷臣；鷹司家諸大夫/越前守、
1854(安政元)従五下/安政大獄に連座；追放、1862和宮降嫁により特赦、「慷慨雜集」著
- L4722 **嘉孝**(よしたか・朝山あさやま、通称；東之助、嘉基男)1841-61早世21 出雲秋鹿郡佐陀神社祠官家の生、
神道/国学；金築かねつき春久門
- N4736 **義隆**(よしたか・白石しらいし、通称；秀治/三俊)1844-191269 陸奥陸前登米郡佐沼邑主亘理家の家臣、
国学・歌人；長坂賢孝門
- N4780 **佳孝**(よしたか・竹田たけだ、)1845-1912 三河宝飯郡の歌人；宮路恒雄・中村良顕門、
歌；村上忠順ただまさ編[三河の玉藻]入、
[佳孝(；名)の初名/通称]初名；丈雄、通称；喜代三郎
- M4767 **義恭**(よしたか・毛束けつか、)1849- ? 下野安蘇郡永野村の名主、
国学・歌；足利の今尾清香きよか(1805-73)門、のち唐沢山神社禰宜、「亀山嘉治正義録」共編、

[義恭(；名)の字/通称/号]字；孔儉、通称；又太郎、

号；麤学げんかく/三峯樵者/阪東処士/東海波臣/神竜洞士/山水観主/東海文華書院主人、
太明山洞道士

義高(よしたか・源、「硯破」奥書)→ 義澄(よしずみ・足利、将軍/歌人)	D 4 7 8 2
義高(よしたか・畠山) → 桂花(けいか・畠山はたけやま、医/歌/鑑定)	F 1 8 3 4
義孝(よしたか・藤原、敦舒男)→ 義孝(のりたか・藤原、歌人)	E 3 5 7 8
義孝(よしたか・黒田官兵衛)→ 如水(じすい、城主/連歌)	C 2 2 6 2
義孝(よしたか・内藤) → 露江(ろこう・内藤ないとう、藩主/俳人)	B 5 2 3 9
義孝(よしたか・松平/杉浦)→ 比隈満(ひくままる・杉浦、神職/国学)	3 7 4 9
義隆(よしたか・村上) → 英俊(えいしゅん・村上、医者/語学者)	C 1 3 9 4
義隆(よしたか・中村) → 大蔭(おおかげ・中村なかむら、大庄屋/国学)	E 1 4 0 2
義尊(よしたか・青柳) → 高軻(たかとも・青柳あおやぎ、国学者)	D 2 6 2 8
愛敬(よしたか・土屋) → 愛親(よしちか・土屋つちや、藩士/和算家)	E 4 7 5 5
良貴(よしたか・小原おはら) → 桃河(とうどう・小原、医者/本草)	G 3 1 7 7
良雄(よしたか・大石) → 良雄(よしお/よしたか・大石、家老/討入)	C 4 7 3 6
良翰(よしたか・桜井) → 舟山(しゅうざん・桜井さくらい、医者/藩儒)	H 2 1 4 6
可敬(よしたか・蜂屋) → 可敬(よしのり・蜂屋はちや/源、藩士/詩/書)	F 4 7 8 0
可全(よしたか・大村) → 可全(かぜん・大村、俳人)	C 1 5 2 6
可隆(よしたか・岩瀬/小野)→ 清春(きよはる・菱川、絵師)	Q 1 6 1 7
宜珍(よしたか・上田) → 宜珍(ぎちん・上田/滋野、国学者/地誌)	F 1 6 8 7
吉隆(よしたか・大谷) → 吉継(よしつぐ・大谷おおたに、武将/城主)	E 4 7 6 3
佳孝(よしたか・寛閑楼) → 寛閑楼佳孝(かんかんろうかこう、随筆)	G 1 5 1 9
芳高(よしたか・荒谷) → 亮通(りょうつう・荒谷あらたに、僧/歌人)	L 4 9 9 8
芳隆(よしたか・三宅) → 嘯山(しょうざん・三宅、商家/詩/俳人)	S 2 2 5 0

- N4707 **義隆室**(よしたかのしつ・佐竹さたけ、号；**光聚院**こうじゅいん、湯沢城代佐竹義章女)1620-84⁶⁵ 出羽湯沢の生、秋田(久保田)藩2代藩主佐竹義隆よしたかの正室、佐竹南家第5代佐竹義著の姉、佐竹義処よしずみ・佐竹義長の母、歌・書道に長ず、儉約を旨とし教育は慈にして敵の良妻賢母、夫義隆は名君と称さる、夫没後；光聚院と号、[義隆室の名]寿流する姫
- E4715 **芳滝**(よしたき・歌川うたがわ、姓；中井/笹木)1841-99⁵⁹ 大阪鰻谷生/京や堺に移住/絵師：歌川芳梅門、1844-60頃作画、「笑ひのたね」「浪花名所百景」画、「新柳樽開花の笑顔」「満津里俄」著、[歌川芳滝(；号)の通称/別号]通称；恒次郎、別号；一養斎/一養亭/養水/里の家/豊玉/寿栄堂/阪田舎居/糊屋
- E4716 **吉武**(よしたけ・蜂須賀はちすか/本姓；源、藩主綱矩の長男)1692-1725³⁴ 阿波徳島藩江戸芝藩邸に生、1707従四下/修理大夫、歌：中院通躬門、霊元院に詠草の勅点受く、有賀長伯を徳島に招待、活発な歌の活動、父に先立ち没、「木葉この集」「蜂須賀吉武詠草」著、[吉武(；名)の幼名/別名/法号]幼名；熊次郎/加茂之助、初名；竜誠、法号；仁良院
- E4717 **義武**(よしたけ・鷹橋たかはし) ? - ? 江中期下野日光御幸町の地誌家、1728(享保13)「日光山名跡誌」刊、[義武(；名)の通称] 武治郎左衛門たけじろうざえもん
- E4719 **義勇**(よしたけ・位田いだ/信田)?- ? 江後期天保1830-44頃京の近衛家家臣、歌人；香川景樹門、桂門十哲、澄月・夢宅の追善歌を詠む、[義勇(；名)の別名/通称]別名；義比、通称；勤左衛門/金左衛門
- 04718 **栄武**(よしたけ・中島なかじま、宣光のぶみつ男)1782-1860⁷⁹ 備前児島郡の中島家分家；大庄屋、国学・歌人；木下幸文・内藤中心なかご・香川景樹門、妻；定正女/後妻；亀川家の女、常太郎直方・順(女)の父、[栄武(；名)の通称/号]通称；卯吉/**富次郎**/足蔵、号；松齡/霜園/自在庵/ちちの舎/秩の舎/傲霜園
- M4781 **吉武**(よしたけ・小町谷こまちや、吉憲よしのり男)1815-40^{早世26} 信濃伊那郡の歌人；賀茂季鷹門

- E4720 **義勇**(よしたけ・島しま、有師の長男)1822-74**斬首**53 肥前佐賀藩士;藩校弘道館に国学を修学、1844(23歳)諸国遊学;藤田東湖と交流、1847藩校弘道館目付/藩主鍋島直正の外小姓、1850尊王論者の同盟に参加、1854藩命で佐藤一斎門/56蝦夷地調査、戊辰戦に参加、維新後;蝦夷開拓使判官として札幌市街建設に尽力/大学少監/秋田県権令歴任、政府と対立;1872辞職/74推挙され佐賀憂国党首領;政府軍と戦闘/敗戦;斬首梟首刑、1857「蝦夷地雑記」「函島日記並登用記」著、
[義勇(;)名)の字/通称/号]字;国華、通称;团右衛門、号;楽斎/桜蔭/超然窩/従吾道人
- K4764 **吉武**(よしたけ・鳥居とりい/本姓;平、通称:小左衛門)?-? 江後期;故実家、歌人、1814-15「諸家紋帖並起抄」書写、1833「浪合の草露」書写/1848「鷺森さざのり随筆」出版、伊勢貞丈の著述を書写;1848「扶桑見聞私記辨偽」「庭訓往来諸抄大成扶翼」(安斎叢書入)、歌;蜂屋光世「大江戸倭歌集」(1858成立)入、
[もののふは心とどめて弓にきるはじの紅葉や見つつ行くらん]、
(大江戸倭歌;秋972/櫛紅葉)
- L4707 **好武**(よしたけ・久山ひさやま、通称:宗碩そうせき)1820-? 江後期;美作広井郷田殿村の医者、妻;寿子(歌人)、歌;1851平賀元義門、1857大沢深臣「巨勢総社千首」夫と共に入
- 04722 **善武**(よしたけ・中村なかむら、)1830-1887**58** 近江彦根藩士/国学;青木千枝門、歌人;太田垣蓮月門、歌;[鳩のうみ]入、
[善武(;)名)の初名/通称/号]初名;縁、通称;虎之進、号;夏樹/三虎
- M4727 **善武**(よしたけ・唐木からき、春雄はるお男)1833-1919**87** 信濃埴科郡屋代村の商家、国学者・歌;父門/石黒守稻もりし・宮坂喜昌門、摩那田祖元の師、
[善武(;)名)の通称/号]通称;繁作/銀三郎(父の称)、号;嘉木園/単山堂
- 04781 **良岳**(よしたけ・平山ひらやま、通称:巖太郎)1836-74**39** 筑後久留米藩士/国学
- 04734 **吉武**(よしたけ・西川にしかわ/本姓;平、久保源治男)1842-76**35** 近江蒲生郡八幡西川吉輔女幸子と結婚、婿として入;商家(肥料・魚問屋)、国学者;西川吉輔・平田鋏胤門、1876(明治9)没、吉之助(1874-1940/のち教育者)の父、妻幸子(佐智)は義夫吉輔と共に国学者・歌人、
[吉武(;)名)の通称] 八十二郎
- 吉竹(吉武よしたけ・長愛子)→ 可玖(かきゅう・西村、俳人) B 1 5 2 8
吉武(よしたけ・岩松) → 益男(ますお・岩松いづま、神職/国学) N 4 0 8 5
吉武(よしたけ・河内) → 長保(ながやす・河内かわうち、製造業;歌人) L 3 2 7 3
義武(よしたけ・千村) → 夢沢(ぼうたく・千村/井出/井、藩士/詩) E 3 9 5 7
義武(よしたけ・藤原/高橋)→ 千川(ちかわ・高橋たかはし、国学/神職) M 2 8 7 8
義武(よしたけ・津野) → 千萱(ちがや・津野つゆ、商家/国学) M 2 8 9 8
義建(よしたけ・松平) → 義建(よしたけ・松平/高須、藩主/歌) K 4 7 5 0
義剛(よしたけ・秀島/河東)→ 鼓溪(こけい・秀島ひでしま、庄屋/儒/教育)M 1 9 2 8
良武(よしたけ・跡部) → 良顕(よしあきら・跡部、幕臣/神道/歌) C 4 7 0 4
吉田千家(よしだせんけ) → 紅器(こうき・高月たかつき、商家/俳人) I 1 9 1 8
- E4721 **善繩**(よしただ/よしつな/よしなわ・春澄はるずみ、字;名達、猪名部豊雄男)797-870**74** 伊勢生/漢学者;紀伝道門、828猪名部造から春澄宿禰に改姓/830対策/従五下/833恒貞親王の東宮学士;承和変で左遷、843文章博士;大学「後漢書」講義、860(貞観2)参議/861式部大輔/870従三位、老荘/陰陽道、869「続日本後記」編纂参加;序執筆、仁明/文徳天皇に講義、詩;経国集入
女むすめは歌人 → 洽子(あまねこ・春澄高子、典侍/古今歌人) B 1 0 5 7
→ 善繩女(よしただのむすめ・春澄はるずみ、後撰歌人) E 4 7 3 1
二人は同一人か姉妹かは不詳
- 4715 **好忠**(善忠よしただ・曾彌そね)923?-? 1003**存** 平安前中期;延長・長保923-1004頃の廷臣;六位、丹後掾(曾丹後そたんど/曾丹そたと称さる)、歌人、和歌革新;俗語新語を使用、960頃に百首歌を創始、977頼忠前栽合歌合;後の会に参加、986内裏歌合参加、1003太政大臣殿(道長)三十講歌合参加、
家集「曾禰好忠(曾丹)集」(うち360首和歌を毎月集と称す)、「好忠百首」著、玄々集入、大中臣能宣・源順・恵慶らと親交/今昔物語・袋草子に逸話;狷介の奇人とされる、36歌仙、後葉集9首/金葉III奏本6首入/続詞花集6首/雲葉集11首入、

勅撰97首;拾遺(9首188/213/304/526/833/1109/1111/1144/1145)、
後拾遺(9首42/169/204/220/227/273/421/775/872)詞花(17首5/76/78/81/82以下)、
新古(16首77/186/187/311343/371/495以下)新勅(9首)続後撰(4首)続古(5首)以下、
[鳴けや鳴け蓬よぎが袖そまのきりぎりす過ぎゆく秋はげにぞかなしき](後拾遺;273)
[由良の門を渡る舟人かぢをたえ行方もしらぬ恋の道かな](新古;1071)

- 4714 **義忠**(よしただ・畠山はたけやま/本姓;源、満則[満慶]男)?-1463 武将;室町幕府臣;1432家督嗣、
能登守護/將軍御相伴衆、四位/左馬助/阿波守/修理大夫、1455家督を孫義統に譲渡、
歌人;永享宝徳1429-52頃幕府歌壇の主要歌人/正徹を招き月次歌会を催、
1448(文安5)「畠山匠作亭詩歌」を催、儒・猿楽・早歌・蹴鞠を嗜む、新続古今(1838)、
[住みなるる人の心はしらねどもやがてさびしき山のかげかな](新続古;雑1838)、
[山も野もみなうづもるる雪の中にしるしばかりの杉のむらだち]、
(畠山匠作亭詩歌22/雪中碧杉/対するは相国周巖の詩/すべて屏風絵を鑑賞しての詠)、
[義忠(;名)の別号/法名/法号]別号;義慶、法名;賢良、法号;竜興寺殿芳彦賢良
- E4722 **慶忠**(よしただ・藤波ふじなみ/本姓;大中臣、康忠男)1558-9942 戦国安桃期神職;1572神祇権少副、
神宮祭主、1575正五下/88(天正15)昇殿、「両宮江御祈之事次第のとめ」著
- E4723 **義忠**(よしただ・黒川くろかわ、通称;右衛門)1598-166467 羽前米沢藩士;藩主上杉綱勝に出仕、
「削封日記」著
- K4717 **良忠**(よしただ) ? - ? 泉州堺の俳人;1661成安「埋草うもれぐさ」入、
狂歌;1666行風「古今夷曲集」1首入、
[今日よりは算用いらず人間の八苦七十二にて皆済かいさい](夷曲集;874)、
(72歳で借金完済;人間の苦悩から解放され死を待つだけ;辞世の狂歌)
- E4724 **敬忠**(よしただ・梅津うめづ/本姓;藤原、家老梅津忠国男)1645-171066 母;梅津政景女、出羽秋田藩士、
利忠・忠宴ただしの弟、武田流兵学;兄と共に今村不僧門、分家し藩主佐竹義隆に出仕、
1676大番頭、改易されのち赦免;隠居、軍学研究に専念、
「甲陽陣取集」「五戦辨記」「五戦図解問答」「軍法巻註解問答」「軽卒事記」「五陣取口決」著、
[敬忠(;名)の通称/号]通称;藤太、号;柏庵/藤明、金忠の父
- P4790 **吉忠**(よしただ・山根やまね、通称;甚吉)1680-173758 近江彦根の歌人;[彦根歌人伝・亀]入
- E4725 **吉忠**(よしただ・二条にじょう/本姓;藤原、綱平男)1689-173749 母;栄子内親王、江戸期廷臣;
1698従三位、1715内大臣/22右大臣/26左大臣/29従一位/36(元文元)関白・氏長者、
没後;1769准三后、宗熙の父、法号;安祥院、
1723「十五夜詩歌御会」28「享保十三年公宴和歌御会始」著、
「享保二十年御即位記」「二条左大臣藤吉忠公記」著
- M4728 **良忠**(よしただ・神尾かみお、通称;織部)1689-175668 近江彦根藩士、歌人;石尾洋方門
歌;[彦根歌人伝・続寿]入
- M4729 **良忠**(よしただ・神尾かみお、通称;他一郎)1697-174549 近江彦根藩士、歌人
歌;[彦根歌人伝・亀]入
- E4726 **義忠**(よしただ・西村にしむら/本姓;源)1728-9770 江中期京の国学者、近江大掾、1793「扇之記」著、
[義忠(;名)の号]号;含竜堂/蒼竜、法号;休誉活山蒼竜居士
- E4727 **慶忠**(よしただ・高嶺たかみね、慶明男)?-? 江中期岩代会津藩士、地誌家、
郷士の事跡調査;「会津鑑」著/藩に献上
- M4788 **義質**(よしただ・後藤ごとう、) ? - 1828 陸奥(陸中)水沢の町医者、国学/歌人、
[義質(;名)の通称/号]通称;周蔵、号;松伯/有楽斎/一瓢百歌居士
- M4749 **令尹**(よしただ・北村きたむら、)1789-184153 近江彦根の国学・歌;小原君雄門、
歌人;[彦根歌人伝・亀/続寿附録]入、
[令尹(;名)の通称/号]通称;重蔵、号;竹屋
- E4728 **喜理**(よしただ・田辺たなべ、喜徹男)?-1864 江後期岩代二本松藩士;代々金役・勘定奉行、
騎射に長ず、文学・書・俳諧に通ず、家臣録「新家譜」編([世臣伝]後の2代藩主以降を編纂)、
[喜理(;名)の別号/通称/号]別号;斎、通称;市左衛門、号;芝山、法号;高照院
- 04780 **敬忠**(よしただ・たかただ・平山ひらやま、黒岡活平齋男)1815-189076 陸奥三春藩士の家の生、
1834江戸の叔父竹村七佐衛門(奥祐筆組頭)宅に寄宿/儒・漢学;安積良齋門、

1850(嘉永3)幕臣平山源太郎(小普請)の養嗣子;家督嗣、51徒目付/54[°]リ-再来航時応接掛、松前蝦夷地用掛堀利熙に従い三厩滞在中急遽箱館へ出張;[°]リ-の迫る協定を排除、1852(安政2)下田表御用で賞/54蕃書調所設置尽力/長崎奉行水野忠徳と日露条約審議、1855安政大獄で罷免;差控、赦免;1865(慶応元)二ノ丸留守居/目付、徳川慶喜の諸政改革補佐/1867若年寄並兼外国総奉行/68鳥羽伏見で敗北;罷免;逼塞、維新後;慶喜に従い静岡住、1870東京住;教導職/75日枝神社祠官/76氷川神社大宮司、1879敬神愛国を唱え神道大成教会を創立;1882(明治15)大成教と改称;教祖・初代管長、大教正、「本教真訳」「修道真法」「平山省齋遺稿抄」著、

[敬忠(;)名)の字/通称/号]字;安民、通称;金吾/六蔵/謙二郎/函書頭、号;省齋/素人道人

- E4729 **義忠**(よしただ・小野おの、通称;権之丞)1818-8972 岩代会津藩士;1862近侍から公用人に昇進、藩主松平容保に時互い上京;公武周旋に尽力、大政奉還後会津に帰郷;次席家老、戊辰戦後下総古河藩に幽居;のち赦免、「小野権之丞おのごんのじょう日記」著
- E4730 **綏忠**(よしただ・山岡やまおか) ? - ? 江後期加賀金沢の和算家;本多利明門、会田安明・家崎善之の著書を注解、「五明算法術解」「算法古今通覧解」著、[綏忠(;)名)の別名/通称]別名;綏安よやす、通称;弥四郎
- M4769 **義質**(よしただ・小泉こいずみ、義彦男)1841-7939 近江大津の歌人、義文よぶみの弟、歌;[鳩のうみ]入
- P4788 **義忠**(よしただ・山田やまだ、通称;啓之助/安造)1845-191672 信濃伊那郡の国学者;平田鍊胤門
- 義忠(よしただ・藤原) → 義忠(のりただ・藤原、平安期詩人) E 3 5 9 1
義尹(よしただ・足利) → 義植(よしたね・足利/源、室町幕府将軍) E 4 7 3 4
欽尹(よしただ・土岐) → 霞亭(かてい・土岐とき/武、医者/詩文) H 1 5 5 0
能正(よしただ・源) → 能正(よしまさ・源、廷臣/歌人) G 4 7 9 3
吉忠(よしただ・越智/松平) → 清武(きよたけ・松平/越智、藩主) P 1 6 8 2
良尹(よしただ・月輪つきわ) → 良尹(よしまさ・月輪つきわ、歌人) G 4 7 9 5
良忠(よしただ・藤堂) → 蟬吟(せみぎん・藤堂とうどう、俳人) 2 4 2 7
良忠(よしただ・丸山) → 柯則(かそく・丸山まるやま、宿本陣/俳人) M 1 5 7 9
一匡(よしただ・中村) → 一匡(かずまさ・中村、国学者) M 1 5 4 9
佳忠(よしただ・柳沢) → 吉保(よやす・柳沢/源/松平、藩主/歌) H 4 7 7 5
吉田大納言(よしただいなごん) → 経房(つねふさ・藤原/勘解由小路)
- E4731 **善繩女**(よしただのむすめ・春澄はるずみ)?-? 平前期歌人;源善よしと贈答、後撰859
後撰859の歌は[善(よし・源みなもと) B 4 7 8 4]を参照、
☆ 洽子(あまねい、春澄善繩女高子)と同一or姉妹
→ 洽子(あまねい・春澄、典侍/古今歌人) B 1 0 5 7
- Q4722 **吉立**(よしたつ) ? - ? 江前期;京の歌人;1682河瀬菅雄[麓の塵]7首入、河瀬家の人か?
[うれしきもうきもとまらぬ世中に何とて歳の身にはそふらん](麓の塵;冬370/歳暮)
- K4750 **義建**(よしたつ/よしたけ・松平まつだいら/高須たかす、義和[保友]2男)1799-6264歳 水戸藩小石川邸の生、父が1804美濃高須藩主松平高須家の養子;第9代藩主、兄義質早世/父の嫡子;1815将軍謁見;従四下侍従/掃部頭/撰津守、1832(天保3)父没;家督嗣;高須第10代藩主;左少将、正室;規姫(徳川治紀5女/真証院)/側室;古森家・奥山家、1850隠居;5男義比(徳川茂徳)が家督嗣、1862(文久2)没、高須四兄弟[慶勝・容保・定敬・茂栄(茂徳)]の父、歌;1858蜂谷光世「大江戸倭歌集」入、
[白雪のふるとしながら天つ空かすみ初そめてぞ春は来にける]、
(大江戸倭歌;冒頭歌;年内立春)、
[義建(;)名)の通称/号/法号]通称;範次郎/撰津守、号;乗斎、法号;芳潤院
- 04763 **良辰**(よしたつ・林出はやしで、号;竹翁)1831-1922長寿92 紀伊和歌山の国学者
- 吉辰(よしたつ・武蔵) → 石寿(せきじゅ・武蔵むさし、幕臣/博物) K 2 4 1 5
義辰(よしたつ・島津) → 義久(よしひさ・島津、貴久男/武将/連歌) G 4 7 2 7
義竜(よしたつ・山名) → 玉山(ぎよくざん・山名、幕臣/歌人) 1 6 4 0
吉田内大臣(よしたないだいじん) → 定房(さだふさ・吉田/藤原、内大臣/南朝/歌人) 2 0 2 3

- E4732 **嘉種**(よしたね・源みなもと、長猷[918没]の長男)?-? 清和天皇の孫/平安前期廷臣;三河介・美作守、美濃守/正五下、初名嘉樹/嘉種に改名、歌人、孚子内親王[桂皇女]と恋(:大和物語入)、勅撰;続後撰集1379、
[長き夜の明石の浦に焼く塩の煙は浦に立ちやのぼらぬ]、
(続後撰;異本歌1379/亭子院にいる女に贈る)、
妻も歌人 → 嘉種妻(よしたねのつま・源みなもと、拾遺歌人) E 4 7 4 0
- E4733 **義種**(よしたね・斯波しば/本姓;源、高経5男) 1352-1408⁵⁷ 武将;楠正儀ら南朝追討軍の大將、伊予守、修理大夫/1365侍所頭人/山城守護/若狭守護兼任、
1366(貞治5)政変;父・兄義將・一族の義高らと越前へ落つ;67復歸、越中守護代、加賀守護、歌人;永徳1381-84頃から活動、勅撰3首;新後拾遺(491/982)新続古今(461)、
[霜さやぐ夜半もふけ行くささの葉に氷れる月をはらふ山風](新後拾;冬)
- E4734 **義種**(よしたね・足利あしかが/本姓;源、義視男) 1466-1523⁵⁸ 母;日野政光女(富子の妹)、
武将/1490参議、從四下、1490室町幕府10代將軍(在位1490-93);細川政基らに敗戦、周防の大内義興の庇護、1508入京;將軍に復職(在位1508-21)、
1521管領細川高国の乱で淡路に逃亡/阿波に移り没、
歌人;1508(永正5)「御入洛以後御会始和歌」催、
[義種(;名)の別名/通称/号] 初名;義材よき/義尹よしただ、通称;島公方/流れ公方、
号;巖山/明山/曄山ようざん、法号;恵林院
- E4735 **好胤**(よしたね・石井いい) ? - ? 江中期備中黒尾の郷土史家、岡山に住、
1753(宝暦3)「備中集成志大全」、「黄薇雜録」著、
[好胤(;名)の字/通称/号]字;子節、通称;新兵衛、号;梅陽
- K4765 **義苗**(よしたね・大島おおしま、義敬男) 1719-97⁷⁹歳 旗本;美濃国席田郡・加茂郡に知行地;2000石、
俳人;4世田中五竹坊門/美濃以哉派江戸連衆指導の立場;以哉坊・是什坊を自邸に逗留、
年下の野村白寿坊の親友/菊舎尼と交流、1782「芭蕉門歳旦三物」編、
[義苗(;名)の別名/通称/号]初名;光寛、通称;豊之助/左京/雲四郎、
号;童隣、俳号;希古庵何戎坊かじゅうぼう
- E4736 **義胤**(よしたね・富野とみの/一時香川、富野吉広男) 1733-91⁵⁹ 越前敦賀医者;香川修庵門/一時養子;
師没後に旧姓に復す、「傷寒暖論集解」著、
[義胤(;名)の字/号]字;左沖/仲達、号;鳴謙、法号;良空鳴謙仲達居士
- 04741 **佳胤**(よしたね・根本ねもと/本姓;平、通称;常陸介) 1742-1795⁵⁴ 上総市原郡の神職、
根本胤満たねまる(菊間八幡社社司/1691-1764)の孫、国学者、菊間八幡社神主
- E4737 **吉埴**(よしたね・よしはに・中山なかやま/本姓;藤原、創健男) 1754-1835⁸² 代々遠江城飼郡高松神社神主、
從五下、国学;本居宣長・栗田士満門、歌人;自邸で月例歌会を催、
芳雄(士満門国学者)の兄、吉行の養父、
「荻屋おぎのや歌集」著、本居大平「八十浦の玉」中巻;5首入、
[八束穂にさかえむ年を祝ひつつ御戸代みとしろ小田にしめはへ渡す](八十浦;492/苗代)、
[吉埴(;名)の通称/号]通称;将監/豊後守、号;荻屋/荻の舎おぎのや、養嗣子;芳行
- 04773 **義苗**(よしたね・土方ひかた、豊後日出藩主木下俊直2男) 1778-1845⁶⁸ 江戸愛宕下菰野藩邸の生、
父が豊後日出藩木下氏分家旗本の養子;父に隨從、1782伊勢菰野8代藩主土方雄貞の養子、
菰野藩9代藩主となる;幼少のため藩政は隱居していた7代藩主雄年かつしが執行;贅を尽す、
正室;田沼意致女(田沼意知養女)、1796(寛政8)將軍家齊に拝謁/從五下大和守、
破綻の藩財政改革着手;臨時準備積立法を制定・質素儉約・経費節減・灌溉工事・産業開発、
借金9800両を1400両にまで削減、減税政策・目安箱設置/私塾[麗沢書院]の設立;人材育成、
雄興かつおき・木下俊国・義方・義行・折井義孝・松田義保・中根正昭室・興津忠本養女らの父、
1835(天保6)長男雄興に家督讓渡;38雄興没/孫の雄嘉が家督嗣/義苗が藩政実権を握る、
菰野藩中興の名君と称される、
[義苗(;名)の通称/号]通称;彦吉/大和守、号;依梅、法号;靈光院
- M4725 **宜胤**(よしたね・金子かねこ、) 1794-1844⁵¹ 相模戸塚の国学者;長坂知雄門、
[宜胤(;名)の別名/通称/号]別名;弥常/眞幸、通称;小四郎、号;富之屋
- P4795 **珍胤**(よしたね・依田だ、) 1804-1879⁷⁶ 信濃佐久郡八幡宿の脇本陣・問屋経営、

国学者;本居内遠うちとお・豊穎とよかい・平田鏡胤門、
[珍胤(;名)の初名/通称/号]初名;直礼、通称;広太郎/租兵衛、号;陸翁

E4738 **良胤**(よしたね・森もり/本姓;源、通称;脩)1809-? 阿波勝浦郡小松島浦の国学者:平田篤胤門、
「神代考」著

M4782 **吉胤**(よしたね・小町谷こまちや、吉英よしひで[1759-1811]男)1809-35早世²⁷ 信濃伊那郡上穂村豪農の生、
小町谷家総本家の家、吉英晩年(51歳)の子、義兄吉憲(旧姓;林/1782-1857)あり、
歌人;賀茂季鷹門

E4739 **吉胤**(よしたね・岡おか) 1831 - 1907⁷⁷ 佐賀藩士/神道;岡出雲門、儒学;草葉佩川門、
和学;南里有隣ありちか門/神典;六人部むとべ是香よしか門/国学・歌;古川松根まね門、
歌・画・書に通ず、維新後;伊勢神宮禰宜/のち皇祖教を創始;管長大教正となる、
三重県津・茨城県水戸で教職、1859「松浦の家つと」、「医神御伝記附大同医式解」著、
[吉胤(;名)の別名/通称/号]別名;眞澄、通称;源一郎/源之進/佐渡守、眞澄佐渡守、
号;櫛舎ならのや/櫛邨ゆうそん/櫛翁ゆうおう/乃楽舎

Q4710 **義胤**(よしたね・善方よしかた)1831-1909⁷⁹ 陸奥安達郡二本松の国学者;大屋士由しゅう門、
[義胤(;名)の通称/号]通称;四兵衛、号;田鶴廻舎

P4745 **祥胤**(よしたね・宮下みやした、)1834-1877⁴⁴ 信濃飯田の商家、国学者/歌人、
[祥胤(;名)の通称/号]通称;礼助/敬助、号;漢阜亭、屋号;橘屋

善種(よしたね・山田) → 善種(ぜんしゅ・山田、俳人) F 2 4 8 6

善胤(よしたね・原) → 念斎(ねんさい・原はら、藩儒) 3 4 6 3

義胤(よしたね・湊) → 長安(ちやうあん・湊みなと、蘭医) H 2 8 1 4

義胤(よしたね・国分/国府こくぶ) → 東野(とうや・国分/国府、儒者) H 3 1 5 4

義胤(よしたね・志賀/原) → 徳斎(とくさい・原はら、儒者/紀行) K 3 1 7 2

義胤(よしたね・川上) → 静庵(せいあん・川上かわかみ、国学者) H 2 4 2 2

義胤(よしたね・土生) → 玄昌(げんしょう・土生はぶ、眼科医) J 1 8 9 8

義胤(よしたね・安仲) → 徳昌(のりまさ・安仲やすなか/樋口、里正/国学) K 3 5 2 3

義樹(よしたね・桂山) → 彩巖(さいがん・桂山かつらやま、幕府儒官) 2 0 0 2

嘉種(よしたね・閑院宮) → 盈仁親王(えいにんしんのう、閑院宮、天台僧) F 1 3 5 9

嘉種(よしたね・中村) → 七友斎(しちゆうさい、中村、儒者/藩士) E 2 1 6 3

由多禰(よしたね・潮田) → 藻苅(もがり・潮田うしおだ、藩士/国学) J 4 4 3 6

E4740 **嘉種妻**(よしたねのつま・源みなもと)?- ? 平安前期三河介源嘉種の妻、
歌人;拾遺集317(;三河に下向する嘉種に同行した娘に贈る歌)、

[もろともに行かぬ三河の八橋はこひしとのみや思ひわたらん](拾遺;317)

吉田大弐(よしだのだいに) → 資経(すけつね・吉田/藤原、廷臣/記録) C 2 3 4 5

E4741 **芳玉**(よしたま・歌川うたがわ、姓;清水/名;玉)1836-1970³⁵ 江戸日本橋新材木町の杉ノ森床屋の女、
絵師:歌川国芳門、美人画・合巻の袋絵を描く/のち柴田是真門;扇面の下画を描く、
晩年剃髪し諸国遍歴、1850-51「鶯塚梅の魁」50-52「鶯墳梅赤本」51「本朝武藝百人一首」画、
1852-54「比翼紋小紫染」53「恋衣罽雜史」59「子だからえんめいぶくろ」外画多数、
[歌川芳玉(;号)の通称/別号]通称;タマ女、別号;芳玉女/一掌斎/一耀斎

E4742 **吉為**(よしため・岸きし) 1761 - 1803⁴³ 近江彦根の歌人:中村敲石こうせき(知足)門、
「日の見の岡」著、歌;[彦根歌人伝・寿]入、

[吉為(;名)の通称/号]通称;音次郎、号;松苔舎

L4771 **可為**(よしため・宇喜多/浮田うきた/本姓;藤原・のち豊臣、博文男)1795-1859⁶⁵ 京の大和絵絵師、
戦国大名宇喜多秀家の7世の孫と称す、画;田中訥言門;土佐派修学/土佐光孚門、
大和絵の古法を習得;古典的画材に長ず、訥言・冷泉為恭と復古大和絵派巨匠とされる、
但し為恭とは不仲、画院寄人、尊攘思想で1853「神風夷艦を覆す図」で幕府対応を批判、
1854「米艦浦賀渡来図」画/56「長篠合戦図」画/58和宮降嫁を諷刺;「婚怪草紙絵巻」画、
1858安政大獄に連座;息子松庵可成と共に捕縛;江戸の獄中病氣;江戸払い/59帰京し病没、
歌・書にも長ず、上記のほか1833「北野大茶湯図」「浮田一蕙斎踊図」画、
門弟に精神訓[古画の精神を私心を混じえずに写し止めるよう努力すれば、
自然に自己の特徴が生まれるようになる]、高久隆古・富岡鉄斎の師、

[可為(；名)の別名/字/通称/号]初名；公信、字；士師、通称；主馬/内蔵允くらのすけ、浮田一蕙、
号；一蕙いっけい/為牛/為仏子/谷神子/瑞草/香/画院生徒/昔男精舎、

良為(よしため・日比野) → 良為(よしなり・日比野ひびの/源、商家/和算家) 4 7 2 2

Q4700 良足(よしたり・吉井よい、初名；良秀、良知男)1759-182466 撰津西宮広田神社社家の生、和学者、
1769(明和6)吉井家48代継嗣；広田神社祠官；陸奥守/従五下、1790(寛政2)良足と改名、
養嗣子；萩原良貫(のち吉井良明よあき/吉井家49代)、
[良足(；名)の通称]陸奥守

E4743 栄足(よしたり・浅野あさの)1782- 183453 京の能役者/観世五軒家の浅野家8世；1805(文化2)家督嗣、
福王家に属する浅野家を観世宗家に属させる、能楽史研究、「観氏家譜」編、「優伎録」著、
「翁舞神歌考」「観世小次郎権守信光氏談伝」「勸進能記」「能楽余論」/1810「奏曲年表」著、
[栄足(；名)の通称/号]通称；太左衛門、号；橘園、法号；宗雲

E4744 義足(よしたり/よしたる・伊藤/伊東いとう)1798-187679 備前岡山中之町の糸商、伊藤重義(歌人)の弟、
歌人；香川景樹門、さらに藤井高尚・熊谷直好門、瀬崎久敬の後に酒折宮月次歌会の点者、
1849「篠舎草紙」著、歌；[類題吉備国歌集]入(37首)

[義足(；名)の別名/通称/号]初名；義城、通称；佐左衛門、

号；綾丸/風生/小竹舎/篠舎ささのや/三賜老夫、屋号；糸屋、法号；讃誉義宏禪定門

吉太郎(よしたろう・高田) → 義甫(よしとし/よしすけ・高田、国学/教育) E 4 7 9 7

吉太郎(よしたろう・青根) → 吉成(よしなり・青根あおね/藤原、国学/歌) L 4 7 0 4

吉太郎(よしたろう・宇津木) → 久岑(ひさみね・宇津木うつき/西村、藩士/神職) I 3 7 5 7

芳太郎(よしたろう・市岡) → 智寛(ともしろ・市岡、役所手代/博物学) Q 3 1 4 4

芳太郎(よしたろう・小野) → 顕栄(あきひで・小野おの、神職/国学) H 1 0 1 8

芳太郎(よしたろう・伴林) → 光雄(みつお・伴林ともばやし、国学者/勤王) J 4 1 8 8

与七(よしち・三宮) → 信清(のぶきよ・三宮さんのみや、和算家) B 3 5 3 5

与七(よしち・深野) → 致疎(むねのぶ・深野ふかの/三浦、国学者) E 4 2 2 0

与七(よしち・奈古屋) → 以忠(いぢゅう・奈古屋なごや、藩士/儒者) D 1 1 6 7

与七(よしち・越野) → 守任(もりとう・越野こしの/吉田、商家/歌) J 4 4 9 9

余七(よしち・石野) → 広持(ひろもち・石野いしの/中原、幕臣/歌) I 3 7 2 8

余七(よしち・近松、浄瑠璃作者) → 一九(初世いっく・十返舎、滑稽本) 1 1 2 0

F4791 善隣(よしちか・菅原すがわら、兼茂男)?-? 菅原道真の孫、平安前期廷臣；越前少掾、
本朝文粹；藤原衆海もろみみの落書に入

E4745 義懐(よしちか/よしかね・藤原ふじわら、摂政太政大臣伊尹これまさ5男)957-100852 母；代明親王女の恵子女王、
懐子(花山天皇母)・義孝よしたかの弟、平安前中期廷臣/984従三位/985参議/従二位権中納言、
986(寛和2)花山天皇が謀られ退位出家とともに藤原惟成と出家/比叡山横川飯室で修行、
歌人；975一条大納言家歌合参加/986花山天皇催の内裏歌合の判者/万代集・秋風集入集、
勅撰2首；後拾遺(1034)続古今(1684)、栄花物語・古今著聞集など逸話入、

[見し人も忘れのみゆくふるさとに心ながくも来たる春かな]、

(後拾；雑1034/出家法師になってのち住み馴れた地の桜をみて詠む)、

[義懐(；名)の号/法名]号；飯室入道、法名；悟眞/寂眞

E4746 能親(よしちか・本姓；平たいら/今城肥前守)?-? 戦国期伊予宇和郡の豪族/連歌作者、
1537. 5. 22伊勢太神宮法楽のため周桂草庵にて「伊予千句」張行；第八何木の発句、
伊予千句の巻頭・巻軸発句を関白近衛植家(梅)・三条西公条(都)に要請、

E4747 慶親(よしちか・中山なかやま/本姓；藤原、親綱男)1566-161853 母；神祇伯白川雅業王女、廷臣；蔵人頭、
1589参議/97権中納言/1612権大納言/14従二位/15辞任、連歌；1593「何船百韻」参加、
歌；「中山慶親百首」著、元親の父、法号；西照院凉月向空

Q4729 吉親(よしちか・中村なかむら、)? - ? 江前期；上方の歌人、

1670下河辺長流[林葉累塵集]入、

[見し秋の心あてなる草の名も霜おき迷ふむさし野の原](林葉累塵；冬634)

4719 義知(よしちか/よしたも・壺井つばい、初名；韶政、三池道意男)1657-173579 河内辻子村の農家の生；
1670父没；母方の壺井家に養育；壺井に改姓、大阪で書；筒井吟竜軒門、

1685京四辻公韶家に出仕/故実(官職):平田内匠門、独学で有職故実の実証的研究、京の中立売新町西入北側住;故実家を業とす、多田南嶺・谷村光義・速水房常の師、「職原抄解」「職原抄通考」「職原抄弁疑私考」「直垂考」「壺井抄」「鄙鶴問答」著、「紫式部日記傍註」「枕草子装束抄」「装束要領抄」「昔伝拾葉」外著多数、氏房の父、[義知(;名)の字/通称/号]字;子安/子海、通称;安左衛門、号;鶴翁/鶴寿/温故軒

- E4748 **義鄰**(よしちか・杉本すぎもと、通称;三之丞)?-? 江前中期元禄宝永1688-1711頃加賀金沢藩士、定番歩士、「渡辺幸庵対話記」著/赤穂浪士討入時江戸にいて報告;1703「赤穂鍾秀記」著、これが1709室鳩巢編「赤穂義人録」の資料となる
- E4749 **良近**(よしちか・神田かんだ、七兵衛良佐男)1685-1735⁵¹ 岩代会津藩士、兵学者/剣術;神夢想眞流、「拾塵雜編」「秋気便苑」「武小学管窺抄」著、[良近(;名)の通称/号]通称;与八郎/右源次、号;半滴/方水軒/持敬斎、法号;良徳院
- E4750 **義近**(よしちか・猿橋さるはし)1729-1801⁷³ 陸中盛岡の書家、狂歌・戯画を嗜む、1757(宝暦7)「自然未聞記」/1800(寛政11)「莞爾帖」、「書法著啓集」著、[義近(;名)の通称/号]通称;源五郎/勇助、号;墨斎/亀北山人/岩手ノ猿方、法号;齡紹院
- E4751 **義比**(よしちか・岡村おかむら)1755-1816⁶² 代々加賀大聖寺藩の足軽、学問に励む、1774(安永3)近習役に抜擢/腰物奉行、1809新知50石、詩・書・画・箏・竜笛を嗜む、「東征筆乗」著、[義比(;名)の別号/字/通称/号]初名;義房、字;伯康、通称;伝吾/五百木、号;琴台
- P4763 **宜周**(よしちか・森もり、宜園男)1786-1821³⁶ 母;吉田家の女(後妻)、備中浅口郡の商家;家督嗣、父は讃岐塩飽牛島の丸尾祐雅3男;幼時に森家の養子(森家の女と結婚;婿養子)、歌人;香川景樹・木下幸文門、同母の姉2人(赤松家の妻/古市孝直の妻)、妻;高戸家の女(宜周没後に大賀家に再縁)、宜中(1819-48)の父、[宜周(;名)の字/通称/号]字;詢夫、通称;甚左衛門(代々の称)、号;釣月亭/足亭、屋号;質屋(志ち屋)
- N4753 **善隣**(よしちか・瀬見せみ)1787 - 1842⁵⁶ 紀伊日高郡江川村の国学者;本居大平門、善水よしみ・善礼よひろの父、[善隣(;名)の通称/号]通称;政吉/武兵衛/彦右衛門、号;甕の舎みかのや/三香園
- P4781 **良近**(よしちか・山形やまがた、通称;兵三郎/為三)?-1845 江中後期;伯耆倉吉の国学者
- E4752 **義周**(よしちか・宮原みやはら/本姓;源)?-1858 幕臣/1799宮原義利の養嗣子;義周に改名、1805侍従/撰津守、1809(文化6)家督嗣/17従四下弾正大弼、22高家肝煎/25京への使者、1837正四下/54致仕、「日光御宮御霊屋御名代勤方記」著、[義周(;名)の初名/通称]初名;氏周うじちか、通称;勘五郎/仙之丞
- E4753 **義親**(よしちか・山田やまだ、定利の長男)1792-1858⁶⁷ 美濃厚見郡舟来山下の農業/1800上京、医学;大村重矩門/のち和泉堺の松浦離山門;秘訣を受、「傷寒舞踏論」「語土論」著、[義親(;名)の幼名/通称/号]幼名;千一、通称;厚安、号;留神舎/舞踏斎
- L4757 **義親**(よしちか・市田いちだ、通称;源左衛門)1794-? 近江神崎郡北町屋村の国学者/歌人/書家 同郷の市田義輔と親交
- E4754 **義局**(よしちか・小川おがわ、伊織の長男)1795-1858⁶⁴ 常陸那珂郡青柳村の神職;青柳村鹿島明神祠官、皇典に通ず/徳川斉昭の信頼が厚い、「不忘友」著/1857(安政4)「菅谷津田両村遷宮略記」著、[義局(;名)の字/通称]字;子正、通称;修理しゅり
- L4750 **善慶**(よしちか・池尻いけじり/本姓;武田、)1796-1879⁸⁴ 豊前企救郡の生/小倉藩士、国学、[善慶(;名)の通称/号]通称;平三郎、号;逸民
- E4755 **愛親**(よしちか・土屋つちや)1798- 1882⁸⁵ 信州須坂藩士/郡奉行、和算家;江戸で算学修学、幕府天文方で天文・測量を修学/和算;広島の方法寺和十郎門、藩命で須佐から江戸までの距離・方角・時差等を測定、「土屋修蔵雜解」「管仲臆鑑」著、1861「観術」編・「算法開蘊附録解義」著/67「筆算速成」、「円理闡微表」「適尽定則」外著多数、[愛親(;名)の別号/通称]別名;愛敬よしたか、通称;修蔵
- Q4712 **義比**(よしちか・和田わた)1800- 1873⁷⁴ 美作苫東郡の国学者
- E4756 **吉近**(よしちか・高田たかだ、吉虎男)1807-76⁷⁰ 筑前小倉藩槍術家高田吉次の7代の孫、小倉藩士;1837家督継嗣/御馬廻/1860元締役;藩財政に参画、1866小倉の変;豊津に移住、

英彦山の宮司を務める、歌を嗜む、1865(慶応元)「豊前国志」著、
[吉近(;名)の通称] 又兵衛/万歳之助

- E4757 **吉昵**(よしちか・杉木すぎき) ? - ? 江後期伊勢度会の神職、
1822(文政5)「小祠比呂比」、「神楽修行傍観」著
- M4714 **義局**(よしちか・加納かのう、通称;平次右衛門)?-? 江後期紀伊和歌山藩士;執政、
国学・歌;本居大平(1756-1833)門
- N4760 **吉周**(よしちか・千本松せんぼんまつ/本姓;菅原、通称;修理)1802-? 下総海上郡の国学者;平田篤胤門、
網戸村熊野神社神主
- E4758 **賀親**(よしちか・室谷むろたに、賀世よしつぐ2男)1826-1870⁴⁵ 大坂堂島の商家;代々諸藩御用達;
兄没;家督嗣ぐ、国学・歌;中村良臣・加納諸平・敷田年治門、本草学にも精通、
茶;石州流を嗜む、鉄腸の父、
「麻の狭衣」「巖島日記」「浦の浜ゆふ」「群英」「きせわた」「観濤集」「蓼園集」「麻蔭詠草」著、
「苦の下臥」「ひかぬ綱手」「やまふところ」「湯島日記」「慶応異聞」「翹堂類書」外著多数、
[賀親(;名)の字/通称/号]字;公礼、通称;鉄吉/鉄橋/仁三郎/仁兵衛/宗理、
号;梧桐園/鉄橋/麻陰/東峩/東阜/翹堂きくどう、法号;天真宗理居士
- E4759 **義近**(よしちか・田中たなか)1831- 1877⁴⁷ 筑後久留米の御徒士組の家の生、儒者:昌平鬻入、
1859「北遊漫録」、「大来居詩稿」「大来居文集」「小倉出張私記」著、
高杉晋作・松林飯山と交流、
[義近(;名)の通称/号]通称;虎吉/紋次郎、号;子復/白峰山人
- M4796 **義隣**(よしちか・佐久間さくま、)1831-1903⁷³ 陸奥(岩代)檜葉郡川内村の庄屋合役、農業/国学、
「一夜雑談」「山中雑談」「養蚕物語」「見聞雑誌」著、
[義隣(;名)の通称/号]通称;長蔵/与兵衛、号;梅園/嘉鳥
- E4760 **義周**(よしちか・寺門てらかど、通称;忠太夫)?-? 江後期常陸水戸藩士/和算;彰考館の内藤貞久門、
水戸藩家老で常陸松岡領主の中山家に出仕/のち藩校就将館の和算教授、
また一刀流剣術指南を務める、「松岡地理誌」著
- P4749 **是愛**(よしちか・六人部むとべ、通称;雅楽うた、是香よしちか6男)1840-69³⁰ 代々山城乙訓郡の向日神社祠官、
国学者、幕末期;神祇官再興運動に参加/維新後;神祇事務科(のちの神祇官)に出仕、
五箇条誓文発布に当り天皇が文武百官を率いて天神地祇に誓う儀式を発案
- 義慎(よしちか・檜山) → 坦斎(たんさい・檜山ひやま、書画鑑定/花押) T 2 6 5 3
義親(よしちか・穂積) → 螺窓(らそう・穂積ほづみ、俳人) B 4 8 4 4
吉親(よしちか・下里) → 知足(ちそく・下里/千代倉、醸酒業/俳人) E 2 8 6 1
慶親(よしちか・毛利) → 敬親(たかちか・毛利もうり、藩主/維新推進) D 2 6 0 0
- E4761 **義懐女**(よしちかのむすめ/よしかねのむすめ・藤原ふじわら)?-? 平安中期歌/986(寛和2)父義懐[957-1008]が出家、
村上天皇皇女の斎院選子内親王の下に身を寄せる(;女房)、
歌;拾遺集1143(政変で姉と離別し小一条院東院に住む姉の無音を恨み寂しさを訴える)、
[山がつの垣ほわたりをいかにぞと霜かれがれに訪とふ人もなし](拾遺;雑秋1143)
- 与七郎(よしちろう・酒井) → 忠利(ただとし・酒井さかい、藩主) Q 2 6 0 2
与七郎(よしちろう・酒井) → 忠勝(ただかつ・酒井、藩主/大老) E 2 6 9 3
与七郎(よしちろう・酒井) → 忠進(ただゆき・酒井さかい、藩主/家訓) R 2 6 1 5
与七郎(よしちろう・酒井) → 忠義(ただあき・酒井さかい、藩主/日記) P 2 6 1 2
与七郎(よしちろう・増田) → 順行(よりゆき・増田ますだ、藩士) J 4 7 9 4
与七郎(よしちろう・長岡) → 是容(これかた・長岡ながおか、藩老/国学) O 1 9 2 1
与七郎(よしちろう・井上) → 景明(かげあき・井上いのかげ、国学/歌人) T 1 5 4 9
与七郎(よしちろう・栗田) → 政均(まさひら・栗田くりた/松田、国学/歌) P 4 0 4 8
与七郎(よしちろう・山川) → 浩(ひろし・山川やまかわ、藩士/軍人/官僚) J 3 7 6 7
- E4762 **義嗣**(よしつぐ・足利あしがが/本姓;源、義満2男)1394-1418^{殺害}25 母;摂津能秀女の春日局、武将;
義持・義教と異母兄弟、父に偏愛される;1408(応永15)参議/従三位/1411権大納言、
1414正二位、兄義持と対立;1418謀反に失敗し殺害、贈従一位、修山光謹(相国寺82世)の父、
歌人;1409(応永16)自邸で歌会催、新続古今438、
[霜むすぶ野ばらのあさぢうら枯れて虫のね弱る秋風ぞ吹く](新続古今;秋438/秋野)、

- [義嗣(；名)の通称/法号]通称；南御所若公/押小路殿、法号；円修院/林光院
- E4763 **吉継**(よしつぐ・大谷おおたに、盛治男) 1559-1600 **自刃** 42 父は大友宗麟家臣、安桃期武将；豊臣秀吉家臣、1585従五下刑部少輔/89(天正17)越前敦賀城主、朝鮮の役に参戦/秀吉没；徳川家康の臣下、1600(慶長5)家康の会津攻め参戦のため敦賀出発；石田三成を説得後逆に三成方に参加、関ヶ原で小早川秀秋軍に襲撃され自刃、
連歌作者；1579安信と「何人百韻」/1581松陰と「朝何百韻」
[吉継(；名)の初名/通称]初名；吉隆、通称；紀之介
- G4786 **吉継**(よしつぐ・村上) ? - ? 安桃期伊予・備後の武将；甘崎城主、河内守、
連歌作者；大山祇社法楽連歌万句参加(；1576万句/1590千句)
- E4764 **由繹**(よしつぐ・奈良なら) ? - ? 江前期丹波篠山藩士、地誌家、
藩主松平信庸の命で太田資置と共に多紀郡内の史跡調査、1687(貞享4)「篠山領地誌」著
- E4765 **慶次**(よしつぐ・正亀しょうがめ、家次男) 1651-1725 75 伊勢山田の神職/俳人、若年より風雅に遊ぶ、
1686「内宮御殿舎御修覆之諸事覚」/1713(正徳3)「神地名勝方角集」著、
[慶次(；名)の通称/号]通称；五郎右衛門/茂右衛門/茂八、号；小扇
- E4766 **可継**(よしつぐ・北きた、宣継男) 1671-1732 62 陸中盛岡藩士；1696家督嗣；父の家老職を嗣ぐ、
1702將軍綱吉に謁す/1703(元禄16)政争で隠居/1713嗣子泰継の死で家老職に復帰、
1719再度の政争で致仕；陸中稗貫郡関口村に隠棲、儒；漢学/詩/和漢聯句/兵学に通ず、
1700(元禄12)「知覚記」1704-25(元禄17-享保10)「北可継日記」、1714-16「公務日記」著、
[可継(；名)の幼名/別名/通称/号]幼名；豊之助、初名；栄継、通称；九兵衛、号；梅軒、
法号；靈山宗忠居士
- N4745 **吉次**(よしつぐ・菅沼すがぬま、次常男) 1737-95 59 越前福井藩士、歌人；冷泉為村門、
[吉次(；名)の通称]右近/宮内/亀次郎/七郎左衛門
- P4730 **義従**(よしつぐ・三浦みづら、通称；忠太) 1743-1819 77 土佐高知藩士、国学/歌；尾池春水はるみ門
- E4767 **徳風**(よしつぐ・山路やまぢ/本姓；平、小倉雅久2男) 1761-1810 50 母；湯本輝胤女、陸前仙台の生、
幕臣山路之徹ゆきしの養子/1778養父の跡を継嗣；幕臣/80將軍家治に謁/90天文方、
1791西洋暦法で七曜暦作成/96改暦御用；上京し改暦事業参加；但し寛政改暦には不採用、
「暦法新書」編/「新暦法稿」「閏月論述」「二都実測消長法」「寛政五年癸丑七政暦」著、
[徳風(；名)の通称法号]通称；才助、法号；光仁院、諧孝ゆきたかの父
- E4768 **嘉告**(よしつぐ・宮永みやなが、宮永理兵衛3世の男) 1779-1859 81 加賀大聖寺藩士；1809家督継嗣；110石、
作事奉行/割場奉行/郡奉行/町奉行/大目付/吟味奉行を歴任、1845隠居、本草学・史学、
茶道・剣道に通ず、天保初1830頃藩主前田利之の命で[加賀江沼志稿]編纂に参加、
実性院千巖哲叟・甘雨為霖に参禅、「江沼郡雜記」著、
[嘉告(；名)の通称/号]通称；理右衛門/理兵衛4世、号；桂亭/無学
- E4769 **賀世**(よしつぐ・室谷むらたに、賀澄男) 1782-1840 59 大阪堂島の商家；諸藩御用達、儒；高宮環中門、
国学者；富士谷成章・御杖門、石州流茶道；本庄宗敬門、蹴鞠に長ず、
堂島川畔に五層の臨高閣を建築；文人墨客を招待、「巽泉詠草」「机辺抄」「文化咏草」著、
「百人一首富士の高根」「臨高閣十景」著、
[賀世(；名)の字/通称/号]字；師古/子毅、通称；仁兵衛、屋号；播磨屋
号；燕台/蘆中人/茆茨亭ぼうしてい/吟松軒/巽泉そんせん/南水/芳雨/溪月/知新庵/宗節、
法号；仁翁宗義居士、賀弘・賀親よしちかの父
- 04715 **善継**(よしつぐ・中川なかがわ、) 1804-1876 73 播磨揖保郡網干の医者；眼科医、
歌人；隅川春雄門、哲(哲次/淡斎/1838-66/29歳)の父、自邸[日新居]で診療、
[善継(；名)の字/通称/号]字；世卿、通称；主水、号；神洲
- N4747 **良承**(よしつぐ・杉本すぎもと、) 1805-1872 68 尾張名古屋藩士、国学；鈴木眼あきら・丹羽昶つとむ門、
書家、「名区小景色」「尾陽往生伝」などの浄書(筆工)、
[良承(；名)の字/通称/号]字；仲恭、通称；喜代三郎/愛七、号；蘭阜らんこう
- 04750 **良次**(よしつぐ・萩原はぎわら/本姓；中臣、) 1821-84 64 常陸鹿島郡鹿島神宮の祠官、
[良次(；名)の通称/号]通称；万平/内蔵太くらた、号；松蔭
- Q4714 **義著**(よしつぐ・渡辺わたなべ、) 1845-1923 79 美濃大垣藩士、国学者/歌人；桂園派、

のち岐阜貯蓄銀行取締役

良継(よつぐ・藤原) → 宿奈麻呂(すくなまろ・藤原朝臣、宇合男) B 2 3 7 3
良嗣(よつぐ・近衛/藤原) → 忠嗣(ただつぐ・近衛/藤原、左大臣/歌) P 2 6 8 4
義継(よつぐ・庄司) → 文螭(ぶんち・庄司しょうじ、絵師/篆刻/俳) G 3 8 1 3
喜継(よつぐ・加藤) → 寛斎(かんさい・加藤、藩士/地歴/俳人) Q 1 5 5 7
善継(よつぐ・神馬) → 泰運(たいうん・神馬じんば、儒/医/俳人) J 2 6 1 1
好継(よつぐ・興山) → 好継(こうけい・興山おきやま、武人/歌人) I 1 9 3 8

- Q4737 良綱(よつな・藤原ふじわら、範永男)?-? 母;藤原能通女、平安期廷臣;正四下安房守、但馬守/周防守、孝清(周防守/伊賀守)・宗覚・後二条関白師通家女房・高倉泰仲室の父、歌人、孝清の子孫は高倉家・堀河家・樋口家
- E4770 吉綱(よつな) ? - ? 連歌;戦国期「永原千句」参加;宗祇兼載らと
- E4771 吉綱(よつな・大島おおしま、横江よこえ弥五衛門男) 1588-1657 70 大島雲八光義の養子、美濃の槍術家、文禄慶長の朝鮮の役で加藤清正に従軍/大阪陣では前田利長に従軍し戦功、のち浪人;1634柳生宗矩推薦で紀州藩に出仕;紀州藩大島流槍術の祖、「当流槍伝書」、常久の父[吉綱の通称/号]通称;新八/雲平/伴六、号;安心
- K4716 義綱(よつな・塩野しおの) ? - ? 河内壺井の住人、狂歌;1666行風「古今夷曲集」2首入[立ちそむる霞の衣きぬのはつれ雪春のきにける紋所かも](古今夷曲集;一春歌)(はつれ雪ははらはらと降る雪;はだれ雪)
- N4708 義維(よつな・佐竹さたけ、通称;小右衛門) 1788-1843 56 京の官吏;尹騎吏、国学;羽倉はくら信美門、
- E4772 芳綱(よつな・歌川うたがわ、姓;田辺)?-? 幕末期嘉永慶応1848-68頃の絵師:歌川国芳門、武者絵・諷刺画・風俗画を描く、1820-49「花暦八笑人」26-52「膝磨毛」画、1839-59「大晦日曙草紙」47-55「御贄美少年始」51「甲越古状揃大全」51-53「春柳錦花皿」、1852-54「連理翅山雞奇縁」52「浮説歌線会山」「英雄幼百員」、「絵本花鳥揃」外画多数、[歌川芳綱(;号)の通称/別号]通称;清太郎、別号;一燈斎/一登斎/一度斎/一東斎
- 善繩(よつな・春澄/猪名部) → 善繩(よしただ・春澄、漢学者/詩人) E 4 7 2 1
義統(よつな・畠山) → 義統(よむね・畠山、武将/連歌) H 4 7 5 8
義綱(よつな・平井/服部) → 愨雪(ちようせつ・平井/服部/平、儒/詩) J 2 8 2 5
美綱(よつな・佐々木) → 春夫(はるお・佐々木、商家/国学;万葉) G 3 6 0 5
嘉綱(善綱よつな・松下) → 三十郎(さんじゅうろう・松下、藩士/文筆) M 2 0 3 8
善繩女(よつなのむすめ・春澄) → 善繩女(よしただのむすめ・春澄はるすみ) E 4 7 3 1
- E4773 良経(よつね・藤原ふじわら、行成男)?-1058 母;源泰清女、廷臣;皇后宮権大夫/正四下、歌人;1035賀陽院水閣歌合参加、後拾遺217、[沢水さしみづに空なる星のうつるかと思ゆるはよはの螢なりけり](後拾遺集;三夏217)
- E4774 義経(よつね・源みなもと、義朝9男/母;常盤) 1159-1189 自害 31 平治乱で父敗北;母・兄達と捕縛、出家を条件に鞍馬寺に預けられる/のち鞍馬を脱出;吉野に元服;奥州藤原秀衡の庇護、1180兄頼朝挙兵に応じ軍門に参ず;兄の代官とし西国出陣:1184木曾義仲・のち平家追討、京の後白河法皇の信頼を得て檢非違使・左衛門少尉となる;頼朝の不信・御家人との対立、大江広元の仲介の功奏せず/1185後白河法皇より頼朝追討の院宣を得るも味方武将少数、秀衡を頼り平泉逃亡/1189秀衡男の泰衡に急襲され衣川の館で自害、「朝日神明宮祈願文」著、逸話;平家物語/源平盛衰記/義経記など入、のち伝説化・戯曲化[義経(;名)の幼名/通称]幼名;牛若丸/遮那王丸、通称;九郎/九郎判官
- 4716 良経(よつね・九条、兼実男/本姓;藤原) 1169-1206 38 母;藤原季行女、鎌倉期廷臣;1185従三位、1188正二位/89権大納言兼左大将/95内大臣/99左大臣/1202摂政/04太政大臣;従一位、1206(38歳)急死;暗殺説あり?、慈円の甥/道家・基家の父、歌;藤原俊成・定家門、1193六百番歌合はじめ自邸で詩歌や作文の会主催、後鳥羽院歌壇出詠;1201和歌所寄人、新古今集の監修的立場;1205「新古今集仮名序」執筆、自撰家集「秋篠月清集」、「玉函秘抄」、「三十六番相撲立詩歌」「新六歌仙」「大間成文抄」「後京極撰政記」「諸部類記」外多数、1200正治初度百首参加/1253-54刊[雲葉集]37首入(後京極撰政前太政大臣名)、勅撰320首;千載(7首37/89以下)新古(79首1/23/61/62/66/136以下)新勅(26首)以下、[み吉野は山もかすみて白雪のふりにし里に春はきにけり](新古今;冒頭歌)

[きりぎりす鳴くや霜夜のさむしろに衣かたしきひとりかも寝む](新古;五518)

[良経(;名)の幼名/号/称]幼名;乙童/乙若、

号;秋篠月清あきしのげっせい/南海漁父/西洞隠士/式部史生、称号;後京極摂政/中御門摂政

- P4769 **美庸**(よしの・八木やぎ、) 1774-1848 75 遠江小笠郡三浜村・浜野村の大庄屋、
和学者/歌人、美穂よほ(1800-54/国学者/歌学)の父、
[美庸(;名)の通称/号]通称;金松/金兵衛/太郎兵衛、号;中谷/冠雪
- E4775 **芳艶**(初世よしのや・歌川うたがわ、姓;甲胡) 1822-66 45 江戸日本橋駕籠屋の生/絵師:1836歌川国芳門、
放蕩のため破門/1848頃改心し結婚;錦絵・刺青下絵・奥山生人形看板を描く、猫万と綽名、
1842「花紅葉錦伊達傘」49-58春馬2世著の劇書「御狂言楽屋本説」/1862「八重桜蝶々記」画、
「芳艶」「瓢箪談五十四場」「誠忠義士銘々伝」外画多数、
[歌川芳艶(初世;号)の通称/別号]通称;万吉、別号;一栄斎/一英斎、法号;一英斎芳艶居士
- Q4718 **義陳**(よしつら・上杉うすぎ、長之2男) 1660-1705 46 母;畠山義里女、高家旗本/幕臣、歌人、
1685(貞享2)双子の兄長宗没;家督嗣/下総などに領地/寄合に属す、正室;曾我助興女、
1705(宝永2)没;養子知義(畠山義寧3男)が家督嗣、
[水野守矩追善勸進歌にむの字かしら、月前露、
武蔵野の草場おしなみ照る月は露も果なき色をみすらん](茂睡[鳥の迹]哀傷608)、
[義陳(;名)の通称]采女
- E4776 **吉連**(よしつら・山田やまだ、通称;斎宮)?-1760 陸奥盛岡の神職/多賀神社祠官、
1742「神道学窓」、「中臣祓集註」著
- E4777 **義顔**(よしつら・南部なんぶ) 1726-1785 60 陸中遠野の領主/代々盛岡藩の家老職、
歌:三輪秀寿門/のち冷泉宗家入門、「義顔百首」「詞園」「南部義顔歌稿」/1784「義顔日記」著、
[義顔(;名)の通称]八戸弥六郎、妻;佐和子、怡顔ときつらの父
- K4738 **栄綿**(よしつら・解良げら) 1763-1819 57 越後蒲原郡国上村牧ヶ花の庄屋/豪農、
国学者;大村光枝門、良寛と親交、「良寛禅師奇話」の著者解良栄重よしげの父、
[栄綿(;名)の字/通称]字;希繇きょう、通称;喜惣左衛門、号;叔問
- M4761 **吉葛**(よしつら・熊倉くまくら/本姓;源)?-1826 下野都賀郡の歌人;清水光房門/国学;平田鉄胤門、
[吉葛(;名)の別号/通称]別名;義察、通称;小三郎
- P4770 **好貫**(よしつら・矢崎やざき、) 1780-1862 83 甲斐高麗郡の武田八幡神社祠官、
神道・国学・歌;生山正方門、
[好貫(;名)の通称/号]通称;式部/対馬守、号;菱舎
- L4731 **義貫**(よしつら・志田じだ、柿崎弥左衛門男) 1798-1876 79 出羽最上郡南山大庄屋の家、
国学/歌人;伊勢の足代弘訓門/鶴岡の白井固がし門;固の役人として庄内藩に出仕、
庄内藩士;足軽組に編入される、のち従士志田勘内の養子、歌に長ず、荒賀直哉なおちかの師、
[義貫(;名)の通称/号]通称;実兵衛/広助、号;柿園
- N4795 **義璉**(よしつら・壺井つばい、) 1810-1869 60 讃岐小豆郡坂手村の里正、和学者、
[義璉(;名)の通称/号]通称;七左衛門/織右衛門、号;梅路
- M4763 **義貫**(よしつら・栗本くりもと、) 1834-1886 53 伊予西条藩国学者:半井梧庵(忠見)・松永二水門、
西条藩校沢善堂教授、
[義貫(;名)の通称/号]通称;八助/碌二、号;看山
- K4783 **義連**(よしつら・最上もがみ/本姓;源、老中井上正春5男) 1837-89 53 幕臣;1857(安政4)最上義俣の養嗣、
近江大森陣屋の最上家継嗣;最後の当主、1863(文久3)大番頭となり大坂在番を務める、
1866従五位下/出羽守;禁門変で守衛の列に参加/1866駿河守/68上洛、戊辰戦で官軍支援、
戦後;会津松平家役知の残米の取調役/本領安堵;中大夫席/朝廷に軍資金1000両献上、
藩内に明道館創設;藩士の文武修学を奨励、廢藩後;永世禄150石/御陵衛士/1872隠居、
隠居後京で商業;没、井上正直・井上正信の兄弟、正室:松平忠固の養女、義和の父、
歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[聞きなれし斧の響きも今朝たえて杣木ま白く積る雪かな](大江戸倭歌;冬1288/杣雪)、
[義連(;名)の別号/通称]別名;五道(;維新後)、通称;内記/采女助、法号;晴雲院
- L4741 **義貫**(よしつら・井田いだ、) 1846-1872 早世 27 越後直江津の領地奉行代取締、
儒;中村春策門/国学;梅川常樹門、廢仏論主唱/勤王派;家を出て志士に参加、

東北諸藩の形勢を偵察;上京し朝廷に報告;北陸教導を拜命/北陸鎮撫総督に随い乱平定、
乱後紀綱定まらず庶政紛淆;これを憂いて議院に上書;病没、

[義貫(;名)の別名/通称/変名]別名;義鉄、通称;年之助、変名;小松正一郎

義貫(よしつら・青柳) → 高鞆(たかとも・青柳あおやぎ、国学者) D 2 6 2 8

良貫(よしつら・吉井) → 良明(よしあき・吉井よし/萩原、神職) P 4 7 9 9

良貫(よしつら・林) → 陸夫(みちお・林はやし、国学/歌人/軍人) K 4 1 1 4

E4778 芳鶴(初世よしつら・歌川うたがわ)?-?(33歳没) 江後期天保嘉永1830-54頃の絵師;歌川国芳門、
錦絵・合巻挿絵・刺青下絵を描く、江戸日本橋の踊師匠藤間トセの甥、
1831「祝言千箱玉」/32「新織博多船越」
「犬神太郎暴悪譚」
「絵巻物今様姿」
「結縁妹背組糸」、
1850「正本由良湊」
「絵本桃太郎咄」
「桃廼花紅錦」
外画多数、
[歌川芳鶴(初世;号)の通称/別号]通称;長次郎/長坊、別号;一声斎

E4779 淑光(よしてゐる/よしみつ・紀き、長谷雄3男)869-93971 平安前期廷臣;文章生/治部・兵部・式部少丞、
907蔵人/刑部・中務の少輔・少弁・中弁を歴任/927昇殿/933右大弁/934(承平4)参議、
939従三位宮内卿;没、紀淑望の弟、歌人:921宇多上皇催「京極御息所歌合」;
右方読師、扶桑集・雑言奉和に入集、後撰集327、
[空遠み秋やよくらん久方の付きの桂の色も変らぬ](後撰集;秋327)

E4780 義輝(よしてゐる・足利あしかが、初名;義藤、義晴男)1536-65殺害 室町13代将軍;1546-65在位、義昭の兄
三好・松永氏に圧迫される;1565松永久秀により殺害

E4781 芳輝(よしてゐる・一椿斎いちんさい・歌川、姓;米山/田中、米山源四郎2男)1808-91 上州高崎の生、
高崎の旅籠田中家の養子/父は江戸日本橋高砂町住、15-6歳で江戸に出て絵師;谷文晁門、
1832-33(25-6歳)歌川国芳門、「万筆」画、
[一椿斎芳輝(;号)の通称/別号]通称;芳三郎、別号;歌川芳輝/北年/含粹舎、法号;流芳院

K4761 慶熾(よしてゐる・浅野あさの、斉肅の長男)1836-58早世23歳 1851元服;慶熾に改名/従四上/侍従、
上総介、1858(安政5)父隠居;家督嗣;安藝広島藩10代藩主;安藝守に改称;半年後に没、
養子長訓が継嗣、室;徳川斉荘女の利姫、儒/書;頼聿庵いつあん門、
歌;蜂屋光世「大江戸倭歌集」(1858成立)入、
[露の間に秋まちえたる七夕の逢ふ夜をいはばあさがほの花](大江戸倭歌;秋717)
[慶熾(;名)の幼名/通称/号]幼名;定吉、通称;定之丞/善次郎、号;益斎/法号;大光院

04794 良輝(よしてゐる・古田ふるた/本姓;源、旧姓;萱野)1851-76自決26 肥後熊本藩士、鋭矛といほの弟、
国学/歌、敬神党として神風連の乱に参加;敗北し自決、
[良輝(;名)の通称]孫市

義光(よしてゐる・最上) → 義光(よしあき・最上もがみ/源、武将/藩主/連歌) B 4 7 8 6

喜輝(よしてゐる・魏) → 竜山(りゅうざん・魏ぎ、東京通事/語学書) E 4 9 1 7

E4782 淑人(義人/祥人よしと・福永ふくなが)1828-8861 周防都濃郡湯野の儒者;山県太華・黒神直民門、
豊後の帆足万里・広瀬淡窓門、さらに湯野邑主堅田家の抜擢で京・江戸の諸儒を歴訪、
1849(嘉永2)帰郷;邑兵鋭武隊の参謀、戊辰戦に東北各地に従軍、
維新後は山口に西鄙塾を開き子弟教育、「課余小草詩鈔」
「課余小草文鈔」
「課余小草詩稿」、
1868「鋭武隊七番隊略伝」
「文章軌範章法図解」
「暢寄帖解」著、
[淑人(;名)の字/号]字;君艾くんがい、号;紅雪/有眞斎/鬢北しんぼく/防海史/小史公

淑人(よしと・紀) → 淑人(よしひと・紀、平安期歌人) G 4 7 4 4

義都(よしと・中野) → 借我(せきが・中野/平、兵法・神道家) J 2 4 9 8

K4777 良任(よしとう・遠藤えんとう)?-? 江後期;歌人、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[山深み幾重か霧の奥ならん暮るるもまたぬさを鹿の声](大江戸倭歌;768/夕鹿)

P4713 義任(よしとう・松沢まつざわ、義章よしあきり男)1836-191883 母;とも子、信濃諏訪郡の商家、
国学者;平田鍊胤門;父と同門、尊王思想;平田国学を父と共に伊那に伝播、
[義任(;名)の通称]四郎兵衛/章蔵

P4726 良遠(よしとお・松本まつもと、浜野此右衛門博篤2男)1814-187966 備後福山の儒・国学者/歌人、
備後福山藩士の松本刑右衛門良政の次女の婿養子;1835(天保6)家督嗣、福山藩儒、
国学・歌;小寺清之・大国隆正・鈴木重胤門、福羽美静と親交、福山誠之館皇学寮講師、

1866(慶応2)奥勤、維新後;野上の西宮八幡社の祠官、歌人/狂歌作者、
遺詠集「安未乃母之保」(門人中島年光・阿部首令ら編纂)、
[啼わたるこゑの高山みしがやましほしほなのるほととぎすかな]、
[良遠(;名)の通称/号]通称;長米、号;蕉雨・桃廼舎/花彦/馬九齋/舞雲

義遐(よしお・足利) → 義澄(よしみ・足利/源/堀越、室町將軍) D 4 7 8 2

- 4717 嘉言(よしとよ/よしこと・大江おえ/弓削ゆげ、大江仲宣男)?-1010? 平安中期廷臣;992文章生、
996伊周に同行し大宰府下向/一時弓削を名乗るがのち復姓、1001彈正少忠/1010対馬守、
六位;任地に没、正信・以言もちとよの弟、歌人:藤原長能・源道濟・能因と交流、
993帯刀陣歌合参加、1003太政大臣道長殿三十講歌合参加、家集「大江嘉言集」、
玄々集4首・後葉集・続詞花集5首入、
勅撰31首;拾遺(350/501/1031)後拾(11首53/62/145以下)詞(5首)新古(5首511/763以下)、
続古(862)玉葉(709)続後拾(624)風(105/991)新千(1512)新続古(669)、金Ⅲ(3首)、
[思ひ出でもなきふるさとの山なれど隠れ行くはたあはれなりけり]、
(拾遺;350/弓削嘉言名、996[長徳2]伊周の大宰府配流に同行し淀の河尻船出の時詠)、
兄 → 正言(まさとよ・大江・弓削、後拾歌人)
→ 以言(もちとよ/よしとよ・大江・弓削、詩歌人) 4 4 0 6

- E4783 義時(よしとき・北条ほうじょう、江馬小四郎、時政男)1163-1224⁶² 鎌倉幕府二代執権/
九条頼経を將軍に据える、政子と幕政専断、承久乱で武家政権と執権政治の基礎を確立

- E4784 吉時(よしとき・山田やまだ2世、初世山田貞武男)?-1744 江戸平河の幕臣;父の跡継嗣;御腰方、
首打同心代役を勤める/据物斬の達人:[首斬り浅右衛門]と称される、
「詠物居物仕懸式」著、
[吉時(;名)の通称/法号]通称;浅右衛門、法号;慈仙院

- K4741 良時(よしとき・崎山さきやま、通称;九郎次)?-? 江中期;幕臣京極高門[1658-1721]家に出仕、
但馬豊岡出身、歌;中院家門、石野広通「霞関集」入、1739芥川寸草[飛鳥山十二景詩歌]入、
[さやけさは秋よりもなほまさ木散る外山あらはに出づる月影](霞関;冬;591/冬月)、
[おちくるもあさるも見えて平塚の里のわさだを雁のなくらむ](飛鳥山;平塚落雁)
☆飛鳥山十二景 → 榴岡(りゅうこう・林はやし) D 4 9 7 8

- E4785 喜時(よしとき・中村なかむら)?-? 1780存(;70余歳) 陸奥津軽郡田舎館村の大庄屋中村家4代、
1754(宝暦4)田畑反別調方/58巡察使御用;領内案内役/66郷士;1780まで小阿弥堰奉行、
1776(安永5)「耕作晰」著、[喜時(;名)の通称]佐兵衛

- E4786 至時(よしとき・高橋たかはし、高橋徳次郎元亮男)1764-1804⁴¹ 幕臣;1778父を継嗣;大坂城定番同心、
和算;松岡能一門/天文暦学:麻田剛立門、1795幕府天文方;同門の間重富と暦学御用、
寛政改暦作業の中心として活躍、「暦法新書」編/「寛政暦法」「月南中法」「東岡暦説」著、
「推食赤道法」「気朔交食推法」「消長法及用数」「天学秘決集」「梅軒雑録」外著多数、
[至時(;名)の字/通称/号]字;子春、通称;作左衛門、号;東岡とうこう/梅軒/梅林
高橋景保かげやす・渋川景佑の父

- E4787 嘉言(よしとき・藤田ふじた、貞資さだつげ長男)1772-1828⁵⁷ 筑後久留米藩士;1801勘定奉行/1807家督嗣、
和算家;父門;父を継承し師範役、江戸在住し和算を教授、
1789「神壁算法」編/1808「額算解義集」09「側円周傍容円術」著/22「神壁算法解義」編、
「演段解義」「開方翻変詳解」「算法諸率」「関流算術伝書目録階級」「竜川雑書」著/外編著多、
[嘉言(;名)の字/通称/号]字;子彰、通称;門弥もんや/権平、号;竜川りゅうせん、法号;元良院

- E4788 吉言(よしとき・大友おとも、吉繁男)1785-1829⁴⁵ 出羽平鹿郡八沢木村の波宇志別神社はうしかけ8代神主、
国学者;1802伊勢松阪に赴き本居宣長門/06本居大平・平田篤胤門/10江戸の蒲生君平門、
1812秋田久保田藩社家大頭役、藩校明德館の国学部設置活動、1818頃眼病患眼科医修学、
1822衣関伊都伎源貫より免許状を・船橋家より金針相伝の免許状を受領、23秋田で開業、
1825(文政8)明德館に和学方が併設され初代取立係に就任、「蘿園らえん文集」「蘿園問答録」、
「大友家記」「三国社年中行事式」「眼目七十二症図」「宇茂礼木うもれぎ」「松之落葉」「世継草」著、
[吉言(;名)の幼名/別名/通称/号]幼名;徳松、別名;直枝なおえ、通称;対馬、号;蘿園らえん
義言(よしとき・長野、桃廼舎) → 義言(よしとよ・長野、藩士/国学) 4 7 1 1
義言(よしとき・磯谷) → 久英(ひさひで・磯谷いそが、藩士/兵法家) B 3 7 8 3

義辰(よしとき・島津) → 義久(よしひさ・島津、貴久男/武将/連歌) G 4 7 2 7
 以言(よしとき・大江) → 以言(もちとき・大江、廷臣/詩人) 4 4 0 6
 善言(よしとき、小野原) → 琴水(きんすい、小野原、儒、詩人)
 嘉言(よしとき・丹羽) → 謝庵(しゃあん・丹羽/藤、儒者/絵師) F 2 1 9 9
 嘉言(よしとき・豊田) → 嘉言(よしこと/よしのぶ・豊田、国学)
 嘉言(よしとき・村田) → 嘉言(よしこと・村田/一柳、国学)
 吉時(よしとき・寺島) → 亀石(きせき・寺島てらしま、俳人) L 1 6 0 9

- Q4747 **能俊**(よしとし・源みなもと、大納言俊明男) 1071-1134 64 母;若狭守藤原師基女、廷臣;1088蔵人、少将/1095正四下/讃岐介/99修理左京城使/蔵人頭/1100(康和2)参議従三位/02正三位、1106左近中将/08左兵衛督;檢非違使別当/11(天永2)権中納言/17治部卿/18従二位、1129正二位/31(天承元)権大納言;中宮大夫・治部卿兼任、34(長承3)病で出家;没、妻;源頼綱女、能賢・政明・光隆・能智・能覚・能猷・源定房室の父、異名;天変の少将、1094(寛治8)九月十三夜白河上皇催[池上の月]歌合に、
 [池水に影をうつして秋の夜の月のなかなる月をこそ見れ]、
 (袋草紙;これをば天変の少将と号す/月の中に月が宿るといふ天空の異常現象?)
- E4789 **淑俊**(よしとし・紀き、淑文よしふみ男) ?-? 南北期紀伊国造家の生/歌人、淑氏の兄弟、1365内裏三百六十首和歌に参加?、新葉2首1115/1217、
 [浅茅生あさぢふの露の名残も未だひぬにはや置きそふる庭の初霜](新葉;雑上1115)
- E4790 **義敏**(よしとし・斯波いほ/本姓;源、大野持種男) 1435-1508 74 武将/越前・尾張・遠江の守護、管領家の斯波家を継嗣;従三位/左兵衛督、重臣甲斐常治と対立;幕府に上訴;敗訴、洛東に隠棲、足利義政の命で常治と和したが抗争は継続;応仁の乱の遠因となる、1485義政の得度に随い入道、義寛の父、連歌;幕府月次会参加/新撰菟玖波7句入、
- F4746 **義智**(よしとし・宗そう、初名;昭景あきかげ/別名;彦三郎、将盛男/義調よしげ養嗣) 1568-1615 48 対馬武将、1579家督;対馬領主/文禄慶長役(1592/97)では義父義調・小西行長に従軍;最前線で戦闘、1600関ヶ原で西軍/家康の命で1609朝鮮と和平;初代対馬府中藩主、朝鮮通信使招聘に当たり国書偽造・すり替え等の行為;幕府傍観/対朝鮮貿易実施、妻;小西行長女マリア
 [義智の通称/変名]通称;彦七、洗礼名;タリオ、変名;羽柴吉智(秀吉より)
- 4718 **義俊**(よしとし・多田ただ/桂、多田南嶺、本姓;源) 1698-1750 53 出自不詳/摂津の神道家;中川要人門、吉田・垂加・伊勢など諸神道修得、儒・語学・歌学・故実も修得、大阪で舌耕生活、軍学の修得、1726摂津大津住/有職故実;1728壺井義知門/神道や故実を教授、著述により義知から義絶、園基香家に出仕/京本拠に各地で講義/1739頃八文字屋の代作;浮世草子著、44梶井宮出仕、1746伊勢外宮神官に招聘(;宮川日記入)、以後故実書・浮世草子・歌書・随筆・語学等を著述、神道;1731「中臣祓古義」「創禊辨」/34「遊和草」/55「神明憑談」/「日本書紀桂堅横」等、故実;「旧事記偽書名」「故実類聚抄」「故実纂要」「日本故実秘録」「武家故実百箇条」等、歌;「桂花抄」「柿本人麿伝」「藻塩百人一首千尋海」「和歌の物語」「桂花抄」等、随筆;1729「敗箒添塵」43「ぬのはなの草紙」47「千賀屋草」50「南嶺子」53「秋斎間語」、「遊知草」「雲上閑談」等、
 語学;1725「和訓精要抄」、1746芝山広豊の口伝「伊呂波声母伝」を記録、
 浮世草子;其磧と共に八文字屋の代作;特に其笑の署名本の多数、「武遊双級巴」、「花檉巖柳島」「鎌倉諸芸袖日記」「古今役者大全」/「世間母親容気」(遺稿)、
 [義俊(;名)の別名/字/通称/号]名;政仲(;初名)/義正/義寛/満泰/秀樹/光樹、字;公実、通称;源四郎/兵部左右衛門、号;興先/南嶺/春塘/秋斎/南圭梅花嶺翁
- E4791 **義年**(よしとし・津久井つひ) ? - ? 江中期常陸笠間藩士/和算家;久津間清裕門、1770(明和7)「算学津梁」著
- N4784 **美年**(よしとし・長田ながた、) 1774-1857 84 豊前小倉藩士/歌人;秋山光彪てらけ門、長府の武久季平の師、「秋山翁歌集」編、
 [美年(;号)の名/通称]名;朝芳/芳樹、通称;卯一郎(幼名)/弥四郎/忠兵衛
- E4792 **義利**(よしとし・千萱ちがや) 1809- 1856 48 伊勢度会郡山田の神職;伊勢度会宮(外宮)師職(御師おんし)、

月読宮玉串内人、国学者：本居春庭・大平・内遠門、「神宮類典」編/「外宮儀式帳層訂」著、
「齋宮部類補遺」著/1835「内宮儀式帳層訂草稿」著、
[義利(；名)の通称/号]通称；勘解由かげゆ、号；松園

E4793 吉利(よしとし・山田やまだ浅右衛門7世、後藤五左衛門男)1812-4433 幕臣御腰物拜見役、
据物斬：5世吉睦門、6世山田浅右衛門吉昌の養嗣子、首斬職：生胆薬・小指販売/刀劍鑑定

E4794 宜歳(よしとし・和田わた/修姓；和、通称；伝兵衛)1817-7357 駿河沼津の穀商/町年寄格、
国学者：富樫広蔭門、1863「伊勢物語略標」、「辞玉襷略標例格」著、

E4795 吉年(よしとし・三俣みつまた) ? - ? 江後期文政天保1818-44頃の羽前米沢の文筆家、
逸話・怪談を蒐集、「雑話藻塩草」著

P4743 吉甫(よしとし・宮路みやじ、通称；頼母)1834-191178 近江甲賀郡の国学者、維新後；蒲生郡の戸長
歌人；短歌雑誌「さとのひかり」編纂参加、歌；[鳩のうみ]入

E4796 芳年(よしとし・月岡つきおか/歌川、吉岡よしおか兵部[金三郎]男)1839-9254 絵師
父の従兄弟京屋織三郎の養子、絵師：1950歌川国芳門/武者画・役者画・美人画を描く；
月岡雪斎の名跡を継承し月岡姓、残酷趣味の画(血みどろ絵)で有名；最期の浮世絵師、
1873頃菊池容斎に私淑、円朝と親交、新聞挿絵に新風を起こす、
1860「絵本英雄太平記」64「清正一代記」62-65「毬唄三人娘」63-「鑽花猫目鬢」、
1866「一魁漫画初篇」67「美勇水滸伝」67-「東海道膝栗毛」、「魁題百撰相」、
「三十六怪撰」、「繡像水滸銘々伝」、「風俗三十相」、「宿場女郎図」、「誠忠義士銘々殿伝」外画多数、
[月岡芳年(；号)の通称/別号]通称；米次郎、
別号；歌川芳年/玉桜/玉桜楼/魁斎/一魁斎/大蘇/咀華亭、法号；大蘇院

E4797 義甫(よしとし/よしすけ・高田たかた、嘉兵衛男)1846-9348 近江蒲生郡八幡町の商家/国学：西川吉輔門、
福羽美静門/のち平田鉄胤門/勤王派/佐幕派宮田氏を暗殺；入獄/獄中で囚人の教育、
出獄後に開塾、
「漢語往来」「王代一覽続篇」「幽囚漫録」著、
[義甫の通称/号]通称；吉太郎、号；素琴

04714 良俊(よしとし・中川なかがわ、)1849-192072 讃岐高松の材木商、儒詩・国学；友安三冬門、
[良俊(；名)の字/通称/号]字；徳卿、通称；伝平、号；黙堂/三松園主人/松風竹月居

吉年(よしとし→よとし) → 吉年(きね、舎人；六人部？、万葉歌人) B 1 6 6 4

可俊(よしとし・岡本) → 可復(かふく・岡本おかもと、藩士) P 1 5 2 6

美利(よしとし・山崎) → 篤利(あつとし・山崎やまざき/平/山口、商家/国学) I 1 0 6 7

良利(よしとし・橘、某聖法師) → 寛蓮(かんれん、真言僧、新古歌人) R 1 5 8 7

良俊(よしとし・惟宗これむね) → 行蓮(ぎょうれん、惟宗これむね、僧/歌人) C 1 6 9 0

洵美(よしとし・永井) → 文安(ぶんあん；字・永井、香道家/歌) E 3 8 7 5

義利(義俊よしとし・徳川) → 義直(よしのぶ・徳川/源/松平、尾張初代藩主) 4 7 2 0

義利(よしとし・木下) → 台定(きんさだ・木下、藩主/文教奨励) R 1 6 0 2

淑俊(吉利よしとし・寺井) → 肇(はじめ・寺井てらい、藩士/故実家) E 3 6 4 1

E4798 良富(よしとみ・那古屋なごや、作平男)1731-7040 加賀大聖寺藩士；1740(10歳)藩主前田利道に出仕、
馬廻組、1745家督継嗣；禄70石/土蔵奉行/郡奉行/算用場奉行を歴任、妻；平井武太夫女、
漢学(古学)；大幸おおさか岱畎たいけん門/詩文に長ず、「那古屋良富文稿」著(那古屋先生文集)、
[良富(；名)の字/通称/号]字；子訓、通称；平太郎、号；一学いちがく

N4726 吉容(よしとみ・都筑つづき、旧姓；志村) ?-1829 信濃洗馬まばの国学者・歌人、
歌；桃沢夢宅(1738-1810)、信州筑摩郡宮越の間屋都筑家の養子、1812上京；香川景樹門、
桂園派歌人として活動/帰郷；家業/1818江戸の景樹と再会、1829美濃土岐郡高山で病死、
志村吉智よしり(?-1822)の弟・志村履徳のりよしの兄、

[久方の都の春の恋しきは君がなさけによりてなりけり](景樹に再会の喜び)、

[吉容(；名)の別号/通称]別名；恒賢、通称；常次郎/久右衛門、法名；法輪浄心居士

E4799 善富(よしとみ・篠原しのはら) ? - ? 江後期江戸の和算家；古川氏清門、
1808「曆象考成法七曜推歩名目解」16「曆象考成上編国字解」「三角法挙要」著、
1819「周髀算経国字解」23「作対数表法」「八線対数表解」、「交蝕推歩術理」外著多数、
門人；山口清直・竹内武信・諸葛晃ら、善章の父、

[善富(；名)の別名/字/通称/号]別名；正位しょうい、字；子賚しらい、通称；弥兵衛、
号；乾山けんざん/乾堂けんどう

- K4793 **良福**(よしとみ・三井みつい/本姓；平、通称；善三郎)?-? 江後期；旗本、駿河志太郡に知行所/幕臣/歌人、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[かげろうのもゆる春野に数見えて遊ぶ小蝶もあはれなりけり](大江戸倭歌；雑1792)
- L4787 **良福**(よしとみ・尾崎おさき、通称；又八郎/駿河)?-? 江後期；紀伊熊野の神職；熊野本宮宮司、
歌；千種有功(ありこと・1797-1854)門
- M4780 **吉福**(よしとみ・小町谷こまちや、吉孝よしとか長男)1833-1908⁷⁶ 信濃伊那郡上穂村の農家、
国学・神道；柴田花守・西川須賀雄門/国学・歌；佐々木弘綱・鈴木重嶺門、
[吉福(；名)の通称/号]通称；庄吉/次郎、号；杉園/杉廼屋/藤支軒/蠹の室(どのや?)
好福(よしとみ・中里) → 千族(ちえだ・中里なかざと、神職/歌人) N 2 8 1 5
慶福(よしとみ・徳川) → 家茂(いえもち・徳川、14代将軍) 1 1 6 6
- K4774 **能富女**(よしとみのむすめ・西山にしやま)?-? 江後期；歌人、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[秋立ちて一夜二夜のふしのまにひかり涼しき露の玉ざさ](大江戸倭歌；秋698/初秋)
- F4700 **義朝**(よしとも・源みなもと、為義男)1123-1160³⁸ 平安後期の武将；左馬頭、頼朝・義経父
平治乱で清盛に敗北/尾張で殺害
- P4759 **義智**(よしとも・最上もがみ、義俊長男)1631-97⁶⁷ 江戸幕府旗本、1632(寛永9)父没；家督嗣(2歳)、
三河等の所領半減/最上家14代当主、近江蒲生郡5千石の交代寄合；大森陣屋を構える、
1895高家職；従五下侍従/駿河守、和学者、1687(元禄10)没、義雅が家督嗣、
歌；1691了然尼撰(茂睡編)[若むらさき]入、
[思ひきや八千代をかけて祈り置し君を四十年よそにかぎるべしとは]、
(若むらさき；117/1680[延宝八年]5月8日将軍家綱没；40歳)、
妻；4人；相次ぎ没/①三条西実条長女(松平乗寿養女)・②松平乗寿養女てい・③実条2女・
④本多昌長女の奈津(再婚)
[義智(；名)の法号]玄空
- F4701 **義知**(よしとも・茂木もてき/本姓；大衡、通称；市三郎/号；一閑)?-1746 陸前仙台藩士；
1689(元禄2)藩主伊達綱村が躑躅ヶ岡釈迦堂建立の際に棟梁役/のち大番組、1733致仕、
1695(元禄8)頃「躑躅岡釈迦堂御建立之一巻」著
- G4762 **義倫**(よしとも/よしみち・中沢なかざわ/本姓；源、通称；八郎次)?-? 江中期幕臣；田安家の家臣、
歌人；賀茂真淵門、本居大平「八十浦の玉」入、
[春来ぬといふより空にたなびくは霞ぞ去年こそへのだてなりける]、
(八十浦；上10/1758[宝暦8]真淵家宴)
- Q4702 **良知**(よしとも・吉井よい、良信[45代]の2男)1713-68⁵⁶ 撰津西宮広田神社社家の生、和学者、
1759(宝暦9)兄良行よしゆき(46代)を継嗣；吉井家47代；広田神社祠官；従五下和泉守、
良運よしかずの兄、没後；長男良足よしたりが吉井家48代継嗣、
- K4742 **義知**(よしとも・久保田くぼた/本姓；源通称；十左衛門)?-? 江中期幕臣；御小姓組、歌；
1798刊石野広通「霞関集」入、
[けさ見れば峰もそなたに頭れて降り積む雪の色のさやけさ](霞関；637)
- O4717 **楽友**(よしとも・中里なかざと、通称；茂助)1739-1802⁶⁴ 近江彦根の紙屑業、歌人；西村随友門、
歌；[彦根歌人伝・寿]入
- F4702 **義比**(よしとも・牧まき/本姓；藤原、義備男)1741-1805⁶⁵ 官人；鷹司家諸大夫；父を継嗣、正四下、
1749備後守/62甲斐守/68内蔵助/79内匠頭、1801(享和元)辞職；出家/没、
1787「関白宣下鷹司家政所記」「大嘗会神饌之事」、「牧家系図書」著、
[義比(；名)の別名/法名]別名；義方/定石/是知、法名；梅蔭
- F4703 **吉知**(よしとも・布施ふせ) ? - ? 江後期越後刈羽郡琵琶島の鶴川神社の神主、
1800(寛政12)「鶴川神社略伝記」著、
[吉知(；名)の通称]但馬守
- F4704 **義知**(よしとも・細ほそ/本姓；細川、糸田川)?-1822 阿波徳島の武術家/撃剣；築山通欽門、

貫心流(宍戸司箭流)の薙刀を修得、文化1804-18頃安藝広島車屋町に道場を開く、
名声を高く広島藩主浅野斉賢に出仕; 剣術を指導、久能無窮斎雅賀の師、呑空の父、
1811(文化8)「心伝開教論」著、細川→糸田川→細に改姓、
[義知(;名)の通称/号]通称; 六郎、号; 宗閑

- F4705 **義友**(よしとも・藤原ふじわら) ? - ? 江後期江戸の河北安寿社神主、
1813「神道手引草」、「三種神宝伝」著
- F4706 **義智**(よしとも・藤川ふじかわ、通称; 勘助) ?-? 江後期肥前佐賀藩士/和算家、
「算学小筈解」「算法瑚璉解」「探蹟たんさく算法」「藤氏豁術草」著
- P4740 **吉偕**(よしとも・宮崎みやざき、) 1773-1827⁵⁵ 伊勢津の八幡神社・結城神社神主、
国学; 本居宣長・富樫広蔭門、南朝武将結城宗広埋葬地について津坂東陽(孝綽)らと考証、
[吉偕(;名)の通称]伊予/丹後、吉輔よしけの父
- M4748 **好友**(よしとも・北野きたの、屋号; 釜屋) 1792-1864⁷³ 武蔵川越の名主、国学/古典; 石川雅望門、
[好友(;名)の字/通称/号]字; 子賢、通称; 弥次郎/小兵衛/操六、号; 翠樹園/衆斉、
- K4785 **義比**(よしとも・青木あおき) ? - ? 江後期; 旗本/幕臣、備後守、歌人、
没後; 生前に好んで逍遥した富士見台に歌碑; 「夏月涼」「山家夏」の2首、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[しのびつつ涙は袖につつめどもあまる思ひはいかにしてまし](大江戸倭歌; 恋1513)
- L4728 **義友**(よしとも・網野あみの/本姓; 菅原、雨宮彦兵衛2男) 1843-1926⁸⁴ 甲斐八代郡の酒造業の家の生、
前田眞右衛門の養子; 破約/同郡錦村の網野善右衛門の養子、
国学者; 1861平田鍊胤門(篤胤没後門)
[義友(;名)の通称] 円平/善右衛門(養父名を踏襲)
- 04767 **嘉朝**(よしとも・原田はらだ、通称; 二郎/号; 拘斎) 1849-1930⁸² 伊勢飯高郡; 国学; 世古延世のぶよ門、
国学・歌人; 佐々木弘綱門、のち東京住、「聖徳歌」共著(佐々木信綱と)
良俱(よしとも・吉田/卜部) → 兼隆(かねたか・吉田/卜部、神職/日記) C 1 5 8 1
義知(よしとも・徳川) → 義直(よしのぶ・徳川/源/松平、尾張初代藩主) 4 7 2 0
義知(よしとも・壺井) → 義知(よしか・壺井・故実家) 4 7 1 9
義知(よしとも・赤松) → 宗旦(2世そうたん・赤松、医者/地誌家) C 2 5 4 9
義知(よしとも・大塚) → 克忠(かつただ・大塚おつか、儒者) N 1 5 5 2
良知(よしとも・広部) → 鳥道(ちようどう・広部、儒者/陽明学) J 2 8 5 7
義智(吉智よしとも → よしとし・宗/羽柴) → 義智(よしとし・宗そう、藩主) F 4 7 4 6
義智(よしとも・加藤) → 雪潭(せつたん・加藤かとう、藩士/絵師) L 2 4 2 1
- F4708 **吉豊**(よしとよ・種田たねだ、号; 随流軒) ?-? 江前期軍記作者; 関武隠士と称す、
1662(寛文2)刊「楠二代軍記」1683(天和3)刊「楠家全書」、「楠父子二代記」著
- F4709 **芳豊**(初世よしとよ・歌川うたがわ/姓; 福山or上原) 1830-66³⁷ 江戸上野旅籠屋の妾腹の生、
絵師; 初世歌川国貞門; 出奔、歌川国芳門; 芳豊の名を受、大坂で活動; 役者・武者絵に長ず、
風俗画・風景画も描く、歌・茶番狂言を嗜む、1854-57「大川仁政録」64-65「名刀開運録」画、
1863友戯「今様茶番硝子鏡」画/「菱垣新和田番船川口出帆之図」「花暦浪花自慢」外画多数、
[歌川芳豊(初世; 号)の通称/別号]通称; 兼吉/兼二郎/兵三/兵蔵、
別号; 一竜斎/含粹/含粹亭/北粹/北水/北酔/北粹亭、法号; 豊山院
義豊(よしとよ・山名) → 玉山(ぎよくざん・山名、幕臣/歌人) 1 6 4 0
義豊(よしとよ・福田) → 誠好斎(せいこうさい・福田/湯沢、剣術/医/神職) I 2 4 1 3
- F4710 **叔虎**(よしとら・和久田わくた) 1768-1824⁵⁷ 遠江浜松藩士/儒; 1796皆川淇園門、
京坂で漢学者/医者として活動、1804「徳本翁十九方対証通覧」05-53「腹証奇覧翼」著、
「富士紀行」「富岳雪譜」「腹証図解」「読腹証奇覧」著、
[叔虎(;字)の名/別字/通称/号]名; 寅、初字; 子清、通称; 豹吉/要人、号; 意仲
- F4711 **芳虎**(よしとら・歌川うたがわ、姓; 永島) ?-? 幕末期江戸の絵師: 歌川国芳門/師と不和破門、
天保-明治1830-87頃活動; 武者・役者絵/美人画/横浜絵/開花絵等、1834-「いろは文庫」画、
1848「仮名手本忠臣蔵」画、49(嘉永2)「道化武者御代の若餅」で家康を諷刺; 手鎖50日、
1852-65「雨夜鐘四谷雑談」52-54「品定五人娘」58「錦花集」61「万国人物図会」外画多数、

- [歌川芳虎(；号)の通称/別号]通称;辰五郎/辰之助/達三郎、別号;孟齋/一猛齋/錦朝楼
 義寅(よしとら・西山) → 退溟(たいめい・西山、詩文) L 2 6 0 9
 義寅(よしとら・里見) → 義亮(よしすけ・里見さとみ/石城、国学者) N 4 7 2 2
 由虎(よしとら・伊能) → 一雲(いちうん・伊能いのう、槍術/一節切) G 1 1 0 0
- F4712 芳鳥女(よしとりじよ・歌川^{たがわ}、歌川国芳の長女)?-? 絵師:父門、江戸日本橋魚商茶屋伊之助と結婚、
 夭折、安政1854-60頃;合巻・人情本の挿絵を描く、1852-58「春色連理の梅」画、
 1857「金毘羅利生伝記」、「新版さくらエ引かへうたいなせぶし」画、
 [歌川芳鳥女(；号)の別号]一燕齋/歌川国芳女登里/登里女とりじよ
- F4713 吉名(良名よしな・物部ものべ)?-? 平安前期廷臣;六位?/歌人、伝不詳、
 古今集955(「同じ文字なき歌」、
 [世のうきめ見えぬ山路へいらむには思ふ人こそほだしなりけれ]
 (古今;十八雑955/山路が仏道修行/ほだしは足かせ/愛する人こそ出家の妨げ)
- K4749 嘉名(よしな・岩井いかい) ?-? 江後期;志摩鳥羽の国学者;本居大平門、
 大平撰「八十浦の玉」下巻入、
 [みかきなす五十鈴の宮の玉垣はさかゆく御代の光なりけり](八十浦;1067)
 [かくしつつかはる代あらし廿年に一たびかはる大宮ばしら](八十浦;1069)
 誉子内親王(よしな^{いしんのう}) → 章義門院(しょうぎもんいん、伏見天皇皇女/歌人) L 2 1 9 5
 誉子内親王家小兵庫督(よしな^{いしんのう}のうけのこひょうえのかみ) → 小兵庫督(こひょうえのかみ) 5 6 5 1
 誉子内親王家大納言(よしな^{いしんのう}のうけのだいごん) → 大納言(だいごん・誉子内親王家) K 2 6 8 5
- P4778 吉苗(よしなえ・安田やすだ、旧姓;藤本) 1816-37早世²² 伊勢度会郡の外宮神職安田広治ひろはるの養子、
 養父は本居宣長の娘婿、国学;足代弘訓門、
 [吉苗(；名)の通称]彦三郎/図書/伝太夫(養父の称)
- F4714 義直(よしなお・一色いっしき/足利、義貫よしつら男) 1431?-1498^{68?} 室町戦国期武将;歌人、
 父は武田信栄により自害/1451(宝徳3)従兄の一色教親より家督継嗣;丹後の守護職、
 伊勢半国の守護さらに三河渥美・若狭小浜も知行、兵部少輔、足利幕府の御相伴衆、
 將軍義政の信頼を得る、丹後の支配体制を確立;「丹後国諸莊園郷保惣田数帳」編纂、
 若狭守護武田信賢と争う;1467応仁乱に山名宗全の西軍に属す、
 東軍細川勝元支持の將軍義政により丹後・伊勢の守護職解任、1674東軍に帰順;隠退、
 代わりに息子義春が守護職を回復/1478幕府に再出仕;義春の後見、1482幕府歌会に参加、
 1484義春没;丹後守護職を再継嗣;歌会催、1490(延徳2)歌人正広を招き歌会を主催、
 1491將軍義材(義植)の六角攻め参戦/出家号;慶誉入道(；伊勢貞仍「下つかさ集」入)、
 1498(明応7)丹後侵入の武田と戦闘;討死
- F4715 吉直(よしなお・曾原そはら) ?-? 江前期代々能登八幡村の富来八幡神社の神主、
 1608(元禄17)「富来八幡宮伝記」著
- 4720 義直(よしなお・徳川とくがわ/本姓;源/松平、家康9男) 1600-50⁵¹ 母;志水加賀宗清女のお亀(相応院)、
 尾張初代藩主、大坂城西丸の生/1603甲斐府中藩主/1607(慶長12)尾張清洲に転封、
 所領を拡大し尾張・美濃・三河・信濃・近江・摂津にまたがる61万石、従二位/権大納言、
 儒学・神道・軍学・音楽に関心を持つ、蔵書家、亡命中の明の陳元賛(げんいん/げんびん)を保護、
 歌;1626後水尾天皇二条城歌会参加、1646「神君御年譜」「東照天元録」著「類聚日本紀」編、
 「三河記」「成功記」「軍証志」「軍書合鑑」「神道正宗」「尾州家書目」「徳川御年譜」外著多数、
 [義直(；名)の幼名/別名/字/諡号]幼名;千々世丸/五郎太、初名;義知/義利/義俊、
 字;子敬、諡号;敬公/武衛公、
 正室 → 義直室(よしなおのしつ・徳川とくがわ、春姫/紀行文) F 4 7 2 1
 側室 → 義直室(よしなおのしつ・徳川とくがわ、貞松院) O 4 7 0 2
- 04701 義質(よしなお・常盤ときわ、通称;主馬) 1722-93⁷² 京の歌人;澄月門
- F4716 義直(よしなお・宮部みやべ、義正男) 1759-94³⁶ 母;宮部万ま(；歌人)、上州高崎藩士;1788年寄、
 歌;父母門/父母と共に冷泉為村門、弓術に長ず、義昌の兄、
 「三藻類聚」共編(父母と併せての詠歌集)、1777「かまくら山紀行」著、
 「三藻五百首」「三藻続千首」「詠千首和歌」入、1793「三藻日記」(父の日記)編、
 「江戸三十三間堂矢数帳」著(1799刊)、「同春集」入(義昌編)、

- [義直(；名)の通称/法号]通称；孫八、法号；寛国院
 父 → 義正(よしまさ・宮部、藩士/歌人) H 4 7 0 4
 母 → 万(まん・宮部、歌人) K 4 0 3 5
- F4717 義直(よしなお・竹下たけした、周直ちかなおの孫)1759-1810⁵² 筑後浮羽郡亀王村の大庄屋(；祖父以来)、
 19年間その職に当たる；祖父周直の残した家訓を祖述；「家訓」「家業要訓」編、
 [義直(；名)の通称] 武兵次
 祖父 → 周直(ちかなお・竹下、大庄屋/勸農家) B 2 8 3 6
- L4768 良直(よしなお・岩月いわつき、)1766-1838⁷³ 備中賀陽(吉備)郡の庭瀬藩士、歌；香川景樹門、
 参禅/同郡有木山の藤原成親配所の遺跡を保存；晩年ここに住す、
 [良直(；名)の通称/号]通称；沢右衛門、号；白華/有木居士
- F4718 温直(よしなお・土屋つちや、廉直ただなおの長男)1782-1852⁷¹ 幕臣；1797將軍家に拜謁/1838齊西丸徒頭、
 1851(嘉永4)先手鉄砲頭、「目利手引集」著、
 [温直(；名)の通称] 金三郎/帯刀
- K4758 義直(よしなお・宮原みやはら、義周男)1809-1881⁷³ 幕府高家/旗本、従四下/侍従/摂津守/1400石、
 1828高家見習/54高家肝煎/55父隠居により家督継嗣/69肝煎を辞職、公武間周旋に功績、
 正妻；平戸藩主松浦清の女、歌/書画/茶道に通ず、歌；1785蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
 [朝風に岸のあやめの露散りて香さへ寄せくる池のさざ浪](大江戸倭歌；夏499池菖蒲)、
 [義直(；名)の通称/号]通称；甚五郎/摂津守、号；南洋/方斎
- K4770 嘉直(よしなお・星野ほしの) ? - ? 江後期；歌人、
 1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
 [春雨の露おもげなる藤の花たれむらさきをにくしといひけん](大江戸倭歌；春350)
- K4773 義直(よしなお・平野ひらの) ? - ? 江後期；歌人、
 1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
 [夕立のふる野の末の松蔭に雨宿りする旅ぞわびしき](大江戸倭歌；夏622/旅夕立)
- F4720 芳直(よしなお・歌川うたがわ) ? - ? 幕末期江戸下谷御徒士町の絵師；歌川国芳門、
 嘉永安政1848-60頃活動、1854「いろはがな冠どど逸」55「国姓爺一代記」「亀山敵討」、
 1856「江戸町中纏鑑」、「小栗一代記」「源家伝来銘刀誌」「読切青砥政談」外画多数、
 [歌川芳直(；号)の別号]一盛斎/一光斎
- 04709 賢直(よしなお・那須なす、)1827?-1896⁷⁰ 讃岐高松藩士、絵師；森良敬門/故実画に長ず、
 歌を嗜む、
 [賢直(；名)の通称/号]通称；清吾/清助、号；奈与竹乃屋なよたけのや/加備廼舎かびのや
- N4786 好直(よしなお・立石たていし、)1832-1880⁴⁹ 筑後久留米藩士、漢学/歌；渡忠秋門、
 歌；戸田藤蔭門、藩主の祐筆/維新後；久留米県官吏、「長閑堂歌集」あり、
 [好直(；名)の通称/号]通称；辰蔵、号；長閑堂
- N4774 美直(よしなお・高原たかはら、通称；謙次郎)1837(38)-1916⁸⁰ 筑前御笠郡乙金村の大庄屋、
 国学/歌；お由羅騒動で鹿児島脱藩の北条右門(村山松根まつね)門、尊攘運動を援助
- K4735 義脩(よしなお・佐竹さたけ、義謙4男)1854-93⁴⁰ 父は秋田新田藩主、宗家に嗣なく1865婿養子；
 羽後秋田藩主佐竹義堯よしたかの養子；1874(明治5)家督嗣、軍人として活躍、
 1881宗家を辞し実家に復帰；1889別家となる(男爵)、「佐竹世系図」著、
 [義脩(；名)の幼名/初名/字/通称/号]幼名；亀丸、初名；義紀、字；子教、通称；治郎、
 号；乾堂/彪山
- 義尚(よしなお→よしひさ・足利)→ 義尚(よしひさ・足利、義熙、將軍) G 4 7 2 5
 好尚(よしなお→よしひさ・碧川)→ 好尚(よしひさ・碧川、国学者) G 4 7 3 1
 好直(よしなお・藤田) → 百城(ひやくじょう・藤田、医者/詩人) E 3 7 5 8
 好直(よしなお・牛丸/菊池)→ 景福(けいふく・菊池きくち、医者) G 1 8 6 0
 好直(よしなお・原田) → 竜山(りゅうざん・宇都宮/原田、儒者/教育) E 4 9 2 3
 吉直(よしなお・新保) → 磐根(いわね・新保しんぼう/にいほ、国学者) K 1 1 3 4
 良尚(よしなお→よしひさ・丹波)→ 良尚(よしひさ・丹波、医者/連歌) G 4 7 2 4
 良直(よしなお・藤堂) → 梅花(ばいか・藤堂とうどう、儒者/詩文) 3 6 7 8
 良直(よしなお・松井) → 可楽(からく・松井、藩士/詩歌/紀行) H 1 5 5 4

良直(よしなお・中野) → 吾扇(ごせん・中野なかの、俳人) D 1 9 1 7
 良直(よしなお・小原) → 蘭峽(らんきょう・小原おはら/源、藩医者) B 4 8 7 6
 良直(よしなお・中村) → 浩然齋(こうぜんか・中村、藩士/儒者) K 1 9 2 8
 敬直(よしなお・渋川) → 敬直(ひろなお・渋川しづか、幕臣/暦学) G 3 7 5 8

- F4721 **義直室**(よしなおのしつ・徳川とくがわ、浅野幸長2女) 1603-3735 紀伊和歌山に生、
 1615(慶長20)尾張藩主義直に嫁ぐ;正室、1633子の光友・京姫を伴い江戸下向、
 「高原院殿御道之記」著、
 [徳川義直室(;通称)の名/別通称/法号]名;春姫/春子、別通称;春姫/安藝御前、
 法号;高原院
- 04702 **義直側室**(よしなおのそくしつ・徳川とくがわ、津田信益女) 1608-8577 京の生;東福門院に出仕、歌人、
 尾張藩主徳川義直の側室;お佐井の方(於佐井御方)、京姫(鶴姫/広幡忠幸室)の母、美貌、
 [お佐井の方(;名)の通称/法号]通称;四方様、法号;貞松院
- F4722 **義仲**(よしなか・源、木曾次郎、義賢男) 1154-8431 平安後期武将/為義の孫/1155(2歳)父戦死、
 以後信州木曾の山中で養育される(通称;木曾次郎)、1180(治承4)以仁王令旨に挙兵、
 平通盛を越前に破る/平維盛を礪波山に夜襲をかける;平家追討;西海に走らせる、
 上京;1184征夷大將軍に就任;朝日將軍と称す、妻;巴御前、
 源義経・範頼軍に敗北;1184近江粟津原に戦死、
 妻 → 巴(ともえ・中原なかはら/源、武将/美女) T 3 1 0 3
- F4723 **義央**(よしなか・一ひさ・吉良きら/本姓;源、義冬男) 1641-1702斬首62 母;酒井忠吉女、幕臣;
 祖父以来の高家として義典の職に当る、侍従/左少将/従四上、知行;三河吉良を統治;
 築堤/新田開発を推進、文雅の道を嗜む、妻;上杉定勝女、養子;上杉綱憲次男、
 1701(元禄14)江戸城中で播磨赤穂藩主浅野長矩による刃傷事件;栗崎道有が傷の治療、
 1702旧赤穂藩士大石良雄らの討入;忠臣蔵伝説の悪役にされる、
 「禁中式目」著、17c「柳葉和歌集」入、
 [義央(;名)の幼名/通称/号]幼名;三郎、通称;左近/上野介、号;ト一、
 法号;靈性寺実山相公大居士
- P4764 **宜中**(よしなか・森もり、宜周よしちか男) 1819-184830 母;高戸家女(父[1786-1821]没後大賀家に再婚)、
 3歳で父と死別/和漢学;備前の鷹取計成門、詩人/茶人、
 [宜中(;名)の通称]甚左衛門(代々の称)、屋号;質屋(志ち屋)
- 04751 **恭仲**(よしなか・秦はた、初名;潮男、旧姓;桜井) 1820-190182 能登珠洲郡の須受ず八幡宮祠官、
 国学者、1882(明治15)長浜八幡神社に改称(:のち1978[昭和53]須受八幡宮に復称)
- 義中(よしなか・服部) → 時保(ときやす・服部はつとり、藩士/和学) W 3 1 1 0
 義仲(よしなか・田村) → 克成(かつなり・田村たむら、儒/藩政参画) N 1 5 6 9
 美仲(よしなか・柳瀬) → 方塾(みちいへ・柳瀬やなせ、商家/国学/歌) B 4 1 1 8
 吉中(よしなか・栃内) → 与兵衛(よへい・栃内とちない、藩士/兵法) I 4 7 2 7
 吉祥(よしなか・武藤) → 虎峰(こほう・武藤むとう、藩士/儒/教育) G 1 9 6 7
 善仲(よしなか・柴田) → 善信(よしのお・柴田しばた、藩士、国学者) F 4 7 6 8
- F4724 **善永**(よしなが・滋野しげの/姓かばね;朝臣)?-? 平安初期の廷臣;経国集目録に「蔭子無位」とある、
 詩人;嵯峨天皇主催の詩会に参加、経国集4首入
- F4725 **義長**(よしなが・仁木つき/本姓;源、義勝男)?-1376 頼章の弟、武将;室町幕臣;1334(建武2)関東廂番、
 文和1352-56頃伊勢・伊賀・三河の守護、右馬権頭/修理亮/右京大夫、幕府侍所頭人、
 1360幕府執事細川清氏と争う/敗北;伊勢に逃亡、1361南朝の廷臣、
 1366幕府執事斯波義将らの没落後に再び伊勢守護に復す;のち衰退、
 連歌作者;菟玖波集2句(1435/1494)入、
 [親のをしへし弓矢をぞとる](菟;雑1435/前句;武士ものぶの子どもの末に又なりて)
 [義長(;名)の通称] 二郎四郎
- F4726 **幸長**(よしなが・浅野あさの、長政男) 1576-161338 母;浅野長勝女、近江坂本の武将;豊臣秀吉に出仕、
 1589従五下/左京大夫、小田原征討の功で父と共に甲斐を領す;1595秀次失脚に連座;
 能登に配流/1596赦免;朝鮮再征・関ヶ原に参加、紀伊和歌山藩主となる;従四下/紀伊守、
 砲術;稲富一夢門、「浅紀伊守幸長書状」著、1609(慶長14)「漢和百韻」興行、

[幸長(名)の幼名/別名/法号]幼名;長満、初名;長継/長慶、法号;清光院
養嗣;弟長晟、息女;徳川義直の室

- F4727 **可長**(よしなが・朝比奈あさいな) 1625-8258 高知藩士;山内忠豊・豊昌に出仕、武術家、
柔術:水野自適斎・小栗正信門/奥義を極め一派を立てる、「小栗流和摺語録」著、
[可長(;名)の通称/法号]通称;半左衛門/丹左衛門、法号;月桂常心居士
- F4728 **良永**(よしなが・宇佐美うさみ/大関、宇佐美良賢男) 1634-171380 代々宇佐美流兵学の家、
紀伊和歌山藩士;徳川頼宣・光貞に出仕、父の兵学を継嗣;一時大関勝祐(かつつけ)を名乗る、
謙信の越後流軍学者、藩命で偽古文書を作成し紀州藩を上杉軍学の嫡流と工作、
宇佐美定行を越後流軍学の祖で謙信の軍師とす(宇佐美定満[良勝]がモデル?);
自らを後裔と称す、宇佐美定祐(さだすけ)を名乗る、近習詰/神宮御年譜御用/大番、
1703(元禄16)致仕、1654「巖島合戦記」86「宇佐美氏随筆拾遺」1711「宇佐美氏記録」著、
「川中島合戦記辨」「紀藩由緒兜之記」「大坂御陣覚書」「定祐兵談」著、
1665「朝鮮軍談実録」(増補「朝鮮征伐記」)著、
[良永(;初名)の別名/通称/号]別名;定祐/勝祐、通称;左助、隠居号;竹隠
- Q4721 **嘉長**(よしなが・西河しかわ、)? - ? 江前期;京の医者/歌人、1684「養生之略記」著、
歌人;1682河瀬菅雄[麓の塵]25首入、
[ながれ行く月日のかげも年波のたつ事やすく春や来ぬらん](麓の塵;春12)
☆同集入集の[西河氏妻の岩]・[西河氏女の澤]は嘉長の妻・娘か?
- F4729 **吉長**(よしなが・浅野あさの、綱長の長男) 1681-175272 母;前田綱記女、安藝広島藩主:1695備後守、
1708襲封;安藝守、侍従/1732少将、詩文を嗜む、林信篤・堀正英と交流、妻;前田吉徳女、
「詩歌集」「平字平仄」「詩法」著、「藝備諸郡駅所市町えきしよいちまち絵図」編、
[吉長(;名)の幼名]幼名;岩松、法号;体国院
- L4730 **善長**(よしなが・荒居あらい、通称;弥次平) 1704-6259 近江彦根藩士、歌人/茶道;千家流、
井伊直弼「茶湯一会集」に影響を与える
- F4730 **宜袁**(よしなが・杉山すぎやま、十郎右衛門宜葵よしとし男) 1741-181171 母;伊予大洲藩士堀源太兵衛女、
出羽庄内藩士/代々藩主酒井家三河以来の譜代の臣、1758家督継嗣;73中老/79家老、
1783致仕隠退、歌人/郷土史に精通;藩内の古今の事跡調査・記録、
「大泉事跡考」「大泉百談」「政府見聞私記」著、廉(れん)(歌人)の弟/宜為の父、
[宜袁(;名)の通称/号]通称;弓之助/金右衛門/中務、一貫彦(かつらひ)、号;一貫斎
- N4762 **義暢**(よしなが・よしのぶ・宗そう、8代藩主の義如3男) 1741-7838 1746対馬藩士眞孫(まご)さなつぐ数馬の養子、
叔父の9代藩主義蕃の養子;義暢に改名、1762(宝暦12)義蕃隠居;第10代対馬府中藩主、
従四下/侍従/対馬守、実権は義蕃が掌握;財政窮乏、家臣鈴木伝蔵の朝鮮使者崔天宗殺害
藩の混乱発生/1775義蕃没;実権を把握;まもなく1778没、家督は4男猪三郎(義功)継嗣、
正室;元姫(松平頼恭女の虎/貞心院/1797-1859/歌人)、側室;織江(瑞祥院)、
[義暢(;名)の別名/通称]幼名;直之介/直丸、別名;眞孫如資(まごにがひ)さなつぐゆきすけ、通称;槌之介
法号;真常院
義暢正室 → 貞心院(ていしんいん、宗元姫/歌人) F 3 0 1 1
- N4781 **宜長**(よしなが・武たけ) 1772 - 185685 上野伊勢崎河岸の船問屋;武家7代、
国学者・歌人;橘冬照門、1819(文政2)伊勢崎河岸に石灯籠を建立、
[宜長(;名)の通称]弥太郎/孫右衛門、☆武家は代々[宜]を名に付し孫右衛門を称す
- F4731 **嘉長**(よしなが・宮内みやうち/本姓;清原/初姓;永井) 1789-184355 下総海上郡新正村神職;神明宮神主、
里正となる、儒者;江戸の大田錦城門/帰郷し子弟教育;吟社を創設、書;橘千蔭門、
国学:1816平田篤胤門、1816「天石笛之記」、「実斎詩稿」「古史独言」「銚子竹枝」「遠山毘古」、
「宮内嘉長和歌集」「猿田神社玉ヶ池神社記」著、
[嘉長(;名)の別名/字/通称/号]別名;篤、字;竹馬/元善、通称;主水/和泉、
号;仁里/実斎/釣客子、神号;天津宮内前和泉正朝臣嘉長彦神靈
- Q4707 **懿長**(よしなが・吉田よしだ、) 1789-183853 筑後久留米の国学者/歌人、
歌;桂谿(けいけい)(白蓉軒)/国学・歌;神職宮崎信敦門、
[懿長(;名)の通称]篤次郎/源太左衛門
- 04797 **良修**(よしなが・別所べつしよ、) 1790-185970 備前岡山藩士;勝手方御物頭用人、国学者/歌人、

[良修(；名)の通称/号]通称；重左衛門、号；一撮/甲領

- F4733 **義脩**(よしなが・牧まき/本姓；藤原、義冬男)1812-? 1858存 官人；鷹司家諸大夫；父継嗣/正四下、1820豊前守/34内蔵助/39式部少輔/1855-6安政の大獄に連座；拘禁、1828「鷹司政熙六十賀宴和歌懷紙」著
- F4734 **芳長**(よしなが・滋岡しげおか、長昌男)?-? 江後期；代々大坂天満宮の神主、連歌作者；「春雪千句」「芳長吟独千句」「詠連歌新式和歌」著
- F4735 **善長**(よしなが・増田ますだ) ? - ? 江後期文筆家；長寛ながひろの祖父、1852姫路藩士が江戸深川三十三間堂の通し矢を催した際に孫長寛と関わり記録を残す；1852「江都三十三間堂矢数」校訂
- K4796 **吉長**(よしなが・浜野はまの) ? - ? 江後期；歌人、下野の狂歌作者の源阿曾美義長？、歌；1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[相模川戸田のわたりに船うけてあふりの山の月を見るかな]、
(大江戸倭歌；雑1855、船うけて；船を浮かべて/阿夫利あふりの山；大山)
- Q4711 **芳長**(よしなが・和田むだ、通称；又四郎)?-1859 江後期；伊予松山の国学者/歌人、国学・歌；藤井高尚(1764-1840)門
- M4779 **喜脩**(よしなが・小林こばやし、通称；作五郎)?-1869 長門萩西田町の商家；豪商、国学/歌人
[明方の枕にひびく木がらしや冬のはじめをつけて吹くらん]（「萩の歌人」入）
- P4707 **義長**(よしなが・牧野まきの、)1824-190875 美濃岐阜の製菓業、歌人
[義長(；名)の通称]宇右衛門/儀兵衛
- | | | |
|-----------------|---------------------------|-----------|
| 慶永(よしなが・田安/松平)→ | 春嶽(しゅんがく・松平まつだいら、藩主/詩歌) | J 2 1 3 3 |
| 良長(よしなが・藤堂)→ | 探丸(たんがん/たんまる、藤堂、俳人) | I 2 6 0 4 |
| 良長(よしなが・東坊城)→ | 豊長(とよなが・高辻たかつじ、廷臣/日記) | R 3 1 3 8 |
| 良長(よしなが・ト部)→ | 良長(よしおさ・ト部うらべ、神職/廷臣) | F 4 7 3 2 |
| 好長(よしなが・中里)→ | 千族(ちえだ・中里なかさと、神職/歌人) | N 2 8 1 5 |
| 善長(よしなが・小笠原)→ | 満長(みつなが・小笠原、武将/故実) | E 4 1 1 6 |
| 善長(よしなが・片野)→ | 東四郎(2世とうしろう・片野/永楽屋、書肆) | F 3 1 5 7 |
| 嘉融(よしなが・伊藤)→ | 嘉融(よしゆき/よしなが・伊藤いとう/藤原、尊攘) | B 4 7 7 3 |
| 義長(よしなが・芦原)→ | 英俊一(えいしゅんいち・芦原、医者；鍼医) | C 1 3 9 6 |
| 義長(よしなが・永井)→ | 鳳朗(ほうろう・田川たがわ/永井、俳人) | 3 9 5 8 |
| 義長(よしなが・二山)→ | 時習堂(じしゅうどう・二山ふたやま、儒者) | D 2 1 9 1 |
| 義長(よしなが・山田)→ | 雅信(まさのぶ・山田やまだ、国学者) | T 4 0 5 0 |
| 世良親王(よしながしんのう)→ | 世良親王(よながしんのう、後醍醐皇子・歌) | I 4 7 1 9 |
- F4736 **良成**(よしなり・高橋たかはし) ? - ? 平安後期廷臣；官人/六位、安藝守、祐子内親王(1038-1106/後朱雀天皇皇女)家の家侍、歌人；1067備中守定綱朝臣歌合参加、後拾遺760、
[忘れなむと思ふにぬるゝ袂たもとかな心ながきは涙なりけり]（後拾遺；恋760）
- F4737 **良業**(よしなり・清原きよはら、頼業4男)1164-121047 平安末鎌倉期廷臣/漢学者；明経道の家の生、父門/1193大外記/1201明経博士/03正後上/主税頭/大舍人頭、1204-5「良業記」著、1205「冠礼部類記」「土御門天皇元服記」「土御門天皇御即位記」「和論語」著
- 4721 **善成**(よしなり・四辻よつじ/本姓；源、尊雅王男/順徳天皇曾孫)1326-140277 1356賜姓源、70権大納言、1381従一位/94内大臣/95左大臣；出家、歌学、源氏研究；「河海抄」「珊瑚秘抄」(源惟良名)、1366「年中行事歌合」判者、67「新玉津社歌合」69「九月十三夜御会和歌」/73永和百首参加、1400「後崇光院百番御自歌合」判者/1401「九月十三夜歌会」参加/「伏見宮家歌合」判者、勅撰16首；風雅(1395)新千(1161/1835)新拾(635)新後拾(4首566/613以下)新続古(8首)、1345刊[藤葉集]入、連歌；菟玖波集5句入、無極志玄/智泉聖通尼の弟
[うらみずは人もなさけやのこさまし身をしりけりと思ふあはれに]、
(風雅；恋1395/善成王名)、
[有明のそらになかずは時鳥月につれなき名をやのこさん]（藤葉；109/四辻少将名）
[善成(；名)の号/通称]号；清閑寺、通称；源みなもと惟良これよし/四辻宮/四辻左大臣、法名；常勝、法号；松巖寺殿

- F4738 **吉成**(よしなり・堀田ほつた、通称;半左衛門)?-? 江前期和算家:佐藤正興門、1666「算法根源記」校
- L4719 **吉成**(よしなり・朝山あさやま/本姓;勝部、)?-1691 江前期;出雲秋鹿郡佐陀大社の正神主、芳房の父、神道;出口延佳・白井宗因門、1668権神主宇藤朝宣と上京;「佐陀大明神縁起」を提示
- Q4728 **可成**(よしなり・新美にいみ、)?-? 江前期;上方の歌人、1670下河辺長流[林葉累塵集]入、[蟬の羽の薄きにならふ夏衣きては涼しき木陰にぞきく](林葉累塵;夏345) ☆京の俳人**可成**(かせい、西鶴「物種集」/不角「二葉之松」入集)と同一?
→ **可成**(かせい、俳人) S 1 5 3 2
- F4739 **慶成**(よしなり・高島たかばたけ、定成男)?-? 加賀金沢藩士;1716家督嗣/御近習番、儒者:大地東川門、1759「四書和読考」71「大学衍義補国字略」、「明律集訳」著、[慶成(;名)の別名/字/通称]初名;敦定、字;之善、通称;源四郎/猪太夫/伊大夫
- N4731 **好全**(よしなり・芝崎しばさき/本姓;平、好高(1667-1733)男)?-1802 好寛よひろ(?-1750)の弟、代々江戸神田明神祠官;兄を継嗣、国学者;荷田春満(1669-1736)門、妻;直子なおこ(荷田春満女)・栄子(賀茂真淵門の国学/歌人)、[好全(;名)の別名/通称]別名;好紀よしのり?/好皓、通称 豊後守
- 4722 **良為**(よしなり・日比野ひびの/本姓;源)?-? 江後期美濃大垣の蒟蒻玉商、和算家;神谷藍水門、関流和算に長ず/商いの傍ら和算を教授、谷松茂と交流、1802「天神奉納会」、「曆象正義推歩図解」著、門弟;水野陸沈・小倉吉貞ら、[良為(;名)の字/通称/号]字;伯己、通称;立左衛門、号;歎斎けんさい/玉屋
- 04727 **瑞成**(よしなり・半井なからい、瑞直みずなお[牧菴]男) 1735-9460 和泉堺の医者;父の医業を継嗣、歌人、狂歌:1780「ト養狂歌集拾遺」共編(和氣わけ瑞成名/父瑞直と)[瑞成(;名)の通称/号]通称;千一郎/宗琳、号;ト養軒(父の号)/松隠庵/菟庵すうあん/宗牧(剃髪号)
- 04742 **義也**(よしなり・野崎のさき、) 1774-183461 武蔵高麗郡の名主、国学者/歌人、禪・歌;根岸典則つねのり門/国学・歌;林圀国雄門、1828(文政11)吹上峠開通に尽力(村の石灰を江戸に運ぶため)、[義也(;名)の字/通称/号]字;中享、通称;嘉右衛門、号;丹噲/崎乾きけん/皆山人/皆山亭
- F4741 **養成**(よしなり・有馬ありま、通称;一郎) 1780-185475 江後期薩摩藩士/和漢学を修得、子弟に教授、1849(嘉永2)高崎崩れに連座;謹慎/のち赦免、1846-54(弘化3-安政元)「有馬一郎日記」著、「有馬甲川先生覚書」著、門弟;西郷隆盛・大久保利通ら
- P4782 **養生**(よしなり・山口やまぐち、) 1796-185863 肥前唐津の国学者/歌人;藤井高尚門、[養生(;名)の通称/号]通称;勝蔵/理喜蔵/禎次郎、号;適斎/舞山/萱舎かやのや
- F4742 **義鳴**(よしなり・大鐘おおかね) 1807-6256歳 岩代の和漢学者/二本松藩士;御勝手方勘定奉行、江戸台所取締役、歌文に長ず、1841(天保12)「相生集」編/62「伊佐乎の論説」著、歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、[うち山やししかも時雨の降りぬなり都のたつみ朝ぐもりして]、(大江戸倭歌;冬1060/朝時雨)、[義鳴(;名)の字/通称/号]字;具、通称;弥兵衛、号;清風せいふう/桂園主人/錦綱堂きんけいどう
- L4704 **吉成**(よしなり・青根あおね/本姓;藤原) 1797-182731 近江彦根の国学者・歌人;村田泰足門、[吉成(;名)の通称] 吉太郎
- M4755 **喜哉**(よしなり・国井くにい、) 1814-189380 陸奥玉造郡の伊達家支流の岩出山領藩士;御右筆、国学者、のち寺子屋師匠
- F4743 **義成**(よしなり・伊部いべ) 1827or28?-1864自害 37-38? 尾張藩士;禄150石/馬廻組・寄合組、相組世話取扱歴任、国学者、歌人:氷室長翁門、1864(元治元)切腹、家集「榊の下枝」/「榊園百首」/「万葉集略解」/「考古録」/「榊園叢書」/「日本後記訓点」著、「古今集正義補闕」/「古事記伝正誤」/「古語拾遺大意」/「仏足石歌解」/「本朝弓矢旧証」外著多数、[義成(;名)の通称/号]通称;伝三/廉次郎/弥次郎、号;榊園さかきぞの、法号;篤信院
- F4744 **佳成**(よしなり・日暮ひぐらし) ?-? 江後期下総埴生郡赤荻の和算家、1853(嘉永6)「算法いろは歌」、「算法早割以呂波歌」著
- M4797 **義濟**(よしなり・佐久間さくま、赤川、中村儀右衛門男) 1833-64斬首 32 長門萩藩士、幼児に父没、

伯父赤川又兵衛に養育;赤川直次郎を称す、中村清旭の弟、
国学;黒神直民・大田梁平門、常陸水戸の会沢正志齋門、北陸を遊歴、尊皇思想、
帰郷;佐久間良太郎家を継嗣;佐久間佐兵衛と改姓/藩校明倫館助教、大坂藩邸留守居、
1864(元治元)禁門の変に福原越後の参謀として参戦;敗走/藩把握の俗論派により捕縛;
野山獄で斬首、

[心あらば梢の紅葉しばし待てあはれ我身と共に散らばや](;[萩の歌人]入)
[義濟(;名)の初名/通称/号/変名]初名;忠亮、通称;直次郎/佐兵衛、

号;思齋/竜園/淡水、変名;弥村左門

F4745 **義成**(よしなり・畠山はたけやま)1843-1876³⁴ 薩摩藩士/鹿児島の開成所で英学を修学、
1865(慶応元)薩摩藩留学生としてロンドン大学に入学;五岳・陸軍学術を修学、
1867森有礼らと渡米;ハリス教団・ラトガースカレッジに修学、
1871.4月召還;11月岩倉使節に随行し記録掛を務める、東京開成初代校長、
1876フィラデルフィア万国博覧会準備視察に渡米、帰国途上で病没、
1865「畠山義成洋行日記」「畠山義成西洋遊学日誌」「畠山義成漂流日誌」著、
[義成(;名)の通称/変名]通称;良之助/純常/丈之助、
変名;杉浦弘蔵(;英国留学時に薩摩藩より授与)

愛成(よしなり・善淵) → 愛成(ちかなり・善淵よしぶち、廷臣/漢学) B 2 8 4 2

好成(よしなり・前田) → 玄通(げんつう・前田また、医者) L 1 8 4 6

好生(よしなり・遊佐) → 木斎(ぼくさい・遊佐ゆき、藩儒/教育) D 3 9 0 8

美成(よしなり・山崎) → 美成(よしげ・山崎、国学/随筆) 4 7 1 2

佳成(よしなり・渋谷) → 幽軒(ゆうけん・渋谷しぶや、藩士/儒者/歌) B 4 6 4 2

善成(よしなり・浅井) → 玄香(げんかう・浅井、藩士/藩政誹謗) I 1 8 7 5

善成(よしなり・菅原) → 源八(げんぱち・菅原すがら、村役/救民/俳人) M 1 8 1 5

善成王(よしなりおう) → 善成(よしなり・四辻よつじ/源、左大臣/歌学) 4 7 2 1

Q4743 **義慣**(よしなる・渡邊わたなべ、)? - ? 江中期;撰津池田の歌人;宮川松堅門、
1722松堅[倭詞五十人一首]入、
[かたちなく目に見ぬ風の身にしみて今朝より秋のたちみにもしる]、
(倭詞五十人一首;34/立秋風)

善繩(よしなわ・春澄/猪名部) → 善繩(よしただ・春澄はるすみ、漢学/詩) E 4 7 2 1

善繩女(よしなわがむすめ・春澄) → 善繩女(よしただのむすめ・春澄、後撰歌人) E 4 7 3 1

L4797 **美庭**(よしにわ・大野おおの、)1815-1830^{早世26} 近江蒲生郡の国学者;平田篤胤・本居春庭門、
大野章美ふみよし(1789-1854)の弟、
[美庭(;名)の別名/通称/号]別名;美尋/弓雄、通称;九郎治、号;桜園

F4747 **善主**(よしぬし・菅原すがら、清公男)803-852⁵⁰ 平安前期廷臣;官人/漢学者;紀伝道に修学、
1825文章生/836(承和3)遣唐判官;836渡唐-839帰国/従五下/兵部少輔/伊勢介/主税頭、
越前介など歴任/852(仁寿2)勘解由次官;没、詩;経国集1首入

F4748 **義根**(よしね・佐竹さたけ/本姓;源、書家長倉一平男)1688-1767⁸⁰ 陸前仙台の天文家;遠藤黄赤子門、
渋谷春水門、天文・神道・兵学を修学、書;父門、佐竹姓/仙台藩天文方に出仕、門弟多数、
「小泉佐竹両氏上書」著/「春海先生実記」補訂、
[義根(;名)の別名/通称/号]別名;春海、通称;九吉、号;春山/秋水/尾齋

F4749 **義根**(よしね/よしもと・足利あしかが/本姓;源、家名;平嶋、義宜2男)1747-1826⁸⁰ 阿波平島の詩人、
詩文に長ず、1799「足利系図」編、1786「棲竜閣詩集」著、
[義根(;名)の字/通称/号]字;子寛、通称;又太郎/熊八郎/左衛門、
号;栖竜閣/棲竜閣/眉山荘、法号;了義院

F4750 **義稻**(よしね・中尾なかお)1782 - 1849^{68歳} 尾張名古屋藩士;先手組同心、国学者;本居春庭門、
本居大平・市岡猛彦門、1838藩校明倫堂謁者;43岡田啓(文園)と「尾張志」共編、
明倫堂和学教授、歌人、
1817「名所今歌集」編、「尾張旧記類従」編/「尾張名所和歌集」「尾張旧地考」「尾張氏系譜」、
「尾張荘地考」「尾張新風土記」「尾張続風土記」「尾張式社考」「尾張文書通覧」外著多数、
[義稻(;名)の通称/号]通称;八郎右衛門、号;竹廼屋/竹乃屋/多計能屋

04795 美根(よしね・古海ふるみ、)1820-1889 70 伊予風早郡宮内村の代々三島神社祠官、歌人

04705 美稲(よしね・豊田とよだ)1832 - 1865 殺害 34 近江甲賀郡池田村の勤王家、幼少より学問、
1851(20歳)遊歴、剣術;江戸の塚田孔平(玄武館四天王の1)門、岩瀬忠震ただり邸に寄寓;
忠震の長崎交渉に随行中に故郷で帰郷を強要;甲賀で水口藩尊攘派藩士と交流、
上洛し志士と交流/1859-64美作の行餘学堂などで子弟教育、
1864(元治元)門人安東鉄馬と上洛;同志と公武合体派一掃を計画;池田屋事件で失敗、
禁門の変で同志を失い葉売りに変装し長州に向う途中備前周匝の旅館橋屋に逗留;
1865(慶応元)岡山藩家老土倉家家臣田原平左衛門の襲撃を受け斬合いで没、
[美稲(;名)の初名/字/通称/号/変名]初名;徳隣、字;有秋、通称;謙次、号;蛟潭、
変名:広田稼助

F4751 吉野(よし・松田まつだ、諱;徳子)1609-43 35歳 京島原三筋町の遊女/林与次兵衛抱えの太夫、美形、
1619(元和5/14歳)太夫となる、歌/俳人、廓における服・髪・言語など流行の祖;
[吉野]は遊女の異名となる、1631豪商灰屋紹益[1607-91]と結婚、
没後1676西鶴「俳諧女哥仙にょかせん」入;[色姿我身も風の桜かな](女哥仙;34、
風の桜;客により栄落する遊女の境涯、
後撰集;105読人不知/今よりは風にまかせむ桜花散る木このもとに君とまりけり)

F4752 芳野(よし・榊原さかきばら、正之助長男)1832-81 50 母;坂内みち、江戸の国学者:伊能類則ひでのり門、
・深川潜蔵門、仏教学;深川稻荷別当行阿きょうあ門、本所石原町に私塾を開く、
維新後は昌平学校出仕/大学中助教・大講義/文部権大助教、「古事類苑」編纂に参画、
晩年健康害し発狂、「類聚名義抄索引」「髻譜きゆうふ」「太古史略」「文芸類纂」著、
[芳野(;名)の字/通称/号]字;作良さくら、通称;鬲蔵かくぞう/金太郎、
号;琴洲/佳園/雲琴堂/桜舎/鬲斎/豊洲/尼屋、法号;大観作良居士

美之一(よしのいち) → 葛原勾当(くずはらこうどう、生田流箏曲) C 1 7 4 4

芳都(よしのいち・戸沢検校) → 芳一(ほういち・戸沢とさむ、三戸、検校) G 3 9 2 9

吉野山人(よしのさんじん) → 周可(しゅうか;号、俳人/地誌家) G 2 1 8 9

芳之丞(よしのじょう・五十川) → 基(もとい・五十川いそかわ/いかわ、藩医者) C 4 4 1 1

芳之丞(よしのじょう・須藤) → 神庵(しんあん・須藤すどう、儒者) N 2 2 2 9

善之進(よしのしん・松平) → 忠質(ただかた・松平まつだいら、幕臣/記録) P 2 6 3 5

B4714 芳野組(よしのぐみ) ? - ? 江中期江戸浅草御地内の雑俳の組連、
取次;1732「収月評万句合」入、取次例;[現金に仕切つて仕舞ふ外戚げしやく腹]、
(前句;かまはざりけり々々/金ですべてを決着をつける)

美之介(よしのすけ・岡) → 直廬(なおろ・岡おか、神職/国学/歌人) O 3 2 0 8

嘉之助(よしのすけ・吉村) → 春峰(しゅんぼう・吉村よしむら、国学者/歌) L 2 1 9 0

佳之助(よしのすけ・六郷) → 正殷(まさただ・六郷ろくごう、藩主/歌) M 4 0 8 1

芳之助(よしのすけ・伴) → 資清(すけきよ・伴ばん、商家/歌人) I 2 3 9 9

義之助(よしのすけ・岡) → 正佐(まさすけ・岡おか、商家/国学) O 4 0 5 2

義之祐(よしのすけ・佐々木) → 美彦(うまひこ・佐々木ささき、神職) E 1 2 7 1

吉野殿(よしのどの) → 後村上天皇(ごむらかみてんのう、南朝/歌人) D 1 9 9 1

芳野葛子(よしののくずこ・山道高彦妻) → 葛子(くずこ・吉野、狂歌) 1 7 5 0

K4709 吉野花守(よしののはなもり) ? - ? 狂歌;1787「才蔵集」入

[築山は懐ふところさへもちいさくて両袖垣にもるゝ月影](才蔵集;五215/小さい築山)

4723 能宣(よしのぶ・大中臣おおなかとみ、頼基男)921-991 71 廷臣;神職/正四下/951讃岐権掾/972神祇大副、
973伊勢神宮祭主、輔親・輔長・宣理の父/伊勢大輔の祖父、源順・清原元輔・源重之と交流、
歌人;951梨壺5人に選出:万葉集読解・951「後撰集」撰進、960内裏歌合/977頼忠前栽合参加、
986内裏歌合参加、968冷泉天皇大嘗会・970円融天皇大嘗会に風俗歌詠進、輔親・宣理の父、
「能宣集」「榊葉日記」著、源順・清原元輔・源重之・恵慶・平兼盛・源兼澄と交流、
後葉集7首/続詞花集7首/御裳濯集4首入、雲葉集入、
勅撰125首:拾遺(59首24/31/33/59/79以下)後拾遺(26首5/6/9/19以下)、
詞花(8首36/44/87/138/163/225以下)新古(11首)新勅(2首)続古(2首)玉(2首)以下、

[みかきもり衛士のたく火の夜は燃え昼は消えつつ物をこそ思へ](詞花;225)、
[能宣(;名)の号]号;三条、神号;大中臣朝臣能宣命神靈、

- F4753 **能信**(よしのぶ・藤原ふじわら/閑院、摂政太政大臣道長男)995-1065 71 母;源高明女の高松殿明子、
頼通・頼宗・教通・長家・彰子・妍子の兄弟、能長の父、廷臣;1014従三位/18正二位、
1021権大納言、1045後冷泉天皇の意を汲み尊仁親王(後三条天皇)立太子に尽力、
没後1073贈太政大臣正一位、歌人/郢曲、頼通歌合・皇后宮寛子春秋歌合に参加、秋風集入、
勅撰2首;後拾遺(443;閑院贈太政大臣名)/新千載(2338)、
[曇りなき鏡の光ますますも照らさん影にかくれざらめや](後拾;賀443/影は光と庇護)、
(幼皇子[白河天皇]を世話する伊勢大輔が尊仁親王から鏡を貰い詠む歌への返歌)
(伊勢大輔442;君みれば塵も曇らで万代よろよの齢をのみもます鏡かな;伊勢大輔集入)
- F4754 **淑信**(よしのぶ・橋たちばな、敏通男)?-? 平安中期廷臣;962文章生;弓場殿試に出席せず、
1005には官人として出席/従四下/式部大輔/詩人:文粹入
- Q4734 **良宣**(よしのぶ・安倍あへ、範経[大蔵少輔]男)?-? 鎌倉南北期廷臣;陰陽頭/図書頭、家宣の父、
歌人;1345刊藤葉とうよう集入、
[つれなさも世のむくいぞとおもはずはなになにになぐさむ恋ぢならまし](藤葉:恋582)
- F4755 **義宣**(よしのぶ・佐竹さたけ、義重の長男)1570-1633 64 母;伊達晴宗女、伊達政宗の従弟、
常陸大田城の武将/1586頃より父と共に国事参画/1589家督嗣;常陸領主、
伊達家の圧力を退け領国統一;豊臣秀吉の承認、関ヶ原戦での曖昧な態度;
1602出羽に改易:秋田藩主、久保田に築城;荒蕪地開墾・鉱山採掘・製塩を奨励;藩の基礎、
連歌・茶の湯に通ず/武堂;馬術・剣術に長ず、「天英公御書写」「天英公御書写梅津本」、
[義宣(;名)の幼名/法号]幼名;徳寿丸/次郎、法号;浄光院傑堂天英大居士
- F4756 **義信**(よしのぶ・小林こばやし/本姓;樋口、樋口久兵衛男)1601-83 83 長崎万屋町天文家:林吉左衛門門、
天文・地理を修学/1646吉左衛門のキリシタンの廉の処刑に連座;投獄/1667赦免、
1671着任長崎奉行牛込忠左衛門に厚遇される/キリシタン系南蛮流測量術・天文易学に通ず、
宣明暦の1683(天和3)11月15日月蝕説の誤謬を事前に指摘、「規矩元法」「二儀略説」著、
世界図を作成;門弟稲垣光朗により「世界万国地球図」として刊行(1708刊)、
[義信(;名)の字/通称]字;謙貞/乾貞けんてい、通称;権右衛門
- F4757 **良信**(よしのぶ・狩野かろう、重良[一溪]男)?-1716 一説;勝田養景男で狩野重良の養子、江前期絵師、
江戸住の將軍家の画工;5人扶持(;1687(貞享4)武鑑に[一溪良信]とある)
「桜花譜」「製茶説」「細工物略説」「蜜の説」画、1702(元禄15)「元禄国御絵図仕立覚」著、
[良信(;名)の別号/通称/号]別号;重信(丹青若木集入)、通称;主膳/内膳(若木集入)、
号;一溪
- M4752 **義陳**(よしのぶ・救二郷くにさと)1666-1748 83 薩摩鹿兒島藩士;中通御目附、和学者
[義陳(;名)の通称/号]通称;善兵衛、号;白水
- F4758 **良信**(よしのぶ・渋谷しぶや、当広男)1682-1754 73 母;家老安藤直治女、代々紀伊藩士、
徳川吉宗家臣;大和守/和泉守/山城守/従五下、1716(享保元)吉宗將軍継承に随い江戸幕臣、
小納戸/小姓組番頭/側衆歴任、1745西丸勤仕/1751吉宗没により解任;菊間詰・留守居役、
1753致仕;寄合に列す、良紀の父、「玉音三十則」/1749「柳營夜話」著、
[良信(;名)の通称/法号]通称;虎之助/縫殿右衛門いへもん、法号;巖生
- F4759 **吉信**(よしのぶ・田村たむら) ? - ? 江中期正徳享保1711-36頃絵師:役者絵/挿絵、
「鬼打豆」画
- F4760 **義信**(よしのぶ・山本やまもと) ? - ? 江中期江戸の絵師:黒本(自画作)・青本を制作、
一枚絵(紅摺絵)も画、1748「延喜之帝」「紅皿闕皿昔物語」/49「三輪山猿手柄」「熟茶の始」著、
1751「邯鄲の里」52「鬼熊退治」著、「海女と蛸」「丸山土産」「吉原細見」「富士見西行絵尽」画
[義信(;号)の通称/別号]通称;平七郎、別号;重春(;初号)/戯月堂
- F4761 **義誠**(よしのぶ・神谷かみや) ? - ? 1776存 尾張の文筆家、1776(安永5)「黒髪山紀行」著、
朝岡正章(国学/俳人)の祖父
- F4775 **義信**(よしのぶ・藤井ふじい、通称;健治郎)?-? 江戸期武蔵足立郡原馬室村の人、
「中山道伝馬騒動実録」著(1764-5[明和元-2)中山道で起きた農民一揆)
- M4706 **義陳**(よしのぶ・荻原おざわら、通称;市之丞)1722-90 69 近江彦根藩の藩老脇家の家臣、

- 「諱義凍礼」著、歌人；門人多数、歌；[彦根歌人伝・鶴]入
- F4762 **義陳**(よしのぶ・大井おおい) ? - ? 安永1772-1800頃上野高崎藩士/歌人；冷泉家門、
宮部義正と親交、「花の便」「和歌留」著
- F4763 **吉信**(よしのぶ・紀き/藤井ふい) ?- ? 江中後期京?の絵師、
1796(寛政8)「不転先図会」/99「絵本頼朝一生記」画、
[吉信(；名)の号] 二柳齋/二柳亭
- F4765 **吉迪**(よしのぶ・河津かわづ/藤原、号；山白さんぱく) ?-1807 京の書画鑑定家、
1807随筆「睡余小録」編(付：立入経徳編)、「本朝古今書画便覧」編
- F4766 **喜宣**(よしのぶ・西尾にしお) ? - 1812 代々尾張藩士/和算家；名古屋の葛谷実順門、
のち江戸の本多利明門、北川孟虎の師、1801「温故算法」、「北野算経」編/「玉水算経」著、
「拾題起源」「神壁解」「続神壁解」「筌訂解」「天元一百好」「承鉤股円側求解」外著多数、
[喜宣(；名)の字/通称/号]字；子徳、通称；岡右衛門、号；玉水
- M4718 **美陳**(よしのぶ・野田のだ、頼寿2男) 1770-1843 74 伊予宇和島矢野村の庄屋の生/庄屋を継嗣、
国学・歌人；本居大平門、二宮正禎まさただ・梶谷守典もりり・近田八束と交流、
妻；冬子(歌人)、息子；良久(2男/歌人)/息女；豊子(歌人)、
「含みのめぐみ」(宣長の紀行文の筆写)/「しづのたまき」「三本木月見会和歌」著、
歌；大平「ひなのてぶり」8首入集/「西予人物誌」に5首入、
[八束穂のたり穂の稲のうちなびくあきつ嶋ねの秋ぞたふとき]
[はなさそふ風にたぐひて聞くもうし春も初瀬の入相の鐘]
[美陳(；名)の通称/号]通称；善内、号；稲穂
- F4767 **宜陳**(よしのぶ・岡崎おかざき、通称；三蔵、宜正男) ?-? 江後期阿波徳島藩士；1797測量方、
1802阿波国の絵図を山瀬佐蔵と共に作成、「阿波国絵図」共著、
「極要一本術」「南阿量地法」著/1844(弘化元)「阿淡両国絵図」(息子宜平よしひらと共著)
- F4764 **美信**(よしのぶ・三坂/三坂みさか) 1778-1843 66 長門萩藩家老福島家の家臣、京で石門心学を修学、
心学導師の免許取得/1825安藝の心学家奥田頼杖を萩に招き道話を始める、
1827京より日章舎の舎号を得る；都講兼講師となる/1833萩新堀に仮道場を構え舎番、
1839三舎印鑑受領/42藩の援助を受け城下古春日に道場敬身堂を新築、俳人、「常々草」著、
[美信(；名)の通称/号]通称；理兵衛/理平、号；雨聴/古萩園3世/如瑟園/方五斎/常々園
- F4768 **善伸**(よしのぶ・柴田しばた、助治男) 1784-1849 66 三河吉田藩士；1806家督継嗣；代官見習、大坂在番、
目付格郡奉行、蘭学；大槻磐水門/国学；伴信友・夏目甕麿みかまる門・儒学も修学、
藩営の新田開発に参画；幕臣渡辺啓次郎より測地法を習得、
1830(天保元)方位盤・分度器を作製；実地に使用、1835(天保6)病気のため退職、
「地方役所留帳抄録」、1822「本宮山眺望之記」/43「米価記」著、
妻；田原藩士萱生源左衛門女、福島留吉の兄、
[善伸(；名)の別号/通称/号]別号；共時、通称；猪助、号；恵迪園
- F4769 **義信**(よしのぶ・三ヶ島みかじま/宮野) 1792-1855 64 武蔵入間郡三ヶ島村中氷川神社の大宮司、
神道；武蔵足立郡川田谷村の高柳信之(文献)門、1833(天保4)大飢饉に多くの民を救済、
平田派の国学者、神道宝鏡教会の開祖、門弟多数、1832(天保3)「安国宝鏡」著、
[義信(；名)の幼名/通称]幼名；斎宮、通称；日歌輪翁
- P4709 **嘉言**(よしのぶ・正田まさだ、) 1793-1816 早世 24 近江栗太郡の代官手代、国学者、
歌人；[鴉のうみ]入
- F4770 **由信**(よしのぶ・砂川すながわ/本姓；物部、通称；順助) ?-? 江後期淡路の儒者、
1841「大学序次第考異」、42「格物辨義」、「大学章句講本」著
- L4789 **良暢**(よしのぶ・尾崎おざき、初名；常彦/通称；彦作・織部) 1815-? 江後期；紀伊熊野の熊野本宮社家、
国学；本居内遠・平田鉄胤門/歌人
- L4721 **義延**(よしのぶ・朝山あさやま、常清男) 1817-43 早世 27 京の歌人；1833香川景樹門、廷臣；九条家諸大夫、
従五位下民部権少輔、
[義延(；名)の通称]通称；安藝守/民部権少輔みんぶごんのしょう
- N4703 **義信**(よしのぶ・佐々木ささき、) 1817-1892 76 筑後久留米藩士/国学・歌；船曳磐主(鉄門)門、
佐々木巳喜次みきじ(松園)の父、

- [義信(;名)の通称] 才右衛門
- N4798 **義暢**(よしのぶ・戸村とむら、) 1819-1895 77 常陸水戸藩士、国学・歌;前田夏蔭門、
「散ればまた咲つく花の桜山いつをかぎりにながめはてまし」(借楽園の詠)、
[義暢(;名)の通称/号]通称;総太夫、号;眞鉄舎
- F4771 **最信**(よしのぶ・磯部いそべ) 1821-1898 78 代々田安家の家臣、初め経史を修学、
六人部是香と相知り国典を研究、維新後官吏/のち神職;神道大成教管長、
「岐岨の道草」「佐渡名所歌集」「安心立命訣」「含翠庭雑録」著
- 04721 **喜信**(よしのぶ・中村なかむら、通称;四郎左衛門) ?-? 江後期;紀伊和歌山藩士;代官、
国学者・歌人;本居内遠(1792-1855)門
- F4772 **良信**(よしのぶ・石川いしかわ) 1825-1882 58 陸前登米郡桜場村の蘭医:伊東玄朴門、
加賀の黒川良安門/長崎のオランダ人に従学、仙台藩医/のち幕府医官、法印、
1871兵部省軍医寮に出仕/軍医監に昇進、詩文に長ず、
「養生訓」「内科簡明」「香雲閣詩鈔」著、
[良信(;名)の幼名/通称/号]幼名;三安、通称;玄貞/玄水、
号;桜所/陸舟庵/香雲閣/香雲院、千葉山庵
- F4773 **芳信**(よしのぶ・歌川うたがわ) ? - ? 幕末期天保文久1830-64頃の絵師:歌川国芳門、
横浜絵を描く、1833「伽三味線閨爪弾」画
[歌川芳信(;号)の別号] 一礼斎/一慶斎
- K4779 **義信**(よしのぶ・和田むね) ? - ? 江後期;歌人、藩士?、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[さだめなき夕の雲のむら時雨降ると見しまにやがて晴れ行く](大江戸倭歌;冬1056)
- L4792 **善信**(よしのぶ・大石おおい/本姓;源、) 1815-1866 52 駿河府中(静岡)の国学者;平田鉄胤門、歌人、
[善信(;名)の通称]通称;善右衛門、屋号;砂張屋
- N4785 **義陳**(よしのぶ・竜田たつた、通称;周次) ?-1868 紀伊日高郡の国学・歌;熊代繁里・加納諸平門
- P4772 **喜信**(よしのぶ・矢田部やたべ、) 1822-1898 77 周防大島郡の国学者/歌人/古典・仏典に精通、
鈴木高軒らと尊攘運動、歌;[明治五百人一首]入、
[喜信(;名)の通称/変名]通称;武助、変名;浅見平八郎簡明
- Q4708 **好信**(よしのぶ・吉成よしなり、好謙よしから男) ?-1899 讃岐香川郡の鶴尾八幡社司の家/神道・国学者、
儒学・歌;友安三冬みゆづ門、高松藩皇学寮助教、
[好信(;名)の通称/号]通称;進太郎/長人/上総介、号;弦山
- F4774 **慶喜**(よしのぶ・徳川とくがわ/一橋、水戸藩主徳川斉昭7男) 1837-1913 77 母;有栖川宮織仁親王女吉子、
水戸藩江戸藩邸に生;幼時を水戸で送る、1847一橋家を相続、大老井伊直弼と対立;謹慎、
1862謹慎解除;幕府要職に復帰/1866幕府15代将軍;67大政奉還/68鳥羽伏見で敗戦;謹慎、
のち駿府70万石に封ぜらる/1897東京に帰る;公爵、
1864「奏聞十八箇条」、「徳川慶喜書状」「一橋慶喜歌集」著、
[慶喜(;名)の別号/字/通称/号]幼名;七郎麿、初名;昭致、字;子邦、通称;刑部卿、号;興山
- L4780 **能信**(よしのぶ・小川おがわ、) 1837-1899 63 紀伊田辺の富豪;井原屋/藩士に列す;町奉行、
国学・歌人;熊代繁里門、
[能信(;名)の通称/屋号]通称;英二郎、屋号;井原屋
- L4752 **恭信**(よしのぶ・石井い、) ? - ? 江後期;筑前福岡藩士、歌人;日野資枝門、
1868伊藤道保「筑紫遺愛集」入、
[恭信(;名)の通称] 清九郎/太郎左衛門
- 04735 **好信**(よしのぶ・西堀にしほり、通称;八郎兵衛) 1843-1908 66 近江蒲生郡の国学者/歌人、
国学・歌;藤村路久(美濃大垣の国学者/大平門)門、歌;[鴉のうみ]入
- Q4705 **好信**(よしのぶ・吉田よしだ、通称;謹治郎) 1843-1928 86 大坂の儒者・歌人;弹琴緒ことお(舜平)門、
国学者/讃岐金比羅神社社家
- 義暢(よしのぶ・宗) → 義暢(よしなが・よしのぶ・宗そう、藩主) N 4 7 6 2・宗)
- 義暢室(よしのぶ・宗) → 貞心院(ていしんいん、歌人)
- 良延(よしのぶ・吉田/卜部) → 兼雄(かねお・吉田よしだ/卜部、神道家) C 1 5 7 0
- 好信(よしのぶ・一開斎) → 重信(初世しげのぶ・柳川/鈴木、絵師) C 2 1 7 4

能信(よしのぶ・荷田) → 信愛(のぶいで・荷田かだ/羽倉、神職/国学) D 3 5 0 4
 嘉言(よしのぶ・豊田) → 嘉言(よしこと/よしのぶ・豊田とよだ、国学/歌) D 4 7 2 9
 義信(よしのぶ・松本/池田) → 可侯(かこう・一筆庵、溪斎英泉、絵師/戯作) 1 5 1 3
 義信(よしのぶ・間庭) → 蘭薫亭薫(らんくんていかおる、間庭、藩士/狂歌) B 4 8 7 8
 義信(よしのぶ・谷) → 了閑(了寛りょうかん・谷たに、藩医) G 4 9 9 5
 義信(よしのぶ・沼) → 梧窓(ごそう・沼ぬま、医者) N 1 9 0 0
 義信(よしのぶ・狩野) → 三雄(みつお/さんゆう・狩野かのう/三谷、藩御用絵師) I 4 1 6 6
 義宣(よしのぶ・杉本) → 左近(さこん・杉本/中臣/伊野原/三神、神職/歌) H 2 0 4 0
 義延(よしのぶ・北条) → 団水(だんすい・北条、俳人/浮世草子) 2 6 9 2
 義述(よしのぶ・新井) → 玉世(たまよ・新井あらい、絹商/狂歌師) V 2 6 3 0
 儀信(よしのぶ・羽入) → 兼規(かねのり・黒河内くろこうち/羽入、藩士/居合/歌) U 1 5 5 7
 致陳(よしのぶ・岩田) → 田鶴丸(たづまる・蘆辺あしべ/岩田、狂歌) 2 6 3 9
 吉野舎(よしのや) → 広秋(ひろあき・中村なかむら、藩士/歌人) K 3 7 3 7
 穀之屋(よしのや) → 正根(まさね・賀島かしま/藤原、藩士/国学) F 4 0 4 7

- F4776 **良教**(よしのり・栗田口あわたぐち/本姓;藤原/家名;二条、基良の長男) 1224-8764 母:藤原隆雅女、鎌倉期廷臣;1228侍従/36(嘉禎2)従三位/37右中将/38正三位駿河権守/40従二位/41参議、1242左衛門督・権中納言/44中納言/49正二位/権大納言/51按察使兼任/60大納言、1270大納言辞任;息子経良つねよしが参議に昇進/80兵部卿/85(弘安8)従一位;兵部卿辞任、1287(弘安10)出家;没、笛に長ず;亀山・後宇多天皇の笛の師、「羽林抄裏書」著、歌人:1251影供歌合・56百首歌合・61弘長百首・65文永歌合・1278弘安百首参加、勅撰26首;続後撰(131)続古今(143/629/1086/1851)続拾(7首)新後撰(6首)玉(632)以下、
 [いかばかり春吹く風をうらみまし散るをならひの花と知らずは](続後撰;春131)
- F4777 **義則**(よしのり・赤松あかまつ/本姓;源、則祐男) 1358-142770 母:佐々木高氏女、南北室町期武将;1391明德の乱に山名氏討伐に功績、幕府侍所所司、1397(応永4/40歳)惣領職及び播磨・備前・美作の守護職を継嗣/五位・左京大夫、満祐の父、歌:新後拾遺629、
 [散る花の名残を庭に吹きとめて木のもとにはほへ春の夕風](新後拾;雑春629)、
 [義則(;名)の号]入道号;三尺入道、法号;竜徳寺延齡性松
- 4724 **義教**(よしのり・足利あしかが/本姓;源、義満4男) 1394-1441暗殺48 母:醍醐三宝院安芸法眼女藤原慶子、義持の同母弟、初め京の青蓮院入室/天台大僧正/天台座主、1425義量(5代将軍)が夭折、1428急遽還俗;1429室町6代将軍(1429-41在位)/参議従四下、1430従一位/1432左大臣、権力強化を図る;将軍の座を狙う鎌倉公方持氏と対立;1439永享の乱に勝利(持氏自刃)、1441(嘉吉元)6月嘉吉の乱で赤松満祐により暗殺、能楽を好み音阿彌を重用(逆に1434世阿弥を佐渡に配流)、歌;「新続古今集」撰進を執奏、1433北野社1日1万句連歌を催/34永享百首出詠、1436「新玉津島社三十首和歌」、1439「石清水社奉納百首」参加、「詠百首和歌」「品経和歌」著、1441(嘉吉元/2月)連歌「前左大臣関白等何人百韻」参加、新撰菟玖波集入(発句2句)、勅撰;新続古今(18首3/44/117/199/225/292/321/362/462/693/807/1185/1356以下)、
 [いつしかと昨日の空にかはれるは霞ややがて春を知るらん]、
 (新続古;春3/霞知春)、
 [月影の雪もつちもりの浦風に猶秋さむし住吉の松](新続古;秋462浦月/永享百首484)
 [義教(;名)の初名/法名/法号]初名:義宣、法名:義円、法号:普広院善山道恵、妻:裏松重光女の重子(観智[知]院)/後妻;正親町三条公雅女の尹子、息子;義勝(7代将軍)・義政(8代将軍)・義視・政知(堀越公方)
- F4778 **義範**(よしのり・茂木もてぎ/本姓;源/家名;小田、城主茂木治清男) ?-1603 母:千本山城守女、治房の弟、父は下野茂木城主、武将:1566常陸佐竹義重より一字を受け元服、1573下野南摩戦で軍功、義重から大膳亮に補せられる;信濃守/1602(慶長7)佐竹義宣転封に従い羽後秋田に移住、秋田に没、連歌;1593(文禄2)紹巴と「何路百韻」、通称;十郎、法名;正善
- F4779 **吉徳**(よしのり・磯村いそむら) ? - 1710(;70余歳) 肥前鹿島の和算家;吉田三好・高原吉種門、自ら磯村流と称す、1658(万治元)二本松藩に出仕;作事奉行など歴任;1708致仕、

- 1661「算法闕疑抄」、「小関物語」「東鄙草」著、
[吉徳(；名)の通称/号]通称；文蔵/喜兵衛、号；泥竜/琢鳴、法号；慶譽向善信士
- F4780 **可敬**(よしのり/よしたか・蜂屋はちや/本姓；源、可広2男) 1661-1727 67 陸奥仙台藩士；
弟可則と共に大番に列す、藩主伊達綱村・吉村に出仕；小姓、儒学/詩/書の通ず、
「惺斎藁文」「本城竜日記」「戊子火災記」「先考法元府君伝」「諫言書」著、
1724「古談筆乘」著、「蜂屋家私記」編、外著多、
[可敬(；名)の通称/号]通称；又左衛門/彦助、号；惺斎
- F4781 **吉規**(よしのり・大野おの) ? - ? 江中期筑前萩尾の砲術家；伴資友門/鳥居流修学、
一説に武衛流武衛市郎左衛門義樹にも修学/一流を開創；砲術自得流の祖、
正徳1711-16頃大和郡山藩に出仕、「自得流鳥銃伝授」「拙速百首」「火筒拙速百首」著、
「大野流砲術伝書」「火箭放玉巻」伝、養嗣子；武範、
[吉規(；名)の通称] 左五右衛門
- F4782 **吉徳**(よしのり・前田まゐだ、綱紀3男) 1690-1745 56 母；町の方(預玄院)、加賀金沢藩主；1722家督嗣、
正四下/若狭守/加賀守、藩財政再建のため年貢確保・俟約策；大槻朝元の重用、
旧臣の反発を招く、妻；徳川綱吉の養女松姫、
宗辰むねとき・重熙・重靖・暢子のぶ・重教・治脩の父、「前田吉徳書翰」著、
[吉徳(；名)の幼名/別名/通称/法号]幼名；勝次郎/勝丸/犬千代、初名；利興/吉治、
通称；又左衛門、法号；護国院
- F4783 **良矩**(よしのり・板倉いらくら) ? - 1749 武州川越の郷土史家、1749(寛延2)「川越索麵」著、
[良矩(；名)の通称] 善左衛門
- N4738 **恵典**(よしのり・須藤すどう、旧姓；松村) 1701-77 77 下野佐野の回船問屋、国学者、
[恵典(；名)の通称/号]通称；権三郎/理右衛門、号；杜川/枕流亭
- F4784 **嘉典**(よしのり・菊池きくち) ? - 1768 越後古志郡の神職、神儒；新潟に出て高田敬典門、
のち京の松岡雄淵に垂加神道を問う、1753竹内式部門/54「竹内敬持十種皆伝状」受領、
帰郷；目附諏訪神社の祠官、傍ら門弟を教育、「宗源至願原始録」著、
[嘉典(；名)の通称/号]通称；定之進/大和守、号；貞斎
- F4785 **義卿**(よしのり・毛呂もろ) 1724 - 1792 69 上州新田郡世良田村の学者；長楽寺住僧の門、
足利学校に修学、漢学・国学・仏典に通ず/詩人、1789(66歳)幕命で江戸に招聘、
1766「本紀四論」74「上野国志」著、
[義卿(；名)の通称/号]通称；権蔵、号；念往、法号；信叟念往居士
- P4768 **好徳**(よしのり・森野もりの、藤助3世) 1757-1808 52 大和宇陀郡松山の薬草園経営森野武貞の養子、
養父武貞は藤助とうすけ(通貞/薬園開設者)の男、父祖の業を継嗣；薬草栽培・薬物製造販売、
国学・歌・書に長ず、家則十二カ条を制定；子孫に研鑽を促す、1808(文化5)没
- M4791 **栄章**(よしのり・高こう、通称；徳隣) 1752-1830 79 讃岐高松藩士、国学者；平田篤胤門、歌人
- F4787 **吉紀**(よしのり・武藤むとう) 1754-1824 71 豊後臼杵藩の儒者；藩主の侍講、
藩校学古館発展の基礎を築く、鶴峯戊申げのぶの儒学の師、吉士の父/虎峰こぼりの祖父、
[吉紀(；名)の字/通称/号]字；成績、通称；太右衛門、号；東里とうり
- F4788 **懋徳**(よしのり・佐藤さとう、安澄男) 1761-1817 57 越後新発田藩儒/儒；幸田誠之・稲葉黙斎門、
1808藩校道学堂教授、兄明善を継嗣し藩主溝口直諒の侍講、「論語講義筆記」著、
[懋徳(；名)の字/通称]字；道益、通称；松五郎、復斎・熙明・重遠・明善の弟
- N4725 **吉智**(よしのり・志村むら、通称；勘之丞) ?-1822 信濃洗馬せまの国学・歌人；桃沢夢宅(1738-1810)門、
都筑吉容よしとみ(?-1829)・志村履徳のりよし(?-1816)の兄
- M4759 **令徳**(よしのり・熊谷くまがい、旧姓；宮崎) 1767-1829 63 信濃伊那郡の生/信濃飯田藩士、
国学・歌人；桃沢夢宅・香川景樹門、
[令徳(；名)の別名/通称/号]別名；真人/真古、
通称；亀之助/三郎兵衛/元右衛門/与助/力三、号；鴉峯
- P4747 **吉規**(よしのり・宮本みやもと) 1768-1845 78 信濃水内郡岡山村の神職/国学者
- F4789 **吉徳**(よしのり・大友おおとも、大友親賢2男) 1770-1827 58 出羽平鹿郡八沢木村の生/大友道円の養嗣子、
儒；1793皆川淇園門/国学；本居宣長門、医者；江戸の石川玄常・京の和田泰純・賀川子敬門、
養父没；帰郷、医業/雄物川沿岸の風土病の病原を発見；治療薬開発に成功、

1819(文政2)「大友吉徳医案」著、

[吉徳(；名)の幼名/字/通称]幼名；与藤治、字；孝叔、通称；玄圭

- L4726 **良意**(よしのり・小豆沢あずきざわ、) ?- ? 出雲意宇郡の歌人；澄月・慈延・吉田芳章門、
- N4779 **義制**(よしのり・滝田たきた、旧姓；須田) 1776-1811 36 信濃飯田藩士滝田殻住からすみの娘きくの婿養子、
歌人；澄月・桃沢夢宅門、「詠草」あり
養父 → 殻住(からすみ・滝田、藩士/歌人) U 1 5 9 6
妻 → きく(・滝田、歌人) U 1 6 6 8
- F4790 **吉憲**(よしのり・小町谷こまちや、林孫作恵信2男) 1782-1857 76 母；桃沢夢宅女ひさ、
信濃伊那郡飯島町の生、小町谷吉英よしひでの養子/歌；養父吉英門/賀茂季鷹門、
のち福沢憲治の紹介で香川景樹門、吉武の父、「庭の落葉」著、同族小町谷吉孝よしたかの師、
[吉憲(；名)の通称/号]通称；権三郎/武兵衛、号；琴岡亭/花の戸/五明楼、法号；専楽院
- F4792 **善教**(よしのり・久保くぼ、字；甫学) ?- ? 江後期文政天保1818-44頃越前大野藩士；儒者、
詩人；「詩筵探題」「群詩拔萃」編、「木石園詩話」「木石園文稿」「詩文坐右藁」著
- L4759 **好徳**(よしのり・稲川いながわ、水野甚左衛門忠徳2男/清原元清の養子) ?-1834 伊予松山藩士/家老、
歌人、
[好徳(；名)の初名/通称/号]初名；元徳、通称；富之進/八右衛門/内記、号；淡水
- L4781 **義徳**(よしのり・小木曾おぎぞ/旧姓；成田、) 1786-1855 70 尾張名古屋の生、成田貞五右衛門の弟
信濃飯田藩士小木曾多吉の養子；養家を嗣、飯田藩御側御用人、
歌人；香川景樹・植松茂岳門、三浦元簡・村澤徳風と交流、
[義徳(；名)の字/通称/号]字；喜之、通称；三十郎、号；常村、法号；浄眞院
- F4793 **嘉伯**(よしのり・朝山あさやま/本姓；勝部かつべ、嘉路よしみち男) 1791-1863 73 江後期出雲秋鹿郡の神職；
佐陀大社祠官/従五下、国学；清水古博門/歌人、囲碁を嗜む、
1825(文政8)「佐陀大社略記」著、嘉基の父、
[嘉伯(；名)の幼名] 嘉光
- F4794 **義制**(よしのり・近藤こんどう) 1798-1876 79 丹波福知山藩士/儒；江戸の佐藤一斎門、
一斎の許で6年間修学、帰国し儒を以て藩主朽木綱条・綱張・為綱三代に出仕、詩文に秀づ、
槍術にも長ず、1817「一夜百首稿」、「日新録」著、
[義制(；名)の字/通称]字；商臣、通称；義蔵よしぞう
- 04728 **義則**(よしのり・丹羽にわ、通称；楊三) 1798-1874 77 信濃飯田藩士、丹羽宗義の孫、歌人
- F4795 **嘉功**(よしのり・神野じんの) 1798- 1895 長寿 98歳 代々紀伊和歌山藩士/1842(天保13)家督嗣；3百石、
寄合、維新後；嘉功に改名、篆刻・武術に長ず、「見聞録」著、
[嘉功(；名)の別名/字/通称/号]初名；義徴、字；子仙、通称；九兵衛、号；梅庵
- P4733 **良紀**(よしのり・水野みずの、通称；見桃) 1798-1875 78 信濃水内郡の国学者
- K4789 **義則**(よしのり・大井田おおいだ) ?- ? 江後期；歌人、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[わが思ふ人の姿のうつし絵を見るにみも袖のぬるるかなしさ](大江戸倭歌；1618)
- F4796 **義敬**(よしのり・藤井ふい/本姓；源、義寿男) 1817-? 1852 存 廷臣；代々図書寮出仕の官人、
1844正六下/豊前介/大允、「図書寮調進之留」著
- P4792 **懋徳**(よしのり・山部やまべ、通称；義三郎/号；竹隠) 1817-96 80 陸奥桃生郡中津山邑主黒沢家家臣、
国学者
- L4751 **義制**(よしのり・砂川いさかわ/本姓；柴田、) 1823-94 72 播磨姫路藩士、国学者、
[義制(；名)の通称] 弥吉郎/弥一郎/貫一郎
- L4705 **可功**(よしのり・赤尾あかお/本姓；平、可官よしたか男) 1826-97 72 廷臣；国学者；父門、歌人
- M4721 **嘉則**(よしのり・片桐かたぎり、) 1835-1916 82 陸奥会津の歌・和漢学；会津藩士野矢常方門、
維新後；宮内省御歌所御用掛、家集「自適集」著、
[嘉則(；名)の通称] 八太郎/善之助
- F4797 **慶徳**(よしのり・池田いけだ、水戸藩主徳川斉昭男) 1837-77 41 1850因幡鳥取藩主池田慶栄没で継嗣、
鳥取藩主；少将/相模守/因幡守/従四上、1862より幕府・朝廷間の調整に尽力；
1864以後在国し中立、第二次征長より王政復古まで幕府側・のち水戸思想で尊皇攘夷主張、
1863年2月朝廷より摂海守備総督に任じられ6月英国船に発砲し攘夷実行の姿勢を示す、

1868年2月新政府の議定に就任/のち麿香間祇候/戊辰戦争では政府側に属し東北で戦功、
1869版籍奉還により鳥取県知事/74免職、75隠居/77(明治10)神戸に没す、
歌文に長ず:「竹廼舎家集」「すゑのしづく」「古今風槩い抄」/「因州侯御上書」著、
正室;寛子(池田定保女/歌人)、歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、

[夏かけて梢に匂ふ藤の花春のかたみと人は見るらむ](大江戸倭歌;夏379/首夏藤)、
[慶徳(;名)の初名/字/通称/号]初名:昭徳、字;子明、通称;五郎麿、号;竹の舎/省山
正室 → 慶徳室(よしのりのしつ・池田いだ寛子/歌人) K 4 7 5 4

F4798 義権(よしのり・杉浦さざうら) ? - ? 江後期歴史家:息子義方と江戸幕府の事跡編纂、
「国字歴史管鑑後編」「徳川一統志外編」編、義権(;名)の号;蘇竹、
息 → 義方(よしかた・杉浦さざうら、史家) C 4 7 7 6

F4799 誉志乃理(よしのり;名・源みなもと)?-? 江後期廷臣;従四上/近衛権中将/因幡守、
「古風風槩ふうがい抄」著

G4700 好礼(よしのり・阪部さかべ) ? - ? 江後期江戸小石川の書家/絵師/茶人、
1852(嘉永5)「前賢故実私訓」著、
[好礼(;名)の号] 双溪/春美しゅんこう/春斎/鉄槌堂

G4702 恵規(よしのり・岩原いわはら) ? - ? 江後期加賀藩士;与力、
「国令分類」「国令漫録」編/1844「梅花無尽蔵」45-49「加越能大全」著、
[恵規(;名)の別号/通称]別名;恵/規、通称;五右衛門

M4731 美教(よしのり・鳥谷からすや) ? - ?安政1854-60頃没 伊予道後の湯神神社祠官、
国学・歌人;堀内正郷門、
[美教(;名)の別号/通称/号]別名;標/梁、通称;大和、号;中斎/竹陰/如水

P4751 美則(よしのり・村上むらかみ、通称;越後屋千作) 1826-8257 伊勢津の商家、国学者

N4757 良載(よしのり・関島せきじま、良致よしむね長男) 1829-6436 母;祖父良基の兄種孚女、
信濃伊那郡下川路村の医者;父門、八幡村松尾亨庵門、歌人、
儒;1843名古屋の丹羽昶つとむ(嘉六)・輔之(嘉七)門、蘭医柳田凌雲門;各派医学修学、
1851(嘉永4)家督継嗣;64(元治元)没、
[良載(;名)の字/通称/号]字;積徳、通称;年太郎、号;橘窓/香巢

Q4715 善慶(よしのり・渡辺わたなべ、初名;宣/号;松石) 1840-9556 近江大津の国学者/歌人;服部春樹門、
歌;[鴉のうみ]入

Q4703 良卿(良郷よしのり・吉井よしい、良顕よしあき男) 1843-8543 摂津西宮広田神社社家の生、和学者、
1855(安政2)父より継嗣;吉井家51代;広田神社祠官;従五下陸奥守

N4704 義教(よしのり・佐々木ささき、旧姓;宮部) 1846-192479 伊予風早郡の国学者/歌人、
儒・国学;矢野玄道門/国学;師岡正胤門、
[義教(;名)の通称]喜藤太/左馬之丞/寿賀松(すがまつ?)

G4701 義清(よしのり・菊池きくち) ? - ? 江末明治期豊前筑上郡唐原の詩歌人/画、
「こころのちしほ集」/「鈴籟余詠」/「涙痕詩集」著

愛徳(よしのり・花山院) → 愛徳(あいとく/よしのり・花山院かさきいん/藤原/中山、右大臣/詩歌) M 4 7 1 5

好義(よしのり・山崎) → 長質(ながかた・山崎やまさき、藩士/系譜) D 3 2 4 3

好義(よしのり・長尾/股野) → 達軒(たっけん・股野またの、藩儒/詩人) G 2 6 1 9

好義(よしのり・広瀬) → 好義(たかよし・広瀬ひろせ、陪臣/歌人) Z 2 6 2 5

好紀(よしのり・芝崎) → 好全(よしなり・芝崎しばさき、神職/国学) N 4 7 3 1

能範(よしのり) → 能範(のうはん、連歌) 3 5 4 9

良則(よしのり・中村) → 信斎(しんさい・中村なかむら、漢学者) E 2 2 1 5

良則(よしのり・大郷) → 信斎(しんさい・大郷おおごう、藩士/儒者) E 2 2 1 8

良紀(よしのり・宮下) → 穂垂(ほたり・宮下みやした、国学者/歌人) G 3 9 4 1

良範(よしのり・山田) → 良範(りょうはん・山田、地役人/歌謡) J 4 9 2 6

良典(よしのり・館) → 意行(いぎよう・館たち、俳人) F 1 1 2 3

良典(よしのり・小林) → 良典(よしすけ・小林、官人/尊皇/歌人) L 4 7 8 5

良猷(よしのり・松村/松邨) → 九山(きゅうざん・松村/松邨まつむら、医/儒者) C 1 6 0 2

美宣(よしのり・佐藤) → 如春(じよしゆん・佐藤さとう、国学/歌人) U 2 2 8 5

嘉猷(よしり・西門) → 蘭溪(らんけい・西門にしかど、医者/歌人) B 4 8 8 8
 義教(よしり・斯波) → 義重(よしげ・斯波しば、武将/管領/歌人) D 4 7 5 6
 義憲(よしり・平賀) → 鳳台(ほうだい・平賀ひらが、儒者) C 3 9 2 1
 義典(よしり・福田) → 誠好斎(せいこうさい・福田、剣術/医/神職) I 2 4 1 3
 義典(よしり・佐々木) → 春夫(はるお・佐々木、商人/国学) G 3 6 0 5
 義典(よしり・三木) → 松斎(しょうさい・三木みき、和算家) J 2 2 0 7
 義矩(よしり・山鹿) → 素行(そこう・山鹿やまが、兵学者) 2 5 2 2
 義矩(よしり・大島) → 伴作(ばんさく・大島おおしま、国学/歌) H 3 6 7 2
 義則(よしり・谷/式守) → 蝸牛(かぎゅう・式守しまもり、初世伊之助) J 1 5 3 3
 義徳(よしり・松田/三浦) → 蘭阪(らんばん・三浦みづら/松田、医/本草) D 4 8 1 3
 義慰(よしり/よしやす・箱石) → 清左衛門(せいざえもん・箱石はこいし、藩士/砲術) I 2 4 3 9
 義紀(よしり・佐竹) → 義脩(よしなお・佐竹さたけ、軍人/系図) K 4 7 3 5
 善教(よしり・片野) → 東四郎(3世とうしろう・片野/永楽屋、書肆) F 3 1 3 2
 善教(よしり・鈴木) → 益堂(えきどう・鈴木すずき、儒者) D 1 3 6 8
 善則(よしり・赤松) → 香雨(こうう・赤松あかまつ、商家/鑑定家) H 1 9 3 9
 吉訓(よしり・小谷部) → 春宣(はるのぶ・小谷部おやべ/沢藤、国学) J 3 6 8 2
 徳規(よしり・中島) → 棕隠(そういん・中島なかじま、漢学/詩人) 2 5 0 4
 慶範(よしり) → 慶範(けいはん、僧/柿本寺堂修復勸進) N 1 8 3 3

K4754 慶徳室(よしりのしつ・池田いけだ、名;寛子、池田定保5女)?-? 因幡鳥取藩主池田慶徳[1837-77]の正室、
 歌人;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
 [さらでだに雲みに見ゆる遠山をあるかなきかに霞みこめけり](大江戸倭歌;春60)

吉埴(よしはに・中山) → 吉埴(よしたね・中山、荻の舎、国学、歌人) E 4 7 3 7

N4718 義逸(よしはや・坂上さかみ、)?-? 江中後期;備後福山の医者、
 国学・歌学;藤井高尚(1764-1840)門、
 [義逸(;)名)の字/号]字;俊三、号;惜陰館

G4703 義春(よしはる・源みなもと) ?-? 南北期?廷臣;五位、
 歌人;新拾遺(1875)新後拾遺(1285)、
 [我ながら心やかはるうしといひて過ぎし昔をまたしのぶかな](新拾遺;雑1875)

G4704 好玄(よしはる・斎藤さいとう、好久男)1500-1572⁷³ 戦国期京の武将;大坪流馬術;斎藤備前守芳蓮門、
 大坪流馬術中興の祖、加賀富樫郷住;管領細川高国により將軍足利義晴に謁見、
 河内菅田邑を所領/能登郡を加領/安藝守、足利義輝に馭法を師範し馬術伝書を献上、
 晩年は諸国流浪;摂津の荒木元清家に没、「大坪流馬書」「大坪本流常術好玄記聞書」著、
 1563「斎藤乗方」66「雲霞集抜書」69「不行馬」著、「大坪流手綱切掛」「馬之秘薬」外著多数

G4705 義晴(よしはる・足利あしかが/本姓源、11代將軍義澄長男)1511-50⁴⁰ 室町幕府12代將軍、
 (1521-46將軍在位)、1522參議/從四下/30從三位權大納言、
 三好党横行によりしばしば京を逃亡、
 1546(天文15)嗣子義輝に將軍職讓渡、妻;近衛尚通女、義輝(13代將軍)・義昭(15代)の父、
 「御内書要文」著、連歌会を主催、
 [義晴(;)名)の幼名/法号]幼名;亀王丸、法号;万松院

G4706 義治(よしはる・六角ろっかく/本姓;源、佐々木、義賢男)1545-1612⁶⁸ 武将;近江半国の守護、右衛門督、
 1557家督嗣;1563重臣後藤賢豊を殺害;諸將の信賴失墜、重臣の要請で1567「義治式目」約定、
 1568織田信長に進攻を受け観音寺城を捨て甲賀に敗走;再起を果たせず没、
 [義治(;)名)の幼名/別号/法名]幼名;四郎、初号;義弼/義祐、法名;玄雄/鷗庵、法号;覺園院

G4707 吉春(よしはる・横山よこやま) ?-? 江前期安藝広島兵法家、
 松田古流軍法の祖の松田秀任門/自ら松田古流の祖となる;のち常陸水戸藩に伝流、
 「志徳受用法」著、[吉春(;)名)の通称]勘右衛門

Q4720 喜治(よしはる・源みなもと、) ?-? 江前期;武士/歌人;浅井忠能[難波捨草]入、
 [我が身には何偽のあればとて人のつらさの数をそふらん](難波捨草;恋500)

G4708 吉治(よしはる・安藤あんどう) ?-? 江前期京の和算家;田中由真門、
 1689(元禄2)刊「一極算法」著

- M4789 **嘉治**(よしはる・幸田こうだ、通称;庄二郎/庄大夫) 1659-89³¹ 江戸の幕臣;桐間番、国学者
- G4709 **可春**(よしはる・小西こにし/柳原、柳原正春男) ?-1719 京に住/父が岡山で小西家の婿養子;改姓、延宝1673-81頃高松藩士/歌人、「玉藻集」「芳里袋」著、
[可春(;名)の通称/号]通称;小八郎、号;友鷗/紙小庵、法号;玉藻霊士
- 04724 **宜青**(よしはる・長島ながしま、) 1713-1793⁸¹ 大坂の歌人;水無瀬家入門、永井侯大坂邸に出仕、
[宜青(;名)の字/通称/号]字;子松、通称;総助、号;緑陰/休隠/恵義
- 04711 **喜珍**(よしはる・南雲なぐも/本姓;藤原、) 1746-? 上野群馬郡の野田大明神の神主、
[喜珍(;名)の通称] 平太夫/美濃正
- L4735 **好春**(よしはる・井上いゆうえ、) 1756-1835⁸⁰ 土佐高知藩士、国学/歌;谷眞潮・宮地春樹門、源氏物語の研究、「源氏雨夜立聞げんじあまよのたちぎき」著、坂本龍馬の曾祖父(龍馬の祖母坂本久の父)
[好春(;名)の別名/通称]別名;義平、通称;新蔵
- N4717 **好春**(よしはる・齋藤さいとう、山県昌貞[大弐]男) 1756-1812⁵⁷ 江戸八丁堀の学者/漢学;父門、1767(明和4/12歳)尊王論者の父が幕府の忌諱に触れ刑死、国学修学、
[好春(;名)の通称/号]通称;二郎兵衛、号;元斎
- G4710 **良玄**(よしはる・丸山まるやま) 1757-1816⁶⁰ 越後村山藩士;故あって浪人;江戸に出て和算家、関流和算;藤田貞資門、1796「新法綴術詳解」1802「愛宕山標題解術」12「丸氏算法」、
「古今通覧解義」著、[良玄(;名)の通称/号]通称;因平、号;帰厚堂
- M4783 **吉晴**(よしはる・小町谷こまちや、通称;条蔵) 1777-1852⁷⁶ 信濃伊那郡の歌人;桃沢夢宅門
- G4711 **良温**(よしはる・河合かわい) ? - ? 江後期加賀金沢藩士;藩年寄村井長道の家臣、医者;怨庵の号/儒者;方助の称、謡曲研究;村井長道ながみち[1796-1836]の命で、1831佐久間寛台ひろもの謡曲注釈書「謡言粗志訂」の補訂作業(勝木元直・渋谷重武と)、1817(文化14)「徂西志」/24「周易論兕言」32「力余漫草」著、
「三州良民言行録」「俗話五常名義」著、万よらず(儒者)の父、
[良温(;名)の字/通称/号]字;季恭、通称;方助、号;新斎/怨庵/鹿鳴社
- G4712 **好春**(よしはる・橋本はしもと) ? - ? 考証学、1821-42屋代弘賢「古今要覧稿」編纂参加
- N4700 **吉晴**(よしはる・佐々木ささき、) ?- 1876 江後期;信濃伊那郡の歌人;福住(笹垣)清風門、吉雄(1823-77/国学者/歌人)の父、
[吉晴(;名)の初名/通称/号]初名;布茂、通称;覚左衛門、号;夏寅亭かいんてい
- M4790 **好美**(よしはる・河野こうの、通称;伊予) 1803-73⁷¹ 阿波名東郡井戸村の八幡宮祠官/大御和神社祠官、国学者
- G4713 **美春**(よしはる・前原まえはら/横瀬/小野、修験者正学院胎山の長男) 1804-80⁷⁷ 上州山田郡上久方の生、漢籍;竜睦軒瑞齡門/歌;黒川春村門、神職;1830(天保元)上久方村稻荷神社の神主、のち居館山王大権現社・下久方熊野荒神社の神職歴任、維新後;諸社の祠堂・訓導を勤む、「神系補説集」著、
[美春(;名)の別名/通称/号]初名;綱信/重世、通称;小野里近江正おざとみしょう/辰三郎、号;壺鈴園/花村/春鷹亭
- K4768 **義治**(よしはる・駒沢こまざわ、別名;知幾) ?-? 江後期;歌人、歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[深み草花のさかりあさぢふの宿も豊に見えわたるかな](大江戸倭歌;春325)
- G4714 **好春**(よしはる・武藤むとう、善藤男) 1817-63⁴⁷ 土佐藩士;藩校の文武頭取、参政の吉田東洋の政治を批判;攘夷論を主唱、小南五郎・武市瑞山と交流、能書家、1861大坂警衛用を命ぜられる;62大坂に没、「患危憤怨録」著、
[好春(;名)の初名/通称/号]初名;繁門、通称;小藤太、号;紫茸じじょう
- M4775 **吉春**(よしはる・小能このう/旧姓;斎藤、) ?-1872 伊勢長島の生、武蔵高麗郡の加能神社祠官、
[吉春(;名)の通称] 志摩
- G4715 **芳春**(よしはる・歌川うたがわ/姓;生田) 1828-88⁶¹ 江戸浅草の絵師;2世柳川重信門・歌川国芳門、美人画・武者絵・挿絵を描く、1853-56「一休禅師一大記図絵」57-8「艶色競」61「酒取物語」、1861「万国奇談袋」63「花軍嶋物語」67「四国攻軍記」、「桶狭間軍記」春秋二季種)外画多数、
[歌川芳春(;号)の通称/別号]通称;幾三郎、別号;歌川芳晴/一橘斎/一梅斎/一峰斎/朝香楼

- G4716 **義治**(よしはる・渡辺わたなべ、通称;善之助)?-? 江後期幕末期下総佐倉藩士/和算:菊池長良門、長良高弟6人の1、「円類五十好」著
- G4717 **良温**(よしはる・水田みづた、号;志道)?-? 江後期関流和算家/樋口流測量術を修学、1851-2(嘉永4-5)「自答解術」、「算法雑題」、「関流算法草術容術」著
- M4730 **嘉治**(よしはる・亀山かめやま、)1840-1865**26** 下野安蘇郡佐野船越村の国学者;平田鉄胤門、勤王の志士;水戸の天狗党に参加;各地転戦、1864水戸浪士達800人と信濃飯田から駒場で民宿;引き返し梨子野峠越えで木曾へ、のち1865(元治2)武田耕雲斎らと金沢藩に捕縛;処刑(斬首)、歌人、[八束穂のしげる飯田のあぜにさへ君につかへる道はありける](飯田今宮休憩時の詠)[嘉治(;名)の通称/号]通称;東吉/勇右衛門、号;真柁廼屋まがじのや
- K4729 **嘉晴**(よしはる・石井いひ)1847- 1920**74** 江戸の料理人;代々幕府公式行事料理頭取8代目、1860(万延元)「諸家調進献立」著
[嘉晴(;名)の通称/法号]通称;治兵衛8代、法号;浄心院
- | | | | |
|-------------|---|------------------------|-----------|
| 可春(よしはる・矢倉) | → | 可春(かしくん・矢倉やくら、俳人) | S 1 5 7 0 |
| 好春(よしはる・前田) | → | 葉庵(ようあん・前田/玉野、藩儒/医者) | 4 7 5 5 |
| 良春(よしはる・松本) | → | 柳斎(りゅうさい・松本まつもと、国学者/歌) | E 4 9 0 3 |
| 吉春(よしはる・加舎) | → | 白雄(しろお・加舎かや、俳人) | 2 2 1 4 |
| 吉治(よしはる・前田) | → | 吉徳(よしのり・前田また、藩主/書翰) | F 4 7 8 2 |
| 良温(よしはる・八角) | → | 穆斎(ぼくさい・八角やすみ、藩医/国学/歌) | D 3 9 1 8 |
| 由晴(よしはる・高島) | → | 由晴(ゆうせい・高島たかばたけ、歌人) | G 4 6 2 8 |
| 宜珍(よしはる・上田) | → | 宜珍(ぎちん・上田/滋野、国学者/地誌) | F 1 6 8 7 |
| 義治(よしはる・仁木) | → | 道智斎(どうちさい・二鬼島、商人/史家) | G 3 1 4 0 |
| 義治(よしはる・白井) | → | 巖(いわお・白井しらい/原、神職/国学) | K 1 1 3 2 |
- G4718 **慶彦**(よしひこ・松木まつき/本姓;度会わたらい、宜彦[宣彦]3男)1616-83 伊勢山田の神職、兄の伊勢外宮三禰宜広彦の継嗣;外宮神官/従四下/主計助、1678(延宝6)「白山奉納集」著、俳人;1633「犬子えのこ集」822(;慶彦けいげん)、[枝ながら青梅漬つやつぼのうち](犬子集;三822/坪庭と壺を掛る)、[慶彦(;名)の通称] 主計かざえ
- G4719 **佳彦**(よしひこ・亀田かめだ/本姓;度会、松木有彦男)1703-74**72** 亀田末富の養子;外宮禰宜/正四上、播磨に没、「総位階記」著、[佳彦(;名)の別号/通称]別号;末勝、通称;鍋松/鍋之助/松之助/主膳/善左衛門/内記/求馬/藤次郎
- M4711 **吉彦**(よしひこ・加藤かとう、)1762-1835?**74?** 能登鳳至郡の酒垂神社12代宮司、1797(寛政9)国学;本居宣長門/宣長蔵書を書写、歌;「古事記頒題歌集」入、「千尋の浜草」著(;鈴屋入門旅日記);能登帰郷に当たり[千尋の浜草]の入歌;[けふはかくわかるる君を悔しくも能登の嶋山の上にぞ思ひし](宣長の餞別歌)[わかれても又かえりこん松坂に千代もと祈る君しいませば](吉彦の返歌)[吉彦(;名)の通称/号]通称;上野介、号;鰯子か/あふち
- G4720 **義彦**(よしひこ・齋藤さいとう/荒船)1785-1841**57** 武蔵秩父長留村の:蘭田筑前門、幕府神道方役人を勤める、歌人;「三禊舎歌集」「天仁遠波歌」、「神路初山」「三術神書」、1811「臥竜山宮伝記」23「六根清浄祓或問抄」34「御嶽菅笠」42「今物語国之頭」外著多数、[義彦(;名)の通称/号]通称;淡路正、号;三禊舎さんけいしゃ/愚老斎、神号;玉置霊社
- G4721 **義彦**(よしひこ・政田まさだ、号;烏有山人)?-? 江後期大阪の文筆家/李角(俳人1787-1816)の弟、1855伝記「浪速人傑談」著
- G4722 **義彦**(よしひこ・横山よこやま)1803-1873**71** 信州安曇郡高家村小海渡の国学・歌:藤木光好門、歌;1843京の香川景樹門、内山真弓と親交、1833(天保4)寺子屋を開;子弟教育、「東路の日記」「都路の日記」「櫟葉集」、1852「撰輯用字」著、[義彦(;名)の通称/号]通称;式之助、号;櫟園/四季
- G4723 **可彦**(よしひこ・陸くが) ? - ? 長門大津の医者、儒:京の西依成斎門、

医;賀川玄吾(子玄男)門、のち大阪で開業医、木村兼葭堂けんかどう異斎と交流、
1801「唐土名勝図会」著(：のち岡田玉山改作編刊)、1802「異斎捐因印譜」編/07「有の儘」著
[可彦(；名)の字/通称/号]字;士彦、通称;丈右衛門、
号;柳窓/東溟専愚/芳宜/重習堂/蒼紫園/游賞子/山林逸翁/済東陳人

- M4770 **義彦**(よしひこ・小泉こいずみ) 1814-1891 78 近江大津下北国町の国学者;村居眞師(まふつ、1807-63)門、
歌;[鴉のうみ]入、義文よしぶみ・義質よしただの父
- N4755 **侯彦**(よしひこ・関口せきぐち/野中、初名;定侯、富田礼彦2男) 1838-91 54 幕臣;飛騨高山住、国学者、
維新後;1869(明治2)南安曇郡初代郡長/81木曾郡郡長
良彦(よしひこ・岡田) → 確堂(かくどう・岡田おかだ、藩士/儒者) K 1 5 3 2
慶彦(よしひこ・松木/度会) → 慶彦(けいげん、度会わたらい、俳人) D 1 8 4 2
- Q4740 **能尚**(よしひさ・大江おおえ、) ? - ? 鎌倉南北期;廷臣;左衛門少尉、
歌人;1320元応二年八月十五夜月十首入、
[くれはてぬほどとおもふに山の端のしらむや月の光なるらん](十五夜十首;71)
[ふけぬればさすがにねやへいりぬれどつきに心は猶もありあけ](同;80)
- G4724 **良尚**(よしひさ・丹波たんば、清長男) ?-? 南北朝医者/廷臣;1355刑部大輔/58施薬院使、
連歌;菟玖波1句(591)入、
[祈る心はふたつともなし](菟;神祇591/前句;人毎に賀茂と八幡の神詣まりで)
- G4725 **義尚**(よしひさ・足利あしかが/本姓;源、8代將軍義政男) 1465-89 早世 25 母;日野富子、
1473(9歳)室町幕府9代將軍(1473-89在位)/征夷大將軍、75参議正四下/83従一位、
1487(長享元)近江六角高頼討伐のため出陣/88内大臣/89近江の陣中に没、
歌人;一条兼良門、幕府月次会歌会・詩歌合を主催/1482將軍歌合催/83「新百人一首」撰、
「清玉集」編(為広と共集)/1477-80「常德院殿詠草」80-89「常德院殿集」、「常德院殿百首」、
「足利義尚卿百首」「筆の枝おり」「武者百人一首」など著多数、
私撰集「撰藻鈔」編纂を企画したがその死により中絶、新菟玖波集4句入、
[義尚(；初名)の別名/法号]後名;義熙よしひろ、法号;常德院悦山道治
- G4727 **義久**(よしひさ・島津しまづ/本姓;惟宗、貴久の長男) 1533-1611 79 母;入来院重聡女、武将;従四下、
三位法印/1564修理大夫/66父より薩摩国守護職を受く、1572より九州有力守護を打破、
九州一円を配下に収める寸前;1587日向根白坂で羽柴秀吉に敗北/秀吉に帰順し薩摩安堵、
敗北の後薙髪;1595弟義弘の領地大隅富隈城に隠退/1604隼人城に移る、義弘・家久の兄、
家督は義弘男の家久が嗣ぐ、歌人;近衛前久門/古今伝授;細川幽齋より受、
連歌も嗜む;1587(天正15)玄旨と「何衣百韻」/90紹巴と「何人百韻」/95紹巴と「何木百韻」、
「竜伯公以呂波御歌」「竜伯公慶長十五年小根占公園林寺にての詠歌其他」著、
[年の矢の早咲きそむる梅が香に千里のこらず春は来にけり]、
[義久(；名)の幼名/初名/通称/号]幼名;虎寿丸、初名;忠良/義辰、
通称;又三郎/三郎左衛門尉、号;竜伯、法号;妙国寺存忠貫明
- G4728 **能久**(よしひさ・小早川こばやかわ、秀包ひでかね3男、元就の孫) ?-? 讃岐の兵法家;小幡景憲門;甲州流修学、
1646(正保3)高松藩主松平頼重の招聘;大番頭に就任/藩士に軍学を教授、
1657「翁物語」、「翁軍談」「小早川伝記」「老談記」著、
[能久(；名)の通称] 式部
- L4774 **可久**(よしひさ・臼田うすだ、旧姓;坂口) 1645-1690 46 備前岡山藩士;藩老日置家の家臣、国学者、京住
藤井懶齋・中本惕齋と交流、
[可久(；名)の通称/号]通称;五郎左衛門、号;畏齋
- G4729 **可久**(よしひさ・梶川かじかわ、具原存齋男) ?-1741 国学者;漢学にも通ず、和算に長ず、梶川に改姓、
1697(元禄10)「存齋遺集」編、「筑紫神社御縁起」著、貝原益軒の甥/弟重春は益軒の養子、
[可久(；名)の通称] 作右衛門
- G4730 **賞久**(よしひさ・賀茂/加茂かむ) 1715-1781 67 江中期神職;上賀茂神社禰宜/1771従三位、
1777正三位、「撰家神齋部類抄」著
- P4791 **嘉壽**(よしひさ・山根やまね、通称;三右衛門) 1717-79 63 近江彦根藩の御旗指、
歌人;[彦根歌人伝・鶴]入
- L4740 **好古**(よしひさ・井尻いり/本姓;源/旧姓;松島、) ?-1853 周防岩国の国学者、

- [好古(；名)の別名/通称]別名；義質よしかた/義方/長愛/承親、通称；増穂まほ/万谷二郎
- M4715 **善久**(よしひさ・狩野かのう、)1796-1876166 上野群馬郡の医者、
 国学；幕臣奈佐勝臯かつしか・栗原信充のぶみつ門、のち大坂住、
 [善久(；名)の通称/号]通称；太郎兵衛、号；雄斎
- L4748 **香古**(よしひさ・飯野いひの/旧姓；佐藤、)1803-187977 陸奥(岩代)耶麻郡五分一村の里正、
 国学・歌；野矢常方門、
 [香古(；名)の通称] 五右衛門
- M4702 **好古**(よしひさ・大山おおやま/本姓；藤原、)1804-5451 出羽久保田(秋田)の国学者；平田篤胤門
 [好古(；名)の通称] 与惣右衛門/隼人
- G4731 **好尚**(よしひさ・碧川みどりかわ/本姓；藤原、)1807-? 伊予新谷藩士/平田鍊胤の弟、
 国学；1822平田篤胤門、篤胤の太昊古暦法の伝を作る、1856「稽古要略」著、
 1857篤胤「大道惑問」校訂/序(；秘蔵の師遺稿を出版)、「三則私言」「三輪大義鈔」著、
 「神武沿革考」「窃慰冤魂」「鄭子産伝」著/「太皞古暦伝」補填、
 [好尚(；名)の通称] 卯之助/操之助
- L4715 **好古**(よしひさ・浅田あさだ、通称；万次郎)?-1870 江後期；筑後久留米の歌人；
 戸田藤蔭・渡忠秋(共に香川景樹門)門
- 04743 **良久**(よしひさ・野田のだ、通称；慶造、美陳よしのぶ[1770-1843]2男)?-1869 母；冬子(1777-1861)、
 伊予宇和郡矢野村の庄屋の生、国学・歌；二宮正禎門、妹豊子も歌人
 父 → 美陳(よしのぶ・野田のだ、庄屋/歌人) M 4 7 1 8
 母 → 冬子(ふゆこ・野田/森、歌人) I 3 8 6 0
- G4732 **芳久**(よしひさ・富永とみなが)1813-188068 出雲杵築大社の神職；代々出雲国造北島家に出仕、
 神道；幼児に千家俊信門/国学；本居内遠門/歌人；鴨川集・春草集に入集、
 維新後；出雲大社主典・権禰宜となる、「出雲風土記考」「出雲風土記問答」「出雲神社記」著、
 「出雲風土記名物図解」「出雲神社参解」「竜神湯あみ紀行」「活語麓のしるべ」「楯斎秘録」著、
 1851-53「出雲国名所歌集」56「出雲国三十六歌仙」58「出雲五十歌選」編、
 1860「天浮橋考」著外多数、尹久ただひさの父、
 [芳久(；名)の幼名/通称/号]幼名；愛之助、通称；多介知、号；楯斎じゅんさい/楯津じゅんしん
- G4733 **良壽**(よしひさ・及川おいかわ)1830-190778 陸中和賀郡の医者、古学；菊池正古門、
 眼科医；仙台の黒沢玄寿門/西洋医学；江戸の伊東玄晃門、
 帰郷し医を開業/傍ら国学・歌を子弟に教育、1866「出の森抄」、「桃廼舎集」著
 [良壽(；名)の別名/号]別名；恒信、号；一桃亭/桃廼舎もものや
- L4708 **義久**(よしひさ・高原たかはら、通称；四郎兵衛)?-? 江後期；美作英多郡上山村の歌人、
 歌；平賀元義門、1857-8大沢深臣「巨勢総社千首」入
- M4710 **嘉壽**(よしひさ・加賀美かがみ、旧姓；古屋)1835-8652 甲斐八代郡永井村の永井天神社神官、国学者
 長く途絶えていた永大神楽を再興を発起
- N4728 **義壽**(よしひさ・清水しみず、)1836-192388 信濃松本島内村大宮神社の神職、国学者、
 1882(明治15)「信濃英傑佐久間象山大志伝」著、
 [義壽(；名)の通称/号]通称；平内、号；芝石/残瓦ざんが
- 良尚(よしひさ・檜垣) → 貞蔭(さだかげ・檜垣/度会わたらい、神職/歌) H 2 0 8 8
 良久(よしひさ・片野) → 望翠(もうすい・片野かたの、商人/俳人) 4 4 5 7
 吉尚(よしひさ・小出) → 英輝(ふさてる・小出こいで、旗本/国学) I 3 8 2 1
 好古(よしひさ・井手) → 臨川(りんせん・井手いで、医者/儒詩/歌) K 4 9 5 9
 好古(よしひさ・仁井田) → 南陽(なんよう・仁井田、儒者/地誌) 3 2 4 8
 好古(よしひさ・貝原) → 耻軒(恥軒ちけん・貝原、儒/史家) E 2 8 0 5
 好古(よしひさ・樋口) → 碩果翁(せつかおう・樋口、儒詩/国学) E 2 4 0 9
 善久(よしひさ・樺山) → 玄佐(げんさ・樺山、武将/歌人) B 1 8 8 1
 義壽(よしひさ・木下) → 幸文(たかふみ・木下、歌人) 2 6 1 5
 義央(よしひさ・吉良) → 義央(よしなか・吉良、幕臣/赤穂事件) F 4 7 2 3
 可久(よしひさ・日原ひはら) → 一斎(いっさい・手塚てつか、儒者；闇斎学) H 1 1 1 8
 喜久(よしひさ・庄司) → 唵風(おんぷう・庄司しょうじ、俳人) R 1 6 1 4

- G4734 **義久二女** (よしひさのじよ・源みなもと、細川又三郎義久女?)?-? 鎌倉後期歌人、
細川義久女とすると;義久甥の頼種(義久の養子)の室となり頼行の母となるか?、
新後拾遺941、
[よしさらばよるは涙にまかせなん枕ならでは誰か知るべき](新後拾;恋941)
- G4735 **能秀** (よしひで・門司もじ/本姓;藤原、能重男?)?-? 室町期武将;周防長門守護大内政弘の家臣、
下総守、1480(文明12)筑紫の旅の宗祇を迎え連歌会を主催、新撰菟玖波集5句入、
「宗砌判五十番連歌合」1453(享徳2)書写の藤原能秀と同一説あり
- G4736 **義栄** (よしひで・足利あしかが、義維よしつな男) 1538-68³¹ 1568室町幕府14代将軍、
織田信長に追われ病没
- G4737 **義秀** (よしひで・竹俣たけのまた/保科、竹俣秀綱2男) 1626-74⁴⁹ 羽前米沢藩士;1645保科家を嗣ぐ/侍組、
1664藩主上杉綱勝急死に際し会津藩主保科正之を頼り奔走;吉良義央の子を藩主とする、
減封されたが藩は存続;幼主上杉綱憲の傳役、保科を憚り旧姓竹俣に復す、1668江戸家老、
当時の諸家七賢人の随一と称される、1673(寛文13)「北越武鏡」著
[義秀(;名)の別名/通称]初名;在澄/貞綱、通称;三十郎/勘解由
- N4727 **吉英** (よしひで・清水しみず、通称;丹波守) ?-1680 能登鹿島郡伊須流岐比古神社の祠官、国学
- G4738 **美英** (よしひで・西田にしだ) ? - ? 江中期上州高崎の郷土史家/俳人、
1755(宝暦5)「高砂砂子」著、
[美英(;名)の号] 風子/梨隆庵
- G4739 **吉英** (よしひで・小町谷こまちや、武兵衛長男) 1759-1811⁵³ 信濃伊那郡上穂村豪農/小町谷家の総本家、
歌人;澄月門/桃沢夢宅門;1798夢宅より二条家の伝授を受、伊那歌壇の中心的存在、
「吉英家集」著、養子;吉憲よしり(1782-1857)、吉胤(1809-35/早世27歳)の父、
[吉英(;名)の通称/法号]通称;武兵衛、法号;椿齡院、養子;吉憲よしり
- G4740 **芳英** (よしひで・牛山うしやま) ? - ? 江後期信州高島藩の家老千野兵庫貞亮の家臣、
千野兵庫が1782諏訪大助との争い後家老職確立;1821兵庫一周忌に芳英は主君を追慕;
1821兵庫一周忌追慕記「金洞君行実」著
- L4766 **美英** (よしひで・岩佐いさ/旧姓;湯浅、通称;清次郎) 1780-1839⁶⁰ 佐渡の歌人;海野遊翁門、
岩佐守中(相川の医者/遊翁門歌人;1795-1847)との関係?
- G4741 **慶英** (よしひで・篠原しのはら) 1785-1860^{76?} 信濃下水内郡柳原の武芸者:
刀槍術;川原正信・竹内一心門、一心流をおこす、鎌原桐山の推薦で松代藩出仕/のち帰郷、
書画・和歌・俳諧を嗜む/医術に通ず、「慶英漫筆」「地動説」「俳諧小集」「百花鳥画法」著、
[慶英(;名)の通称/号]通称;重右衛門、号;一心斎/鵲村けんそん
- K4787 **義栄** (よしひで・山名やまな/本姓;源、義矩男) ?-? 江後期;旗本/幕臣、歌人、
妻;辰(但馬村岡領主山名義方女)/養嗣子;義質、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[水の上によるべさだめぬ浮草のうきたる中はいかにさだめん](大江戸倭歌;恋1571)
- G4742 **義英** (よしひで・三好みよし) ? - ? 江後期石見鹿足郡日原の国学者;岡熊臣門、
1833植松茂岳の「天説弁」に反駁;「天説辨々」著、「椽下しょうか談」「天神寿詞節釈」著
[義英(;名)の通称/号]通称;鉄之助、号;栲之舎くぬぎのや主人
- K4766 **由英** (よしひで・篠崎しのざき) ? - ? 江後期;歌人、
歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[ささなきもふしなれてこそ聞ゆなれ竹の葉山の鶯の声](大江戸倭歌;春93/竹鶯)
- M4746 **芳秀** (よしひで・岸本きしもと、芳景男) 1821-1890⁷⁰ 備前御野郡三門村の雅楽家/神職、
家は代々備前岡山藩の雅楽家/雅楽;父門;1831(11歳)父の跡を継嗣;岡山藩の楽士
のち京都で宮中の楽頭安倍雅楽助から秘曲を伝授される、
維新後;雅楽と俗楽を融合させ吉備楽きびがくを創始、1883(明治16)黒住教の楽長
- 04731 **美英** (よしひで・新村にいむら、) 1822-1883⁶² 信濃筑摩群の医者、歌人;香川景樹門、
[美英(;名)の字/通称/号]字;杏齋、通称;竜司、号;瑞庵/寸竜/養真堂
- L4791 **善秀** (よしひで・尾中おなか、) 1838-1912⁷⁵ 周防佐波郡田島村の村長/国学者、
[善秀(;名)の通称/号]通称;卯三郎/忠三、号;不退庵
- M4739 **善英** (よしひで・木戸きど、通称;留次郎) 1842-69^{早世28} 近江蒲生郡の国学者;平田鉄胤門

吉栄(よしひで・岩松) → 益男(ますお・岩松いづまつ、神職/国学) N 4 0 8 5
 良秀(よしひで・吉井) → 良足(よしたり・吉井よし、神職/和学者) Q 4 7 0 0
 珍秀(よしひで・三善) → 珍秀(たかひで・三善、歌人) D 2 6 5 9
 義英(よしひで・内藤) → 露沾(ろせん・内藤、政栄、俳人) 5 2 0 6
 義英(よしひで・佐竹) → 義厚(よしひろ・佐竹さたけ/源、藩主/歌) K 4 7 5 1
 慶秀(よしひで・大坪) → 道禅(どうぜん・大坪、馬術) G 3 1 2 3
 芳秀(よしひで・山片/長谷川) → 蟠桃(ばんとう・山片やまがた、商人/実学) I 3 6 4 3

- G4743 **吉人**(よしひと・安部あべ) 781 - 838 58 平安期廷臣;正四下/中務大輔/式部大輔/宮内卿、836(承和3)治部卿、漢学者/詩人、和氣貞臣に老荘を授ける、経国集の撰者の1、経国;1首入
- G4744 **淑人**(よしひと・紀き、長谷雄2男)?- ? 948 存 平安前期廷臣/909(延喜9)左近衛将監/925従五上、河内守/伊予守/丹波守を歴任、紀淑望の弟、937「聖宝僧正伝」著/歌;古今集1034、[秋の野に妻なき鹿の年をへてなぞわが恋のかひよとぞなく](古今集;十九雑1034)、(妻なき身は恋の効かひ[代償]だったとひよ[鹿声の擬声]と泣く/恋の効の無さを歎く)
- M4726 **吉士**(よしひと・兼子かねこ、) 1803-1868 66 出羽田川郡の医者、庄内藩に出仕、国学修学、[吉士(;名)の通称/号]通称;三折、号;春園
- G4745 **義倫**(よしひと・小川おがわ、義局男) 1825-74 50 常陸那珂郡青柳村の神職;同村鹿島明神の祠官、皇典学;父門、1832(8歳)「三器集説」著、「旧事記国造考」「太政大臣撰関考」著、[義倫(;名)の字]子勇/士勇
- G4746 **栄仁親王**(よしひとしんのう/なかひと/さかひと/ひでひと、崇光天皇皇子) 1351-1416 66 母;典侍資子(庭田重資女)、伏見宮の祖(初代)、南朝入京の際退位させられた父は持名院統正嫡の栄仁の踐祚を希望、幕府は栄仁即位に反対;父没後領所をも没収/1398出家、琵琶の名手、歌人;1370-76百番歌合参加(:隠名信俊)、1406名所百番歌合判者/後崇光員百番御自歌合判者、伏見殿五十番歌合参加、1411「栄仁親王御記」16「大通院御集」、「栄仁親王御夢想記」著、新続古今集;6首(66/611/1218/1836/1874/2114)、[山がつの時ぞともなきすさびにもをりは忘れぬ春の早蕨](新続古;一春66)[栄仁(;名)の名号/法名/法号]名号;伏見宮、法名;通智(道智?)、法号;大通院
- G4747 **好仁親王**(よしひとしんのう・高松宮、後陽成天皇7皇子) 1603-38 36 母;中和門院藤前子(近衛前久女)、始め聖護院入/1612(慶長17)親王宣下/弾正尹/二品、1625高松宮の称号賜う;高松宮家の祖(初代)、書;定家流・近衛流を習得、連歌;昌琢/玄仲らと百韻数度、1630「高松様連歌留」著、「好仁親王詠桂光院四十九日追悼歌」著、「昌琢点仙洞御点取」著、1621(元和7)「夢想連歌」22「何木百韻」「初何百韻」等参加、[好仁(;名)の幼名/号/通称/一字名/法名]幼名;七宮/三宮、号;招月/不白、名号;高松宮、通称;永照院/花町宮、一字名;水/文、法名;濟祐、法号;永照院不白拈公
- 美仁親王(よしひとしんのう) → 美仁親王(はるひとしんのう、歌人) G 3 6 7 4
 義仁法親王(よしひとほつしんのう) → 義仁法親王(ぎにほつしんのう、箏/歌人) B 1 6 6 2
- G4748 **義平**(よしひら・源みなもと、義朝の長男) 1141-60 斬殺 20 武将;1155(15歳)叔父義賢を討つ;異名悪源太、のち平治乱で父に従い奮戦/敗れて美濃に逃亡;父没後単身上京;捕縛され斬られる、
- G4749 **良平**(よしひら・九条くじょう、兼実男/本姓;藤原) 1184-1240 57 母;藤原頼輔女、九条良経の猶子、廷臣;1204参議/38太政大臣/従一位/39出家、歌;1201千五百番歌合/05元久詩歌合参加、1213内裏詩歌合参加(;権大納言の時)/15内裏名所歌合参加、雲葉集入、勅撰19首;新古今(144/338)新勅(461)続後撰(493)続古(48/1327/1876)続拾(165)以下、[散る花のわすれがたみの峰の雲そをだに残せ春の山風](新古今;二144/千五百番歌合)、[良平(;名)の通称]醍醐太政大臣/醍醐入道前太政大臣、娘 → 良平女(よしひらのむすめ・九条、歌人) G 4 7 5 2
- G4750 **詮平**(よしひら・鳥居大路とりいおおじ/本姓;賀茂、上賀茂神主の為平男) 1552-1619 68 京上賀茂神社神官、従四下/上北面兼帯、権禰宜/大膳大夫、誠平の父、後陽成天皇・智仁としひと親王と連歌、1593九条植通より源氏物語相伝を受、連歌;1596-1601頃百韻多数、智仁親王(色/友輔)・佐方之昌ゆきまさと三吟;1596(慶長元)10-11月「何人百韻」「山河百韻」、「何袋百韻」「白河百韻」「何路百韻」「何人百韻」「一字露見百韻」、1612秀賢と和漢聯句、[詮平(;名)の通称] 治部卿

- M4768 **好平**(よしひら・小泉こいずみ、) 1740-1818 79 信濃筑摩郡岡田村の庄屋、
 国学・歌;荒木田久老ひさおゆ門
- G4751 **宜平**(よしひら・岡崎おかざき、宜陳よしのぶ男) ?-? 阿波徳島藩士;測量方、
 1808(文化5)伊能忠敬の四国測量の際に竹内武助名で助力、
 1844(弘化元)「阿淡両国絵図」(:父と共著)、
 [宜平(;名)の通称/変名]通称;夫左衛門、変名;竹内武助
- 04798 **良平**(よしひら・穂積ほづみ、通称;睦斎ぼくさい) 1774?-1834 60余歳 伊豆田方郡の国学者;竹村茂雄門、
 穂積豊平の一族
- L4764 **美平**(よしひら・入谷いりや、) 1805-1863 59 讃岐高松藩士、歌人、
 [美平(;名)の通称] 八郎太夫/円次郎
- M4741 **芳衡**(よしひら・木村きむら、旧姓;堀江) 1807-1880 74 美濃厚見郡の生/近江彦根藩に出仕、
 近江阪田郡住、歌;[鴉のうみ]入、
 [芳衡(;名)の別号/字/通称/号]初名;寛、字;士栗、通称;摂津、号;積翠/寛翁
- K4721 **楽平**(よしひら・らくへい・吉川よしかわ、名;季広/春信) 1816-85 70 尾張名古屋の国学者;植松有信門、
 富樫(鬼島)広蔭門、「国語教授式」編、
 [楽平(;通称)の号] 柿園
- L4710 **義平**(よしひら・溝口みぞぐち、通称;喜一) ?-? 江後期;美作英多郡山口村の歌人、
 歌;1857-8大沢深臣「巨勢総社千首」入
- P4704 **喜平**(よしひら・前沢まえざわ、通称;造酒みき太郎/号;芳園) 1842-1915 74 信濃伊那郡の国学者;
 国学・歌;鎮西清宣(杵の屋)門;尊皇思想
 由平(よしひら・前川) → 由平(ゆうへい・よしひら・前川まえかわ、俳人) D 4 6 6 8
 義平(よしひら・高橋) → 健蔵(けんぞう・高橋たかはし、書家) K 1 8 7 0
 義平(よしひら・井上) → 好春(よしはる・井上いのうえ、藩士/国学者) L 4 7 3 5
 義平(よしひら・森) → 光保(みつやす・森もり、国学者・歌人) K 4 1 8 1
- G4752 **良平女**(よしひらのむすめ・九条くじょう、通称;南御方) ?-? 鎌倉後期女房・歌人、良平(1184-1240)の娘、
 後嵯峨天皇皇后大宮院(藤原媞子)女房、大宮院女月下門院綜子内親王に源氏須磨を献上、
 小倉公雄と結婚;一女(従二位季子;後二条院乳母、従一位太政大臣洞院公賢の母)を出産、
 1273内裏に和歌を奉ず、勅撰5首;続古今(1095/1670)続拾遺(565/1001/1047)、
 [人しれぬ袖のみなどのあだ波はなのみさわげどよる船もなし]、
 (続古今;恋1095/醍醐入道前太政大臣女名)
 父 → 良平(よしひら・九条/太政大臣/歌人) G 4 7 4 9
 夫 → 公雄(きんお・小倉、中納言/歌人) D 1 6 8 0
 娘 → 公雄女(きんおのむすめ・小倉季子、歌人) D 1 6 8 1
- G4753 **義弘**(よしひら・大内おうち/本姓;多々良、弘世男) 1356-99 討死 44 武将;父生前から弟満弘と家督争、
 1381和解;紀伊・周防-豊前6州の守護、1389以降在京多く南北朝の和睦に尽力、
 対外貿易で富蓄積;兵力増強し幕府と対立/応永の乱勃発;1399. 12. 21和泉堺で敗死、
 歌人;新後拾遺(2首;691/1118)、連歌作者、
 [日数のみふるのわさ田の五月雨にほさぬ袖にもとる早苗かな](新後拾;雑春691)
 [義弘(;名)の幼名/道号/法名/法号]幼名;法師丸/孫太郎、道号;梅窓/秀山、
 法名;道実/弘実/有繫/道春/仏寛/仏実、法号;香積寺秀山仏実
- G4754 **義寛**(よしひら・斯波しば/本姓;源、義敏男) 1458-1514 57 戦国期武将:
 越前・尾張・遠江3国の守護;將軍足利義政の命で父義敏が廃され跡を義寛が継嗣;
 従五下治部大輔、再び義政の命で守護を廃される、のち將軍足利義尚に出仕、
 義尚の求めで代々の系譜事跡をまとめる;「斯波家譜」著、
 [義寛(;名)の幼名/初名/法号]幼名;松王丸、初名;義良よしけん、法号;正観音院
- G4755 **義弘**(よしひら・島津しまづ/一時羽柴、島津貴久男) 1535-1619 85 母;入来院重蘇女、義久の弟、武将;
 兄義久の九州制圧に協力/1587(天正15)羽柴秀吉に帰順;大隅領主を安堵、従五下兵庫頭、
 1592朝鮮出兵/95帰国/97再度出陣/98泗川新寨の戦で大勝;朝鮮の陶工を連行;薩摩焼祖、
 1600石田光成に与し関ヶ原で敗戦;桜島に蟄居/02井伊直政・本多正信の仲介で赦免、
 次子家久に家督譲渡、「忠平公御記」「惟新公自記」、「惟新様より利休へ御尋之条書」著、

[義弘(；名)の初名/通称/号/法号]初名；忠平/義珍、通称；又四郎、号；惟新、
法号；妙円寺自貞松齡

- G4756 **慶広**(よしひろ・松前まつまゑ/本姓；源、蠣崎季広男)1548-161669 母；河野季通女、1590豊臣秀吉の家臣、1592秀吉に随い肥前名護屋に出陣/93(文禄2)朱印状を得て蝦夷地支配権を得る、1599(慶長4)大坂で徳川家康に家譜・松前の地図を献上；松前に改姓、1615大坂夏陣に出陣、松前初代藩主；従五下/伊豆守・志摩守・民部大輔、連歌；1591紹巴より[宗祇初学抄]を贈与；以後紹巴の連歌に参加/1600紹巴と「何山百韻」、[慶広(；名)の幼名/通称/法名]幼名；天才丸、通称；新三郎、法名；海翁、法号；慶広院
- G4757 **可広**(よしひろ・蜂屋はちや/本姓；源、可長の長男)1614-7158 仙台藩士；藩主伊達忠宗に出仕；4百石、3代伊達綱宗の不行跡で隠居；4代綱村の時に伊達騒動発生；1671(寛文11)大老酒井忠清邸で取調べ；聞番として出仕、直後の原田甲斐刃傷事件で甲斐を討ち取る；屋敷中騒擾となり負傷し翌日没、「仙台世子傳蜂屋上書」著、可敬よしかの父、[可広(；名)の幼名/通称/法号]幼名；国太郎、通称；六左衛門、法号；勇妙院
- N4709 **義寛**(よしひろ・佐竹さたけ/東ひがし、高倉永慶ながよし4男)1625-7652 母；佐竹義重女、京の生、歌人；中院通茂門、出羽久保田の東家佐竹義長の養嗣；1641(寛永18)家督嗣；8代東家の当主；出羽岩崎藩主、[義寛(；名)の初名/通称]初名；永晴、通称；於七/七丸/山城
- G4758 **嘉寛**(よしひろ・門間もんま) ? - ? 江中期陸前仙台の医者；岡本一抱(1716没)の著で未完の「内経素問諺解」を1733(享保18)編纂/刊行、[嘉寛(；名)の字/号]字；道碩、号；松軒
- L4720 **芳博**(慶博よしひろ・朝山あさやま/本姓；勝部かつべ)1672-172756 出雲秋鹿郡佐陀大社祠官、[芳博(；名)の別名]別名；千別ちわき
- N4732 **好寛**(よしひろ・芝崎しばき/本姓；平、好高[1667-1733]男)?-1750 江中期；江戸の神職、父の神田明神祠官を継嗣、国学者；荷田春満門(父と同門)；上京し指導を受、好全よしのりの兄、[好寛(；名)の通称]通称；主税(父の称)/宮内大輔/大蔵大輔
- Q4746 **喜寛**(よしひろ・海老原えびはら、喜之男)?-1752 江中期；江戸町人/商家；下野屋、歌人冷泉家門、石野広通[霞関集]初撰本入、[延享三年冷泉為久卿七回御忌(1747年6月11日の歌会)に月に対ひて往事を談ず、影めでし言葉の露もふりし世を語るにつきぬ月のよすがら](霞関初撰)、[喜寛(；名)の通称]三郎左衛門
- G4759 **義太**(よしひろ・久留島くるしま、村上むらかみ義寄男)?-1757 父は備中松山藩士；中西正好門の和算家、松山藩水谷家断絶後に父浪人；改姓し久留島を称す、父と共に大阪住、のち江戸に出て和算を教授、1730磐城平藩主内藤政樹に出仕；同藩和算家松元良弼と親交、1747内藤家の日向延岡へ転封に随う/1754致仕；江戸住、将棋を嗜む/詰将棋の著作あり、1726「平方零約之術」著、「算梯草術」「弘益算梯」編、「久留島極数」「久氏三百解」「廉術」著、「久留島方陣之法田中洛書亀鑑」「背矢極限法」「久留島喜内詰手百番」「将棋妙案」、外著多、[義太(；名)の初名/通称/号]初名；寄太、通称；喜内、号；沾数/扇数せんす
- G4760 **慶弘**(よしひろ・明石あかし、貞弘2男)1704-6865 越前福井藩士；家学の武田流兵法家、1720兄正弘自殺により家は断絶；兵法を伝えるため5人扶持で招聘/1725二十五石5人扶持、1745百石に加増/藩主松平宗矩に兵法を講ず、兵法の門人千余人、教弘らの父、「管見録」「軍歌集」「原武問答」「武教要集」「雄鑑講解」「七書講解」著/「御直話」編、外著多数、[慶弘(；名)の字/通称/号]字；毅夫、通称；甚左衛門、号；栢堂
- G4761 **義弘**(よしひろ・根岸ねざし) ? - ? 江中期武州榛沢郡大塚村の地誌家、児玉郡・大黒郡の巡見録；1774(安永3)「武乾記」著
- P4793 **良啓**(よしひろ/たかひら・山村やまむら、旗本山村良考3男)1711-8676 本家山村良及の婿養子、良及は旗本で尾張藩士で7代信濃木曾領主(代官)、1746(延享3)養父隠居；家督継嗣、8代木曾代官/福島関守、良恭・良由(蘇門)の父、養女お登耶よや(香詮院)は田安宗武の側室、和学者、1781(天明元)隠居；良由が家督嗣、1786(天明6)没、

[良啓(；名)の字/号]字；子迪てき・士侗しとう、号；鮫山だざん

- L4724 **嘉寛**(よしひろ・朝山あさやま/本姓；勝部かつべ、)1713-7967 出雲秋鹿郡佐陀大社神主/国学者
[嘉寛(；名)の初名/通称]初名；正遺、通称；紋次
- G4763 **可弘**(よしひろ・黒瀬くろせ/本姓；度会、岡田経屋4男)1731-1820**長寿90** 伊勢度会神職；黒瀬家を嗣ぐ、
外宮権禰宜；大物忌父を勤める、「死穢考」著、田弘の父、
[可弘(；名)の通称] 凶書ずいよ/帯刀たてわき
- 04768 **能弘**(よしひろ・伴ばん、捨井平左衛門男)1756-1835**80** 母；木内みせ、近江志賀郡下坂本村の生、
木内石亭(奇石蒐集)の弟、1801(46歳)蒲生郡八幡の6代伴伝兵衛資光女くまの婿養子；
7代伴伝兵衛を継嗣、屋号；扇屋/晷表・蚊帳など商う老舗、町の総年寄に任命；名字帯刀、
1822-23(文政5)朱印状をめぐる領主と町衆の御朱印騒動に両者間の和解交渉に尽力、
以後；1825(文政8)八幡町は天領となり領主旗本朽木家は領地替えとなる、
歌人；[鳩のうみ]入、
[能弘(；名)の通称] 7代**伝兵衛**
- P4773 **美啓**(よしひろ・矢富やとみ、通称；平三郎)?-?明和(1764-72)頃没 石見美濃郡浜田藩領津田村の庄屋、
歌人；藤井梅子門
- G4764 **義広**(よしひろ・阿川あがわ) ? - ? 江後期寛政文政1789-1830頃伊勢安濃津の国学者、
故実家；1808(文化5)「武器考」「武器名目抄」16「小笠原流祝言伝書」17「武家六帖」著、
1823「松陰閑語」「松陰拾遺」著、「紀貫之系譜」「武家故実」「武門尚故」著、
[義広(；名)の通称] 玄蕃げんば/権助ごんすけ
- M4717 **候弘**(よしひろ・梶田かじた、字；良山)1762-1845**84** 伊予宇和島藩士；家老/国学者
- M4732 **義裕**(よしひろ・川地かわち、)1780-1872**長寿93** 越前福井藩士、
歌人；真宗本願寺派僧の千福寺祐可ゆうか門、
[義裕(；名)の通称] 又兵衛/柯亭
- 04754 **可博**(よしひろ・蜂屋はちや、通称；長蔵/号；双松庵)1808-38**31** 陸奥仙台藩の連歌師
- G4765 **喜広**(嘉広よしひろ・小川地おがわら、喜道男)1808-72**65** 伊勢宇治中之切の神職、
1858鏡石石津賀神社祝部/65内宮権禰宜；正六上、神道；平田篤胤門、画；狩野洞益門、
狂歌を嗜む、1829「命ひろひ」60「牛石日記」61「御神領用年中定例行事附諸雜記」著、
1864「御神領用日記下帳」著、「文政度八月十二日ヨリ九月七日マデ御遷宮用略抜書」編、
「正遷宮三別宮四別宮大麻内人勤役書記」著、外編著多数、
[喜広(；名)の通称/号]通称；主礼/平八郎/左門、号；眞々斎/可朝/竹園
- P4758 **賀弘**(よしひろ・室谷むろたに、賀世よしつぐ長男)1809-62**54** 大坂堂島の豪商室谷9代目、
和漢学；父門/詩歌人、賀親よしちかの兄、茶人；茶道石州流；磯村朗応門、
1843(天保14)大坂城修理に2万両献上、1862(文久2)没、
[賀弘(；名)の通称/号]通称；仁兵衛、号；吟松/三清
- G4766 **喜熙**(よしひろ・酒井さかい) ? - ? 江後期天保嘉永1830-54頃水戸藩士；1831進仕、
文筆家、1833「会津温泉記」47「浴那須温泉記」48「塩原温泉記」、「皇国総海岸図」著、
[喜熙(；名)の通称/号]通称；市之允いちのすけ、号；淑斎
- G4767 **美啓**(よしひろ・柴野しばの、梅沢円左衛門の末男)?-1847 父は加賀藩士大橋作之進の家人、
1825柴野吉左衛門の養嗣子、加賀藩士/地誌家；地理古跡に精通/測遠術；宮井安泰門、
1835河野通義みちよしとハレー彗星を観測/和算家として活動；小原時雍など門弟多数、
1841罪を得て禁牢/赦免されたが改易、「亀廻尾廻記」著、
[美啓(；名)の通称/号]通称；優次郎、号；方中
- K4782 **義寛**(よしひろ・平林ひらばやし)? - ? 江後期；歌人、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[羽切りて放ちし池の水鳥はよそにうつろふ友やうらやむ](大江戸倭歌；冬1227)
- K4751 **義厚**(よしひろ/よしあつ・佐竹さたけ/本姓；源、義和の長男)1812-46**35** 母；玲光院、出羽久保田藩10代藩主、
1815父没；家督継嗣/1824従四下侍従/38左少将、財政再建を試みたが海防など出費贈大、
貧民救済のため市場以外の商工業禁止令など制定、
正室；前田利幹女の鋭(松操院)、
歌；蜂屋光世「大江戸倭歌集」(1858刊)入、

[春きぬとかすみ流るる川づらにたえだえ残る岸のうすらひ](大江戸倭歌;28初春水)

[義厚(;名)の別名/通称]幼名;雄丸、別名;義恵/義英、通称;次郎/左近衛

- G4768 **好博**(よしひろ・竹村/武村たけむら)?-? 江後期但馬出石藩士/和算家:内田五観門、1854「対数表精解」著/58「地球経度里数表」編、「円理称平術補」編、「算法円理称平術」著、「異形同術解」「自約新術之解」「剩一朥一零約自約解」「両一零約解」著、外編著多数、[好博(;名)の字/通称]字;子学、通称;喜平太/啓介/次郎右衛門
- P4700 **吉啓**(よしひろ・堀内ほりうち、昌郷まささと[1791-1846]男)?-1867 伊予和気郡興居島郷士(庄屋)の家、国学・歌人;父門、勤王家堀内匡平まさひろ(?-1897)の弟、[吉啓(;名)の通称]達之進
- N4754 **善礼**(よしひろ・瀬見せみ、善隣よしちか男)?-1897? 紀伊日高郡江川村の国学者/歌人、国学・歌;熊代繁里・伊達千広門、善水よしみ(1813-92)の弟、[善礼(;名)の通称]弥兵衛
- N4789 **良寛**(よしひろ・民上たみのえ、通称;摂津)1821-9171 伊勢員弁郡の賀茂[鴨]神社社司、国学;平田鍊胤門、民上永隣ながちか(医者/1808-72)の一族?
- M4712 **吉啓**(よしひろ・加藤らかとう、)1823-189775 尾張名古屋藩士;御右筆、国学、[吉啓(;名)の字/通称]字;吉令、通称;文次郎
- P4753 **良広**(よしひろ・村木むらき、通称;善弥/号;芸堂)1823-9876 越後蒲原郡の国学者/神道;日野資徳門、維新後;教導職(宗教官吏)
- G4769 **良広**(よしひろ・中村なかむら/本姓;中臣、樋口秀惇4男)1824-7653 伊勢山田の生/中村善兵衛の養嗣子、書家;川上葆門/歌;足代弘訓門/誹諧も嗜む、1855(安政2)「撰社詣」著、[良広(;名)の通称/号]通称;勝作/政蔵/左右三/善兵衛、号;其桃、
- G4770 **良熙**(よしひろ・羽生はにゅう/堀川or萩原、江戸町医堀川舟席2男)1829-190577 江後期明治期の医者、一説;上州上福島の医者萩原道竜男、儒;朝川善庵門/鍼灸術;吉田秀哲門、漢方を習得、1852三河西尾藩医羽生良容よまさの養嗣子;西尾藩医/江戸詰;藩主松平乗全・乗秩の側医、1861江戸高輪東禅寺事件で負傷したイギリス人の救護に当る、1868西尾へ移住、藩の医学研修・治療所の済生館教授、私立知新学校開設;1888まで子弟教育、「随宜軒詩文稿」著/1832「済生館創建表」56「随宜軒雑記」65「瘡識」、「皮膚病附黴毒」、「婦人胎養考」「扁鵲倉公伝原解」「本草序例抄」著、[良熙(;名)の初名/通称/号]初名;汀、通称;水安8世、号;随宜軒
- P4775 **可広**(よしひろ・猪熊いのくま、通称;伊一郎)1829-1924長寿96 上野勢多郡の国学者、維新後;権少講義
- G4771 **義広**(よしひろ・逸見/辺見へんみ)1830-190475 相模大住郡大山の阿夫利神社の祠官、神道;1858平田鍊胤門、国学;1874権田直助門、「逸見氏記録」著、[義広(;名)の通称]辰五郎/民部/民衛
- N4734 **宜弘**(宜弘?よしひろ・柴崎しばさき、通称;隼人)1838-191275 江戸の生/武蔵荏原郡の氷川神社神主、国学;平田鍊胤門・三輪田元綱門、1892(明治25)京都豊国神社宮司/94貴船神社宮司、1897(明治30)日枝神社宮司/99(明治32)鶴岡八幡宮宮司;1902退任、
- M4784 **義寛**(よしひろ・古岩井こいわ、通称;彦八郎)1839-192183 信濃水内郡の国学者
- | | | | |
|----------------|---|------------------------|-----------|
| 良弘(よしひろ・井口) | → | 如貞(じよてい・井口いぐち、俳人) | C 2 2 8 1 |
| 良弘(よしひろ・平野) | → | 良弘(りょうこう・平野、鶴寿軒、俳人) | H 4 9 4 6 |
| 良弘(よしひろ・奥野) | → | 保悟(ほご;字・奥野おくの、歌人) | F 3 9 1 7 |
| 良弘(よしひろ・堀内) | → | 千稻(ちしね・堀内ほりうち、庄屋/商家/歌) | N 2 8 4 8 |
| 良熙(よしひろ・戸部) | → | 愿山(げんざん・戸部とべ、藩士/儒/地誌) | E 1 8 8 8 |
| 好裕(よしひろ・桃) | → | 筋山(せつざん・桃井/桃もも、藩儒和学) | E 2 4 3 9 |
| 叔弘(よしひろ・布施) | → | 胤毅(たねたけ・布施ふせ、幕臣/典故) | R 2 6 8 4 |
| 義寛(よしひろ・多田) | → | 義俊(よしとし・多田、神道/故実/浮世草子) | 4 7 1 8 |
| 義壽(よしひろ・木下) | → | 幸文(たかぶみ・木下、歌人) | 2 6 1 5 |
| 義浩(よしひろ・万代/梁田) | → | 天柱(てんちゅう・梁田やなだ、藩儒) | E 3 0 0 6 |
| 義博(よしひろ・最上/水原) | → | 三折(さんせつ・水原/最上、医者) | M 2 0 5 5 |
| 義熙(よしひろ・足利) | → | 義尚(よしひさ・足利/源、室町將軍/歌) | G 4 7 2 5 |
| 良熙(よしひろ・鷺見) | → | 東柯(とうか・鷺見すみ、儒者) | B 3 1 7 0 |

良熙(よしひろ・川田) → 喬遷(きょうせん・川田かわた、藩士/儒者) O 1 6 2 5
良熙(よしひろ・戸部) → 愿山(げんざん・戸部とべ、藩士/儒者) E 1 8 8 8
美啓(よしひろ・山口) → 厚菴(こうあん・山口やまくち、儒者/医/歌) H 1 9 2 4
美宏(可広よしひろ・富田とみた) → 徳風(とくふう・富田とみた、儒/国学) L 3 1 3 3

G4772 吉深(よしふか・石出いで/本多、三河譜代本多家の生) 1615-8975 江戸幕臣;

江戸牢屋奉行石出帯刀義長の養嗣子、1638義父義長没;小伝馬町の牢屋奉行を継嗣、
朱子学・神道;広瀬坦斎門、国学・歌・連歌を嗜む、
晩年は源氏物語注釈書を著述、1651「家光寵臣殉死之記」著/56「追善千句」編、
1664「石出常軒紀行」「処歴日記」/77「机右鈔」/1679-85「窺原抄」、「春雨抄」「昨木集」著、
[吉深(;名)の通称/号]通称;帯刀たてわき、号;常軒じょうけん、法号;日念

G4779 善淵(よしふか・北川きたがわ、正明男) 1779-185779 土佐藩士/1812家督継嗣;教授方下役、
御浦方/勘定小頭/白札格を歴任、歌学;安並雅景・田内眞鎮まげ門、1841「小船のゆき」著
[善淵(;名)の通称/号]通称;克五郎/左平/文丞、号;松屋/椿堂/萩の舎、法号;長山寿松

4725 良房(よしふさ・藤原ふじはら、左大臣冬嗣男) 804-87269 母;藤原眞作女美都子、
妻;嵯峨天皇皇女源潔姫、834参議/835権中納言/857従一位太政大臣、
858幼帝清和天皇即位に摂政;人臣摂政の最初、
842承和の変に皇太子恒貞親王を廃し妹順子所生の道康親王(文徳天皇)を皇太子に立つ、
850文徳即位に外戚とし権力把握/藤原氏の基盤を築く、惟喬親王を推す文徳天皇と対立、
女明子所生の惟仁親王(清和天皇)を立太子、866応天門の変に伴善男らを配流、
840「日本後記」870「続日本後記」編纂、849仁明天皇四十賀に興福寺僧に長歌を詠ます、
「大僧都空海伝」著、歌人;古今52、
[年ふればよはひは老いぬしかはあれど花をし見れば物思ひもなし](古今;春52)、
(染殿[明子]が花瓶に桜を挿すのを見て詠む/前太政大臣さきのおほきおほいまちぎみ名)、
[良房(;名)の通称/諡号]通称;白河殿/染殿、諡号;忠仁公

G4773 義総(よしふさ・畠山はたけやま、慶致男) 1491-154555 戦国期能登の武将、能登守護/七尾城主、
1506能登畠山5代当主の父が隠居;追放されていた4代義元が6代目として復帰、
義総は義元の養子となり能登を共同統治;一向一揆鎮圧、1515義元没;家督嗣;7代当主、
1525まで父と共同統治/七尾城を築城、能登畠山の全盛期となる;文化人を養成、
戦乱を逃れた公家・連歌師・商工人を保護;城下は繁栄、歌人;冷泉為和と贈答、
近衛尚通より古今伝受、1525三条西実隆に源氏物語注釈の執筆を依頼(のちの「細流抄」)
[義総(;名)の通称]次郎左衛門佐/修理大夫

M4772 吉英(よしふさ・小出こいで、小出吉政の長男) 1587-166680 母:長春院(伊東治明女)/大坂の生;
秀吉の従甥、1593(文禄2/7歳)従五下/右京大夫、1604(慶長9)家康命で父が岸和田に移動、
代りに但馬出石藩6万石を所領;幕命で叔父三尹に1万石を分知(和泉陶器藩を立藩)、
出石城築城/1612大和守、1613(慶長18)父没;家督継嗣;岸和田に移住;出石は弟吉親が嗣、
和泉岸和田藩3代藩主;和泉国大鳥郡・日根郡・但馬養父郡・気多郡・美含郡の計5万石領す、
1614大坂陣で徳川方に参戦;戦功、1619(元和5)出石の旧領へ移封;出石藩4代藩主、
但馬5郡5万石、弟吉親は丹波国園部藩立藩、吉英は家督を次男吉重に譲渡、和学者/歌人、
1633/37幕命で松江城を警備、1638(寛永15)高野山大塔を造営/63出石郡矢根銀山を賜う、
正室:貞松院(1591-1664/ヨウ;保科正直女/家康の養女)、長男早世・次男吉重(1607-74)、
[文月廿日夜雁を聞きて

ためしにも書きつたふべき文月のはつかの夜半のはつ雁の声](茂睡[鳥の迹]秋391)、
[吉英(;名)の通称]通称;右京/右京大夫/大和守、法号;雪江院

G4774 芳房(よしふさ・朝山あさやま/本姓;勝部かつべ、朝山吉成2男) 1672-172756 出雲秋鹿郡神職;

代々出雲佐陀大社祠官、家職を継嗣;従五下、神道;白井宗因門、
歌人;入江相尚・荒木田経晃門、「佐陀神社神職根源」「神代始言吹草」「神道異流弁」著、
「佐陀大社奉納和歌」「八雲神詠口訣」「大神楽儀式帳」「佐陀大社勘文」「神璽口訣」著
[芳房(;名)の通称/号]通称;十三郎、号;凝島軒/朝散大夫

G4775 よし房(よしふさ・藤本ふじもと)?- ? 歌人、

1823(文政6)家集「於比濃佐知おいのさち」著(;耳順詠60首/還暦賀詠61首の歌など)

- L4798 **義房**(よしふさ・大野わかおの) 1800- ? 近江彦根藩士/国学・歌人;山本昌蔭門
[義房(;名)の通称] 三郎介
- G4776 **芳房**(よしふさ・歌川うたがわ) 1837-1860**早世**24 絵師:歌川国芳門、安政1854-60頃合巻挿絵を描く、1836-「いろは文庫」39-68「児雷也豪傑譚」59「仮名手本忠臣蔵」、「八犬伝」「松の花」外画多、
[歌川芳房(;号)の通称/別号]通称;大次郎、別号;一宝斎、法号;速入信士
- G4777 **喜房**(よしふさ・平野ひらの) ? - ? 尾張名古屋藩士/和算家;御粥安本門、名古屋に成文塾を開く;子弟を教授、1861「算法額面解」「方内三斜整数別術」著、1863「浅致算法」著、「写角形法」「測量三斜適等」編、「浅致算法解義」外著多数、
[喜房(;名)の字/通称/号]字;子泉、通称;万一郎、号;意山
- 04723 **義芳**(よしふさ・中村なかむら、) 1809-1891**83** 近江神崎郡の国学者・歌;小原君雄・大橋長広門、
[義芳(;名)の字/通称/号]字;蘭夫らんぶ、通称;弁吾/弁造/榎造べんぞう、
号;時習齋/桂屋/瀬石らいせき/榎戸
- 能房(よしふさ・神戸) → 良政(よしまさ・神戸かんべ、軍記作者) G 4 7 9 9
義房(よしふさ・宮原) → 竜山(りゅうざん・宮原みやはら、藩儒) E 4 9 1 9
義房(よしふさ・岡村) → 義比(よしちか・岡村おかむら、藩士/詩/書) E 4 7 5 1
義房(よしふさ・岡田) → 春燈齋(しゅんとうさい・岡田おかだ、銅板画) L 2 1 6 5
- G4778 **芳藤**(よしふじ・歌川うたがわ/姓;西村) 1828-87**60** 安政明治1861-87頃江戸の絵師:歌川国芳門、横浜絵、1826-28「婦女今川」30「由佳里の梅」40-41「清談松の調」53-54「恋衣八丈振袖」、「渚談若緑」「珍説千代嶺」「心学穴さがし」「秋色紋朝顔」「嵯峨の仮寐」外画多数、
[歌川芳藤(;号)の通称/別号]通称;藤太郎、別号;歌川よし藤/一鵬齋
- 義藤(よしふじ・足利) → 義輝(よしてる・足利あしかが、室町将軍) E 4 7 8 0
善淵(よしふち・北川) → 善淵(よしふか・北川きたがわ、藩士/歌人) G 4 7 7 9
- G4780 **良舟**(よしふね・中臣なかとみ/大中臣、智治磨男) ?-? 平前期廷臣;文章生/正六上、良楫よしかじ・老演の兄、
詩人:経国集入
- G4781 **淑文**(よしふみ・紀き、宣親男) 1242- ? 1290**存** 母;大和法眼親乗女、鎌倉期廷臣;1255上北面、1266従四下/73停任、74(文永3)還補/1276従四上/1284(弘安7)紀伊国造を賜る;国司、日前国懸宮ひのくまくにかかすのみや宮司、「雨珠記」著、歌人:藤葉集2首入、勅撰5首;続拾遺(1452)新後撰(836)続千載(819)風雅(765)新千載(2242/1817詞書)、
[ふりにけるみかきにたてる松がえにいく代の風の神さびぬらん](続拾;神祇1452)、
[残りつる峰の日影もくれはてて夕霜寒し岡のべの里](藤葉;冬322)
- N4769 **嘉文**(よしふみ/よしぶみ・高尾たかお、本姓;今井) 1584-1664**81** 江戸の幕臣;切手御門番頭、和学、元は甲斐武田家の氏族で今井家、高尾と改姓;徳川秀忠に出仕;大阪の陣に従軍;3百石、
[嘉文(;名)の通称/号]通称;惣十郎/惣兵衛、号;孤雲
- L4773 **好文**(よしふみ/よしぶみ・上田うえだ) 1729-1767**39** 和泉堺の国学者、
[好文(;名)の別名/字]別名;書、字;阿直阿
- G4782 **芳文**(よしふみ/よしぶみ・松会まわえ) 1741-1813**73** 下野の書家、詩;安達清河門、のち江戸両国同朋町住;書を以て業とす、「平陵詩稿」「仮字考」「草書類彙」「墨君堂集」著、「臨池警語りんごじ」「書則」著/1786「平陵先生書諭」著、
[芳文(;名)の字/通称/号]字;子言、通称;善三郎/三四郎、号;平陵
- M4753 **令文**(よしふみ/よしぶみ・日下部くさかべ、) 1750-1819**70** 近江彦根藩士/国学、
[令文(;名)の通称/号]通称;内記/三郎右衛門、号;古扇/壺仙
- N4742 **良史**(よしふみ・菅すが、本姓;菅原、良彦男) 1786-1857**72** 伊予松山藩士;家老、良弼の父、国学者、
[良史(;名)の別名/通称/号]別名;正徳、通称;**五郎左衛門**/藤九郎/保輔/隼人、
号;南台
- 04720 **宜文**(よしふみ・中村なかむら、) 1800-1853**54** 飛騨高山の国学者・歌;田中大秀門、
[宜文(;名)の通称/号]通称;善兵衛、号;石園
- P4734 **好文**(よしふみ・翠川みどりかわ、) 1804-1887**84** 信濃小県郡中山道の和田宿の駅吏、
国学・歌;海野うんの遊翁門、
[好文(;名)の通称/号]通称;府右衛門、号;水翁

- G4783 **義文**(よしぶみ・倉鹿野くらかの) ?- ? 江後期天保1830-44頃江戸の与力/歌人、1841(天保12)「拾玉集」著、息女連女も歌人、堀尾光尚「近世名所歌集」に娘と共に入集、長野美波留「筆のすさみ」を評論、
[義文(;名)の通称] 左兵衛/助左衛門
- 04786 **良文**(好文よしぶみ・藤井ふじい、) 1824-189471 備後福山藩士、城下の長者町の絵師、14歳で藩命で絵師の加勢;高田杏塙・吉田東里門、国学・歌;大国隆正・松本良遠門、京で円山派の中島来章門、1865帰藩;阿部正弘の御絵師/奥坊主/奥坊主頭/茶道兼役見習、勘定所詰兼御絵師、廃藩後;内国勸業博覧会で名声、
[良文(;名)の幼名/字/号]幼名;小助、字;士郁、号;松林/清遠/百齋/望鯨環水
- L4735 **喜文**(よしぶみ・井上いづえ、淑蔭男) 1828-189467 武蔵入間郡の農業/国学者/歌人;父門、[山遠く尋ね尋ねてさくらばな帰る麓にたをりぬるかな](道不遠人といへる心を)、
[喜文(;名)の別名] 亮吉/亮喜
- M4771 **義文**(よしぶみ・小泉こいずみ、義彦男) 1834-192087 近江大津下北国町の国学者;父門、義質よしたの兄、歌;[鴉のうみ]入
- P4744 **良文**(よしぶみ・宮下みやした、穂垂ほたり男) 1845-190965 信濃伊那郡の国学者/歌人;
国学;平田鍊胤門/歌;片桐源栄門、
[良文(;名)の初名/通称/号]初名;楠実/穂波、通称;竹之助/楠之進/平右衛門(父の称)、号;南木/眞弓廼舎/松僊
好文(よしぶみ・田中) → 止邱(止丘しきゅう・田中/田、儒者) B 2 1 5 8
佳文(よしぶみ・樋口) → 大種(おおたね・樋口ひぐち、国学者) E 1 4 0 7
- G4784 **良冬**(よしぶみ・二条にじょう/本姓;藤原/家名;今小路、兼基男) 1322-? 1370存 鎌倉南北期廷臣;1340従三位/53権大納言/69従一位;出家、歌人;1366年中行事歌合/67新玉津島歌合参加、勅撰4首;新千(1301/2085)新拾(573/1833)下、菟玖波3句入、良基の叔父、基冬の父、
[うちもぬぬわが通ひぢの関守はただうき人の心なりけり](新千載;恋1301)
- G4785 **吉冬**(よしぶみ・松村まつむら) ?- ? 江後期伊勢山田の国学者、荒木田久老追慕会の中西興波・檜垣常安・檜垣貞樹らの歌を論難;
「五十槻園追慕会歌難論同評」著、
[吉冬(;名)の通称] 予助
参考 五十槻園(いつきのその)→ 久老(ひさおゆ・荒木田) 3 7 0 5
- G4787 **好古**(よしぶみ・矢田やだ/本姓;源) ?-? 江中期坊官;天台座主公弁親王の諸大夫、長門守、1712(正徳2)「日光山八景詩集」編、「大明院宮御年譜」著、
[好古(;名)の字] 孟敏
- 04779 **義古**(よしぶみ・平栗ひらぐり、初名;忠穀/通称;才兵衛) 1766-184681 信濃伊那郡座光寺家家臣、国学、座光寺家は交代寄合旗本
- L4738 **良古**(よしぶみ・井岡いおか/旧姓;松沢/号;柴垣さいえん) 1791-184959 信濃筑摩郡の神職、国学;上田宜珍門、信濃高遠鉾持神社祠官;高遠藩儒中村元恒と鉾持神社に鉾持文庫設置、足利学校に倣い漢籍中心に史書・経典・小説などを収集/研究者に提供;のちの高遠文庫
- M4745 **美振**(よしぶみ・菊池きくち、) 1820-188970 伊予風早郡の三島神社神主、国学者、
[美振(;名)の通称] 五十鈴/中務之丞
- N4787 **好古**(よしぶみ・玉井たまい) ?- ? 紀伊牟婁郡の旅館業/国学/歌
- 04788 **好古**(よしぶみ・藤岡ふじおか、旧姓;青山) 1846-191772 江戸浅草の生/国学・神道・歌;堀秀成門、1872(明治5)教部省に出仕/神職;田島神社神官/生国魂神社禰宜、皇太神宮神官、1888(明治21)神宮教大教正/1897(明治30)神宮教管長/99神宮奉斎会会長、1912(大正元)神宮神部署主事/15東京府神職連合会会長、
「校訂音義全書」編/「国語と靈魂」著(神社教会雑誌入)
好古(よしぶみ・小野) → 好古(こうこ・よしぶみ・小野、廷臣/純友追捕/歌) 1 9 0 9
好古(よしぶみ・橋) → 好古(こうこ・橋たぢばな、廷臣/歌人) I 1 9 7 0
好古(よしぶみ・よしひさ・貝原) → 耻軒(恥軒ちけん・貝原、儒/史家) E 2 8 0 5
好古(よしぶみ・樋口) → 碩果翁(せつかおう・樋口、儒詩/国学) E 2 4 0 9
好古(よしぶみ・仁井田) → 南陽(なんよう・仁井田、儒者) 3 2 4 8

- G4788 **好古女** (よしふるのむすめ・小野おの、女房名;野内侍)?-?995前に没 一条摂政藤原伊尹と恋の贈答歌:
「一条伊尹御集」入、後撰集732、
[東路あづまにゆきかふ人にあらぬ身はいつかは越えん相坂あふさかの関](後撰;恋732/返歌)、
(贈歌伊尹;731人知れぬ身はいそげども年をへてなど越えがたき相坂の関、
人知れぬ身はあなたに認められない我が身/あせっても久しく逢えないのはなぜ)
- G4789 **由平** (よしへい・比良野/平野/ひらの)?-? 江中期歌舞伎作者;1742京の坂田座の助作者、
1748(寛延元)まで作者活動、1742「倭文娥雛形/46「富館鸚鵡辞」/47「けいせい布弾桜」著等
由平(よしへい・大岡) → 馬丹(ばえん・一峯齋、絵師) C 3 6 4 1
由平(よしへい・大和屋/磯野) → 文斎万陀伎(ぶんさいまだき、書肆/絵師) F 3 8 3 2
- G4790 **与次兵衛** (初世よじべえ・荒木あき、斎藤与五郎男) 1637?-? 大阪の歌舞伎役者;立役/座本、
当狂言;「非人敵討」著
与次兵衛(よじべえ・茶屋) → 昌房(まさふさ・磯田、俳人) H 4 0 1 0
与次兵衛(よじべえ・越前屋) → 巨石(きよせき・関本せきもと、学者/俳人) P 1 6 7 3
与次兵衛(よじべえ・笹屋) → 如髪(じはつ・関本、巨石の養子/俳人) M 2 2 7 7
与次兵衛(よじべえ・古海) → 正顕(まさあき・宇都宮うつのみや、庄屋) N 4 0 9 0
与次兵衛(よじべえ・小津) → 長澄(ながすみ・小津おつ/筒井、国学者) L 3 2 4 0
与次兵衛(よじべえ・永原屋) → 眞澄(ますみ・吉住よしずみ、商家/歌人) T 4 0 6 8
与二兵衛(よじべえ・今西) → 正盛(まさもり・今西いまにし、俳人) I 4 0 0 0
与二兵衛(よじべえ・武谷) → 成章(しげあき・武谷たけや、医者/詩人) Q 2 1 4 6
- M4786 **美穂** (よしほ・児玉こだま、) 1799-1881 83 讃岐高松の国学者、
[美穂(;名)の別名/通称]別名;葆光、通称;みを
- 4727 **美穂** (よしほ・八木やぎ、美庸よしの長男) 1800-54 55 遠江小笠郡三浜村浜野村の大庄屋の生、農業、
1811中泉村の廉屋伊左衛門方で商業を学ぶが適さず/漢学・仏典;貞永寺大肅和尚門、
書;八島喜典門/国学・歌学;1819夏目甕磨門/国学者として研究を深める、1823浜野村里正、
1845遠江横須賀藩に招聘;土籍に列す/歌道・和漢学の侍講、1850横須賀藩藩学問所教授長、
「雲聚玉蔭」「続日本紀考」「万葉集略解補闕」「長歌私編」「磯の松」「中林ちゅうりん詠草」著、
「史記録」「文選抄」「論語註解」「仮字袋かなぶろ」「万葉集端詞例」「子弟訓」「八木日記」外著多、
美樹よきの父、草鹿砥宣隆・大久保忠尚・滝口房規の師、
[美穂(;名)の幼名/別名/通称/号]幼名;金松/林之助、別名;美穂、通称;金兵衛/太郎左衛門、
号;中谷(父の号)/中林/陽西成/誦習庵、法号;中林美穂居士
- G4791 **良穂** (よしほ・村田むらた、名;道直) 1828-84 57 安藝広島の国学者/初め経義;坂井虎山門、
皇典;片山保人[行義]門/国学;大国隆正門、1868広島藩校修道館皇学教授、
1875厳島神社禰宜、「神代のときこと」編、
[良穂(;通称)の別通称] 為蔵/元蔵
- 04704 **良穂** (よしほ・富田とみた、初名;有恒/通称;鉄吉) 1848-1925 78 三河豊橋吉田藩士、国学;平田鍊胤門、
国学;歌;中村良顕門、弥彦神社権禰宜
吉穂(よしほ・山田) → 武磨(たけまる・山田やまだ、神職) 2 7 1 6
- G4792 **宜麻** (よしま・細井ほそい) ? - ? 江中期三河赤城の町役/勸農家;農業振興に尽力、
1785「農業時の栗」著、
[宜麻(;名)の字/通称]字;子逢、通称;紅葉屋孫右衛門
- G4793 **能正** (よしまさ/よしただ・源みなもと、兼忠[貞元親王男]男)?-? 平安前期天暦947-77頃廷臣;従四上、
右近少将/皇太后宮亮、藤原高光と交流、歌人;977(貞元2)三条左大臣頼忠殿前裁歌合参加、
菟玖波集1句入、
[草むらになきあかす虫のおのがじし長き夜をこそおもふべらなれ](頼忠前裁合;52)
- G4794 **義政** (よしまさ・北条ほうじょう/本姓;平、重時男) 1242-81 40 鎌倉幕府武将;従五上/左近衛将監/駿河守、
1273武蔵守/鎌幕府執権連署、1277出家;所領の信濃塩田荘に退隠;没、
歌人;1261宗尊歌合参加、勅撰9首;続古今(1587)続拾(521/877/1255)新後撰(1222)以下、
[いつまでと心をとめてありはてぬ命まつまの月を見るらん](続古今;雑1587)、
[義政(;名)の初名/通称/法名]初名;時景/時量、通称;陸奥六郎/塩田入道(;出家後)、
法名;政義/道義/通義、長時・時茂の弟/忠時の兄、時春・国時の父

- G4795 **良尹**(よしまさ/よしただ・月輪つきのみ/本姓;藤原、良兼男)?-? 鎌倉末南北期の廷臣;四位左少将、歌人;1330(元徳2)「北野宝前和歌」参加、続現葉集入、新拾遺1347、
[ははそ原うつろふ色をつらしとも誰にいはたの杜の下露](新拾遺;恋1347)
[すぎにけるむかしをとへばふるさとかはらずにほふ軒の橘](北野宝前歌;夏18)
- G4796 **義将**(よしまさ/よしゆき・斯波しば/本姓;源、高経4男)1350-141061 南北室町期武将;1362-66幕府執事、越中守護/1379-91・94-98幕府管領;将軍足利義満を補佐/室町幕府の基礎確立に功績、正四下/治部大輔/左衛門佐/右衛門督、1395(応永2)義満出家に伴い薙髮;管領は継続、1409将軍義持により三度管領となる;幕府・将軍家に対し絶大なる影響力を持つ、禅宗に帰依、武家歌壇の後援者/雅楽・画を嗜む、1383「竹馬抄」著、歌人;1387浄阿奉納[隠岐高田明神百首]6首出詠、勅撰13首;新後拾遺(7首184/453/552/643/1235/1313/1332)新続古(6首155/440以下)、
[ただ人の心はつかひやうによりて よくもなり あしくもなり
利根りこん(利口)にも鈍にもなるべきなり](竹馬抄)、
[山里に去年こぞまで聞きし時鳥都に待つといかで知らせん]、
(新後拾;夏184/待郭公、左大臣義満家の歌会にて;三首歌)
[義将(;名)の通称/号]通称;勘解由小路殿/玉堂、号;雪溪、法号;法苑寺道将
- G4797 **義政**(よしまさ・足利あしかが/本姓;源、義教男)1436-9055 母;裏松[日野]重光女の重子(観智院)、1449室町8代将軍(1449-73在位)/征夷大將軍、参議/従四下/1453従一位/内大臣、1460左大臣、義勝の弟、義視の兄、妻;日野富子、義尚(9代将軍)の父、養子の弟義視よみを疎じ応仁乱の原因となる、1473息子義尚に将軍職を譲渡、のち風流の生活に耽る;東山文化の中心人物、慈照寺銀閣を建立・五山禅僧を重用、書画・歌・能楽・茶湯・造園を愛す、正徹に源氏物語を進講させる、1462-85「源義政集」、「義政公記」「義政百首」「慈照院殿義政公御集」外著多数、連歌;1458「山何百韻」64「将軍家百韻」68「山何百韻」84「何人百韻」参加/新菟玖波28句入、[義政(;名)の幼名/初名/通称/法号]幼名;三寅/三春、初名;義成よしげ、通称;東山殿、法号;慈照院喜山道慶
- K4797 **義昌**(よしまさ・木曾きそ/本姓;藤原、義康長男)1540-1595or9656-57 戦国期武将;信濃国木曾谷領主19代当主、左馬頭、伊予守、1555武田信玄の信濃侵攻に降伏;信玄女を娶り親族衆として木曾谷を安堵、上松義豊・岩姫の兄弟、妻;武田信玄3女の真理姫(真竜院)、千太郎・義利・義春・義通・毛利高政正室の父、1560(永禄3)御嶽山に登拝、信玄没後勝頼の政策に不満;1582織田信長に従い勝頼に離反、信長の下で信濃を支配/信長没後信濃は支配権を巡り混乱/家康・秀吉・家康と離反・従属、1590(天正18)家康の関東移封により木曾谷を退き1891下総国阿知戸1万石に移動、没年に3説/義利が家督嗣、
[義昌(;名)の幼名/法号]幼名;宗太郎、法号;東禅寺殿玉山徹公大居士
- M4704 **義政**(善政よしまさ・岡田おかだ、善同よしかつ男)1605-7773 幕臣;美濃の旗本;1631(寛永8)父を継嗣;美濃代官(美濃郡代);大野郡2百石領す/造神宮奉行;1634(寛永11)近江多賀神社造営、1658(万治元)伊勢内宮造営奉行/勘定頭、治水奉行;尾張御困堤築堤の美濃国側工事指揮、羽栗郡傘町に陣屋(後の笠松陣屋)を置き父と同様に農民保護政策や治水事業に尽力、美濃独自の国役普請制度[濃州国法]制定;農民に負担を軽減、1669(万治3)勘定奉行、正室;佐久間勝之女、息子;善房・善次・重治・堀利安・重元・善紀
[義政(;名)の通称]左京/将監(;父を継称)/豊前守
- G4798 **吉政**(吉正よしまさ・平内/堀内へのうち、為吉男)?-? 紀伊を代表する工匠の家の生;家業継嗣、安桃江前期の工匠;豊臣秀吉の命で京方広寺大仏殿造営、1599遷宮の豊国神社作事に参加、1606和歌山天満神社本殿の造立に参加、1608-10息子正信と木割書「匠明」共著
- H4700 **可正**(よしまさ・松平まつだいら、鈴木忠綱男)?-1669(80余歳) 徳川家康家臣;1600関ヶ原に従軍、大坂陣を経て小十人頭となる/徳川頼房に従い水戸徳川家家臣;松平姓、のち常陸下館藩主松平頼重に出仕/讃岐高松藩転封後の1650(慶安3)家老に就任;6百俵、晩年屋島に隠棲;没、歌人/文武に秀る、1630「松山和歌集」58「後笑草百首詠」著、

- [可正(；名)の別名/通称/法号]初名；親正、通称；新助/新介/半左衛門、法号；実相院
- G4799 **良政**(よしまさ・神戸かんべ、政房男) 1609-6658 伊勢五家のうち関氏の一族神戸家の後裔、江前期北伊勢の生/伊勢松阪城主蒲生氏郷の家臣、主家転封に随う、1634(寛永11)主家断絶により浪人、1638「勢州兵乱記」、「伊勢国司軍記」「勢州軍記」著、「為断泥禹須宗書三教伝」著、「伊陽軍記」注、
[良政(；名)の別名/通称]別名；能房、通称；外記
- K4718 **可正**(よしまさ・正木まさき) ? - ? 江前期撰津の狂歌作者；1666行風「古今夷曲集」1首入、
[足ぬきがならぬそうにぞ見えらるゝ浅香の沼にはまり給ひて](夷曲集；九雑)、
(遊女浅香にうつつを抜かした宗式そに[不詳/年配の僧か?])を諫める歌
- Q4723 **良正**(よしまさ・藤原ふじわら、) ? - ? 江前期；京の歌人/1682河瀬菅雄[麓の塵]5首入、
[吹く風に草葉みだるる春日野の秋をうしとや鹿の鳴くらん](麓の塵；秋233/野鹿)
- H4701 **佳政**(よしまさ・田中たなか/佐藤・のち山野やまの、田中仁太夫男) ?-? 江前期陸奥津軽藩士；神道家、勘定奉行、高照神社造営に参画/のち祭主、諸手足軽頭・用人、神学を教主、和算・小畑流兵学に通ず、1697(元禄10)「数学端記」編、
[佳政(；名)の名/通称]後名；元命もとなが、通称；唯五郎/十右衛門
- H4702 **養正**(よしまさ・小泉こいずみ/本姓；源、吉辰男) 1655-173076 幕臣；1664(寛文4/10歳)家督を嗣/小納戸、1693二丸留守居/94御徒頭/1709致仕、正信の父、石州流茶道；怡溪宗悦門、
[無住抄三百箇条]著、
[養正(；名)の通称/号]通称；当三郎/内蔵助/兵庫、
号；了阿/無住/無住軒/無住庵/阿舟、法名；宗阿
- H4703 **由昌**(よしまさ・大高おたか) ? - ? 江中期宝永正徳1704-16頃の関流和算家；荒木村英門、1709「括陽算法」校訂/11「立円率解」著、「立円弧矢弦率解」著
- H4704 **義正**(よしまさ・宮部みやべ、義殷男/本姓；藤原) 1729-9264 父は上野高崎藩老臣、高崎藩士、歌人、歌学；冷泉為村門(妻の万・長男義直も同門)；除門、のち烏丸光胤・日野資枝の点を受く、1782年寄役；のち致仕、幕府の和学所に出仕；將軍家歌道師範となる、江戸住；関東の公家と称され門弟多数、1756忠篤「千首和歌」入、1774「相生乃言葉」/1782「丙午瓦礫」「義正十五番自歌合」1781-89「義正集」、
「野べのかづら」「義正聞書」「三藻日記」「詠千首和歌」「三藻続千首」「上京七度紀行」著、「讃岐吟行」「勢州讃州紀行」著、「袖玉和歌集」の識語執筆；撰者か？、「三藻類聚」編(義正・妻万・義直の詠草)、「同春集」入(1798次男義昌の編纂)、
広通「霞関集」入(妻万と入集)、
[山の名のいとかすかなる声たてて心細くも呼子鳥鳴く](霞関；春104/堀河百首)
[義正(；名)の通称/号]通称；喜右衛門/忠八郎/孫八/孫太夫、号；三藻、
法名；義正ぎしょう(；実名を以て法名とす)、法号；心光院
妻 → 万(まん・宮部、万女、歌人) K 4 0 3 5
息子義直 → 義直(よしなお・宮部みやべ、藩士/歌人) F 4 7 1 6
義昌 → 義昌(よしまさ・宮部、歌人) H 4 7 0 5
- H4705 **義昌**(よしまさ・宮部みやべ、義正男、母；万、義直弟) ?-? 江後期歌人；父門、1798「同春集」著(；父母兄の歌集)
- 04778 **義雅**(よしまさ・平賀ひらが、義清男) 1725-180278 陸奥磐井郡大原邑領主/仙台伊達藩士；重臣、1785(天明5)奉行就任/1796致仕、和学者、謡曲「摺上」の間狂言の作者、
[義雅(；名)の初名/通称]初名；七之助/源蔵、通称；蔵人/出雲
- 04738 **義昌**(よしまさ・錦織にしごり、) 1741-180565 陸奥の代々仙台藩医/侍医、和学、
[義昌(；名)の字/通称/号]字；子玄、通称；即休(；代々の称)、号；鹿門/玄々齋
- H4706 **善政**(よしまさ・駒井こまい) 1751- 183484 近江栗太郡北大阿萱の医者、郷土史家、医；京の小林芳秀・小野蘭山門、医業；門弟に教授、歴史を好む/田中適齋らと交流、「淡海秘録」著、
[善政(；名)の字/通称/法号]字；徳甫、通称；多郎吉/太郎吉/周輔、
法号；青霞軒幽山徳甫居士
- H4707 **美眞**(よしまさ・小野おの・古庄) ?- ? 江中期天明1781-9頃出雲日御碕神社の神官、

太々神樂永代執行助成として江戸に出たことがある、

1781「日御碕御宮太々御神樂催之詞」著

- 04710 **義和**(よしまさ・奈良井ならい、通称;万蔵)?-1839 信濃洗馬の歌人;桃沢夢宅(1738-1810)門、奈良井秀萃ひでとみの一族
- P4701 **善政**(よしまさ・堀家ほりけ、通称;右兵衛)1735-86⁵² 備中賀陽郡の吉備津神社社家、国学者、妻;加茲(梶かじ/藤井高範女/歌人/1738-1805)、広政ひろまさ(1764-1831)の父
- P4784 **吉祇**(よしまさ・山田やまだ、通称;丹後)1747-1819⁷³ 陸奥盛岡の神職/国学者
- P4756 **善政**(よしまさ・村松むらまつ、)1764-1817⁵⁴ 甲斐巨摩郡国母村の熊野神社神主、神道・国学;加賀美光章みつあき門、地誌家;伊豆の秋山富南(章あきり)の養子;1798-1800「豆州志稿」編纂に助力、帰郷;復籍、甲府勤番支配松平定能の「甲斐国志」編纂に参加、[善政(;)名)の字/通称/号]字;徳而、通称;弾正左衛門、号;国鎮・函陽
- H4708 **吉正**(よしまさ・田畑/田端たばた/本姓;源、有里男)1770-1845⁷⁶ 江戸牛込山伏町住の幕臣;小普請、30余歳で隠居、系譜研究・伝記研究家、1809「儒職家系」編/27「参陽諸氏伝記」著、「武家爵名世譜」編、「断家譜」「四姓分流大凡系図」「増補大系図」「士外雑類系譜」著外多数、[吉正(;)名)の字/通称/号]字;小帛しょうはく、通称;喜右衛門、号;牛籠
- H4709 **義和**(よしまさ・佐竹さたけ、義敦男)1775-1815⁴¹ 母;三木家の女の清(桂寿院)、1785(天明5)父跡嗣;出羽久保田(秋田)藩主/従四下/侍従/右京大夫、藩政改革;財政改善、藩校明堂館創設/文武・医学教育の奨励、疋田柳塘・大越藩国を登用;佐竹家中興の名君、1805-14「東の記」09「阿山比川道の記」12「後楽園之記」、「佐竹義和公藩内紀行文集」、「すなどりの記」「遠山ずり」「千町田之記」「天樹公紀行」「義和公御道之記」著、[義和(;)名)の幼名/字/号]幼名;直丸/次郎、字;子政、号;泰峨/荷風亭/日新斎/突故亭/知足斎/如不及斎、法号;天樹院
- H4710 **良容**(よしまさ・羽生はにゅう、通称;水安)?-? 代々医者;江後期三河西尾藩医/江戸詰、1814「診候方訳」著、養嗣子;良熙よしひろ
- H4711 **令正**(よしまさ・九里くのり・初名;直諒なおあき、覚右衛門男)?-? 加賀藩士;1789父没;家督相続、1822竹沢御殿御側組頭、36馬廻頭、1819「九里覚右衛門筆記」、「九里くのり系図」編、[令正(;)名)の通称]陽次郎/覚右衛門(;)代々)/歩
- H4712 **吉昌**(よしまさ・山田やまだ6世、吉睦よしむつ男)1791-1852⁶² 江戸平河の幕臣;代々御腰物方/刀剣鑑定、「山田家譜」著、[吉昌(;)名)の通称]浅右衛門6世、法号;万昌院
- N4716 **義昌**(よしまさ・佐原さわら、通称;貢)1797-1824^{早世}28 近江彦根藩士、歌人;[彦根歌人伝・亀]入
- H4713 **宜昌**(よしまさ・革嶋かしま)?-? 江後期江戸本所の絵師、「戸山夏景の記」画、[宜昌(;)名)の通称/号]通称;酒樽、号;文尊/柳花園
- H4715 **芳政**(よしまさ・歌川うたがわ/姓;三浦)?-? 江後期絵師;歌川国芳門、天保安政1830-60頃活動、役者絵・合巻挿絵を描く、1839「時近江甲賀勝時」40「有智治春能七種」画、[歌川芳政(;)号)の通称/別号]通称;政次郎、別号;一天斎/静斎
- M4750 **富傑**(よしまさ・北村きたむら、旧姓;原)?-1852 信濃伊那郡の国学者・歌人;賀茂季鷹門、[富傑(;)名)の通称]勘兵衛
- H4716 **義制**(よしまさ・牧まき、堀利利哲3男)1801-53^{53歳} 幕臣牧義珍の養嗣、1824將軍家斉に拝謁;小姓組番士に列す/従五下志摩守/1844(弘化元・44歳)家督継嗣、諸職歴任、1848小普請奉行/50長崎奉行/53西丸留守居;没、歌;北村季文門、「漂客見聞録」編/「蘆の葉風」著、1851「長崎の日記」著、義道の父、歌;蜂屋光世「大江戸倭歌集」(1858刊)入、[春はただ心にたちてふる年の隔ても見えぬ庭の雪かな](大江戸倭歌;34雪中春来)、[義制(;)名)の字/通称/法号]字;心卿、通称;鉄五郎/助右衛門/志摩守、法号;晚翠院
- H4717 **喜昌**(よしまさ・宮坂みやさか、三栄の長男)1805-90⁸⁶ 信濃埴科郡の和算家/算術に長ず、国学・歌人、本居宣長に私淑;語格に精通、歌の門人多数、1856「算法抜粹」編、65「改姓天保曆術元書」著、1866「算法点竄指南録解」、「新撰太陽曆術」「天元初学抄」「点竄術稽古」著、外著多数、

- [喜昌(；名)の別名/通称/号]別名；軽雄、通称；藤兵衛、号；国風館
- K4762 **良政**(よしまさ・飯田いだ) ? - ? 飯田良清(孫三郎)の養嗣子、幕臣；徒目付、のち静岡の官吏、歌；1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[野の宮のいさめの神楽音たえて声おもしろくのこるすずむし](大江戸倭歌；秋788)
- M4777 **快正**(よしまさ・小林こばやし、通称；三次郎)?-? 江戸の生/飛騨高山郡代の手代、
国学・歌；山崎弘泰(1797-1862/高山の地役人頭取)門
- 04708 **嘉当**(よしまさ・那須なす、通称；元平/文字平)?-1863 紀伊田辺の国学者；熊代繁里(1818-76)門、
宗正(1848-1917)の父
- 04740 **好昌**(よしまさ・錦戸にしきど、)1810-187566 陸奥仙台の国学者、
[好昌(；名)の通称/号]通称；秀治/善九郎、号；弱水/老々軒
- L4711 **美允**(よしまさ・赤塚あかつか)1820-190283 伊勢河芸郡の和学/歌人；瑞光寺台巖門、
[美允(；名)の通称] 善助/善十郎
- L4790 **義正**(よしまさ・尾崎/尾崎おさき、)1826-190378 伊予宇摩郡の学者/儒；西条藩矢野翠竹門、
儒；後藤松陰・近藤南海(篤山男)門/昌平校に修学/のち国学者；水戸藩鶴峰戌申しげのぶ門、
さらに本居内遠門、洋学；松江藩金森建策門、さらに安井息軒・佐藤一斎門、多方面の研究、
折衷学派/尊攘を主唱、帰郷後；1868(慶応4)伊予西条藩校沢善堂助教、
藩校学頭兼藩政参与、維新後；権少参事主務文武館総督；1871致仕、
三餘舎(のち松菊舎)を開設；子弟教育、「古家正綜」/「炳燭録」(30巻)/「地球大成」著、
[義正(；名)の通称/号]通称；三郎左衛門/慨三郎、号；山人/星山/竹堂
- N4721 **良昌**(よしまさ・笹村ささむら、)1832-190978 土佐高知の医者；本草学に通ず/土佐藩の侍医、
国学・歌；千葉葛野・久松祐之・加藤千浪門、万葉集の研究、のち江戸住、「野紅花園歌集」著、
[良昌(；名)の通称/号]通称；洞伯、号；野紅花園
- L4703 **儀正**(よしまさ・足達あだち、熊吉男)1833-8553 伊予大洲藩士；1845(13歳)家督継嗣、歌人、
維新後；加藤家に出仕、
[儀正(；名)の別名/通称]別名；幸穂、通称；太郎/九郎右衛門
- L4778 **慶正**(よしまさ・遠藤えんどう、)1833-188250 美作苫田郡郷村薪森村の国学者/歌人、勤王家、
愛宕通旭・外山光輔の2人の謀に連座；投獄、
[慶正(；名)の通称/号]通称；盛左衛門/順佐久、号；淳咲じゅんしょう
- P4746 **義昌**(よしまさ・宮田みやた、旧姓；星野)1835-18450 近江蒲生郡の国学者、初代蒲生郡長、
歌；[鴉のうみ]入、
[義昌(；名)の通称/号]通称；耕之助/耕右衛門、号；耕叟
- L4796 **良当**(よしまさ・大田原おおたはら、旧姓；内田)1836-191782 美作英田郡の生/美作津山住/のち美濃住、
国学・歌；伊東祐命すけのぶ門、
[良当(；名)の通称]元次郎
- L4729 **義正**(よしまさ・雨宮あめのみや/本姓；源、)1839-9456 甲斐八代郡の国学者；
1864平田鍊胤門、
[義正(；名)の通称/画号]通称；彦兵衛、画号；芝一陽
- M4776 **吉応**(よしまさ・小林こばやし、)1842-191978 近江蒲生郡の謡の師匠、歌人；[鴉のうみ]入、
[吉応(；名)の通称/号]通称；定七、号；絹定
- 吉理(よしまさ) → 吉理(きり、連歌作者) L 1 6 3 7
- 吉政(よしまさ・比野) → 勘六(かんろく・比野ひの、藩士/鳥研究) R 1 5 8 9
- 善政(よしまさ・菟戸) → 太華(たいか・菟戸のぞき/源、国老/改革) B 2 6 0 7
- 由正(よしまさ・建部) → 清庵(せいあん・建部たけべ、蘭方医者) H 2 4 1 8
- 好正(よしまさ・竹内) → 元之(もとゆき・竹内たけうち、商家/国学) I 4 4 7 6
- 良正(よしまさ・行沢) → 良正(りょうせい・行沢、俳人) L 4 9 7 7
- 良正(よしまさ・坂井/小瀬) → 復庵(ふくあん・小瀬/坂井、医者・詩) B 3 8 4 7
- 良讓(よしまさ・成島) → 筑山(ちくざん・成島/杉本、幕臣/儒者) D 2 8 0 7
- 能当(よしまさ・国友) → 一貫斎(いっかんさい・国友くにとも、鉄砲鍛冶/国学) G 1 1 8 4
- 美真(よしまさ・古海) → 深志(ふかゆき・古海ふるみ、神職/国学) I 3 8 6 9
- 慶政(よしまさ・檜垣) → 貞成(さだなり・檜垣ひがき/度会、神職) J 2 0 0 8

- 義正(よしまさ・多田) → 義俊(よしとし・多田、神道/故実/浮世草子) 4 7 1 8
 義正(よしまさ・国司/浦) → 元襄(もとまさ・浦うら/国司、家老/日記) E 4 4 3 2
 義正(よしまさ・源) → 若狭掾(初世わかさのじょう・鶴賀、新内節/狂歌) 5 3 0 4
 義雅(よしまさ・稲葉) → 正往(まさゆき・稲葉いなば、藩主/老中/茶) N 4 0 7 3
 喜昌(よしまさ・小山) → 六郎(ろくろう・小山おやま、勤王家) B 5 2 2 0
- H4718 義益(よしまさ・村瀬むらせ) ? - ? 江前期佐渡の和算家/のち下総関宿住、
 佐渡で百川流和算を修学/江戸で磯村吉徳門、1673(寛文13)「算法勿憚改」著、
 [義益(；名)の通称] 所左衛門
- H4719 吉益(よしまさ・中川なかがわ、号；雄心斎)?-? 江中期讃岐高松の石清尾八幡宮の祠官、
 1757(宝暦7)「讃陽綱目」著
- H4720 吉町(よしまち・恋川) ? - ? 江中期江戸の絵師：鳥山石燕・恋川春町門、黄表紙の挿画、
 1799「画本賛獸録禽」画
- 好町(よしまち・恋川、黄表紙) → 真顔(まがお・鹿都部しかつべ、狂歌) 4 0 0 1
 与四松(よしまつ・天川) → 友親(ともちか・天川あまかわ/赤松、郷土史家) P 3 1 7 7
 吉松(よしまつ・畑) → 豊久(とよひさ・畑はた、歌人) W 3 1 0 9
 芳松(よしまつ・小口) → 静雄(しずお・小口おぐち/源、国学) N 2 1 6 4
 慶松(よしまつ・森) → 用久(もちひさ・森もり、神職) B 4 4 5 8
- Q4709 義巻(よしまる・吉野よしひ、) 1844-1903 60 上総夷隅郡名木村の郷土/名主、
 歌人；加藤千浪門/国学者；平田鍊胤門、維新後：勝浦商業銀行を設立
 [義巻(；名)の通称/号]通称；平十郎、号；千本の屋/梅月
 美丸(美麿よしまる・北川/小川/歌川) → 重政(2世しげまさ・北尾、絵師) S 2 1 6 5
 良丸(よしまる・沢田) → 泰綱(やすつな・沢田/荒木田/菌田、神職) C 4 5 1 0
 芳丸(よしまる・鈴木) → 寛藤(ひろふじ・鈴木すずき、幕臣/国学者) K 3 7 0 0
 義丸(よしまる・武者小路) → 公香(きんか・武者小路むしやのこうじ/藤原、廷臣) V 1 6 4 3
- H4721 吉麻呂(よしまる・羽栗はくり)? - ? 山城乙訓出身の廷臣、
 716阿部仲麻呂の従者として入唐、妻は唐の女、734息子の翼つばさ・翔かける兄弟を連れ帰国、
 736遣新羅使人の万葉十五3640熊毛浦歌[羽栗]は2人の子のどちらかか?
 参考 → 翼(つばさ・羽栗、医者) E 2 9 3 0
 → 翔(かける・羽栗、清河帰国要請のため帰唐) L 1 5 5 4
- H4722 芳麿(よしまる・岡本おあかも、別号；浩々舎)?-? 大阪の俳人：芳室門/談林系、
 1783「歳旦」編、85去来「青根が峯」編、「誹諧古今深秘抄」著
- H4723 芳麿(よしまる・福居ふくい/本姓；藤原/修姓；膝/藤)?-? 江後期幕臣；蝦夷地御用掛下役、
 1801幕命で蝦夷地探検/1807再度蝦夷地調査、芳高の父、1790-1830「嶮谷叢説」編、
 1801「蝦夷の島踏」「東夷周覧」/07「東山志」「みちのくにえきろの記」著
 [芳麿(；名)の別名/字/号]別名；知文、字；士興、号；嶮谷かいく/竹陰亭/東山人
- H4724 美麿(よしまる・北尾きたお、2世)?-? 幕末期絵師；1859-192世「所艶ゆかりの藤浪」後編画
 美麿(美丸よしまる・北尾/北川) → 重政(2世しげまさ・北尾[1792-?1838存]) S 2 1 6 5
 芳麿(よしまる・末田) → 稻麿(いなまる・末田すえだ、国学者) B 1 1 7 0
 芳満(芳丸よしまる・三枝) → 翁(しげる・三枝さいぐさ、僧/尊攘) O 2 1 5 8
- H4725 良相(よしみ・藤原ふじわら、左大臣冬嗣男) 813-867 55 母；藤原眞作女的美都子、長良・良房の弟、
 廷臣；848参議/851従三位/857右大臣/859正二位、兄摂政太政大臣良房の下で権力、
 「続日本後記」「貞観格」「貞観式」編纂に参加、一族の貧しい子女のため延命院・崇親院設置、
 贈正一位、文徳天皇女御多可幾子・清和天皇女御多美子の父、歌；新勅撰集(490)、
 [年経たる古きうききを捨てねばぞさやけき光とほくきこゆる]、
 (新勅；賀490/906[延喜6]日本紀竟宴歌；西三条右大臣名)、
 [良相(；名)の通称] 西三条[右]大臣
- H4726 義視(よしみ・足利あしかが/本姓；源、義教10男) 1439-91 53 幼児に浄土寺で得度；義尋と称す、
 1464(寛正5)兄義政の養嗣子となり還俗；武将/養父の実子義尚出生後は養父と対立、
 細川勝元に擁され応仁・文明の乱の直接原因となる/1478和解、義尚・義政が相次没、

1489(延徳元)出家(；道存)/息子義種よしたねが19代将軍となり准三宮；幕政の孝謙役となる、
「都落記」「義視日記」著、御伽草紙絵巻「新蔵人物語」著?(；伝後柏原院勾当内侍画)、
[義視(；名)の初名/通称/法諱/法号]初名；義尋、通称；今出川殿、法諱；道存、法号；大智院
妻；日野政光女(富子の妹)

H4727 **由水**(よしみ・山本やまと/本姓；源)1684-1747⁶⁴ 紀伊和歌山の国学者；京で修学/大坂で教育、
尊王を主唱、「神道口授伝雑要抄」著、
[由水(；通称)の名/号]名；仍謝、号；沛然軒

H4728 **善水**(よしみ・よしお・瀬見せみ、善隣よしちか2男)1813-92⁸⁰ 紀伊日高郡江川村の大庄屋、為善の父、
歌人；本居内遠・伊達千広門/加納諸平門；柿園派、諸平もろひら撰「類題鮫玉集」入、
1869和歌山藩少参事/79和歌山県会議員、
[善水(；名)の字/通称/号]字；士絹、通称；幸吉/雄次郎/彦左衛門、
号；翠湾/寧静居/三香廼舎みかのや/烏獄山人

H4729 **良見**(良美よしみ・森田もりた、良郷よしさと男)1823-1908⁸⁶ 加賀金沢藩士、国学者、
1837藩臣茨木忠順の近習役見習、1851用人本役/御歩足軽支配/1853(嘉永6)家督継嗣、
1868北越戦争に従軍/廃藩後は縣に出仕、1876隠退；郷土史編纂、1854「金沢学校創立記」著、
1860「府下長寿録」66「薫墨集」、「温故集録」「扶桑長寿録」「加藩貨幣録」著、外編著多数、
[良見(；名)の別名/通称/号]別名；常孝、通称；鉄吉/平之丞/平之佑/平次、号；柿園、
法号；柿園齋平次良見居士

P4785 **吉見**(よしみ・山田やまだ、吉風[1804-62]男)?-1888 陸奥盛岡の神道；国学者；父(多賀社祠官)門、
[吉見(；名)の通称]小也

H4730 **嘉**(よしみ・菅原すがわら、号；叱羊亭)?-? 江戸期越前?の博物学者、珍石収集；「奇石図」編

吉視(よしみ・篠田) → 美知足(みちたり・篠田しのだ、神職/国学) J 4 1 2 7

義見(よしみ・戸村) → 義見(よしあき・戸村、藩家老)

義見(よしみ・津野) → 滄洲(そうしゅう・津野つの、商家/詩人) B 2 5 8 5

義誼(誼よしみ・原沢) → 文仲(ぶんちゅう・原沢はらさわ、医者) G 3 8 1 7

吉水上人(よしみずしょうにん) → 源空(げんくう；法諱・法然、浄土宗開祖) 1 8 1 1

吉水僧正(よしみずのそうじょう) → 慈円(じえん；法諱・慈鎮、天台僧/歌人) 2 1 0 4

吉水宮(よしみずのみや) → 道覚親王(どうかくしんのう、天台僧/歌人) C 3 1 2 4

H4731 **義通**(よしみち・高こう；高麗こま?/外に高橋・高田・高丘・高向など?)?-? 奈良期の薬師；渡来系の人?、
大宰府住、万葉三期歌人；730年大伴旅人の梅花宴に参加(835)、
[春さらば逢はむと思ひし梅の花今日の遊びに相見つるかも]、
(万葉835；梅花宴/薬師高氏義通名)

H4732 **能通**(よしみち・藤原ふじわら、皇太后宮権大夫永頼男)?-? 1047存 母；藤原宣雅女、平安中後期廷臣；
左兵衛佐/淡路守/甲斐守/備後守/1014太皇太后宮亮/17右馬頭/従四下但馬守に至る、
撰関家殷賑受領の一人/藤原道長に信頼されその息子教通の家司、
1009敦成親王誕生の際の家司別当、「造興福寺記」の1047(永承2)の記事に入、
歌人；続詞花集入、後拾遺集2首(623/705)、実範(大学頭)・藤原範永室(良綱母)の父、
[年経つる山した水のうすごほりけふ春風にうちもとけなん](後拾；恋623)
[四条宰相をとしごろいひわたりける あるまじきさまにのみ思へりける、
心ざしにまけて親しくなりけるを はた思ふ心やありけん おともせで、
四五日ばかりありて五月五日ながきねをやるとて、
みしま江におりたちしよりあやめぐさまだことさほのねをもみぬかな]、
(続詞花；恋669/四条宰相；中宮禊子の女房/三島江；攝津の歌枕)

H4733 **義通**(よしみち・橘たちばな、為義男)?-1067 母；周防守大江清通女、平安中後期廷臣；
1008蔵人所雑色/美濃守/因幡守/筑前守を歴任、正四下、後一条天皇に近侍、歌人；
1035賀陽院水閣歌合；中宮大進として方人で参加、能因と交流、万代集入、後拾遺385、
[網代木に紅葉こきませ寄る氷魚ひをは錦を洗ふ心地こそすれ](後拾遺；冬385/宇治にて)、
資仲・資成の父

H4734 **良通**(よしみち・九条/本姓藤原、兼実男)1167-88^{早世}22 母季行女、良経兄、平安後期廷臣；
1186内大臣、幼少より詩歌・聯句に親しむ；諸学に通ず、将来を嘱望されたが22歳で早世、

「九槐記」著、千載4首:170/347/467/825(内大臣名)、
[軒近くけふしも来き鳴く郭公ねをやあやめに添えて暮ふくらむ]、
(千載;夏170/端午の日/音と根を掛る)

- G4709 **好道**(よしみち・尼坂あまさか、通称四郎兵衛)?-? 江前期寛文1661-73頃の大坂の俳人;松江重頼門、1676西鶴「古今俳諧師手鑑」入、
[雪にとめん袖うちはらふ鹿毛かげの駒](手鑑/
新古;定家;駒とめて袖打払ふ蔭もなし佐野のわたりの雪の夕暮)、
1688浅井忠能[難波捨草]入集の歌人[町人の好道]と同一人か?
[みな月のなごしのはらへ吹く風に賀茂の川瀬に秋や立つらん](難波捨草;夏196)
- H4735 **由道**(よしみち・蓮沼はすねま、治兵衛男)1637-1706 70 岩代会津藩士;学問に励む/藩主保科正之の侍講、神道;吉川惟足門、「会津風土記」編纂に参画、1666家督継嗣:書物方役人、
服部安休らと神社調査に尽力/1688頃孔子廟造営・孔子像安置の礼を担当、
文庫役・用所役・武具役・納戸役上班を歴任、保科正容まで3代の藩主に出仕、
1665「会津寺院縁起」75「会津神社総録」編、「旧證類聚」「旧證類聚附録」「義経明弁録」著、
[由道(名)の通称/号]通称;儀右衛門、号;義斎、神号;妙手神靈
- H4736 **芳通**(よしみち・伊南いなみ/佐藤・杉本、伊南信慶男)1627-1717 長寿91 会津藩士、軍学・兵法家、
甲州流軍学;山田五兵衛門/謙信流;池田八弥門、諸武芸に通ず/能書家、「行軍図」著、
1653「甲陽軍鑑評判」、「寝覚草」「和漢年代歌」1677-86「続太平記」著、外著多数、
[芳通(名)の通称/号]通称;初午/与八郎/与八/瀬兵衛/杉岸すぎのきし、号;半庸軒醜翁りゅう
- P4731 **可道**(よしみち・三瓶みかめ、) ? - 1716 陸奥江刺郡の岩谷堂邑(-城/伊達家領)の家臣、和学者、
[可道(名)の通称]勘助/十郎右衛門
- H4738 **良通**(よしみち・林はやし、岡村就通の長男)1700-67 68 母;渥美明晶女、幕臣;従五下大炊頭/書物奉行、
1740(元文5)同僚を傷つけ除籍:以後変名;林摩詰と称す、常陸潮来に移住;寺子屋を営む、
1757息子友諒を頼り陸前仙台に移住;隠棲、博識で国典に通ず/歌人、
1738「国隸原」64随筆「仙台間語かんど」、家集「野山の風」、「儀式考大意」「儀式徴大意」著、
友諒・子平・なお(仙台藩主伊達宗村側室)の父、
[良通(名)の通称/号/変名]通称;半二郎/源五兵衛/大炊頭おおいのかみ、
号;笠翁りゅうおう、変名;摩詰
- H4739 **由道**(よしみち・神戸かんべ) ? - ? 江中期元文1736-81頃河内国分の詩人:
鳥山芝軒門、1739「詩窓劇談」著、「雲林詩稿」著、
[由道(名)の字/通称]字;子貫、通称;荘助
- H4740 **愛道**(よしみち・小川おがわ、通称;市兵衛)?-? 江中期大阪の和算家;安田某門、
1755(宝暦5)「大坂町鑑」67「算学定位法」68「改算指南車」著/69「算法指南車」編、
「大增補改算記綱目大全」著
- H4742 **善道**(よしみち・高橋たかはし、通称;縫之助)?-? 江後期関流和算家;九岡長兵衛信道門、
幕臣;1864(元治元)勘定組頭/65隠居、1810「算詰拾藻集」著
- M4744 **義路**(よしみち・綺田きだ/本姓;源、旧姓;谷屋)1730-1803 74 近江彦根藩士、歌人、
歌;[彦根歌人伝・鶴]入、
[義路(名)の通称]立甫
- K4790 **義路**(よしみち・佐竹さたけ/本姓;源、義智2男)1742-91 50 出羽久保田藩重臣佐竹東家の生、
久保田藩重臣宇都宮充綱(帯刀)の養子/家畜継嗣;宇都宮帯刀武綱たけつなを名告る、
1758相手番に就任、兄義武が早世;佐竹東家の戻る/家督嗣;佐竹東家12代目当主、
1778(安永7)7百石加増/89(寛政元)隠居;息子義府が家督嗣、
姉;岩崎藩主嗣子佐竹義敏妻・妹;岩崎藩主嗣子佐竹義敏妻、兄;義武/弟;多賀谷敦侯、
正室;石塚義陳女/継室;六郷政長女(飛鳥井雅重の妹)、義府・戸村義通室・久由の父、
歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[しらゆふのなびく心を頼みにて神にもわれは祈りつるかな]、
(大江戸倭歌;恋1623/寄木綿恋)、
[義路(名)の初名/通称]初名;武綱(宇都宮)、通称;帯刀(宇都宮)/将監/山城
- P4702 **吉道**(よしみち・本多ほんだ、別姓;新保/妻戸)1753-1821 69 越後蒲原郡の弥彦神社祠官

- [吉道(；名)の通称/号]通称；源吾、号；東明齋
- N4772 **義路**(よしみち・高橋たかはし、別名；英隆)1760-1834⁷⁵ 伊予松山の歌人
- L4718 **嘉路**(よしみち・朝山あさやま/本姓；勝部、)1766-1820⁵⁵ 出雲秋鹿郡佐陀の祠官、
国学；清水古博ひさひろ門、
[嘉路(；名)の通称/号]通称；造酒之助みきのけ、号；喜珠/不老軒
- H4743 **吉倫**(よしみち・志賀しが) ? - ? 江後期陸中盛岡藩士/和算家；阿部知茂門、
のち江戸勤番中；藤田定資門、1815(文化12)「算法補闕」著、「天元術黙竄」「雑好黙竄」著、
「算術解題十二編」「諸角函斜術」「神壁算法後編術数」「帯縦開立方解義」「両式演段」外著
門弟；梅村重得・川村寛綽・阿部則敏・佐久間光豹ら多数、
[吉倫(；名)の通称] 小右衛門/小次郎
- H4745 **良道**(よしみち・立野たつ)1792-1876⁸⁵ 上総市原郡引田村の生；1803里正/20地頭の代官、
1838幕府巡見使と共に九州巡見/1856代官を辞任、漢学；大橋盤谷門/国学；清水浜臣門、
のち平田篤胤門、郷土地誌を執筆、「上総安房国志」「上総志料」「安房志料」「上総志総論」
「江戸近海図志略」「西海日記」、1853「一日一詠」63「日本紀考異」67「立野良道日記」外著多
[良道(；名)の通称/号]通称；太郎兵衛、号；竹桜
- L4755 **好道**(よしみち・一条いちじょう、通称；和右衛門)?-1848 陸奥(陸中)盛岡の国学・歌；三輪家入門
- K4799 **義路**(よしみち・大友おおも/本姓；源、久世綏之男)1794?-1849^{56?} 高家旗本大友義智の婿養子、
1821(文政4)將軍家齊に謁/24家督嗣/42(天保13)高家職就任；従五位下侍従・豊後守、
歌；蜂屋光世「大江戸倭歌集」(1858刊)入、
[常盤なる松に群れゐる友づるとともに千年を君やへぬらん](大江戸倭歌；雑2041)、
[義路(；名)の通称] 通称；丹次郎
- K4767 **義路**(よしみち・生熊いくま) ? - ? 江後期；歌人、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[咲く花の雪とし降らば雁がねの帰る越路やしばし忘れん](大江戸倭歌；春203/帰雁)
- H4746 **吉迪**(よしみち・花房はなぶさ、通称；半介)?-? 江後期伊勢津藩士/和算家；村田恒光門、
1848「新巧算法」著、「算法円理拾精」「算法類題起源」編
- H4744 **能通**(よしみち・六角ろかく/本姓；藤原、和通男)1804-68⁶⁵ 母；権大納言唐橋在熙女、
廷臣；1839従三位/1842正三位/右近中将、1835-41「能通卿記」著
- O4755 **義路**(よしみち・服部はつとり、)1806-1836³¹ 近江彦根藩士、歌人；[彦根歌人伝・寿]入、
[義路(；名)の字/通称/号]字；両眼、通称；儀左衛門、号；雪林亭
- P4786 **吉通**(よしみち・山田やまだ、旧姓；高橋)1814-73⁶⁰ 信濃伊那郡の国学者/歌人、吉嗣よしづぐの父、
[吉通(；名)の通称/号]通称；元八郎、号；田魚
- M4764 **義路**(よしみち・黒瀬くろせ、与三右衛元礼男)1821-93⁷³ 備中倉敷の商家；成羽屋、国学者、
[義路(；名)の通称] 寿助/与三右衛(；代々の称)
- K4760 **喜通**(よしみち・池田はなぶさいけだ/賜姓；松平/本姓；源、池田喜長の男)1828-68⁴¹ 旗本/幕臣、
1836(天保7)家督嗣；播磨福本を知行とする交代寄合；7代当主；6千石、
従五下/兵部/弾正/但馬守、1855(安政2)領校「乾々館」を開校、1863生野の変鎮圧、
1864(元治元)第一次長州征伐に戦功/68戊辰戦争では新政府軍に協力；姫路藩攻に参戦、
1868(慶応4)本家因幡鳥取藩より蔵米を受け1万余石の大名となり福本藩立藩；初代藩主、
間もなく没；息子徳潤(喜延)が後継、正室；池田道一女/継室；奥平昌高女のフチ、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[海原に五月雨雲のをさまりて波間に月の影ぞ宿れる](大江戸倭歌；夏552)
- H4747 **義道**(よしみち・牧まき、義制よしまき男)1828-80⁵³ 幕臣；1851小姓組番士に列す/53(嘉永6)家督嗣、
中奥番士・使番歴任/1864將軍家茂の長州征伐に随従/禁裏付に就任/従五下相模守、
1857致仕、維新後；一時丹後久美浜県令に就任、「かへさの記」「しづのおだまき」著、
[義道(；名)の通称/号]通称；助右衛門/修理、号；春臆しゅんそう、法号；大空院
- M4762 **義路**(よしみち・熊野御堂くまのみどう、旧姓；高)1835-1904⁷⁰ 豊前宇佐郡の神職/国学；物集もずめ高世門、
[義路(；名)の別名/通称/号]別名；(高)御楯、通称；真二郎/真哉、
号；御堂/梅苑/三午/真智閑
- L4770 **可道**(よしみち・宇井うい、)1837- 1922⁸⁶ 紀伊牟婁郡上三栖村の生/手習；1847坂本弥平門、

習字;兄勝之介門、漢学;兄島熊仙門、1857兄没;兄の嗣子/61(文久元)上三栖村の庄屋、
 国学・歌;1867西牟婁郡田辺藩士能代繁里門、維新後;69三栖村村長/71田辺藩貧院頭取、
 長瀬村長/1872戸長/73区長/74寺社借用小学校開設;権訓導兼務/76地租改正調査係顧問、
 1879西牟婁郡書記;田辺町志茂屋敷住、民俗学者;1880「山林沿革史」「水産沿革史」編纂、
 1886科長/89会津川が決壊;自ら被災しながら被災者救済に尽力、
 繁里同門と晩桜社を結成;歌会開催、1898紀伊来訪の高崎正風に歌道を受ける、
 1901田辺銀行支配人;辞任し歌に専念/養子縫藏に家督譲渡、晩桜社を良璞社と改称、
 郷土の民話を採取、妻;於虎・民枝、知可子の父/養子;縫藏、
 「浪乃藻屑」「牟婁温泉考」「蟻の熊野参りといふ事」「熊野沿革大意」著ほか多数、
 「璞屋随筆」(縫藏が遺稿を編集)、
 [熊野路やさかゆく御代の春にあふ青人草も花に咲くらむ](絶筆;1922東宮行啓時起草)、
 [可道(;名)の通称/号]幼名;三平、通称;国助・八十八郎・八十一郎、
 号:稲穂軒/木山/璞屋(あらたまのや・たまや)

L4784 **温道**(よしみち・小野田おのだ、岩瀬七兵衛3男/本姓;藤原)1845-1919⁷⁵ 三河額田郡の小野田家養子;
 19歳溝口村御厨神社の社司、歌人;竹尾正久・橋村淳風・矢野正弘門、維新後;邦便局長、
 牧畜や蚕業等に尽力

[温道(;名)の通称/号]通称;音三郎/澄三郎、号;千代廼家/松林軒南清

良道(よしみち・藤堂) → 唐麿(からまろ・富士)
 由道(よしみち・城) → 鞠洲(きくしゅう・城じょう、医者) K 1 6 1 0
 吉迪(よしみち・河津) → 吉迪(よしのぶ・河津かわづ/藤原、鑑定家) F 4 7 6 5
 吉迪(よしみち・大月) → 履斎(りさい・大月おおつき/藤原、藩儒) B 4 9 0 5
 吉通(よしみち・久我/橋) → 敦通(あつみち・久我が、廷臣/連歌) C 1 0 7 2
 叔道(叔通よしみち・小沢) → 蘭江(らんこう・小沢おざわ、和算家) C 4 8 0 3
 誼道(よしみち・戸板/新井) → 雨窓(うそう・新井あらい、儒者/詩歌) C 1 2 0 2
 義路(よしみち・安田/山本) → 帯刀(たてわき・山本、家老/兵法) R 2 6 7 4
 義道(よしみち・中沢) → 道二(どうに・中沢、心学者) 3 1 1 5
 義道(義通よしみち・河村/川村) → 瑞軒(ずいけん・河村、材木商/土木) 2 3 5 0
 義倫(よしみち・中沢) → 義倫(よしもと・中沢なかざわ/源、幕臣/歌) G 4 7 6 2

H4748 **義光**(よしみつ・源、新羅三郎、頼義男)1045-1127⁸³ 武将;知謀/射術、後三年役で兄義家に従い功、
 刑部少輔/佐竹・武田・小笠原氏の祖、連歌;続詞花集入、
 [狩しけるに鳥のたてるあとにかひご(卵)の有りけるを見て、
 供に侍る者のかみをいへりければすゑを付けたりける、
 ほろほろと鳴きてや雉のたちつらんかひごもわれもかへるまじとて]、
 (続詞花;物名945)

H4749 **吉光**(よしみつ・土佐とき/本姓;藤原、経隆or光長男?)?-? 鎌倉南北期絵師;従四下/刑部大輔/画所預、
 「一遍上人縁起」「法然上人絵伝」「法然上人行状画図」「三十六歌仙絵巻」「児観音縁起」画、
 光正の父

H4750 **義満**(よしみつ・足利あしかが/本姓;源、義詮の長男)1358-1408⁵¹ 母;石清水社務善法寺通清女紀良子、
 1368室町幕府3代将軍(1368-94在位)/73参議従四下/80従一位・左大臣/83准三宮、
 1394太政大臣、南北朝内乱を統一し南北合一を成し遂げる;明德・応永の乱に勝利、
 幕府全盛期を築く/明に入貢;勘合貿易を推進、北山殿(金閣)を創建;相国寺を建立、
 北山文化を育成、歌:二条為遠・為重門;「新後拾遺集」撰進を執奏、満詮の兄、
 能;観阿弥・世阿弥を庇護、「鹿苑院殿義満公集」「平家蟹迫討文」「天皇御元服式永享度」著、
 連歌;1408(応永15)行幸北山殿御会「何路百韻」「何木百韻」催、
 勅撰26首;新後拾遺(19首11/60/101/152/201/217/296/以下)新続古今(7首8/445以下)、
 [山の端にはれぬ雪げを残しても春立ちそふは霞なりけり]、
 (新後拾;春11/山霞/左大臣名)、

[義満(;名)の幼名/初名/法号/通称]幼名;春王、初名;義茂、法号;道有/鹿苑院天山道義、
 通称;北山殿/鹿苑院太政大臣、義持(4代将軍)・義嗣・義教(6代将軍)の父

H4751 **吉光**(よしみつ・渡辺わたなべ)1562-1640⁷⁹ 近江浅井郡高田村の武将;代々阿閉家家臣、

1578荒木村重の謀反討伐に従軍;戦功/1582(天正10)豊臣秀吉に出仕;百人扶持、山崎・賤ヶ岳合戦に従軍/伯耆米子中村一氏・大和郡山増田長盛の軍に属す、1615大坂夏の陣に藤堂高虎配下の侍大将;1万石、高虎と不和になり牢人、晩年薙髪;大津住、「藤堂高虎記」「渡辺勘兵衛覚書」著、
[吉光(;名)の別名/通称/号]別名;一雄/了/量綱、通称;勘兵衛、

号;推庵/睡庵/水庵/靈昌院/印齋、法号;眞性院

K4736 義弥(よしみつ・吉良きり/本姓;源、義定男)1586-1643 58 母;今川氏眞女、幕臣;侍従/左少将/従四下、関ヶ原戦後三河吉良荘3千余石を賜る/1608(慶長13)以来の高家;幕府の儀式典礼を掌る、勅使接待・京や日光への勅使を務める;京に没、「公武之覚書」著、義冬の父、義央の祖父、
[義弥(;名)の通称/法号]通称;民部/左兵衛/上野介、法号;法山

L4727 良充(よしみつ・小豆沢あずきざわ、通称;六右衛門)1674-1727 54 江前中期;出雲松江の歌人、「出雲国名所歌集」入

H4752 祥光(よしみつ・北小路きたのこうじ/本姓;藤原、日野資枝2男)1763-1819 57 北小路光教の養嗣子、廷臣;1793従三位/96右京大夫/1817従二位、「御節会絵巻」書、
[祥光(;名)の幼名/法号]幼名;賀丸、法号;恭順院

L4749 嘉満(よしみつ・飯盛いもり、?)?-天保1830-44頃没 61 肥前杵島郡武雄の生;佐賀藩老多久家の家臣、儒;清水士部・亀井昭陽・辛島鹽井門、山鹿流兵法を修学、数学・文章に秀で歌を嗜む、1822(文政5)一時幽閑;釈放後;大監察;すぐ辞任/武雄の郷学に尽力、
[嘉満(;名)の別名/字/通称/号]別名;嘉、字;子享、通称;嘉弥太、号;鳳山

Q4706 芳充(よしみつ・吉田よしだ、)1822-1893 72 近江栗太郡吉田村の国学者、旗本朽木家に出仕、1851(嘉永4)郷中総代/のち栗田郡吉田村など4村兼任の庄屋、三輪田元綱と交流、尊攘運動家、「流芳遺韻」著(没後1909吉田虎之助編刊)、
[芳充(;名)の通称/号]通称;半五郎、号;丹穂舎/真向栗雄(;変名)

04716 義光(よしみつ・中川なかがわ、)1830-1889 60 伊予松山の儒者;三上是庵(景雄)門、歌人、
[義光(;名)の字/通称]字;仲緩、通称;次左衛門

能光(よしみつ・三室戸) → 能光(やすみつ・三室戸みむろど/藤原、権大納言) E 4 5 0 8

能充(よしみつ・桜井) → 梅室(ばいしつ・桜井さくらい、研刀職/俳人) 3 6 0 4

芳光(よしみつ・大竹) → 言近(のぶちか・大竹おおたけ/中臣、国学者) H 3 5 6 8

芳光(よしみつ・勝部) → 景浜(かげはま・勝部かつべ、庄屋/歌人/画) U 1 5 2 9

好光(よしみつ・松本) → 光清(みつきよ・松本まつもと、歌人) K 4 1 5 7

喜充(よしみつ・石原) → 吉清(よしきよ・石原いしはら/越智、藩士/歌) L 4 7 5 3

淑光(よしみつ・紀) → 淑光(よしてる/よしみつ・紀、長谷雄男、歌) E 4 7 7 9

嘉光(よしみつ・朝山) → 嘉伯(よしなり・朝山あさやま/勝部、神職/国学) F 4 7 9 3

H4754 美領(よしみね・滝口たきぐち/本姓;紀、隆寛3男/or隆光3男)?-1775 代々備中賀陽郡吉備津神社神官、隆光は備前吉備津神社神官、備中玉島で客死、歌人;澄月・武者小路実岳門、二条派宗匠として大納言平松時章に出仕、賀茂祐為と交流、西山拙斎の師、「さゝ栗」著、住吉社奉納「蔵山集」発企:1775加藤影範編刊、
[美領(;名)の通称/号]通称;将曹/喜代輔、号;蔵山ぞうざん/汝月斎/爾月斎/露舎つゆのや

N4710 義峰(義峯よしみね・佐竹さたけ、義長2男)1690-1749 60 母;松浦信忠女(聖相院)、佐竹義格の養嗣;家督嗣;出羽久保田藩主;従四位下侍従/右京大夫/左近衛少将、儉約令廃止し贅の限り、1748(寛延元)凶作;藩財政破綻寸前;1749没/一族佐竹義堅を養子;その長男義真が家督嗣、正室;黒田長清女の利姫(円宗院/歌人)/側室;保野ほの伊與、照・富・直・壽の父、
[義峰(;名)の別名/通称]幼名;仙寿丸/求馬/初名;義恭よしゆき、通称;右京大夫/左近衛少将、法号;円明院

N4711 義峰室(よしみねのしつ・佐竹さたけ、名;栄/利姫、筑前直方藩主黒田長清女)1702-1745 44 筑前直方の生、出羽久保田(秋田)藩主佐竹義峰(義峯)と結婚(正室)、国学/歌、夫の贅のため藩財政困窮
吉宮(よしみや) → 道晃親王(どうこうしんのう、天台修験門跡//歌・連歌) E 3 1 0 6

H4755 吉睦(よしみつ・山田やまだ5世、4世山田吉寛男)?-1823 江戸平河の幕臣御腰物方/刀剣鑑定家、1797「懐剣剣尺」「裏室剣尺」編、「含笑集」「古今鍛冶備考」「山田氏由緒書」「良工分品」著、
[吉睦(;名)の通称] 浅右衛門/朝右衛門、法号;英照院、吉昌よしまさの父

- H4756 **義宗**(よしむね・北条ほうじょう/本姓;平/赤橋、北条長時男) 1253-77**早世**25 母;北条時盛女、鎌倉幕府武将;従五下、左近将監/駿河守/1271六波羅探題(;北方)、1277鎌倉幕府評定衆;没、歌;続拾遺641、
[嵐吹く峰のうき雲たえだえにしぐれてかかるかづらきの山](続拾遺;雑秋641)
[義宗(;名)の幼名/通称]幼名;宮王丸、通称;陸奥孫四郎
- H4757 **良宗**(よしむね・大炊御門おおひみかど/本姓;藤原、信嗣男) 1260-1307**48** 鎌倉期廷臣;1278従三位/89正二位、1302大納言、家学の有職故実(;装束等)に精通、「大炊御門良宗御装束抄」「七箇条重事鈔」、1288「石清水御幸記-弘安十一年正月二十六日」著
- H4758 **義統**(よしむね/よしの・畠山はたけやま、義有男)?-1497 武将/義忠の孫、父戦死;1455祖父より家督継嗣、能登守護、将軍御相伴衆、1467応仁乱では畠山義就に随い山名宗全の西軍に属す、京で歌を修学;正徹と交流、1477能登に帰国/1488幕命で加賀一向一揆の鎮圧に当る、1493細川政元に将軍を追われた足利義材を奉じ京奪還を図る;失敗、歌・連歌に長ず/画に通ず、正徹の高弟正広を招聘し歌会を催、能登府中の文芸を興す、「賦何船連歌」著、[義統(;名)の通称/法号]通称;左衛門佐さえものすけ、法号;大寧寺殿
- H4759 **吉宗**(よしむね・徳川とくがわ/松平、光貞男/本姓源) 1684-1751**68** 綱教・頼職の弟/頼職の養子、1705紀伊和歌山藩主/1716幕府八代将軍/右大臣、享保改革;幕藩体制の引締め、実学を重視;禁書令の緩和/蘭学を許容、「英明録」「大坂記」「紀州政事鏡」「紀州政事草」、「九茹之法」編、「政事鑑」「玉音三十則」「西園寺鷹百首疏義」著、
[世の中におそろしき物とてはこれ無く候 只人ほどおそろしき者なし 貴賤とももの心をゆるし申すまじく候](伝吉宗「紀州政事草」)、
[吉宗(;名)の別名/法号]幼名;源六/新之助、初名;頼方、法号;有徳院 側室 → 久免(くめ・稲葉いなば、お久免の方、稲葉定清女) D 1 7 4 4
- H4760 **義致**(よしむね・佐野さの、通称;要蔵/雍蔵)?-? 江後期大阪の和算家;福田金塘門、1836(天保7)「算学速成」編/43「算題雑解前集」校訂、「奉掲墨江大社福田派算法」著
- N4756 **良致**(よしむね/りょうち・関せき、神職大平左馬介清因の長男) 1806-88**83** 母;佐竹養貞の長女、信濃伊那郡島田村の生、医学;1825(文政8)江戸の雨森宗真門、1827(文政10)帰郷;下川路村関島良基(医者で寺子屋百華園主)の養子、上川路村開善寺江西和尚に従い上京/古方派医学;車屋町通の宇津木昆台門、1829(文政12)養父良基より家伝の医学を皆伝/下川路村に開業、妻;良基兄の種孚女、1831(天保2)良基の命で丹羽盤桓子に従い名古屋へ;柳田凌雲の中神流医学修学、水谷豊文より本草学修学/尾張藩儒深田香実と交流、1833(天保4)養父良基没;家督を継嗣/寺子屋百華園・八幡宮神職を継嗣、1838西国旅行;長崎・大坂・京を巡る、1850(嘉永3)信濃・飛騨国門人総取締役、1851九州旅行後に隠居/1865(慶応元)長男良載が没;医業を再開、維新後:1872自宅百華園を下川路村郷学校としその教師となる、1872ウィーン万国博への筑摩県出品物収集/82天竜峡の名勝化に貢献、1873隠退、
[良致(;名)の初名/字/通称/号]初名;隲致とうち、字;子知、通称;退蔵、号;壺中軒/松泉老人/子鐸、法号;信厚院
- H4762 **芳宗**(初世よしむね・歌川うたがわ/姓;林・鹿島、大工の林忠蔵男) 1817-80**64** 絵師:1835歌川国芳門、彩色の技術に長ず、1856「成田道中膝栗毛」58「江戸栗毛」60「浜真砂子石川譚」、「わらひもんく」「縁綱詞花咲」外画多数、2世歌川芳宗の父、宗政・宗久・宗成・宗兼の師、
[歌川芳宗(初世;号)の通称/別号]通称;松五郎、別号;一松斎、法号;雲上院
- P4737 **良致**(よしむね・宮川みやがわ、) 1839-1917**79** 陸奥弘前の茶道宗匠、歌;長利おさり仲聴なかあきら門
[良致(;名)の通称/号]通称;久左衛門、号;宗水/得々庵
義致(よしむね・多賀谷) → 義許(よしもと・佐竹さたけ/多賀谷、城代/書) N 4 7 0 6
義概(よしむね・内藤) → 風虎(ふうこ・内藤義泰、藩主/歌/俳人) 3 8 5 5
良棟(よしむね・丸山) → 元純(げんじゅん・丸山まるやま、医者/地誌) J 1 8 7 7
- H4763 **義村**(よしまら・赤松あかまつ/本姓;源、政資2男) 1472-1521**殺害**50 赤松一門の惣領政則没後に賀養子、

武将;上総介/家督嗣;播磨・備前・美作の守護職を継嗣、兵部少輔、
実権を握る老臣浦上氏一族を退けることに失敗/1520剃髮;浦上村宗に播磨室津で幽閉、
翌年殺害される、「秘事枕」著、

[義村(;)名)の幼名/号]幼名;道祖松丸、入道号;性因/性印/上総入道、法号;祥光院

H4761 **吉村**(よしむら・伊達だて/本姓藤原、初名;村房、宗房長男)1680-1751⁷² 母;片倉景長女の松子、
1695伊達綱村の養子、陸前仙台5代藩主;綱村を継嗣;1703襲封、左近中将/越前守/陸奥守、
藩政改革;学芸奨励;学問所開設、学問・詩歌修学、田辺希賢父子を侍読とす、
書;持明院基雄門/歌;清水谷実業門・中院通茂門;中院通躬より古今伝受、武者小路実陰門、
画;狩野常信門、「隣松集」「続隣松集」「武家新歌仙」「獅山公詩録」著、
「獅山様塩竈社奉納和歌」「獅山和歌香国詩及諸名家諸文」「歌行脚」「八雲雅藻」「道の記」著、
1704「松浦嶋之記」「東奥紀行」/05「霧乃まよひ」14「塩松八景」19「夢のたたち」外著多数、
広通「霞関集」入、

[うつし絵の筆もいかでか及ぶべき色なき空の春のあけぼの](霞関;86/春曙)、

[吉村(;)名)の幼名/号]幼名;卯之助/助三郎/藤次郎、号;獅山/隣松軒、法号;続灯院

正室;久我通名女貞子(通誠養女)、息子;宗村むねむら・村隆むらたか・村良むらかた

N4712 **義村**(よしむら・佐竹さたけ、小場處慶長男)1706-68⁶³ 西家佐竹義方の養嗣子;1710養父の遺跡継嗣;
佐竹西家12代当主;出羽久保田藩大館6代所預/1715(正徳5)常陸小場城跡で事績調査
1757(宝暦7)藩内で銀札発行派と反対派の対立騒動;発行派家老山方助八郎等を処断、
正室;西家佐竹義方女、義休の父、国学者、

[義村(;)名)の幼名/通称]幼名;元千代、通称;石見/大和。

N4764 **義村**(よしむら・田中たなか、)1826-1898⁷³ 武蔵秩父郡吉田村の貴布禰神社神職、
棕神社神職、国学・歌;富田永世門、「秩父国造墳墓考」著、

[義村(;)名)の通称/号]通称;仙之助/千弥、号;菅廼家/棕蔭りょういん

幸混(よしむら・吉見) → 幸混((ゆきむら・吉見、幸和男/神職) F 4 6 7 9

好村(よしむら・辻) → 隆好(たかよし・辻つじ、商家/国学/勤王) Y 2 6 2 9

H4764 **良村安世**(よしむらのやすよ)? - ? 尾張の狂歌作者、良岑安世(よしねのやすよ)の振り、
1785万載集1首入/1787才蔵集2首入;

[わが恋ふる人は氷の鏡かも影だにみせず張りの強さよ](才蔵集;419/寄氷恋)

4728 **淑望**(よしむら・紀き、学生字;紀太、長谷雄はせお長男)?-919 平安前期廷臣;文章生/901(延喜元)対策、
民部大丞/勘解由次官/大学頭/東宮学士/信濃守/従五上、淑人・淑光よてるの兄、詩;文粹入、
歌人;906日本紀竟宴和歌参加、「古今集真名序」著、古今251/新古今1866、詩;文粹入、
[もみぢせぬときはの山は吹く風の音にや秋をききわたるらむ](古今;秋251)

H4765 **義持**(よしもち・足利あしかが/本姓;源、義満の長男)1386-1428⁴³ 母;醍醐三宝院安芸法眼女藤原慶子、
父は次男義嗣を寵愛;父在世中空位に等しい、1394(応永元)室町4代将軍(1394-1423在)
1396参議正四下、1408父没/09内大臣、父没後反動的政治;日明貿易を禁止、没;贈太政大臣、
能を好み清涼殿東庭で猿楽を演じさせる、歌人;歌会催/耕雲・堯孝と交流、
1407内裏九十番歌合参加、勅撰;新続古今(6首335/880/1443/1713/2080/2087)、
[寝ぬる夜の夢にも秋やかよふらん暁おきの袖のうへの露](新続古;335/夏夜)

[義持(;)名)の法号] 勝定院しょうじょういん

04732 **良以**(よしもち・贅川にえかわ、)1752-1814⁶³ 駿河駿東郡の儒者;西御園蘭齋門、
山梨稲川総裁の「駿河大地誌」編纂に参加;駿東郡担当/途中で没、
「駿河国新風土記」著(;贅川他石補綴)、

[良以(;)名)の初名/通称/号]初名;欣為、通称;与一/五兵衛、号;茅屋ぼうおく

美茂(よしもち・森) → 美之(よしゆき・森もり/藤原、官人/歌人) P 4 7 6 5

義茂(よしもち・足利) → 義満(よしみつ・足利/源、3代将軍/北山文化) H 4 7 5 0

義以(よしもち・山鹿) → 素行(そこう・山鹿やまが、兵学者) 2 5 2 2

淑茂(よしもち・増子) → 毅斎(きさい・増子まじ、藩士/文筆家) K 1 6 4 5

H4766 **良基**(よしもと・藤原ふじむら、権中納言良頼男)1024-75⁵² 母;源経房女、隆家の孫、平安後期廷臣、
1068参議/69従三位/70従二位/72大宰大貳;同地没、
歌人;1051内裏根合に宿侍で参加(;右近少将の時)、勅撰;後拾遺集(759)、

- [忘れなんと思ふさへこそ思ふことかなはぬ身にはかなはざりけれ] (後拾遺; 恋759)、
(二条院[後冷泉院中宮章子内親王]の女房に贈る歌/沈淪の身には心も制御できぬ歎き)
- H4767 **能元** (よしもと・橋たちばな、通称; 高橋太、忠元男) ?-? 能因の曾孫/平安後期廷臣; 従五下/楽所預、
太鼓奏者として「教訓抄」入、歌人; 1109修理大夫顕季歌合に参加、後葉集入、
勅撰2首; 金葉 (538; 光明仙頼基いきに贈歌・Ⅱ245/526・解60) 詞花 (131)、
[いくらともみえぬ紅葉の錦かな誰れふたむらの山といひけむ] (詞花; 秋131/後葉269)、
(武蔵よりのぼるとき三河の両村山ふたむらやまの紅葉を見て詠む/実際は尾張山田郡両村)
(両山を布を数える単位[二疋ふたむら]に掛る)、
☆袋草子・続詞花集 (62) の橋栄職ひでよりと同一か?
- 4729 **良基** (よしもと・二条にじょう/本姓; 藤原、道平男) 1320-8869 母; 西園寺公顕女の婉子、後醍醐廷臣、
のち北朝廷臣; 1328従三位/正二位/43右大臣/47従一位/81太政大臣/関白・摂政を4度、
准三后、歌人; 二条為定・頼阿門、
1352自作「百首和歌 (後普光園院殿百首)」(合点; 頼阿・慶運・兼好)、1363「愚問賢註」、
1366「年中行事歌合」自邸で主催/67新玉津島社歌合参加、
貞和百首入/藤葉入 (右大臣名)/1356延文百首参加、
勅撰59首; 風雅 (5首; 540/584/896/961/1360)/新千載 (23/135下7首) 新後拾 (29首) 以下、
連歌; 救済門、救済と連歌改革; 応安新式制定、1356准勅撰「菟玖波集」編 (:87句入)、
連歌論書; 1345「僻連抄」49「連理秘抄」57-72「筑波問答」58「擊蒙抄」76「九州問答」、
1379「連歌十様」83「十問最秘抄」、「連歌十躰」「近来風体」、55文和千句/85「石山百韻」等参、
1387浄阿奉納[隠岐高田明神百首]参加 (最晩年の歌10首入)、
諸芸/故実/日記、「職原秘抄」「嵯峨野物語」「女官志」「おもひのままの日記」外著多数、
[鳴けやけふ都を庭の時鳥] (文和千句)、
[雲間もるいり日のかげに数見えてとほちの空をわたる雁がね] (風雅; 秋540)、
[春さむき山は高田のたかければ雪の下よりたつ霞かな] (高田明神; 冒頭/早春雪)、
[良基 (; 名) の号] 号; 五湖釣翁/関路鬼木/関路古槐/関路老槐、
道号; 春湊しゅんそう、諡号; 後普光園院ごほうおんいん
良基の子; 師良・師嗣・一条経嗣・道意、猶子; 基冬、孫; 一条兼良
- 4726 **義元** (よしもと・今川いながわ/本姓; 源、氏親男) 1519-60討死42 戦国武将; 大名; 駿河・遠江・三河の領主、
織田信長と桶狭間で戦闘; 討死、聯句会主催/歌人; 若王寺文書入
- H4768 **嘉基** (よしもと・森もり) ? - 1824 尾張名古屋藩士; 寺社調方添役/寺社方物書、
国学; 鈴木朧あきら門/1810本居春庭門、「森鈴木歌論」「歌の論」「酔月園随筆」著、
歌; 1817道彦「春風集」入/1821「百首集註」著、
[嘉基 (; 名) の通称/号] 通称; 光太郎、号; 酔月園
- H4769 **義故** (よしもと・山崎まさき) 1756-184186 伊勢津藩士; 書家/和漢学に通ず; 藩校養正寮教読に就く、
国学; 1827本居春庭門、地誌・歌集などを著述、1827「書画雙翫」編、33「谷人論」、
1834「題日本輿地便覧」「阿古木雲雀」/37「洞津奇人伝」、「吾妻のすさび」著、
[義故 (; 名) の字/通称/号] 字; 士懐、通称; 六左衛門/六右衛門、
号; 恕道/松居/権花/孔雀老人/求己齋、法号; 求己齋恕道
- N4758 **良基** (よしもと/りょうき・関島せきじま、種模2男) 1759-183375 信濃伊那郡下川路村庄屋大上関島家の生、
種孚 (; 大上関島家嗣) の弟、医者、寺小屋百華園経営、幼時; 大瀬木村寒山禅師に句読修学、
1772上京; 古方派医学; 鎌田玄琳門、1773父善左衛門種模が眼病; 帰郷; 医業、歌人、
1783 (天明3) 村民の要望で自宅に寺子屋開設、旗本小笠原家侍講; 伊豆木陣屋に出仕、
庭に薬草を植え薬の製作研究、天明飢饉に甘蔗栽培; 1804試作成功し近郷に栽培を奨励、
甘蔗が村の名産となる、1827 (文政10) 大平良致よしかを養子とし医学を修学させる、
「百華園漫筆」「杜鵑集」「長生成功論」「百華園梅百首」著、
[良基 (; 名) の字/号] 幼名; 長二郎、字; 良輔、号; 百華園主人、法名; 百華園興道良基居士
- N4794 **義府** (よしもと・堤つみ、大防だいはう男) 1771-183363 近江坂田郡の医者; 父門、
歌人; [彦根歌人伝・亀] 入、宣信のりのぶの兄、
[義府 (; 名) の初名/字/通称] 初名; 言淵、字; 子施、通称; 毒庵 (ぶすあん?)
- H4770 **良本** (よしもと・林はやし、忠左衛門良棟の長男) 1794-186976 信濃松本藩士/藩家老; 1863辞職、

歌人;西郷元純(桃沢夢宅門人)門/のち香川景樹門、致仕後:吟詠を嗜む、陸夫みおの父、
將軍側役新見正路より[三都花魁の図](山口素綱・浅山蘆国・勝川春暁画)を譲られる、
「歳々百首」「若葉日記」「五十六番歌結」「謝教辨」「山彦問答」「夢のたゞち」著、
[良本(;名)の通称/号]通称;仙太郎/忠左衛門/監物、号;萩翁/萩の屋/萩斎しゅうさい/亀園入道、
法号;静林庵秋翁亀園法居士

- K4788 **義府**(よしと・益田また) ? - ? 江後期;歌人、藩士?、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[魚の子のいなといはねば釣の糸の心ながくも待ちわたるかな](大江戸倭歌;恋1594)
- L4723 **嘉基**(よしと・朝山あさやま/本姓;勝部かつ、嘉伯よしのり男)1820-8970 出雲秋鹿郡佐陀大社祠官/国学
[嘉基(;名)の通称]東之助/図書ずい
- N4706 **義許**(よしと・佐竹さたけ、久保田藩檜山所預多賀谷厚孝長男)1837-52夭逝16 母;佐竹義術女於庫、
1841(天保12)北家佐竹義術よしやす没のため遺跡嗣;北家16代当主/角館9代所預;角館城代、
書に長ず、室となる婚約者;佐竹美恵子(1835-92;貞照院/歌人);
義許没後も実家に戻らず詠歌を続ける、佐竹義倫(東家佐竹義祚男)が家督嗣、
[義許(;名)の幼名/初名]幼名;徳太郎、初名;義致よしむね
婚約者 → 美恵子(みえこ・佐竹さたけ、歌人) J 4 1 1 3
- L4761 **吉元**(よしと・犬上いぬがみ/本姓;伊織、伊織元頼男)1842-8140 父は近江犬上郡多賀大社神主、
1872(明治5)都恵神社祠官、国学;1861(20歳)車戸京助の紹介で平田鉄胤門、
西川吉輔と交流、
[吉元(;名)の通称]綾太郎
- 04722 **義幹**(よしと・長崎ながさき、)1844-190358 肥前五島富江藩士、江戸住/のち大和神社宮司
義根(よしと・足利) → 義根(よしね・足利/源/平嶋、詩人) F 4 7 4 9
義元(よしと・平尾) → 元義(もとよし・平賀、平尾/興津/犬丸、地誌/歌人) 4 4 2 4
義本(よしと・平尾) → 芹水(きんすい・平尾ひらお/西郷、藩儒) J 1 6 0 3
吉幹(よしと・武村) → 南窓(なんそう・武村たけむら、書家) J 3 2 2 4
良基(よしと・津田) → 有栄(ありえ・津田、藩士/儒/神道) F 1 0 2 4
良幹(よしと・姓不詳) → 観遊(かんゆう/号、藩士/随筆) G 1 5 6 7
- 04723 **義護**(よしと・長崎ながさき、通称;甚七)?-1826 薩摩藩士;御側御用人、歌人;日野資枝すけき門
- H4771 **是盛**(よしと・曲直瀬まなせ、本姓;和氣、六人部むとべ是香2男)1838-67暗殺30 山城乙訓郡の生、
父は向日むこう神社家社家、歌学・平田派皇学;父門;勤王派、
朝廷医官曲直瀬正元しょうげん女と結婚し婿養子;曲直瀬(和氣)家[享徳こうとく院号]を継嗣、
朝廷医官として出仕、加賀前田家に出仕;勤王派有志に世子前田慶寧の上洛を促す、
小松帯刀らと志士救済募金運動奔走中に大坂難波新地で幕府新選組刺客に殺害、
1859「続新撰朗詠集」編、
[是盛(;名)の初名/通称/号]初名;是光、通称;忠誠磨/道策、号;翠竹陰/享徳院/酔竹
- H4772 **芳盛**(初世よしと・歌川うたがわ/姓;三木)1830-8556 幕末明治期の絵師;歌川国芳門、花鳥画に長ず、
三木光斎名で南画を描く、維新後内務省出仕;1885致仕/横浜住;輸出用花鳥画を描く、
1854「異国落葉籠」56「落嘶笑の種蒔」60「都々一図会」67「掌中新刀銘尽大全」画、
「七ツいろは」「端唄の寄本」外画多数、「奥州一円誌」「話の山々」「新刀便覧」外著多数、
[歌川芳盛(初世;号)の通称/別号]通称;作蔵、
別号;一光斎/一好斎/光斎/好斎/桜ん坊/さくら坊
能盛(よしと・藤原、北面武士) → 能蓮(のうれん;法諱、出家/歌人) 3 5 5 8
好盛(よしと・手塚) → 律蔵(りつぞう・手塚てつか、洋学者/訳書) C 4 9 1 0
- M4724 **善専**(よしと・葛野かどの、)1712-178271 摂津池田の酒造業;山城屋、国学者、美住よしずみの祖父、
[善専(;名)の通称]通称;次郎兵衛/治良左衛門、屋号;山城屋
良哉(よしや・飯島/佐久良) → 東雄(あずまお・飯島/佐久良さくら/桜、国学/歌) 1 0 5 0
譽謝女王(よしやじよおう) → 譽謝女王(よざのおおきみ、万葉歌人) 4 7 4 0
- H4773 **吉保**(よしやす・玉木/玉置たまき、忠吉男)1552-163382 安藝温井村の武将;毛利家家臣;
元就・輝元・秀就に出仕、和漢学に通ず/歌・連歌・茶の湯を嗜む、
1617(元和3)「身自鏡」著(;1610頃の戯作「医文車輪書」を入)、

- [吉保(；名)の幼名/通称/法名]幼名；次丸、通称；又三郎/太郎左衛門、法名；月叟以心
H4774 **義休**(よしやす・土屋つちや、勘三郎義正男)1642?-171978? 加賀石川郡御供田村の勸農家、
父没後；金沢藩領十村役を継嗣、数理/測量に精通/農政に関与、兵学者有沢武貞に重用、
1694(元禄7)改作奉行園田佐十郎の罪に連座；入獄/赦免後に隠居；剃髮；直心野衲と号す、
1702「金城隆盛私記」/07「耕稼春秋」「耕作私記」、「加越能山川記」「加越能大路水経」著、
「土屋農業書」編、与右衛門の父、
[義休(；名)の字/通称/号]字；時英、通称；又三郎、剃髮号；直心野衲じきしんやのう、法号；空宅直心
H4775 **吉保**(よしやす・柳沢やなぎさわ/本姓；源/賜姓；松平、安忠男)1658-171457 母；佐瀬津那子、
1675家督継嗣、上野館林藩藩士；藩主徳川綱吉の小姓組、
1680綱吉の將軍就任に伴い幕臣小納戸役、1688側用人；大名格に拔擢、
1694武蔵川越藩主；老中格/98大老格/1701賜姓松平；改名吉保、
1704甲府府中藩主；新田開発；經濟の活性化に尽力/學問奨励；荻生徂徠・細井広沢を登用、
従四下/侍従・左近少將・出羽守・美濃守、1709綱吉没；隠居、臨濟・黄檗に参禪、
歌人；駒込別邸六義園で屢々歌会催、吉里(1687-1745)の父、
1703「名勝百首和歌」「千首和歌」04「六義園記」、「六義園八景十二境和歌」「羽林次將藻」著、
「蘆辺集」「天香千首」「柳沢吉保詠百首」、「古今三友抄」「射礼図」「常応録」外著多数、
[吉保(；名)の幼名/別名/通称/号]幼名；十三郎、別名；房安/佳忠/信元/保明、
通称；主税/弥太郎、号；保山/元養/樂只堂、法号；永慶寺保山元養、吉里の父
吉保の正室 → 定子(さだこ・柳沢やなぎさわ、曾雌そし定盛女/古典/歌)P 2 0 6 8
側室 → 吉保室(よしやすのむすめ、飯塚染子、歌文/吉里の母)H 4 7 8 6
→ 町子(まちこ・正親町、歌人/日記)J 4 0 6 1
H4776 **義保**(よしやす・千村ちむら、号；水声亭?)?-? 江中期享保1716-36頃尾張の文筆家、
「木曾家伝集」著
H4777 **義休**(よしやす・近藤こんどう、佐五右衛門勝義男)1693-177381 幕臣；1713家督継嗣；小十人組頭、
老により辞任；小普請、地誌家；「江戸志」「新編江戸名所図誌」編、1770「江都百景」編、
歌；広通「霞関集」入、土屋信名のぶなの兄、
[人に今思ふもゆゆし雲となり雨と降りけん中の契りは](霞関；恋748)、
[義休(；名)の通称/号]通称；金八郎、号；懷山子、法号；静堅
H4778 **義安**(よしやす・名・勝田かつた、字；君寧)?-1782 安藝広島島の弓術家；代々射術により広島藩に出仕、
儒；香川南浜門、「郷射義」著
H4779 **嘉保**(よしやす・片桐かたぎり)1717-179074 会津藩士/1740江戸で天文；渡辺官蔵門、
曆算；森田豊仙門/易；一色佐太夫門/韻鏡；天野丈右衛門門、
帰郷後1775-90没まで藩主の近臣に天文を教授、嘉吟よしりの父、
「歩天歌」編、「立方新術」「収納算法」「天経録」「天文除法」「観台説」著、
[嘉保(；名)の通称/諡号]通称；勝平、諡号；慶翁
P4798 **愿恭**(よしやす・横山よこやま、旧姓；中西)1753-183381 備中小田郡の生/備中浅口郡の横山家の養子、
名主、国学/歌人、
[愿恭(；名)の通称/号]通称；官蔵、号；閑斎
H4780 **義恭**(よしやす・多紀たき)1759 - 182870 紀伊和歌山藩士；小寄合町奉行を務める、
国学/歌；千家俊信(本居宣長門)門、歌に長ず、
「自歌集」「真一すじ道」「神国さかへふみ」「大和魂」著、
[義恭(；名)の通称/号]通称；与三兵衛、号；榊の舎さかきのや
H4781 **吉泰**(よしやす・小山田おやまだ)?-? 江後期寛政文化1789-1818頃陸中盛岡の和算家；
初め下田直貞門/のち江戸の藤田嘉言に書を送り教えを受く、
1799「累円術無寄」著/1806「算法先哲問答集」編
[吉泰(名)の通称] 勇右衛門
H4782 **義保**(よしやす・久嶋くじま) ? - ? 江後期の神道家、神道教化に尽力、
全国の神明講中に説教した神道唱歌集を編纂；1804(文化元)「天地恵」著、「天の意」著
H4783 **至易**(よしやす・鈴木すずき、通称；忠太、忠太夫男)?-1835 江後期岩代二本松藩士；1805家督継嗣、
和漢学に通ず、「世臣伝」編纂に参画/1825執政丹羽貴明批判の根来伝右衛門意見書に加筆、

その罪で塾居を命じられる

- N4705 **義術**(よしやす・佐竹さたけ、義文男)1793-1841⁴⁹ 母;戸村義敏女、佐竹北家15代当主、1825父隠居し家督嗣;角館8代所預;角館城代、1834(天保5)北浦一揆が発生;自ら一揆勢と面談し鎮める、嫡男義陳早世、外孫(長女の長男)多賀谷厚孝長子の義許が家督嗣、娘;於庫(多賀谷厚孝正室)、武子(佐竹義茂正室)、
[義術(;)名)の幼名/通称]幼名;百太郎、通称;又四郎/河内
- L4763 **佳保**(よしやす・今田いまだ、号;的翁)1801-1858⁵ 周防岩国藩士;江戸留守居役/江戸住、国学/歌人;岩国藩士長谷川保樹やすき門
- Q4713 **義保**(よしやす・和田むだ、通称;新兵衛)?-1868? 近江膳所の菓種商;菓大新、国学者
- M4743 **懿恭**(よしやす・紀さの) 1806 - 1885⁸⁰ 石見那賀郡の勝竜寺住職/国学/歌;岡部東平門
- H4784 **義泰**(よしやす・高橋たかはし) ? - ? 江後期下総佐倉藩士/和算;内田五観門、1860頃武蔵忍藩士となったか、1855「新訳弧三角術」訳/60(万延元)「赤極出地測量術」著、「測量枢要」著/「円理称平術」校訂、
[義泰(;)名)の通称]卯之助/卯、鏡光照の師
- L4725 **嘉保**(よしやす・朝山あさやま/本姓;勝部かつべ、)1820-189⁷⁰ 出雲秋鹿郡佐陀大社祠官、嘉寛よひろの義弟 国学;松江藩老犬野泰珠やすよし(是誰ぜすい)門/歌;澄月門
[嘉保(;)名)の通称]竹之丞/儀七/正翁
- H4785 **慶寧**(よしやす・前田まゐだ/本姓;藤原、松平、斉泰の長男)1830-1874⁴⁵ 母;徳川家斉女の偕子(景德院)、1864(元治元)父加賀金沢藩主の名代で上洛中に禁門の変勃発;病と称し退京、父より謹慎幽居を命ぜられる/1865赦免/66(慶応2)家督嗣;藩主/従三位/筑前守/加賀守、維新に際し幕府への援軍を中止;朝廷方で出兵、1869金沢藩知事/71東京住、「月令和歌」「七十二侯和歌」「恭敏公詠草」「前田斉泰同慶寧書簡」著、
[慶寧(;)名)の幼名/初名/通称/号]幼名;犬千代、初名;利住とじずみ、通称;又左衛門、号;蘭阜/菁莪/先春堂、諡号;恭敏公
- L4709 **良休**(よしやす・高橋たかはし、通称;三吾)1830-1891⁷⁸ 信濃松本の歌人;香川景恒門
- 吉泰(よしやす・竹村) → 了齋(りょうさい・竹村たけむら、農業/詩歌) H 4 9 5 8
- 義泰(よしやす・内藤) → 風虎(ふうこ・内藤、藩主/歌/俳人) 3 8 5 5
- 義泰(よしやす・稲生/内山) → 覚順(かくじゅん・内山/稲生、藩士/本草) K 1 5 0 2
- 義保(よしやす・有井) → 浮風(ふふう・有井ありい、俳人) D 3 8 6 8
- 義慰(よしやす・箱石) → 清左衛門(せいざえもん・箱石はこいし、藩士/砲術) I 2 4 3 9
- 義休(よしやす・宮部) → 義淳(よしあつ・宮部みやべ、藩士/歌人) C 4 7 1 1
- 慶安(よしやす・源) → 慶安(けいあん/よしやす・源、神道/俳人) D 1 8 3 4
- 賀保(よしやす・菊本) → 賀保(かほ・菊本、地誌研究) D 1 5 2 1
- 好安(よしやす・芝崎) → 好高(よしたか・芝崎しばさき/平、神職/国学) N 4 7 3 3
- 良安(よしやす・寺島) → 良安(りょうあん・寺島、医/和漢学者) G 4 9 0 5
- 良安(よしやす・狩野) → 間斎(かんさい・狩野かのう、儒者) Q 1 5 6 0
- 良安(よしやす・江川) → 松濤(しょうとう・江川えがわ、儒者/歌人) L 2 2 1 3
- 良安(よしやす・西村) → 竹翁(ちくおう・西村にしむら、国学/俳人) C 2 8 6 9
- 誼安(よしやす・須賀) → 精斎(せいさい・須賀すが/賀、儒者) B 2 4 5 4
- 能安(よしやす・河瀬/戸田) → 太宰(ださい・河瀬/戸田、儒/勤王家) O 2 6 9 2
- 可保(よしやす・森) → 忠洪(ただひろ・森もり、藩主/俳人) Q 2 6 6 8
- H4786 **吉保室**(よしやすのしつ・柳沢やなぎさわ、名;染子、飯塚正次女)1667-1705³⁹ 柳沢吉保の側室/吉里の母、歌文に長ず;側室の正親町町子と並称、「故紙録」著、諡;靈樹院、
綱吉との関係?;のちに柳沢騒動説話のモデルとなる
- 子習(よしゅう・谷口/尾池) → 薫陵(くんりょう・尾池おけい/谷口、医者) D 1 7 6 7
- 予州(よしゅう・日野伊予守) → 資施(すけもち・日野ひの/畠山、旗本高家) H 2 3 9 1
- 余修(よしゅう・合原) → 窓南(そうなん・合原ごうはら、藩儒/宋学) C 2 5 6 5
- 誉重(よじゅう・桂) → 誉重(たかしげ・桂、国学) C 2 6 8 2
- 誉重(よじゅう・能田) → 誉重(たかしげ・能田のうだ、神職/国学) Y 2 6 9 5

- K4713 **與州匠作**(よしゅうしょうさく;本名不詳、與州は伊予?/匠作は修理職の唐名)?-? 鎌倉幕府御家人か?、
早歌作者;1319月江「玉林苑;日精徳にっせいのとく」作曲
- | | | |
|-----------------|--------------------------|-----------|
| 与十郎(よじゅうろう・岡田)→ | 賢桃(堅桃けんとう・岡田、武家/連歌) | C 1 8 8 1 |
| 与十郎(よじゅうろう・伊勢)→ | 貞常(さだかね・伊勢/平、故実家) | I 2 0 6 3 |
| 与十郎(よじゅうろう・堀)→ | 杏庵(きょうあん・堀ほり、医者/儒者) | 1 6 2 9 |
| 与十郎(よじゅうろう・松平)→ | 忠周(ただちか・松平まつだいら、藩主/歌人) | Z 2 6 6 0 |
| 与十郎(よじゅうろう・梅沢)→ | 西郊(せいこう・梅沢うめざわ、幕臣/漢学者) | B 2 4 4 4 |
| 与十郎(よじゅうろう・比留)→ | 正記(まさきり・比留ひる/藤原、幕臣/歌) | L 4 0 6 0 |
| 与十郎(よじゅうろう・岸)→ | 章彬(ふみあき・岸きし/岩切/村野、藩士/故実) | I 3 8 1 5 |
| 与十郎(よじゅうろう・内池)→ | 永年(ながとし・内池うちいけ、商業/国学) | E 3 2 8 5 |
| 与十郎(よじゅうろう・石黒)→ | 信由(のぶよし・石黒、和算/測量術) | D 3 5 9 1 |
| 与十郎(よじゅうろう・小河)→ | 逸斎(いっさい・小河おがわ、藩士/詩) | H 1 1 1 9 |
| 与十郎(よじゅうろう・前田)→ | 孝友(たかとも・前田まえだ、藩士/記録) | M 2 6 4 6 |
| 与十郎(よじゅうろう・水野)→ | 正信(まさのぶ・水野みずの、藩士/国学者) | F 4 0 8 2 |
| 与十郎(よじゅうろう・大谷)→ | 実徳(さねのり・大谷おおたに、勤王過激派) | O 2 0 1 3 |
- H4787 **善行**(よしゆき・大蔵おおくら;姓;伊美吉いみき/のち朝臣)832-? 921存 廷臣;漢学/882少外記、
883存問渤海客使兼領客使、885大外記/887外従五下/勘解由次官/民部大輔/但馬守、
901「日本三代実録」編纂参加、901時平は城南別邸で善行七十(古稀)賀宴を催、907従四下、
「延喜格式」の編纂参加、清和天皇近習に顔氏家訓を教授、藤原基経・忠平の侍読、
詩;「雑言奉和」(古希賀宴の詩入)、
[善行(;名)の通称] 蔵外史大夫
- H4788 **義行**(よしゆき・松平まつだいら、尾張藩主徳川光友2男)1656-171560 母;家光女の千代姫、1664松平姓、
1681信濃に3万石の新知を拝領/1700美濃高須藩主に転封;名古屋支藩として本藩を補佐、
和漢学;史書に精通/諸家系図を考訂/古戦の軍法に通ず、従四下左近権少将/撰津守、
1697「高岳院御書伝証記」1700「関ヶ原御力戦記」13「埋火」、「月夜友」「萩の下葉」著
[義行(;名)の幼名通称/法号]幼名;岩之丞、通称;源次郎/源二郎/撰津守、法号;崇巖院
- H4791 **喜之**(よしゆき・安達あだち) ? - ? 江中期和泉堺の博物学者/金魚研究、
1748「金魚養玩草」、「金魚秘訣録」著
- Q4701 **良行**(よしゆき・吉井よい、良信[45代]の長男)1709-5850 撰津西宮広田神社社家の生、
垂加神道;若林強斎門、1724(享保9)吉井家46代継嗣;広田神社祠官;左京亮/従五下、
江戸に病没、家督は弟良知としともが嗣、
[良行(;名)の通称]左京亮
- H4789 **良之**(よしゆき・三井みつ、黒木式部大夫良春3男)1733-8452 讃岐象頭山の医者、
幼児より同郷眼科医三井梅山宅に寄寓;医を修学/梅山の弟三井善庵の養嗣子、
養父の志を継ぎ大坂御堂筋順慶町で眼科を開業、「眼科方函」「眼目外障篇」「三井眼科書」、
1770「三家学海」、「梧陽堂針術秘訣」著、善之よしゆきの父
[良之(;名)の字/号]字;元孺、号;眉山
- H4790 **喜之**(よしゆき・木村きむら)1744- ? 1832存 幕命で1797紀伊の安田泰より砂糖製造法を伝受、
1798(寛政10)幕臣に抜擢、浜御殿奉行兼吹上花畑奉行/姫君様方用人格を歴任、
1797「砂糖製作記」/1832「伊豆紀行」、「砂糖製伝法書」「白砂糖製伝法」著
- M4787 **義行**(よしゆき・後閑ごかん/本姓;源、)1747-180458 近江彦根藩士、国学/歌人;[彦根歌人伝:鶴]入、
[義行(;名)の通称] 弥太郎/宮内/新兵衛
- K4739 **喜之**(よしゆき・海老原えびはら、通称;善右衛門/屋号;下野屋/号;喜寛子)?-1766 江戸の商家、
歌人;冷泉家門/中院門、1798刊広通「霞関集」入、
[かぞふれば水無月ちかき空ながら晴れぬ日をふる五月雨の雲](霞関;夏284)
- H4792 **喜運**(よしゆき・広瀬ひろせ/旧姓;三浦、別名;喜尚)1761-183373 周防岩国の郷土史家;
国学/故実に通ず、1827(文政10)「巖邑事蹟考」編、「玖珂郡誌」「岩邑怪談録」著
- K4731 **由之**(よしゆき・ゆうし・山本やまもと/橘、以南2男)1762-1834 越後出雲崎の里正橘屋の生/母;秀子、
良寛の弟、兄の出家後橘屋を継嗣;家職の神官・名主を務める、
歌人;大村光枝・香川景樹門/歌の宗匠、1810(文化7)訴訟で敗れ家財没収/所払い;

橘屋没落/妻の死、1811(文化8)隠居;息子泰樹が家督嗣、
結庵;失意のうち酒田を初め各地を遊歴、
歌の宗匠をしつつ諷詠を楽しむ;国学者・歌人としての才を発揮、
「島の記」「滝見の記」、日記「山つと」著、1813国語辞書「海月のほね」編、
[由之(;名)の別名/通称/号]別名;泰儀、通称;橘屋新左衛門、
号;巢守/雲浦/無花果苑/松下庵

- H4793 **善之**(よしゆき・三井みつい、良之よしゆき長男)1766-1833⁶⁸ 大坂御堂筋順慶町眼科医;父門/三井流継承、
詩文:片山北海門、混沌詩社友、篆刻も嗜む、「眼科外障篇」編、「三井元孺先生眼科書」著、
1810「有職内障針術口授」、良之著「眼科方函」補填、眼科医黒木千之ちゆきの兄、
[善之(;名)の字/通称/号]字;文卿、通称;元孺、号;棗洲そうしゅう
- H4794 **善之**(よしゆき・家崎いえさき) ? - ? 江後期文化文政1804-30頃の江戸の灰商、
和算家:桑名藩江戸留守居役不破直温門;師より和田寧の円理算術の伝を受ける、
1814・26(文化11・文政9)「五明算法」著/1814「五明算法解」、「五明算法前集解」著、
「五明算法前集図式解」/1828「方円究理」著、
[善之(;名)の字/通称/号]字;子長、通称;彦太郎/源兵衛、号;思山、屋号;灰屋
- H4795 **喜之**(よしゆき・堤つみ、通称;弥三郎)?-? 母;服子、江後期江戸三田の歌人、
1820母服子の歌集「はゝその落葉」編刊(:母の1周忌)
- 04799 **喜之**(よしゆき・堀田ほた、名;塩麿/号;袋翁)?-1842 尾張海東郡津島の国学者、のち江戸住
- 04726 **吉行**(よしゆき・中山なかやま、)1803-1893^{長寿91} 遠江城飼郡の高松神社神主中山吉埴よしねの養嗣子、
国学・歌;中山吉埴・石川依平・八木美穂門、高松神社神主
[吉行(;名)の通称]隼人/将監
- P4765 **美之**(よしゆき・森もり/本姓;藤原、)1817?-1863^{斬殺47?} 京の官人;東御番所組与力、
国学・歌;大橋長広(1788-1851)門、国事に奔走;1863(文久3)近江石部にて浪士に斬殺、
[ひところこきもうすきもおのつから松の煙の色に出らむ](1852[嘉永5]詠)
[美之(;名)の初名/通称]初名;美茂、通称;孫六
- H4796 **善之**(よしゆき・窪田くぼた、常八郎知直男)1824-77⁵⁴ 伊能忠敬の業を助けた窪田浅五郎の孫、
備前岡山藩士/暦算家、初め算学;祖父門/片山金弥門、幕命で安房北条詰の測量師、
傍ら暦数・洋学修学;渋川景佑・伊東玄朴門、帰郷;藩校で教授、
1851(嘉永4)より毎年翌年の新暦を作成し藩主に献上、維新後;温知学校で教育、
「計子算法」「算術手引書」「楕円闡微」「点竄階梯」「五星暦」著、
[善之(;通称)の名/別通称/号]名;知道、初通称;善之助、号;水哉
- 04712 **吉之**(よしゆき・内藤ないとう、旧姓;山田)1825-96⁷² 越後蒲原郡の国学者、
[吉之(;名)の通称]八平治やへい
- H4797 **慶行**(よしゆき・池田いけだ、池田仲律男)1832-48^{夭逝17歳} 鳥取藩主池田斉訓の養子、
1841斉訓跡を継嗣;鳥取藩主/因幡守/従四下寺住/左少将、画;沖探容門、詩人、「詩稿」著、
[慶行(;名)の幼名/初名/法号]幼名;亀丸、初名;茂高、法号;正国院
- H4798 **義行**(よしゆき・速水はやみ) ? - ? 江後期儒者;越後新発田藩儒の渡辺予齋門、
闇齋学を修学、1853「予齋先生雑稿」「予齋先生訓門人会読割記」、「予齋先生語録」著
- H4799 **好之**(よしゆき・桑山くわやま) ? - 1854 尾張名古屋の大八車製造業;東屋/郷土史家、
歌・俳諧・画を嗜む、「金鱗九十九之塵」編、
[好之(;名)の通称/号]通称;帆丸屋清左衛門、
号;榎園/車軸軒/胡桃戸/帆丸亭船栲縄/保寂堂梅渚/望月齋、屋号;帆丸屋
車軸亭大雨と同一説あり→ 車軸亭大雨(しゃじくいていり、戯作)W 2 1 3 0
- P4794 **嘉之**(よしゆき・山本やまもと、昌敷しげのぶ男)1800-45⁴⁶ 京の官人;大炊御門おおいみかど家の諸大夫、
歌人;香川景樹門(父と同門)、語学;父門、
[嘉之(;名)の初名/通称/号]初名;由之、通称;相模守、号;慧雲
- L4779 **好幸**(よしゆき・小川おがわ)1811- 1881⁷¹ 筑後上妻郡の室園神社神職/高良神社大祝/国学者、
[好幸(;名)の通称/号]通称;柳、号;鬼柳/鬼山礪きざんたく
- 04729 **義子**(よしゆき・丹羽にわ、)1832-1901⁷⁰ 尾張清洲の国学者/歌人、
国学・歌;植松茂岳・恒川文貞門、歌;上田仲敏・間島冬道ふゆみち門、

[義于(；名)の通称/号]通称；助十郎、号；消雲

I4700 義遵(よしゆき・佐竹さたけ、義茂男)1838-190164 母；佐竹義術女の武子、羽後秋田藩大館城代；1864(元治元)家督継嗣、戊辰戦争では莊内征討の命を受け盛岡城受取/1869鶴岡城権知事、本藩権知事/男爵/従五位、1874大蔵省記録寮出仕；75致仕、晩年は育英事業に尽力、「杞憂危言録」著、

[義遵(；名)の幼名/別名/字/通称/号]幼名；九郎、別名；義倫/義貴/義純、字；君彝、通称；大和、号；桂城/醒翁/以遠齋

I4701 吉亨(吉亨よしゆき・郡山おこやま)？-？ 江後期遠江掛川藩士；故実家/江戸常磐橋住、「郡山著述之馬書」著

I4702 由之(よしゆき・前嶋まゑじま)？-？ 幕末期常陸太田の和算家；長谷川弘門、「算法点竄手引草三編」編、
[由之(；名)の通称/号]通称；半七、号；檀嶺

L4786 吉従(よしゆき・尾崎おさき、)1833-191078 尾張藩士、薩摩鹿兒島の神官奉齋会礼部を務める、歌人；八田知紀・氷室長翁門、歌；楓園集入、
[吉従(；名)の通称/号]通称；鏡三、号；楓園、法号；勲功院景誉楓園

B4773 嘉融(よしゆき・よしなが・伊藤いとう/本姓；藤原、)1844-1864自刃21歳 江戸の生/肥前島原藩士、国学；丸山作楽・平田鉄胤門、梅村真一郎と共に尊攘運動参加；藩より除籍、足利氏木像梟首事件・長州藩外国船砲撃事件に関与/鈴木重胤暗殺にも関与？、1864(元治元)水戸天狗党の乱に参加；敗走；9月自刃、
[嘉融(；名)の通称]通称；信太郎/益荒ますら

由之(よしゆき・鈴木) → 道彦(みちひこ・鈴木/村上、医者/俳人) 4 1 1 5

由之(よしゆき・菅原) → 洞斎(とうさい・菅原、絵師/鑑定家) E 3 1 2 2

由之(よしゆき・亀山) → 筋字(せつじ・亀山かめやま、藩儒) K 2 4 7 0

由之(よしゆき・坂場) → 与蔵(よぞう・坂場さかば、藩士/奉行) I 4 7 1 0

喜之(よしゆき・丹羽) → 木公(もっこう・丹羽にわ、俳人) B 4 4 8 8

喜之(よしゆき・井岡) → 友碩(ゆうせき・井岡いおか、俳人) G 4 6 6 4

美行(よしゆき・青木) → 峯行(みねゆき・青木あおき、藩医/国学) H 4 1 9 9

義行(よしゆき・源) → 聖覚(しょうかく、和学/歌人) F 2 2 8 2

義行(よしゆき・佐野) → 義行(のりゆき・佐野さの、幕臣/文芸) G 3 5 1 3

義行(よしゆき・佐々木) → 喜楽(きらく・佐々木ささき、郷土史家) Q 1 6 4 5

義行(よしゆき・結城/佐々倉) → 桐太郎(きりたろう・佐々倉ささくら、幕臣/海軍) Q 1 6 4 9

義将(よしゆき・斯波) → 義将(よしまさ・斯波しば、武将/歌人) G 4 7 9 6

義言(よしゆき・長野) → 義言(よしこと・長野、藩士/国学者) 4 7 1 1

義之(よしゆき・池田) → 通斎(つうさい・池田、医者) 2 9 3 6

義之(よしゆき・南合) → 蘭室(らんしつ・南合なんごう、藩士/儒者) C 4 8 4 8

義之(よしゆき・島村) → 紹之(つぐゆき・島村しまむら/神馬、商家/歌) F 2 9 8 3

義恭(よしゆき・佐竹) → 義峰(義峯よしみね・佐竹さたけ、藩主) N 4 7 1 0

義透(よしゆき・今宮) → 義透(よしすく・今宮いまみや、家老/記録) D 4 7 7 4

義随(よしゆき・倉沢) → 清也(きよなり・倉沢くらさわ、庄屋/国学/神職) U 1 6 2 2

可行(よしゆき・広瀬) → 竹庵(ちくあん・広瀬、蘭学/藩校教授) C 2 8 4 8

良之(よしゆき・魚住) → 勤(いそし・魚住うおずみ、藩士/国学者) F 1 1 8 7

善之(よしゆき・穂積) → 永機(えいき・穂積ほづみ、俳人) 1 3 2 0

善之(よしゆき・田村) → 西湖(せいこ・田村/坂上、幕吏/医/本草) B 2 4 3 3

与叔(よしゆき・高田) → 与叔(ともよし・小山田/高田、国学/歌) T 3 1 8 2

誉純(よじゆん・有馬) → 誉純(なすみ・有馬ありま、藩主/文筆) G 3 2 6 3

余春澄(よしゆんちやう・「新撰都曲」序名) → 春澄(はるずみ・青木) G 3 6 4 7

I4703 良世(よしよ・つきよ/つぎよ・藤原ふじむら、左大臣冬嗣男)823?-90078 母；大庭王の女、長良・良房らの弟、平安前期廷臣；870参議/872従三位/891関白基経没後に氏長者；右大臣/893従二位、895左大臣；致仕、贈従一位、895「長谷寺密宗記」、900「興福寺縁起」著

L4776 能世(よしよ・梅沢うめざわ、)？-196370余歳没 下総葛飾郡行徳伊勢宿村の製塩業、和学者、

[能世(；名)の通称/号]通称；長左衛門、号；海翁

誉恕(よじよ・桂) → 誉恕(たかひろ・桂かつら/平、神職/国学) W 2 6 5 3
予章(よしょう・島津) → 元直(もとなお・島津しまづ、領主/詩文) D 4 4 4 2
予章(よしょう・西村) → 楠亭(なんてい・西村、絵師) J 3 2 3 2
予章(よしょう・渡辺) → 予斎(よさい・渡辺わたなべ、藩儒) B 4 7 8 3
余祥(よしょう・号) → 古巖斎(こがんさい、雑俳点者) M 1 9 0 1
誉章(よしょう・桂) → 誉章(たかあき・桂かつら、大庄屋/国学/俳諧) W 2 6 5 1
与壤軒(よじょうけん) → 以正(こいまさ・匹田/疋田、神道) G 1 9 0 5
豫章人(よしょうじん) → 蔵澤(ぞうたく・吉田よしだ、藩士/絵師) L 2 5 1 4
予章台(よしょうだい) → 吾仲(吾中ごちゆう・渡辺、仏画師/俳人) D 1 9 2 9
芳々(よよし、茶番狂言) → 黙阿彌(もくあみ・河竹・古河、歌舞伎作者) 4 4 0 2

- Q4740 **良頼**(よしより・菅原すがわら、淳高男) 1194-1278⁸⁵ 母；若狭守藤原範綱女、廷臣；文章博士/大学頭、1254(建長6；61)従三位非参議、治部大輔/59(正元元)正三位/63(弘長3)従二位/式部大輔、1264長門権守/71(78歳)辞任/78(弘安元)没、詩人；1253(建長5)定家13回忌追善詩歌(為家勸進)に詩入、[倩憶教門窮子譬 遂斯朽宅出離儀](信解品/定家追善詩歌二十八品并九品；9)
- I4704 **良頼**(よしより・三木みつぎ/みつぎ/みき、一時姉小路、飛驒桜洞城主三木直頼男)?-1572 飛驒国司家；桜洞の戦国期武将；1554(天文23)家督継嗣、断絶していた飛驒古河姉小路家の名跡を嗣ぐ、1562従三位；改名；嗣頼/63参議；4ヶ月後に辞任；散位、1564在国中に甲斐の武田方木曾義昌が侵攻；武田方に降伏、その後美濃の斎藤道三・織田信長に接近、歌人；「飛驒八所和歌裏書」著、[良頼(；初名)の別名/入道号]別名；嗣頼、入道号；雲山/雲山観公
- I4705 **義和**(よしより・松平まつだいら、水戸藩主徳川治保はるもり2男) 1776-1832⁵⁷、美濃高須藩主松平義居よしすえ養嗣；1804遺領継嗣；高須藩主/従四下中務大輔、侍従/左近権少将、狂句・落首蒐集、日記を残す、「狂句聞書集」「自捧録」「乗斎録」「常蘭斎自記」著、[義和(；名)の幼名/別名/法号]幼名；泰之丞、初名；保右もりすけ/保友もりとも、法号；泰量院
- P4771 **吉従**(よしより・矢島やじま、通称；定右衛門)?-? 江中後期；武蔵多摩郡の国学者/歌人；清水浜臣はまおみ[1776-1824]門/俳諧も嗜む；星布尼傘寿記念「春山集」の編纂に参加、[就中なかんづく松さかむなりはるの山]([春山集]入)
- L4714 **好頼**(よしより・秋山あきやま/本姓；源、) 1800-1827^{早世28} 近江彦根藩士/歌；小原君雄門、歌人(；1844野津基明編「彦根歌人伝」入)、[好頼(；名)の別名/通称/号]初名；好植、通称；瀬一郎、号；橘舎
- K4755 **吉順**(よしより・有田ありた/本姓；源、通称；九郎右衛門)?-? 江後期；幕臣、水野忠央ただなかと交流、歌；1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、1860鋤柄助之「現存百人一首」入、[山城の木幡こはたの関を朝越えてかへりみすれば霞棚引く]、(大江戸倭歌；春72/関路霞、現存百人一首；98)
[踏みたつるみ狩の勢子も草陰の鶉の声はあはれとぞ聞く]
(大江戸倭歌；雑1930/秋の末つ方駒場野の御狩に騎馬勢子のうちに侍りて)
- N4746 **吉従**(よしより・杉井すぎい、) 1824-1907⁸⁴ 伊賀上野の津藩士；武芸目付/郡奉行歴任、国学・歌人；八木静修しずさね(立礼)門、国学・神道；富樫広蔭門、廢藩後；菅原神社祠官、「菟蘭居集」著、歌；[千百人一首]入、[吉従(；名)の通称/号]通称；光三郎/平六/孫右衛門、号；菟蘭居がらんきよ(菟蘭は[ががいも]/蘿摩)
- M4722 **良順**(よしより・勝野かつの、田宮如雲2男) 1840-1902⁶³ 1855(安政2)尾張名古屋藩士勝野点敏の養子、1857藩主慶勝の小姓/78安政大獄で慶勝退隠；江戸戸山別邸警備；79反対派により左遷、帰国/実父如雲も蟄居減禄、1862(文久2)慶勝再起により小姓頭取；密命で京大坂で活動、1867(慶応3)父如雲と共に京の慶勝を助け大政奉還・王政復古に貢献、1868目付、良順は三河刈谷藩問題を処理/留書奉行；外交を兼務、成瀬正肥指揮下参謀；信濃に出陣、

徳川家家令に就任/1869名古屋藩権大参事、東京で徳川家の顧問、国学者/陽明学者、
 退任後名古屋西二葉町で私塾[梅檀舎]を開設;皇学・漢学を教授;門下数百名、
 [良順(;名)の字/通称/号]字;倫文(ともみ?)、通称;釜之進、号;素心堂/梅檀舎、
 法号:篤行院

義頼(よしより・山名) → 玉山(ぎよくざん・山名、幕臣/歌人) 1 6 4 0
 慶頼(よしより・有馬) → 頼威(よりしげ・有馬ありま、藩主/砲術) P 4 7 2 1
 良因朝臣(よしよりのあそん) → 素性(そせい;法諱、廷臣/僧/歌人) 2 5 2 3
 預死了人(よしりょうじん) → 性均(しょうきん;法諱、唯阿、本願寺派僧) Q 2 2 9 5

I4706 与四郎(よしろう・長屋ながや)? - ? 加賀吉崎の船問屋;1668八戸沖で遭難/漂着;
 陸路江戸まで行き訴訟;決着を得て東海道を帰国、伊勢で大火、
 帰郷後;1712経験をもとに紀行「海陸世話日記」著

与四郎(よしろう・大中臣) → 性信(しょうしん;法諱、真宗僧;親鸞門) J 2 2 9 3
 与四郎(よしろう・小村) → 宗訊(そうじん・小村こむら、連歌師) C 2 5 2 2
 与四郎(よしろう・田中) → 利休(りきゅう・千せん宗易/田中、茶人) 4 9 2 3
 与四郎(よしろう・酒井) → 重忠(しげただ・酒井さかい、藩主/記録) R 2 1 3 4
 与四郎(よしろう・酒井) → 忠孝(ただたか・酒井さかい、藩主/和学者) X 2 6 3 6
 与四郎(よしろう・橘屋/久野) → 其律(きりつ・永日庵えいじつあん、狂歌) D 1 6 7 2
 与四郎(よしろう・熊野) → 正紹(まさつぐ・熊野くまの、漢学/地誌家) D 4 0 9 2
 与四郎(よしろう・滝沢) → 有節(ゆうせつ・滝沢たきざわ/沢、俳人) D 4 6 1 3
 与四郎(よしろう・河北) → 藤茂(ふじしげ・河北かわきた/度会、師職/国学) I 3 8 0 8
 与四郎(興四郎よしろう・竹内) → 以德(もちのり・竹内たけうち、藩士/国学) K 4 4 4 4
 与四郎(よしろう・大草) → 小雲(しょううん・大草おおぐさ/藤岡、茶道) V 2 2 1 8
 吉郎(よしろう・広江) → 秋水(しゅうすい・広江ひろえ、商家/詩人) X 2 1 7 1
 義郎(よしろう・金井) → 質直(ただなお・金井、藩士/蝦夷郡代) Q 2 6 2 5
 与次郎(よじろう・永井) → 正次(まさつぐ・永井ながい、幕臣/和学) R 4 0 2 2
 与次郎(よじろう・萩原) → 久敬(ひさたか・萩原はぎはら、国学者) K 3 7 6 1
 誉次郎(よじろう・内藤) → 存守(ありもり・内藤ないとう/幼名;舍利、神職/国学) F 1 0 9 0
 吉郎太夫(よしろうたいふ・岩橋) → 長泰(ながやす・岩橋いわはし、庄官/歌人) L 3 2 2 4

I4707 与次郎兵衛(よじろべゑ;通称・村上むらかみ)?-? 江後期陸中岩手郡篠本の農業、
 村民に日常知識(習字・読書・耕作・上納・検地・訴状など)を教育、1847(弘化4)「俗言集」著
 与信(よしん・穂積) → 与信(ともみぶ・穂積ほづみ、材木商/和算) Q 3 1 1 7

I4708 与人(よじん・根本ねもと) 1769 - 1838 70 岩代二本松若宮の酒造業/俳人、
 1819(文政2)「黒塚集」編、
 [与人(;号)の通称/別号]通称;与一兵衛、別号;自笑斎、屋号;油屋、
 法号;自笑斎天祐与人居士

I4709 与助(与祐よすけ・志田垣しだがき)?-? 江中期大阪の絵師、
 1748「難波丸綱目」49「女教文海智恵袋」67「女文硯四季玉章」、「諸国問屋並船宿運賃控」著、
 [与助(;通称)の名]名;増栄

世亮(よすけ・箕浦) → 靖山(せいざん・箕浦みのうら/佐々木、藩士/儒者) B 2 4 7 5
 与助(よすけ・秋元) → 梅園(ばいえん・秋元あきもと、藩士/儒者) 3 6 6 4
 与助(よすけ・熊谷) → 令徳(よしより・熊谷くまがい/宮崎、藩士/歌) M 4 7 5 9
 与助(よすけ・原) → 清郷(きよさと・原はら、藩士/和学/歌) V 1 6 0 4
 与介(よすけ・藤田) → 幽谷(ゆうこく・藤田ふじた、彰考館総裁) 4 6 0 1
 予介(よすけ・伊沢) → 予(たのし・伊沢いざわ、儒詩/歌/教育) V 2 6 4 2
 予助(よすけ・松村) → 吉冬(よしふゆ・松村まつむら、国学者) G 4 7 8 5
 与清(よせい・小山田) → 与清(ともきよ・小山田/高田、国学/歌) 3 1 6 0
 誉正(よせい・桂) → 誉正(たかまさ・桂かつら、大庄屋/国学/歌人) D 2 6 7 6
 誉重(よじゅう・桂) → 誉重(たかしげ・桂、誉正の甥/農政/国学) C 2 6 8 2
 与十郎(よじゅうろう・久徳) → 重徳(しげのり・久徳きゅうとく、藩士/日記) S 2 1 1 8
 与総(よそう・武内) → 兼善(かねよし・武内たけうち/国方、藩士) U 1 5 9 8

- I4710 **与藏**(よぞう・坂場さかば、太右衛門治時男)1750-1820⁷¹ 水戸藩士;1746家督継嗣;郡方、
 松岡郡を管轄する郡奉行所の下役を33年間勤務、1797禄百石;町奉行に昇進、
 南郡紅葉組の郡奉行小宮山楓軒を援助;殖産に治績、藏奉行/普請奉行を歴任;1819致仕、
 1810(文化7)「百工貫通」、「国用秘録」著、
 [与藏(;通称)の名/字/号]名;意時、字;由之、致仕後号;流謙
 与三(よぞう・門司もじ) → 宗忍(そうにん;法名、門司、武将/連歌) C 2 5 6 6
 与三(よぞう・飯田) → 範正(のりまさ・飯田いいだ、藩士/連歌) F 3 5 7 6
 与三(よぞう・青山) → 知次(ともつぐ・青山、藩家老) P 3 1 8 1
 与三(よぞう・青山) → 憲次(のりつぐ・青山あおやま、家老/公武合体) H 3 5 0 5
 与三(よぞう・奈古屋) → 彰(あきら・奈古屋なこや、藩士/歌人) I 1 0 0 6
 与藏(よぞう・矢部) → 騰谷(とうこく・矢部やべ、儒者/幕府同心) E 3 1 1 2
 与藏(よぞう・那波) → 魯堂(ろどう・那波なば、儒者/藩儒) C 5 2 2 3
 与藏(よぞう・那波) → 網川(もうせん・那波なば/佐々木、儒者) I 4 4 6 0
 与藏(よぞう・菊川) → 延年(のぶとし・菊川きくかわ、庄屋/儒・国学) I 3 5 1 6
 与惣右衛門(よそうえもん・笠原) → 孟懿(たけよし・笠原、幕臣/歌人) O 2 6 9 0
 与惣右衛門(よそうえもん・真宮/橋本) → 稻斎(とうさい・橋本はしもと、藩士) E 3 1 2 5
 与惣右衛門(よそうえもん・大野) → 章美(ふみよし・大野おおの、国学/歌人) I 3 8 0 7
 与惣右衛門(よそうえもん・新庄) → 直恒(なおつね・新庄しんじょう、幕臣/国学) N 3 2 4 3
 与惣右衛門(よそうえもん・大山) → 好古(よしひさ・大山おおやま/藤原、国学) M 4 7 0 2
 与総右衛門(よそうえもん・木村) → 黙老(もくろう・木村、藩家老/芸能) B 4 4 1 4
- I4711 **与三左衛門**(よそうざえもん・出口でぐち)?-? 江中期大阪の書家、
 1774(安永3)「本朝千字文」編/74「須磨詣」「奈良名所」書
 与三左衛門(よそうざえもん・栗田) → 樗堂(ちようどう・栗田くりた、酒造業/俳人) K 2 8 4 3
 与三左衛門(よそうざえもん・山崎) → 昌満(まさみつ・山崎まさき、藩士/歌人) T 4 0 4 6
 与惣左衛門(よそうざえもん・菊地) → 誠之(もとゆき・菊地きくち、国学者) J 4 4 8 6
 与三治(よそうじ・岡田) → 重威(しげたけ・岡田おかだ/小島、藩士/歌) N 2 1 8 5
 与宗治(よそうじ・武藤) → 千郷(ちさと・武藤むとう/嶋原、国学/歌) N 2 8 6 4
 与惣次(よそうじ・高橋;実父と同字) → 椋斎(えきさい・狩谷かりや、国学/漢学者) 1 3 0 7
 与惣次(よそうじ・小倉) → 吉貞(よしさだ・小倉おくら、和算家) D 4 7 3 7
 与惣弥(よそうや・岡村) → 教邦(のりくに・岡村おかむら、藩士/国学) H 3 5 0 6
- I4712 **与三右衛門**(よそえもん・鶴屋つるや)?-? 江中期宝永享保1704-36頃加賀金沢郡宮腰の人、
 文筆家、「越賀雑記」「諸宗仏閣記」著
 与三[惣/総]右衛門(よそえもん・鶴田) → 卓池(たくち・鶴田、紺屋/俳人) E 2 6 2 8
 与三右衛門(よそえもん・野村) → 兎十(とじゅう・野村、俳人) O 3 1 0 9
 与三右衛門(よそえもん・伊藤) → 友吉(ともよし・伊藤いとう/伴、藩士/歌人) U 3 1 1 0
 与三右衛門(よそえもん・丹羽) → 氏祐(うじすけ・丹羽にわ、商家/心学) 1 2 3 3
 与三右衛門(よそえもん・岸) → 通昌(みちまさ・岸さし、和算家) C 4 1 5 4
 与三吉(よそきち・不破) → 正寛(まさひろ・不破ふわ、藩士/藩政改革) L 4 0 1 7
 余所吉(よそきち・河合) → 祐之(すけゆき・河合かわい、藩士) H 2 3 2 4
- N4792 **与曾子**(よそこ・津軽つがる、添田貞成女)1630-92⁶³ 弘前藩3代藩主津軽信義(1619-55)の側室、
 歌人、津軽為貞(1649-1731/僧・還俗/詩人)の母;1668(寛文8)高野山脱出の為貞と面会、
 [与曾子(;名)の別称]阿与曾およそ/阿德おとく
 与曾五郎(よそごろう・矢口) → 養達(ようたつ・斎藤さいとう/矢口、藩医) B 4 7 4 5
 与三左衛門(よそざえもん) → 与三左衛門(よそざえもん)
 与三太夫(よそだゆう・淀屋) → 松雨(しょうう・佐々木ささき、町役/俳人) F 2 2 2 8
 余所之助(よそのすけ・西坂) → 成庵(せいあん・西坂にしざか、藩儒/詩文) 2 4 5 6
 与三八(よそはち・西永) → 広林(ひろしげ・西永にしなが、藩士/和算家) F 3 7 9 8
 与三八(よそはち・北本) → 栗(りつ・北本きたもと/石黒、和算家) B 4 9 5 4
 与三平(よそへい・岡田) → 陶然(とうねん・岡田、俳人) G 3 1 8 6
- I4713 **与三兵衛**(初世よそべえ・鈍通どんつう)?-1771 江戸深川六間堀の歌舞伎作者:2世津打つうつ治兵衛門、

1756森田座で連名/市村・中村座で協力;三世治兵衛襲名/1762中村座で立作、
1765初世鈍通与三兵衛に改名、主として中村座で執筆/浄瑠璃の趣向を得意/1769隠居、
1761「間山女敵討」/68「今於盛末広源氏」/道行尾花露」/69「念力櫛葉鏡」「雲の峰」外著多数、
狂歌;徳和歌後万歳集;1句入(竹杖為軽がるの求めて藤娘の大津絵の扇に)、

[たれ人のゆかりの花の姿ぞや今も大津に年をふり袖](後万歳;783/一河斎)

[鈍通与三兵衛(;号)の別号]前号:津打つう伝十郎/三世津打つう治兵衛/其二、

俳名;英子/狂名;一河斎いちがさい

与三兵衛(2世よそべえ・鈍通)→ 治兵衛(4世いへえ・津打つう、歌伎作者) F 2 1 6 3

与三兵衛(よそべえ・多紀)→ 義恭(よしやす・多紀たき、藩士/国学/歌) H 4 7 8 0

与三兵衛(よそべえ・荒木)→ 為理(ためまさ・荒木あき/山岸、国学/歌) V 2 6 2 9

与三兵衛(よそべえ・島屋)→ 正卿(まさのり・河島かわしま、商家/詩人) P 4 0 0 6

与三兵衛(よそべえ・不破)→ 守直(もりなお・不破むね、藩士/和漢学) L 4 4 1 7

与三兵衛(よそべえ・小島屋)→ 正茂(まさもち・蒲がま、国学/者) O 4 0 9 7

与三兵衛(よそべえ・小島屋)→ 八十村(やそむら・蒲がま、正茂男/国学/歌) F 4 5 7 7

与三兵衛(よそべえ・大黒屋)→ 定豪(さだかつ・富山とみやま、商家/歌人) O 2 0 8 9

与三兵衛(よそべえ・蒲)→ 幸言(ゆきのぶ・蒲がま、八十村男/商家/国学) G 4 6 7 6

与惣兵衛(よそべえ・薄田/橋)→ 以貞(もちさだ・薄田すすきだ/橋/常磐木、神道/兵法) B 4 4 3 9

与惣兵衛(よそべえ・上島)→ 鬼貫(おにつら・上島うえじま/平泉、俳人) 1 4 2 4

与惣兵衛(よそべえ・亀屋)→ 克明(かつあき・黒田くろだ、町役/国学者) U 1 5 5 9

I4714 与曾布(よそふ・今奉部いままつりべ)?-? 733下野の防人;火長かちよう、万葉廿4373:醜の御楯の歌、
[今日よりは顧みなくて大君の醜じの御楯みたと出で立つ我は]

誉退(よたい;法諱、) ?-? 平安鎌倉期;南都の僧/法師、

1237刊[檜葉集]2首入、

[百首歌よみ侍りけるに、

いにしへをこふる涙かたちばなの下吹く風におつるしらつゆ](檜葉;夏157)

I4715 世忠(よただ・橋たちばな、公彦男)?-? 平安期廷臣;従五下/橘広相の孫/公頼の甥、
藏人所衆/歌人;957(天曆十一/二月)村上天皇の「藏人所歌合」(藏人所衆歌合)方人参加、
[夕暮はをりこそまされ梅むめの花をかをししのぶる人しなれば](藏人所歌合;左3)

依田亭川常(よだていかわつね・依田川常)→ 川常(かわつね・亭川常、狂歌) P 1 5 8 2

与太夫(よだゆう・藤田)→ 友愛(ともちか・藤田ふじた/秦/永本、神職) W 3 1 2 4

与太郎(よたろう・山川)→ 正典(まさのり・山川やまかわ、商家/国学) T 4 0 4 0

余丹坊(よたんぼう・糟句齋)→ 糟句齋余丹坊(かすくさいよたんぼう、絵師/狂歌) F 1 5 2 0

余丹坊酔酩(よたんぼうめいてい・池田涼岷)→ 糟句齋余丹坊(かすくさいよたんぼう、狂歌) F 1 5 2 0

如鉄(よちよる・金/脇田)→ 如鉄(じよてつ・よちよる・脇田、藩士/歌人) M 2 2 7 2

Q4744 よつ(;姓不詳) ?-? 江前中期;戸田茂睡家の娘or了然尼家出仕の娘?、
歌人;了然尼撰(茂睡編)[若むらさき]2首入、

[暮てゆく秋のかたみはなかなかに残るもさびし庭の白菊](若むらさき;82残菊)

[とはれつる夜半の形見と忍ばれて恨みし鳥の音ねさへうれしき]

(同;154暁恋/後朝の鳥音は辛かったが今は彼の訪問を受入れた夜の形見とし嬉しい)

与通(よつう・金井)→ 宗栄(そうえい・金井かない、歌人) K 2 5 9 1

四辻左大臣(よつじのさだいじん)→ 善成(よしなり・四辻よつじ/源、廷臣/歌学) 4 7 2 1

四辻宮(よつじのみや)→ 善成(よしなり・四辻/源、廷臣/歌学) 4 7 2 1

4730 四綱(四綱よつな・大伴おおも宿禰)?-? 奈良期729-49頃廷臣;太宰府防人司佑さきもりのつかさのじよう、
730(天平2)前後大宰帥だざいのそち大伴旅人の配下;万葉三期歌人5首:旅人に餞別歌、
738(天平10)頃大和少掾/745頃雅楽助正六上、
[月夜つよよし川音かはと清さやけしいざここに行くも去ゆかぬも遊びて帰ゆかむ]、
(万葉;四571/大納言として帰郷する旅人の蘆城あしき駅家での餞別宴)

世艶(よつや・呉竹)→ 呉竹世艶(くれたけのよつや、狂歌) B 1 7 8 2

I4716 四谷庵月良(よつやあんつきよし;号、姓;津江、名;正政/正路/正道、通称;林蔵)1789-1870 幕臣、
江戸四谷船町住/狂歌作者;北斗連判者、書を左手で能くす、角筈十二社に狂歌碑建立、

- 盛大な賀筵を主催、1829「狂歌桂花集」30「濤花集」48「狂歌葦垣集」編
 四谷南蘋(よつやなんびん) → 雲峯(うんぼう・大岡おおおか、絵師) E 1 2 0 5
 誉道(よどう;名) → 了清(りょうせい;法諱・中川、真言僧/歌) M 4 9 4 1
 吉年(よとし、舎人) → 吉年(きね・舎人、女官;万葉歌人) B 1 6 6 4
- I4717 淀川(よどがわ、倉椀家くらわんか)?- ? 1848存 大阪俄師、1848「古今二和歌集」編、
 「風流俄にわか天狗」著
- I4718 淀君(よどぎみ、浅井長政女) 1567?-161549? 母;織田信長妹の小谷の方(お市)、近江小谷城の生、
 1573父長政の小谷城落城;母・妹二人と尾張清須城住;織田信長の弟信包に養育される、
 1582柴田勝家と再婚した母に随い越前北ノ庄に移住/83勝家が豊臣秀吉に敗北;母自害、
 以後秀吉の庇護/のち側室、山崎淀城に住;1593秀頼を産む、秀吉没後秀頼を擁し大坂城住、
 1600(慶長5)関ヶ原戦後も豊臣再興を図る;二度の大坂の陣を経て秀頼と共に自害、
 「豊右府母子簡牘」著、
 [淀君(;通称)の幼名/別通称]幼名;茶々、別通称;淀殿よどどの/西の丸殿/二の丸殿/お袋さま
 予内(よない・長沢) → 棗庵(そうあん・長沢、医者/里正/救荒) F 2 5 9 4
- I4719 世良親王(よながしんのう/よよし-/よしなが-/ときなが-/ときよし、後醍醐天皇2皇子) 1306or08-3025or23、
 鎌倉期歌人、母:西園寺実俊女の遊義門院一条、尊良・護良・宗良親王・後村上天皇の兄弟、
 龜山天皇皇女昭慶門院喜子の猶子/北畠親房が乳父として養育、二品/上野太守/大宰帥、
 早世;親王没に伴い親房も出家、遺言で別業河端殿が禅院として寄進(現嵐山臨川寺)、
 歌;1321自邸に後宇多法皇を迎え「三首歌合」主催、1329中殿御会参加、拾遺現藻・藤葉集入、
 勅撰2首;続後拾遺(585)新千載(619)、
 [行末ゆくすは山の幾重にかさぬともみやこ隔つな峰の白雲](続後拾;羈旅585)
- F4740 世入道へまうし(よにゅうどうへまうし)?-? 江戸市ヶ谷田町住/常陸屋の隠居、狂歌作者、
 1785「徳和歌後万載集」4首入、
 [又六が門かどごらくときくからにさかむに仏のいやたうとけれ](後万載;十四釈教837)
 (本歌;一休和尚が大徳寺門前の酒屋又六で泥酔し目覚めた時の歌、
 「極楽をいつくの程と思ひしに杉葉立てたる又六が門」/釈迦牟尼仏さかむにぶつに酒を掛ける)
- M4792 余年(よね・近藤こんどう、源右衛門女?) 1833-191987 周防山口の国学者/歌人、
 養子近藤(旧姓大玉)清石きよし(1833-1916)と結婚
 米一馬(よねいちば) → 一馬(いちば・貞松齋、米沢、華道家/俳) G 1 1 3 7
- N4773 米積(よねかず・高島たかばたけ、) 1803-187775 加賀金沢の蔵宿業(倉庫業兼金融業)、
 国学者;田中躬之みゆき門、源氏物語研究會を創始;同志と歌筵を開く、米護よねりの父
 1869(明治2)多太神社祠官/小坂神社祠官;三浦俵三と号す、1877(明治10)没、
 [むら山をおほひしゆきの上こそふもとは見ゆれ越の白山](白山を詠む)
 [米積(;名)の通称/号]通称;伊兵衛(・鍋屋)/俵三(・三浦)、号;有賀廼舎ありのや
 米吉(よねきち・日野) → 信盈(のぶみつ・日野ひの、歌人) J 3 5 7 5
- 04746 米子(よねこ・野々村のむら、初名;峰子、旧姓;稲田) 1843-192684 近江大溝の歌人/堂上家に出仕、
 歌:[鴉のうみ]入
 米子(よねこ・池田) → 鑑子(かんこ・池田/戸田、藩主室/歌) T 1 5 6 2
 米三郎(よねさぶろう・田内) → 梅軒(ばいけん・田内たうち、陶磁研究家) B 3 6 1 0
 米三郎(よねさぶろう・土屋) → 邦敬(くにたか・土屋つちや、農業/庄屋) E 1 7 3 5
 米三郎(よねさぶろう・松田) → 豊幹(とよもと・松田まつだ、国学者) W 3 1 4 9
 米沢中将(よねざわのちゅうじょう) → 斉憲(なりゆき・上杉うえずぎ、藩主/歌) K 3 2 2 9
- N4768 よね女(よねじょ・多川たがわ、) 1744-181168 陸奥仙台藩士多川実包の妻、歌人
- I4720 米女(よねじょ・山口、名;米よね) 1806-186257 摂津伊丹の酒造業山口太乙たいおつの妻、
 夫と俳諧を嗜む、夫太乙3回忌追善集「なこり月」編(息梅賀と共編)
 米次郎(よねじろう・河崎) → 玄子(げんし・河崎かわさき、俳人) J 1 8 3 6
 米次郎(よねじろう・吉岡) → 芳年(よしとし・月岡/歌川、吉岡、絵師) E 4 7 9 6
 米蔵(よねぞう・市河) → 雲潭(うんたん・鍋木かぶらぎ、絵師) D 1 2 9 4
 米蔵(よねぞう・丸山) → ノ左(べつさ・丸山まるやま、農業/俳人) 2 7 9 6
 米之助(よねのすけ・志賀/原) → 徳齋(とくさい・原はら、儒者/紀行) K 3 1 7 2

- N4773 **米護**(よねもり・高島たかばたけ、米積よねかず男)1830-1901⁷² 加賀金沢の商家(蔵宿業)の生、
国学者;田中躬之みゆき門、「紀堂茶話」著、
[米護(;名)の通称/号]通称;得太郎/伊平、号;紀堂/高得
米守(よねもり・花咲庵) → 花咲庵米守(はなさきあんよねもり、江戸狂歌) F 3 6 4 4
- 4731 **余野子**(よのこ・鶴殿うどの、村尾誠正女)1729-88⁶⁰ 歌人;賀茂真淵門/県門三才女の1、
漢学;兄士寧門/服部南郭門/詩、紀伊侯の大奥に出仕;一時紀州住;
荷田蒼生子に古今集等の講義を受ける、藩主徳川宗将没後に尼;涼月院、
「岐蘇略記」「月なみ消息」「十二月消息文」「与之子之文」著、1788?家集「佐保川」著、
「涼月遺草(余能子家集)」(;1793村田春海編)、
[故郷の佐保の河水流れての世にもかくこそ月はすみけれ](佐保川の冒頭歌)、
[余野子(;名)の別号/号]別名;清子きよこ、号;瀬川(;出仕名)、法号;涼月院玉林妙照法尼
与之助(よのすけ・長井) → 雅楽(うた・長井ながい、藩士/開国論) D 1 2 0 0
与之助(よのすけ・歌川) → 貞虎(さだとら・歌川うたがわ、絵師) F 2 0 3 9
与之助(よのすけ・佐藤) → 政養(まさやす・佐藤さとう、蘭学/測量) I 4 0 1 0
代之介(よのすけ・功刀) → 君章(くんしょう・功刀くぬぎ、藩士/詩人) B 1 7 8 8
代之丞(よのすけ・小島) → 礼重(れいじゅう・小島/児島、藩士) D 4 7 6 2
余明軍(よのみょうぐん) → 明軍(みょうぐん・余よ/金こん、万葉歌人) 4 1 4 1
与派(よは) → 柏舟(はくしゅう・宗趙そうじゅう、臨濟僧) D 3 6 2 2
与伯(よはく・金井) → 宗禎(そうてい・金井かない、歌人) K 2 5 9 2
- I4721 **与八**(よはち・富川とみかわ/藤川ふじかわ、別号;富川与八郎)?-? 江中期上方歌舞伎作者;合作者、
1723(享保8)京の都万太夫座で沢村文治と合作(富川与八郎名)、1732藤川与八と改号、
1735(享保20)富川与八と改号;大坂中座・半四郎座で20余作の合作、
1723「けいせい小塩山」33「源氏六十帖」36「安宅甚平蔦山道」「播州女業平」外合作多数
- I4722 **与八**(初世よはち・日比野、西村屋)?-? 江戸書肆, 1781-黄表/合巻「花暦八笑人」刊
- I4723 **与八**(二世よはち・西村屋、山巴亭青江)?-? 江戸書肆1789-1830最盛, 黄表/合巻刊
- 与八(よはち・竹中) → 尹雄(ただお・竹中、藩士/歌人) P 2 6 2 6
与八(よはち・野矢) → 常方(つねかた・野矢のや、藩士/槍術/歌) B 2 9 9 6
与八(よはち・草加) → 驪川(りせん・草加くさか、儒者) B 4 9 3 8
与八(よはち・伊南) → 芳通(よしみち・伊南いなみ、軍学者) H 4 7 3 6
与八(よはち・羽場六) → 尹淳(これあつ・羽生はにゅう、商家/歌人) R 1 9 1 4
与八郎(よはちろう・伊南) → 芳通(よしみち・伊南いなみ、軍学者) H 4 7 3 6
与八郎(よはちろう・神田) → 良近(よしちか・神田かんだ、藩士/兵学) E 4 7 4 9
与八郎(よはちろう・藤川) → 与八(よはち・富川/藤川、歌舞伎作者) I 4 7 2 1
与八郎(よはちろう・千賀) → 信立(のぶたつ・千賀ちが/せんが、家老/武術) B 3 5 8 8
与八郎(よはちろう・清原) → 範忠(のりただ・清原、軍記作者) E 3 5 9 5
与八郎(よはちろう・飯野) → 厚比(あつとも・飯野いひの/木下、国学/歌) B 1 0 3 4
与八郎(よはちろう・白岩屋) → 幸彦(ゆきひこ・小沼おぬま、商家/国学者) F 4 6 3 4
与八郎(よはちろう・小池) → 曲江(きよくこう・小池こいけ、藩士/絵師) O 1 6 8 8
与八郎(よはちろう・木下) → 徳精(のりきよ・木下きのした、国学/信仰) I 3 6 0 9
与八郎(よはちろう・隈部) → 維政(これまさ・隈部くまべ、国学者) Q 1 9 6 5
与八郎(よはちろう・小野/田辺屋) → 諸雄(もろお・小野おの、伊勢屋/歌) J 4 4 4 8
与八郎(よはちろう・進藤) → 泰世(やすよ・進藤しんどう、商家/国学者) G 4 5 0 1
世平(よひら・武居) → 世平(つぐひら・武居たけい、歌人/狂歌) 2 9 8 2
- I4724 **誉風**(よふう) ? - ? 俳人;1690北枝「卯辰集」3句入、
[砂よりや霞ゆり出す岸の波](卯辰集;一63/浪が霞を作る発想)
与布禰(よふね・白川) → 白川与布禰(しらかわのよふね、戯作/狂歌) D 2 2 1 4
余富楼(よふるう) → 遠影(とおかげ・丁野ちやうの、藩士/官吏/歌) V 3 1 7 5
世平(よへい→つぐひら・武居) → 世平(つぐひら・武居、歌/狂歌) 2 9 8 2
世平(よへい・高橋) → 壽世(ひさつぐ・高橋たかはし、幕臣/国学) K 3 7 1 1
与平(よへい・近藤) → 曲浦(きよくほ・近藤、俳人) P 1 6 3 3

与平(よへい・渡辺) → 正利(まさとし・渡辺わたなべ、農業/地誌) E 4 0 5 4
 与平(よへい・近藤) → 忠直(ただなお・近藤こんどう、神職/国学) V 2 6 3 6
 与平(よへい・加瀬) → 与平(ともひら・加瀬かせ、里正/国学) U 3 1 6 4
 与平(よへい・樋口) → 光信(みつのお・樋口ひぐち/源/北原、国学/銀行家) K 4 1 1 9
 与平(よへい・松本) → 英徳(ひでのり・松本まつもと、国学者/歌) L 3 7 2 8
 与平次(よへいじ・草薙) → 盛之(もりゆき・草薙/橘、兵法家) G 4 4 7 5
 与平次(よへいじ・桑原) → 清就(きよなり・桑原くわばら、神職/国学) U 1 6 3 0
 与平次(与平治よへいじ・菱屋) → 重徳(じゅうとく・寺田、書肆/俳人) I 2 1 1 7
 与平次(与平治よへいじ・菱屋) → 友英(ともひで・寺田、重徳男/書肆) 3 1 6 2
 与平治(よへいじ・中小路) → 貞章(さだあき・中小路なかこうじ/平、国学) O 2 0 9 3

I4725 与兵衛(よへえ・寺岡てらおか)? - ? 江前期加賀金沢藩士/1678(延宝6)算用者小頭、
 1641(寛永18)「竹千代様御誕生ニ付献上御道具」58「中納言様御在国中御進物被下物之帳」、
 「二之丸御能被仰付覚書」「諸々御国大社ニテ公方様御祈禱被仰付候覚」著、外記録多数、

I4726 与兵衛(よへえ・小神野おかの・初姓;永滝)?-? 1777存 讃岐高松藩士小神野家を継嗣;藩士、
 子孫のために高松藩歴代の逸話・武勇談を蒐集し語る、「小神野夜話」「小神野筆乗」著

Q4717 与兵衛(よへえ・華屋/花屋はなや、幼名;弥助、別名;小泉與兵衛) 1799-185860 江後期の寿司職人、
 霊岸島の生/伝染病で両親没/1810寿司屋開店/のち両国に移住、
 文政(1818-30)頃江戸前の握り寿司考案;1824[華屋]開業、江戸三鮎の1つ[與兵衛寿司]、
 豪華な寿司を提供;奢侈禁令の天保の改革で投獄

I4727 与兵衛(よへえ・栃内とちない、吉豊の長男) 1801-7676 陸中盛岡藩士/1822御徒頭/勘定奉行、
 御目付本役、弘化1844-48頃異国船出沒に際し野辺地警備の総締を務む、
 1868(慶応4)家老に昇進、1869隠居、
 謙信流兵法;新渡戸維民門/謙信流見坊派の師範となる/俳諧を嗜む、
 「武見伝口決」「要門備矩」「備立決得之巻」「押前制方聞書」「勝建之巻増註口訣」著、
 [与兵衛(;通称)の幼名/名/別通称/号]幼名;吉之助、名;逢吉、
 別通称;吉寿/吉中/吉助よしすけ、号;竹水

与兵衛(よへえ・高木) → 指月散人百泰(しげつさんじんひやくたい、箏曲家) R 2 1 5 5
 与兵衛(よへえ・松井) → 晟時(あきとき・松井まつい、藩士/剣術) D 1 0 6 1
 与兵衛(よへえ・武元) → 北林(ほくりん・武元/明石、庄屋/儒者) E 3 9 0 8
 与兵衛(よへえ・五味) → 貞之(さだゆき・五味ごみ、藩士/故実家) K 2 0 1 1
 与兵衛(よへえ・進藤) → 重記(しげのり・進藤/菅原、神職/地誌) S 2 1 0 6
 与兵衛(よへえ・谷沢/油与) → 近續(ちかね・沢/谷沢、商家/歌文) B 2 8 5 0
 与兵衛(よへえ・中野) → 利雪(りせつ・中野なかの、俳人) B 4 9 3 5
 与兵衛(よへえ・深沢) → 十知(十雉じゅうち・深沢、商家/俳人) Y 2 1 0 2
 与兵衛(よへえ・深沢) → 斗昔(とせき・深沢、十知男/俳人) O 3 1 2 9
 与兵衛(よへえ・仙石) → 廬元坊(ろげんぼう・佐野/仙石、俳人) 5 2 0 3
 与兵衛(よへえ・神沢) → 杜口(とこう・神沢かんだわ、幕臣/俳人) 3 1 4 2
 与兵衛(よへえ・森) → 雪翁(せつおう・森もり、藩士/文筆家) K 2 4 7 3
 与兵衛(よへえ・三井) → 親和(しんな・三井みつゐ、書家/篆刻) P 2 2 5 0
 与兵衛(よへえ・久野) → 綾人(あやんど・庭訓舎、書家/狂歌) C 1 0 7 8
 与兵衛(よへえ・島屋) → 市人(いちんど・朝早あさはやの、狂歌) E 1 1 3 4
 与兵衛(よへえ・宮野) → 尹賢(いんけん・宮野みやの、儒者) I 1 1 5 0
 与兵衛(よへえ・猪狩) → 振鷺亭(しんろてい・猪狩いかり、戯作者) 2 2 3 2
 与兵衛(よへえ・畑/山形屋) → 永治(えいじ・畑はた、俳人) C 1 3 2 7
 与兵衛(よへえ・中山) → 潮堂(ちようどう・中山なかやま、俳人) J 2 8 5 6
 与兵衛(よへえ・上田) → 可松(かしよう・上田うえだ、俳人) L 1 5 9 4
 与兵衛(よへえ・鈴木) → 三岳(さんがく・鈴木すずき、俳人) L 2 0 9 3
 与兵衛(よへえ・道具屋) → 文楽軒(初世ぶんらくけん・植村、人形浄瑠璃) G 3 8 5 9
 与兵衛(よへえ・本郷) → 弘斎(こうさい・本郷ほんごう、藩士/書) I 1 9 8 4
 与兵衛(よへえ・中) → 石水(せきすい・中なか、書家) K 2 4 2 9

与兵衛(よへえ・中島) → 孝昌(たかまさ・中島なかじま、里正/俳人) D 2 6 7 3
 与兵衛(よへえ・中島) → 黙池(もくち・中島/千葉、俳人) B 4 4 0 0
 与兵衛(よへえ・建部) → 忠可(ただよし・建部たけべ/源、歌人) U 2 1 5 0
 与兵衛(よへえ・渡辺) → 正利(まさとし・渡辺わたなべ、農業/地誌) E 4 0 5 4
 与兵衛(よへえ・江川屋/大鐘) → 篤(あつし・大鐘おおかね/印田、商家/国学) H 1 0 2 2
 与兵衛(よへえ・曾我部) → 正積(まさかず・曾我部そがべ、国学/歌人) Q 4 0 4 2
 与兵衛(よへえ・曾我部) → 正興(まさおき・曾我部、正積男/国学/歌) Q 4 0 4 1
 与兵衛(よへえ・小津) → 長澄(ながすみ・小津おつ/筒井、国学者) L 3 2 4 0
 与兵衛(よへえ・石寺) → 直淑(なおとし・石寺いしでら、経師/歌人) L 3 2 1 5
 与兵衛(よへえ・大原) → 正敷(まさのぶ・大原おおはら/源、国学/歌) O 4 0 4 2
 与兵衛(よへえ・加瀬) → 与平(ともひら・加瀬かせ、里正/国学) U 3 1 6 4
 与兵衛(よへえ・斎藤) → 明敏(あきとし・斎藤さいとう、藩士/歌人) H 1 0 6 6
 与兵衛(よへえ・須田) → 為春(ためはる・須田すだ、幕臣/国学) X 2 6 6 5
 与兵衛(よへえ・立木) → 定保(さだやす・立木たちき/源、藩士/国学) Q 2 0 9 2
 与兵衛(よへえ・柳下) → 清老(きよとし・柳下やなぎした、歌人) U 1 6 6 9
 与兵衛(よへえ・島村) → 光貞(みつさだ・島村しまむら、国学者) J 4 1 2 9
 与兵衛(よへえ・大草) → 小雲(しょううん・大草おおぐさ/藤岡、茶道) V 2 2 1 8
 与兵衛(よへえ・佐久間) → 義隣(よしちか・佐久間さくま、農業/国学) M 4 7 9 6
 与兵衛(よへえ・樋口) → 光信(みつのお・樋口ひぐち/源/北原、国学/銀行家) K 4 1 1 9
 代兵衛(よへえ・今田) → 政安(まさやす・今田いまだ、和算家) I 4 0 1 1
 四兵衛(よへえ・柳沢) → 安利(やすとし・柳沢やなぎさわ、幕臣/和学) G 4 5 9 4
 与方(よほう・下河辺) → 与方(ともかた・下河辺しもこうべ、和算家) P 3 1 3 2
 四方庵(よほうあん) → 宗徧(そうへん・山田やまだ、茶人) C 2 5 9 0
 四方庵(5世よほうあん) → 宗真(そうしん・代田しろた、茶華道/歌人) K 2 5 9 6
 与鳳亭(よほうてい) → 三笑(さんしょう・金井かない、歌舞伎作者) 2 0 5 2
 与鳳亭枝成(2世よほうていえだなり) → 枝成(えだなり、狂歌/戯作) C 1 3 1 2
 読兼(よみかね・陳芬館) → 陳芬館読兼(ちんぶんかんよみかね、千葉、狂歌絵師) K 2 8 9 6

K4708 夜見せ諸油(よみせのもろゆ) ? - ? 江戸狂歌;1787「才蔵集」入;

「ひとかしら寄せ手の陣のまくはうりわれ一番にいでむかは半」

(真桑瓜は六つ半に皮をむく)

I4729 読人志礼多(よみひとしれた、大膳亮好庵/本名;河野元貞)?-? 江戸牛込御門前の医官、狂歌四方連、狂歌知足振入、後万載集2首;

[われ一いちと真つ先かけてくひぬるは人にかつほの刺身なりけり](後万載;夏149/初鯉)

四方庵(よもあん→しほうあん) → 宗徧(そうへん・山田やまだ、茶人) C 2 5 9 0
 四方庵(よもあん) → 澧水(ほうすい・八木/中出、俳人) B 3 9 9 2
 蓬生庵(よもぎうあん・立野) → 春筋(はるとき・立野、儒者) G 3 6 5 5
 蓬生園(よもぎうえん) → 貞信尼(ていしんに・三輪みわ、歌妓/歌人) B 3 0 3 0
 蓬園(与茂芸園よもぎえん・井手) → 真棹(まさお・井手いで/西村、藩士、歌) N 4 0 3 6
 よもぎが杣人(よもぎがそまひと) → 懶斎(らんさい・藤井ふじい、藩医/儒者) 4 8 0 8
 蓬廬舎(よもぎのや、四方樹) → 忠順(ただまさ・村上、医者/国学/歌) F 2 6 8 6
 蓬舎(よもぎのや) → 魚淵(なぶち・佐藤/吉村、医/俳人) G 3 2 8 4
 蓬廬舎天然(よもぎのやてんぜん) → 延齡(えんれい/ながとし・平出、医者) C 1 3 2 4

I4730 四方作(よもさく;通称・武藤むとう、名;幸山) 1716-9984 出羽庄内藩士武藤良的の弟、槍術家、1757(宝暦7)庄内支藩の松山藩に招聘;槍術指南/1768庄内藩直指流徒槍指南、1787まで門弟多数に教授、指物製作に長ず、「心耕録」「一燈談」「大泉旧聞」著

四方様(よもさま) → 義直側室(よしなおのそくしつ・徳川、歌人) O 4 7 0 2
 四方蔵(よもぞう・野川) → 鶏周(けいしゅう・野川のがわ、俳人) G 1 8 0 2
 四方太郎(よもたろう・長山) → 茂作彦(もさひこ・三条、絵師/狂歌) B 4 4 1 9
 四方赤良(よものあから) → 南畝(なんぼ・大田、幕臣/狂歌) 3 2 3 3
 四方歌垣(よものうたがき) → 真顔(まがお・鹿都部、戯作/狂歌) 4 0 0 1

四方梅彦(よものうめひこ)	→ 梅彦(めめひこ・四方、戯作者/狂歌)	1 2 9 3
四方山人(よものさんじん)	→ 南畝(なんぼ・大田、狂歌詩)	3 2 3 3
四方新次(よものしんじこ)	→ 梅彦(めめひこ・四方、戯作者/狂歌)	1 2 9 3
四方助(よものすけ・片岡)	→ 渭南(いなん・片岡、俳人)	B 1 1 0 5
四方滝水(よものたきみず)	→ 米人(こめんど・酒月/坂月さかづき、狂歌)	D 1 9 9 5
四方真顔(よものまがお)	→ 真顔(まがお・鹿都部しかつべの、戯作/狂歌)	4 0 0 1
四方正木 梅彦(めめひこ・四方、戯作者/狂歌)		1 2 9 3
四方屋本太郎(よもやほんたろう、1780黄表紙「虚言八百万八伝うそはつびやくまんぼちでん」)		
	→ 南畝(なんぼ・大田、幕臣/狂歌詩)	3 2 3 3
四方郎(よもろう・坂本)	→ 朱拙(しゅせつ・坂本さかもと、医者/俳人)	2 1 5 3
予約(よやく・今村)	→ 宗博(むねひろ・今村いまむら、歌人)	D 4 2 6 6
世泰親王家右京大夫(よやすしのうけのうきょうだいふ) → 右京大夫(うきょうのだいふ、歌人)		B 1 2 9 2
夜々庵(よよあん)	→ 春朝(春潮しゅんちよう・吉川、商家/俳人)	K 2 1 2 6
与々如軒(よよじょけん)	→ 驪川(りせん・草加くさか、儒者/詩文)	B 4 9 3 8
世良親王(よよしんのう)	→ 世良親王(よながしんのう、後醍醐皇子・歌)	I 4 7 1 9
よよ丸(よよまる・北村)	→ 信精(のぶきよ・北村、歌人)	B 3 5 3 4
世々丸(よよまる・千家)	→ 俊信(としざね・千家せんげ、国学者)	M 3 1 5 6
予楽院(よらくいん)	→ 家熙(いえひろ・近衛、書/詩文)	1 1 5 9
予楽亭(よらくてい)	→ 幸豊(ゆきとよ・池上、名主/開墾/殖産)	F 4 6 0 9

- I4732 **頼章**(よりあき・仁木につき/本姓;源;清和流、義勝2男) 1299-1359⁶¹ 武将;義長の兄、足利氏に随い転戦、従四下兵部大輔/左京大夫/周防守、丹波・伊賀・伊勢の守護、足利尊氏の近臣;1351室町幕府執事/尊氏没後に致仕/出家、京に没、連歌作者;菟玖波集5句入(巻一15;尊氏主催「常在光院百韻連歌」参加の句、[枝残る老木の梅に花咲きて](菟;春15/前句;身をさりともと頼むばかりぞ)、[頼章(;名)の通称/法号] 通称;二郎三郎、法号;持地院道璟どうけい)
- K4730 **頼亮**(よりあき・松田まつだ/本姓;平)?-1511**戦死** 室町幕臣;足利義植・義澄の右筆奉行人、豊前守、北条早雲の小田原城入城を応援、細川澄元・將軍義澄方の属し大内義興・足利義種と対峙、1511(永正8)船岡山合戦に最後まで留まり戦死、歌人;1503(文亀3)三条西実隆より諏訪社法楽和歌を贈与、1503-5頃武家歌合参加(10首)、[帰る雁すがたは雲にかげらふのあるかなきとうち霞みつゝ](武家歌合;九番右)
- P4717 **頼章**(頼候よりあき・松平まつだいら、頼重5男) 1625-51**早世**²⁷ 母;松野(樺島吉明女/松月院)、讃岐高松藩士;上士5千石、和学者/書家、妻;七姫(樋口信康3女)、頼豊の父、[頼章(;名)の幼名/通称/法名]幼名;万吉、通称;図書、法名;瑞雲院
- I4733 **頼章**(よりあき・小里おり) 1707 - 1776⁷⁰ 美濃加納藩士/のち信濃松本藩士、測量術:河原貞頼門/天文暦法に通ず、兵学を修学:藩の兵制確立に貢献、歌;桃沢夢宅門、「縮地撮要」「天学管窺鈔」著、[頼章(;名)の通称/号]通称;源治、号;義山
- I4734 **順秋**(よりあき・豊原とよはら、直秋男) 1737-1804⁶⁸ 母;多忠敬女、楽人;笙の家の生/1747正六下、1765隠岐守/91従四上/95病のため辞職;位記返上、1773「豊原統秋むねあき朝臣遠忌録」著
- P4783 **襲明**(よりあき・山口やまぐち、) 1838-1902⁶⁵ 越後刈羽郡横沢村の国学者、維新後;新潟県会議員、北越鉄道株式会社・長岡銀行・日本石油会社を創設、[襲明(;名)の初名/通称/号]初名;真直、字;子善、通称;亀治/**権三郎**、号;容々軒
- 頼明(よりあき・土岐) → 道謙(どうけん、宮内卿律師、僧/歌人) D 3 1 5 2
- 頼明(よりあき・安倍) → 貞治(てい・安倍/安部、和算家) B 3 0 0 5
- I4735 **頼亮**(よりあきら・松平まつだいら、頼寛男) 1744-1801⁵⁸ 母;松平義孝女、磐城守山藩主;1763継嗣、頼慎の父、藩政改革を断行;農業政策に尽力、従四下美作守/式部大輔/大学頭/侍従、「戦国策考序」著、[頼亮(;名)の幼名/別名/号]幼名;徳之進、初名;頼種、号;揚志、法号;玄理院、諡号;簡公
- I4736 **よりあきら**(・三上みかみ/本姓;源)?-? 江後期武州下新井郷御熊野の宮司、1851(嘉永4)「童子教訓名頭字尽」著、よりあきら(;名)の号;榊舎さかきのや

- 4732 **代明親王** (よりあきらしんのう/よ、醍醐天皇皇子) 904-937³⁴ 母;藤原連永女の更衣鮮子、初名;将観、911(延喜11)代明に改名/919元服/930中務卿/四品(or三品)、妻;定方女、通称;中務皇子泰子・婉子・敏子内親王と同母の兄弟、菟玖波集雑句1句入(2019中務皇子と醍醐天皇)、男(息);重光(しげみつ、後撰歌人)・保光(やすみつ/やすてる、新続古歌人)・延光(のぶみつ、拾遺歌人)女(娘);厳子女王(げんしにょおう、頼忠室/公任母)・恵子女王(けいしにょおう、伊尹室/贈皇后宮懷子母) 荘[庄]子女王(そうしにょおう、村上女御/具平親王母)
- I4737 **頼重** (よりあつ・葉室はむろ、頼孝よりたか男) 1669-1705³⁷ 江前期廷臣;1691参議/従三位/95権中納言、1701(元禄14)従二位/賀茂伝奏を務む、「葉室頼重記」「机下随筆」著/「四方拝部類」編、1686「賀茂奉行記」88「改元定日次記」89「二条冬経復辟記」95「権中納言拝賀記」著外多数、[頼重(;名)の法号]冷光院本覚照源
- H4753 **頼戡** (よりあつ・諏訪わ/本姓;源、頼蔭男) 1675-1740⁶⁶ 江戸の幕臣;御書院番/御徒頭/御使番、駿府定番/のち寄合、歌人;武者小路実陰門、石野広通「霞関集」入、1739芥川寸艸[飛鳥山十二景詩歌]入(;西原晴嵐にしがはらのせいらん)、[契りおけ栄行く宿の松が枝えになほ末遠き千代の齢よはひを](霞関;雑1083/松延齡)[くまもなく夕日ぞ残る西が原雲を嵐の払ひ尽して](十二景歌/武蔵西ヶ原村)、[頼戡(;名)の通称]通称;権左/兵部、法号;真水
☆飛鳥山十二景 → 榴岡(りゅうこう・林はやし) D 4 9 7 8
- I4738 **頼篤** (よりあつ・諏訪わ/本姓;源、頼孝の長男) 1769-1844⁷⁶ 幕臣;1785將軍家治に謁す、1788家督継嗣;90大番、95新番/小納戸/小姓を歴任/1842將軍日光参詣に目付として随行、1843新番頭、44没、「昼夜廻書留」著、歌;蜂屋光世「大江戸倭歌集」(1858刊)入、[集め置く文の数々思ひ出でて袖こそ濡らせこぞを恋ひつつ]、(大江戸倭歌;雑1900/塙検校の一周忌に)、[頼篤(;名)の通称]銀藏/庄右衛門
頼敦(よりあつ・松平) → 直克(なおかつ・松平まつだいら/有馬、藩主/国学) O 3 2 8 8
- Q4742 **頼有** (よりあり・細川ほそかわ/本姓;源、頼春男) 1332-91⁶⁰ 南北期武将/守護大名;備後・阿波の守護、廷臣;掃部助/宮内少輔/右馬頭、細川和泉上守護家初代当主、観応乱に父と尊氏軍に参加、1352父戦死;男山合戦に讃岐勢を率い阿波勢の兄頼之と共に参加、1356伊予進軍の頼之を支援、頼之の管領就任・幕政参与により頼有は領国経営に携る;国人の被官化/南朝方の河野軍と戦う、1379康暦の政変で頼之失脚;追討令が下る、従兄清氏の子正氏(昌氏)の阿波蜂起・河野通堯の伊予勢力拡大に頼之と共に抗戦、1387嫡男頼長に家督譲渡、1390赦免の頼之と共に將軍義満の命で山陰山名時熙を追討、1391(明德2)没、頼長・頼頭の父、末裔に細川幽斎(藤孝)・忠興(三斎)など、歌人;1375頃細川家奉納[大山祇神社百首和歌]に出詠、[ひとりねのどこ夜寒よむなる秋風のふけ行くままに打つ衣かな](大山祇百首;47)、[頼有(;名)の通称/法号]通称;讃岐十郎、法号;勝妙院
- I4739 **頼家** (よりいえ・源みなもと;清和流、頼光男) 1007?-? 1076^存 母;藤原忠信女(平惟仲の養女)、廷臣;備中守/越中守/筑前守/従四下(正四下?)、藤原頼通家の家司、歌人;和歌六人党の1、1035賀陽院水閣歌合参加/1053「名所歌合」主催、38・41両度の「源大納言師房家歌合」参加、「橘義清歌合」1046-53(永承)頃「関白頼道殿蔵人所歌合」参加、1045-54(寛徳2-天喜2)頃藤原道雅「左京大夫八条山庄障子合」参加、後葉集・続詞花集入、勅撰9首;後拾遺(6首281/331/369/412/838/1125)金葉(332/金Ⅲ336)詞花(64/272)、[暮れゆけば浅茅が原の虫の音ねも尾上の鹿も声たてつなり](後拾;秋281)、(京禅林寺に集い山家の秋の夕べを詠む)
- I4740 **頼家** (よりいえ・源みなもと、頼朝の長男) 1182-1204^{殺害} 23 母;北条政子/鎌倉2代將軍1202-03在位、征夷大將軍、北条家に強請され將軍職を弟実朝に譲る、舅比企能員よしかずと北条打倒を企て発覚;伊豆修善寺に幽閉;北条時政らに殺害、一幡・公暁・栄実・禅暁の父
頼忠家女房右衛門(よりいえけによぼうのうえもん) → 右衛門(うえもん、拾遺集歌人) 1 2 0 3
- I4741 **頼家母** (よりいえのはは・源みなもと、従三位藤原忠信女) ?-? 中納言平惟仲(姉の夫)の養女、平安中期歌人、

摂津守源頼光[948-1021]の妻/頼家[1007?-?]を出産、後拾遺608(；頼光との贈答)、
[沖つ波うちいでむことぞつゝましき思ひよるべきみぎはならねば]、
(後拾；恋608/頼光への返歌/沖つ波はうち出でむの序詞的縁語/汀と身を掛る、
言い出すことは憚られます/あなたに惹かれてはならない身でしすから)、
(頼光贈歌607；女を語らはんとて乳母めとにつかはしける歌、
かくなむと海人あまの漁り火ほのめかせ磯べの波のをりもよからば、
海人の漁火はほのめかすの序詞的用法/をりは波折なをりと言い寄る折を掛る)

- I4742 **頼一**(よりいち・安村やすむら) 1706-1779 74 京の音曲家；幼時に失明/筑紫琴の名手、
勾当・検校を経て総検校となる、「飛燕の曲」作曲/1754刊「撫箏雅譜集」編、
のち江戸下向の門人長谷富検校の系統から山田流が成立する、
[頼一(；名)の通称/法号]通称；安村検校、法号；正心院、頼起よりおきの父
頼一(よりいち・山本) → 杉芽(さんが・山本やまと、開国説/俳人) L 2 0 8 7
- I4743 **頼氏**(よりうじ・藤原ふじから/家名；一条、高能男) 1198-1248 51 母；太政大臣藤原基房女、鎌倉期廷臣；
1236従三位/39正三位左兵衛督/47従二位、能清の父、
歌人；1232石清水若宮歌合/32洞院撰教実家百首参加、48宝治百首入、雲葉集・万代集入集、
勅撰8首；新勅撰(266/696/777/1050)続後撰(736/1015)続拾遺(452/1089)、
[わけぬるる野ばらの露の袖のうへにまづしるものは秋の夜の月]、
(新勅；秋266/関白左大臣家百首)
- I4744 **頼氏**(よりうじ・尾藤ひとう/本姓；藤原、頼広男) ?-? 1311 存 鎌倉期武将、歌人；冷泉為相門、
頼阿を招き歌会主催、1311(応長元)北条貞時49日に為相と追悼歌を交す、柳風和歌抄入、
勅撰9首；玉葉(685)続千載(1708/1987)続後拾(1021)風雅(4首834/923以下)新千載(800)
[ながめわび月のさそふにまかすればいづくにとまる心ともなし](玉葉；秋685)、
[頼氏(；名)の通称] 六左衛門
- P4718 **頼起**(よりおき・松平まつだいら、5代讃岐藩主松平頼恭4男) 1747-92 46 母；ルセ(鈴木家の出身)、
1748大老久保公明の養嗣；家督継嗣；大久保頼辰に改名、詩人/和学、
1765(明和2)実父頼恭の命で松平に復帰；松平帯刀頼起を名乗る、
大久保家は第一学(松平頼裕)が嗣、1780(安永9)兄頼真没；家督嗣；讃岐高松藩7代藩主、
従四下讃岐守/左近衛権中将、天明の大飢饉に被害少なく財政健全；逆に藩内が奢侈、
1791向山周慶が砂糖製造成功；高松特産品、正室；述姫(徳川治保長女/1768-1840/歌人)、
1892(寛政4)没；甥(兄の長男)の頼儀が嗣、
[頼起(；名)の字/通称/号/諡]字；興孝、通称；鼎之助/帯刀/讃岐守、号；蘭阜、諡；欽公
- I4745 **頼興**(よりおき・金森かなもり/本姓；源、頼錦よりかね6男) 1753-97 45 江中期幕臣、
1758父が罪を得てで改易；1768赦免；家督継嗣/1788旧家の故を以て千五百俵を受く、
寄合に列す、「金森鞞負由緒」著、兄頼元も鞞負と称す、
[頼興(；名)の初名/通称/法号]初名；錦文かねぶん、通称；武九郎/鞞負、法号；隋禎院斗間宗宣
- I4746 **頼起**(よりおき・安村やすむら、頼一よりいち男) ?-1800 京の音曲家；箏曲家；父門、検校、
安村流の曲目の編纂・伝授書の刊行、「箏曲洋峨集」「新曲九組」著、父の跡安村検校を称す
頼興(よりおき・桑折) → 頼長(よりなが・桑折こおり/くわおり、藩士/国学/歌) M 4 7 6 6
- P4719 **頼起夫人**(よりおきふじん・松平まつだいら、水戸藩主徳川治保はるもり[1751-1805]長女) 1768-1840 73 、
母；側室佐山(前田政英女)、江戸生、雅姫(松平頼慎室)・松平義和(保右/高須藩主)の姉、
讃岐藩5代藩主松平頼起よりおき(1747-92)の正室、歌人、
[頼起夫人の名/諡]名；述姫/豊姫/遊姫、諡；阜安院
- I4747 **頼易**(よりおき・錦小路にしきのこうじ/本姓；丹波、頼理よりただ男) 1803-51 49 江後期廷臣；中務権少輔、
従四上、「屠蘇考」編、頼徳の養父
因香(よりか・藤原・高藤女) → 因香(よりか・藤原、平安歌人)
- 4741 **頼景**(よりかぎ・安達あだち/本姓；藤原/関戸・関口、安達義景男) 1229-92 64 鎌倉の幕臣/歌人、丹後守、
従五下、上洛；在京/1263出家、
歌人；勅撰4首；続古今(1533)続拾遺(669)玉葉(2104)続千(1755)、
[咲けば散るならひを知れば山桜盛りを見てもをしまるるかな](続古今；雑1533)、
[頼景(；名)の通称/号]通称；城二郎/次郎、出家号；道智

- Q4730 **頼蔭**(よしかげ・土岐とき/本姓:源、通称;八郎/号;郡戸こおど、国氏男)?-? 鎌倉南北期;廷臣;武人、美濃守、出家;道暁(:法名/美濃入道)、叔父圓宗の跡を相続、道喜(土岐頼数/歌人)の叔父、歌人;1345刊[藤葉集]2首入集、
[影うつる木の間の月のたえだえに氷のこれる山川の水](藤葉;冬333)
- N4740 **頼蔭**(よしかげ・諏訪すわ、高島2代藩主忠恒2男)1643-172583 江戸の旗本、3代藩主忠晴の弟、幕臣;1657(明暦3)信濃筑摩郡1千石を分知、1692(元禄5)盗賊追捕役/95御持筒頭、1696(元禄9)長崎奉行;下野国河内郡500石を加増、従五下下総守、国学者/歌人、1698家臣不祥事で解任/閉門/1700(元禄13)赦免/小普請;遠慮し1703恩免、1728(享保13)宝山企画「諏訪浄光寺八景詩歌」入(神祠老杉しんしろうさん/詩は守真)、
[世々をへて神さびけりな瑞垣に仰あふげば高き杉のひとむら](八景歌;江戸諏訪社)、
[花鳥の色にも音にもあかなくにいつもかくてと思ふ春かな](茂睡[鳥の迹]雑731)、
[頼蔭(;名)の別名/通称]別名;頼尚よりなお、通称;兵部/下総守、法名;節山
- L4733 **因蔭**(よしかげ・安藤あんどウ/旧姓:河村)1843-190260 尾張名古屋の生/安東平兵衛の養子
国学;野村秋足・歌;間島冬道門/能書、維新後;愛知県税務届/尾東加茂郡長/名古屋市助役、
[因蔭(;名)の通称/号]通称;弁蔵、号;帯雨、法号;蒼松院
依景(よしかげ・松浦) → 舜挙(春挙しゆんきよ・松浦、絵師) Z 2 1 3 6
- I4748 **頼数**(縁数よしかず・東とう、常縁つねより男)?-? 室町期美濃の歌人、
1484俊成女筆の古今集を白山長龍寺に奉納
頼数(よしかず・土岐) → 道喜(どうき:法名、土岐、廷臣/歌人) C 3 1 5 4
順和(よしかず・近藤) → 春彦(はるひこ・近藤、国学者) B 3 6 7 2
- I4749 **頼方**(よしかた・万年まんねん) ? - ? 江前期軍記作者;大坂冬・夏の陣を取材、板倉家(重宗?)の門客/後年眼病を患う、1661以前「難波戦記」編(:二階堂行憲ゆきのり筆)、1672「難波戦記追加」、「難波後記続録」「板倉重矩伝」「両主闘諍記」著(行憲の援助)、
[頼方(;名)の号] 不休/不求斎/万年入道
- I4750 **頼方**(よしかた・小森こもり/本姓:丹波、頼季男)1693-172634 廷臣;民部大丞/蔵人、医者:父門、1724父の跡継嗣;典薬頭/26(享保11)従五下;没、1715「日光山東照宮百回忌下向記」著
- L4745 **従方**(よしかた・吉川よしかわ、従門男)1778-? 江戸幕府神道方、
惟足これたりからの吉川神道5代目、従五の父、
[従方(;名)の通称]通称;富之助
- P4777 **頼方**(よしかた・安木田やすきだ/本姓:安田、)1833-191179 加賀金沢藩士/藩校明倫堂入;漢学・皇典、藩校明倫堂国学内用方、国学者;田中躬之門、書;持明院基政門/歌・連歌を能くす、
維新後;笠間神社祠官/学校教師
[頼方(;名)の初名] 淳平
頼方(よしかた・松平) → 吉宗(よむね・徳川、將軍) H 4 7 5 9
頼方(よしかた・青木) → 千枝(ちえだ・青木、国学者) 2 8 4 5
頼方(よしかた・堀江) → 逸風(いっふう・堀江ほりえ、書家) H 1 1 7 8
頼賢(よしかた・清原) → 枝賢(えだかた・清原、廷臣/儒者) E 1 3 0 2
順方(よしかた・松村) → 貞世(さだよ・松村まつむら、国学者) P 2 0 4 5
- I4751 **頼勝**(よしかつ・金剛こんごウ/右京、勝吉しょうきち男)?-? 江戸前期金剛流能役者;金剛12世、父(;1562-1610/金剛大夫10世/通称;弥一/右京)と幼少時死別;
1610金剛七大夫(喜多長能ちやうのう)が金剛大夫を代行継嗣;1611(慶長16)頼勝が大夫継嗣、長能は独立して喜多流を興し江戸幕府によるの四座一流制成立、頼勝は能面も制作
- Q4716 **頼雄**(よしかつ・松平まつだいら、水戸藩主徳川頼房7男)1630-9768 母;勝(佐々木家娘)、水戸生、歌人、1682(天和2)次兄光圀から常陸宍戸1万石を分与;立藩宍戸藩初代藩主/従五下大炊頭、1697(元禄10)没、養嗣子頼道(兄頼利男)が家督嗣、
[あかねさす木の間の桜光りあひて錦にまがふ花の夕ばえ](茂睡[鳥の迹]春128)
[頼雄(;名)の初名/通称/法号]初名;藤吉郎、通称;大炊頭、法号;一法院
- I4752 **随勝**(よしかつ・早川はやかわ、通称;清次郎、早川徳三随周男)1827-? 1875存 加賀金沢藩士;禄110石、1827「温敬公参勤道中行列附」/52「火事御定」、「触留」著
- M4735 **依勝**(よしかつ・木下きのした、通称;弥七)1835-7440 信濃飯田の国学者;平田鉄胤門

頼功(よしかつ・亀井) → 茲監(これみ・亀井かめい、藩主/歌) E 1 9 5 1

- I4753 従門(よしかど・筑紫つくし/本姓;藤原、利門長男) 1682-1744 63 幕臣:父の遺跡を継嗣;小普請、1709祖父茂門の跡も嗣ぐ、1716御書院番に列す/1732辞職;寄合、儒学;伴部安崇門、垂加神道;跡部良頭門/垂加神道を究める;正親町公通より元水霊社の号を受、俳人、1729「豊葦原知辺草」、「衣食住之説」、「敬斎箴辨」、「正道正教之話」、「俳諧大意」、「落葉籠」著、[従門(;名)の通称/号]通称;武一郎/満助/左衛門/主水/左大夫、号;一斎/閑水/苦夕庵(せんせきあん)/元水翁/元水霊社、法号;元水
- L4744 従門(よしかど・吉川よしかわ、従安男) 1737-97 61 江戸幕府神道方、惟足(これたり)からの吉川神道4代目、従方の父、[従門(;名)の通称/号]通称;幸次郎/源十郎(代々の称)、号;忍澄
- K4769 頼門(よしかど・妻木つまき/本姓;源、通称;小源太) ?-? 江後期;歌人、幕臣/旗本? 1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、[むらさきの雲とみるまで山松のこずゑにかかる藤なみの花](大江戸倭歌;春348)
- Q4736 頼兼(よしかね/よしかね・藤原ふじわら、惟風[従四上/中宮亮/武蔵守]男?) ?-? 平安後期;廷臣/歌人、惟風男なら;従五下/惟経(太皇太后宮大進)の弟、歌;1233刊寂延撰[御裳濯集]入、[いづかたをさして心のうかるらん花の香ならぬ山風ぞなき](御裳濯集)
- I4755 頼兼(よしかね/よしかね・紀き、頼広男?) ?-? 鎌倉後期廷臣;右京進/連歌;菟玖波1句入、[さかづきに山路の菊の露うけて](菟;雑連訶1170/前句;旅にぞ秋の心すゝむる)
- I4756 頼兼(よしかね/よしかね・藤原ふじわら、美作守兼長男?) ?-? 南北期廷臣;兼長男なら;五位左衛門尉(法名常秀)/光長(1336[建武3]三条河原で討死)の孫、歌人;新後拾遺集944、[いかにせんほどなき袖のしがらみにつつまなれてもあまる涙を](新後拾;恋944)
- I4757 頼錦(よしかね・金森かなもり、初名;台頼かつより/台近かつしか、可寛男/頼時孫) 1713-63 51 美濃郡上八幡藩主、父早世/1736祖父の遺領嗣/兵部少輔/1747幕府奥詰;奏者番/出費多;1754年貢検見法を改、百姓一揆(郡上一揆)発生/神社の石徹白騒動発生/1758失政改易;盛岡南部利雄に永預け、詩歌/俳諧;露沾門、歌集「白雲集」編、「源台近覚書」著、1738露月「卯月庭訓」序、[頼錦の幼名/号]幼名;又太郎、号;玉沾(ぎよくせん;俳号)/清藍戸(せいらんこ)、法号;覚樹院清藍
- I4754 頼該(よしかね・松平まつだいら、讃岐高松藩主松平頼儀3男) 1809-68 60 母;山崎宗輔女の綱子、江戸の生高松藩士、1838八品派高松本覚寺日顛門/1839(31歳)隠居;高松宮脇村亀阜荘に住、大覚日肇門;宗義を修学/1849高松に八品講を組織;折伏伝道に献身;短時日に教線拡大、讃岐・伊予・阿波・淡路・三備・防長・京摂に及ぶ一大在家仏教運動を展開、尊王の志篤く日柳燕石ら同郷志士を擁護、高杉晋作・桂小五郎と交流、藩主頼聡の政治顧問となり難局に当る;藩の朝敵の汚名を雪ぎ没、1847「美草録」55「異体同心録」61「彼岸法話記」、「蟻の堂参」、「四句感応の事」、「尋問鈔」、「撰時抄便蒙」、「高松討論記」、「本因元始録」、「本迹得意抄」、「大東蒙求」外著多数、[頼該(;名)の字/通称/号]字;子博、通称;左近/隆之丞/道之助/近松左平(;変名)、号;金岳、法号;本行院
- 頼謙夫人(よしかねふじん・松平)→はしき子(はしきこ・松平まつだいら/永石、藩主妻/歌) K 3 6 8 1
余力堂(よききどう) → 勤文(きんぶん・勝木、俳人) E 1 6 6 5
- I4758 頼清(よききよ・藤原ふじわら、正五下若狭守惟経男) ?-? 鎌倉南北期廷臣;従四下修理権大夫、西園寺家家人か?、俊経・有経の父、歌人;「詠祝和歌」著、1315詠法華経和歌/20八月十五夜十首和歌参加、藤葉集2首入、勅撰4首;玉葉(1934)風雅(1546)新拾遺(1081)新後拾遺(1348)、藤葉集2首入、[おのづから晴るるかとみるほどだにもなほ雲のぼる五月雨の空](玉葉;雑1934)
- 頼清(よききよ・田中) → 重好(しげよし・田中たなか、郷学;教育者) T 2 1 1 5
順清(よききよ・日下部) → 順清(じゅんせい・日下部くさかべ/藤原、幕臣/書) P 2 1 5 3
- I4759 頼国(よりに・源、頼光[948-1021]男/母;藤原元平女) ?-? 平安期廷臣;美濃/上総介、左兵衛尉、春宮大進、文章生、頼資よりすけ/頼実/頼綱/師光もろみつ/六条斎院宣旨などの父
- I4760 頼囀(よりに・井上いづえ、頼正よりまさ男) 1839-1914 76 江戸国学者/歌;相川景見門/1861平田鉄胤門、

古医道;1864榎田直助門、勤王派;1867京の討幕密議に参加、維新後は宮内省勤務、
1861「易学こころおぼえ」/65「抄書」著、猿渡盛愛もりえ・清水宗徳の歌の師、頼文の父、
[頼国(;名)の幼名/字/通称/号]幼名;次郎、字;伯随/厚載、通称;大学/肥後/鉄直、
号;一賀/英玉翁/呉竹亭/神習舎

頼国女(よりにのむすめ・源)→ 宣旨(せんじ・六条斎院女房、歌人/物語作者) F 2 4 7 4

- 04753 随子(よりに・蜂須賀はちすか、水戸藩第10代藩主徳川慶篤の長女)1854-192370 江戸の生、
阿波徳島藩14代藩主蜂須賀茂韶もちあきの継室、国学・歌人;間宮八十子やそこ・小杉楹邨すぎむら門
より子(よりに/方子・松平)→ 彪子(せい・松平まつだいら/伊達、藩主室/歌) O 2 4 4 7
頼子(よりに・葉室) → 冷泉(れいぜい・花園院はなぞのいんの、典侍/歌) 5 1 4 5
頼子(よりに・足利) → 鶴王(たづおう・頼子、足利尊氏女/夢中歌) 2 7 8 2
頼言(よりに・山科) → 頼言(よりに・山科やまの、故実/歌) J 4 7 1 7
頼言(よりに・高岳) → 頼言(よりに・高岳たかおか、歌人) J 4 7 3 8

- I4761 依子内親王(よりにないしんのう/いしん、女五のみこ、宇多天皇第5皇女)895-93642 母;源昇女の貞子、
通称;鬘宮かざらのみや/平安前期歌人;元平親王と夫婦(大和物語;23段)、
藤原忠房と恋愛など華やかな生活、
913亭子院歌合右方人頭(左は姉の誨子内親王かいしんないしんのう)、後撰2首(881/1035)、
[絶えぬると見れば逢ひぬる白雲のいとおほよそに思はずもがな]
(後撰;恋881/返歌;女五のみこ/私に対し通り一遍の愛情に思わないでほしい)、
(贈歌;忠房/880君が名の立つにとがなき身なりせばおほよそ人になして見まじや、
私の身分が尊ければあなたを世間並みの人として結婚できましようか)

- I4762 頼貞(よりにさだ・土岐とき/本姓;源、光定男)1271-133969 母;北条貞時女、美濃守護/従五下伯耆守、
美濃高田城・金山城に住、弓馬の名手、道謙どうけん[頼明]・頼仲・頼遠・頼直・頼世の父、出家、
歌人;中宮珣子「平産祈願続観音経偈三十三歌」参加/「浄土寺法楽歌」参加、
1310[柳風抄]・1345刊[藤葉とうよう集]入、
勅撰9首;玉葉(1439)風雅(1913)新千(545/2080)新拾(663/796)新後拾(634/876/1382)
[暁の別れのきはにしられけるまたと思はぬ人のけしきは](玉葉;恋1439)、
[頼貞(;名)の通称/号/法名]通称;隠岐孫二郎/伯耆入道、号;定林寺、法名;存孝、
法号;定林寺雲石存孝大居士

- I4763 頼定(よりにさだ・冷泉れいぜい/本姓;藤原、経頼男)?-1346 母;祇園執行盛晴法印女 廷臣;
1315(正和4)参議/正四下/16従三位/31(元徳3)権中納言/32従二位;所職辞任、
1333近江馬場宿で出家、1332「頼定卿記」著

- I4764 頼貞(よりにさだ・松平まつだいら、常陸額田藩主松平頼元男)1664-174481 母;小倉藩主小笠原忠真女、
1693父の遺領継嗣;1700常陸額田藩を本藩に返上;磐城守山藩初代藩主、従四下大学頭、
侍従/少将、1743致仕;薙髪、直指流武技に長ず、刀剣・雕金・漆器・絵画を嗜む、
「直指武式」著、頼寛・頼恭・定賢の父、
[頼貞(;名)の字/号]字;子剛、号;義山、法号;当体院、諡名;荘公

- K4714 倚貞(よりにさだ・有沢ありさわ、通称;小三郎、盛貞もりさだ男)1747-70早世24 加賀藩士;1759家督継嗣、
組外に列す/1761本禄2百石/大小将/表少将、70旅中武蔵深谷に客死;弟命貞が家督嗣
1763(宝暦13)「日記」著

- L4736 頼定(よりにさだ・井上いのうえ、)1785-186682 安藝山県郡壬生村の神職;東山八幡神社祠官、
国学;後藤夷臣ひなぶ・本居大平門、歌人、従五下薩摩守/1830(文政13)四位の袍を許可、
1842息子頼寿に職を譲渡、
[頼定(;名)の通称/号]通称;薩摩守、号;搗栗とうりつ・かちり/勝栗/貞暁/永翁

頼貞(よりにさだ・阿野/愛智)→ 道成(どうじょう/どうじょう;法諱、僧/歌人) F 3 1 5 0

頼貞(よりにさだ・藤原) → 唱阿(しょうあ、藤原頼貞、廷臣/僧/歌人) Q 2 2 6 8

頼貞(よりにさだ・桑折) → 頼長(よりにが・桑折こおり/くわおり、藩士/国学/歌) M 4 7 6 6

- P4722 頼覚(よりにさだ・松平まつだいら、頼格男)1807-6761 讃岐高松藩松平家支族の大膳家6代、和漢学修学、
1836(天保7)家督継嗣/63(文久3)藩主松平頼聡の名代で京都警備に就く、
1864(元治元)禁門変に仙洞御所守衛/第一次長州征討出陣/藩政相談役;千石加増、

妻;香西家より、頼利(長男)・頼續よりつぐ(3男1841-1901)・久子(坊城俊文章室)の父、
1867(慶応3)没;頼利が家督嗣、

[頼覚(;名)の字/通称/号]字;子徳、通称;大膳、号;芝岳

P4720 頼学(よしさと・松平まつだいら、頼啓よりゆき[1785-1848]長男)1808-6558 母;側室(大熊家出身)/江戸生、
1832(天保3)父隠居;家督嗣;伊予西条藩9代藩主/従四上侍従/左近衛権少将、和漢学修学、
文武奨励;日野醸泉に[西条誌]20巻編纂、1846本家紀州徳川家の家督争いに関与、
正室;一条通子(一条忠良女)/側室;与志の方(近藤家)/側室(山野井家)、頼續よりつぐの父、
1862(文久2)隠居;養子頼英(長女靖姫の婿)が家督嗣、65(慶応元)没、詩歌・書画・俳人、
[頼学(;名)の通称/号]通称;哲丸/大蔵大輔/左京大夫/弾正大弼、

号;玉淵/為山/一瓢庵/青簑せいさ/楽斎/櫟斎れきさい

頼寧(よしさと・内藤) → 頼寧(よりやす・内藤ないとう、藩主/詩) J 4 7 9 1

頼郷(よしさと・首藤) → 三蔭(みつかげ・首藤すどう、藩士/歌人) J 4 1 3 1

I4765 頼実(よござね・源みなもと、左馬権頭頼国3男)1015-44早世30 母;藤原信理女、平安後期廷臣;
従五下左衛門尉、頼家の甥、頼綱・師光の兄、歌人;叔父頼家と歌人集団の和歌6人党を結成、
1035賀陽院水閣歌合;蔵人雑色として参加、頼季の父(尊卑分脈に源頼信男と同一説)、
大納言源師房の土御門邸に出入り;1038・1041両度の「源大納言師房家歌合」参加/1043蔵人、
歌道への執心・数奇についての逸話あり(袋草紙・今鏡入)、新撰朗詠集・後葉・続詞花集入、
家集「故侍中左金吾こじちゆうさきんご集」(頼実集)、
勅撰7首;後拾遺(5首221/332/382/1067/1145)玉葉(328)風雅(316)、
[夏の日になるまで消えぬ冬氷ふゆごほり春立つ風やよきて吹きけん](後拾;夏221/氷室を詠)
[木の葉ちる宿は聞き分くかたぞなき時雨する夜も時雨せぬ夜も](後拾;冬382/袋草紙)

I4766 頼実(よござね・大炊御門おおいみかど/本姓;藤原、左大臣経宗男)1155-122571 母;藤原清隆女、
鎌倉期廷臣;1179従三位/99太政大臣/1204従一位/08太政大臣還任/16出家;顕性、
歌人;1172広田社歌合/1216後鳥羽院百首参加、妻:卿二位兼子、
勅撰21首;千載(290/496/721/1048)新古(211/276/426/550/1086)新勅(3首)以下
[つねよりも身にぞしみける秋の野の月すむ夜半よはの萩のうは風](千載;秋290)
[頼実の通称/法名]通称;六条入道太政大臣、法名;顕性
女 → 頼実女(よござねのむすめ・大炊御門、歌人) I 4 7 6 8

I4767 順実(よござね・四宮しのみや) ? - ? 江後期文化1804-18頃大阪の和算家;松岡能一門、
師能一は当時大坂御城附京橋組同心で宅門5世を称する和算家、
師の著「算学稽古大全」の序を執筆、1807(文化4)「神璧算法起源二条」著

04782 頼実(よござね・福田ふくだ)1829- 191587 尾張名古屋藩士、国学者、
馬之助(船舶工学者)の父、
[頼実(;名)の通称] 三平/周右衛門

I4768 頼実女(よござねのむすめ・大炊御門おおいのみかど)?-? 父頼実は太政大臣/歌人、鎌倉期歌人、
続千載集514、
[鐘の音に寝覚めて見ればあかつきの窓にぞ月はかたぶきにける]
(続千;秋514/大炊御門太政大臣女名)

K4734 頼成(よりしげ/よりなり・源みなもと、頼親[頼光弟]男)?-? 母;藤原文貞女、平安後期廷臣;武将・蔵人、
肥後守/左衛門尉/従後下、仲綱・成綱の父、歌人;続詞花集入、
[あやしげなる菊の花を見て源頼茂朝臣の歌の本をいひければ 末を
菊の花すまひ草にそ似たりけるとりたかへてや人の植ゑけむ](続詞花;十九聯歌939)、
頼茂は頼義の誤字説あり/頼義[頼信男]なら頼成の従兄弟)
連歌;菟玖波1句入、
[みたれもはすまひ草にそ似たりける]、

(菟;1896;源頼茂/流布本は源頼義/前句;あしもてかくる難波津の浪)、

☆続詞花集・菟玖波集の[頼茂]はすべて[頼義]の誤か?(;金子金治郎[筑波集の研究])

頼義を参照 → 頼義(よりよし・源みなもと、伊予入道、武将/歌) K 4 7 0 2

I4769 頼成(よりしげ/よりなり・中原なかはら、貞清男)?-1084 母;林重親女、廷臣;淡路守/主税頭/従五下、

歌人;1067(治暦3)定綱家歌合参加、後拾遺集(492)、
[いづちとも知らぬ別れの旅なれどいかで涙のさきに立つらん]、
(後拾;別492/親しい女が行き先も教えず去って行く時の歌)

妻も歌人 → 頼成室(よりしげのしつ・中原、女房名少納言/歌人) I 4 7 7 4

- I4770 頼重(よりしげ・大江おえ/長井、泰重男)?-? 鎌倉期幕臣;従五下/蔵人/因幡守/左衛門大夫、
六波羅評定衆、歌人:勅撰20首;続古(1705)続拾(427/678/1230)新後撰(4首)玉(3首)以下、
[かずならで世にふるかはのむもれ水ゆくかたもなくぬるる袖かな](続古今;雑1705)
- I4771 頼成(よりしげ・上杉[上相]/本姓;藤原、頼重男)?-1346 鎌倉南北期武将;正五下(or従四下)、
左近将監/越前守、延政門院(or永嘉門院)蔵人、藤成の父、歌人:藤葉集2首入、風雅907、
[深き夜に関の戸出でて足柄の山もとくらき竹の下道](風雅;九旅歌907)、
[なにとただ涙ばかりはのこるらん人はとまらぬ袖のわかれに](藤葉;恋533)、
☆1297[八月十五夜歌合]参加の[頼成]は伏見天皇の借名、
[頼成(;名)の通称/号]通称;上杉蔵人入道、号;千秋せんしゅう、法号;性基
- I4772 頼重(よりしげ・細川ほそかわ/本姓;源、満之みつゆき男)?-? 武将;備中守護、兵部少輔/上総守、
基之もとゆきの弟、歌人/連歌作者;
1411吉備津宮法楽万句発句、45「文安雪千句」第六発句参;宗砌らと
- I4773 頼重(よりしげ・松平まつだいら、頼房の長男)1622-9574 徳川光圀の兄/故あり家臣三木之次により養育、
1639常陸下館藩主/42讃岐高松藩に転封、経費節減を図る・学問を振興、1673致仕、
従四上/右京大夫/侍従/左近権少将/讃岐守、茶道に精通/歌人、「源頼重家集」、
「万治元年詠二百首」を後水尾院に勅点を受、「麓塵集」「讃州路象頭山縁起」著、
1656「松平頼重京都日帳」70「仏生山法然寺条目」、「真福寺由来記」著、「英公遺事」、
[頼重(;名)の幼名/字/通称/号]幼名;竹丸/八十郎、字;英、通称;右京、号;竜雲軒、
法名;源英、諡号;英公
- P4721 頼成(よりしげ・有馬ありま、頼徳7男)1828-8154 筑後久留米藩の第11代(最後)の藩主、
1848異母兄の10代藩主頼永の養子;頼永没により家督継嗣;慶頼に改名/従四下侍従、
中務大輔、1859左少将、藩政をめぐり家臣団の抗争絶えず尊王・佐幕を搦め対立、
将軍家慶の養女・精姫あきひめ(有栖川宮韶仁親王女、維新後名を韶子あきこに復す)を正室とす;
婚儀・御殿新築に巨額の資金供出し財政難深刻;配下の刃傷発生/家老疑獄事件など発生、
佐幕派による藩政改革;西洋式海軍創設、大政奉還後尊攘派が参政を握り;佐幕派を捕縛、
戊辰戦に新政府軍に参加/慶頼を頼成に改名;藩知事に就任;藩内に匿った大楽事件で謹慎、
久留米藩難事件となる、1875家督を有馬頼匡に譲り隠居、藩主主導がなく混乱の藩政、
砲術;千歳流砲術を創始、教育;1873報国学社(有馬学校)開設、
[頼成(;名)の別名]初名;慶頼よしより
- 頼重(よりしげ→よりあつ・葉室)→ 頼重(よりあつ・葉室はむろ、廷臣/記録) I 4 7 3 7
頼成(よりしげ) → 頼成(らいせい、僧/俳人) C 4 8 4 4
頼滋(よりしげ・清原) → 頼業(よりなり・清原、廷臣/明経道) J 4 7 3 4
- I4774 頼成室(よりしげのしつ・中原なかはら、菅原為言女、女房名;少納言)?-? 1056存 関白藤原頼通家女房、
中原頼成と結婚、歌人;1056(天喜4)皇后宮寛子歌合参加(;少納言名)、後拾遺(36/787)、
[摘みにくる人はたれともなかりけり我がしめし野の若菜なれども]、
(後拾遺;春36/しるしを結った野に誰ということもなく立ち入るよ/皇后宮歌合)
- K4794 順女(よりじよ・まさじよ?・志立たち)?-? 江後期;歌人、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[誰もえば得ぬべきものを得がたきは心の玉の光なりけり](大江戸倭歌;雑1816)
- Q4732 頼季(よりすえ・源:清和流、初名;頼重、仲綱男)?-? 鎌倉期廷臣;七条院(殖子1157-1228)の蔵人、
宣陽門判官代/伊豆蔵人、
☆藤葉集入集の源頼季か?;
[つれなくて今夜もこずは有明の月には人をまたじとぞ思ふ](藤葉;恋500)
- F4746 頼資(よりすけ・源:清和流、頼国男)?-1066 母;藤原師長女、廷臣;下野守/左衛門尉/従五下、
1059佐渡配流/土佐転配/66赦免、歌人;1053「頼資資成家歌合」催、国輔の祖父
- I4775 頼佐(よりすけ・藤原ふじわら、頼能男)?-? 母;左大臣藤原実能さねよし女、平安後期廷臣;

若狭守/阿波守、皇太后宮権大進、改名;説方ときかた、惟頼・雅頼・法印公全の父、
歌人;1149(久安5)右衛門督家成家歌合;右方参加、

[つねよりもうつれる月の影きよみ秋は水もやすみまさるらん](家成歌合;六番右12)

I4776 頼輔(よりすけ・藤原ふじわら、初名;親忠、大納言忠教男)1112-8675 母;賀茂成継女(→頼輔母)、
飛鳥井・難波家の祖、廷臣;皇太后宮亮/刑部卿、保元乱後に東山籠居/1182従三位、
1186病で出家;没、蹴鞠名手;藤家蹴鞠の祖と称される、教長の弟/教良の兄、頼経の父、
宗長・雅経の祖父、歌人;兼実家歌合の常連、1160清輔家歌合参加/1166重家歌合参加、
1182「頼輔集」著/「蹴鞠口伝集」「一品経和歌懐紙」「法華経浦懐紙」著、
続詞花集・今撰集・言葉集・月詣集・玄玉集・万代集・雲葉集入集、
勅撰28首;千載(5首10/298/530/666/679)新古(132/1229/1775)続古(154/1717/1718)以下、
[春来れば杉のしるしも見えぬかな霞ぞ立てる三輪のやま本](千載;春10/霞の歌)

I4777 頼資(よりすけ・藤原ふじわら/家名;勘解由小路・四辻、権中納言兼光男)1182-123655 母;法印院尚女、
民部卿藤原光範の猶子、廷臣;1224参議/25従三位権中納言/32従二位;33致仕、病で出家、
「頼資卿改元定記」「頼資卿記」「頼資卿熊野詣記」「頼資卿御齋会参仕記」「四黄記」著、
1207「後鳥羽院日吉御幸記」10「修明院熊野御幸記」33「頼資卿大嘗会雑事定記」外著多数、
歌人;1218順徳院中殿御会参加(:蔵人右衛門佐)、22大嘗会参加、
万代・秋風・和漢兼作・雲葉集入、
勅撰4首;新勅撰(487/488/527)玉葉(1100)、法名;眞寂、
経光(中納言)・経朝(行能の養子)・兼恵(僧正/寛海附弟)・頼円(僧正/良兼附弟)の父、
[ふかみどりたままつがえの千代までもいはやの山ぞうごかざるべき]、
(新勅撰;賀歌487/いはややま)

I4778 頼資(よりすけ・源みなもと) ? - ? 歌人;1325成立「新後拾遺」1240、法名;宗久?
[契りおきし露をかごとのくずかづらくるもおそしとなほやしたはん](新後拾;恋1240)、
大友宗久と同一? → 宗久(そうきゅう・瞬庵、大友頼資、歌僧) B 2 5 0 0
☆勅撰作者部類では同一人とするが同じ新後拾遺921宗久法師の歌があり別人か

I4780 頼資(よりすけ・太田おた) ? - 1807 加賀金沢城中作事所の属吏、地誌家、
能登・越中を巡遊、俳人/のち医者となり能登輪島に移住、1777「能登名跡志」「能登誌」著、
1777「能登路記」「能州名跡志」/80「雑能登路記後編」/92「吉野村領十景紀行」著、
[頼資(;名)の通称/号]通称;道兼、号;文豊斎/如松軒

I4781 頼救(よりすけ・松平まつだいら、水戸藩主徳川宗翰6男)1756-183075 常陸宍戸藩主松平頼多の養嗣子、
1766遺領を継嗣/1802致仕、束髪を許可される、従五下大炊頭、俳諧・書・茶道を嗜む、
法帖を蒐集、「県之曲」著、頼敬の父、
[頼救(;名)の幼名/字/号]幼名;熊十郎、字;子徳、号;謙山/大翁/太玄斎/公菜、
法号;広正院

M4713 以翼(よりすけ・加藤かとう、旧姓;松井)1764-182663 撰津尼崎の国学者/歌;加藤景範門、
[以翼(;名)の通称/号]通称;常二郎/喜太郎/季作、号;季得

頼資(よりすけ・大友) → 宗久(そうきゅう;法諱、大友頼資/歌僧) B 2 5 0 0

頼亮(よりすけ・松田/平) → 頼亮(よりあき・松田まつだ/平、幕臣/歌人) K 4 7 3 0

頼亮(よりすけ・高成田) → 琴台(きんだい・高成田たかなりた、藩士/経学) R 1 6 3 7

I4782 頼輔母(よりすけのはは・藤原ふじわら、賀茂成継女)?-? 平安後期歌人、藤原忠教の妻;頼輔・教良の母、
今鏡に[歌詠み]と入、藤原公実の歌会に参加、頼輔集・続詞花3首(教良母名)・月詣集入、
勅撰3首;詞花(358)千載(153/1176)、
[鶯の鳴くに涙の落つるかなまたもや春にあはむとすらむ](詞花;358/夫忠教没後の春)
[秋の野に誰を誘はむゆき返りひとりにははぎのみるかひもなし]、
(続詞花;物名930/とりははき)、

☆金葉歌人有教母(尊卑分脈;清綱女)と同一説あり→有教母(ありのりのはは・藤原) B 1 0 8 8

I4783 頼澄(よりすけ・坂上さかのうえ) ? - ? 南北期南朝の武家、紀伊伊都郡司坂上伊澄男か?
歌人;新葉5首(364/751/958/1179/1194)、
[虫のねも弱りにけりな露霜の夜寒はさむは老の身にもかぎらず](新葉;秋364)

I4784 頼孝(よしたか・藤原ふじわら、播磨守季孝or出雲守頼経男)?-? 994存 平安前中期廷臣;従五上山城守、

冷泉院判官代、歌人；994(正暦5)中将藤原道信の哀悼歌を詠む；

千載550(玄々集；122/続詞花集413)、

[思ひかねきのふの空をながむればそれかと思ゆる雲だにもなし]、

(千載；哀傷550/墓地に葬った翌日の歌/茶毘の煙の名残さえない/早い死への哀惜)

- I4785 **頼隆**(よしたか・藤原ふじわら、初名；忠宗、顕俊男) 1202-? 母；能頼入道女、鎌倉期廷臣；1226蔵人頭、1227(安貞元)正四下参議/28近江権守；従三位/30(29歳)参議を停任、1235(嘉禎元)8月7日出家；宰相入道、式子内親王本「源氏物語」の譜卷(系図)存在の証言
- I4786 **頼隆**(よしたか・吉見よしみ/本姓；源、通称；七郎、頼宗男) ?-? 1350存 南北期武将；父は源範頼の曾孫、五位三河守、大蔵権大輔/右馬頭/1336-46能登守護/越中守護兼任、歌人；1350為世十三回忌法華経和歌に参加(散位)、1345刊[藤葉集]入、勅撰5首；新千載(1246)新拾(1095/1710)新後拾(630/768)、[たがもらす涙なるらむ敷妙の枕にだにも忍ぶ思ひを](新千；恋1246)[袖の上にふりにし涙つきもせでわかれし秋はめぐりにけり](為世13忌歌；60/懐旧)
- I4787 **頼孝**(よしたか・飛鳥井あすかい/本姓；藤原、雅康男) ?-? 室町期廷臣/歌人、播州に住すること多し、1510鞠の会を催(元長記入)、1520「十五夜当座会」主催、22土佐の畑下向；三条西実隆に文、1523にも贈答(再昌草・実隆公記入)
- I4788 **頼隆**(よしたか・蜂屋はちや/本姓；源、羽柴) 1534-89/56 美濃加茂郡蜂屋の武将；初め土岐・斎藤家に出仕、1564織田信長の家臣；各地で戦功/1574近江愛智郡肥田城主、本能寺変以後は豊臣秀吉家臣、1585(天正13)越前敦賀城主/88侍従；羽柴姓を受、連歌/歌；1575上京；紹巴昌叱と「何船百韻」、1587(天正15)秀吉九州出陣に巖島に歌を奉納、1588秀吉催の和歌会に参加
[頼隆(；名)の通称] 兵庫助/兵庫頭/出羽守/羽柴敦賀侍従
- I4789 **頼孝**(よしたか・葉室はむろ/本姓；藤原、頼業よりなり男) 1644-1709/66 母；橋本実村女、江前期廷臣；1663参議、1678(延宝6)権大納言/1705従一位、1678「春日祭祀」1682-86「葉室頼孝記」著、1683「石清水八幡参向記」84「白馬節会記」著、「禁中御八講図」「当家着用装束記」著/外著多、
[頼孝(；名)の法号] 大空院円智照貞、頼重よりあつの父/頼胤の養父
- Q4719 **頼喬**(よしたか・相良さがら、頼寛長男) 1641-1703/63 母；片岡正秀女(周光院)、1664(寛文4)父隠居；家督嗣；肥後人吉藩主/従五下遠江守、藩内の土木工事に尽力/藩士林正盛が球磨川開削、1687(貞享4)信仰禁止の真宗信者男女14人が密告により川辺川に集団入水自殺事件、歌人/正室；相良長秀女・於亀/継室；鷲尾隆量女(月仙院)/側室；西家、1703(元禄16)没；養子頼福(1651-1720/正室於亀の兄弟)が家督嗣、
[君が代は千年の松のみどりさへ色そふ春の風ぞのどけき]、
(茂睡[鳥の迹]慶賀798/相良頼隆名)、
[頼喬(；名)の別名] 長次郎丸(幼名)、長武(初名)、戒名；天鬢院
- I4790 **頼恭**(よしたか・松平まつだいら、磐城守山藩主松平頼貞3男) 1711-71/61 讃岐高松藩主松平頼桓の養子、1739遺領継嗣；高松藩主/財政再建；平賀源内を薬園経営に採用/精糖・製塩事業を振興、藩中興の祖と称される、学問奨励；後藤芝山を採用し帝紀類の書写編纂、詩歌・書を嗜む、茶人、従四上/侍従/讃岐守/左近権中将、「就封詩文稿」著、頼寛の弟、頼真・頼起・頼昌・頼周・頼裕・嘉代らの父、
[頼恭(；名)の幼名/字/号] 幼名；帯刀/大助、字；子敬/子相、号；城嶽/鵬雲/菅山/亀陰/亀山、諡号；穆公
- I4791 **頼恭**(よしたか・真野まの、甘匹[鼎斎西巷]男) 1739-1817/79 備後福山藩士/1755より阿部家3代に出仕、儒者；1772江戸藩邸出仕；以後江戸詰/大目付触流・藩儒；藩主嗣子侍講・奥勤歴任、歌・狂歌作者、菅茶山・頼杏坪・大田南畝・唐衣橘洲と交流、「浦の藻くづ」「蛭拾草」「竹亭雜稿」著、1801「阿倍家秘録」著、狂歌；1785「徳和歌後万載集」1首入/87「才蔵集」入、
[たまさかの音づれとともうちたえて恨みのたねが島とこそなれ](後万載；九恋542)
(寄鉄炮恋/たま・音・うち・たねが島は鉄炮の縁語)、
[頼恭(；名)の別名/字/通称/号] 別名；茂竜、字；子群、通称；群左衛門、

号;竹亭/碧湖、狂歌号(狂名);吳竹節躬[身]くたけのふしみ、法号;清風院

- I4792 頼武(よみたけ・吉見よしみ/本姓;源、通称;彦三郎)?-? 1375存 武蔵の生/南朝の武将/四位、
歌人;1375(天授元)「五百番歌合」参加、
新葉集9首;399/470/703/725/745/817/1004/1048/1232、
[しぐれゆくいそ山かげの下紅葉いくしほまでとさして染むらん](新葉;秋399/五百番)
- I4793 寄猛(よみたけ・取田とりだ、寄信男)?-1772 尾張名古屋藩士;1731父の跡継嗣;馬廻、
松平勝当に属し定詰足軽頭、「甲冑深秘古伝口義」編/「一全流鍊兵伝解」著、
[寄猛(;名)の通称] 文左衛門/次郎左衛門
- I4794 頼武(よみたけ・今田いまだ) 1765- 1837 73 周防岩国藩士;吉川家に出仕/家老(執政)として名声、
詩・書・画に通ず、「拾塵集」「旅のくさくさ」著、
[頼武(;名)の字/通称/号]字;文卿、通称;府生/不笑/中務、号;竜泉
- N4741 頼武(よみたけ・諏訪すわ、) 1834- 1865 32 信濃諏訪神社上社の大祝、国学;松沢義章よしあきら門、
[頼武(;名)の通称/号]通称;大炊介、号;霞朝
- L4737 頼武(よみたけ・井上いのうえ、通称;摂津) 1838-1899 62 伊予宇和郡双岩村中津川の神職;井上家10代、
歌人
- I4795 頼忠(よみたけ・藤原ふじわら、摂政太政大臣実頼男) 924-989 66 母;左大臣藤原時平女、平安前期廷臣;
963参議/968従三位/右大臣/977左大臣/978関白太政大臣/981従一位、敦敏・斉敏の兄弟、
外戚でもないのに円融・花山天皇の関白に就任;朝廷で軽視される、公任・頼任・遵子の父、
歌人;960(天徳4)内裏歌合の方人、977「三条左大臣(頼忠)殿前裁歌合」を主催、秋風集入、
勅撰4首;拾遺(290)新古今(1152)新千載(1450)新拾遺(902)、
[行末も子の日の松の例たれしには君が千歳を引かむとぞ思ふ](拾遺;賀290)、
(父小野宮実頼家の子日に父の寿命を祝う歌)
[頼忠(;名)の通称/諡号]通称;三条殿/三条左大臣/三条太政大臣、諡号;廉義公
- I4796 頼理(よみたけ・よりよし・錦小路にしきのこうじ/本姓;丹波、頼尚よりひさ男) 1767-1829 63 母;日野資枝女、
江中後期廷臣、1775治部権大輔従五下/76典薬頭;致仕、88中務少輔/中務大輔/99従三位、
1804正三位、1805(文化2)修理大夫、医者/歌人、妻;玉泉院(日野矩子/日野資矩女)、
頼易よりおさの父、
1806「本草薬名備考和訓鈔」10「医方朗鑑」著
- I4797 籍侃(よみたけ・山崎やまざき、藩士作兵衛男)?-? 江後期加賀金沢藩士;1785家督嗣;7百石/御馬廻、
1831百50石加増:850石/定番頭に至る、1841隠居、1810「菅家累譜」30「新製服忌令」著、
[籍侃(;名)の通称/号]通称;弥次郎/小右衛門/頼母たのも、号;常山
頼忠(よみたけ・牛島) → 五一郎(ごいちろう・牛島うしじま、和算家) 1 9 5 8
- I4798 頼胤(よみたけ・葉室はむろ/本姓;藤原、権中納言橋本実松2男) 1697-1776 80 葉室頼孝の養子;
1706家督継嗣、1724参議/55従一位/1771(明和8)准大臣、頼要よりの養父、
1735「東武勅使備忘」著、「葉室頼胤記」「葉室頼胤雑禄」「葉室頼胤東行日記」著、
「机下随筆」「徳川将軍家伝」著外多数、
[頼胤(;名)の別号/法号]初名;久俊、法号;順正院慧廓了焉
- P4724 頼胤(よみたけ・松平まつだいら、頼儀2男) 1710-77 68 母;藤木家出身/1818松平頼恕の養嗣子、
1842(天保13)高松藩主頼恕没;家督嗣;讃岐高松藩10代藩主;正四位左近権中将、
宮内大輔/讃岐守/玄蕃頭、1844(弘化元)幕命で水戸藩主徳川慶篤の藩政補佐、
正室;文姫(1809-37/徳川家斉16女、家慶妹)、頼温・頼和の父、頼熙・頼聰の養父、
1857-8の将軍継嗣問題・日米修好通商条約の勅許問題で大老井伊直弼側に寄る、
直弼暗殺後;1861(文久元)蟄居/隠居;頼恕4男頼聰が家督嗣、東京住、国学修学、
[頼胤(;名)の幼名/字/通称/号]幼名;雄丸、字;舜民、
通称;都太郎/貞五郎/左京大夫/讃岐守/玄蕃頭げんばのかみ、号;鳳岡
頼種(よみたけ・松平) → 頼亮(よりのり・松平、藩主/藩政改革) I 4 7 3 5
- I4799 頼為(よみたけ・吉見よしみ/本姓;源、頼宗男?)?-? 南朝の武将、歌;新葉1044、
[いかばかり花には風のまたれまし散らでしにほふならひなりせば](新葉;雑1044)
頼太郎(よりのり・桑原) → 頼徳(よりのり・錦小路にしきのこうじ/丹波/唐橋、廷臣/尊攘) O 4 8 3 9
- J4700 頼親(よもちか・葉室はむろ/本姓;藤原、季頼男) 1234-1306 73 母;姉小路家時女、祖父資頼の養子、

廷臣;1274参議/従三位/1278興福寺の上訴により安藝国に配流;79還任/83権中納言、
1284按察使/86正二位/98(永仁6)権大納言/院執政、1299出家、頼藤よりふじの父、
1260(文応元)「石清水臨幸記」/86「弘安九年祠官言上」著、
[頼親(;)名)の初名/通称/法名]初名;時頼、通称;二条、法名;円観/円親

- J4701 頼継(よつぐ・葉室はむろ/本姓;藤原、光忠男)1492-1529³⁸ 母;藤原季遠女、戦国期廷臣;右大弁、
藏人頭歴任/1529(享禄2)参議/従三位、法名;理永、1512-22(永正9-大永3)「頼継卿記」著
- J4702 順承(よつぐ・松田まつだ) ? - ? 江前期曆算家;渋川春海(;貞享改曆者)の師、
1669(寛文9)「春秋述曆」/70「春秋杜曆考」著
- 04787 従継(よつぐ・藤枝ふじえだ、通称;主鈴)1807-86⁸⁰ 飛騨大野郡の水無みなし神社権禰宜、
国学・歌;山崎弘泰門
- P4723 頼續(よつぐ・松平まつだいら、頼覚よりさと[1807-67]3男)1840-1901⁶² 讃岐高松藩松平大膳家の生、
儒学・歌学;友安三冬みふゆ(1788-62)門、歌人、田村神社宮司/権少教正、
[頼續(;)名)の初名/通称/号]初名;覚賢/頼賢、通称;哲松、号;松嶼しゅうしょ/松籟館
頼次(よつぐ・稲津) → 次郎兵衛(じろべゑ・稲津いなづ、武芸者) N 2 2 1 7
- J4703 頼綱(よつな・源みなもと;清和流、通称;多田歌人、左馬権頭源頼国男)1024?-9774? 母;藤原仲清女、
平安後期廷臣;左衛門尉/藏人/下総守/三河守/従四下、1079叡山強僧の強訴鎮圧、96出家、
頼実の弟/師光の兄、仲正(金葉歌人)の父、父方叔父の頼家・母方叔父の範永も歌人、
歌人;1035賀陽院水閣歌合/51祓子内親王歌合/83四条宮扇合/91宗通家歌合など参加、
1094高陽院七番歌合に参加、後拾遺入集歌の評価をめぐり袋草紙入、新撰朗詠・夫木抄入、
勅撰8首;後拾遺(231/371/636/665)金葉(278/656;信綱と連歌)詞花(101)続古今(1868)、
[夏山の檜の葉そよぐ夕暮はことしも秋の心地こそすれ](後拾遺;夏231)、
(橘俊綱邸で晩涼秋の如しという詠)
- 4733 頼綱(よつな・宇都宮うつのみや、法諱;蓮生れんしゅう、成綱男)1178-1259⁸² 母;新院藏人長盛女、御家人:
下野宇都宮領主、1205牧氏[妻の実家]事件に連座/謀反の疑惑を受け出家:法然門/京住、
歌人;弟信生と宇都宮歌壇で活躍、藤原為家の義父、1235定家に「嵯峨中院障子色紙」依頼、
1258-9為氏「新和歌集」59首入(;息泰綱・甥時朝・孫景綱と)・「東撰六帖」入、
勅撰39首;新勅(535/617/1261)続後撰(7首315/611以下)続古今(228/1811)続拾(6首)以下、
「法事讚積学要義鈔」「観無量寿経积学抄」「述誠問」著、
[古いにへの我とは知らじ浅香山見えし山井の影にしあらねば](新勅撰;八羈旅535)、
(修行中に浅香山を越える;蓮生法師)、
[頼綱(;)名)の通称/法諱/号]通称;弥三郎/宇都宮入道(;浄土宗出家後)、号;実信房
- J4704 頼綱(よつな・平たいら) ? - 1293^{自害} 鎌倉期幕臣/武将、
執権北条貞時の乳母の夫として権勢、霜月騒動で安達氏を倒す、
平禅門の乱で貞時に襲われる
- J4705 頼綱(よつな・馬場ばば、通称;次郎兵衛)?-? 江中期羽前米沢藩士;1770出仕/文筆家、
「遺穂集」「聿修篇」編、「閑窓之友」「組外公務雑記」「米沢考頭記」著
頼綱妻(よつなのつま・源) → 中納言(ちゅうなごん、仲政母) G 2 8 6 9
- J4706 頼経(よつね・九条くじょう/藤原、道家男)1218-56³⁹ 母;西園寺公経女准后綸子、
教実・良実・実経の弟、1219(2歳)で鎌倉に迎えられる;1226右中将、1226鎌倉幕府4代将軍、
1233中納言/38権大納言、1244北条家により将軍を息子頼嗣に譲渡させられ退位、
1245出家、1247以降「貞享版本金槐集」編纂?
- J4707 頼常(よつね・平たいら) ? - ? 室町期歌人;「百人一首頼常聞書」著、
1478東(平)常縁より平頼常に古今伝授、頼常は常縁の息子か?
- J4708 頼常(よつね・松平まつだいら、徳川光圀長男)1652-1704⁵³ 1664松平頼重養子;73讃岐高松藩主を嗣ぐ、
儉約政治で藩財政再建/法令整備で綱紀肅正、子弟教育;十河順安・根本久武を藩儒に採用、
松下見林に禄を与え著作に専念させる/従四下侍従/右京大夫/讃岐守/左近少将、
1679「仏生山法然寺添条目」著、
[頼常(;)名)の幼名/字/通称/号]幼名;鶴松/鶴千代、字;齊民、通称;右京/高松少将、
致仕後;新九郎と称す、号;南山/南嶺、法号;竜徳院、諡号;節公

- J4709 **頼庸**(よつね・錦小路にしきのこうじ/本姓;丹波、小森頼季男)1667-1735⁶⁹ 江前中期廷臣/医者; 1699元服、1701(宝永4、35歳)勅命で錦小路を称す/09右京権大輔/侍医、 1726(享保11)室町期断絶の錦小路家を再興/31従四上、尚秀ひさひでの養父、 1699-1721「錦小路頼庸朝臣記」1732「春日住吉参詣記」、「丹波頼庸記」著、法号;明雲院
- J4710 **頼庸**(よつね・諏訪すわ、通称;鶴蔵、6代藩主諏訪忠厚男)?-? 兄忠肅は信濃高島藩7代藩主、 天明1781-89頃儒者;詩文に長ず、1787(天明7)「日本対句撰」著
- H4741 **頼庸**(よつね・土岐とき、頼方男))?-? 江後期旗本幕臣;高家、侍従、頼之の父、 歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、 [雲のみる遠山どりの尾のへよりほのかに見ゆる初ざくらばな](大江戸倭歌;春223)
- N4766 **頼庸**(よつね・田中たなか、)1836-1897⁶² 薩摩鹿児島藩士;文学を修学、 島津久光の文久の改革で京住;儒学・医学を修学/のち国学を修学:1867帰郷、 維新後;1871神祇省に出仕;教部大録/伊勢神宮大宮司、のち大教正/神道事務局副管長、 1882神宮教管長/東京住;常世長胤や出雲の千家尊福を批判、 「校訂日本紀」「校訂古事記」「校訂古語拾遺」「神徳論」「梅の屋文集」「語書」著、 [頼庸(;名)の通称/号]通称;藤八、号;雲岫うんしゅう/梅屋
- 頼庸(よつね・牛島) → 盛庸(もりつね・牛島うじま、和算家) F 4 4 8 0
 頼連(よつら・明智あけち) → 玄宣(げんせん;法号、武士/連歌) C 1 8 5 4
- L4795 **頼暉**(よてる・大久保おおくぼ、通称;飛驒)?-?慶応1865-68頃没 讃岐玉松藩士;1845(弘化2)大老、 禄3千石/藩主松平頼胤に出仕;1865致仕、歌道に長ず
- J4711 **頼任**(よとじ・安陪/安倍あべ)1624-93⁷⁰ 筑前秋月藩士/剣術家、 タイ捨流;東権右衛門・相良正章門、1667(寛文7)一流を創設、黒田家指南役;禄2百石、 「安陪立剣道印可巻」「安陪立剣道組之次第」「安陪立剣道四剣之巻」「安陪立剣道秘集巻」、 「安陪立剣道驚術之巻」「安陪立剣道慮術之巻」「安陪立剣道濫觴之巻」外著多数、 [頼任(;名)の通称/号]通称;五郎太夫尉/宗左衛門、号;一鎬士いっこうし/夢翁
- J4712 **頼遠**(よとお・土岐とき/本姓;源、頼貞男)?-1342誅殺 南北期武将/美濃守護;蔵人・左近将監、 暦応1338-42頃美濃長森城を築城;城主、足利尊氏・直義の家臣、 1342光厳上皇の御幸に狼藉を働く;京六角壬生で誅される、道謙・頼仲・頼基と兄弟、 氏光・光明・光正の父、歌人;頼阿と交流、自邸で歌合主催、 勅撰3首;新千載(1742)新拾遺(1654)新後拾遺(1213)、 [たれになほ忍の山の時鳥心の奥のこと語るらむ](新千;雑1742)、 [頼遠(;名)の通称/法号]通称;伯耆七郎、法号;乗船寺覺然大悟
- J4713 **頼永**(よとお・有馬ありま、藩主頼徳4男)1822-46^{早世25} 筑後久留米藩主;1830(9歳)世子/44藩主、 従四下/上総介/筑後守、儉約令を發布;藩財政再建・藩政改革に尽力;半ばで1846病没、 詩文;佐藤一斎門、正室;晴子(はるこ・春姫/幸姫/島津斎宣なりのぶ女/島津斎興養女、歌人/琴)、 「思艱斎遺稿」(;野崎教景のりが編)、 [頼永(;名)の幼名/字/号]幼名;赤松/弥作、字;君成、号;思艱斎/雲船/勤子斎/良山、 法号;義源院
- J4714 **頼時**(よとき・戸次べつき/本姓;藤原、貞直男)?-? 鎌倉期豊後の武将/従五下兵庫頭/丹後守、 鎌倉幕府鎮西評定衆、歌人;新千載集1954、 [和歌の浦や道をたづねてまな鶴のまなぶる跡にまよはずもがな](新千;雑1954)
- J4715 **頼言**(よとき・源みなもと) ? - ? 南北期?廷臣;五位/歌;新後拾遺1032、 [身にしらぬ相坂山のさねかづら関をば越えてくる人もなし](新後拾;恋1032)
- J4716 **頼時**(よとき・金森かなもり/本姓;源、頼業の長男)1669-1736⁶⁸ 父は飛驒高山藩主/母;井上正任女、 1672(寛文12)父遺跡を継嗣/出雲守従五下、1692羽前上山かみのやまに転封、 1697美濃郡上・越前大野に封地;郡上八幡城を居城にす、「梅窓筆記」著、 [頼時(;初名)の別名/通称/法号]別名;頼峯よとき、通称;万助/万之助、法号;仙竜院
- J4717 **頼言**(よとき・山科やましな、初名;師言もろとき、堯言男/本姓;藤原)1722-70⁴⁹ 廷臣;1750従三位、 1754参議/57権中納言/58太宰権帥兼任/65正二位/68出家、故実家、「弁官補任ぶん補填、 歌人;1760「七夕会和歌七十首」、1765「日光神息参向記」、「検非違使補任」「頼言卿記」著、 法名;徹紹、法号;安養院

頼言(よるとき・高岳) → 頼言(よりのぶ・高岳、歌人) J 4 7 3 8
頼時(よるとき・源) → 済政(なりまさ・源、音楽/歌) I 3 2 1 2
頼時(よるとき・北条) → 泰時(やすとき・北条ほうじょう/平、執権/歌) 4 5 2 6

J4718 頼時女(よるときのみすめ・源みなもと)?-? 歌人、夫の死を悼む歌2首;新千載2248/新拾865
[先立たじおくれじとこそ思ひしか契りしかひもなき別れかな](新千;哀傷2248)

J4719 頼俊(よとし・源みなもと、頼房男)?-? 1081存 母;後冷泉天皇母嬉子の家女房、祖父源頼親の猶子、
武将/廷臣;従五下、讃岐・陸奥守/上総介/左衛門尉/1081園城寺僧徒追捕に派遣される、
関白頼通家家司として近侍か、妻;藤原定輔女、娘は結婚せず浄土を願ひ往生(続往生伝)
歌人;1049-52成立[頼通家蔵人所歌合]参加、後拾遺集1156(諧謔的な詠)、
[たらちねははかなくてこそやみにしかこはいづことて立ち止まるらん](後拾;雑1156)、
(源国房と牛車に同乗し途中で父定季の墓があると言って下車した国房に対し詠;
たらちねは親(父)を指す/果なくと墓なくを掛る/こ(此処)と子を掛る、親友故の諧謔)

J4720 頼稔(よとし・土岐とき/本姓;源、頼殷男)1695-174450 大坂に生/1713(正徳3)撰津河内を襲封;
3万5千石、従四下丹後守/侍従、1723奏者番/28寺社奉行兼任/30大坂城代/34京都所司代、
1742(寛保2)老中、上野沼田藩主、「乾光遺事」「土岐侯百首」著、
[頼稔(;名)の別名/通称/法号]別名;頼俊、通称;内匠たくみ/兵部、法号;乾光院

J4721 頼要(よとし・葉室むろ/本姓;藤原、坊城俊清2男)1715-9480 江中期廷臣/1730葉室頼胤の養子、
1742従四下蔵人頭/43正四上/44左大弁/46(延享3/32歳)参議/47従三位/48権中納言、
東照宮奉幣使/1749賀茂伝奏/51正三位/53左衛門督兼任/55権大納言/56神宮上卿従二位、
1757石清水放生会上卿/60右近衛大将兼任/62正二位/63大納言辞任/76従一位、94没;80歳、
1734-41(享保19-元文6)「葉室頼要記」、38「御祈奉行日記」40「神宮日記」「蔵人拝賀次第」、
1757「石清水放生会次第」、「石清水放生会図」「葉室頼要和歌」「葉室頼要年譜」外著多数、
[頼要(;名)の初名/法号]初名;俊範、法号;遠塵院得法浄眼、養子;頼熙

頼敏(よとし・沢/小槻) → 時元(ときもと・小槻おつき/大宮、廷臣) K 3 1 1 8

頼利妻(よとしのつま・有馬) → 松千代妻(まつちよのつま・有馬ありま、藩主室/歌人) U 4 0 1 8

頼福(よとみ → のぶよし・橋本) → 頼福(のぶよし・橋本はしもと/橋、和学) J 3 5 6 1

J4722 頼朝(よとも・源みなもと、左馬頭義朝3男)1147-119953 母;熱田大宮司藤原季範女、初め廷臣;
皇后宮権少進/上西門院蔵人/右兵衛権佐など歴任、平治乱に父敗れ1160捕縛、
伊豆に配流;20年間/その間北条政子と結婚、1180以仁王の令旨に応じ平家追討の挙兵、
石橋山に敗戦後鎌倉で再挙;富士川合戦で平維盛を破り鎌倉に侍所を設置、
1183宣旨により東国支配権を得る/1184鎌倉に公文所・問注所設置、
弟範頼・義経により1185平家を壇ノ浦に滅す/1189奥州藤原氏を討滅、正二位、
守護地頭制定/1190入京;権大納言・右近衛大将/日本国総追捕使・総地頭に就任、
1192鎌倉幕府を開設/征夷大將軍;初代將軍、
歌人;慈円と歌の贈答/西行と歌や弓馬について会談、万代集入/菟玖波集4句入、
勅撰10首;新古今(975/1786)続後撰(544)続古(872)続拾(840)新後撰(1396)玉(2272)以下
[道すがら富士の煙けぶりもわかざりき晴るゝ間もな空の気色に](新古今;羈旅975)、
(噴煙だと見分けられない/空は曇っている/晴るる間もなきは涙を暗示)、
[頼朝(;名)の幼名/通称]幼名;鬼若/鬼武者、通称;鎌倉殿、頼家・実朝の父

J4723 頼豊(よとよ・土岐とき/本姓;源/今峯、土岐氏光男)?-? 南北期武将/五位左馬助、
歌人;新続古今(938/1948)、
[けふもただ暮るるばかりをかざりにてまづ行きとまる武蔵野の原](新続古;羈旅938)

頼豊(よとよ・能勢) → 頼則(よりのり・能勢のせ/源、武将/連歌) J 4 7 4 4

Q4731 頼直(よなお・土岐とき/本姓;源、頼貞[1271-1339]男)?-? 南北期;廷臣;左衛門蔵人、
従五下/左衛門尉、歌人;[藤葉とうよう集]入、父・兄弟も歌人、
兄弟;頼明(道謙どうけん)・頼遠・周崔・頼仲・頼清・頼基・頼兼など、
[うき名のみよそにながれて涙川思ひにしづむみとぞなりぬる](藤葉;恋435)
[頼直(;名)の通称/号]通称;土岐小太郎、号;福光

J4724 従直(よなお・藤木ふじき、藤木志摩守佳直男/本姓;賀茂)1629-7850 神職;1661北面、阿波守/正六下、
1664「下上遷宮次第」著、幼名;松鶴、通称;阿波守

- J4725 **頼直**(よりなお・細川ほそかわ、細川[池]理右衛門男)?-1796 土佐長岡郡西野地村の郷土、1766父が池から細川に復姓、1769(明和6)父の跡を嗣ぎ土佐藩郷土、天文暦学;川谷致眞門、儒;戸部愿山門、数学・物理・天文・器械に精通、西洋暦学習得;天球儀・時計・測量器等製作、1791幕府天文方山路徳風に入門/95幕府の改暦助手、櫓時計・尺時計・絡繰人形など制作、1796「機巧図彙」、「写天儀記」著、
[頼直(;名)の字/通称/号]字;叔卿/方卿、通称;半蔵、号;丘陵
- J4726 **頼直**(よりなお・成田なりた、頼緩男)1760-183374 岩代二本松藩士;郡代・城代歴任、藩史の編纂、松平定信の知遇を得る/広瀬蒙斎・頼山陽・佐藤一斎と交流、頼裕の父、1799「松藩搜古」、「松藩輿志」、「松藩徴古」編、1807「丁卯私記」08「族譜淵藪」23「南轡紀遊」、「積達館基考」、「遊芸堂日筆」、「確斎日筆」著、「遊芸館筆記」編、
[頼直(;名)の別名/字/通称/号]別名;直、字;伯温、通称;弥義右衛門/又八郎、号;確斎/鶴斎/遊芸堂、(致仕後号);島友鷗、法号;智源院
- N4720 **頼直**(よりなお・桜井さくらい)1824-1868暗殺45 美作苫田郡の尊攘運動家、京の岩倉具視邸に出入/1864禁門の変で幕府の嫌疑を受け僧に変装し逃亡、1868(慶応4)戊辰戦争では岩倉具定に随い旗奉行;暗殺される、
[頼直(;名)の通称/号]通称;新三郎、号;義山
頼直(よりなお・堀江) → 逸風(いづぶう・堀江ほりえ、藩士/書家) H 1 1 7 8
頼尚(よりなお・諏訪) → 頼蔭(よりかげ・諏訪すわ、旗本/奉行) N 4 7 4 0
- J4727 **頼仲**(よりなか・土岐とき/本姓;源、頼貞男)?-? 武将/従後下撰津守、歌人;新拾遺1822、道謙どうけん[頼明]・頼遠・頼基と兄弟、
[頼仲(;名)の通称]麻生八郎
- N4791 **頼中**(よりなか・知久ちく、頼直男?)1732-181382 信濃伊那郡喬木村の旗本/阿島陣屋(領主)、頼直を継嗣;阿島陣屋6代目、交代寄合/歌人、
[頼中(;名)の通称]辰之介/主殿とのも/伊左衛門(初代則直の称)
☆知久家11代[則直→直政→昌直→頼久→頼直→頼中→頼膺→頼福→頼衍→頼匡→頼謙]
- J4728 **順仲**(よりなか・五辻いつじ/本姓;源、盛仲男)1745-180662 母;平松時春女、廷臣;治部卿、1782正三位、1797落飾、「神楽年月秘抄 長和元-安永三年」編、「探題当座」著、
[順仲(;名)の出家号/法号]出家号;行寿、法号;妙楽院
- N4739 **頼中**(よりなか・須藤すどう、通称;権右衛門)1788-185770 伊予宇和島藩士;矢野組代官、歌人
- J4729 **頼央**(よりなか・藤田ふじた) ? - ? 江後期美濃養老北麓の暦算家;臨濟僧の環中門、1843(天保14)刊「団扇骨弦儀図説」著(;環中「須弥界四時異同辨」の付録)、「須弥曜直曆」著、
[頼央(;名)の号] 無紛子/樸隠子
- 4734 **頼長**(よりなが・藤原ふじわら、忠実2男)1120-56戦死37 母;藤原盛実女、1125兄忠通の養子/31従三位、1136内大臣/49従一位左大臣/1150父が氏長者を頼長に交替;兄忠通と対立政争、鳥羽法皇の信を失い1155宇治に籠居、1156(保元元)法皇の死により崇徳上皇と挙兵;保元乱;敗走負傷し没、経学研究、師長の父、「左府鈔」「除目秘抄」「天皇御元服記」著、1142「康治元年大嘗会記」51「春日詣部類記」55「賀茂詣記」、日記「台記たいき」「台記別記」著、連歌;菟玖波集入(;隨身秦公春きんはると)、
[くつのうへにも飛ぶ千鳥かな](菟;冬507;秦公春/大将の沓のしきみの千鳥絵を見て)、
[難波渦葦の入江やさむからじ](;宇治贈太政大臣頼長)、
[頼長(;名)の幼名/通称]幼名;菖蒲若/安也若/綾若、
通称;宇治左大臣[宇治左府]/悪左府/宇治贈太政大臣(;菟玖波集)
- J4730 **頼長**(よりなが・坂上/阪上さかのうえ、別号;雅丈)?-? 江前期撰津池田の俳人;稻丸の縁者?、1679(延宝7)「摩耶紀行」著(;宮川松堅跋)
- M4766 **頼長**(よりなが・桑折こおり/くわおり)1642-167837 伊予宇和島藩士/桑折宗明の弟、国学/歌;桑折宗明(宗臣)門、北村季吟流、
[頼長(;名)の初名/通称/号]初名;頼興/頼貞、通称;蔵人/荘次郎/荘三、号;隣松軒
- N4797 **頼長**(よりなが・土岐とき、頼行2男)1642-9453 父は出羽上山藩主、江戸の生、和学者、世嗣として1660(万治3)従五下・左京亮、日頃より不行跡のうえ病弱、1678廃嫡、兄頼殷が嫡子、1694(元禄7)没、

[頼長(；名)の通称] 清左衛門/左京亮

- J4731 **頼永**(よりなが・遠山とおやま/本姓;源、?)? 江前期;歌学者;日野弘資(1617-87)門、
仁木充長の師、「烏丸資慶卿消息」編、歌集「頼永独吟百首」著、
歌書「霜の下の草」「頼永聞書」「三代集訓点」著、歌;茂睡[鳥の迹]・了寿「新歌され石」入
[我ならで又すむものは山の端に木の葉曇らぬ冬のよの月]([鳥の迹]441/山家冬月)、
[頼長(；名)の通称/号]通称;平右衛門、剃髮号;平入
- L4742 **従長**(よりなが・吉川よしかわ、惟足これたる男)1654-1730⁷⁷ 江戸幕府神道方/吉川神道2代目、従安の父、
[従長(；名)の別名/通称/号]初名;惟順、通称;内蔵之助/源十郎、号;円竜
- J4732 **頼長**(よりなが・伊藤いとう)1688- 1765⁷⁸ 陸前仙台藩士、仙台滞在中の大宰府の了道に参禅、
歌人、「仏法伊呂波歌」「仏法百吟集」「仏法裸物語」「名言儒仏近学集」著、
[頼長(；名)の通称/号]通称;十郎兵衛、号;東仙
- J4733 **頼永**(よりなが・丹波たんば、頼之男)1808-48⁴¹ 廷臣/医者;父門/1820(文政3)典薬助/禁色昇殿許可、
1821左将監、1830「新嘗祭記」著
- N4744 **順長**(よりなが・菅すが、初名;清)1798-1863⁶⁶ 備前岡山藩士、国学者
頼永(よりなが・有馬) → 頼永(よりとお・有馬、藩主/詩文)
頼長(よりなが・清原) → 頼業(よりなり・清原、廷臣/明経道) J 4 7 3 4
頼長(よりなが・内藤) → 風虎(ふうこ・内藤義泰、藩主/俳人/歌) 3 8 5 5
- J4734 **頼業**(よりなり・清原きよはら、祐隆男)1122-89⁶⁸ 平安後期廷臣;漢学者、明経道の清原学中興の祖、
1166大外記/1175明経博士/正後上、藤原頼長に認められ近侍;経学を講ず/高倉天皇侍読、
九条兼実の眷顧を受け「貞観政要」「群書治要」に加点、兼実男良通・良経に漢学を講ず、
1174文殿衆として中原師尚らと共に蓮華王院宝蔵の蔵書目録を作成、没後車折社に祀、
1163「長寛勘文」68「高倉院御即位記」、「安徳天皇御即位記」「治承四年四月廿二日」著、
「頼業記」著、
[頼業(；名)の初名] 頼長/頼滋よりしげ
- J4735 **頼業**(よりなり・宇都宮うつのみや/本姓;藤原、成綱or頼綱男)1194-? 1238^存 母;梶原景時女?、武将;
鎌倉幕府將軍藤原頼経の上洛に供奉/歌人;宇都宮歌壇に活躍、新統古今集1605、
[ともにこし道はさながら宇津の山うつつも夢とみるぞかなしき]、
(新統古;哀傷1605/東から伴って上る途中に女が死に宇津の山にて詠む)
- J4736 **頼業**(よりなり・葉室はむろ/本姓;藤原、万里小路までのこうじ孝房2男)1615-75⁶¹ 母;長谷川重吉女、
権中納言葉室頼宣の養子、江前期廷臣;1642正四上蔵人頭/44右大弁/45(正保2)参議、
蔵人頭左大弁兼任/46従三位/49正三位/52権中納言/54神宮伝奏/55従二位/賀茂伝奏、
1656権大納言;賀茂伝奏兼任/60正二位/66権大納言辞任、頼孝の父、
1654-74(承応3-延宝2)「葉室頼業記」、69「源氏聞書」「武家伝奏官位御沙汰御使覚」、
1671「貫主補任諸勘例」、「三節会内辨要」「延宝度改元定伝奏覚書」外著多数、法号;瑞光院
- 04726 **従業**(よりなり・長野ながの、)1623-1675⁵³ 近江彦根藩士、歌人;[彦根歌人伝・亀]入、
[従業(；名)の通称]小太郎/宇左衛門
従業(じゅうぎょう・長野) → 従業(よりなり・長野ながの、藩士/歌人) O 4 7 2 6
頼業(よりなり・藤原) → 寂然(じゃくねん;法諱、天台僧/大原三寂/歌) 2 1 3 8
頼成(よりなり・源) → 頼成(よりしげ/よりなり・源みなもと、廷臣/歌) K 4 7 3 4
頼成(よりなり・中原) → 頼成(よりしげ/よりなり・中原、廷臣/歌人) I 4 7 6 9
頼成(よりなり・上杉) → 頼成(よりしげ・上杉[上相]/藤原、武将/歌) I 4 7 7 1
頼成(よりなり) → 頼成(らいせい、僧/俳人) C 4 8 4 4
頼成(よりなり) → 頼成(よりしげ、俳人) I 4 7 3 1
頼成室(よりなりのしつ・中原) → 頼成室(よりしげのしつ・中原、歌人) I 4 7 7 4
- J4737 **頼信**(よりのぶ・源みなもと、満仲男)968-1048⁸¹ 平安中期武将;鎮守府將軍/河内守、
平忠常の乱を平定、河内源氏の祖
- J4738 **頼言**(よりのぶ/よるとき・高岳たかおか、相如すけゆき男)?-? 1042^存 廷臣;従五下・阿波守/1027頃外記、
歌人;続詞花集入集、後拾遺94、
[見るからに花の名だての身なれども心は雲の上までぞゆく](後拾;春94)、
(南殿の桜を見て/紫宸殿の左近の桜の引立役のみすばらしい我身;心は宮中まで)

[子におくれてよみ侍りける、
人のうへとききこしものをしての山我がこのみちにまどひぬるかな]、
(続詞花;哀傷416)

J4739 頼宣(よりのぶ・徳川とくがわ/本姓;源/家名;松平、家康10男)1602-7170 紀伊和歌山初代藩主、母;正木頼忠女(実は蔭山氏広女)のお万(養珠院)、伏見城に生/1603兄信広の遺領継嗣;常陸水戸20万石、1609駿河・遠江に転封/1619(元和5)紀伊・伊勢に移封;初代和歌山藩主、1667致仕、「紀南竜公訓諭」「南竜公教令」「紀伊南竜公家臣ニ示ス心得書」「父母状触書」著、歌;1626後水尾天皇二条城歌会参加、連歌;1611慶長十六年正月兄義直らと「山河百韻」参、[頼宣(;名)の別名/通称/諡号/法号]幼名;長福丸、初名;頼将/頼信、通称;常陸介、諡号;南竜公、法号;南竜院

J4740 縁信(よりのぶ・東とう/家名;石野/本姓;平)1716-? 国学者;荷田在満門/のち賀茂真淵門、有職故実の研究、「詠歌必要」著/1774「季吟法印幡山十景和歌」編、[縁信(;名)の別名/通称/号]別名;不知麻呂/淵満あまろ、通称;只軒、号;石翁/小雲泉主人/六及堂

J4741 因信(よりのぶ・北原きたはら、信維の長男)1790-186273 代々信濃伊那座光寺村の名主;継嗣、母;いさ、農事・土木事業に尽力/傍ら寺子屋を開設;父信維・因信・稲雄・信綱と4代続く、歌:福住清風門/俳;八巢蕉雨門、洋学;田中泰仲門/天文地理にも通ず、「北原因信歌集」著、姪の松尾多勢子の師、稲雄・今村真幸・樋口光信の父、[因信(;名)の幼名/通称/号]幼名;小太郎、通称;民右衛門、号;志雄
父 → 信維(のぶこれ・北原きたはら、国学・歌人) I 3 5 2 0
母 → いさ(・北原きたはら、旧姓;市岡、歌人) K 1 1 2 0
子 → 稲雄(いなお・北原きたはら、国学・歌/勤王) I 1 1 0 4
孫 → 信綱(のぶつな・北原きたはら、衆議院議員) I 3 5 2 1

P4742 因信(よりのぶ・宮沢みやざわ、旧姓;島地、)?-1857 信濃飯田藩士宮沢義茂よしげの養子;家督嗣、国学・歌人;養父門、通称;琢治郎

J4742 自延(よりのぶ・遠田とおだ、自久男)?-? 江後期金沢藩士;1832家督嗣;父を継嗣1355石、人持組に列す、「遠田勘右衛門書翰」著、[自延(;名)の通称] 松五郎/勘右衛門

K4778 頼誠(よりのぶ・松平まつだいら、初名;繁麿、陸奥守山藩主頼慎長男)1803-6260 母;徳川治保女、水戸支流頼元系松平家6代/1830父没;家督嗣;陸奥守山藩の第5代藩主、従四位下/大学頭、藩財政悪化;豪農豪商から4500両借入/さらに財政逼迫;農民からの収奪強化、領民の騒動頻発;減免要求・助郷反対・不正役人の解任要求など、3男頼升が跡を継嗣、正室;松平頼説(常陸府中藩主)女の信姫(1832頼升出産後没)、継室;水戸徳川治紀(母方の伯父)女の苞姫(厚姫)、息;頼茂(長男)/松平頼音(2男)/松平頼升(3男)/松平頼彬(4男)/松平頼邑(5男)、

P4797 順宣(よりのぶ・横田よこた、屋号;俵屋)1834-64斬刑31 京の書肆;耕佃堂を経営、国学;1862平田鍊胤門、勤王志士と交流;自宅で尊攘の密議;1863(文久3)幕吏に捕縛;1864(元治元)禁門変に際し獄で斬殺、[順宣(;名)の通称]敬蔵/俵屋清兵衛

頼宣(よりのぶ・明智あけち) → 玄宣(げんせん;法号、武士/連歌) C 1 8 5 4

頼信(よりのぶ・徳川) → 頼宣(よりのぶ・徳川/源/松平、初代紀州藩主) J 4 7 3 9

J4743 頼範(よりのり・藤原ふじわら、光範男)1162-1221?60? 平安鎌倉期廷臣;1190東宮学士/1210非参議、1219式部大輔/20安芸権守/1221(承久3)出家、詩人;1205元久詩歌合/13内裏詩歌合(;詩)参加

K4712 頼範(よりのり・菅原すがわら) ? - ? 鎌倉幕府の武士?

早歌;1319月江「玉林苑;鶴岡靈威つるがおかのれい」作曲(菅武衛名)

J4744 頼則(よりのり・能勢のせ/本姓;源、頼時3男)?-1516 戦国期武将;因幡守/撰津芥川城主、細川政元被官/細川京兆家(上屋形)の家臣、1511(永正8)四国の細川澄元方兵庫口侵入時に細川高国と芦屋河原で防戦、連歌:宗祇・宗長・肖柏と交流、一休宗純に参禅、新撰菟玖波集2句入、

1485「新住吉千句」興行/88「能勢頼則千句三物」興行、1503常縁[素伝]より古今伝授、没後;1518宗長が3回忌法要「東山千句」催、

[頼則(;名)の別名/通称/号]別名;頼豊、通称;源左衛門、号;以伝、法名;宗心

J4745 頼紀(よりのり)・松平まつだいら/本姓;源、磐城守山藩主松平頼寛よりひろ5男)1751-181161 磐城守山藩士、好学;詩文・画に長ず、[古列女伝]に倣った貞女伝記を著す、「春日の局の伝」編、1789「画譚叢記」1794「招隠館漫筆」1801「大東婦女貞烈記」著、「源頼紀詩并箴言」著、

[頼紀(;名)の幼名/別名/字/号]幼名;音三郎/後名;頼溥、字;菅丘、

号;鸞岳/招隠館/松隠館、法号;礼心院

L4712 順則(よりのり)・赤星あかぼし、通称;意碩)1752-9241 肥後益城郡の医者、歌;進藤尚盛ひさもり門、

阿蘇家の家臣;医家として出仕、歌人

J4746 頼徳(よりのり)・相良さがら/本姓;藤原、藩主長寛ながひろ2男)1774-185683 母;浜崎美恵、肥後人吉藩主;兄病身のため1793嗣子となり1802家督嗣;2万2千石襲封、江戸城柳間詰、儒;細井平洲門、妻;鉢いっ(正妻/松平頼謙女)・於蓮・於幸、頼之・頼直の父、

狂歌;鹿都部真顔門;狂歌堂を受;緋月亭を興す、四方側判者、1818家督を息子頼之に譲渡、

狂歌・俳諧・歌を嗜む、1836「四方廻巴流」編、

[頼徳(;名)の幼名/通称/号]幼名;英次郎、通称;武之進/左京/対馬守、

号;緋月/緋月亭島人/狂歌堂島人、法号;寂淳院

P4725 頼儀(よりのり)・松平まつだいら、高松6代藩主頼眞よりざね長男)1775-182955 母;側室即就院(中山家)、叔父高松藩7代藩主頼起の養子;1792(寛政4)家督嗣;讃岐高松藩8代藩主、

従四上左近衛権中將/讃岐守、初め緊縮財政/奢侈となり物価高騰・殖産失敗・

江戸屋敷火災・屋島神社造営などで財政破綻、製塩製糖育成に尽力、藩主中16回の干魘、

正室;藤姫(前田重教女/1778-96)、継室;晴姫(池田治政女/1782-1845)、側室;藤木家出身、

頼該・頼胤・頼顕・本多忠民・倫姫(徳川治紀男の頼恕室)・井伊直亮正室・律姫の父、

1821(文政4)隠居;婿養子頼恕が家督嗣、1829(文政12)没、

[頼儀(;名)の通称]讃岐守

N4796 頼徳(よりのり)・寺内てらうち、通称;九兵衛)1809-185749 山城紀伊郡深草の農業(豪農)、

歌人;香川景樹門、漢学・詩にも通ず

K4775 頼則(よりのり)・岩崎いわさき) ? - ? 江後期;歌人、幕臣?、

1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、

[さらでだにさびしき宿の糸すすき心細くや誰招くらん](大江戸倭歌;秋747/閑庭薄)

K4798 頼徳(頼恵よりのり)・万年まんねん/本姓;藤原) ?-? 江後期;歌人、幕臣、

1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、1860鋤柄助之「現存百人一首」入、

[明けぬるか庭のあさぢの露の間に宿れる月の影しらみ行く](大江戸倭歌;夏527)、

[尾花吹く秋風寒しものふの小手指原こてはらの雨の夕暮](同;雑1943古戦場、

小手指原;武蔵所沢付近の台地;1333[元弘3]新田義貞が北条軍を破った古戦場)、

[薄衣袖吹く風ぞ懐かしき花にいとひし名残れども](現存百人一首;17)

N4724 頼徳(よりのり)・沢田さわだ、初名;頼恵よりよし)1823-9674 武蔵入間郡藤沢村の神職、国学者、

1850(嘉永3)熊野神社社司(代々の職継嗣)、維新後;1874(明治7)奈良石上神社禰宜、

4年後致仕帰郷;子弟教育、

J4747 頼軌(よりのり)・上領かみりょう、藤井茂信2男)1826-9570 長門萩藩士上領直清の養子、藩校明倫館修学、

詩に長ず、槍術;横地七兵衛門、刀劍鑑定に長ず、維新後;浜田県に出仕/のち東京住、

妻;榎子、1853「課余詩文稿」、「毛利三代史略」著、

[頼軌(;名)の別名/字/通称/号]初名;頼徳、字;君模/終卿、通称;九郎兵衛、号;乾堂

K4759 頼徳(よりのり)・松平まつだいら、宍戸8代藩主頼位の長男)1831-1864切腹34歳 母;松平保福女の糸、

1864(元治元)父隠居;家督嗣/常陸宍戸藩9代藩主;従五下/大炊頭、

本家水戸藩主徳川慶篤の補佐、幕命で水戸藩主名代として水戸天狗党騒乱平定に出発;

入城に失敗;那珂湊で戦乱に巻込まれる;賊魁として責任追及され松平万次郎邸で切腹、

家臣も処刑/父頼位も連座、宍戸藩は改易/江戸藩邸も幕府没収、

正室;松平頼顕女/継室;小出英発女の充御、

辞世;「思ひきや野田の案山子の竹の弓引きも放たで朽ち果てんとは」、

- [頼徳(；名)の幼名/字/号]幼名；豊太郎、字；伯生、号；繡山
- 04766 **方教**(よりのり・原川はらかわ、)1832-1860**早世**29 遠江城東郡の歌人；石川依平門、
[方教(；名/師依平の称)の通称/号]通称；久一郎、
号；桂園/薺園せいえん/禧園(師の号)/山間月(師の号)
- 04739 **頼徳**(よりのり・錦小路にしきのこうじ/本姓；丹波、唐橋在久男)1835-64**30** 廷臣錦小路頼易の養嗣子、
医官/右馬頭/従四上、1858(安政5)日米条約調印反対88卿列参奏上に参加、
1863(文久3)国事寄人/清水社攘夷祈願行幸に供奉/連署して攘夷親征を建議、
8月18日政変で国事寄人罷免；参内・他行・他人面会禁止、三条実美と長州西下；七卿落ち、
官医剥奪、1864(元治元)下関で客死、
辞世[はかなくも三十年の夢のさめてけり赤間関の夏の夜の空]、
[頼徳(；名)の字/通称/号]字；一貫、通称；岩丸/大和権介、号；翠園、
変名；頼/桑原頼太郎
- 頼教(よりのり・藤原) → 顕長(あきなが・藤原、廷臣/歌人) 1 0 7 7
 頼徳(よりのり・松平) → 忠和(ただとも・松平、藩主/天文暦学) Q 2 6 1 6
 頼軌(頼儀よりのり・松平) → 定賢(さだよし・松平、藩主/国学/詩) K 2 0 2 4
- J4748 **頼範女**(よりのりのむすめ・藤原ふじわら) ?-? 父は式部大輔/詩人、鎌倉期歌人；陸奥へ下向、
勅撰2首；新後撰(575)続千載(1128)、
[おとにこそ吹くともききし秋風の袖になれぬる白川の関](新後撰；羈旅575)
頼儀夫人(よりのりふじん・松平) → 晴姫(せいひめ・松平まつだいら/池田、藩主室/歌/書) O 2 4 4 8
- J4749 **頼春**(よりはる・細川ほそかわ/本姓；源、公頼男)1304-52**戦死**49 武将；従四下/刑部大輔/讃岐守、
弓の名手、1332元弘の乱以後は足利尊氏に随い多くの戦功、阿波・備後・越前の守護歴任、
1350観応の擾乱にも尊氏側、1352. 2. 29南朝との戦闘で京七条大宮付近に戦死、歌人、
夢想疎石に帰依、1336住吉法楽/44金剛三昧院奉納歌/50為世十三忌歌参加、藤葉集入、
勅撰8首；風雅(1433)新千載(767/1191)新後拾遺(5首392/565/914/1092/1301)、
[しののめの霞もふかき山の端に残るともなき有明の月](風雅；雑1433)、
[頼春(；名)の通称/法号]通称；九郎/源九郎、法号；光勝院、
和氏の弟/頼之・頼元・満之の父
- P4711 **因彦**(よりひこ・松木まつき、信彦男)1666-1718**53** 伊勢度会郡の外宮神職/和学、
高彦(1688-1753/外宮長官)の父
[家系] 信彦-**因彦**-高彦-圭彦-栄彦-範彦-朝彦 ┌ 美彦
└ 光彦
- J4750 **頼久**(よりひさ・細川ほそかわ/本姓；源、基之男) ?-? 室町期武将；父より和泉半国守護(下守護家)相続、
兵部少輔/阿波守、/文安宝徳1444-52頃武家歌人で活躍/連歌；1461心敬と「何路百韻」、
[頼久(；名)の別名/法号]初名；氏久、法号；流源院、持久の父
- J4751 **頼久**(よりひさ・松田まつだ、通称；河内守、法名；友意) ?-? 戦後期連歌作者；宗砌そうぜいの門流、
頼久の談話を基にした故実談「聴言鈔ちようごんしやう」榎並高能編(1567)、
連歌論書「発句切字註」著(縁者伊礼美作守吉泰に贈った書/1575榎並高能書)
- N4790 **頼久**(よりひさ・知久ちく、昌直男?) 1678-1744**67** 信濃伊那郡喬木村の旗本/阿島陣屋(領主)、
昌直を継嗣；阿島陣屋4代目、交代寄合/歌人、
[頼久(；名)の通称] 内蔵助/五郎/数馬/監物
☆知久家11代[則直→直政→昌直→頼久→頼直→頼中→頼膺→頼福→頼衍→頼匡→頼謙]
- P4712 **頼尚**(よりひさ・錦小路にしきのこうじ/本姓；丹波、尚秀男) 1743-97**55** 京の廷臣；蔵人/典薬頭/図書頭、
中務大輔/1777修理大夫/82正三位、妻；日野資枝女、頼理よりよし・津守国礼の父、
垂加神道；竹内式部(敬持)門
- J4752 **頼久**(よりひさ・諏訪すわ、頼高[秋扇]男) 1765-? 幕臣；1787小姓組番士/弓術に長ず、
「太鼓之巻」「行滕之秘事」著、
[頼久(；名)の通称] 吉三郎/数馬
- M4705 **依古**(よりひさ・岡野おかの、) ? - ? 江中後期紀伊和歌山藩家老、
国学者；本居大平(1756-1833)門、

[依古(；名)の初名/通称/号]初名；自明、通称；平太夫、号；桃舎

- J4753 **頼寿**(よりひさ・葉室はむろ/本姓；藤原、頼熙よりひろ男) 1777-1804**早世** 28 母；勸修寺かじゅうじ頭道あきみち女、
廷臣；1803参議/04従三位、「葉室頼寿記」、1792「新嘗祭次第」「例幣発遣次第」外著多数、
顕孝の父
- K4756 **頼説**(よりひさ・松平まつだいら、頼陽男) 1778-1833**56** 松平頼前の養嗣子；1795家督嗣；常陸府中藩主、
第8代藩主；従四下/兵部大輔/播磨守/侍従、藩校創設・新田開発等に尽力、蹴鞠を嗜む、
室；熊本藩主細川治兵女の寧子、頼縄・中山信守・頼功・有馬広衆・信(松平頼識室)らの父、
[頼説(；名)の法号/諡号]法号；巖徳院、諡号；清侯
- J4754 **頼永**(よりひさ・諏訪すわ、通称；靱負ゆげい、酒井大学頭男) ?-? 諏訪縫殿助の養嗣子/江後期幕臣；
1848筒井紀伊守林式部少輔手附書物御用頭取、58諏訪家を継嗣、
1861二ノ丸留守居格地志調頭取、1864先手鉄炮/65致仕、1853「藩鑑」著
頼久(よりひさ・松平) → 茂承(もちつぐ・徳川/松平/源、藩主) I 4 4 6 2
順故(よりひさ?・日下部) → 順故(じゅんこ・日下部くさかべ/藤原、幕臣/歌) P 2 1 5 6
- K4756 **頼説女**(よりひさのむすめ・松平まつだいら男) ?-? 常陸府中藩8代藩主松平頼説(1778-1833)の娘、
3人；信(水戸支流松平頼識の正室)・松平善の室(のち畠山義宣の継室)・
本堂親道の正室(のち鈴木重矩室)
歌；1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入(上記の誰か不詳)、
[萌え出づる草葉をおのが命とも知らでや駒の踏みしだくらん](大江戸倭歌；211春駒)
- J4755 **頼秀**(よりひさ・飯尾いのお/本姓；三善みよし) ?-? 南北室町前期の武将；1390頃より室町幕府奉行人、
歌；1364頃成立「一万首作者」入集、勅撰2首；新後拾1181/新統古1481
[面影を忘れもやらぬ心こそ人の残さぬ形見なりけれ](新後拾；十四恋歌1181)
- J4756 **頼秀**(よりひさ・丹波たんば、典薬頭頼豊男) ?-? 室町期廷臣/医者；典薬頭/施薬院使・宮内卿、
左京大夫歴任/1479正四下/のち従三位；内昇殿許可、「精選秘要抄」著、
一説に越前小森保地頭職/近江・摂津・播磨を領知
[頼秀(；名)の幼名/号]幼名；医王丸、号；錦小路
頼秀(よりひさ・外山) → 利一(としかず・外山とやま、陪臣/国学者) V 3 1 8 1
- N4777 **自僊**(よりひと・滝沢たきざわ、) 1810-1888**79** 武蔵飯能の多岐坐波(滝沢)神社祠官、良頭よしあきの父
- J4757 **頼仁親王**(よりひとしんのう・冷泉宮れいぜいのみや、後鳥羽天皇4皇子) 1201-64**64** 母；坊門信清女、
藤原兼子に養育、1210親王宣下、1221承久乱に連座；備前児島に流罪；没、「小島宮牛文」著、
[頼仁(；名)の通称] スグル御前/児島宮
- J4758 **職仁親王**(よりひとしんのう・有栖川宮[5代]、霊元天皇17皇子) 1713-69**57** 母；松室重敦女の敦子、
有栖川宮正仁親王の養嗣子；1716(享保元)有栖川宮家を継嗣/1726親王宣下/27元服、
二品/中務卿/1749一品、歌人；父霊元天皇門/鳥丸光荣門、桃園・後桜町天皇の歌道師範、
能書家；父の宸翰流を基に有栖川流を大成、「其華集」「和歌詠草」「和歌教訓」「百首詩歌」、
「有栖川宮家作歌之書」「職仁親王詠百首和歌」、1760「愚考一步抄」66「有栖川集」外著多数、
[職仁(；名)の幼名/法号]幼名；明宮、法号；本明円心院
随姫(よりひめ・島津) → 随真院(ずいしんいん・島津しまづ、藩主夫人/紀行) I 2 3 8 8
- J4759 **倚平**(よりひら・橘たちばな、字；橘宣、是輔男) ?-? 982前に没 平安前期廷臣；965省試に及第；勸学会入、
従五下/日向守、詩人；963善秀才宅詩合の右講師、文粹入/和漢朗詠・江談抄・和漢兼作集入、
歌；拾遺集337、
[昔見し生いきの松原事問はば忘れぬ人も有り と答へよ](拾遺；別337)、
(筑紫へ行く人の許に贈る歌/忘れぬ人は作者自身；かつて行った思い出の場所か)
- J4760 **頼平**(よりひら・鷹司たかつかき/本姓；藤原、太政大臣大炊御門頼実2男) 1180-1230**51** 母；平時忠女、
鎌倉期廷臣；1209正四下・右中將・蔵人/10(承元4)参議・右中將兼任；鷹司姓/11従三位、
1212正三位/14左中將転任/18権中納言/19従二位/20春宮大夫/21正二位・中納言/22辞任、
1223(貞応2/44歳)出家/30(寛喜2/51歳)没、1207-10「頼平卿記」著
- J4761 **頼衡**(よりひら・三善みよし) ? - ? 南朝廷臣；四位?、歌人；1381刊「新葉集」547、
[小篠原をさきはら露しく床の仮枕かまくら臥しうき夜半は夢も結ばず](新葉；羈旅547)
- 4735 **依平**(方救よりひら・石川いしかわ) 1791-1859**69** 遠州佐野郡伊達方村の大庄屋の家、
歌人；1799(9歳)冷泉為章門/近藤芳樹・加納諸平を合わせ二平一樹と称された、

国学;栗田土満・本居春庭門、「万葉集三山歌考」「万葉格例仮字」「万葉統新採百首」編、
「万葉集十四の考」編/「東歌地名考」「神楽催馬楽」「柳園雑記」「柳葉集」「檀之本詠草」外著多、
[依平(;名)の通称/号]通称;亀蔵/為蔵/惣太夫、

号;柳園/檀が本/山間月/禱園/葛粉/方教/掛川宿、原川方教よりの師

J4763 頼弘(よりひろ・紀き/家名;眞継、在弘男) ?-? 鎌倉期廷臣;御蔵小舎人;父継嗣/民部大丞、従五下、
1298(永仁6)「永仁御即位調進記」著(後伏見天皇即位時の御料調度費用調査記録)、
[頼弘(;名)の通称] 弾正左衛門、遠弘の父

J4764 頼広(よりひろ・水野みずの) ? - ? 江前期和泉堺の俳人:1654-79頃活躍、
1654歳旦発句集入/1656休安「ゆめみ草」入(;145句)/56梅盛「口真似草」入、
1672(寛文12)刊「誹諧発句名所集」編、1676西鶴「古今誹諧師手鑑」入、
[鈴鳴や八十瀬の波にぬれぬれず](手鑑/鈴鳴;鳴の一種:別名なきはじろ、
源氏;賢木;六条御息所の光源氏への返歌;

鈴鹿川八十瀬やそせの波に濡れ濡れず伊勢まで誰か思ひおこせむ)

J4765 頼寛(よりひろ・松平まつだいら、頼貞男) 1703-6361 磐城守山藩主;1743家督、殖産興業/農業対策、
儒;徂徠学、平野金華・服部南郭を招聘;藩校養老館を創設、旧記編纂/歴代詩を纂輯、
従四下/大学頭/若狭守/侍従、母;蜂須賀隆重女、頼重の兄、頼亮・頼紀の父、
詩/本草研究/書画に通ず、1750「論語徴集覧」54「菊経」55「菊経国字略解」56「歴朝詩纂」編、
1757「常州西山碑」60「発字四声便蒙解」補、「桜花図彙」「学庸解集覧」「守山問槎録」外多数、
[頼寛(;名)の幼名/字/通称/号]幼名;武次郎/雄次郎/一学/主税/頼母、字;子猛、
通称;下間宰相、号;黄竜/黄竜公子/仙子/観濤閣、諡号;頃公、

J4766 頼熙(よりひろ・葉室はむろ/本姓;藤原、堤つみ代長2男) 1750-180455 母;竹内[源]惟永女、
1765葉室頼要よりしの養子、江中後期廷臣;1785(天明5)正四上右代弁;参議、
1786従三位・左大弁造興福寺長官/勘解由長官兼任/87大嘗会参仕;陣執筆、
1788東照宮奉使参向/89正三位権中納言/91左衛門督兼任/92従二位/96権大納言/正二位、
1800太宰権帥兼任/02権大納言辞任/太宰権帥;04没(55歳)、頼寿よりひさの父、
「頼熙卿記拔萃」「洞裏儀」著、1775「南曹雜誌」82「白馬節会記」87「天明度大嘗会執筆次第」、
1789「仙洞和歌御会奉行雜誌」外著多数、
[頼熙(;名)の初名/法号]初名;栄行、法号;広徳院

J4767 頼裕(よりひろ・成田なりた、頼直よりなお男) 1784-182542 岩代二本松藩士;代官・郡奉行・郡代を歴任、
書・文筆家/武芸にも長ず、1809(文化6)「筆道要訣」著、
[頼裕(;名)の字/通称/法号]字;伯学、通称;又八郎、法号;憲章院

J4768 頼恕(よりひろ・松平まつだいら、水戸藩主徳川治紀2男) 1798-184245 讃岐高松藩主松平頼儀の養嗣子、
1821高松藩主を襲封;藩財政窮乏の対策/学問振興、考信閣建立;儒臣学者に史書を編纂、
正四下/侍従/大蔵大輔/讃岐守/左近権中将、贈従三位、「歴朝要紀」編、
[頼恕(;名)の幼名/字/号]幼名;熊次郎/昶之助ちやうのすけ、字;容民、号;南溟、諡号;愨かく公

N4765 因大(よりひろ・田中たなか/本姓;藤原、通称;惣右衛門) 1819-8466 近江彦根藩士、
国学・歌;小原君雄門、歌;[鳩のうみ]入

04706 頼啓(よりひろ・虎岩とらいわ、通称;武右衛門) 1824-7047 信濃伊那郡の伊豆木小笠原家の家臣、
歌;小笠原三千子門/国学;市岡猛彦・植松茂岳・平田鉄胤門、

M4736 頼裕(よりひろ・木下きのした、) 1852-189342 信濃伊那郡の商家;飯田藩御用達、
国学・歌;祖父の木下光忠門
[頼裕(;名)の通称] 安治郎/新三郎

頼広(よりひろ・葉室/冷泉)→ 為経(ためつね・冷泉/葉室、歌人) H 2 6 0 7

頼熙(よりひろ・山田) → 復軒(ふっけん・山田やまだ、藩士/儒者) D 3 8 3 2

頼寛(よりひろ・岡野/生駒)→ 魯斎(ろさい・生駒にま/岡野、藩家老/詩歌/兵学) B 5 2 5 2

寄太(よりひろ・村上/久留島)→ 義太(よしひろ・久留島くるとしま/村上、和算) G 4 7 5 9

J4769 頼房(よりふさ・徳川とくがわ/本姓;源/家名;松平、家康11男) 1603-6159 初代常陸水戸藩主、
伏見城に生、母;お万(正木頼忠女;実は蔭山氏広女)、1606常陸下妻に封ぜらる、
1609水戸に転封、「源威公命令」著、歌;1626後水尾天皇二条城歌会;秀忠家光らと参加、
[頼房(;名)の幼名/通称/諡号]幼名;鶴千代/鶴松、通称;左衛門督、諡号;威公

信康・秀康・秀忠・義直・頼宣の弟、頼重・光圀の父

- J4770 **頼房**(よりふさ・肥田ひだ、忠頼男)1644-171471 幕臣;1682家督継嗣、桐門番頭/裏門切手番頭、1705家臣の咎により閉門/09赦免/12致仕、
「年号略記」著(長男玄蕃頼次or次男頼時が補填刊)
[頼房(;名)の通称/号]通称;十郎左衛門、致仕後号;天祐、法号;道長
頼房(よりふさ・藤原) → 長兼(ながかね・藤原/葉室/三条、詩人) D 3 2 4 8
頼房(よりふさ・牛島) → 盛庸(もりつね・牛島うじま、和算家) F 4 4 8 0
順房(よりふさ・深江) → 簡斎(かんさい・深江ふかえ、儒者) H 1 5 6 0
- J4771 **頼藤**(よりふじ・葉室はむろ/本姓;藤原、頼親よりちか男)1254-133683 母;江口の遊君、鎌倉期廷臣;
1291正四上造東大寺長官/藏人頭兼中宮亮/94(永仁2)参議/95従三位/96正三位、
1299従二位/1300(正安2)権中納言;01辞任/任按察使/03民部卿/06昭訓門院御使で関東、
1309正二位/10太宰権帥/15按察使/16権大納言;辞任、18出家;円照/27円然に改名、
1299(正安元)「頼藤卿記」著、
[頼藤(;名)の通称/法名]通称;二条、法名;円照/のち円然(一説;因然)
- J4772 **由章**(よりふみ・萱生かよう/本姓:紀)1717-7559 伊勢の国学者;依田貞鎮門/歌人:冷泉為村門、
国学;藤堂元甫門、藤堂元甫「三国地誌」編纂に協力、さらに国学;多田義俊(南嶺)門、
「伊勢賦」「伊賀国式社考」「北畠家歴代要記」鈴鹿郡賦「瑞竜山十景詩歌並序」著、
[由章(;名)の幼名/別名/字/通称/号]幼名;由旧、別名;嵩、字;子旧、
通称;木工允もくのすけ、号;西野/東海軒/愛州、法号;東海軒日峯義暘居士
- J4773 **頼冬**(よりふゆ・鷹司たかつかさ、忠頼男/本姓;藤原)?-? 南北期廷臣、
連歌;1385良基「至徳二年石山百韻」父忠頼と参加(賦何船連歌;3句)、
[にほひすくなき梅のうす雪](石山百韻;二表3/如月には匂いも薄れ薄雪の如き花、
前句;良基;残る日の入相惜しき花をみて)
依平(よりへい→よりひら・石川)→ 依平(よりひら・石川いしかわ、国学/歌人) 4 7 3 5
頼兵衛(頼平よりへえ・棚橋/岡本)→ 一方(いっぽう・岡本おかもと、儒者) H 1 1 9 4
- 4736 **頼政**(よしまさ・源みなもと、仲政男)1104-80自害77 母;藤原友実女、平安期武将;白河院判官代/藏人、
兵庫頭/右京権大夫を歴任、保元乱では後白河天皇側に/平治乱では平家側に付き戦功、
1778従三位、79剃髪(;源三位入道)/80以仁王を奉じ平家追討に挙兵;宇治で敗戦;
平等院で自害、紫宸殿上で鶴ぬえを射殺した逸話が有名(平家物語)(のち能や戯曲に脚色)、
歌人:歌林苑会衆、1134-5為忠家両度百首参加、1166重家家歌合参加、
1170住吉社/72広田社歌合/78別雷社歌合/78神祇五十首和歌参加、家集「源三位頼政集」、
後葉/今撰/続詞花4首/万代/雲葉集(3首)等入集、
勅撰59首;詞花(17)千載(14首38/159以下)新古(3首)新勅(3首)続後撰(2首)続古以下、
[五月雨に沢辺のまこも水越えていづれか菖蒲引きぞわづらふ](源平盛衰記/太平記入)、
(官女菖蒲前あやめのまゑに心を寄せているのを知った近衛天皇が鶴ぬえ退治の褒美を賜るが、
その時の趣向に12人の美女からの人当ての遊びが仕組まれ困惑した頼政の歌→
この歌から「いづれ菖蒲か杜若かきつばた」の慣用句が生まれる)、仲綱・二条院讃岐の父、
[頼政(;名)の通称/法名]通称;源三位入道、法名;頼円/真蓮/蓮華寺
- J4774 **頼眞**(よしまさ・守矢もりや、有実男)1505-97長寿93 戦国期神職;代々信州諏訪社上社神長、
領主の諏訪社上社大祝刑部大輔諏訪頼隆・頼重に出仕、信眞の父、
1553諏訪社に勅使下向時に功勞を賞され正三位に昇進、
「諏訪神使御頭之日記」編/「守矢頼眞書留」著
- L4758 **順政**(よしまさ・市橋いちはし、通称;若狭)?-1686 江前期佐渡相川の神職/善知鳥神社祠官、
善知鳥神社は1600(慶長5)社殿築造/1643(寛永20)より盛大な祭礼開始;この祭礼に参与?、
神道・歌;橋三喜みつよし門
- J4775 **順正**(よしまさ・杉田すぎた、号;虚舟)1655-172167 越前故実文筆家、幼時他家に養子;7歳で実家へ、
1664(10歳)江戸に出て修学/晩年に故郷に帰る;67歳で没、「古今雑説論」「要馬秘伝抄」著、
「奇門遁甲開抄」「弓馬撃蒙抄」「古文前集補抄」「師鑑抄集伝」「武鑑元開抄」著
- J4776 **頼正**(よしまさ・井上いのうえ/本姓;源、頼尚男)1809-7971 医者;横瀬筑前守貞篤に出仕、楠木流兵法家、
天文・易・暦学に通ず、「家翁雑草」著、頼圀よりくに(国学者)の父、

- [頼正(；名)の通称/諡号]通称；民部/民造、諡号；奇靈太幸老樹
- 04758 **依昌**(よりまさ・早川はやかわ、通称；市左衛門)?-? 江後期；江戸の幕臣/飛騨高山陣屋詰、1811(文化8)豪雨による宮川の氾濫；流失した中橋・鍛冶橋の修復普請に関与；尽力、国学・歌；田中大秀おおひで(1777-1847)門
- 頼将(よりまさ・徳川) → 頼宣(よりのぶ・徳川/源/松平、初代紀州藩主) J 4 7 3 9
 頼昌(よりまさ・土岐) → 朝昌(ともまさ・土岐とき、幕臣/奉行) T 3 1 8 1
- J4777 **頼益**(よりまさ・細川ほそかわ/本姓；源、頼元[法名頼円]男)1362?-? 南北室町期武将；五位/遠江守、1403(応永10；42-3歳)出家、満益の父/子孫は土佐守護代を務める、歌；新続古今1054、
 [ほにいでてかよふとまでは見えずともまねつ尾花の袖とだに知れ](新続古；恋1054)、
 [頼益(；名)の通称/法名/法号]通称；彦三郎、法名；常隆、法号；桂昌院
- J4778 **自省**(よしみ・遠田とおだ、重員男)1670-1750 加賀金沢藩士；1713家督嗣；藩主前田吉徳の近習、；御部屋付/側小将番頭/持弓頭/定番頭を経て1740人持組/近習；1050石、3代の藩主近習、1747致仕、1716-48「遠田日記」著、
 [自省(；名)の別名/通称]別名；重明/重晶、通称；伝六郎/勘右衛門/焉哉(えんさい；致仕後)
- 4739 **頼通**(よしみち・藤原ふじわら、道長男)992-1074 母；左大臣源雅信女の倫子、廷臣；1006従三位、1017内大臣/17摂政/19関白、21従一位左大臣/61太政大臣、1068病で致仕；宇治に退隠、1072出家、外戚として52年間権勢、宇治平等院建立、頼宗・能信・教通・長家・彰子らの兄弟、通房・師実の父、歌人；1024「高陽院行幸和歌」参加/1035(長元8)「賀陽院水閣歌合」主催、以後多くの歌合歌会を後援、「類聚歌合(十卷本)」に古今の歌会を集成、孫師通が80賀催(続詞花集327詞書)、玄々・新撰朗詠・続詞花・万代・秋風・雲葉・閑月集入集、筑波集1句入、
 勅撰18首；後拾(192)金葉(329/金Ⅲ4首)詞花(386)千(785)新古(41/1985)新勅(45)以下、
 [有明の月だにあれやほとゝぎすたゞひと声のゆくかたも見ん](後拾遺；夏192)
 (1050[永承5]6月5日孫の祐子内親王家歌合の後宴の詠歌；宇治前太政大臣名)、
 [頼通(；名)の幼名/通称/法名]幼名；田鶴、通称；宇治殿/宇治関白/宇治前太政大臣、
 法名；蓮花覚/寂覚
- N4730 **頼道**(よしみち・芝しば、旧姓；井上)1817-90 伊予宇和郡の戸長、国学/歌人、
 [頼道(；名)の通称/号]通称；司馬作、号；松之舎まつのや
 頼道(よしみち・野田) → 五升(ごしょう・野田まつだ、俳人/教育) R 1 9 1 1
- J4779 **頼光**(よしみつ/らいこう・源みなもと、満仲男)948-1021 母；源俊女、平安期武将/廷臣；備前守・但馬守、美濃守・伊予守・摂津守、春宮権大進/春宮権亮/左馬権頭/内蔵頭/正四下、三条天皇の東宮期に20余年春宮坊に出仕、相模・小大君・藤原長能・実方・赤染衛門と交流、藤原兼家の二条京極第新造に馬三十頭献上/道長土御門殿火災後家具・調度一式を献上；撰関家と接近、今昔物語・古今著聞・古事談などに武勇伝；酒呑童子征伐・土蜘蛛説話など、歌人；玄々集・後葉集・続詞花集入集、勅撰3首；拾遺(865)後拾遺(607)金葉(659)、
 [なかなか言ひも放たで信濃なる木曾路の橋のかけたるやなぞ]、
 (女の許へ贈る歌/拾遺；恋865/玄々集95、
 木曾の棧がはしのようにいつまでもかかずらわせる、
 橋を架けると心にかけるを掛る/女の中途半端な態度を恨む歌)、
 [頼光(；名)の幼名/号]幼名；文殊丸、号；多田、頼信・源賢の兄弟、頼家の父、相模の養父
 ☆家臣の四天王 → 頼光の四天王(らいこうのしてんのう) 参照
- K4711 **頼光**(よしみつ・藤原ふじわら、頼元)?-? 鎌倉武士/早歌；1314「拾葉抄；仙家道/三島景」作詞
- J4780 **縁光**(よしみつ・武者小路むしやのこうじ/本姓；藤原、資世男)1441-1524 母；家女房、室町戦国期廷臣；蔵人頭/右中弁/1470(文明2)正四上参議/73従三位；縁光に改名/76正三位/79権中納言、1490権中納言辞任；従二位/92正二位/1513(永正10)権大納言/14辞任/15従一位、1524没(84歳)、連歌；新撰菟玖波集4句入、
 [縁光(；名)の初名/号]初名；種光、号；謙徳
- M4747 **随光**(よしみつ・北小路きたのこうじ/本姓；藤原、説光男)1832-1916 京の生/国学/神職、維新後東京住；神宮大宮司兼権中教正、正二位、

[随光(；名)の通称] 左京権大夫さきょうのごんのだいぶ

- Q4726 頼峰(よりみね・太田おた、) ? - ? 江前期;上方の武士/歌人、
1670下河辺長流[林葉累塵集]9首入、
[いかにせん光のどけき春の日に花はさけども物思ふ身を](林葉累塵;春146)
- J4781 頼宗(よりむね・藤原ふじわら、道長男)993-1065 73 母;源高明女の明子あきらけいに[高松上]、
頼通・能信・教通・長家・彰子・妍子の兄弟、俊家の父、廷臣;1011従三位/58従一位/60右大臣、
1065出家、歌人;後冷泉期歌壇の指導者、家集「入道右大臣集」、1035賀陽院水閣歌合参加、
1050「麗景院女御歌合」主催、1050祐子内親王家歌合の判者・51内裏殿上根合の判者、
1056皇后宮春秋歌合の判者など、公任に次ぐ歌人とされる、玄々集(堀川大納言名)入・
新撰朗詠・後葉集(9首)・続詞花集・万代集・秋風集・雲葉集・和漢兼作集入集、
勅撰41首;後拾(19首29/131/132以下)金(55/336/562、Ⅲ4首)詞花(130/279/393)千(658)、
新古(384/466)新勅(464)続後撰(255)続拾(273)玉葉(4首)続千(2首)続後拾(1288)以下、
[とまりにし子の日の松をけふよりは引かぬためしにひかるべきかな](後拾遺;春29)、
(斎院の子の日の行事の中止に対し翌朝詠んで贈る/松を引かぬ例として引かれるよ)
[頼宗(；名)の幼名/通称]幼名;巖君/石君いざみ、通称;堀河右大臣/入道右大臣、法名;寂俊
- J4782 頼旨(よりむね・土岐とき、土岐豊後守男)?-1884(70余歳) 土岐鞆負の養子、幕臣;
1822寄合/従後下大隅守/丹波守、1843下田奉行/浦賀奉行/大目付/大蕃頭/留守居を歴任、
老中阿部正弘に抜擢され講武場総裁・大目付兼海防掛;対米・対蘭交渉に当る、
将軍継嗣問題で慶喜擁立に参加;南紀派に敗北;1858大番頭に左遷/59免職;隠居差控処分、
1884(明治17)没;70余歳、1834「浜の御園の記」36「井の頭紀行」著、
「弘化二乙巳年垂墨加船一条書上」「将軍家派真御園へ御成の記」著、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[浦の名のつまこと聞きて古里を思ひいつるもはづかしきかな]、
(大江戸倭歌:雑1850/伊豆に行きし時妻浦子浦といふ所にて)、
[頼旨(；名)の別名/通称/号]別名;朝旨/頼茂、通称;帯刀/主膳、号;月堂/柳堤/栖霞
頼宗母(よりむねのは・藤原/源明子)→ 高松上(たかまつのうえ、道長妻、歌人) D 2 6 7 7
- Q4725 頼邑(よりむら・桑折こり/くわり、藩主宗頼男)?-? 伊予宇和島藩士、
1652義兄宗臣むねしげより家督継嗣;藩家老、歌人、
1670下河辺長流[林葉累塵集]25首/[萍水和歌集]2首入、
[夜こめて鳴くとや思ふ明けてだに霞にくらき谷の鶯](林葉累塵;春36)、
[夏深き青ばの山に鳴くせみの声はしぐれとふるかひぞなき](同集;夏344)、
頼茂(よりもち・源/続詞花・筑波集)→ 頼義(よりよし・源みなもと、伊予入道、武将/歌) K 4 7 0 2
- J4783 頼望(よりもち・丹波たんば、量亮男)1769-1803 35 廷臣/医者;父(典薬助)門/1776典薬頭/89蔵人、
禁色昇殿を許可/1800(寛政12)親王蔵人、1792「新嘗祭記」著
- 4737 頼基(よりもと・大中臣おなかとみ、輔道男)884?-958 75? 廷臣/神職;大中臣家歌人の祖/能宣よりのぶの父、
933神祇権小副/939伊勢神宮祭主、945神祇大副/951従四下、
歌人として宇多天皇より信任を得る/907大堰川行幸和歌に詠進/913亭子院歌合参加、
重代歌人(6代相伝)の祖、能宣の父、家集「頼基集」、36歌仙の1、御裳濯集3首入、
勅撰10首;拾遺(276/1247)玉葉(280/750)続後拾(106)風雅(744)新千(2首)以下、
[一節ひとふしに千世をこめたる杖なればつくともつきじ君が齢よはひは](拾遺;賀276)
(承平四[934]年中宮藤原穩子五十賀屏風歌/竹の杖を作り詠む)
[頼基(；名)の神号]大中臣朝臣頼基命神靈
- 4745 頼基(よりもと・丹波たんば、典薬頭基康男)?-1201 廷臣/医者;従三位典薬頭/侍医/施薬院使/侍従、
「薬種功能抄」「医書」著
- 4746 頼基(よりもと・坊門ぼうもん/本姓;藤原、宮内卿頼平[or師平]男)1245-? 1305存 鎌倉期廷臣;
1257従五上/64左兵衛佐/78正五下/83従四下/90宮内卿/91従四上/95正四下/98内蔵頭、
1304(嘉元2/60歳)従三位非参議/05出家/関東下向、歌人;柳風抄入、新後撰集560、
[旅衣しぐれてとまる夕暮になほ雲越ゆる足柄の山](新後撰;羈旅560)、
[うすこほりとくるのぎはのゑぐのはをつまぬにあらふ水のしらなみ]、
(柳風抄;春13/ゑぐ;万葉集1839;若芽を摘み食用/芹・黒慈姑くろぐかいなど諸説)、

[頼基(;名)の通称] 坊門三位ほうもんのさんみ

- 4747 頼元(よしもと・清原きよはら、良枝よしえだ男)1290-1367 78 鎌倉南北期廷臣;少納言/局務/大外記、明経博士/備中守/正五上:1365出家;宗性そうしょうと号す/67筑前三奈木庄に没、「頼元記」「勘申加階叙位例事」著
- 4748 頼基(よしもと・土岐とき/本姓;源、頼貞男)?-? 母;平宗頼女、南北期武将/1354頃幕府侍所所司代、美濃可児郡明智に住、頼遠・頼仲の弟、連歌;菟玖波集4句入、[またいつと知らぬ別れに夜は明けて](菟;恋910/前句;人やかきりの心なるらむ)、[頼基(;名)の通称] 九郎/長山遠江守ながやまとおとうみのかみ
- 4749 頼元(頼基よしもと・細川ほそかわ/本姓;源、頼春男)1343-97 55 母;近衛経忠女、南北期武将、1373頃摂津守護/長男頼之よりゆきの養嗣子、1391(明德2)管領就任;明德の乱で幕府軍指揮、その功で丹波守護、1392兄頼之没;讃岐・土佐を併せ四か国の守護/従四下右京大夫、細川京兆家の祖、1393管領を辞任、95出家、頼有・詮春あきはるの弟/満之の兄、満元・満国の父、歌人;1375頃細川家奉納[大山祇神社百首]に出詠、歌人/勅撰3首;新後拾遺(524/1136)新続古今(232)、[音立てて降れどもいとどたまらぬや小笹をささぎ上の霰あられなるらむ](新後拾;冬524)、[頼元(;名)の幼名/通称/法号]幼名;聡明丸/聡明三郎、初名;頼基、通称;三郎、法号;妙観院
- J4784 頼元(よしもと・松平まつだいら、水戸藩主徳川頼房4男)1629-93 65 母;佐々木政勝女、光圀の弟、水戸より分家、1661常陸那珂郡額田藩主2万石の大名、従四下丹波守/刑部大輔/侍従、歌人/茶道;一尾伊織門、「蕭山詠草」「兵法大成」「可否雑記」著、頼貞の父、[頼元(;名)の幼名/法号]幼名;児麻呂/中務、法号;真元院、諡号;恭公
頼元(よしもと・藤原) → 頼光(よしみつ・藤原ふじわら、武士/早歌作者)K 4 7 1 1
頼元(よしもと・牧まき) → 頼元(らいげん・牧、詩文/書家) 4 8 4 2
- J4785 頼盛(よしもと・平たいら、忠盛5男)1132-86 55 母;藤原宗兼女の宗子(池/禪尼)、家盛の同母弟、清盛の異母弟、平安末期武将、1166従三位/68(仁安3)参議・正三位/70右兵衛督、1176権中納言/79右衛門督/80従二位/正二位/82陸奥出羽按察使/83権大納言;解任、平家一門都落に際し京に留まり後白河法皇の許に隠れる、平家西海に滅亡;関東下向、平治乱後の母池/禪尼による源頼朝らの助命の功により厚遇される、1184権大納言に還任;辞任/85(文治元)出家;86鎌倉に没;55歳、平家一門・法皇近侍・鎌倉側の三面の生涯を生きる、[頼盛(;名)の通称/法名]通称;池殿/池大納言、法名;重蓮
- J4786 頼保(よやす・藤原ふじわら、家保男)?-1179 平安後期廷臣;六条藤家;正五下/武蔵守、中宮大進、顕季の孫/家成の弟、歌人;1149右衛門督家成家歌合参加、66重家家歌合参加、70左衛門督実国家歌合参加、1178-9治承三十六人歌合参加、続詞花集2首・言葉集・夫木抄入集、詞花集199(1151花山院による被除歌6首の1;袋草紙)、[いかならむ言の葉にてかなびくべき恋しといふはかひなかりけり](詞花;恋199)[頼保(;名)の号/法名]号;九郎大進、法名;行念
- J4787 頼泰(よやす・大友おとも/本姓;藤原/平、大友大炊助親秀男)1222-1300 79 母;三浦家連女、武将;鎌倉幕臣/豊後・筑後国守護/鎮西奉行、従四下丹後守/出羽守/兵庫頭/大炊助/式部大輔、1285(弘安8)幕命により「豊後国図田帳」作成;注進、歌人/勅撰2首;続拾遺(907)新後撰(1320)、[こぬまでもまつはたのみのあつものをうたて明け行く鳥の越えかな]、(続拾遺;恋907/待空恋といへる心を/平頼泰名)
- J4788 頼泰(よやす・藤原ふじわら) ? - ? 廷臣;四位、1320成立「続千載集」(1098)、[せきわぶる涙の河ははやくとも浮き名ばかりは流さずもがな](続千;恋1098)
- J4789 頼康(よやす・土岐とき/本姓;源、頼清[頼宗]の長男)1318-87 70 武将;美濃・尾張・伊勢の守護、従四下/左近将監/刑部少輔/大膳大夫、弟の頼雄を揖斐城主・直氏を長森城主とす、足利尊氏・義詮に随う/幕府評定衆/侍所頭人、1358尊氏没に出家、頼世(頼忠/歌人)の兄、歌人;頼阿/二条良基と交流、自邸で歌合主催、連歌;菟玖波集3句入、

- 勅撰10首;新千載(815/1601)新拾遺(420/755/1062/1083)新後拾(636/920/1059/1342)
[思ひ出でてさらにぞ迷ふたらちねのあるよに越えしさやの中山](新千;羈旅815)、
[頼康(;名)の号/法名/法号]号;建徳寺、法名;善忠、法号;建徳寺節叟善忠
- L4743 従安(よりやす・吉川よしかわ、従長男)1704-1770⁶⁷ 幕府神道方/吉川神道3代目、
[従安(;名)の通称/号]通称;竹三郎/源十郎(;父より)、号;忍翁
- J4790 頼宝(よりやす・諏訪わか、頼寛男)?- ? 母;諏訪頼長女、寛政1789-1801頃幕臣、
詩人、1801(寛政11)「辛酉春詩歳旦帖」著、
[頼宝(;名)の通称]太郎八/安左衛門
- J4791 頼寧(よりやす/よりさと・内藤ないとう、頼以2男)1800-62⁶³ 信濃高遠藩主;1820家督嗣/従後下大隅守、
大和守/駿河守、1826幕府奏者番役/40若年寄、儒;佐藤一斎門/中村言恒を招聘;藩士教育、
砲術;江川坦庵門/武蔵川越藩士肥田金之助を招聘;西洋流練兵教育、1859致仕、
息子頼直に家督譲渡、「寛斎詩鈔」著、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[世世をへしかまくら山の面影を偲ぶもはかな苔の下露](大江戸倭歌;雑1908、
大塔宮五百回忌に鎌倉松が岡へをさむる歌とて人のすすめければ)
[頼寧(;名)の幼名/号]幼名;鏞之助/鎬之助/銚之助、号;寛斎、致仕後号;清閑、
法号;芳言院
- P4738 頼安(よりやす・宮川みやがわ、)1819-1882⁶⁴ 越後高田藩士、国学者、精義塾開設;文武奨励、
1855藩の史監;病のため辞任/療養しつつ門弟指導、
[頼安(;名)の通称/号]通称;加兵衛、号;胆斎
- Q4738 頼行(よりゆき・源みなもと、家名;小国、兵庫頭仲政男)?-1157 母;藤原友実女、頼政の同母弟、
平安後期武将;従五位下蔵人/丹後守、保元乱後1157(保元2)濫りに軍兵を發した陰謀罪;
安藝へ配流決定;翌日京西七条で領送使の檢非違使信澄を殺害し自害(兵範記入)、
宗頼・政光・仲時・政綱・兼綱・光賢・宜秋門院丹後(歌人)の父、
配流後;政綱・兼綱は兄頼政の養子、頼政も1180(治承4)宇治平等院合戦で自害、
息子宗頼の子孫は越後刈羽郡小国保を本拠とし豪族小国氏として存続、
歌人;1137清輔[続詞花集]入、
[春比父仲正(仲政)あづまの方にすまんとて罷りけるに人々餞して花下餞別心をよむ、
おもへただかげにかくれぬ人だにもとまらぬ花はをしくやはある](続詞花;別691)
- J4792 頼之(よりゆき・細川ほそかわ/本姓;源、頼春男)1329-92⁶⁴ 母;黒沢禅尼、南北期武将;1352阿波守護、
伊予守護も兼任/1356(延文元)中国管領/従四下右馬頭/武蔵・相模守、
1362南朝方細川清氏を討つ;讃岐・土佐守護を兼任;四国管領と称される、1367幕府管領、
幕政の中枢となり諸大名の反発;1379康暦の政変で失脚罷免され剃髪/追討令下る;
四国に隠退;弟頼元を養嗣子とす、阿波・讃岐守護の弟頼有よりありを頼る、
従兄清氏の子正氏(昌氏)の阿波蜂起や河野通堯の伊予勢力拡大により弟頼有と共に抗戦、
1390赦免;將軍義満の命で頼有と共に山陰の山名時熙を追討、
1391養嗣子頼元が管領となる/義満に招かれ頼元の後見役;幕府宿老として幕政中枢復帰、
絶海中津・義堂周信と交流/洛西の景德寺・地藏院創建、
歌人;二条家と親交;為重を参議に推挙/為遠家で七百首和歌を主催(源経氏歌集入)、
「細川頼之訓戒」著、1375(応安8)頃細川家一族奉納[大山祇神社百首和歌](頼之が中心)、
勅撰13首;新千載(1384)新後拾(7首274/310/757以下)新続古(5首)、
[恋衣へだてし中をかこつまにいまだにとけぬ夜半の下紐](新千;恋1384)、
[頼之(;名)の通称/法名/道号/法号]通称;弥九郎、法名;常久、道号;桂巖、法号;永泰院
- K4740 頼由(よりゆき・内藤ないとう/本姓;藤原、永井直敬[直政]6男)1709-80^{72歳} 母;永井直右女、
1735信濃高遠藩主内藤頼卿の養嗣子;第3代藩主襲封、大和守/従五下、大坂加番/奏者番、
1737財政対策;金給制から俸禄制に変更、妻;松平康豊女、1776養子頼尚に家督譲渡、
歌;石野広通「霞関集」入、
[夜よるの雨ふりし昔を忍びぬに鳴きて過ぎ行く山ほととぎす](霞関;夏247、
北林尼[阿仏尼]の手向に岡田忠篤すすめ侍るほととぎす/田島宗永広武と詠む)
[頼由(;名)の別名/通称]別名;尚趙(初名)/頼真、通称;左京/大和守、法号;源隆院

- J4793 **頼種**(よりゆき・有馬ありま、則維男)1714-8370 筑後久留米藩主;1729(享保14)襲封、従四下、中務大輔/侍従/左少将、和算家;山路主住門/関流算学を修学、入江修敬・村井中漸・藤田貞資らを藩邸に招聘し研鑽を積む、1746「粟布門」編、1747「開乗括術」61「計子拾法」62「盈朒趁法」63「錯綜窮变法」64「招差三要」著、1771「算法根元記」、「角法索式術」「求適捷法」「極数解」「求積起率」「開乗括術」外著多数、[頼種(;)名)の幼名/初名/字/号/変名]幼名;左近、初名;則昌、字;其映、号;林窓庵/林窓舎/臨翠軒/秋鳳閣/夙穉閣ふうしゅうかく/林花堂/潜淵子/蔽芾へいはい館、輪台/扇軒/一晴軒/一雨軒、変名;豊田光文景、法号;大慈院
- 04747 **頼之**(よりゆき・野間のみ)1733 - 181684 京の陪臣;二条家侍、正六下、歌人;澄月門、[頼之(;)名)の通称]伊賀守/摂津守
- J4794 **順行**(よりゆき・増田ますだ) ? - ? 駿河田中藩士、「田城吟稿」著、[順行(;)名)の通称/号]通称;与七郎、号;香雲
- K4701 **頼之**(よりゆき・鈴木すずき) ? - ? 江後期常陸の和算家;随朝若水門?、「方意類辨」「奥梁録」校訂
- 04791 **頼之**(よりゆき・伏島ふせじま、号;桃廼家)1825-190177 美濃方県郡今川村の高富藩士、桂園派歌人
 頼之(よりゆき・武嶋) → 優々斎(ゆうゆうさい・武嶋たけしま、医者) D 4 6 9 7
 頼行(よりゆき→らいこう・河内) → 宏行(ひろゆき・河内/源、幕臣/歌人) H 3 7 5 9
 頼行(よりゆき・大野) → 玄鶴(げんかく・大野おの、医者/地誌) I 1 8 2 7
- Q4733 **頼世**(よりよ・別名;頼忠・土岐/池田/葦田?/本姓源、土岐頼清男)?-? 南北期武将;弓馬の名手、鷹一流を相伝/美濃守;1358?兄頼康を嗣、刑部少輔/従五下、出家;法名真兼/号;禅蔵寺、頼康(1387没)・頼雄・頼里(1352討死)・頼氏(1380没)の兄弟、☆歌;1345刊[藤葉集]入?、[おなじ世にありときくこそうれしけれめぐりあふべき時はしらねど](藤葉;恋5787)
- K4702 **頼義**(よりよし・源みなもと、頼信男)988-107588 母;修理命婦、武将;1031父と平忠常乱を平定、1053鎮守府将軍;前九年の役を平定/正四下/相模守/武蔵守/下野守/伊予守、妻;平直方女、息義家と東国源氏の基礎を確立/1075剃髪、歌;俊頼髓脳・続詞花集入/詩;続文粹1首入、連歌;菟玖波1句入、
 [みたれもはすまひ草にそ似たりける]、
 (菟;1896;源頼茂/流布本は源頼義/前句;あしもてかくる難波津の浪)、
 ☆続詞花集・菟玖波集の[頼茂]はすべて[頼義]の誤か?(;金子金治郎[筑波集の研究])、
 [頼義(;)名)の幼名/通称]幼名;王代丸、剃髪後の通称;伊予入道、義家・義綱・義光の父
- N4719 **依好**(よりよし・坂野さかの、) ? - ? 江中期;越前金津の商家/歌人;
 歌;坂野致知むねとも(1728-99)門、浅田包知かねとも(致知弟)・真宗本願寺派僧昌瑞門、
 [依好(;)名)の通称]藤右衛門、屋号;米屋
- K4703 **頼慎**(よりよし・松平まつだいら、頼亮よりあきら2男)1770-183061 母;松平頼順女、磐城守山藩主;1801遺領嗣、藩政に励む/好学、従四下式部大輔/大学頭/侍従、「府臣略伝」「守山日記後編」著、
 [頼慎(;)名)の幼名/号]幼名;栄之丞/敏麻呂、号;子恪しかく、諡号;徳公
- K4704 **頼善**(よりよし・藤懸ふじかけ、金沢藩士藤懸頼之の養子)?-? 1864存 江後期加賀金沢藩士;1834家督、1850表小将横目/奥取次加人/表小将番頭/奥小将番頭歴任/1859先手物頭、1864(元治元)藩主名代で上京した前田慶寧の禁門変前後の行動に連座;処罪、「藤懸頼善手記」著、
 [頼善(;)名)の通称]友之助/庫太
- 徒義(よりよし・伴) → 東山(とうざん・伴ぼん/望月、漢学/藩儒) E 3 1 6 1
 従瓊(よりよし・殿岡) → 北海(ほっかい・青木/殿岡、和漢学者) E 3 9 5 3
 随宜(よりよし・木瀬きせ) → 三之(さんし・木瀬きせ、国学;歌学革新) E 2 0 3 4
 頼由(よりよし・内藤) → 頼由(よりゆき・内藤/藤原/永井、藩主) K 4 7 4 0
 頼喜(よりよし) → 頼喜(らいき、連歌) 4 8 3 0
 頼理(よりよし・錦小路) → 頼理(よりただ・錦小路にしきのこうじ/丹波、廷臣/医) I 4 7 9 6
 頼致(よりよし・松平) → 宗直(むねなお・徳川とくがわ/松平、藩主/歌) E 4 2 0 3
 頼恵(よりよし・沢田) → 頼徳(よりのり・沢田さわだ、神職/国学) N 4 7 2 4

- F4719 **餘琳**(よりん) ? - ? 伊賀上野俳人、1672宗房(芭蕉)「貝おほひ」入、
 [しっぽとやぬれかけ道者だうじや北時雨](貝おほひ;廿三番左、
 時雨の中をしっぽり濡れかけて色事に通じた道心者が寺参りに来た)
 頼(よる・源) → 頼(たのむ・よる・源、順したごうの弟/歌人) S 2 6 1 9
- K4700 **因香**(よるか・藤原ふじわら、高藤[or高継女?])?-? 903存 母;尼敬信きょうしん、源能有と交渉、
 871従五下/878権掌侍/879掌侍ないしのじょう従五上/897典侍ないしの掛け従四下、
 歌人;勅撰5首;古今集(4首80/364/736[;能有との贈答]/738)・後撰(112)、
 [春来れば花見にと思ふ心こそそのべの霞とともに立ちけれ](後撰集;三春112)
 参照 母 → 敬信(きょうしん、歌人) G 1 6 8 4
 夫 → 能有(よしあり・源みなもと、近院大臣、歌人) 4 7 0 2
- K4705 **夜ル道ノ久良記**(よるみちのくらし) ?- ? 江中期京の狂歌・戯作者、
 1791(寛政3)刊「敵討道々巡」著
 頼女(よるのむすめ・源) → 頼女(たのむのむすめ・源、歌人)
 夜行(よるゆき・遊数里) → 遊数里夜行(ゆすりよるゆき、洒落本作者) G 4 6 0 4
 与六郎(よるくろう・下里) → 延平(のぶひら・下里しもさと、国学者/歌) D 3 5 0 6
 与六郎(よるくろう・富田) → 景煥(かげあき・富田とだ、藩士/漢学/詩) E 1 5 9 0
- 4738 **宜**(よろし・吉田よしだ/きちた連むらじ、恵俊えしゅん:僧名、古曆男?)?-? 医術家;百濟より渡来、僧(;恵俊)、
 700医術を生かすため勅命で還俗;吉宜さちぎと称す/714(和銅7)従五下/721従五上、
 724吉田連を賜姓/730陰陽・医術・暦法の技術保護振興のため待遇改善;3人の弟子を付与、
 733図書頭/728正五下/778典薬頭、詩人;懐風藻2首/歌:万葉三期:4首864-867(730[天平2])、
 万葉卷五864の歌の前に大伴旅人よりの梅花宴・松浦川詩歌への返礼の書翰文あり、
 [はろはろに思ほゆるかも白雲の千重ちへに隔てる筑紫の国は](万葉;866/旅人への思い)
- 4742 **万**(よろづ・生田いくた、信勝男/本姓;菅原)1801-37自殺37 上野館林藩士/儒/国学・歌:那波務義門、
 1821平田篤胤門、28藩政改革進言;藩追放/31赦免帰藩/太田に私塾厚載館を開、
 1836(天保7)和学振興攻のため越後柏崎諏訪神社祠官樋口英哲の招きで柏崎に開塾、
 1837天保飢饉救民:窮民と商人や桑名藩領柏崎代官所陣屋を襲撃(柏崎の乱);負傷/自尽、
 自刃後:妻と2子も捕縛;妻の鎬こう/しのぎは牢内で2児を絞殺し自ら舌を嚙切り自決、
 のち役人更迭などで米相場は下降;結果窮民救済につながる、
 1821家集「鏡室ががみのむろ集」23「夢路記」25「三木一鎌」26「良薬苦口」28「岩にむす苔」、
 「大中経伝」「難字素解」「烏有文集」「新撰上野国志」、「生田大人いくたのうし歌集」「生田氏著書」、
 [万(;名)の別名/字/通称/号]別名;瞭/雄/国秀(国秀)くには/道満(道磨)/篤道、字;救卿、
 通称;小膳/多門、号;華山/大中道人/鏡ががみの室や(むろ)/利鎌りれんの舎/桃園/東華/
 東寧山人/首道磨おびとのみちまる/桑園主人/博桑山人、
 妻;鎬女こうじよ(烈女不更二夫の辞世;自害)→ 鎬(こう;名・生田いくた/香取、歌) Q 1 9 3 1
- 4743 **万**(よろづ・河合かわい、良温よしはる男?)?-? 1881存 加賀の儒者、「大学末章講義」「貴号貴字御別号」著
- P4705 **万重**(よろづえ・前沢まえざわ,)1836-187742 信濃伊那郡の国学者;平田鋏胤門、
 旗本座光寺家家老片桐春一中心の[山吹社]に参加;平田国学普及活動に尽力、
 [万重(;名)の別名/通称/号]別名;温恭/清嶺、通称;弥一右衛門/中務、号;鎬廼舎かぶらのや
- K4707 **万雄**(よろづお・難波なむ) ? - ? 平安中期廷臣;左中弁?、歌人、古今集374、
 [相坂あふさかの関し正まさしき物ならば飽かず別るゝ君をとどめよ]、
 (古今;離別37/逢坂にて人と別れる時の詠)、
 万緒(よろづお、参議保則男)と同一か?
 万町権之進(よろづまちごんのすけ)→ 素狄(そてき・伏屋ふせや/吉村、医者) K 2 5 1 4
 万屋清兵衛(よろづやせいべい)→ 松葉軒(しょうようけん、書肆/雑俳) B 2 2 9 0
 万代(よろづよ・後醍醐院女蔵人)→ 万代(ばんだい・後醍醐院女蔵人、歌人) I 3 6 3 7
- 4744 **与呂麻呂**(よるまる・丈部はせつかべ) ?- ? 755防人/上総国長狭郡ながさのこおり上丁、万葉廿4354
 [立ち鴨こもの発たちの騒きに相見てし妹が心は忘れせぬかも](万葉;廿4354)
- K4722 **齡**(よかい) ? - ? 俳人;1694不角「うたたね」入、
 [いさかひて後ろ合せのぬくめ妻](うたたね/前句;蒲団一つをふたりして着る)、

(貧しさの中で夫婦喧嘩をすると同じ蒲団に背中合わせで寝る;温める効果はある)